兵庫県文化財調査報告　第 518 冊

西脇市

津万遺跡群4

－　175 号西脇北バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書　－

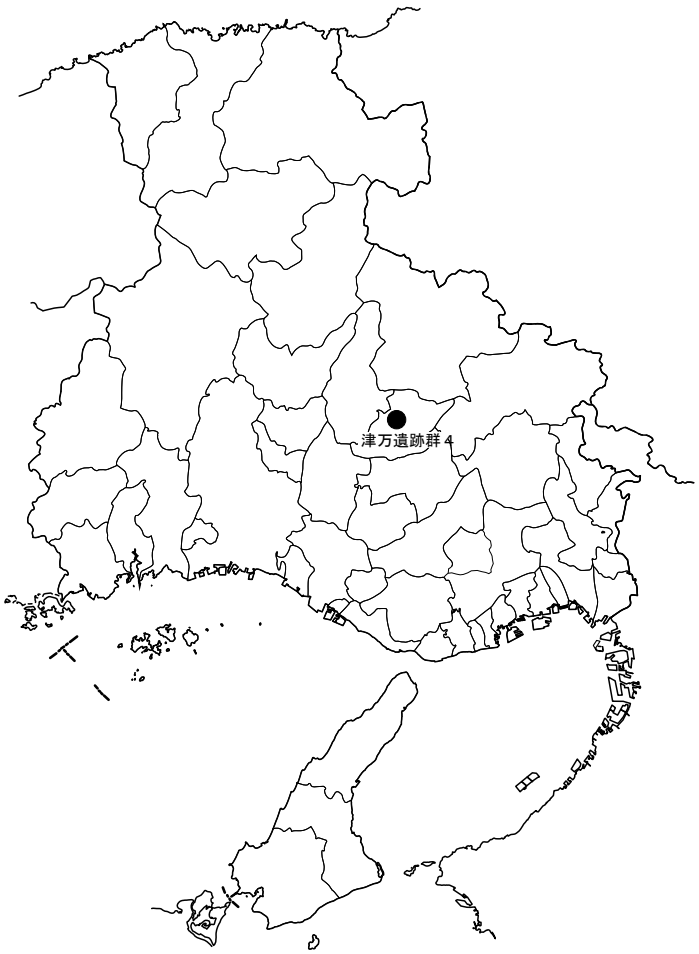
令和 4 （2022）年 3 月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

西脇市

津万遺跡群4

－　175 号西脇北バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書　－



令和４（2022）年３月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

津万遺跡群遠景

津万3中央区

巻頭図版 2

津万5東区

津万3西区　SH01 出土土器

津万3中央区　SK20(木棺墓)　出土遺物

津万3中央区　SH02　出土土器

津万4西区　SH01　出土土器

津万5東区　SK02(集石土坑)　出土土器

例　言

1　本書は、兵庫県西脇市津万地先に所在する津万遺跡群のうち津万遺跡群４としてまとめた津万３区～８区の発掘調査報告書である。

2　本調査は、一般国道175号西脇北バイパス事業に伴うもので、国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所長の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、兵庫県立考古博物館を調査機関として実施した。

3　調査の推移

津万遺跡群の調査は周辺の分布調査の開始から本発掘調査の終了まで、平成12年度より令和２年度に亘っており、その詳細は第１章にあげた。本報告書に直接関わる確認調査・本発掘調査についても第１章を参照していただきたい。

（発掘作業）

平成12年度より兵庫県埋蔵文化財調査事務所が実施、平成19年度より兵庫県立考古博物館が実施、平成30年度より公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が実施機関となった。

確認調査　（当報告書関係分）

平成12年４月25日

実施機関：兵庫県埋蔵文化財調査事務所

平成16年12月13日～平成17年３月11日

実施機関：兵庫県埋蔵文化財調査事務所

本発掘調査　（当報告書掲載分）

平成20年９月８日～平成21年３月10日

実施機関：兵庫県立考古博物館

平成21年６月29日～平成22年１月22日

実施機関：兵庫県立考古博物館

平成22年７月20日～平成22年11月12日

実施機関：兵庫県立考古博物館

（出土品整理作業）

平成26年４月１日～平成27年３月31日

実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

平成30年４月１日～令和元年３月31日

実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

令和元年４月１日～令和２年３月31日

実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

令和３年４月１日～令和４年３月31日

実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

4　本書の執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部　西口圭介・別府洋二・園原悠斗が行い、編集は西口が高瀬敬子・前田陽子の補助を得て行った（第３章以外）。

5　本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。

6　その他の記載項目

・　調査に伴う測量の使用座標は世界測地系に基づくもので、調査地は第Ⅴ系に属する。
・　本書に用いた方位は座標北を示す。また、標高は東京湾平均海水準を基準とした。
・　空中写真測量は、平成20年度は(株)日建技術コンサルタント（2008197）、平成21年度は(株)エイテック（2009186～2009189）、平成22年度は(株)河南測量（2010137）に委託した。
・　遺物写真撮影は、(株)国際文化財株式会社神戸営業所に委託した。
・　現地の遺構実測は、調査員と調査補助員が行った。
・　遺構番号については、特に断らない場合は区（各小区）ごとに割り振っており、各地区で１から始まる。本報告書内でSH01を冠する竪穴住居址が複数存在している。SB、SD、SKなども同様である。
・　名称は基本的に調査時点のものを踏襲しており、SHは竪穴住居址、SBは掘立柱建物址、SDは溝、SKは土坑、Pは柱穴、SXはいずれにも当てはまらないもの・性格不明・特殊な遺構に附した。その他、大畦畔や粘土採掘坑、水田遺構など略称をつけなかったものも存在する。
・　遺構のトレースおよび遺物の実測・トレースは公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター　整理技術員が行った。なお、遺構図版の作成に際し、北を天にしないものがある。
・　遺物については、兵庫津遺跡Ⅱ（第270冊）の用語を参考とし、土師器・須恵器・瓦器の表現を概ね使用した。用字については、磁器以外の種別には杯・椀・鍋の字を使用、磁器については碗の字を使用した。また、土製煮炊具については土師器鍋・羽釜とし、瓦器・瓦質土器の鍋・羽釜については瓦質土器鍋・羽釜の用語を使用している。また、石器・木製品・金属器の用語を使用している。
・　今回掲載した調査区の地形環境については立命館大学非常勤講師　青木哲哉氏に現地にてご教示いただいている。報告については、一部土層図を掲載したほかは、津万遺跡群２に掲載する予定である。
・　出土人骨についての分析はパレオ・ラボに依頼し、第３章に結果を掲載している。
・　放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）を(株)加速器分析研究所に依頼し、第３章に一部結果を掲載している。青木哲哉氏の考察と関連する部分が多く、詳細は、津万遺跡群２に掲載する予定である。
・　出土木製品の樹種同定については一般社団法人 文化財科学研究センターに依頼し、第３章に結果を掲載している。
・　発掘調査及び報告書の作成にあたっては、立命館大学非常勤講師　青木哲哉氏、兵庫県立考古博物館学芸員　岡田章一氏、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター　青山航氏、稲本悠一氏から御教示等をいただいた。記して感謝の意を表すものである。

本 文 目 次

第１章　はじめに…… 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　各調査の経緯と整理作業…… 1
第２章　調査成果 …… 7
　第１節　確認調査と本発掘調査の概要…… 7
　第２節　津万３区の調査……10
　　１．津万３西区の調査
　　２．津万３中央区の調査
　　３．津万３東区の調査
　第３節　津万４区の調査……18
　　１．津万４西区の調査
　　２．津万４中央区の調査
　　３．津万４東区の調査
　第４節　津万５区の調査……24
　　１．津万５西区の調査
　　２．津万５東区の調査
　第５節　津万６区の調査……28
　　１．津万６西区の調査
　　２．津万６東区の調査
　第６節　津万７区の調査……33
　第７節　津万８区の調査……34
　第８節　遺物……35
　　１．土器
　　２．木製品
　　３．金属器
　　４．石器
第３章　自然科学分析……81
　第１節　津万遺跡群４出土の人骨について
　第２節　津万遺跡群４における樹種同定
　第３節　津万遺跡群４における放射性炭素年代
（ＡＭＳ測定）
第４章　まとめ……91

表 目 次

表 1　確認調査一覧 …… 8
表 2　本発掘調査概要 …… 9
表 3～14　出土遺物観察表 …… 69~80
表 15　出土人骨鑑定結果 ……81
表 16　津万遺跡群４における樹種同定結果 ……85
表 17　放射性炭素測定結果（δ^{13}補正値）……88
表 18　放射性炭素測定結果
　（δ^{13}未補正値　較正年代） ……89
表 19　津万遺跡群４遺構概要一覧 ……90

本 文 挿 図

第１図　出土人骨　写真１～６
第２図　津万遺跡群４の木材(1)
第３図　津万遺跡群４の木材(2)
第４図　条里型地割と土地利用
第５図　集落の配置

図 版 目 次

図版１　津万遺跡群４　関係トレンチ配置図
図版２　津万遺跡群４　確認調査　土層断面
図版３　津万遺跡群４　調査区位置図
図版４　津万遺跡群４　津万地区調査区配置図
図版５　津万地区北半　遺構配置図
図版６　３西区　全体図
図版７　３西区　東壁土層断面
図版８　３西区　北壁・西壁土層断面
図版９　３西区　竪穴住居址　SH01
図版10　３西区　掘立柱建物址　SB01・02
図版11　３西区　掘立柱建物址　SB03・土坑①・溝①
図版12　３西区　土坑②
図版13　３西区　上層水田・溝②
図版14　３西区　下層水田・南北土層断面
図版15　３西区　下層水田下の溝
図版16　３中央区　下層　全体図
図版17　３中央区　上層　全体図
図版18　３中央区　竪穴住居址　SH04・05
図版19　３中央区　竪穴住居址　SH03
図版20　３中央区　竪穴住居址　SH02
図版21　３中央区　竪穴住居址　SH01
図版22　３中央区　SX04・溝①
図版23　３中央区　掘立柱建物址　SB01・02・03
図版24　３中央区　掘立柱建物址　SB04・05・06
図版25　３中央区　上層　木棺墓（SK20）
図版26　３中央区　上層　土坑①
図版27　３中央区　上層　大畦畔・溝②・土坑②
図版28　３中央区　土坑③
図版29　３東区　全体図・西壁土層断面図
図版30　３東区　南壁土層断面・土坑・溝
図版31　３東区　石組水溜遺構(SK03)
図版32　４西区　全体図
図版33　４西区　全体図　南壁・東壁土層断面
図版34　４西区　竪穴住居址　SH01・土坑SK16
図版35　４西区　竪穴住居址　SH02・土坑②・溝①
図版36　４西区　土坑③
図版37　４西区　掘立柱建物址　SB01・土坑④・溝②
図版38　４中央区　全体図
図版39　４中央区　東壁・西壁土層断面
図版40　４中央区　掘立柱建物址　SB01
図版41　４中央区　掘立柱建物址　SB02
図版42　４中央区　掘立柱建物址　SB03
図版43　４中央区　土坑・溝・掘立柱建物址柱穴
図版44　４東区　全体図・東壁土層断面図
図版45　４東区　掘立柱建物址　SB01
図版46　４東区　掘立柱建物址　SB02・03
図版47　４東区　掘立柱建物址　SB04
図版48　４東区　掘立柱建物址　SB05・06、土坑SK01・04
図版49　４東区　土坑・溝
図版50　５西区　全体図・東壁・畔土層断面・溝
図版51　５東区　全体図
図版52　５東区　全体図・東～南壁土層断面
図版53　５東区　SB01周辺図
図版54　５東区　SB02・04・05周辺図
図版55　５東区　掘立柱建物址　SB01
図版56　５東区　掘立柱建物址　SB02
図版57　５東区　掘立柱建物址　SB04・05
図版58　５東区　掘立柱建物址　SB03・06
図版59　５東区　木棺墓（SK03）
図版60　５東区　土坑①
図版61　５東区　土坑②
図版62　５東区　土坑③
図版63　５東区　土坑④・溝
図版64　６西区　全体図
図版65　６西区　西壁土層断面
図版66　６西区　北壁土層断面
図版67　６西区　掘立柱建物址・井戸
図版68　６西区　粘土採掘坑①
図版69　６西区　粘土採掘坑②・土坑
図版70　６西区　上層遺構・上層水田
図版71　６西区　上層水田断ち割り土層断面
図版72　６西区　遺構面下層断ち割り土層断面
図版73　６東区　全体図
図版74　６東区　西壁土層断面
図版75　６東区　竪穴住居址　SH08
図版76　６西・東区　竪穴住居址　SH09
図版77　６東区　掘立柱建物址　SB01・土坑・溝
図版78　７区　上層・下層　全体図
図版79　７区　上層　土坑・溝①
図版80　７区　下層　溝②・トレンチ
図版81　８区　全体図・溝・不明遺構・北壁土層断面
図版82　３西区　出土土器１
図版83　３西区　出土土器２
図版84　３西区　出土土器３
図版85　３西区　出土土器４

図版86　3中央区　出土土器1
図版87　3中央区　出土土器2
図版88　3中央区　出土土器3
図版89　3中央区　出土土器4
図版90　3中央区上層　出土土器1
図版91　3中央区上層　出土土器2
図版92　3東区　出土土器
図版93　4西区　出土土器1
図版94　4西区　出土土器2
図版95　4西区　出土土器3
図版96　4西区　出土土器4
図版97　4中央区　出土土器
図版98　4東区　出土土器
図版99　5西区　出土土器・5東区　出土土器1
図版100　5東区　出土土器2
図版101　5東区　出土土器3
図版102　5東区　出土土器4
図版103　5東区　出土土器5
図版104　5東区　出土土器6
図版105　5東区　出土土器7
図版106　6西区　出土土器1
図版107　6西区　出土土器2・6東区　出土土器1
図版108　7区　出土土器1
図版109　7区　出土土器2
図版110　7区　出土土器3
図版111　7区　出土土器4
図版112　7区　出土土器5
図版113　8区　出土土器1
図版114　8区　出土土器2
図版115　津万遺跡群4　出土木製品1
図版116　津万遺跡群4　出土木製品2
図版117　津万遺跡群4　出土木製品3
図版118　津万遺跡群4　出土木製品4
図版119　津万遺跡群4　出土金属器1
図版120　津万遺跡群4　出土金属器2
図版121　津万遺跡群4　出土石器

巻頭図版目次

巻頭図版1　津万遺跡群遠景・津万3中央区
巻頭図版2　津万5東区・津万3西区　SH01　出土土器
巻頭図版3　津万3中央区　SK20(木棺墓)出土遺物・SH02　出土土器
巻頭図版4　津万4西区　SH01　出土土器・津万5東区　SK02(集石土坑)出土土器

写真図版目次

写真図版1　遺跡遠景　空中写真1
写真図版2　遺跡遠景　空中写真2
写真図版3　3～5区全景
写真図版4　3西区　全景1
写真図版5　3西区　全景2
写真図版6　3西区　遺構1
写真図版7　3西区　遺構2
写真図版8　3西区　遺構3
写真図版9　3西区　遺構4
写真図版10　3西区　遺構5
写真図版11　3西区　遺構6
写真図版12　3西区　遺構7
写真図版13　3西区　遺構8・土層
写真図版14　3中央区　全景1
写真図版15　3中央区　全景2
写真図版16　3中央区　遺構1
写真図版17　3中央区　遺構2
写真図版18　3中央区　遺構3
写真図版19　3中央区　遺構4
写真図版20　3中央区　遺構5
写真図版21　3中央区　遺構6
写真図版22　3中央区　遺構7
写真図版23　3中央区　遺構8
写真図版24　3中央区　遺構9
写真図版25　3中央区　遺構10
写真図版26　3中央区　遺構11
写真図版27　3中央区　遺構12
写真図版28　3中央区　遺構13
写真図版29　3東区　全景・遺構1
写真図版30　3東区　遺構2・土層
写真図版31　3東区　遺構3
写真図版32　3東区　遺構4
写真図版33　4西区　全景1
写真図版34　4西区　全景2
写真図版35　4西区　遺構1
写真図版36　4西区　遺構2
写真図版37　4西区　遺構3
写真図版38　4西区　遺構4
写真図版39　4西区　遺構5
写真図版40　4西区　遺構6
写真図版41　4中央区　全景1
写真図版42　4中央区　全景2
写真図版43　4中央区　遺構1
写真図版44　4中央区　遺構2
写真図版45　4中央区　遺構3
写真図版46　4中央区　遺構4
写真図版47　4東区　全景
写真図版48　4東区　遺構1
写真図版49　4東区　遺構2
写真図版50　4東区　遺構3
写真図版51　4東区　遺構4
写真図版52　5西区　全景1
写真図版53　5西区　全景2・遺構1
写真図版54　5東区　全景1
写真図版55　5東区　全景2
写真図版56　5東区　遺構1
写真図版57　5東区　遺構2
写真図版58　5東区　遺構3
写真図版59　5東区　遺構4
写真図版60　5東区　遺構5
写真図版61　5東区　遺構6
写真図版62　5東区　遺構7
写真図版63　5東区　遺構8

写真図版64　5 東区　遺構 9
写真図版65　5 東区　遺構10
写真図版66　5 東区　遺構11
写真図版67　5 東区　遺構12
写真図版68　5 東区　遺構13
写真図版69　5 東区　遺構14
写真図版70　5 東区　遺構15
写真図版71　6 ～ 8 区全景 1
写真図版72　6 ～ 8 区全景 2
写真図版73　6 西区　全景 1
写真図版74　6 西区　全景 2
写真図版75　6 西区　遺構 1
写真図版76　6 西区　遺構 2
写真図版77　6 西区　遺構 3
写真図版78　6 西区　遺構 4
写真図版79　6 西区　遺構 5
写真図版80　6 西区　遺構 6 ・土層
写真図版81　6 東区　全景 1
写真図版82　6 東区　全景 2
写真図版83　6 東区　遺構 1
写真図版84　6 東区　遺構 2
写真図版85　6 東区　遺構 3
写真図版86　6 東区　遺構 4
写真図版87　7 ・ 8 区　全景
写真図版88　7 区　全景
写真図版89　7 区　遺構 1
写真図版90　7 区　遺構 2
写真図版91　7 区　遺構 3/7･8 区　全景
写真図版92　8 区　遺構
写真図版93　出土土器 1
写真図版94　出土土器 2
写真図版95　出土土器 3
写真図版96　出土土器 4
写真図版97　出土土器 5
写真図版98　出土土器 6
写真図版99　出土土器 7
写真図版100 出土土器 8
写真図版101 出土土器 9
写真図版102 出土土器10
写真図版103 出土土器11
写真図版104 出土土器12
写真図版105 出土土器13
写真図版106 出土土器14
写真図版107 出土土器15
写真図版108 出土土器16
写真図版109 出土土器17
写真図版110 出土土器18
写真図版111 出土土器19
写真図版112 出土土器20
写真図版113 出土土器21
写真図版114 出土土器22
写真図版115 出土土器23
写真図版116 出土土器24
写真図版117 出土土器25
写真図版118 出土土器26
写真図版119 出土土器27
写真図版120 出土土器28
写真図版121 出土土器29
写真図版122 出土土器30
写真図版123 出土土器31
写真図版124 出土土器32
写真図版125 出土土器33
写真図版126 出土土器34
写真図版127 出土土器35
写真図版128 出土土器36
写真図版129 出土土器37
写真図版130 出土土器38
写真図版131 出土土器39
写真図版132 出土土器40
写真図版133 出土土器41
写真図版134 出土土器42
写真図版135 出土土器43
写真図版136 出土土器44
写真図版137 出土土器45
写真図版138 出土土器46
写真図版139 出土土器47
写真図版140 出土土器48
写真図版141 出土土器49
写真図版142 出土土器50
写真図版143 出土土器51
写真図版144 出土土器52
写真図版145 出土土器53
写真図版146 出土土器54
写真図版147 出土土器55
写真図版148 出土土器56
写真図版149 出土土器57
写真図版150 出土土器58
写真図版151 出土土器59
写真図版152 出土土器60
写真図版153 出土土器61
写真図版154 出土土器62
写真図版155 出土土器63
写真図版156 出土土器64
写真図版157 出土土器65
写真図版158 木製品 1
写真図版159 木製品 2
写真図版160 木製品 3
写真図版161 木製品 4
写真図版162 木製品 5
写真図版163 木製品 6
写真図版164 木製品 7
写真図版165 金属器 1
写真図版166 金属器 2
写真図版167 金属器 3
写真図版168 石器

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

一般国道175号西脇北バイパス事業は西脇市下戸田から西脇市黒田庄町大伏に至る延長5.2㎞のバイパス事業として、平成９年度事業化され、平成12年度に用地着手、平成18年度から工事が着手されている。

路線予定地内には、弥生時代後期の竪穴住居址が検出された「上戸田遺跡」、近世の窯址である「津万井近世窯址」、「大門畑瀬散布地」「大門北山小テラス群」等が知られていた。

兵庫県教育委員会が平成12年度に分布調査を行ったところ、低地部では水田面などから須恵器・土師器などの土器の小片が採集され、広い範囲で遺跡が広がっている可能性が考えられた。低地部には「嶋･馬渡り遺跡」「西嶋･門遺跡」「寺内・中田遺跡」等が路線近辺に知られていたが、その範囲等は不明であった。この分布調査の結果を受けて、バイパス事業予定地内の北から「寺内地区」「西嶋地区」「嶋地区」「津万地区」において、新たに埋蔵文化財が存在することが判明し、４地区が、合わせて「津万遺跡群」として登録された。また、更に遺跡の範囲、残存度、時代などの本発掘調査に向けたデータを得るために、確認調査を実施した。

確認調査は、用地の関係で立ち入りができない地点を除いて、平成16年度に開始され、基本的には１ｍ×10ｍのトレンチを設定し、平地では機械掘削・人力掘削によって、丘陵部は人力掘削によって実施された。トレンチは160本となる。その後、用地等の問題が解決した地点の確認調査も順次実施した。

また、高松３号墳は、西脇北バイパスの南側に連結する西脇バイパスの４車線化工事に伴って調査された遺跡で、墳丘内列石を有し、板石を用いた竪穴系横口式石室を主体部とする古墳が調査され、すでに詳細の報告は完了している。（兵庫県文化財調査報告第437冊　2013.2）

津万遺跡群に関わる発掘調査報告書については、上記、４地区の区分をもとに津万遺跡群１～津万遺跡群４として刊行（津万遺跡群３・４）、作成作業中（津万遺跡群１・２）を行っている。刊行については、津万遺跡群３（嶋５区・嶋６区・津万１区・津万２区）を平成31（2019）年３月に刊行し、続いて令和４（2022）年３月に本報告書　津万遺跡群４の刊行を行った。

第２節　各調査の経過と整理作業

以下報告する一連の調査の中で、本報告書「津万遺跡群４」に関わる調査には、前記調査遺跡名をゴチックで記載した①分布調査　遺跡調査番号2000102、②確認調査　遺跡調査番号2004245・2005096、③本発掘調査　遺跡調査番号2008197・2009189・2010137が含まれている。

①〔分布調査〕

平成12年度

遺跡調査番号　2000102

調査主体　兵庫県教育委員会
調査担当者　埋蔵文化財調査事務所　企画調整班　別府洋二、調査第３班　中川渉、山上雅弘、松岡千寿
実施時期　平成12年４月25日
調査面積　260,000㎡

平成15年度
遺跡調査番号　**2003287**　（高松３号墳）
調査主体　兵庫県教育委員会
調査担当者　埋蔵文化財調査事務所　企画調整班　中川渉
実施時期　平成16年３月
調査面積　900㎡

②〔確認調査〕

平成16年度
遺跡調査番号　**2004008**　（大門・畑瀬散布地）20㎡
遺跡調査番号　**2004245**　（**津万地区**）590㎡
遺跡調査番号　**2004246**　（嶋地区）310㎡
遺跡調査番号　**2004247**　（西嶋地区）240㎡
遺跡調査番号　**2004248**　（寺内地区）280㎡
遺跡調査番号　**2004249**　（津万井近世窯址）80㎡
遺跡調査番号　**2004250**　（大門北山小テラス群）121㎡
調査主体　兵庫県教育委員会
調査担当者　埋蔵文化財調査事務所　調査第３班　別府洋二、上田健太郎
実施時期　平成16年12月13日～平成17年３月11日

平成17年度
遺跡調査番号　**2005096**　（**津万地区**・寺内地区）
調査主体　兵庫県教育委員会
調査担当者　埋蔵文化財調査事務所　調査第３班　上田健太郎
実施時期　平成18年３月13日・14日
調査面積　170㎡

平成18年度
遺跡調査番号　**2006186**　（大門畑瀬散布地・寺内地区）
調査主体　兵庫県教育委員会
調査担当者　埋蔵文化財調査事務所　調査第２班　吉識雅仁、別府洋二
実施時期　平成19年３月19日・20日
調査面積　96㎡

平成19年度
遺跡調査番号　**2007054**　（蒲江地区）
調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　調査第 2 班　渡辺昇、長濱誠司、上田健太郎

実施時期　平成19年 9 月25日・26日

調査面積　90㎡

平成20年度

遺跡調査番号　2008158（高松 3 号墳）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　調査第 2 班　渡辺昇、鐵英記

実施時期　平成20年 7 月23日

調査面積　6 ㎡

平成27年度

遺跡調査番号　2015042（蒲江地区）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　企画調整課　上田健太郎

実施時期　平成27年 6 月 1 日～ 5 日

調査面積　168.8㎡

平成30年度

遺跡調査番号　2018019（上戸田遺跡）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部　調査第 2 課　岸本一宏

調査第 1 課　松崎光伸

実施時期　平成31年 1 月31日～ 2 月20日

調査面積　240㎡

一連の確認調査により、「高松 3 号墳」「上戸田遺跡」「津万遺跡群　津万地区・嶋地区・西嶋地区・寺内地区」「津万井窯跡」「大門畑瀬遺跡」「大伏北山遺跡」の本発掘調査を実施することとなった。

③〔 本発掘認調査 〕

平成18年度

遺跡調査番号　2006054（寺内地区）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　埋蔵文化財調査事務所　調査第 1 班　西口圭介、山上雅弘、上田健太郎

調査第 2 班　吉識雅仁、別府洋二、篠宮正、池田征弘

実施時期　平成18年12月 1 日～平成19年 3 月23日

調査面積　6.998㎡

平成19年度

遺跡調査番号　2007052（寺内地区・西嶋地区・嶋地区）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　調査第 2 班　渡辺昇、長濱誠司、上田健太郎

実施時期　平成19年 7 月17日～12月12日

調査面積　10,383㎡

遺跡調査番号　2007053　（大門畑瀬遺跡）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　調査第２班　渡辺昇、長濱誠司、上田健太郎

実施時期　平成19年10月22日～12月12日

調査面積　1,260㎡

平成20年度

遺跡調査番号　2008073　（津万地区１東区・１西区・２区・西嶋地区・嶋地区）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　調査第２班　渡辺昇、鐵英記、上田健太郎

実施時期　平成20年６月19日～12月２日

調査面積　9,019㎡

遺跡調査番号　2008074　（津万井窯跡）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　調査第２班　渡辺昇、鐵英記、上田健太郎

実施時期　平成20年６月19日～12月２日

調査面積　712㎡

遺跡調査番号　2008075　（大門畑瀬遺跡）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　調査第２班　渡辺昇、鐵英記、上田健太郎

実施時期　平成20年６月19日～12月２日

調査面積　495㎡

遺跡調査番号　2008197　（**津万地区３西区・４中央区**）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　調査第２班　渡辺昇、鐵英記、上田健太郎

実施時期　平成20年９月８日～平成21年３月10日

調査面積　2,500㎡

平成21年度

遺跡調査番号　2009186　（大伏北山遺跡）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　調査第２班　別府洋二、深江英憲、池田征弘

実施時期　平成21年６月29日～平成22年１月22日

調査面積　2,907㎡

遺跡調査番号　2009187　（大門畑瀬遺跡）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　調査第２班　別府洋二、深江英憲、池田征弘

実施時期　平成21年６月29日～平成22年１月22日

調査面積　427㎡

遺跡調査番号　2009188　（高松３号墳）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　調査第２班　別府洋二、深江英憲、池田征弘

実施時期　平成21年11月５日～平成22年１月15日

調査面積　297㎡

遺跡調査番号　2009189　（**津万地区３中央区・４西区・４東区・５西区・５東区**・西嶋地区）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　調査第２班　別府洋二、深江英憲、池田征弘

実施時期　平成21年６月29日～平成22年１月22日

調査面積　2,907㎡

平成22年度

遺跡調査番号　2010137　（**津万地区３東区・６西区・６東区・７区・８区**）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　調査第１課　西口圭介、調査第２課　池田征弘

実施時期　平成22年７月20日～平成22年11月12日

調査面積　2,760㎡

遺跡調査番号　2010278　（大門畑瀬遺跡）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　調査第１課　大平茂、長濱誠二、調査第２課　池田征弘

実施時期　平成23年１月13日～３月８日

調査面積　794㎡

平成30年度

遺跡調査番号　2018015　（西嶋地区）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　公益財団法人　兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　岸本一宏
調査第１課　松崎光伸

調査期間　平成30年12月３日～平成31年１月31日

調査面積　896㎡

令和元年度

遺跡調査番号　2019039　（上戸田遺跡）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　公益財団法人　兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　別府洋二、野田優人

調査期間　令和元年11月11日～令和２年２月６日

調査面積　790㎡

令和２年度

遺跡調査番号　2020009　（上戸田遺跡）

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　公益財団法人　兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第１課　園原悠斗、松崎光伸

調査期間　　令和３年１月８日～令和３年２月26日

調査面積　　611㎡

〔整理作業〕

『津万遺跡群４』発掘調査報告書に伴う整理作業については、平成26年度に水洗い・ネーミング・土器と石器の接合・補強作業を行い、平成27年度から29年度の休止期を挟んで、平成30年度に土器・木器・石器の実測・トレース、平成31年度（令和元年度）に金属器の実測・保存処理、遺物の写真撮影、令和２年度に木器の保存処理、自然科学分析鑑定の依頼を実施、令和３年度に報告書を刊行した。

調査担当者：別府洋二、西口圭介

整理保存課：久保弘幸、西口圭介、菱田淳子、深江英憲、大島昭海、長濱誠司、大本朋也

池田悦子、石田典子、石原（長井）香苗、上西淳子、大前篤子、大本（児玉）昌子、岡崎眞子、荻野麻衣、小野潤子、柏木明子、桂　昭子、香山玲子、小林礼子、佐伯純子、島村順子、菅生真理子、高瀬敬子、沼田眞奈美、平宮可奈子、藤池かづさ、前田陽子、嶺岡美見、宮田麻子、森松（上田）沙耶香

第２章　調査成果

第1節　確認調査と本発掘調査の概要

１．調査区の設定と概要

津万地区は、北から寺内地区、西嶋地区、嶋地区と続く一連の津万遺跡群の内、最も南に位置する地区で、八日山北麓の低地部を占める。この地点は八日山によって加古川の谷底盆地地形が急激に狭まる位置に当たり、西側の山塊からの小河川が細かく加古川へと流れ出る位置にも当たる。標高は60m前後を測る。

現地はＮ７°Ｅの真北からの傾きをもつ方形地割が残されており、圃場整備以前から同地割が施工されていたことが知られている。調査区はこの地割に則って分割され、さらに地下埋設管の走る現有道路や現有水路によって分けられ、報告書において津万３西区、３中央区、３東区、４西区、４中央区、４東区、５西区、５東区、６西区、６東区、７区、８区と呼称している（表２参照）。

確認調査の結果を基に、地形が低くなり遺構が確認できなかった地点や、礫層が耕土直下で検出され削平が著しいと判断された地区は、本発掘調査から除外した。

本発掘調査では、平成20年度には津万３西区、４中央区、平成21年度には津万３中央区、４西区、４東区、５西区、５東区、平成22年度には津万３東区、６西区、６東区、７区、８区の調査を実施した。

現地に残る小字名は、津万３区周辺が「薬師南」、その東側の津万４区が含まれる周辺は「薬師北」とされている。津万４・５区間の里道を西に出た南側の調査範囲外に小さなお堂が建っており、周囲には「一字一石経」等と書かれた石造物が見られる。これが「槙野山薬師堂」である。その南側の津万５区が「樋上」、さらに南側の津万６区は「樽丸」となっている。ちなみに津万１・２区の小字名は「石路」となる。小字名は東西でも分かれている可能性があるため、調査地区名とは一致しない。

津万５区と６区間には谷状地形が走り、遺構が確認できなかったため、大きく分断される。さらに北側の津万１・２区は整理の都合上、嶋地区に含めて報告を行うが、時期によっては一連の遺跡として捉える方がよい。但し、津万３区の北西側には水田遺構が検出された低湿地部が広がっており、やはり谷地形となって集落を二分している可能性が高い。

津万地区で検出された弥生時代から中世にかけての集落遺跡は、津万８区を南端として一旦途切れ、八日山の山裾を南に回った上戸田地区に入って、弥生時代後期から中世にかけての集落である上戸田遺跡で再び出現する。

２．確認調査･本発掘調査の概要

確認調査・本発掘調査の期間・面積等の詳細は以下、一覧表にまとめた。なお、所属・担当者名は一部割愛した。

また、今回の報告部分に必要な土層断面柱状図を掲載した（図版２）。

各本発掘調査区の概要・遺構については第２節より述べてゆく。各調査区の遺物については第８節において述べる。

表 1　確認調査一覧

トレンチNo.	調査番号	調査期間	対応する本発掘調査区	幅(m)×全長(m)	遺構	遺物	時期	微地形	備考
1	2004245	20041213~20050311	7区	2.0 × 5.0	V字溝	弥生多し		微高地	津万遺跡群4
2	2004245	20041213~20050311	6東区	2.0 × 5.0	土坑・溝			微高地	津万遺跡群4
3	2004245	20041213~20050311	6西区	2.0×5.0	溝	土師器･須恵器	古墳	微高地	津万遺跡群4
4	2004245	20041213~20050311	6西区	2.0×5.0	落ち込み	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群4
5	2004245	20041213~20050311	6西区	2.0×5.0		土師器･須恵器		微高地	本発掘対象外
6	2004245	20041213~20050311	6西区	2.0×5.0		土師器･丹波焼	中世	微高地	本発掘対象外
7	2004245	20041213~20050311	6西区	2.0×5.0	溝	土師器･須恵器	中世	微高地	津万遺跡群4
8	2004245	20041213~20050311	6西区	2.0×5.0	土坑	瓦器･須恵器	中世	微高地	津万遺跡群4
9	2004245	20041213~20050311	6西区	2.0×5.0	落ち込み	土師器･須恵器		微高地	本発掘対象外
10	2004245	20041213~20050311	6西区	2.0×5.0		土師器･須恵器		微高地	本発掘対象外
11	2004245	20041213~20050311	6西区	2.0×5.0	落ち	土師器･須恵器		微高地	本発掘対象外
12	2004245	20041213~20050311	5東区	2.0×5.0		土師器･中世須恵器	中世	河道	本発掘対象外
13	2004245	20041213~20050311	5東区	2.0×5.0		須恵器	中世	河道	本発掘対象外
14	2004245	20041213~20050311	5東区	2.0×5.0		須恵器	中世	微高地	津万遺跡群4
15	2004245	20041213~20050311	5東区	2.0×5.0	柱穴ヵ	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群4
16	2004245	20041213~20050311	5東区	2.0×5.0	柱穴	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群4
17	2004245	20041213~20050311	5東区	2.0×5.0				河道	本発掘対象外
18	2004245	20041213~20050311	5東区	2.0×5.0	土坑・落ち	土師器		微高地	津万遺跡群4
19	2004245	20041213~20050311	5東区	2.0×5.0	柱穴	土師器･須恵器	中世	微高地	津万遺跡群4
20	2004245	20041213~20050311	5東区	2.0×5.0	柱穴ヵ	弥生土器		微高地	津万遺跡群4
21	2004245	20041213~20050311	5西区	2.0×5.0	柱穴・落ち	須恵器	中世	微高地	津万遺跡群4
22	2004245	20041213~20050311	4東区	2.0×5.0	土坑	縄文土器･青磁		微高地	津万遺跡群4
23	2004245	20041213~20050311	4中央区	2.0×5.0	土坑・落ち	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群4
24	2004245	20041213~20050311	4中央区	2.0×5.0	柱穴・落ち	土師器･中世須恵器	中世	微高地	津万遺跡群4
25	2004245	20041213~20050311	4西区	2.0×5.0	落ち	弥生土器他多し		微高地	津万遺跡群4
26	2004245	20041213~20050311	4西区	2.0×5.0	竪穴住居址ヵ	弥生土器多し	弥生	微高地	津万遺跡群4
27	2004245	20041213~20050311	4中央区	2.0×5.0	柱穴・土坑	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群4
28	2004245	20041213~20050311	4中央区	2.0×5.0	土坑ヵ	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群4
29	2004245	20041213~20050311	4西区	2.0×5.0	溝	土師器		微高地	津万遺跡群4
30	2004245	20041213~20050311	4西区	2.0×5.0	礫面			微高地	津万遺跡群4
31	2004245	20041213~20050311	4西区	2.0×5.0	礫面			微高地	津万遺跡群4
32	2004245	20041213~20050311	3東区	2.0×5.0	遺構面	土師器		微高地	津万遺跡群4
33	2004245	20041213~20050311	3中央区	2.0×5.0	竪穴住居址･柱穴	弥生土器多し	弥生	微高地	津万遺跡群4
34	2004245	20041213~20050311	3中央区	2.0×5.0	土坑	平安時代須恵器		微高地	津万遺跡群4
35	2004245	20041213~20050311	3西区	2.0×5.0	土坑	土師器･丹波焼	中世	微高地	津万遺跡群4
36	2004245	20041213~20050311	3西区	2.0×5.0	土坑	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群4
37	2004245	20041213~20050311	3中央区	2.0×5.0	柱穴ヵ	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群4
38	2004245	20041213~20050311	3西区	2.0×5.0	柱穴･溝	須恵器		微高地	津万遺跡群4
39	2004245	20041213~20050311	3西区	2.0×5.0	柱穴･土坑	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群4
40	2004245	20041213~20050311	3西区	2.0×5.0		弥生・中世須恵器		河道	本発掘対象外
41	2004245	20041213~20050311	3西区	2.0×5.0		土師器･須恵器		河道	本発掘対象外
42	2004245	20041213~20050311	2区	2.0×5.0	包含層	土師器･須恵器		微高地	本発掘対象外
47	2004245	20041213~20050311	2区	2.0×5.0	遺構面	中世土師器･須恵器	中世	微高地	津万遺跡群3
48	2004245	20041213~20050311	2区	2.0×5.0	柱穴・溝	中世須恵器	中世	微高地	津万遺跡群3
49	2004245	20041213~20050311	2区	2.0×5.0	遺構面	備前焼	中世	微高地	津万遺跡群3
51	2004245	20041213~20050311	2区	2.0×5.0	遺構面	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群3
53	2004245	20041213~20050311	2区	2.0×5.0	土坑	土師器･須恵器		微高地	津万遺跡群3

表 2　本発掘調査概要

遺跡調査番号	遺跡名	調査区名	小区	主たる調査担当者	調査面積（㎡）	各区の面積（㎡）	遺構	遺物	時期	調査時使用の区名
2008197	津万遺跡群4	津万3区	西	渡辺・鐵・西口・上田	3522㎡	1470㎡	竪穴住居・掘立柱建物・水田遺構・溝	弥生土器 古代～中世土器	弥生・古代～中世	津万3W区
2009189			中央	別府・深江・池田		1950㎡	竪穴住居・中世集落・大畦畔	弥生土器 古墳時代土器 中世土器	弥生・古墳・中世	津万3E区
2010137			東	西口・池田		102㎡	水溜遺構・溝	中世土器	弥生・中世	津万3区
2009189		津万4区	西	別府・深江・池田	3929.1㎡	2252.5㎡	竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑	弥生土器 古墳時代土器 中世土器	弥生～古墳・中世	津万4W区
2008197			中央	渡辺・上田		1109㎡	礎石建物・掘立柱建物・畑遺構・溝	弥生土器 古代～中世土器	弥生・中世	津万4E区
2009189			東	別府・深江・池田		567.6㎡	掘立柱建物・溝・土坑	弥生土器 中世土器	弥生・古代～中世	津万4E区
2009189		津万5区	西	別府・深江・池田	3910.3㎡	364.3㎡	ピット群・溝	中世土器	弥生・中世	津万5W区
2009189			東	別府・深江・池田		3546㎡	掘立柱建物・木棺墓・溝	漆椀・烏帽子・小刀 中世土器	弥生・中世	津万5E区
2010137		津万6区	西	西口・池田	1963㎡	1588㎡	竪穴住居・水田遺構・粘土採掘坑	古代～中世土器	弥生・古代～中世	津万6W区
2010137			東	西口・池田		375㎡	竪穴住居・溝・水田遺構	弥生土器	弥生・古代～中世	津万6E区
2010137		津万7区		西口・池田	440㎡	440㎡	溝・畦畔	弥生土器 須恵器	弥生・古代～中世	津万7区
2010137		津万8区		西口・池田	255㎡	255㎡	水溜遺構・溝	中世土師器 墨書須恵器 木製品	弥生・中世	津万8区
計					13764.4㎡					

第２節　津万３区の調査

津万３区は南北方向の農道を挟み東側の３東区（平成22年度調査３区）と３中央区（平成21年度調査３Ｅ区）と３西区（平成20年度調査３Ｗ区）から構成されている。

１．津万３西区の調査

調査区の概要（図版６～８、写真図版４・５）

南北長約49m・東西幅約30.5m、面積1470㎡を測る長方形の調査区である。調査区の北半において３時期以上の水田遺構を検出した。これは、埋没した旧河道の凹部に造られたもので、旧河道の北肩は、津万遺跡群３　津万２区で検出されている。水田遺構の下層からは、弥生時代後期末の溝が検出された（SD3001）。この溝は３中央区に延びるものである。南半は微高地上となり、弥生時代後期末の竪穴住居址１棟、中世に下る掘立柱建物址・土坑群・溝が検出された。

遺　構

竪穴住居址

SH01（図版９、写真図版５～７）　３西区南東隅で検出した平面形が円形を成す竪穴住居址である。SB02と切り合い、古い。中央部がSD05で壊されているため全容は不明であるが、円形径9.0m、深さは最大16㎝程度残存している。北半部では深さ５㎝の周壁溝が検出できた。床面からはSB02以外の柱穴14基が検出されたが、うち４基が伴う可能性が高い。中央土坑を持ち、周堤帯が巡っている。１～14の土器が出土した。

掘立柱建物址

SB01（図版10、写真図版８）　調査区南東半において検出した。標高59.7mに位置する。土坑SK10と重複し新しい。南北方位をＮ４°Ｅにとる総柱建物である。南北２間（3.15m）・東西２間（2.80m）、床面積8.82㎡の規模と考えられるが、柱通りが調査区東壁を越えて更に東側に延びる可能性も残る。建物の柱間は、南北１間は約1.60m、東西１間は1.40mである。柱穴Ｐ13はSK10と切り合い新しい。柱穴は円形を基本とし掘方径30㎝、深さは35㎝である。

SB02（図版10、写真図版９）　３西区南東隅で検出し、標高59.8mに位置する。SH01と重複し、新しい。桁行方位をＮ28°Ｗにとる側柱建物である。桁行南北２間（3.50m）・梁行東西１間（2.50m）、床面積8.75㎡の規模である。建物の柱間は、桁間は約1.40m・2.10m、梁間は2.50mである。柱穴は円形を基本とし掘方径40㎝、深さは15㎝である。北側の柱穴Ｐ18・21・23の３個には径30㎝内外の平石があり、礎石建物であった可能性がある。柱穴Ｐ18から土師器壺（16）が出土した。

SB03（図版11、写真図版９）　調査区南西半において検出した。SK06・07と重複し、SX03と切り合い先行する。標高59.7mに位置する。桁行方位をＮ83°Ｅにとる総柱建物である。桁行東西４間（6.20m）・梁行南北２間（4.40m）、床面積27.28㎡の規模である。建物の柱間は、桁間は約1.00m・1.60m・1.70m・1.80mである。梁間は2.40m・2.00mである。柱穴から図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。建物の柱間は桁行・梁行で大きく違いがあり、平面形でのゆがみが激しい。柱間の間にある小径の柱穴は補強の性格が強いと考えられる。

土坑

SK04（図版11、写真図版11）　調査区南西半、SX05の東隣に位置する。標高59.7m前後に位置する。軸方位をＮ６°Ｗにとる長軸1.00m、短辺80㎝、深さ16㎝を測る卵形の土坑である。断面形状は丸い。暗褐

色細砂が堆積する。径25cm前後の石と共に土師器小皿（20）・須恵器皿（21）が出土している。

SK05（図版11）　SK04の南側に位置する。標高59.7m前後に位置する。軸方位をN24°Eにとる長軸1.0m、短辺60cm、深さ13cmを測る長楕円形の土坑である。断面形状は丸い。にぶい黄褐色極細砂・暗褐色極細砂・褐色極細砂が堆積する。

SK06・07（図版11、写真図版10）　調査区中央南よりに位置する。標高59.7m前後に位置する。東西・南北とも2.1m、深さ15cmを測るくの字形の土坑である。断面形状は丸い。埋土は褐色細砂である。土師器鍋（22・23）が出土している。時期は14世紀代である。

SK10（図版６）　調査区南東半において検出した。標高59.8mに位置する。SB01と重複し古い。長軸1.9m、短軸1.7m、深さ13cmを測る丸底の楕円形の土坑である。図示できる遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

SK13（図版12、写真図版10）　SH01東隣から検出した。SD05に切られている。SK14と切り合い古い。軸方位をN28.5°Eにとる長軸4.8m・短軸2.1m、深さ25cmを測る楕円形の集石土坑である。断面形状は浅い皿形、暗褐色シルト質極細砂が堆積する。集石は径10cmほどの角礫が密に集められて径２mほどの範囲で円形を呈している。南半には径30cm前後の石材が認められ、石組を構成していた可能性があるが、残存状態が悪く判然としない。丹波焼擂鉢（24）が出土している。時期は中世後半と考えられる。

SK14（図版12、写真図版11）　SH01東端から検出した。SD05に切られている。SK13と切り合い新しく、SK14自体も複数回掘削された不整形土坑である。南北軸方向約2.25m・東西軸方向2.0m、深さ28cmを測る。断面形状は浅い皿形、黒褐色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・炭・焼土を含む黒色極細砂が堆積する。

SK16（図版12、写真図版11）　SK14の東側に隣接する。標高59.8mに位置する。軸方位をN19°Wにとる長軸4.3m、短軸1.7m、深さ15cmを測る隅丸方形の土坑である。土坑底に径10cm内外の角礫が散在する。土師器小皿（25）・丹波焼甕底部（26）が出土している。時期は中世後半と考えられる。

SX03（図版６）　調査区南西半において検出した。SB03の北桁行と切り合い新しい。標高59.7mに位置する。軸方位をN63°Eにとる長軸2.4m、短軸1.5m、深さ54cmを測る卵形の土坑である。

水田遺構

調査区北半からは水田遺構を検出した。水田遺構は、旧谷部・旧河道の凹部が洪水砂礫によって埋没、湿地化し、水田化した、いわゆる谷水田である。谷部の南肩は調査区北東隅から西壁の中ほどにかけてN65°E方向に走っている。この谷部の対岸北肩は、津万２区において検出されており、その間約50mを測る。今回の調査では、最深部がある北西方向に向けなだらかな傾斜が認められた。水田遺構は３枚存在する。上層水田遺構、中層水田遺構・下層水田遺構とする。水田土壌は何れも旧河道が洪水砂礫によって埋没し、下層水田⇒埋没・耕作⇒中層水田⇒埋没・耕作⇒上層水田・埋没の順に形成されている。うち、中層水田は肩部を除き、上下との判別が難しく、平面検出は行なわなかった。遺物のみ層序に従い採取した。また、上層水田を被覆する土層内から炭化物を採取し、ＡＭＳによる年代測定を行った。

下層水田遺構（図版14、写真図版12）　後述する上層水田と異なり、水路は伴っていない。規模は、幅30～50cmの小畦畔を巡らせ、２～３×５m前後の狭小区画が一面に検出されている。区画は正方位に近い軸も見られるが、全体では若干西方に扇形に開いている。検出した水田区画の標高は59.5～59.2mである。

中層水田遺構　上層水田と同じくSD11・SD12が用水路として伴っていたと考えられる。水田区画の標高は59.5～59.3mである。

上層水田遺構（図版13、写真図版12）　上層水田には用水路と考えられるSD11・SD12の２本の溝が伴っている。谷部肩から２ｍ前後余地を残した部分を南西から中央でN3.5°Wの方向に流れ込むSD11と、調査区の北東隅をN56°Wの方向に走るSD12である。ともに溝の両肩に幅50㎝前後の畦畔が取り付く。水田区画はそこより広がって行くが、後世の耕作により水田区画の残りはよくない。SD11より東側のものは、概ね正方位に近い軸をもち、西側の区画は、徐々に西側に扇形に開いている。規模は、幅30㎝前後の小畦畔を巡らせ、谷部肩周辺のものは狭小で、３～４×５ｍ前後、SD11周辺では、大きなもので６×６ｍ程度の不整形な区画を形成していた。また、一部に水口と考えられる畦畔の切れ目を検出している。検出した水田区画の標高は59.7～59.5mである。

・SD11（図版13）　幅約70㎝・深さ約15㎝、浅い弓形の断面形状をもつ溝である。溝内からは中世前期の須恵器小皿（27・28）が出土した。

・SD12（図版13）　幅約70㎝・深さ約20㎝、浅い弓形の断面形状をもつ溝である。断面から推して、下層水田時から使用されていた可能性がある。

上層水田土壌の被覆土からは８世紀後葉～９世紀代前半の須恵器杯蓋（57）、11世紀代の須恵器椀（60・61）、14世紀代の須恵器捏鉢（63）などが出土している。上層水田土壌からは11世紀代の須恵器椀（49・50）、13世紀代の須恵器捏鉢（52～54）・青磁鎬蓮弁文碗（56）・丹波焼擂鉢（55）などが出土している。

中層水田土壌からは８世紀後葉～９世紀代前半の須恵器杯蓋・杯身、11世紀代の須恵器椀（42・43）、中世前期の須恵器椀（44）・白磁玉縁口縁碗片（46）などが出土している。

下層水田土壌からは８世紀後葉～９世紀代前半の須恵器杯蓋・杯身・中世前期の白磁玉縁口縁碗（32）が出土している。

下層水田から白磁玉縁口縁碗（32）が出土しており、各水田の形成時期は明確ではない。８世紀後葉～９世紀代前半の須恵器を多く含んだ旧河道堆積物を耕作し、中世前半にかけて３枚の水田を造作したと考えられる。このなかで、中層水田土壌に多く含まれる11世紀代の須恵器椀類が下層水田では見られないこと、上層水田の被覆土には14世紀代の須恵器捏鉢が見られることから、下層水田は主に古代に、用水路（SD11）が付く中層・上層水田は中世前期に入って造られた可能性がある。

溝

SD3001（図版15、写真図版13）　調査区北壁から現れN114°Eの方向に走り東壁に消える弥生時代後期末の溝である。この溝は３中央区のSD01に続き、３東区ではSD04に続き南へと緩やかに向きを変え、４中央区では東西方向の溝SD03に連結する。溝幅1.4m・深さ50㎝を測り、逆台形の断面形状をもつ。本調査区での溝底は、西側Ｄ断面で標高59.0m、中央部Ｃ断面で59.2m・Ｂ断面では58.9m、東壁では59.1ｍを測り、上流・下流が明らかではない。土器（17）が出土している。

２．津万３中央区の調査

下層の遺構（図版16、写真図版14・15）

津万３中央区では、上下２枚の遺構面が確認された。上層は平安時代から中世にかけての遺構が検出され、下層では弥生時代後期から古墳時代後期頃の遺構が検出された。上下面間は５㎝程度の堆積しかないため、中世前後頃の遺構には下層面で検出されたものも多い。３西区で検出された水田から出土した古代に属する土器の時期の遺構は確認できなかった。

調査区の北西部隅は地形が緩やかに50㎝近く低くなる。津万３西区で検出された古代以降の水田のようにいずれの時代も水田として利用されたのであろうが、この部分では小畦畔等は検出できなかった。

竪穴住居址

SH01（図版21、写真図版16）　３中央区南西隅で検出した平面形が方形を成す竪穴住居址である。一部が調査区外へ広がるため全容は不明であるが、３ヶ所で隅部が検出できたことから、各辺が4.0×3.4mの小型のものであることがわかった。深さは12cmしか残存しない。軸線をN45°Wへ振り、北東の辺および北西・南東の辺に深さ数cmの周壁溝を走らせている。床面には柱穴P49（長径35cm、深さ60cm）のみが検出され、主柱穴が２本柱の可能性が高い。埋土中から96～98の小形鉢や壺底部が出土した。

SH02（図版20・21、写真図版17）　３中央区の中央東寄りで検出された平面形がほぼ正方形を成す竪穴住居址である。軸線はSH01と同様、大きく西に振る。一辺が6.2mを測り、約40cmの深さを残す。四周の壁際に周壁溝を走らせているが、北西辺の周壁溝は中央からやや偏った位置が途切れている。床面には中央土坑（SK24）と４本柱の主柱穴P77・P79・P82・P80や、南西壁際に柱穴大の土坑（SK23）が検出された。中央土坑SK24は1.05×0.75mの不整楕円形を呈し、深さは10cm弱で、顕著な焼土等は認められない。93の高杯脚部が出土した。また直径70cm、深さ40cmの主柱穴P77からは94・95の土器片が出土した。竪穴住居址埋土中からは73～92の土器が出土しており、壁際周辺の床面から浮いた状態で出土したものがほとんどである。

SH03（図版19、写真図版18）　３中央区中央で検出された平面形が方形を成す竪穴住居址である。軸線はわずかに西に振る。5.8×5.4mの規模を持ち、深さは10cmほどしか残存しない。四周の壁際に周壁溝を走らせているが、北西辺の西半分が途切れている。床面では主柱穴と考えられるP75・P150・P104・P149の４本柱と、中央部を東西に走る細い溝や小柱穴が検出され、小溝の途切れる住居址中央部にSK28を検出した。主柱穴は長径35cm、深さ35cm程度の規模を持つ。

SK28は60～35cmの小さな土坑で、17.5cmの深さを持つ。埋土の上面に焼土を検出した。また、小溝の途切れる主柱穴東列の中間に台石と思われる表面の平たい石が据えられていた。主柱穴P104・P150以南の一部がわずかに高くなっており、屋内高床部の可能性があるものの不明瞭である。埋土中から99～103の土器が出土した。

周壁溝に沿って中世墓SK20の他SK07・SK13・SK19が検出できたが、すべて後世のものと思われる。但し把手（103）はSK13から出土しているが、SH03出土として報告する。

SH04（図版18、写真図版19）　３中央区の南西部の礫ベースが広がる地点で検出された。平面形が円形を呈する竪穴住居址で、大小２基（SH04・05）が重複している。内側の竪穴住居址（SH04）は、長径5.5m、短径5.2mの楕円形を呈した小形のもので、幅25cm程度の周壁溝を持ち、深さは６～13cm残存していた。

床面にはいくつかの柱穴が検出されたが、P151（直径52cm、深さ50cm）・P123（直径25cm、深さ32cm）の２本柱の建物と思われる。中央土坑は見当たらない。東寄りの周壁溝に沿って、床面から104～109の土器が出土した。床面の高さは後述するSH05よりも10cm近く深い部分があることから、この竪穴住居址に属するものとしたが、SH05のものの可能性は残る。

SH05（図版18、写真図版20）　外側の竪穴住居址（SH05）は、一部に周壁溝が残存するものの大半が周壁溝すら残らないほど削平されていた。復元すると直径8.2mの円形を成し、SK08が中央土坑で、主柱穴５本の竪穴住居が復元できる。主柱穴は直径35～50cm、深さ45～60cmの規模を持つ。擂鉢状を呈するSK08埋土には塊石が含まれ、110・111の土器が出土した。SH04との切り合いは確認できなかったが、このSH05が古いものと思われる。

掘立柱建物址

掘立柱建物址を復元したが、調査中に復元できたものは少ない。復元に用いた柱穴は上層検出のものと下層検出のものを併用した。このため、中世に属する建物もここで報告する。

SB01（図版23、写真図版23）　３中央区上層で検出できた大畦畔や溝群の北側で検出された掘立柱建物址で、現地で復元できた唯一のものである。大畦畔や溝に沿う方向に主軸をもち、N45°Eに振る。或いは方形竪穴住居址などと軸線を揃えるものか。２×４間で2.6×6.5mの規模を持つ。

柱穴は20～25cm、深さ20～40cmと比較的規模は小さい。遺物が出土していないが、P120のように板石を礎盤として用いるなど、他地区の中世掘立柱建物に類似するが、正方位を採らないことからやや古いものと判断した。発掘調査時点で１×４間の細長い建物が復元でき、北東小口と中間の桁には間の柱が入る。中間の柱は建て替えが認められる。

建物を構成する柱穴P56・P101・P118からは図化できない胴部小片であるが、古墳時代以前と思われる土師器片が一定量出土している。

SB02（図版23）　SB01の北東で１×２間の独立棟持柱建物を復元した。主軸方向はN70°Wに振り、溝SD01と平行する。規模は2.7×3.5mで、柱穴の規模は直径35cm、深さ35cm程度の大きさである。独立棟持柱は斜行する。その一方のP48からは古墳時代以前のものと思われるハケを施した土師器片が一定量出土している。

SB03（図版23）　竪穴住居址SH02とSH03の間で検出した。柱間2.8×1.6mの１×２間（2.8×3.2m）の建物で、南に50cmの庇・縁がつく。主軸方向はN36°Eへ振り、竪穴住居址SH02と揃う。柱穴は直径35cm、深さ35cm程度の規模を持つ。

SB04（図版24）　SB03の南側で検出された。２×２間の総柱建物で、2.5×3.1mの規模を持つ。軸方向は正方位に近い。柱間はあまり揃わないが、南辺はさらに東西に２間延びるように復元できる。柱穴は直径50cm程度、深さ35cmまでのものがあるが、比較的小型であまり揃わない。建物を構成する柱穴ではないが、周辺のP46からは土師器高杯片や薄手の須恵器片が出土しているが、P107からは中世に属する糸切り底部の須恵器片が出土している。

SB05（図版24）　３中央区の南東部で検出された。２×２間で、南北３m、東西５mの東西棟となる。柱穴は直径50cm、深さ40cmまでの比較的大型のものが多い。ほぼ正方位に主軸を持つ。北辺には間柱が入り、P32から土師器甕（132）、建物内のP33からは製塩土器（133）が出土しているが、P31や内部のP12・P142からは糸切り底部の須恵器片や土師器鍋片が出土している。

SB06（図版24）　SB05の南に接するように復元できた。南北２間（3.2m）、東西３間（4.9m）の東西棟で、南に庇・縁が40cmの幅で付く。軸方向はN10°Wに振る。建物を構成する柱穴P28からは土師器坏（179）や須恵器椀片や土師器小皿片が、P63からは土師器小皿（178）が出土しており、P10・11・63・131からは土師器の小皿や鍋片が、周辺のP94・103・131からも煤の付着したタタキが顕著な土師器鍋片が出土しており、中世の建物と思われる。

その他柱穴からの出土遺物は少ないものの、P06・47からは土師器皿（181・182）、P103・144からは土師器鍋（180・183）、P38からは須恵器椀（185）が出土している。

溝

SD01（図版22、写真図版21）　３中央区の北西から南東部へと弧状に横切る溝で、３東区ではSD04に続き南へと緩やかに向きを変える。さらに４中央区では東西方向の溝SD03に連結する。４東区のSD10や５東区のSD18もこの溝の延長上に位置し、続きに当たるものかもしれない。検出面が礫層である地点で

は削平されたものか、検出が困難であった。幅1.6～2.5m、深さ70～85cmの規模を測る。溝底のレベルは北西側が若干深くなるが、40cm程度の差である。埋土の下層からは137～148の土器が出土した。上層の遺構面では北半部のみ浅い堆積が見られた。

微高地部分を横切るように掘削されたこの溝は、幾度かの掘り直しが観察され、該当期の竪穴住居等はこの溝の南側でのみ検出されており、集落の範囲を限る環濠の可能性がある。

SD13（図版16、写真図版21）　SH03の南側で検出された南北方向の短い溝で、幅3.7m、深さ17cm弱の規模を持つ。南側は西方向に直角に曲がり約５m続き、この部分は土坑SK27となる。SK27からは（175～177）の中世須恵器が出土している。SD13からは153～156の土師器・須恵器が出土しており、西側のP68からも製塩土器（134）が出土したことから、古墳時代の遺構が存在していた可能性が高い。

SD17（図版22、写真図版21）　調査区の北壁からSD01の東端部に連結する溝で、SD01以南へは続かない。幅85cm、深さ35cmを測り、149～152の土器が出土した。弥生時代中期後半の土器が主流である。

土坑等

SX02（図版16、写真図版22）　SH04の北側で検出されたSX02は、大畦畔に並行して走るSD15流末の溜まり状の土坑で、不整形な平面形と安定していない底面をもつ。112～114の土器が出土した。

SX04（図版22、写真図版22）　３中央区南東隅で集石土坑SK01や掘立柱建物の下層から検出された。平面形は不整な円形を呈していると思われ、現有道路下のため全容は不明であるが、他地区から続きは検出されていない。復元すると直径９mほどあり、50cmほど下がった後、幅の一定しない溝を巡らせ、その中央部は直径1.2mの土坑状に40cmの深さで窪んでいる。斜面や底面からは杭状の小柱穴が多く検出された。115～131の土器が出土した。

SK04・16（図版16）　３中央区の南西部、SH04・05の周辺からいくつかの土坑が検出されている。SK04は下層面で検出されており、埋土も黒褐色を呈しているが、遺物は出土していない。SK16はSH04・05の北側に接するように検出された長さ1.6m、幅60cmの土坑で、30cmほどの深さがある。

SK09・14・15（図版16）　３中央区の南東部の下層で検出された。埋土が暗褐色や黒褐色を呈しており、竪穴住居址などに類するが、図化できる遺物は出土していない。SK09からは土師器高杯片や須恵器甕片が出土している。SK15からは土師器片が出土している。

上層の遺構（図版17）

３中央区上層の遺構は、機械掘削の際に調査区の中央に大畦畔状の長く延びる高まりを検出したことから確認された。大畦畔状の高まりとその両側の側溝、さらに南側にそれらに平行して走る溝や、南東部周辺に広がる土坑・柱穴群が検出できた。

大畦畔（図版27、写真図版24）

大畦畔は３中央区のほぼ中央を南西から北東へと大きく弧を描いて走っている。その方向は調査区北端で検出された北への落ちと平行しており、またそれは３西区で検出された古代頃の土器を含む水田址が検出された低地部の範囲と平行している。３西区でも大畦畔と溝群の延長部が確認できる。また、４西区の南東部から５西区にも低地部が広がっている。このように自然地形に合わせて大畦畔を作っており、大畦畔は低地部と低地部との間に広がる北東から南西方向の紡錘形を呈した微高地の中央部に走っていることから、地形の最も高い位置に水路と通路を走らせて両側の低地へと水や労働力を供給する配置と思われる。この大畦畔の明らかな構築時期は不明であるが、圃場整備前から津万地区で明瞭に観察された条里型地割は中世以前には広がっていなかった可能性が高い。

大畦畔の規模は、上幅は広いところで90㎝、両側溝の底間距離約２ｍ、高さは溝底から25～38㎝を測る。大畦畔の北側側溝（SD02）、南側側溝（SD03）からは須恵器糸切り椀や小皿片、硬質土師器鍋や羽釜片、青磁片、須恵質の平行タタキを有する布目平瓦小片などが出土している。

大畦畔やその南側を複雑に走る溝群周辺には中世には木棺墓や土坑が掘削される。また、中世以降のものと思われる主軸を南北方向にもつ掘立柱建物址はこの大畦畔や溝の南側でのみ検出される。

溝

SD14・15・16（図版16、写真図版25）　大畦畔の南を同じ方向に走る溝群の内、南側を通る溝で、北東部では竪穴住居址SH03を切っている。SD15の南西端はSX02となっている。SD16は南西部ではSD14と合流し、北東部はSD01を越えて北東調査区外へと延びる細い溝である。これらの溝は同じ場所に何度も作り替えられたものであろう。

土坑

SX01　SX01は竪穴住居址SH04上面に堆積した不定形の落ち込みで、遺構とはならなかったが、土師器煮炊具（187）や須恵器椀（191）が出土している。

SX03（図版27）　大畦畔の南を走る溝群の内、幅の比較的広いものの西端部に設けられた土坑状の溜まりである。土師器鍋（184）が出土した。

SK01（図版26、写真図版26）　３中央区の南東端に設けられた集石土坑である。直径約３ｍの不整な円形の平面形を持ち、深さは25㎝を測る。埋土の下層や底面に拳大の礫が散乱する。土師器鍋（160・161）が出土している。

SK02（図版26、写真図版27）　同じく南東端で検出された南北95㎝、東西70㎝、深さ13㎝の平面形が楕円形を呈する土坑で、壁面は斜めに立ち上がる。土師器皿（162）が出土した。

SK03（図版26、写真図版27）　同じく南東隅で検出された北東から南西に長軸を持つ土坑。90×55㎝、深さ35㎝の不整楕円形を呈する。下層ではP67・P102・P103の柱穴が並び、板石が複数入れられていた。P67からは砥石（S８）が出土している。

SK07（図版27、写真図版25）　大畦畔のすぐ南、側溝を切るように設けられた土坑で、不整楕円形を呈し、一段上がって南側へと広がっており、SH03を破壊している。土師器煮炊具（163～165）が出土した。

SK20（木棺墓）（図版25、写真図版28）　大畦畔の南、大畦畔と平行に走る溝群との間で、竪穴住居址SH03の東肩を切って構築されている。長軸方向は大畦畔などと一致している。東西1.65m、南北1.15mの隅丸長方形を呈した土坑で、深さ25㎝まで残存していた。土坑の壁面は斜めに傾斜して立ち上がり、木棺の痕跡を平面的に検出できなかったことから、当初土壙墓と考えていた。土層断面観察から埋土中央に70㎝の幅でまっすぐ立ち上がるような堆積状況が観察でき、また、出土遺物中に鉄釘が含まれることから木棺墓と思われる。埋土中には小礫が含まれる。土坑底での木棺の規模は1.4×0.7ｍを測る。

東小口付近の北側板に沿うように、埋土中層から白磁碗片（171）、青銅製方形鏡（Ｍ１）、鏡の上から鉄製の和鋏（握り鋏）・毛抜き・針（Ｍ２・３・５）、その東側から刀子（Ｍ４）、その下から青白磁合子身（170）、白磁碗片の西下から土師器小壺（169）が一塊で出土した。化粧道具箱に入れられて、棺上に置かれていたものが棺腐朽とともに棺内に落下したものかもしれない。但し合子には蓋がなく、碗は破片であった。漆膜片などは確認されていない。木質も銅鏡にのみ付着しており、化粧道具箱内に別の鏡箱や鏡を納める内箱があったものと考えられる。

青白磁合子、土師器壺は口を上に向けた正位置で出土し、白磁碗片は両者の間に被さるように出土し、

その下から銅鏡が出土した。銅鏡に付着する木質上に鉄製針（Ｍ５）が付着して出土した。毛抜きは和鋏の握りの中に入り込むように出土している。壺・合子の中から遺物は出土していない。他に釘（Ｍ９）や長さ14cm以上の鉄製品（Ｍ６）が出土している。棺の南東隅からは土師器小皿（166～168）が３点出土している。また埋土中などから鉄を含むスラグ（M30～33）が出土している。

鏡や鋏などの化粧道具あるいは裁縫道具を副葬品に持つ中世墓は、兵庫県内では丹波市の多利・前田遺跡のＳＸ-１がある。土師器小皿６点、皿２点、青白磁蓋付小壺、青白磁合子、白磁皿、青銅鏡、鋏、毛抜き、刀子などの鉄製品と漆製品が出土している。化粧道具或いは裁縫道具が副葬され、土師器皿を用いて何かが供えられている。青白磁合子の蓋がない状態も同じである。蓋を取って香などを供えたものであろうか。また、加古川市大野遺跡北地区SX21の木棺墓からは鋏が出土している。

SK10・13・17・18・19（図版28、写真図版27）　SH03を切って構築された木棺墓SK20と同様、SH03を切って設けられた土坑SK13・SK19があり、また周辺にもSK10・SK17・SK18と土坑が検出されている。SK13から103の土師器把手が出土しているが、下層のSH03のものと判断した。他は図化できる遺物は出土していない。

SK21（図版17、写真図版25）　３中央区西端で小溝SD08に切られて検出された。直径が1.8mほどの円形の平面形で、深さは10cmと浅い。土師器小皿（172）が出土している。

SK26（図版26、写真図版27）　３中央区の南端で南北１ｍ、東西90cmの歪な楕円形で、深さは15cmを測る。内部から大小の河原石とともに土師器鍋（173）が検出された。

SK27（図版26、写真図版27）　SD13に続いて西側に検出された土坑で、1.2×0.75mの隅丸長方形を呈しており、埋土上層や底に塊石が数点配されていた。土坑南東部埋土から須恵器皿・椀（175～177）が出土した。木棺墓等墓址の可能性があるが、土坑底が安定せず、斜めであることから判断を留保した。

３．津万３東区の調査

調査区の概要（図版29、写真図版29）

津万４区北側、津万３中央区東側に位置する。南北長約15m・東西辺14m、面積102㎡を測る三角形の調査区である。微高地上に位置する。弥生時代後期溝・中世の溝・土坑・石組遺構が検出された。

遺　構

土坑

SK02（図版30、写真図版30）　調査区南東端に位置する。標高59.7m前後に位置する。軸方位をＮ48°Ｅにとる長軸75cm、短軸63cm、深さ20cmを測る不整五角形の土坑である。断面形状は逆台形。黒褐色極細砂・灰黄褐色極細砂から細砂が堆積する。時期が明らかな土器は出土していない。

溝

SD01（図版30、写真図版30）　標高59.7m前後に位置する。調査区東半を北から南に流れ、直角に曲がり、SD02･03･04を切っている。SK03と切り合い古い。溝は、南北の走向をＮ８°Ｗにとる。幅約1.0m、深さ15cmの規模を測る。断面形状は浅い皿状で、底面はやや平である。溝底のレベルは北西側が若干深くなるが、40cm程度の差である。埋土からは土師器鍋（203）、羽釜（204）、須恵器捏鉢（205）が出土した。

SD02（図版30、写真図版30）　SD01とSD03の間で検出された南北方向の短い溝で、走向をＮ13.5°Ｗにとる。幅30cm、深さ10cm弱の規模を持つ。断面形状は底面に丸みを持ったＶ字形である。時期が明らかな土器は出土していない。

SD03（図版30、写真図版30）　下層のSD04の形状に沿うように北から南へと流れる溝である。流末は

SK01・SK03によって不明である。走向はSD02とほぼ並行している。幅約50cm、深さ８cmの規模を測る。断面形状は浅い逆台形を呈し、底面は平らである。時期が明らかな土器は出土していない。

SD04（図版30、写真図版30）　３西区下層（SD3001）から３中央区の北西から南東部へと弧状に横切る溝で、３東区ではSD04に続き南南東に向きを変える。更に４中央区では東西方向の溝SD03に合流する。

幅1.7～2.0m、深さ55cmの規模を測る。断面形状は逆台形、掘り直しによってＶ字に近くなる。192～199の土器が出土した。土師器小皿（206）は上面から出土している。

水溜状遺構

SK03（図版31、写真図版31・32）　調査区南半、標高59.8m前後、ＳＫ01と切り合い先行する石組みを伴う水溜状遺構である。土坑は軸方位をＮ90°Ｗ、ほぼ東西方向にとる。土坑の規模は長軸2.75m・短軸は2.5m、深さ55cmを測る。長20～40cm前後・幅30cm前後ほどの石材を横積みに４段で積み上げ、内法長軸3.0m前後・短辺2.4m前後・高さ約1.0mを測る方形の石組みを造り上げている。北壁・西壁は石積みが残っておらず、開放されているが、崩落した石材が検出されており四周に石材を使用して石組が造られていたと考えられる。石組の内側の床面には径10～20cmの角礫による敷石が残存している。土坑内より土師器鍋（200・201）、無釉陶器鍋（202）が出土している。

第３節　津万４区の調査

津万４区は南北方向の農道を挟み東側の４東区（平成21度調査４Ｅ区）と４中央区（平成20度調査４Ｅ区）、西側の４西区（平成21度調査４Ｗ区）から構成されている。

１．津万４西区の調査

調査区の概要（図版32・33、写真図版33・34）

津万４西区ではほぼ同一の面で弥生時代から中世までの遺構が確認された。確認調査でも想定していたが、調査区の南東部には低湿地が広がっており、検出できた遺構は少ない。西端部も同様に遺構が少なく、用地の関係で確認調査ができなかった西端部は本発掘調査範囲から除外している。

遺　構

竪穴住居址

SH01（図版34、写真図版35）　４西区の中央部でSD01に横切られるように検出できた円形竪穴住居址である。周壁溝が二重に巡らされており、二期に分かれる。土層断面からは両者の切り合い関係は認められず、外側のものが新しいものと思われる。埋土中から大量の土器が出土しており、その中には煤の付着した甕の破片も多く見受けられるが、高杯の脚柱部が10点以上存在している。何らかの祭祀が行われたものか、或いは住居廃絶後に廃棄場所となったものか。

外側の住居址（SH01－１）　直径9.8～10.1mで、南東部の一部で周壁溝が途切れているが、削平によるものであろう。周壁溝は幅30cm、深さ10cm程度で、一部は直線的であるため多角形住居かもしれない。

内側の住居址（SH01－２）　直径7.1～7.9mで、幅20cm、深さ10cm以下の周壁溝は南西部で一部途切れている。周壁溝がやはり歪であることからこれも多角形かもしれない。

両者の周壁溝から土器の出土はほとんどない。床面には多くの柱穴が検出され、多くの柱穴から土師器片が出土している。中でも内側のＰ17からは230、Ｐ07からは231、Ｐ21からは232、Ｐ49からは234の土器が出土している。外側のＰ66からは233の土器が出土している。いずれの住居址のものかは不明であるが、

P44・45・48・49・43の５本柱のものを復元した。これらの柱穴は直径40㎝以上、深さ30～70㎝の規模である。北東部では周壁から外に向かって平面形が半円形の土坑SK16（1.25×0.9×0.25ｍ）を設けており、SH01-１の周壁溝まで到達している。SK16からは235～240の土器が出土している。中央土坑は、SD01に切られており、直径1.1ｍ、深さ40㎝の土坑と思われるが、遺物等は検出できなかった。

SH02（図版35、写真図版36）　４西区の南西部で検出されたSH02は、集石土坑SK02や攪乱によって破壊されているが、5.5×5.1ｍ、深さ30㎝の平面形が方形をなす竪穴住居址である。

周壁下に幅25㎝、深さ10㎝以下の周壁溝を走らせるが、南西部で南側が一部途切れる。北東部中央の壁際に直径1.2ｍ、深さ25㎝の土坑SK100を設けている。SK100は周壁内に収まっており、周壁溝と同時存在或いは周壁溝以前から存在していたものと思われる。主柱穴はP73～76の２ｍ間隔で方形に並ぶ４本柱建物と思われる。個々の柱穴は平面形が楕円形で最大直径が40㎝、深さは40～50㎝の規模を持つ。P74・75の外側の柱穴状の遺構は非常に浅い。

西壁中央直下の床面に台石（S９）を置く。埋土からは254～259の土器が出土している。

SH03（図版35、写真図版38）　４西区の西端でSD01上面から検出できた土坑は、壁面が直線的な方形を呈しており、直角に折れ曲がることから、竪穴住居址と考えた。検出できた一辺の長さは3.2ｍ以上で、深さは８㎝しか残存しない。周壁溝も検出されなかった。

遺物は土師器小片が数点しか出土しておらず、またSH03に切られる形のSD01からは須恵器杯H或いは有蓋高杯（248・252）が出土していることから、それ以降の竪穴住居址とすれば、同時期の竪穴住居址は津万地区では検出されていない。竪穴住居とするには躊躇されるが一応ここに含めて報告する。

掘立柱建物址

SB01（図版37、写真図版39）　４西区の東端部でSD01に重複するように南北方向（Ｎ９°Ｅ）に主軸を採って検出された。建物を構成する柱穴P36はSD01埋没後に掘削されている。５×２間の南北11ｍ、東西4.5ｍの総柱建物である。柱間は東西が2.2ｍ、南北が2.0ｍであるが、中間部は柱間3.0ｍを測る。柱穴の規模は直径25～40㎝、深さ20～50㎝である。これらの柱穴では一部にのみ柱痕が確認でき、また埋土上層に塊石を投入したものも多く、意図的な建物の廃絶が窺われる。中央部の柱間が大きく柱通りもその間で若干ずれることから、２×２間の建物２基が並んでいる可能性もある。P12から中世に属する羽釜（262）が、P25からは土師器小皿（263）が出土している。

その他、南端部SH02の東側でも23×29ｍの範囲で柱穴が配されているが、建物の復元までには至らなかった。調査区北縁部でも柱穴が多く検出されたが、建物は復元できなかった。これらの柱穴は調査区北半部に多く分布している。

土坑

SK01（図版36、写真図版40）　SH01の東側、SD01埋没後に構築されている。不整な楕円形の土坑を３基連ねたような形状で、上面では両脇の土坑に一辺が30㎝ほどの割石が検出された。西側の壁際では壁面に沿って内側に面を揃えるように割石を並べており、一部は２～３段に積んで石列としている。東側の土坑内の石は散漫である。下層では中央の土坑南半から玉砂利状の小礫が敷かれているように検出され、一部に割石が乗っていた。265～269の土器が出土している。

底に玉砂利を敷き、壁際を護岸していることから、水に伴う施設と思われる。同時期の溝などが付随しないため、その性格は不明であるが、南東部に広がる低地の水田への水利施設、或いは園池状遺構の一部かもしれない。古墳時代までの土器が出土するSD01の一部が中世に再利用されていたなら、SK01の東

で分岐するSD02・03との関係から分水施設であった可能性が高い。同様の構造を有する集石土坑は津万５東区のSX01にも見られる。

SK02（図版36、写真図版40）　SH02上で検出された長径4.5m、短径3.3mの不整形の土坑である。東北部下層に3.2×2.2mの楕円形にもう一段掘り込み、礫を詰め込んでいる。深さは70cmあり、SH02の床面まで切り込んでいる。上段部には大きめの割石が散漫に入る。礫は10cm大のものから40cmに近いものまであり、配置に規則性は認められない。270の土師器鍋が出土している。

SK04（図版32、写真図版38）　４西区の北東部で検出された。SK03・04・05と北東から南西へ並んでおり、ちょうど低湿地部へ落ちる肩に連続して並んでいる。SK04は直径80cmの不整円形を呈しており、深さは25cmを測る。

SK06（図版36、写真図版40）　４西区の北東壁際で検出された。直径2.8mの楕円形を呈しており、一部は調査区外へと広がっている。深さ30cmほどの土坑の埋土上層を中心に、他の集石土坑と異なった比較的大きい割石を一部立てるように配するが、埋土等の違いもなく意図的なものではなかろう。土師器煮炊具（271）が出土している。

SK07（図版37）　４西区北半の集石土坑SK06の南西で検出された。2.4×1.4mの平面形が楕円形を呈する土坑で、深さは25cmの皿状を呈している。

SK09（図版37）　SD01の南側で検出された。一辺が1.1mの隅丸方形の平面形を呈し、深さは20cmほどを測る。

SK10（図版35、写真図版38）　SH01の北側で検出された。長径76cm、短径57cmの楕円形の土坑で、深さは20cm残存していた。埋土中に土器小片が多く含まれ、東壁下斜面から土師器台付甕（260）が出土している。

SK11（図版37、写真図版38）　北半で検出された。2.0×1.6mの楕円形の平面形を持ち、深さは40cmを測る。

SK13（図版37）　北半で検出された。直径1.0mほどの不整な円形の平面形で、皿状に埋土が堆積する。埋土の上層に小円礫を詰めている。

溝

SD01（図版35、写真図版37）　４西区の中央を東西に緩やかな弧を描いて走る溝で、東側の津万４中央区のSD03につながる。幅1.2～1.5m、深さ50～80cmの規模を持つ。竪穴住居址SH01を切り、集石土坑SK01や掘立柱建物址SB01の柱穴P36に切られている。溝底の深さは東西であまり差はない。土器（241～252）が出土しており、SK01から出土した土器（253）もここに含める。

SD02・03（図版32、写真図版38）　SH01の南東部で検出された北東から南西へ走る条溝で、調査区南東部の低地部の縁辺に沿って設けられる。北東端部の横に護岸等を備えたSK01が設けられており、SK01で分水された分岐溝の可能性がある。埋土は黒褐色の極細砂から細砂である。

SD04（図版37、写真図版38）　北東部で検出された長さ8.4m、幅90cm、深さ35cmの条溝である。土師器・須恵器（272～274）が出土した。

２．津万４中央区の調査

調査区の概要（図版38・39、写真図版41・42）

南北長約43.5m・東西最大幅25.5m、面積約1109㎡を測る長方形の調査区である。調査区の北半において掘立柱建物址１棟と土坑・溝、スキ溝群を検出している。調査区中央では東西方向に走る溝SD02を検

出した。南半からは掘立柱建物址２棟を検出した。調査区の西壁際からは条里境と考えられる南北方向に走る大畦畔を検出している。

遺　構

掘立柱建物址

SB01（図版40、写真図版43・44）　調査区北東端において検出した。標高59.5m前後に位置する。スキ溝群と切り合い先行する。また、東桁行の内Ｐ１-５・Ｐ２-５は４東区に入っており、Ｐ３-５は４東区側溝内に入っており検出されなかった。Ｐ４-５・Ｐ５-５は調査区東壁断面において確認した。桁行方位をＮ12°Ｅにとる総柱建物である。桁行南北４間（10.20m）・梁行東西４間（9.00m）、床面積91.80㎡の規模である。建物の柱間は、桁間は約2.10m・約2.70m、梁間は2.10m・約2.40mである。

柱穴は円形を基本とし掘方径30～50㎝、深さは40～65㎝である。この内柱穴Ｐ１-２・Ｐ１-３・Ｐ３-２では15㎝前後の石で柱根を埋めている。また、Ｐ１-４・Ｐ２-３・Ｐ３-３・Ｐ３-４では30～40㎝の平石を据えている。礎板もしくは礎石として据えている。北半の２×２間部分が特別な空間であった可能性が考えられる。Ｐ２-３からは土師器小皿（287）、Ｐ４-２からは土師器椀（288）が出土している。

SB02（図版41、写真図版45）　調査区南半において検出した。標高59.5mに位置する。SB03と重複するが先後関係は不明である。桁行方位をＮ3.5°Ｅにとる総柱建物である。桁行南北５間（11.00m）・梁行東西３間（6.60m）を測る。西桁行の並びは不揃いで、Ｐ１-５はやや外側に、Ｐ３-５は内側にある。また、梁行西１間のＰ２列・３列の間には小径の柱穴が並んでおり、間仕切り・床支えなどのためと考えられる。西梁行の内北１間では西側に梁行１間0.8m分の張り出しがあり、更に２間目・３間目・４間目では西側に梁行き１間（1.1m・1.1m・1.0m）分の張り出しがある。西桁行の張り出しを除く床面積は72.60㎡の規模である。張り出し部のうち、P-８部分を除く床面積を加えると約78.70㎡の規模である。建物の柱間は、桁間は約1.60m・2.00m・2.10m・3.20m、梁間は2.00m・2.20m・2.40m・2.50mである。柱穴は円形を基本とし掘方径30cm、深さは30～40㎝である。柱穴から図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SB03（図版42、写真図版45）　調査区南半において検出した。標高59.5mに位置する。SB02と重複するが先後関係は不明である。桁行方位をＮ２°Ｅにとる総柱建物である。桁行南北３間（7.50m）・梁行東西３間（5.50m）を測る。床面積は41.25㎡の規模である。建物の柱間は、桁間は約2.00m・3.50m、梁間は2.10m・2.00m・1.40mである。柱穴は円形を基本とし掘方径30cm、深さは40～50㎝である。全体に柱列の歪みが激しく、北端の梁行と南端の梁行きは全体に西側へ寄っており、床面プランが風を受けた帆のような形状である。北端の梁行きではＰ１-３とＰ１-５間にＰ１-４はなく土間や屋根自体がない可能性もある。また、桁行２・３間の柱間は特に3.5mと大きく間が開いており土間であった可能性も考えられる。柱穴から図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

土坑

SK01（図版43、写真図版44）　SB01の北西隅に近接する。標高59.5m前後に位置する。軸方位をＮ1.5°Ｅにとる長軸65㎝、短軸60㎝、深さ25㎝を測る不整円形の土坑である。断面形状は箱形である。黒褐・暗褐色の砂混じり粘質シルトが堆積する。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SK03（図版43・写真図版44）　SB01と重複する。またスキ溝３に切られ先行する。標高59.7m前後に位置する。軸方位をＮ７°Ｅにとる長軸1.0m、短軸60㎝以上、深さ10㎝を測る楕円形の土坑である。断面形状は浅い皿形である。黒褐色シルト質極細砂が堆積する。図示できる遺物がなく、時期は不明である。

SK02・05（図版38）　これらの土坑は調査区北壁から検出されたもので、詳細は不明である。SK05は後述するSD03よりも先に埋没した可能性が高い。

溝

SD01・SD03（図版43、写真図版46）　調査区北端より検出された。T字にSD01とSD03が合流する。

・SD01：東西方向に流れる溝で、N85°Eに方位をとり、幅60㎝・深さ50㎝を測り箱掘り状の溝である。A断面で確認した底面の標高は58.9m、ブロック状の堆積から人為的に埋められた可能性が考えられ、更に、断面からは掘り返しが行われたことが伺える。この溝は４西区のSD01と同一で、４西区側に流れていたと考えられる。またこの断ち割りでは南側に下がる谷部の肩が確認できた。埋土の下層からは282～285の土器が出土した。上層では浅い溝が残りスキ溝と同時期に機能していたと考えられる。

・SD03：SD01と合流する溝である。幅2.7m・深さ30㎝を測る。この溝は３東区SD04と同一の溝である。

SD02（図版38）　調査区中央を東西に走る溝である。N80°Wに方位をとり、幅約50㎝・深さ20㎝を測る。スキ溝群と切り合い新しい。

スキ溝群（図版38・43、写真図版46）　調査区北半を中心に鋤もしくは犂による溝（スキ溝）が検出された。スキ溝は計17本、うち16本は調査区の北半にある。これらの溝は概ね幅25～40㎝、深さ10㎝前後を測るもので、断面形状は浅いU字形である。畑の畝間の溝と考えられる。これらの溝はその方位から２種に分類できる。

① スキ溝１～４：これらの溝は概ねN９°Wに方位をもつもので、SB01と重複し新しい。また、スキ溝９～11もまた同様の方位をもつもので、緩やかに蛇行している。溝の両端が溝１～４と９・10・11で揃っていることから別単位の畑であったと考えられる。

② スキ溝５・６・12～16・17：これらの溝は概ねN12°E～17°Eに方位をもつものである。
このうち溝５・６は溝１・２と切り合い古い。

何れの溝からも図示できる遺物は出土していない。

大畦畔跡（図版38）　遺構検出面より上層から検出された調査区西壁沿いに南北に走る幅0.7～1.0mの畦畔基部である。方位をN７°Eにとり、各地区において検出され、現況の土地区画に残る条里型地割とほぼ同一の方位を示している。調査区北壁より約11m南側に西側への分枝がある。層序から中世後半と考えられる。

３．津万４東区の調査

調査区の概要（図版44、写真図版47）

津万４東区は、東端部に南北に走る現有水路のため二分されている。また、調査区の北半では二面にわたって遺構面を調査したが、上面と下面との比高差はわずかである。下面では溝や小柱穴が検出されたのみである。４西区の南東部で検出された谷状地形の湿地部が続き、下層の遺構面はあるものの、津万３区や４西区など北西部で検出されたような弥生時代から古墳時代の集落址は検出されなかった。北西部から続く溝SD10などからは同時期の遺物が検出されているものの、古墳時代以前にはまだ安定した微高地が形成されていなかったのであろう。

遺　構

掘立柱建物址

SB01（図版45、写真図版48）　中央の柱穴を欠くものの４×４間の総柱建物が復元できる。また、中央北のP58が浅いことから、３×２間の側柱建物の東西南の３面に縁庇の付いた建物であった可能性もある。

南北は12mで、柱間は3.0m、南辺のみ柱間2.5m。東西は10mで、柱間は2.5mを測る。柱穴の直径30cm、深さ40cm程度の大きさである。柱痕の確認できる柱穴が多く、一部の底に根石を入れたものも見られる。P63から須恵器坏（304）が出土している。またP51・52・67等から須恵器椀片が出土している。この建物はほぼ正方位に建てられ、Ｎ２°Ｅ程度振る。

SB03（図版46、写真図版49）　４東区の南西部で検出され、調査区南壁面で確認できた柱穴を含めて２間以上×３間の建物で、柱間は２ｍ等間で、南北４ｍ以上、東西６ｍの規模を持つ。柱穴の直径は40cm、深さは30～40cmを測る。軸方向はＮ８°Ｅ振る。P12などから須恵器糸切り平高台片が出土している。

SB02・04（図版46・47、写真図版50）　４東区の南東部で検出された。調査区の南側や東側の現有水路下に広がる可能性があるが、２棟の建物を復元した。できるだけ大きな建物を復元するように努めたところ、３×４間の南北棟SB04と、その中に入るような１×３間の東西棟SB02が復元できた。

SB04の柱間は東西2.0m、南北は2.4m。柱穴の規模は直径20～40cm、深さ25～50cm。P06・33から土師器小皿（307）や須恵器の椀（308）が出土している。

SB02の柱間は東西2.0m、南北は2.8m。柱穴の規模は30～40cm、深さ20～40cm。P03から須恵器の椀や鉢（305・306）が出土している。周辺のP02からは須恵器椀（309）が出土している。

SB05・06（図版48）　４東区の東部で検出された。調査区の南側や東側に広がる可能性がある。

SB05は２×２間の側柱建物で、南北2.2m、東西2.0mの柱間をもつ。柱穴の大きさは直径25～40cm、深さは20～50cmの規模がある。集石土坑SK04に接して、同じ幅をもつ。P08・09・74・75からは図化できなかったが、土師器の皿片や煮炊具片、須恵器椀・鉢片が出土している。

SB06はSB05と重複しており、１×２間以上の建物を復元したが、南北2.4m、東西2.0～2.2mの柱間をもつ。柱穴の直径は30～40cm、深さは40cm程度あるが、東端の柱穴は浅い。P72から土師器鍋破片が出土している。

土坑

SK03（図版49、写真図版51）　東の区画でSB05・06内部に検出された。縦横１ｍ内外の概ね方形を呈し、深さは10cm以下である。須恵器小片が出土している。

SK04（図版48、写真図版51）　現有水路の東側で検出されたいわゆる集石土坑である。水路下や南側にも広がることから全容は知り得ないが、東西４ｍ以上、南北３ｍ以上の隅丸方形の平面形を持ち、深さ20cm程度である。水路の西側には規模の異なる不整円形のSK01が検出されたが、両者の関係は不明である。集石は部分的であり、南東部は塊石が多く、中央北半部や北西部にも集中部が見られる。意図的な配置は認められない。313～316の土器が出土している。

SK05（図版49）　SK03の西、SB05内で検出された。96×40cmの長円形を呈し、深さは30cmを測る。

SK06（図版49）　SB04の北側に接するように検出された。底の安定しない不定形な土坑で、スキ溝と思われる細い溝につながる。埋土はSK03・05に近く、スキ溝とも類似する。

溝

SD01（図版44）　４東区の南西部で南北に11.5mにわたって走る溝で、南側は調査区外へと伸びる。幅70cm、深さ10cmの規模を持つ。他の南北方向の溝と同様、スキ溝などの耕作痕と考えているが、300・301の比較的大きな土器片が出土している。

SD10（図版49、写真図版51）　北西方向から南東方向へと走る溝で、幅1.3～1.7m、深さ13～23cmを測る。途中でSD11が南西方向へ直角に分岐するが、SD10はその部分から北西側が幅60cmと規模を減じる。ま

た、南東部では併走する溝SD15も検出されている。SD10は隣の４中央区では検出されなかったが、延長上にSD03から分岐する溝が走っている。その間は低湿地部である。また、南東部では５東区のSD18が延長線上に検出されている。SD10からは302・303の土器が出土している。

SD11（図版49、写真図版51）　SD10の途中から南西方向に直角に分岐する。幅1.0m、深さは17cmで、分岐以北のSD10に近い。４中央区では検出されなかった。

SD15（図版49）　SD15はSB02のある南端から一旦途切れて、SB01近くで再び検出された細く浅い溝（幅60cm、深さ５cm）で、SD10と並行して走る。埋土もSD10に近い。

SD17（図版49）　４東区北端部で東西に走る溝を検出した。幅60cm、深さ40cmの箱堀状を呈する。４中央区で検出されたSD03の延長部に当たる。

第４節　津万５区の調査

津万５区は南北方向の農道を挟み東側の５東区と５西区から構成されている。

１．津万５西区の調査

調査区の概要（図版50、写真図版52・53）

津万５西区は非常に狭い三角形の調査区であり、しかも間に水路が設けられていたため２区に分けて調査を行った。調査に際して、水路や周辺の水田から水が浸み出してきたことから、十分な遺構検出ができなかった。周辺の調査区における微地形から見ても５西区は低湿地に当たり、顕著な生活遺構は存在しにくい位置に当たる。

調査の結果、５西区の北西端部と南東端部では柱穴状の遺構が確認され、中央部には浅く広い落ち込みが検出された。その他、不定型な落ち込みや掘削しても明瞭な柱穴とならなかったものが多い。かろうじて柱根の痕跡が検出された柱穴は北西部に多く、近接する調査区の状況に符合する。

南東部で検出された東西方向の溝状遺構SD01は、東に接する５東区で検出されたSD03に続くものであろう。地区全体からの出土遺物量も少ない。

２．津万５東区の調査

調査区の概要（図版51・52、写真図版54・55）

津万５東区は確認調査の結果、南東部にかけて広い範囲で低湿地状の落ち込みが検出された。本発掘調査でもかなりの範囲で低湿地状の広がりが認められ、柱穴等の遺構もほとんど検出されなかった。長期間居住に適しない地形であることが判明した。そのため水田等に利用されていたことが想定できることから畦畔の検出に努めたが、平面的には全く判別できず、断面でも確認できなかった。

古墳時代以前の遺構は北側から続くと思われる溝の他は全く検出されなかった。また、中世以降の遺構もこの５東区の南東部には広がらず、５西区で判明したように西側でも一旦途切れている。中世の集落の南の境界部にあたるものと考えられる。

遺　構

掘立柱建物址

SB01（図版53・55、写真図版56・57）　５東区の西端で検出した主軸をＮ10°Ｅに振る４×４間＋北側に庇縁１間（10.0×7.8m）をもつ建物で、柱間は1.8～2.0m、中央部が2.9mと大きく、当初は中央で南北の２棟に分離して復元していた。集石土坑SK02埋没後に構築している。柱穴は直径25～50cm、平均で30cm

を測り、深さも25～50cmと差があるが、比較的深いものが多い。柱穴内には石が入れられており、建物廃絶時の行為を示している。特に西側の列で顕著に見られる。

建物を構成する柱穴P01・07・34・35・37から土師器鍋（324）、土師器皿（325・329）、須恵器椀（326・327）、須恵器鉢（328）が出土している。

建物の南東隅に収まるように集石土坑SK02が検出されたが、土坑埋没後に柱穴を穿っている。また、建物の南東部外に沿うように木棺墓SK03が検出された。これらの遺構は主軸方位を揃えており、前後関係があるものでお互いを意識して構築されている。

SB02（図版54・56・62、写真図版56・58・70）　5東区北半の中央部で数棟の建物が重なるように復元できた。SB02は6間（11.6m）×4間（8.0m）で、ほぼ正方位を持つ。SX01を切って作られている。柱穴の直径は25～30cm、深さは15～30cm程度である。建物を構成する柱穴P46・56・72・77・94・147から土師器皿・鍋・須恵器椀など（330～342）が出土している。

SB03（図版58、写真図版56・59）　5東区北半東寄りで復元された掘立柱建物で、3×2間（6.3×4.3m）で、北にもう1間分延びる可能性がある。主軸をN4°Eに置く。柱穴の直径は25～40cm、深さは20～60cmを測るが、西側の柱穴は直径20cm、深さ20cmと小さいことから、庇縁の可能性がある。P105から土師器小皿（343）、P131からは土師器皿（346～359）、P117からは土師器杯（344）、須恵器椀（345）、P128から土師器皿（360）が出土している。

SB04（図版54・57、写真図版56・58）　SB02と重複して復元できた2×4間(4.8×8.6m）の建物で、N2°Eに主軸を持つ。柱穴の直径は30～40cm。深さは20～40cmを測る。南東部はSX01に切られているようである。P67からは土師器皿（361）や東播系須恵器鉢（362）、P111からは東播系須恵器鉢（363）が出土している。

SB05（図版54・57、写真図版56・58）　同じくSB02と重複して復元できた3×3間（8.6×7.0m）の建物で、N3°Wに主軸を振る。柱穴の直径は30～70cm、深さは15～35cmを測る。P49から土師器皿（364・365）、P61からは須恵器鉢（366）、P81からは土師器鍋（367）、P95からは土師器皿（368）、P176からは土師器皿（369）、P177からは須恵器椀（370）が出土している。

SB06（図版58、写真図版60）　SB03の南側で東西方向に6カ所の柱穴が並び、その中央部から北側に1間分展開して建物を復元した。1×2間の建物に柵列がとりつく形となる。この地点以南では建物等の遺構が減少することから、門としての機能が考えられる。建物の主軸はN14°E傾く。柵列の柱間は2.4～2.3m。柱穴の平均的な直径は25cm、深さは40cmを測る。建物の北東隅の柱穴P119と、その南側の建物内に掘られた柱穴P120からは多くの須恵器椀や土師器皿などの土器（371～383）が出土しており、地鎮などの祭祀的な埋納と思われる。

この他、5東区南西部でも柱穴が並ぶことを確認しているが、各々の柱穴が浅い上、出土遺物もなく、他のものと埋土も異なることから、掘立柱建物を構成するものではないと判断した。

土坑

SX01（図版60、写真図版64・70）　SB02・04・05と重複して検出された集石土坑で、5東区を東西に横切るSD01と繋がり、すぐ西側で南東へ分岐する溝が検出されている。二段に掘られており、上段部は北西方向の空く三角形状の掘り込みで、下段部に集石が配されている。集石は二ヵ所に集中しており、一つはSD01から続く位置にSD01よりも幅を広げて土坑内へ斜めに落ちるように配されている。もう一方はSD01の正面に直交方向に直線的に配されており、3段程度に積み上げられた石垣状となる。450～455の

土師器・須恵器が出土している。

SK02（図版62、写真図版65）　掘立柱建物址SB01の内部南東隅で検出された集石土坑で、掘立柱建物の柱穴が土坑肩部や埋土を切っていることからこの土坑が先行する。南北3.9m、東西2.55mの平面形が隅丸長方形を呈しており、深さは30cmと南側がやや深くなる。板状を呈した川原石は南半に集中するが、埋土中に浮いた状態で検出された。北東隅部では角礫も含む小振りの石が集中しており、北西部に完形の須恵器椀（401）が斜面底から出土し、北東部からは土師器（414～427）や須恵器（402～413）などが破片の状態で出土している。

SK03（木棺墓）（図版59、写真図版61～63）　５東区の西端、掘立柱建物址SB01の南東、軒下に沿うように検出された木棺墓で、箱形の木棺が納められていた。墓壙掘方は南北1.94m、東西89cmの楕円形を呈しており、深さは31cmを測る。木棺は南北1.44m、東西40cm、深さ23cmの長方形を呈しており、棺の痕跡は上面で土が分離して明瞭に検出できたが、側板・小口板はほとんど残存していなかった。底板のみが約10cmの厚みで残存していた。両小口部には底板から数cmの位置に北側では中央部に１カ所、南側では２カ所、５cm程の太さの杭状のものが立っていた。長さはあまり長くない。小口板を押さえるための杭かもしれない。そうであるなら小口板を側板が挟み込む型式の木棺が復元できる。この木棺からは鉄釘は出土していない。

北小口に接するように光沢のある膜状の黒色物質が検出された。北側板に接するように出土したのは現状で径18cmの黒漆を塗布した椀状の容器で、裏面の一部には赤色の漆も見られる。但し上下方向に押しつぶされており、その直径は広がっていることから、口径12cmほどの通有の漆器椀が副葬されていたものと考える。底の部分に見られる赤色の漆は文様なのか下地の色なのかは不明である。

その南東からやや斜めに広がる黒漆製品は、南半部が16cmほどの長さの帯状を呈して、その上に広がる形状から黒漆塗りの烏帽子と推測される。烏帽子の北の棺底近くから歯が数本出土しており、この部分が頭位であることからも、烏帽子を装着して、北枕で埋葬されたものと思われる。烏帽子全体の形状は不明である。布の痕跡も確認されていない。

さらに木棺の中央部東側板に接するように長さ25cmほどの細長い鉄製品の痕跡を検出し取り上げたが、本体はすでに消滅していた。おそらく短刀等が納められていたのであろう。その横、木棺の中央部から南にかけて黒漆をかけたような製品が25×15cmの範囲で広がる。漆皮などではなく烏帽子同様の膜状のもので、製品名は不明である。一部、有機質の残存が良好なことや、金属製品の残存が不良なことから、埋葬後の早い段階で内部が水没していた可能性がある。埋土中から糸切り底部を持つ須恵器椀の破片（428）が出土している。

烏帽子状の漆製品が出土した中世墓は、兵庫県内では神戸市北区の上小名田遺跡第16次調査のＳＴ01や多可郡多可町中区の思い出遺跡第７区のＳＸ-１があり、両者とも小刀を保有している。烏帽子・刀ともに成人男性の持ち物と考えられ、被葬者の性別、年齢を知る手がかりとなる。また、たつの市の宮脇遺跡Ｖ地区土坑墓ＳＫ１からは青磁碗とともに漆製品が出土しており、烏帽子の可能性が高い。

SK04（図版51、写真図版70）　掘立柱建物址SB01の南で検出された。直径85cmほどの浅い土坑で、薄く炭が広がっており、一部地面が焼けていた。

SK06（図版62、写真図版66）　掘立柱建物址SB02・ＳＢ04・ＳＢ05の北西で検出された集石土坑で、2.0×1.8mの倒卵形の平面をもつ。深さ28cmの比較的底の平らな土坑で、大きなもので一辺が65cmある亜角礫や円礫・角礫が底から重なるように投入されていた。意図的な配置は観取できない。土師器煮炊具

(429・430) が出土している。

SK10（図版61、写真図版67）　掘立柱建物址SB02・04・05の南西で検出された集石土坑である。4.7×3.7mの平面形が楕円形を成す、深さ65cmの断面が皿状の土坑で、土坑の底付近に大小の礫が堆積していた。一辺が45cmの一抱えもある角礫や直径30cmの円礫も含まれるが、10cm大の円礫、角礫が主体となる。底付近からの検出であるが敷き並べた状態ではない。土師器皿 (431～433)、土師器鍋 (434)、須恵器椀 (435) が出土している。

SK11（図版61、写真図版67）　SK10に切られる形でSK10から突出するように検出された。直径1.4mの円形の土坑で、深さは45cmある。図化できた遺物はないが、糸切り底部をもつ須恵器片や土師器煮炊具片が出土している。

SK13（図版63）　SB04の南、SD01が分岐する位置でSK21と共に検出された。90×65cmの平面形が楕円形の土坑で、すり鉢状に掘られており深さは40cmを測る。土坑底付近に礫が入れられている。図化できなかったが、糸切り底部の須恵器片が出土している。

SK14（図版61、写真図版68）　5東区北辺中央付近で検出された集石土坑である。直径2.4mほどの不整円形の西側に幅１mほどの突出部が70cm取り付く平面形で、円形部の深さは70cm、突出部の深さは40cmと浅くなるが、埋土は連続性がある。上面から20cm下がった埋土中から大量の石が検出された。礫は一辺が60cmほどの角礫から５cm大の円礫まで様々であるが、突出部とその周辺に巨礫が多く認められ、小円礫は東端部に比較的多く見られる。石を積み上げた様子や敷き並べた様子は観取できなかった。土師器煮炊具 (436～439・441)、須恵器鉢 (440)、陶器甕 (442～444) が出土している。

SK15（図版62、写真図版69）　SK14のすぐ南、掘立柱建物址SB02・05の北東隅に接するように検出された。1.58×1.12mの隅丸長方形の平面形をもち、壁面は比較的直立し、深さは45cmを測る。一段掘り下げると、35cm大の石も混じるが、ほとんどが10cm大の円礫が積み重なるように投入されていた。445が出土している他、須恵器捏鉢片や土師器鍋片が出土している。

SK16・17（図版63、写真図版66）　掘立柱建物址SB02の西、SB04・05の南西隅で南北に並んで検出された。南側のSK16 は直径75×50cmの平面形が楕円形の土坑で、その中に柱穴状に落ち込みがあり、深さが35cmを測る。土師器鍋 (446) が出土している。北側のSK17は直径60cmほどの楕円形の平面をもち、すり鉢状に掘られており深さは30cmを測る。

SK19（図版51、写真図版66）　調査区の南側で検出された直径1.2m、深さ15cmほどの土坑であるが、不明瞭な落ち込みとなる。風倒木かもしれない。縄文土器 (321) が出土しているが混入であろう。

SK21（図版63）　SB04の南、SD01が分岐する位置にSK13と共に検出された。85×75cmの平面形が隅丸長方形を呈する土坑で、底に２ヵ所柱穴状の落ち込みが見られる。

SK22（図版63、写真図版70）　東半部、SD01に接して検出された。1.05×0.73m、深さ10cmの楕円形の平面形をもつ土坑で、土坑底に浅い柱穴状の掘り込みが見られる。埋土上層から塊石が出土している。土師器皿 (447)、須恵器椀 (448・449) が出土している。

SK24（図版63、写真図版70）　SK25の北西に位置する2.0×0.7mの平面形が長円形の土坑で、深さは10cm足らずと浅い。土坑底に炭が堆積しており、埋土にも炭が多く含まれている。須恵器甕や土師器鍋の破片が出土している。

SK25（図版63、写真図版70）　5東区中央東寄りの掘立柱建物址SB06の南、遺構が希薄になる境界付近で検出された。南北1.3m、東西1.5mの平面形が隅丸方形を呈した土坑で、深さは８cmと浅い。東半部に

焼土と炭層が堆積している。土坑SK24・25と炭や焼土が隣接して検出されており、近くに火を使う工房などがあった可能性がある。５東区や６西区からはスラグも出土していることから鍛冶を行っていた可能性がある。

SK26（図版51、写真図版70）　SB06の東で検出された直径75cm、深さ30cmの土坑で、土師器・須恵器片が出土したが図化できなかった。

SK28（図版62、写真図版66）　調査区中央東寄りでSD01に接するように検出された。直径50cm内外の楕円形の浅い土坑で、深さは10cm。５cm大の円礫が充填されていた。

溝

SD01（図版63、写真図版70）　５東区の北半を東西に横切る溝で、幅40cm、深さ10cmの小規模なものである。中央部で集石土坑SX01が設けられており、その西から南東方向へ枝分かれする小溝が走ることから水利施設の可能性が高い。出土遺物はほとんどない。322の土師器甕と456の土錘を図化できた。

SD01の両端部は妙に屈曲している。SD01は並行して走る調査区北際のSD06と15.2mの距離をもち、更に南側のSD04とも15.5mの距離で併走している。

SD02（図版63）　５東区の西端で検出され、SD01に直交している。幅30cm、深さ10cmを測る。SB01の東辺に位置するが、SB01の柱穴を切って掘削されている。

SD03（図版63、写真図版70）　５東区の西半部で検出されたN60°Wとやや斜行する溝で、幅25cm、深さ10cm。延長上には隣接する５西区のSD01がある。

SD04（図版63、写真図版70）　SD03と切り合う溝であるが、先後関係は不明である。幅25cm、深さ５cm。SD01・06に平行して走っておりSD01とは15.5m離れる。

SD06（図版63）　５東区北端部で検出した。SD01に平行して東西方向に走る。現道下に続く溝で、調査区の北壁直下であったため、調査当初に土層観察用および排水用の側溝を掘削したことにより全容は不明。457～460の土師器・須恵器が出土した。

SD18（図版63）　５東区の北東部で検出されたN55°Wの方向に走る溝で、幅1.05m、深さ15cmで8.5mが残されていた。この溝の延長上には４東区のSD10があり、出土遺物（323）は土師器底部で、比較的古いことから、同じ溝であると考えられる。

第５節　津万６区の調査

津万６区は南北方向に通る用水路を隔て東側の６東区（平成22年度調査６Ｅ区）と西側の６西区（平成22年度調査６Ｗ区）から構成されている。

１．津万６西区の調査

調査区の概要（図版64～66、写真図版71～74）

拡張区を加えて南北長約53m・東西最大幅30m、面積1588㎡を測る長方形の調査区である。調査区の全域から小区画の水田遺構を検出した。水田遺構は、周辺に残る現在の地割と同じく、Ｎ４°ＥからN7.5°Ｅを指向しており、１枚の水田規模が10～20㎡と狭小な点が特徴である。水田を被覆する洪水砂からは、平安時代の土器が出土しており、水田が廃絶した時期を示す可能性が高い。

また、上層からは中世の遺物を含む溝SD01が検出されている。調査対象とはならなかったが、平安時代から土地区画を大きく変えずに営まれた、中世後期の水田面が広がっていたと推測される。

拡張区からは、中世の粘土採掘坑群が検出された。径２ｍ前後の円もしくは隅丸方形に掘削し、粘土を採掘したと考えられる。粘土の用途は不明であるが、土器等の製作に使用した可能性が高い。坑中から13世紀後半の須恵器捏鉢が出土している。掘削した土坑の数は100基を超えるが、切り合い、実数は詳らかではない。粘土採掘坑群の東肩は上層の水田区画内に近い範囲で収まっており、上層の畦畔とほぼ同じ部分の掘削を残して掘削している。

遺　構

掘立柱建物址

SB01（図版67、写真図版75）　調査区中央東半において検出した。標高59.1ｍに位置する。一部SD01及び近世用水路痕と重複しており柱穴を失っている。南北方位をＮ27°Ｅにとる掘立建物址である。建物は、桁行と考えられる東西４間の内西２間を総柱建物、東２間については側柱建物であったと考えられる。東２間については柱穴１個を除き内部に柱列が認められないことから土間であったと考えられる。桁行東西４間（5.80ｍ）・梁行南北３間（5.10ｍ）、床面積29.58㎡の規模である。建物の柱間は、桁間は約1.40ｍ・1.50ｍ、梁間は1.50ｍ・1.60ｍ・1.70ｍ・1.80ｍ・1.90ｍで構成されており、歪みをもつ。梁行の中央には更に柱穴があり棟木を支えていた可能性が考えられる。柱穴は小さく円形を基本とし掘方径20㎝、検出できた深さは四隅の柱で40㎝、それ以外は20㎝程度である。柱穴から図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SB02（図版67、写真図版75）　調査区中央において検出した。SE16と重複する。北東の柱穴をSD02によって失っている。標高59.6ｍに位置する。桁行方位をＮ20°Ｅにとる側柱建物である。桁行南北２間（2.75ｍ）・梁行東西１間（1.55ｍ）、床面積4.26㎡の規模である。建物の柱間は、桁間は約1.50ｍ・1.25ｍである。柱穴は小さく径10～15㎝、深さは10～15㎝である。井戸SE16の上屋の可能性がある。柱穴から図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

井戸

SE16（図版67、写真図版75）　SD02によって一部損壊しているが、長軸1.5ｍ以上、短辺1.35ｍ、深さ80㎝を測る卵形の土坑である。軸方位はＮ23°Ｗにとる。断面形状は、上半部が浅い漏斗状になり中位以下は深いＵ字形に掘られている。平面形状も中位以下は隅丸長方形を呈している。土坑底は船底形である。下半部には黄灰色シルト質極細砂が堆積しており素掘り井戸と考えられる。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

粘土採掘坑群とピット群（図版68、写真図版76・77）

調査区西壁際に採掘坑が一部見つかったため、調査区南西隅を（斜行する側溝よりも西側へ）拡張した。今回の調査では、南北約16ｍ×東西約18ｍの範囲で、粘土採掘坑が検出された。径0.8～1.5ｍの円、あるいは長さ２ｍ前後の不整楕円形、長さ２ｍ前後の隅丸方形に掘削し、更に連結させ粘土を採掘したと考えられる。掘削した土坑の数は100基を超えるが、切り合いが多く実数は詳らかではない。粘土採掘坑群の東肩は上層で検出した水田区画内に近い範囲で収まっており、上層において検出した畦畔とほぼ同じ部分を残して掘削している。

採掘対象の粘土は標高58.5ｍ前後にある黒色粘土である。粘土の用途は不明であるが、土器等の製作に使用した可能性が高い。粘土採掘坑８から13世紀後半の須恵器捏鉢（484）が出土している。

・粘土採掘坑１（SK19）（図版69・写真図版77）　標高58.7ｍ前後に位置する。軸方位をＮ80°Ｅにとる長軸1.35ｍ、短軸1.0ｍ、深さ20㎝を測る不整形の土坑である。土坑底は凹凸が激しい。

・粘土採掘坑５（図版68、写真図版77）　複数の採掘坑が重複している。最初に掘削された土坑は標高58.2m前後で検出した。軸方位をN85°Wにとる長軸1.7m、短軸1.3m、深さは最上部から90㎝を測る不整楕円形である。木製品W10と土坑底近くから足場に使われた樹木が出土している。また、W７～W９も重複する土坑内から出土している。

・粘土採掘坑６（SK21）（図版69・写真図版77）　標高58.8m前後に位置する。軸方位をN89°Eにとる長軸90㎝、短軸60㎝、深さ30㎝を測る俵形の土坑である。箱型に掘削し底面は平坦である。図示できる遺物は出土していない。

・粘土採掘坑８（図版68・写真図版77）　調査区南西隅、標高58.5m前後に位置する。軸方位をN80°Eにとる長軸2.4m、幅2.0m、深さ15㎝を測る不整四辺形の土坑である。土坑肩部近くから、底部を穿孔した須恵器捏鉢（484）が出土した。時期は13世紀後半である。

・ピット群（図版68）　粘土採掘坑群の中に掘削を免れた部分（網かけ部）と径50㎝前後のピット19個を検出した。掘削を免れた部分は東西方向（N88°W）に線状に残っており、この部分は上層畦畔とほぼ一致する。このことから上層水田に伴う大畦畔は粘土採掘時には既に存在しており、掘削後に再度構築されたと考えておきたい。また、ピット群についても未掘削部分に近接して並んでいる。粘土採掘時に畦畔に沿って木杭が打ち込まれ、畦畔の保護・足場の機能を果たしていたと考えておきたい。

土坑

SK10（図版69、写真図版78）　粘土採掘坑群の東側に近接する。標高58.9m前後に位置する。軸方位をN53°Wにとる長軸90㎝、短軸60㎝、深さ10㎝を測る不整（勾玉）形の土坑である。断面形状は凹凸が激しい。地山のブロックが混じる褐灰色シルト質極細砂～極細砂が堆積する。性格は不明である。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SK11（図版69、写真図版78）　SK10の東側に隣接する。不整形を呈するが、もとは三角形の土坑と溝が切り合った可能性が高い。溝は軸方位をN35°Wにとる全長1.3m前後、幅25㎝・深さ７㎝、断面形状は浅いU字形であったと考えられる。土坑は軸方位をN12°Eにとる全長1.1m前後、幅1.0m・深さ40㎝、断面形状は逆台形であったと考えられる。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SK12（図版69、写真図版78）　SK11の南側に近接する。標高58.8m前後に位置する。軸方位をN15°Eにとる長軸1.1m、短軸40㎝、深さ25㎝を測る不整形の土坑である。土坑底の一部がくぼむ。図示できる遺物は出土していない。性格・時期は不明である。

SK13（図版69、写真図版78）　SD06と粘土採掘坑群の間にある。標高58.9m前後に位置する。長軸1.6m、短軸1.25m、深さ30㎝を測る楕円形の土坑である。断面形状は浅い擂鉢形である。図示できる遺物は出土していない。性格・時期は不明である。

SK14（図版69、写真図版78）　SK12とSK13の間にある。標高58.9m前後に位置する。軸方位をN25°Eにとる長軸1.08m、短軸60㎝、深さ35㎝を測る楕円形の土坑である。断面形状は深い薬研形である。土坑の南端には径15㎝ほどの平石がある。図示できる遺物はなく、性格・時期は不明である。

SK17（図版69、写真図版78）　SB01の西側、SE16とSK11の間にある。標高59.0m前後に位置する。軸方位をN24°Eにとる長軸1.7m、短軸1.1m、深さ25㎝を測る不整楕円形の土坑である。断面形状は浅い鍋底形。下層には地山ブロックを含む。図示できる遺物はなく性格・時期は不明である。

溝

SD02（図版70、写真図版80）　調査区中央を北東から南西に走る溝である。SD01よりも古くSE16と切

り合い新しい。方位をN60°Eにとり、南西端はSD15と近接する。標高59.0m前後に位置し、幅35cm、深さ10cmで17.5mが残されていた。溝は浅いU字形を呈し、溝底の標高は南西端に向いてやや低い。溝の下半には地山ブロックを含む。図示できる遺物は出土していない。性格・時期は不明である。

SD06（図版70、写真図版79）　調査区南東半で検出した。SD01と近接する。標高59.0m前後に位置する。軸方位をN３°Eにとり、全長4.1m、幅55cm、深さ７cmを測る。断面形状は非常に浅い皿形。埋土には粗砂・細礫のほか地山ブロックを含む。SD06の北側で、延長にあたる部分に点々と凹凸が検出されている。SD06の延長の可能性がある。図示できる遺物は出土していない。性格・時期は不明である。

SD15（図版70、写真図版80）　調査区中央を南東から北西に走る溝である。方位をN52°Wにとり、北西端はSD02と近接する。標高58.9m前後に位置し、幅35cm、深さ15cmで約10m分が検出された。溝は浅いU字形を呈し、溝底の標高は南西端に向いてやや低い。溝の下半には地山ブロックを含む。図示できる遺物は出土していない。性格・時期は不明である。

水田遺構

・下層水田遺構（図版64・66、写真図版74）

調査区北半を中心に水田区画を検出した。後述する上層水田と異なり、水路は伴っていない。調査区北壁の断面を検討した所、上層の水田遺構に伴う大畦畔の下に少なくとも２枚の水田面とそれに伴う大畦畔が確認できる。北壁の10層洪水砂の下層11層を下層水田土壌とした。規模は、幅30～50cmの小畦畔を巡らせ、３～６×５～７m前後の狭小区画が一面に検出されている。区画は正方位に近く、走行をN２°～３°Eにとり、検出した水田区画の標高は58.9～58.8mである。粘土採掘坑群はその範囲が北側・東側では平面形がカクカクと階段状になっており、採掘時の水田区画の形によって採掘範囲を決定したと考えられる。水田の構築時期はあきらかではないが、粘土採掘坑群に先行する13世紀代以前には水田が広がっていたと考えられる。

・上層水田遺構と溝SD01（図版70～72、写真図版79）

・SD01　調査区東端を南北に走る溝である。幅60～80cm、Ｖ字～Ｕ字に近い断面形状をもつ。ほぼ床土直下の標高59.0m前後から検出されており、北壁の４層黒褐色～灰褐色砂を埋土としている。この溝は調査区の南半で一旦途切れ、また、南へと続く。注目すべきは、東側に幅１m前後の畦畔が取りついていることで、断面を検討すると溝の西側にも畦畔が取りついていた可能性が高く、南北に走る用水路として機能していたと考えられる。SD01の東隣には近現代に機能した用水路の痕跡が残っており、現在の水路と合わせ長期間用水路として現地にあったことが判明した。溝は走行をN7.5°Eにとり、方位からもSD01は両肩の畦畔とともに現況の土地区画に残る条里型地割とほぼ同一の方位を示している。溝内からは中世前期の須恵器小皿（478）・須恵器椀（479）及び律令期の壺（480）が出土している。

・上層水田遺構　SD01が伴う水田遺構については詳らかではない。但し、図版70に示した網掛けの部分の畦畔については先述した粘土採掘坑が埋没した後、中世後半以降に造られており、SD01と同時期に機能していた可能性が高い。東西方向の２本は幅11.5mの間隔を空けN80°Wの方向に走っている。

２．津万６東区の調査

調査区の概要（図版73・74、写真図版81・82）

６西区と用水路を挟んで東側に位置している。南北長40m・東西最大幅13m、面積375㎡を測る変形六角形の調査区である。微高地上に立地している。弥生時代の竪穴住居址２棟（SH08・09）、溝５条、掘立柱建物址２棟、土坑１基、調査区の北端では水田遺構を検出した。

遺　構

竪穴住居址

SH08（図版75、写真図版83・85）　調査区中央東半において検出した。東側の一部は調査範囲外にある円形もしくは五角形と考えられる竪穴住居址である。一部が調査区外へ広がるため全容は不明であるが、円形の場合、径8.2m、五角形の場合一辺5.8m前後と考えられる。また北西の辺に幅30cm・深さ数cmの周壁溝が認められる。主柱穴は４個、円形を呈し、径約25～40cm、深さ28～50cmを測る。柱間の間隔は3.4～3.6mを測る。また床面の中央部は長軸2.25m・短軸1.6mの範囲で達磨形に一段高くなっており、２基の土坑が検出されている。土坑は一〇土坑と呼ばれるもので、一は長軸1.6m・短軸60cm・深さ８cmを測る長楕円形の土坑である。〇は長軸1.0m・短軸0.9m・深さ58cmを測る卵形の土坑である。断面形状は漏斗形、埋土に炭・焼土を含んでいる。出土遺物は埋土から土師器甕（498）、主柱穴Ｐ24からは土師器高杯（500）が出土している。

SH09（図版76、写真図版83・84）　調査区南半西壁周辺で検出した。東辺をＮ６°Ｗにとる平面形が隅丸方形を成す竪穴住居址である。一部が６西区において検出され、間の大半が用水路下部分にあり全容は不明である。東辺は4.75m、北辺は5.2m、東西最大幅は約5.4mを測る。６東区側では東辺と南辺の床面に幅50cm前後の高床部があり、15cm前後の段差が確認できる。また、南辺では壁溝と考えられる幅20cm・深さ12cmの溝が検出されている。６西区側では、北西のコーナーの外側約1.7mの所に幅８cm・深さ５cmの溝が検出されている。壁溝の可能性があるが不明である。埋土中から壺底部（499）が出土している。

掘立柱建物址

SB01（図版77、写真図版85）　調査区中央南寄りにおいて検出した。SH08の南西にある。標高59.2mに位置する。桁行方位をＮ６°Ｗにとる掘立柱建物址である。西桁行１間（3.30m）・東桁行２間（3.10m 1.20mと1.90m）、北梁行１間（3.00m）、南梁行１間（3.20m）、床面積7.80㎡の歪みのある建物である。柱穴は円形を基本とし掘方径20～40cm、深さは35～55cmを測る。ほぼ同方位に西側に近接するSD04がある。柱穴から図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SB02（図版73）　調査区北半部にある。東西桁行２間（2.80m）以上・南北梁行１間（2.20m）、桁行方位をＮ70°Ｅにとる掘立柱建物址である。柱穴から図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SA01（柱穴群）（図版73）　SB01とSB02の間にある柱穴群である。Ｎ26°Ｅにとる南北２間（3.50・4.00m）×東西２間（3.80・4.30m）の掘立柱建物跡の可能性があるが、歪みが激しく西側の２間3.50m分をもって柵ＳＡ01ととらえておく。

土坑・溝・水田遺構

SK15（図版77、写真図版85）　SB01の東側に位置する。標高59.3m前後に位置する。軸方位をＮ34°Ｅにとり長軸0.75m、短軸0.5m、深さ30cmを測る隅丸方形の土坑である。断面形状は深いＵ字形である。須恵器杯蓋片（501）が出土している。ＴＫ23～47型式で時期は５世紀後葉である。

SD02（図版77、写真図版86）　住居址SH08と切り合い古い。調査区東壁より出て調査区南壁に抜ける緩やかに弧を描く溝である。標高59.3m前後に位置する。幅約80cm、深さ30cmを測る。断面形状は逆台形から開いたＵ字形である。黒褐色極細砂などが堆積する。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。また、流末についても不明である。

SD03・SD04（図版73・77、写真図版86）　SB01の西側に位置する。SD04は軸方位をＮ６°Ｗにとる。全長1.2m・幅30cm・深さ５cmを測る。また浅い弓形の断面形状である。図示できる遺物は出土していない。

時期は不明である。SD03はSD04の延長上にあり同じ性格、恐らくスキ溝の残欠と考えられる。

水田遺構（図版73・74、写真図版86）　調査区北端より出した。検出した畦畔は幅50㎝前後の中規模のものと、分岐する幅20㎝前後の小規模なものである。軸方位は水田の東肩がN46°Eに、中規模畦畔はN46°Wにとっている。水田遺構に対応する土壌は西壁土層の9層である。この層は中央から南半では4層の上面に対応する。13層は肩部の畦畔である。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

第6節　津万7区の調査

調査区の概要（図版78、写真図版87・88）

南北長約45m・南辺約16m・北辺約5.5m、面積440㎡を測る台形の調査区である。微高地の縁に位置している。遺構は大きく上下2面に分かれ、上層（第1面）は9世紀後半以降、水田遺構を検出している。下層（第2面）は弥生時代後期末・古墳時代後期から奈良時代の主に溝とそれに伴う遺物を検出している。

下層の遺構

溝

SD16（図版79・80、写真図版89）　調査区東壁から出て緩やかに蛇行しながら南流する溝である。標高59.1m前後に位置する。幅2.9m、深さ95㎝を測る。断面形状はV形に近い部分もあるが、土層断面から数度の掘り換えが認められ、逆台形を呈する部分もある。8区に延び（8区SD03）、弥生後期末の土器・須恵器（502～564）が出土している。炭化物を底部に含む部分があり、上層では土器群が見られる。

SD18（図版80、写真図版89・90）　調査区の北北東から南南西に流れる溝である。標高58.9m前後に位置する。幅2.0m・深さ30㎝～幅2.7m・深さ50㎝を測る。断面形状は逆台形である。SD21と切り合い新しい。土師器高杯脚柱部（565）が出土しており、上層から須恵器杯（568～572）、須恵器高台杯（573）、須恵器壺（574）が出土している。古墳時代後期から奈良時代に機能したと考えられる。

SD20（図版80、写真図版90）　調査区東壁沿いに走る溝である。SD24と切り合い古い。全体に粗砂・礫を含む。幅1.0～0.7m、深さ30㎝を測る。凹凸があり複数回の掘り直しが認められる。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SD21（図版80、写真図版89・90）　調査区の北東から南西（N24°E）に流れる溝である。SD18と切り合い古い。標高59.0m前後に位置する。幅3.5m、深さ1.2mを測る。断面形状は逆台形に近く、底面は平らである。土層断面から数度の掘り換えが認められる。最上層には多く遺物を包含しており、土器群Aを検出、567が出土している。時期は弥生時代後期末と考えられる。

SD22（図版80、写真図版91）　調査区の南南西、N24°Wに走向をとる小規模な溝である。流末の状態は攪乱され詳らかではない。幅70㎝・深さ15㎝を測る。図示できる遺物はなく、時期は不明である。

SD24（図版78）　調査区の東端、SD20と切り合い新しい。SD22と並行するN24°Wに走る小規模な溝である。標高59.1m前後に位置する。全長7.0m、幅60㎝、深さ10㎝を測る溝である。断面形状は丸形である。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

上層の遺構

調査区北壁から出現し、緩やかに西側にカーブして西壁南端付近で調査区外に出るSD12・19、水田畦畔及びSD12の凹部に沿って造られた畦畔14が遺構の大半を占める。

土坑

SK10（図版79、写真図版89）　調査区南半から検出された炭・焼土を含む円形の土坑である。標高59.0m前後に位置する。径1.0m・深さ60㎝、断面形状はバケツ形である。水平な埋土をＵ字形に掘り込んでいる。上面には焼土混じりの炭が薄く円形に広がっている。図示できる遺物はなく、時期は不明である。

SK15（図版79、写真図版89）　SK10の南側で検出された。SD23と切り合い新しい。標高59.2m前後に位置する。長軸2.75m、短軸1.75m、深さ12㎝、軸方位をＮ24°Ｗにもつ不整な長楕円形の土坑である。断面形状は極く浅い皿形である。にぶい黄褐色極細砂が堆積する。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

溝・水田遺構

SD12（図版79）　下層のSD18とほぼ同じ部分を流れる上層の遺構である。幅1.0m・深さ15㎝を測る。土層断面は丸底、径20㎝前後の石が溝底に張り付く。灰黄褐色極細砂が堆積する。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。SD12の両岸には幅40～50㎝ほどの畦畔が取りついており、辺５～６ｍほどの区画を造り出していた。

畦畔14・SD11（図版79、写真図版89・91）　SD11とほぼ同一の部分に畦畔14が敷設されている。畦畔は調査区北壁から出現し緩やかにカーブして南南西に走る。畦畔は下半（基部）を検出しており、幅0.9～1.10m・深さ20㎝を測る。上面には長軸70㎝・短軸40㎝を測る楕円形の凹み（波板状凹凸面）が並んでいる。その間隔は50㎝前後が最も多く、40㎝～1.0m前後に収まる。

SD13（図版79、写真図版89）　調査区北西隅からカーブして西壁に消える溝である。標高58.9m前後に位置する。幅1.1m・深さ20㎝を測る。断面形状は浅い弓形である。黒褐色シルトが堆積する。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SD19（図版79）　SD12・畦畔と切り合い、先行すると考えられる。軸方位をＮ18°Ｅに取り、幅65㎝・深さ10㎝を測る。灰黄褐色極細砂が堆積する。図示できる遺物は出土していない。時期は不明である。

SD23（図版79）　SK15と切り合い古い。全長4.5m・幅45㎝・深さ４㎝を測る。軸方位はＮ７°Ｅ、８区SX02の流れ出しと同一線上にある。図示できる遺物はなく、時期は不明である。

第７節　津万８区の調査

調査区の概要（図版81、写真図版87・91）

南北幅17.5m、東西延長21.7m、西側に張り出したホームベース形の調査区である。面積は255㎡を測る。本調査区は当初、確認調査結果から設定が計画されていなかったが、７区より延びる溝SD16が当該部分に延伸する可能性が高くなったため、８区として設定された。

７区より延びる溝SD03（７区ではSD16）に加え、12世紀の池状遺構SX02、土坑SX01を検出した。

遺　構

池状遺構

SX02（図版81、写真図版92）　調査区西半において検出した。長軸をＮ80°Ｗにとる楕円形の大型土坑である。長軸は8.0m、南北短軸は6.5m、深さ1.1mを測る。土坑には南へ流れ出す幅２ｍの溝が取り付いている。溝は７区SD23とほぼ同じＮ７°Ｅで、同一線上にある。土坑の断面形状の一部は２段もしくは３段になっており、擂鉢状の部分もある。中央部は不整な長楕円形に掘り窪められている。

遺構は現況では湧水点に達し常に満水となっており、埋土の下半は砂混じりの黒褐色もしくは暗褐色腐

植質シルトからなっており、一部にはグライ化の様相も見られた。この様な状況に加え、祭祀具・墨書土器（601・604）の出土を見たことから、本遺構を池もしくは水溜めと判断している。

堆積土中からは土師器小皿（582～584）・皿（585）・椀（586～590）・鍋（591）、須恵器小皿（592～596）・椀（597～607）・捏鉢（608）、箸・折敷・曲物・木札状木製品・つけ木など多量の木製品（W11～W48）が出土している。須恵器椀の底部に『井』と墨書する（601）がある。これらの遺物から遺構の時期は12世紀頃と考えられる。

土坑

SX01（図版81、写真図版92）　調査区中央において検出した。長軸をN24° Wにとる菱形に近い不整楕円形の土坑である。長軸は2.5m、短軸は1.5m、深さ15cmを測る。断面形状は浅い皿形。暗褐色シルト混じり細砂質中砂が堆積する。土坑内から須恵器椀（610）が出土している。

溝

SD03（図版81、写真図版92）　調査区東端において検出した。７区SD16の延長にあたる。溝は蛇行しており、流末は、現代の水田造成の段差によって消失している。弥生土器壺（576～578）、鉢（579・580）、蓋（581）が出土している。

第８節　遺　物

１．土　器

津万地区からはほぼ同一の遺構面から、縄文時代・弥生時代中期・弥生時代後期から古墳時代初頭・古墳時代後期・奈良時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代の土器が出土している。

以下、津万３西区からはじめて、地区ごとに時代順に報告する。

津万３西区の土器（図版82～85、写真図版93～99）

・SH01出土土器　１～14は３西区の円形竪穴住居址SH01出土の土器である。また、15はSH01の南にこの円形住居址に沿うように走るSX13から出土している。

広口壺（１・２）はなで肩の体部に頸部を繋いでおり、口頸部は短く外反して、端部は丸く或いは少し外方向に摘まんで成形する。胴部から頸部外面は縦方向のハケで仕上げ、口縁端部はヨコナデで仕上げる。内面にはユビオサエが残り、ハケからナデ調整。やや肩の張る３は、縦方向のハケで仕上げた肩部にはヘラによる波状の曲線を描いている。４～７は直口壺で、４は胴部最大径の位置で分割成形しており、内面下半は縦方向のハケ、上半から頸部は粘土継ぎ目やユビオサエをそのまま残しており、口縁部内外面はヨコナデで仕上げる。外面は縦方向のヘラミガキを頸部と胴部上半・下半に分けて仕上げている。下半部はハケが残る。５～７の口頸部外面は縦方向のハケ。

８は高杯の杯部で、屈曲してわずかに外反する口縁部が短く立ち上がる。内外面をヘラミガキで仕上げる。13・14は椀状の杯部をもつ高杯で、脚柱部から緩やかに屈曲して広がる脚端部へと続く。13の杯部は口縁直下がヨコナデで窪み、外面はハケからナデで丁寧に仕上げ、内面に暗文風のヘラミガキ、口縁部はヨコナデで仕上げる。脚端部の水平に開く位置に三方の円形透かし。脚内面には絞り痕に板ナデが残る。14は浅い杯部で、外面は縦方向のハケからヨコナデ、内面は縦方向のヘラミガキ。脚柱部は中実で、内面は板ナデを施す。

９～11は甕で、９は最大径を上半にもち、くの字状に屈曲させて直線的に口縁部を広げる。平底から外

面は一部横方向のタタキを残してハケからナデで仕上げ。内面はユビオサエを残して底と頸部に横方向の板ナデ、胴部は縦方向の強いナデで仕上げている。外面の一部に煤状のものが付着している。

12は鉢で、円筒状の底部から内湾して立ち上がり、口縁部は粘土を付加して肥厚させ上内面に面を作る。外面は縦方向のハケ、外面頸部から内面胴部は横方向のハケが残る。口縁部はヨコナデで仕上げる。

・SX13出土土器　15は、壺胴部で、外面はハケ。内面下半に縦方向のヘラケズリ状の強いナデ上げ。上半は粘土継ぎ目やユビオサエを残して、斜め方向の強いナデ。頸部内面は横方向のハケが残る。

・SB02（P18）出土土器　SB02を構成するP18 出土の16は、小型の壺で、肩部から頸部を繋いで短く曲げて口縁部を作る。端部は上に面をもち沈線状に窪む。

・SD3001出土土器　水田下層溝SD3001は東隣の３中央区のSD01に続く溝と考えられ、出土の底部（17）は３中央区SD01出土の137～148と同時代のものであろう。

・P01出土土器　18は土師器椀である。器高は低く、底径は口径の１／２に近い。右回転の糸切りが施された平底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がる。口縁端部は外反する。内面には粘土ひもの巻き上げ痕が顕著に残る。

・SK01出土土器　19は手捏ね整形の土師器皿である。口縁部は肥厚し、端部は角頭である。口縁部はヨコナデを施す。器壁が厚い製品である。

・SK04出土土器　20は京都系土師器小皿である。口縁部はやや内湾する。内面には左回りのナデ上げを施している。21は須恵器皿である。体部は内湾し、口縁部は外反し端部は丸く収める。高台を伴っていた可能性が高い。

・SK06・07出土土器　22は土師器鍋である。口縁部は頸部から直立し、口縁端部は断面三角形に摘まみ出され、上部に面をもつ。最大腹径は体部中位にある。内面はユビナデ調整。上層水田の肩部出土破片と接合する。兵庫津編年甕形タイプⅡ類に相当する。14世紀前半と考えられる。23は土師器鍋である。口縁部は若干外傾し、口縁端部は断面三角形に摘まみ出される。内面には同心円のあて具痕が残る。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅡ～Ⅲ類に相当する。14世紀前半から中頃と考えられる。

・SK13出土土器　24は丹波焼擂鉢である。一本引きの擂目を施す。擂目の分割が形骸化しており、16世紀前半と考えられる。

・SK16出土土器　25は手捏ね整形の土師器小皿である。ユビオサエの後ヨコナデによって整形している。口縁端部は肥厚し丸く収めている。26は丹波焼の壺もしくは甕の底部である。

・SD11出土土器　27・28は須恵器小皿である。何れも右回転の糸切りが施されている。27は全体に器壁が厚く、口縁端部は肥厚し丸く収めている。28は口縁部が外方に立ち上がり、端部は外反する。器壁は27に比べやや薄い。

・下層水田出土土器　29～32は下層水田から出土した。29は重ね焼き痕が明瞭な須恵器杯Ｂの蓋である。平坦な天井部から緩やかに屈曲して外縁部に至る。口縁端部は丸みを帯びた断面三角形である。時期は８世紀後半～９世紀前葉。30は須恵器杯Ａである。重ね焼き痕が認められる。31は須恵器皿。口縁部は短く外方に立ち上がり、丸く収めた口縁端部の直下内面に段が巡る。底部はヘラ切りのちナデ調整。時期は８世紀後半～９世紀前葉。外面に火だすきが認められる。大伏窯など黒田庄町内の窯の生産品に類例がある。丹波国に特徴的な遺物である。32は白磁玉縁口縁碗Ⅳ類である。12世紀代と考えられる。

・中層水田出土土器　33～46は中層水田出土土器である。33は重ね焼き痕が明瞭な須恵器蓋である。平坦な天井部から屈曲して外縁部に至る。天井部は回転ヘラ切り未調整。口縁端部は外側に面を持ち、断

面は三角形である。全体に厚みをもつ。稜碗の蓋か。時期は８世紀後半～９世紀前葉と考えられる。34は重ね焼き痕が明瞭な須恵器蓋である。稜碗の蓋か。平坦な天井部から屈曲して外縁部に至る。天井部は回転ヘラケズリを施す。口縁端部は外側に面を持ち、断面は丸み帯びる。時期は８世紀後半～９世紀前葉と考えられる。内面には墨痕がある。転用硯である。35は重ね焼き痕が明瞭な小径の須恵器蓋である。平坦な天井部から斜めに下り外縁部に至る。天井部は回転ヘラ切り未調整。時期は８世紀後半～９世紀前葉と考えられる。36は須恵器杯底部片。回転ヘラ切り後（板）ナデを不定方向に施す。丸く墨痕がある。37は須恵器杯底部片。杯Ｂの底部外面を逆位で転用硯として利用したものか。墨痕がある。38は須恵器杯Ａ。杯部は外方へ開く。底部外面は回転ヘラ切りを施す。39は須恵器杯Ｂ底部である。高台は低く、杯身との境付近に貼り付けられている。貼付痕が明瞭な個体である。10世紀代か。40は須恵器小皿である。底部は回転糸切り。口縁部は内湾気味に立ち上がっている。中世前期か。41は須恵器小椀である。底部は回転ヘラ切りを施し、切り離し後未調整で若干突出する。体部は丸みを帯びて立ち上がり口縁端部は心持ち外反する。内面見込みは窪む。11世紀代か。42は須恵器椀底部である。高台部は回転糸切りを施し、やや突出する。内面見込みは窪む。11世紀代か。43は須恵器椀底部である。底部は、ケズリ出し高台によって突出する。底部外面は回転糸切りを施す。側面は回転ヘラケズリによってやや外側に踏ん張った形状にケズリ出されている。体部は外方に直線的に開き、ロクロ目が顕著である。見込みは深く窪む。11世紀代か。44は須恵器椀底部である。平底で、底部と体部の境は丸く、径４㎝ほどが接地面である。対して口径は16㎝以上を測る。体部は外方に真っ直ぐ開いている。13世紀代か。接合片の一部は上層水田被覆層からも出土している。45は丹波焼擂鉢と考えられる。口縁端部は上部に面を持ち、一本引きの擂目を施す。46は白磁玉縁口縁碗Ⅳ類の破片である。12世紀代と考えられる。

・中層水田肩部出土土器　47・48は中層水田の肩部から出土した。47は須恵器捏鉢である。口縁部は外方に拡張し、外側に面を持つ。端部は丸みを帯びた角頭を呈する。兵庫津編年Ｃ－２類、14世紀前半か。48は肩部礫層から出土した。大型の須恵器鉢である。内面にヘラ描き文が刻まれている。口縁端部の形状から12世紀前半と考えられる。

・上層水田出土土器　49～56は上層水田出土土器である。49は須恵器椀底部である。底部は、ケズリ出し高台によって突出する。底部外面は回転糸切りを施す。側面は回転ヘラケズリによってケズリ出されている。見込みは深く窪む。11世紀代か。50は須恵器椀底部である。高台部は回転糸切りを施し、突出する。内面見込みは窪む。11世紀代か。体部下半は緩やかに内湾し、上半は直線的に外方へ開く。外面にロクロ目が顕著である。43に比べ底部径は小さい。底部外面に粘土片が付着している。51は須恵器椀である。底部と体部の境は丸く、径６㎝ほどが接地面である。右回転の糸切りが施されている。体部は外方に直線的に開き、端部は肥厚し、丸く収める。器高が口径の１／３以下の低い製品である。52は須恵器捏鉢である。口縁端部は上方に若干摘み上げられ、外傾する面をもつ。内面には段をもつ。兵庫津Ｂ類、12世紀後半代と考えられる。53は須恵器捏鉢である。口縁端部は上方に若干摘み上げられ、外側に若干拡張し外傾する面をもつ。内面には段をもつ。兵庫津Ｃ２類、14世紀前半代と考えられる。54は須恵器捏鉢である。口縁端部は外側に拡張し外傾する面をもつ。内面は段をもたず、断面形状は三角形を呈する。兵庫津Ｄ類、14世紀前半代と考えられる。55は丹波焼擂鉢である。口縁部は直口し、外側に面を持ち、一本引きの擂目を施す。長谷川編年擂鉢Ｃ、15世紀後半代と考えられる。56は龍泉窯青磁鎬蓮弁文碗である。大宰府編年Ⅱ類、13世紀代と考えられる。

・上層水田被覆土出土土器　57～64は上層水田を被覆する洪水砂から出土した。57は須恵器蓋片である。

平坦な天井部は回転ナデを施す。内面には墨痕があり転用硯と考えられる。58・59は須恵器小皿である。58は口縁部が外方に立ち上がり端部は若干外反する。器壁は59に比べやや薄い。底部外面は右回転のケズリが施されている。59は全体に器壁が厚く、口縁端部は丸く収めている。右回転の糸切りが施されている。60は須恵器椀底部である。高台部は回転糸切りを施し、やや突出する。体部は外方に直線的に開く。内面見込みは窪む。11世紀代か。底部径は6.5cmと大きい。61は須恵器椀底部である。高台部は回転糸切りを施し、底部は突出する。体部は外方に直線的に開き、見込みは深く窪む。11世紀代か。底部径は60より若干小さい。62は須恵器捏鉢である。口縁端部は上方に拡張し、外側に面をもつ。内面は窪む。兵庫津Ｃ１類、13世紀後半～14世紀前半代と考えられる。63は須恵器捏鉢である。口縁端部は上方に拡張し、外側に面をもつ。内面は窪む。兵庫津Ｂ３類、14世紀代と考えられる。64は須恵器捏鉢下半である。底部と体部の境は丸く、径5.5cmほどが接地面である。回転糸切りが施されている。体部は外方にやや内湾気味に開く。外面には墨痕が認められる。

・微高地包含層出土土器　65～69は微高地包含層出土土器である。65は須恵器皿・杯・椀何れかの口縁部である。低く外方に開き、口縁端部を丸く収める。古代後半～中世の時期である。66は無釉陶器鍋である。口縁部は直口して立ち上がり、端部は丸く収める。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅢ類に相当する。14世紀後半と考えられる。67は土師器羽釜である。口縁部は内傾し、端部直下に短い鍔が付く。兵庫津編年羽釜タイプＢ系列ⅡＡ類に相当する。14世紀後半と考えられる。68は丸瓦片である。丸瓦狭端・玉縁付近の破片である。69は白磁輪花皿である。６弁輪花と考えられ、花弁間が凹み白胎を施している。太宰府編年Ⅺ－５類、12世紀前半に生産され、近畿圏では12世紀後半に流通する高級品である。

・その他の出土土器　70は須恵器小皿である。右回転の糸切りが施された厚い円板状の底部に短い断面三角形の口縁部が付く。口縁部は外側を面取りし、端部は短い三角形である。71は須恵器蓋である。平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し水平に伸びる。端部は短く折り曲げられ、外側に面を持つ。内面は平滑で墨痕が若干残る。転用硯であったと考えられる。72は美濃窯製施釉陶器丸椀である。青磁細蓮弁文碗を模倣し、外面に剣様の蓮弁文が描かれている。器壁は厚く、口縁端部は丸く収める。大窯１前半 丸碗Ａ類　生産は15世紀前半～16世紀初頭（流通　16世紀前半）の時期である。

津万３中央区の土器（図版86～91、写真図版99～110）

・SH02出土土器　方形竪穴住居址SH02から73～92の土器が出土している。また同住居址の中央土坑SK24からは93、主柱穴P77からは94・95が出土している。

壺（73）は口縁部の上端部を摘まみ上げて二重口縁状に側面を作り、肩部外面は縦方向ハケから横方向ヘラミガキ、内面は粗いナデ、口縁部は内面ヘラミガキから内外をヨコナデで仕上げている。開いたのち稜を作って屈曲し、立ち上がる二重口縁をもつ74・75のうち、75は大きく開いた後、下方への突出した稜をもって口縁部を外反させる。稜の下は内外縦方向のヘラミガキ。口縁部内外面は横方向のヘラミガキで仕上げている。

甕では、拡張した口縁部に凹線を巡らせ、肩部外面にタタキ、内面にヘラケズリを施す76、くの字状に開き肩部外面にタタキ後、ハケで仕上げ、内面にヘラケズリを施す77～79が出土した。78・79は口縁部がわずかに内湾気味となり、端部内側を尖らせる。80は小型丸底壺様の器形であるが、成形・調整が他の甕と同様に外面は粗いタタキからハケ状の板ナデ、内面はヘラケズリで仕上げ、外面下部に煤が付着することから甕とした。口縁部内面は横ハケ、外面はタタキを残してヨコナデで仕上げる。平底気味の底部には焼成後の穿孔が見られる。

81～83は小型丸底壺で、81は底部外面の一部にヘラケズリを施し、ヨコナデで仕上げている。82は外面をハケで調整し、内面下方は縦方向、頸部下は横方向のヘラケズリを施し、ナデで仕上げる。83は外面に平行タタキを残してナデで仕上げ、内面はケズリ状の強いナデで調整する。

84は尖底の有孔鉢で、外面は平行タタキから縦方向のヘラケズリ、口縁部周辺はナデで仕上げる。内面は強いナデ。85は小型丸底鉢で、口縁端部はヨコナデで面を作る。外面下半にはヘラケズリ、内面底にも板の痕跡を残してケズリを施している。口縁部はヨコナデ、胴部はナデで仕上げる。86は葉脈痕を残した平底の鉢で、内面には板ナデを残してナデで仕上げている。

87・88は高杯。87は杯部で、円盤状の杯底から稜をもって内湾気味に大きく広がる口縁部へ続く。口縁部はヨコナデ、他はナデ仕上げか。88は直線的に広がる脚部で四方に円形の透かしを持つ。上側面には杯部の剥がれた痕跡が残る。内外面ナデ仕上げ。

89～92は底部で、平底のものや脚台を有するものがある。

・SK24出土土器　SH02中央土坑SK24からは93の土器が出土している。小型高杯の中実脚部で内外ハケの後、ナデ調整をおこなうが、仕上がりは粗い。

・P77出土土器　SH02の主柱穴のP77からは、上端部をつまみ出した壺口縁部（94）と、底面に葉脈痕の残る円柱状の平底底部（95）が出土している。

・SH01出土土器　SH01からは96～98の土器が出土している。

96は小型の平底鉢で、粘土紐の痕跡を残して、内面は強くナデ上げている。97・98は底部で、98の底面には葉脈痕が残り、外面には平行タタキからハケが当たる。

・SH03出土土器　SH03からは99～103の土器が出土している。

99は外反した壺口縁部で、肩部外面にはハケ、内面はヘラケズリ調整し、口縁部はハケの後、ヨコナデで仕上げる。100は椀状の鉢で、平底を保つ底部外面には不定方向のヘラケズリ、内面は板ナデを施し、ナデで仕上げる。外面には黒斑が残る。

101・102は高杯である。杯部底からわずかに稜をもって広がる口縁の端部は緩やかに外反する。101の外面には縦方向のハケが残り、口縁端部内面には横方向のハケを残してヨコナデで仕上げる。脚部は斜めに広がる脚柱部から屈曲して大きく開く脚端部へ続く。脚柱部下に円孔を３ヵ所穿ち、外面はナデ仕上げ、内面は脚柱部がヘラケズリ、端部にはハケが残る。杯部底周辺の器壁が荒れており、特殊な使われ方をされたのかもしれない。102の杯部はナデによって丁寧に仕上げている。

103はSH03上面の後世の土坑SK13から出土しているが、SH03に属するものとして取り扱った。把手である。断面は長方形を呈する。

・SH04・05出土土器　SH04・05からは、SH05の中央土坑であるSK08出土のものを含めて104～111の土器が出土している。

104は壺上半部。球形の胴部から短く屈曲して口頸部が開き、端部は上下に少し拡張して四角く収める。胴部外面には横方向の平行タタキの後、縦方向のハケ。内面には横方向のヘラケズリを施している。

105・106は壺下半部。平底の底部から大きく広がる体部へと続く。105は最大径を上半部に持つ。104・106は中程になる。外面はハケからヘラミガキとナデ、内面はヘラケズリ後、ハケやナデで仕上げる。

107は上げ底から真っ直ぐに広がる直口鉢。内外ハケからナデ仕上げ。108・109は底部で、108は小型で脚台部となる。

・SK08出土土器　SH05の中央土坑SK08からは110・111の土器が出土している。

110は肩部から短く屈曲して広がる壺の口縁部である。端部は上下に拡張して凹線文を施す。111の底部の外面はタタキからハケ。内面は強く粗くナデ上げている。

・SX02出土土器　112～114の土器が出土している。112の鉢は丸みのある平底から内湾して立ち上がり、口縁端部は外反させる。外面にはユビオサエが残り、ナデで仕上げる。113は平底の底部で、上端部はヨコナデが巡ることから鉢であろう。ナデで仕上げる。114は小型の高杯脚部で、直線的に広がった後、短く屈曲する脚端部へと至る。内面には横ハケ状のナデで仕上げる。杯部へは挿入して接合する。

・SX04出土土器　115～131の土器が出土している。115～118は外面に粗い平行タタキを残した甕で、内面は板ナデや粗いハケで仕上げる。118は外面にもハケが見られる。屈曲して短く広がる口縁部には、端部に沈線を巡らせるもの（116）、上端を摘まみ上げるもの（117）がある。外面に煤、内面にコゲが付着し、一部が赤化したもの（118）がある。小さな底部の119も外面にタタキ、内面は板ナデで仕上げる。

120～122は壺口縁部と考える。120は大きく外反後、屈曲して短く立ち上がる口縁部へ続く。内外に細かい横方向のヘラミガキを施して仕上げる。121は端部を上方に摘まみ上げて、受け口状になる。122は稜をもって立ち上がる二重口縁部で、ヨコナデで仕上げる。内面に黒斑が見られる。

123は器台で、大きく開いた後、屈曲して短く立ち上がる口縁部、脚柱部から大きく開く脚部へと続く。外面には縦方向のハケ後、横方向の細く短いヘラミガキを粗く施す。内面の杯部は多方向のヘラミガキ、脚内面は横方向のハケが残る。口縁端部はヨコナデで仕上げる。

124～128は高杯と考えるが、杯部のみのものは別器種の可能性がある。124は内湾気味に広がる杯部から屈曲して口縁部へと続く。外面は横方向のヘラミガキ、内面は放射暗紋風のヘラミガキを当て、ヨコナデで仕上げる。125は低く開く脚部に椀状の杯部をもつ。杯部外面は板ナデ後、細かいヘラミガキか。内面はナデやヘラミガキで丁寧に仕上げる。内面底周辺の器表面が荒れている。脚部は内面の一部にヘラケズリ、外面はナデやヘラミガキで仕上げている。126は杯部外面の中程に段がつく。内外赤色顔料塗布か。127の内面は板ナデで仕上げるが、128では外面はナデからヘラミガキ、内面は横方向のハケから縦方向のヘラミガキで仕上げている。

129～131は平底の底部である。129の内面は強くナデ上げている。131外面は縦横方向のヘラケズリが残る。

・SB05出土土器　SB05内P32からは132が、同じくSB05内P33からは133が出土している。

132は甕口縁部で短く外反する。133は製塩土器である。薄く手捏ねで作られており、タタキの痕跡は見られない。二次的に火化している。丸底のタイプと思われる。

その他の柱穴から出土した古墳時代以前の土器には以下のものがある。

・P68出土土器　P68からは134が出土している。133と同様の製塩土器である。タタキの痕跡は見られない。二次的に火化している。

・P136出土土器　壺口縁部（135）が出土している。

・P64出土土器　須恵器杯身（136）が出土している。TK47型式並行期（５世紀後葉）のものである。

・SD01出土土器　SD01からは137～148の土器が出土している。土師器壺（137）は頸部から大きく外反して上下を拡張した口縁端部に至る。端面には櫛描き波状文を描く。壺（138）は直立気味の頸部から外反させて口縁端部は上方に摘まみ出す。外面にはタタキが残り、頸部はハケ調整する。139は大きく外反する壺口縁部で、四角く収めた端部には２条の沈線を入れる。140～141は甕口縁部。140は外面に平行タタキを残し、内面は板ナデか。141は口縁端部を斜めに尖らせて凹線を入れる。外面はタタキ後、ハケで

調整し、内面は強い縦方向の板ナデで仕上げる。142の甕底部外面にはタタキが、内面にはハケが残り、底面にもタタキが見られる。143の細い平底には焼成前の穿孔が穿たれている。外面はタタキ、内面は強いナデ上げ。144は大型の鉢で、外面はハケ、内面はハケと板ナデが観察できる。145は直口鉢。平底で外面にはタタキが残る。146は台付鉢と思われる。鉢内面はハケで調整する。二次的な火化はない。

147は水平口縁高杯で、口縁端部を失う。口縁内の突帯は四角い。杯部外面にはヘラケズリ状の痕跡が見られる。内外面は強いヘラミガキで仕上げる。148は器台脚部で、直線的に広がる脚の端部は内外に肥厚させて下面を作る。外面には幅広の凹線を３条巡らせ、その上部は強いナデで仕上げる。内面は横方向のヘラケズリを施す。

・SD17出土土器　SD17からは149～152の土器が出土している。149は大型直口壺の口頸部で、頸部から内湾しながら直立する口縁部の端部は内側に突出させて上に面を作る。口縁部直下に４条、頸部に３条以上の幅広の凹線を施す。全体はヨコナデで仕上げている。甕（150）は屈曲して水平近くまで開く口縁の端部を上方に摘まみ上げ内外はハケ調整をおこなう。口頸部はヨコナデで仕上げる。151は台付鉢と思われ、短い脚台部が付く。脚端部は不調整。152の平底底部には焼成前の穿孔が施される。

・SD13出土土器　SD13からは153～156の土器が出土している。

153・154は椀形の土師器で、二次的に火を受けて赤化している。丸底の製塩土器の可能性がある。155・156は古墳時代後期の須恵器杯身で、ＴＫ23・ＴＫ47並行期（５世紀後葉）のものである。

・包含層出土土器　包含層から古墳時代以前の土器（157～159）が出土した。157は上層のＳＫ01から出土しており、下層或いは周辺からの混入と思われる。土師器甕で、肩部外面にはタタキ、内面にはヘラケズリが見られる。口縁部内面は横ハケ状のナデで仕上げる。158は製塩土器で、灰色に硬く焼成されている。外面にはタタキが残りナデで仕上げる。内面はヘラケズリか。二次的な火化は見られない。159は古墳時代後期の須恵器杯身で、ＭＴ15並行期（５世紀末から６世紀初頭）のものである。

・SK01出土土器　160・161はＳＫ01から出土した。160は無釉陶器鍋である。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、肥厚し、端部は丸みを帯びる。最大腹径は中位にある。内面には横ハケ調整を施す。兵庫津編年Ⅱ類に相当する。14世紀前半と考えられる。161は土師器鍋である。口縁部はほぼ直立し、端部は外側に拡張し、稜をもつ。最大腹径は中位にある。内面のあて具痕はナデ消されている。兵庫津播丹型編年甕タイプⅣ類に相当する。15世紀前半～中頃と考えられる。

・SK02出土土器　162はロクロ土師器小皿である。回転糸切りを行い、口縁部は外方に開き、端部は丸く収める。中世後期か。

・SK07出土土器　163～165は ＳＫ07から出土した煮炊具である。163は口縁部が頸部から直立し、端部は屈曲して水平に伸びる。最大腹径は体部中位にある。外面には煤が付着する。内面には板ナデ調整を施す。兵庫津編年播丹型甕タイプⅠ類に相当する。13世紀後半と考えられる。164は口縁部がほぼ直立し、端部は外側に拡張し、上部に面をもつ。内面は板ナデ調整である。兵庫津編年播丹型甕タイプⅣ類に相当する。15世紀前半～中頃と考えられる。165は無釉陶器の羽釜である。筒形に近い体部に短い断面三角形の鍔が貼り付く。内面の口縁部と体部の境は凹部をもつ。内面のあて具痕はナデ消されている。兵庫津編年羽釜タイプ播磨型Ｂ系列ＩＢ類に相当する。15世紀代と考えられる。

・SK20出土土器　166～171はＳＫ20（木棺墓）から出土した。166～168はロクロ土師器小皿である。166は右回転糸切りの後、底部外面に板ナデ調整を施す。口縁部は短く外方に伸びる。167・168は右回転糸切りを施す。口縁部は短く外方に伸び、166に比べ器壁が薄く、端部は尖る。169は合子型の土師器小壺

である。口縁部は短く立ち上がり部分的に端部が若干外反する。体部は最大径が中位にある。底部は回転糸切りを行い、殆ど突出しない。口径と底径はほぼ同じ。最大径（腹径）は器高の1.5倍の法量を測り、全体に扁平な形状である。貿易陶磁の合子あるいは古瀬戸茶入れに近似する形態である。170は景徳鎮製青白磁合子身である。体部には28弁の面取りがあり、露胎の底部外面には『□家合子□』の陽刻がある。12世紀後半と考えられる。171は白磁端反り口縁碗の破片である。太宰府編年Ⅴ-４ｂ類、12世紀後半の時期である。

・SK21出土土器　172は手捏ね整形土師器小皿である。底部は平たく、口縁部は低く斜め外方へ延びる。器壁は厚く、端部は丸く収める。

・SK26出土土器　173は土師器鍋である。口縁部は直立し、端部は外側に拡張し、断面三角形となって外側に稜、上部に面をもつ。内面は横ハケの後ナデ調整を施す。兵庫津編年甕タイプⅡ類に相当する。14世紀前半と考えられる。

・SK27出土土器　174～177が出土した。174は当初Ｐ70とした部分から出土している。須恵器椀である。底部を欠く。体部は心持ち内湾して外方へ開く。端部は肥厚する。175は須恵器小皿である。底部は心持ち突出し、右回りの回転糸切りを施す。口縁部は外方に開き、口縁端部は肥厚する。底部と口縁部の境は強いヨコナデによって凹部をもつ。口縁端部には重ね焼き痕が認められる。176は須恵器椀である。底部は右回転糸切りを施し、若干突出する。体部は外方に直線的に開き、口縁端部付近で紡錘形に肥厚する。内面見込みは若干窪む。底径は口径の４割ほどの大きさである。11世紀代か。外面はロクロ目が目立つ。177は須恵器椀である。底部と体部の境は丸く、径4.5㎝ほどが接地面である。右回転の糸切りの後板状工具によって調整されている。体部は外方に内湾気味に開き、口縁端部は肥厚し丸く収める。器高が口径の１／３以下の低い製品である。口縁端部には重ね焼き痕が認められる。

・SB06に伴う柱穴出土土器　178はＰ63より出土した。手捏ね整形土師器小皿である。底部はやや丸く、口縁部は低く斜め外方へ延びる。179はＰ28より出土した。手捏ね成形土師器椀である。丸みを帯びた器形をもつ。底部には板目状圧痕が残る。底部・体部は内湾し、口縁部は肥厚し紡錘形の断面形状となっている。体部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。180はＰ103から出土した。体部は斜め上方に開く。口縁部は肥厚する。兵庫津編年鍋形タイプ鉄かぶと形Ⅰ類に相当する。15世紀前半と考えられる。

・その他の柱穴出土土器　181はＰ06から出土した手捏ね整形土師器小皿である。形状は楕円形、底部から口縁まで丸みを帯びる。端部は若干肥厚する。中世後期か。182はＰ47から出土した手捏ね成形土師器小皿である。ユビオサエ整形後ナデ調整を施す。底部は平底、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。183は口縁部が短く、外反し、端部は外側に拡張する。退化した鍔が口頸部境にある。兵庫津編年羽釜形タイプ播磨型ＡⅡ類に相当する。16世紀中葉～後半と考えられる。185はＰ38から出土した高台をもつ須恵器皿と考えられる。体部・口縁部は外方に開き、口縁端部は水平に拡張する。９世紀代か。ロクロは左回転である。

・SX03出土土器　184は土師器鍋である。口縁部は外傾気味に直立し、端部は外側に拡張し、断面三角形となって外側に稜、上部に外傾する面をもつ。内面はヨコハケの後ナデ調整を施す。兵庫津編年播丹型甕タイプⅡ類に相当する。14世紀前半と考えられる。

・包含層出土土器　186は手捏ね整形の土師器小皿である。丸底、口縁部は整形が不充分に行われており波打つ。187は土師器羽釜である。口縁部は内傾し、端部直下に上面が水平となる短い三角形の鍔が付く。兵庫津編年羽釜タイプＡ系列ＩＣ類に相当する。15世紀後半～16世紀初頭と考えられる。188は土師器羽

釜である。口縁部は内傾し、端部直下に上面が水平となる短い三角形の鍔が付く。187に比べ鍔は退化している。兵庫津編年羽釜タイプＡ系列ＩＣ類に相当する。15世紀後半～16世紀初頭と考えられる。189は須恵器小皿である。底部は心持ち突出し、右回りの回転糸切りを施す。口縁部は外方に立ち上がり、口縁端部は肥厚し、外側に面をもつ。全体に厚手の造りである。190は須恵器小皿である。底部は平底、右回りの回転糸切りを施す。口縁部は内湾気味に外方に立ち上がり、端部は丸く収める。191はSH04・SX01周辺から出土した。須恵器椀である。口縁部に重ね焼き痕が認められる。

津万３東区の土器（図版92、写真図版111・112）

・SD04出土土器　SD04からは192～199の土器が出土している。SD04は３中央区のSD01から続く溝で、南下して４中央区のSD01・03に続くものと思われる。

192～194は土師器壺口縁部である。192は短く屈曲し、口縁端部を上下に拡張する。外面は平行タタキを残して、縦方向のハケとヨコナデで仕上げる。内面は肩部にヘラケズリ、口縁部はヨコナデで仕上げる。193は口縁端部に３条の凹線を巡らせ、上面はヘラミガキで仕上げる。194は直立気味に外反する口縁で、端部は下方に拡張する。頸部外面にハケを残してヨコナデを施す。

195は鉢で、内湾する体部から緩やかに外反する口縁部へと続く。外面にはヘラミガキが施され、ヨコナデで仕上げる。196～199は平底の底部で、199には焼成前の穿孔がある。

・SK03出土土器　200は口縁部が頸部から直立し、端部は屈曲し外傾している。外面には煤が付着する。内面には板ナデ調整を施す。兵庫津編年播丹型甕タイプＩ類に相当する。13世紀後半と考えられる。201は口縁部が頸部から直立し、端部は屈曲している。最大腹径は体部中位にある。外面には煤が付着する。内面には板ナデ調整を施す。兵庫津編年播丹型甕タイプＩ類に相当する。13世紀後半と考えられる。202は無釉陶器鍋口頸部である。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、端部は外傾し面をもつ。兵庫津播丹型甕タイプＶ類　15世紀後半～16世紀初頭頃と考えられる。

・SD01出土土器　203は土師器鍋である。口縁部がほぼ直立し、端部は外側に拡張し、上部に面をもつ。内面は板ナデ調整である。口縁部から外面には煤が付着している。兵庫津編年播丹型甕タイプⅣ類～Ｖ類に相当する。15世紀前半～中頃と考えられる。204は土師器羽釜である。口縁部は鍔部分から上に短く立ち上がり、鍔は短く角頭である。体部は筒形に近く張りに乏しい。兵庫津羽釜タイプＢ系列ＩＢ類に相当する。15世紀中頃と考えられる。205は須恵器捏鉢である。体部は外方に直線的に開き、端部は外側と上面に面をもつ。兵庫津編年Ｃ３類に相当する。14世紀前半と考えられる。

・包含層（SD04）出土土器　206はSD04から出土した焼成が堅緻な土師器小皿である。SD04自体は弥生時代後期の溝であるため包含層出土とした。底部は平坦で、右回転の回転糸切りを施す。体部は若干内湾気味に立ち上がり口縁部は外反し、端部は水平に伸びる。灯明皿に使用されている。

津万４西区の土器（図版93～96、写真図版113～118）

・SH01出土土器　SH01からは207～229の土師器が出土している。また、SH01床面検出のP17からは230、P07からは231の土師器高杯が出土している。同じくP21からは232が出土している。P49からは234が出土している。P66からは233が出土している。同じくSH01床面検出のSK16からは235～240の土器が出土している。

207は広口壺口縁部。端部を上下に拡張して擬凹線を巡らせる。頸部内外ヘラミガキからヨコナデ仕上げ。208は広口壺口縁部。大きく外反して開いた口縁の端部は上方向に拡張する。内外横方向のヘラミガキ。内外に黒色物質付着。209は口縁部が稜をもって立ち上がる二重口縁壺。内外をヘラミガキからヨコ

ナデで仕上げる。210は小型丸底壺。頸部から一旦開き、稜をもって外反気味に立ち上がる口縁部。内外ヘラミガキからナデで仕上げる。211はなで肩から短く屈曲して開く口縁部をもつ甕。頸部以下、右上がりの平行タタキ。一部に不整円形状にタタキが消えており、無文のタタキやあて具で修正した可能性もある。内面は斜め方向の強いナデ。外面に煤が付着。212はなで肩からあまり開かない短い口縁部の甕。外面には右上がりの平行タタキが残り、口縁部はヨコナデ仕上げ。内面は横方向の強いナデ或いはハケ。213は手捏ねの椀状の鉢で、平底気味であるが、調整はない。内面全体が黒斑。

214～220は平底の底部破片。外面にタタキと一部そのナデ消し、内面はハケ或いはハケ状の強いナデで成形・調整している。216はタタキが残らず、強くナデ上げている。円筒状のもの（214）、底部外面から貫通しない穿孔があるもの（217）、底部外面に葉脈痕が残るもの（216・220）がある。黒斑があるもの（218・219）、内面に黒色物質の付着が見られるもの（217）もある。221は高杯杯部で、一旦開き、緩い稜をもって外反する口縁部に至る。外面には細かいヘラミガキ、内面もヘラミガキ仕上げを行う。222の杯部は直線的に開いた後、屈曲して外反気味に立ち上がる口縁部へと続く。内外に細かいヘラミガキによる仕上げ。脚部は短く開き、外面は横方向のヘラミガキ、内面はナデで仕上げる。223は短く開く脚台部で、外面は横方向のヘラミガキ、脚内面はヨコナデからナデで仕上げる。杯部内面にはヘラミガキが残る。224は大きく内湾気味に広がる高杯杯部と内湾気味に開く脚部。杯部外面は縦方向のハケの後、横方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキからナデ仕上げ。脚柱部はヘラミガキ、脚部外面は横方向のヘラミガキ、脚内面は横方向のハケ状ナデ。225は器台。肉厚の脚柱部から外反気味に開き、端部は上方に拡張する。脚部は大きく内湾気味に開く。杯部内外斜め方向のヘラミガキ、端部はヨコナデ仕上げ。脚柱部縦方向のヘラミガキ、脚部横方向のヘラミガキ、内面板ナデ。226は外面を横方向のヘラミガキで仕上げる。脚内面は板ナデか。227・228は山陰型甑の破片であろう。227は直径４㎝ほどの把手が外れた痕跡を残す。外面は平行タタキの後、ハケ或いは板ナデで仕上げ、篦や櫛様の工具で不整な波状文を施す。内面は粘土継ぎ目やユビオサエを残してヘラケズリからナデで仕上げる。把手は粘土を付加して取り付ける。228は両端を欠くが把手である。両者の胎土・焼成は類似する。他に外傾する厚みのある下端部片も出土している。229は土製勾玉。胴膨れの形状で、頭部尾部の大きさの差はあまりなく、尾の先はやや尖る。

・P17出土土器　230は高杯杯部で、外反して大きく開く。ナデで仕上げる。

・P07出土土器　231は脚部で、短く開き、杯部は内湾する。杯部・脚部外面は斜め方向のヘラミガキ、脚柱部は横方向のヘラミガキで仕上げる。脚部内面はハケが残る。

・P21出土土器　232はあまり屈曲しない甕上半部である。内外面には板ナデを施し、内面頸部には強く板ナデを施している。口縁部外面はヨコナデ。

・P66出土土器　233は脚台部でユビオサエが外面に残る。杯部内面にはハケ、脚部内面はナデで仕上げる。外面に黒斑。内面にモミ圧痕が見られる。

・P49出土土器　234は椀状高杯。内湾する杯部に、短く直線的に伸びる脚台部が付く。外面や脚部内面は粘土継ぎ目や工具痕を残してナデで仕上げる。一部ヘラミガキか。杯部内面はヘラミガキが当たる。

・SK16出土土器　235は直立する短い口縁部をもつ短頸壺で、口頸部外面にはヨコナデによる凹部が巡る。体部はタタキから板ナデ、内面は縦方向のナデ調整を行う。240も短頸壺か。

236～238は平行タタキで成形し、内面を強くハケやナデで調整する甕である。237はやや上げ底の平底で、葉脈痕が残る。最大径はほぼ中央にあるが、あまり張らない肩部から緩やかに外反する口縁部へと続く。外面は右上がりの平行タタキで、中央部には縦方向のハケが当たる。内面は横方向の粗いハケで調整

する。外面は一部火化しており、煤が付着する。238は口頸部を左上がりのタタキで成形し、ヨコナデで仕上げる。内面は横方向のハケ。煤が付着する。

239は台付鉢で、ユビオサエを残した低い脚台の付いた椀状の杯部をもつ。外面には平行タタキからナデ、内面には放射方向ナデが観察できる。

・SD01出土土器　SD01からは241～253の土器が出土している。その内241～248はSH01の上層から出土したものであり、SH01から混入した可能性が高い。241は壺口縁部の外面に稜があり、二重口縁状に作る。外面には右上がりの粗い平行タタキに一部ヘラミガキやナデを当て、内面はハケ状のナデを施す。242・243の外面はナデ仕上げ、内面頸部以下はヘラケズリを施す。甕（244）は外面タタキから下半部は板ナデを施す。内面下半は板ナデ。245は直立する短い口頸部を有す短頸壺。体部外面は横方向のハケ目の後、修正のヘラケズリを一部当て、ヘラミガキで仕上げる。頸部にはタタキの痕跡が残る。内面はハケ調整か。246・247は山陰型甑の一部と考える。SH01からも同器種が出土する。246は断面円形の把手。直径2.7㎝の湾曲した把手で、端から1.5㎝の位置に接合粘土があり、端面にもハケが残ることから、本体の厚みが1.5㎝であることがわかる。接合粘土にはヘラナデが見られる。247は裾部の破片で、外面はハケからナデ仕上げ、内面には縦横のヘラケズリが施されている。内面と下面が黒斑となり、地面に伏せた状態で焼成したものであろう。248は須恵器坏身で、ＴＫ23・ＴＫ47並行期のものである。

249は土師器甕で、くの字に屈曲させ、直線的に広がる口縁部をもつ。外面はユビオサエを残して縦方向ハケからヨコナデで仕上げる。内面の頸部下はヘラケズリ、口縁部はハケの後ヨコナデで整える。250は甘く外反する口頸部で、外面は縦方向のハケ、内面の肩部下半はヘラケズリ、上半は板ナデを施す。251は高杯脚部で、緩やかに外反する。外面の上半は縦方向ハケ、端部はヨコナデで仕上げる。内面はハケの後、ナデ仕上げを行う。252は須恵器有蓋高杯で、台形状の三方透かしをもつ脚部は、稜をもってまっすぐ立つ端部へと続く。ＴＫ23・ＴＫ47並行期のものである。

中世の集石土坑SK01からは土師器（253）が出土しており、下層の溝SD01から混入したものであろう。253は小型丸底鉢の器形を有すが、口径は20㎝を越える。内湾する体部から外反後、稜をもって立ち上がる口縁部へと続く。内外面とも細かいヘラミガキを施す。

・SH02出土土器　254～259の土器が出土している。254・255は外面を縦方向のハケで仕上げ、内面の頸部下にヘラケズリを当てる甕で、頸部をくの字に強く屈曲させるものや、立ち上がって後、外反させるものがある。254には煤が付着する。256は外面にナデ、内面にはユビオサエを残し、口縁部をヨコナデで仕上げている。257は広口壺口縁部で、外反して大きく開いた後、少し受け口状に内湾する。258は口縁部端面に細かい櫛描波状文を施した器台と思われる。水平に近く広がり、口縁部上端を付加して端面を作っている。外面はハケからナデ仕上げ。内面はヘラミガキを施す。259は水平に開いた後、稜をもって斜め上方に外反する口縁部の高杯で、内外面をヨコナデからヘラミガキで仕上げる。

・SK10出土土器　260が出土している。260は台付甕で、外面はナデ仕上げ。内面は下半が縦方向、上半が横方向のハケで調整している。脚部外面は砂粒が動くほどの強いハケ。底面にも工具痕が見られる。

・P57出土土器　P57からは261が出土している。261は低い上げ底の脚台部で、脚部外面は縦方向にヘラミガキ後、ナデ仕上げ。内底面にはヘラミガキが残る。底面にもヘラが当たる。

・SB01に伴う柱穴出土土器　262はＰ12から出土した土師器羽釜である。内湾する口縁部に内傾する拡張した口縁端部が付く。水平よりやや下がり気味の長方形の鍔を持つ。兵庫津羽釜タイプＢⅠ類に相当し14世紀前半と考えられる。263はＰ25から出土した手捏ね整形の土師器小皿である。底部は凹凸が顕著、口

縁部にも歪みが認められる。口縁部は内湾して立ち上がり、底部との境は強いナデにより窪む。

・その他の柱穴出土土器　264はＰ58から出土した土師器鍋である。口縁部は外傾気味に直立し、端部は外側に拡張し、断面三角形となって外側に稜、上部に外傾する面をもつ。内面はヨコハケの後ナデ調整を施す。兵庫津編年甕形タイプⅡ類に相当する。14世紀前半と考えられる。

・SK01出土土器　265は土師器鍋口縁部が頸部から直立し、端部は屈曲して外方へ水平に伸びる。内面にはナデ調整を施す。兵庫津編年甕形タイプⅢ類に相当する。14世紀後半と考えられる。266は土師器羽釜である。若干内傾する口縁部に短く水平に張り出す長方形の鍔を持つ。兵庫津播磨型羽釜Ａ系列ＩＣ類に相当し15世紀後半～16世紀前半と考えられる。267は土師器羽釜である。口縁部は鍔部分から上に短く立ち上がり、鍔は短く三角形である。体部は筒形に近く張りに乏しい。兵庫津羽釜タイプＢ系列ＩＢ類に相当する。15世紀中頃と考えられる。268は須恵器捏鉢である。外反して立ち上がる体部に水平に拡張する口縁部が付く。口縁端部は屈曲し上方にも拡張され、端部外側に面をもつ。15世紀代と考えられる。269は丹波焼擂鉢の底部である。内面に一本引きの擂目が認められる。

・SK02出土土器　270は土師器鍋である。口縁部は頸部から直立し、口縁端部は外側へ摘まみ出されている。断面形状は丸みを帯びる。最大腹径は頸部直下にある。内面にはナデ調整を施す。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅢ類に相当する。14世紀後半と考えられる。

・SK06出土土器　271は土師器羽釜である。口縁部は内傾し、端部は内傾して丸く肥厚する。端部直下に短い三角形の鍔が付く。兵庫津編年羽釜タイプＢ系列ＩＡ類に相当する。15世紀前半と考えられる。

・SD04出土土器　272は土師器杯である。須恵器杯Ａと類似した形態を持つ。底部は回転糸切りを施し、体部は外方に真っ直ぐ立ち上がる。口縁端部は丸く収める。体部下半は内外面共に丁寧なナデを施している。器壁にモミ痕がある。273は須恵器椀底部である。底部は右回転の糸切りを施し、若干突出する。内面見込みは窪む。体部下半は低く立ち上がり緩やかに内湾する。274は須恵器壺口頸部である。肩部は張らず、なだらかである。頸部は短く、大きく外反する。口縁端部を欠く。無高台の瓶状の器形か。時期は不明である。

・包含層・その他出土土器　275～278は礫混じりシルトより出土した。275はミニチュア土製品である。最大径を中位にもつ扁平な球体である。手捏ね整形され頸部はない。器壁は厚い。弥生土器の可能性もある。276は土師器杯Ａである。平坦な底部に外方へ立ち上がる杯部が付く。内外面に漆が付着している。277は須恵器杯蓋である。扁平な摘まみに、右回転のロクロヘラ切りを行った天井部を持ち、口縁部は外反する。口縁部は意図的に割っている可能性が高い。内面は灰被り。８世紀後半～９世紀前葉。278は須恵器杯Ａである。底部外面は右回転のロクロヘラ切りを行い、一部ナデ調整を施す。内面見込み付近は使用によって平滑になっている。279～281は機械掘削時に出土した。279は須恵器小皿。27･59と類似する。器壁は厚く、口縁部は内湾して立ち上がる。端部は丸く収める。280は須恵器皿。底部は右回転のヘラ切り後ナデ調整。口縁端部付近は心持ち外反する。８世紀後半～９世紀前葉頃か。281は白磁皿である。口縁部が内湾して立ち上がり、端部が外反して水平に伸びる。口縁端部が露胎となる口禿皿である。太宰府編年白磁皿Ⅸ-３類、13世紀後半～14世紀前半と考えられる。

津万４中央区の土器（図版97、写真図版119～121）

・SD03出土土器　４中央区のSD03からは282～285の土器が出土している。282は強く外反する甕口縁部で、外面にはタタキ、内面にはナデが観察できる。283・284は脚台で、短く開く脚台に直線的に開く体部がのる。脚台部内外面にはユビオサエが残るが、外面は縦方向の粗いヘラミガキ、内面はハケからヘラ

ミガキで仕上げる。脚端部は地面に押しつけた状態で安定させており、不調整である。285は大型の鉢で、内湾する体部から緩く屈曲して水平に開く口縁部へと続く。外面下半は縦方向、上半は横方向のヘラミガキを施し、ヨコナデで仕上げる。内面も下半は縦方向のハケの後、ヘラミガキ、上半は横方向のヘラミガキを施す。口縁部上面にもヘラが当たる。

・SB01出土土器　Ｐ２-３からは286・287が、Ｐ４-２からは288が出土している。286は土師器鍋である。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、端部は摘み上げ内傾する。287は土師器小皿である。底部は右回転のヘラ切り後、板状工具によるナデを施す。底部と体部の境は面を持つ。口縁部は外反し端部は丸く収める。288はロクロ土師器椀である。288は587・588と類似しており右回転糸切りを施す。また外面にロクロ目が顕著である。P15出土の289は須恵器椀、51・308・326・327と類似した形状である。底部と体部の境はロクロナデにより丸く、体部・口縁部は直線的に外方へ立ち上がる。口縁端部は丸く収める。

・包含層出土土器　290・291は須恵器杯Ｂ底部である。両者は若干、高台の貼付位置が違うことから別個体である。290は内面が摩滅している。291は高台裏にヘラ切り調整に伴う工具痕がある。また内面に重ね焼の融着痕がある。292は須恵器鉢である。体部は内湾気味に立ち上がり口縁端部が心持ち内湾する。口縁端部上面には面を持つ。293は土師器小皿である。底部は丸く、内湾して立ち上がる。口縁端部は肥厚し丸く収める。ユビオサエ整形の後内外面共にナデ調整を施す。294は土師器小皿である。右回転のロクロヘラ切りを施し未調整で、短く口縁部が外方に伸びる。器壁は厚く、端部は丸く収める。295は須恵器小皿で、口縁部が低く外方に立ち上がり器高は低い。底部外面は右回転の糸切りを行い未調整である。重ね焼き痕が認められる。296は須恵器椀もしくは皿である。底部はロクロ糸切りを施す。体部は低く立ち上がっている。器壁は薄い。底部外面に墨書がある。

津万４東区の土器（図版98、写真図版122・123）

・22トレンチ出土縄文土器　縄文土器297～299が出土している。297・298は外面に縄目の大きな縄文が施されている。撚糸は右下がり、縦方向に転がしている。長石・石英を含み、中期後葉、北白川Ｃ式の可能性が高い。但し、比較的器壁が薄い点から北白川下層Ⅱａ大歳山式（前期中葉か中期前葉）の可能性もある。299は縄目が大きく太目。長石・石英を含み、中期後葉、北白川Ｃ式の可能性が高い。

・SD01出土土器　300・301の土師器が出土している。300は肩部から屈曲して開き、さらに屈曲して立ち上がる口縁部をもつ。口縁部外面に擬凹線を巡らせる。内外面はナデ仕上げ。301は直口壺で、肩部から屈曲してやや外方に直線的に広がる口縁部をもつ。外面は縦方向ハケ、内面は横方向ハケから縦方向ヘラミガキを施し、口縁端部内外面はヨコナデで仕上げる。

・SD10出土土器　302・303の土器が出土している。302は外反する口縁部の端部下方を少し拡張する。303は器台脚端部で、直線的に開き、内外に拡張して下面を作る。外面は縦方向ハケ調整し、７条の凹線を巡らせ、ヨコナデで仕上げる。内面の下半は横方向、上半は縦方向のヘラケズリが見られる。

・SB01出土土器　P63より出土した304は須恵器杯Ｂもしくは椀と考えられる。体部は斜め上方に真っ直ぐ立ち上がる。口縁端部に向けて徐々に肥厚する。端部は丸く収める。内外面共にロクロ目が顕著である。下端が内側に屈曲し始めていることから底部は近く、底径は８㎝前後か。時期は古代に遡るものと考えられる。

・SB02出土土器　P03出土の305は須恵器椀（314・315）と類似した形である。底部と体部の境はロクロナデにより丸く、体部・口縁部は心持ち内湾しながら外方へ立ち上がる。口縁端部は丸く収める。左回転のロクロケズリを施す。306は須恵器捏鉢である。口縁端部は上方に若干摘み上げられ、外傾する面をも

つが、全体に稜は甘く丸みをもつ。13世紀代に収まるものである。

・SB04出土土器　307はP06から出土した手捏ね整形の土師器小皿である。ユビオサエ整形の後ナデを施す。底部は中央部が持ち上がり、口縁部は低く斜め外方へ心持ち内湾して立ち上がる。器壁はやや厚く、端部は丸く収める。外面にはユビオサエ痕が残る。308はP33から出土した須恵器椀である。289と類似した器形を持つ。底部と体部の境は右回転のロクロナデにより丸く、体部は直線的に外方へ立ち上がり、口縁部は若干外反する。端部は丸く収める。

・その他の柱穴出土土器　309はP02から出土した須恵器椀である。器形は308に近いが体部下半にロクロ目が顕著である。特に中位に強いロクロナデを施し、段を形成している。口縁部の器壁は薄く丁寧なロクロナデを施している。見込みは窪む。310はP07より出土した手捏ね整形の土師器小皿である。底部はユビオサエ後ナデを施す。口縁部はヨコナデ調整を施し、端部を丸く収める。311・312はP69から出土した。311は小径の須恵器椀である。底部は右回転の糸切りを施し、若干突出する。体部は丸みを帯びて立ち上がり口縁端部は丸く収める。内面見込みは窪む。11世紀代か。312は体部下半から大きく内湾して立ち上がり、口縁端部を丸く収める須恵器椀である。内外面ともにロクロ目が非常に顕著である。全体に器壁は薄い。

・SK04出土土器　313は手捏ね整形の土師器小皿である。底部はユビオサエ後ナデ、口縁部はヨコナデ調整を施す。口縁部は内湾して立ち上がり、端部は丸く収める。314は須恵器椀である。底部は回転糸切りを施す。糸切りによりごくわずかに切り離した部分が突出している。底部との境から内湾して外方に立ちあがり、体部上半から口縁部は直線的に外方へ伸びる。口縁端部は内側に巻き込み丸く収める。内面見込みは窪み、仕上げナデを施す。315は須恵器椀である。底部は回転糸切りを施し、底部は心もち突出している。体部から口縁部は緩やかに内湾して端部は丸く収める。内面見込みには仕上げナデを施す。全体にロクロ目が顕著で314に比べ器壁が薄い。口縁端部に重ね焼き痕が認められる。316は須恵器椀である。底部は回転糸切りを施し、底部は315同様心もち突出している。体部から口縁部は外方へ開き、口縁端部は心もち外反する。315に比べ器壁が厚い。口縁端部に重ね焼き痕が認められる。

・包含層出土土器　317は右回りの回転糸切りを施す須恵器平高台椀である。高台は突出し、体部との境は明瞭である。体部中位にかすかな稜があり、体部下半は内湾し、上半は直線的に開く。口縁部は外反する。底部内面は一段窪み、平坦である。体部・口縁部の器壁は薄い。10世紀後半代か。318は右回りの回転糸切りを施す須恵器平高台椀である。高台は小径で突出する。体部・口縁部は内湾し、端部に至る。底部内面は窪む。体部・口縁部の器壁は317に比べ厚い。10世紀後半代か。319は土師質の土錘である。下端を欠く。径５㎜ほどの孔が貫通する。

津万５西区の土器（図版99、写真図版124）

・包含層出土土器　320は機械掘削時に採取した白磁四耳壺の肩部片である。肩部に２条の沈線を巡らせ、耳の貼付痕がある。施釉は内面にまで及んでいる。大宰府陶磁器編年Ⅲ－１類、11世紀後半～12世紀代に入るものと考えられる。

津万５東区の土器（図版99～105、写真図版124～141）

・SK19出土土器　５東区のSK19からは縄文土器小片（321）が出土しており、晩期頃の深鉢と思われる。SK19は同時代の遺構ではなかろう。

・SD01出土土器　SD01出土の土師器甕（322）は、頸部から真っ直ぐ開く口縁部をもつ。外面体部は縦ハケ、口縁部はヨコナデ。内面体部はユビオサエ痕を残し、横方向板ナデ、口縁部はハケを施す。

・SD18出土土器　SD18出土の土師器底部（323）は、平底で、内外面をハケで仕上げる。黒斑が広がる。

・SB01出土土器　324はP01から出土した土師器鍋である。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、口縁端部はやや外傾して断面三角形に拡張する。内面にはあて具痕のナデ消しが認められる。兵庫津編年播丹型甕タイプⅠ類、中でもⅡ類に近いタイプと考えられる。13世紀後半か。325はP07から出土した手捏ね整形の土師器皿である。底部と体部の境は丸く、口縁部は外反する。端部はヨコナデによって内湾し丸く収める。13世紀後半か。326はP34から出土した。須恵器椀である。底部は右回転の糸切りを施す。糸切りによりわずかに切り離した部分が突出している。底部との境から外方に立ちあがり、体部上半から口縁部は心もち内湾して外方へ伸びる。口縁端部は小さな玉縁となる。内面見込みは窪み、仕上げナデを施す。327はP34・37から出土した。やや小ぶりな口径に対し、底径・器高の割合が若干高い製品である。底部は平底、無高台である。底部は右回転の糸切りを施す。体部は外方に開き、口縁部は徐々に肥厚する。端部は丸く収める。内面見込みは窪み、仕上げナデが認められる。底部外面には板状工具痕が認められ、体部下半には所々ユビ痕が認められる。口縁端部には重ね焼き痕が認められる。328はP35より出土している。復元口径18.15㎝の須恵器小型鉢である。底部は右回転の糸切りを施す。体部は外方に直線的に開き、口縁部は内湾し端部は肥厚し外側に面をもつ。兵庫津編年Ｃ１類に相当する。13世紀後半～14世紀前半か。329はP37から出土した手捏ね整形の土師器小皿である。ユビオサエ整形の後ナデを施す。底部は中央部がやや窪み、口縁部は斜め外方へ立ち上がり、端部は丸く収める。

・SB02出土土器　330～342は掘立柱建物（SB02）を構成する柱穴から出土した。330・331はP46から出土した手捏ね整形の土師器小皿である。330はユビオサエ整形の後ナデ、口縁部はヨコナデを施す。口縁部は斜め外方へ心もち内湾気味に立ち上がり、端部は丸く収める。内外面共にユビオサエ痕が顕著である。331は330に比べ器高が低い。底部は平坦、口縁部は紡錘形に肥厚する。ユビオサエ整形の後ナデ、口縁部はヨコナデを施す。底部はユビオサエ整形の後ナデ、口縁部は更にヨコナデを施す。内外面共にユビオサエ痕が顕著である。332はP46から出土した須恵器椀である。器高が低く皿に近い。305と類似した器形をもつ。底部と体部の境は右回転のロクロナデにより丸く、体部は直線的に外方へ立ち上がる。口縁部は若干外反し端部は丸く収める。底部は右回転の糸切りを施し、平坦である。口縁端部には重ね焼き痕が認められる。333～335はP56から出土した。333は手捏ね整形の土師器小皿である。ユビオサエ整形の後ナデ、口縁部はヨコナデを施す。口縁部は外方へ心もち内湾気味に立ち上がり、端部は尖る。ユビオサエ痕が外面に残る。334は手捏ね整形の土師器皿である。ユビオサエ整形の後ナデ、口縁部はヨコナデを施す。口縁部は外方へ心もち外反する。ユビオサエ痕が外面に残る。335は土師器鍋である。324・337と類似する。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、端部は外方へ拡張し上部に面をもつ。内面はナデ調整。兵庫津編年甕タイプⅠ類、13世紀後半か。336はP72から出土した手捏ね整形の土師器皿である。底部から口縁部境にかけては丸く、口縁部は外反し端部は丸く収める。器壁は厚い。外面はユビオサエ後ナデ、口縁部内面はヨコナデ調整。外面にはユビオサエ痕が認められる。337はP77から出土した土師器鍋である。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、端部は外方へ拡張し上部に面をもつ。口縁部は端部に至るほど肥厚している。最大腹径は体部下位にある。体部内面にはあて具痕のナデ消しが認められる。兵庫津編年播丹型甕タイプⅡ類、14世紀前半代か。338～341はP94から出土した。338は手捏ね整形の土師器小皿である。口縁部は斜め外方へ非常に低く立ち上がり、端部は丸く収める。底部はユビオサエ整形の後ナデ、凹凸が激しい。口縁部はヨコナデを施す。339・340は手捏ね整形の土師器皿である。底部はユビナデとユビオサエ整形、底部と口縁部の境は強いヨコナデによって稜を持ち、口縁部の下半が外反、若干上半は内湾する。339の

底部外面・340の内面にはユビオサエ痕が認められる。341は土師器鍋である。口縁端部を外方に拡張し巻き込む形状をもつ。兵庫津編年播丹型甕タイプⅠ類、13世紀後半代と考えられる。342はP147から出土した須恵器椀もしくは皿である。体部が下半で外反し、中位で緩やかに屈曲し内湾する。器壁は薄く、口縁端部に向かい徐々に肥厚する。

・SB03出土土器　343～360はSB03を構成する柱穴から出土した。343はP105から出土した手捏ね整形の土師器小皿である。外面底部は丸みを帯び、ヨコナデによって口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外方へ短く外反し、端部は丸く収める。内面は底部から口縁端部までなだらかに内湾する。底部はユビオサエ整形の後ナデ。344・345はP117から出土した。344は手捏ね整形の土師器皿である。340と整形技法は同じであるが深さを持つ。底部はユビナデとユビオサエ整形、底部と口縁部の境は強いヨコナデによって稜を持ち、口縁部は外反し、端部はやや尖る。345は須恵器椀底部である。底部は回転糸切りを行い、わずかに切り離した部分が突出している。体部下半にロクロ目が顕著である。

346～359はP131から出土した土師器皿類である。346～349はロクロを使わない手捏ね整形の土師器小皿である。346・347の底部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は外面端部と内面にヨコナデを施す。底部は丸みを帯び、口縁部は短く内湾する。348・349は口縁部内外面ともにヨコナデを施す。348の底部は丸みを帯び、349は平坦、口縁部は短く内湾する。350はやや法量が大きな手捏ね成形の土師器小皿である。底面は平坦で広く、ユビオサエ整形の後内外面ともナデ。口縁部は内湾し、ヨコナデを施し、口縁端部が尖る。351～359は口縁部が外反、あるいは直線的に外方に立ち上がる手捏ね成形の土師器皿である。351は底部が盛り上がるいわゆる『へそ皿』に属する。口径は３寸ほど。底部・体部の境は深く窪み口縁部は心持ち外反し、端部外側面に面をもつ。底部・体部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は内外面にヨコナデを施す。352は口径が４寸ほど。丸みを帯びた底部境から体部は直線的に外方に立ち上がり口縁部は外反する。底部・体部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は内外面にヨコナデを施す。353は口径が３寸ほど。体部は直線的に外方に立ち上がり口縁部は内湾する。底部・体部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は内外面にヨコナデを施す。底部は平坦である。354は口径が４寸ほど。丸みを帯びた底部境から体部は内湾して外方に立ち上がり屈曲して口縁部は内湾する。底部・体部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は、内面に板状工具によるナデを施した後、内外面にヨコナデを施す。355は口径が４寸ほど。体部は内湾して外方に立ち上がり屈曲して口縁部はやや外反する。底部・体部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は、外面に板状工具によるナデを施した後、内外面にヨコナデを施す。356は口径が４寸ほど。底部は丸みを帯び、体部は外反して外方に立ち上が口縁部は肥厚して外反する。内面は底部・体部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は、内面にヨコハケを施した後、口縁端部から口縁部外面にはヨコナデを施す。357は356と同一個体の可能性がある。358は口径が４寸ほど、器高がやや低い個体である。底部は平坦、体部は内湾して外方に立ち上がり屈曲して口縁部は外反する。底部・体部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、体部内面には右上がりのナデ上げ痕が認められる。359は口径が４寸半ほど、器高がやや低い個体である。底部は平坦、体部は内湾して外方に立ち上がり屈曲して口縁部は外反する。底部・体部は薄く、ユビオサエ整形の後内外面ともにユビオサエ痕が残る。口縁部は紡錘形で端部は尖る。

360はP128から出土した手捏ね整形の土師器皿である。口径が４寸ほど、器高がやや低い個体である。底部はやや盛り上がる、体部は直線的に外方に立ち上がり口縁部に至る。口縁部はヨコナデを施す。

・SB04出土土器　361～363はSB04を構成する柱穴から出土した。361・362はP67から出土した。

361は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は平坦、口縁部は短く内湾する。底部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は外面端部と内面にナデもしくはヨコナデを施す。362は須恵器捏鉢口縁部である。口縁端部は上方に拡張し、外側に面をもつ。兵庫津編年Ｂ３類、14世紀後半～15世紀前半か。363は須恵器捏鉢である。底部を欠く。体部は外方へ直線的に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は水平と上方に拡張し、外側にはロクロナデによる凹面をもつ。端部内側は心持ち窪み、上端に至っている。体部内面には左上へのナデアゲ痕がある。兵庫津編年Ｄ類、14世紀後半～15世紀前半か。

・SB05出土土器　364～370はSB05を構成する柱穴より出土した。364・365はP49から出土した手捏ね整形の土師器皿である。364の底部は平坦、口縁部との境は丸く、短く外方に伸びる。端部は丸く収める。全体に器壁は厚い。底部内外面はナデ、内面口縁部・底部との境はヨコナデ。365は口径が６寸ほど、深みのある形態。丸みを帯びた底部境から体部は内湾して立ち上がり口縁部はくの字に外反する。底部・体部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は内外面にヨコナデを施す。兵庫津編年ⅡＢ２ｂ類、15世紀前半代か。366はP61から出土した須恵器捏鉢である。心持ち内湾する体部に、上下に拡張した玉縁の口縁部をもつ。外面下半にはユビオサエ痕、内面は使用痕が目立つ。兵庫津編年Ｅ１類　14世紀後半代か。367はP81から出土した土師器鍋である。口縁部は頸部から直立し、口縁端部は外方に摘まみ出され、上部に面をもつ。兵庫津編年播丹型甕タイプⅠ類　13世紀後半代と考えられる。368はP95から出土した手捏ね整形の土師器皿である。底部は平坦、体部は直線的に外方に立ち上がり口縁部に至る。口縁部は紡錘形に近く、端部内側が若干窪む。口縁部はヨコナデを施す。体部下半にはユビオサエ痕が認められる。369はP176から出土した手捏ね整形の土師器皿である。底部は平底、口縁部は心持ち内湾しながら外方に立ち上がる。口縁端部は丸く収める。底部・体部はユビオサエ整形の後内外面ともナデ、口縁部は内外面にヨコナデを施す。370はP177から出土した須恵器椀である。308と類似した器形をもつ。底部は右回転の糸切り、底・体部の境はロクロナデにより丸く、体部下半は内湾し、上半は直線的に外方へ立ち上がる。口縁部は若干内湾する。端部は丸く収める。口縁部の器壁は薄い。

・SB06出土土器　371～383はSB06を構成する柱穴から出土した。371～379はP119から出土している。371はロクロ整形の土師器小皿である。底部は回転糸切りを施し若干突出する。内面は平坦、体部は内湾し、口縁部は外反する。372は土師器鍋である。肩部の張りがなく、口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は内側に拡張し、外傾する端面を作り出す。板場町遺跡分類　土師器鍋Ａ類に近い。373は最大腹径を口縁部直下に持つ器形である。口縁部は外反し外傾する面をもつ。外面に横及び斜行タタキ、内面には板ナデ調整を施す。P120の破片と接合する。374～379は須恵器椀である。374・376は突出した平高台をもつ。内湾して立ち上がり、口縁端部内側が肥厚する。底部は右回転の糸切りを施す。高台側面の調整は不充分である。見込みは緩やかに段を有して窪む。体部は内外面ともにロクロ目が顕著で、特に374の内面は中位に沈線状の段がある。東播北部古窯址群の２段階後半（11世紀後半～12世紀前半）の時期が考えられる。375は酸化炎焼成された個体である。突出した平高台は左回転の糸切りを施し、体部は内湾して立ち上がる。口縁は強いヨコナデによって外反する。内外面ともに体部上半のロクロ目が顕著、器壁は薄い。高台際から体部下半は強めの丁寧なロクロナデを施し、ロクロ目を消している。見込みに窪みはない。377は突出した平高台をもち、体部は内湾して立ち上がり、口縁は強いヨコナデによって外反、体部との境に甘い稜をもつ。高台は右回転の糸切り後、側面にヘラ状工具によってケズリが施されている。高台際から体部下半はロクロナデ後ナデ調整を施す。見込みに段はない。器壁は比較的厚く、ロクロ目は目立たない。378は体部が直線的に外方へ伸び、口縁は強いヨコナデによって外反、体部との境に甘い稜を

もつ。器壁は薄い。379は突出した平高台をもち、体部は内湾して立ち上がる。底部は右回転の糸切り後、板状工具によって調整されている。内面見込みに段はない。

380～383はP120から出土した。380はロクロ土師器小皿である。口縁部は短く外方に伸び、端部は丸く収める。内面では口縁部と底部との境は明瞭でない。器壁は厚い。381は突出した平高台をもち、体部は内湾して急激に立ち上がる。深さを持つ器形である。底部は右回転の糸切りを施す。内面見込みに段はない。外面体部にロクロ目が顕著である。382は口径が底径の 3 倍以上と大きい。体部は低く立ち上がり口縁部に至る。器高が低い器形である。高台畳付は右回転糸切り後ナデ調整、高台際についてもナデ調整を施す。見込みに段はない。破片の一部はSK22から出土している。383は382と同様の器形か。畳付は回転糸切り未調整である。

・その他の柱穴出土土器　384はP55より出土した。口径が 5 寸ほど、器高がやや低い手捏ね整形の土師器皿である。体部は内湾し、口縁部は外反する。底部は薄く、体部までユビオサエ整形の後ナデ、外面の口縁部との境にユビオサエ痕が残る。口縁部は紡錘形で外側が肥厚する。兵庫津編年ⅢD類、13世紀後半か。385はP64より出土した須恵器皿である。底部は平底、体部との境は丸く、斜め上方に直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収める。右回転の糸切り後ナデ、内面・外面の体部から口縁部はロクロナデを施す。386・387はP66より出土した。386は手捏ね整形の土師器小皿である。底部から内湾して立ち上がり、口縁端部は丸く収める。内外面にユビナデ調整を施し、ユビオサエ痕が残る。灯明皿に使用している。387は須恵器皿片である。底部・体部の境から緩やかに内湾し、口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。端部は丸く収める。器壁は薄い。左回転のロクロの可能性がある。388はP69より出土した土師器鍋である。口縁部は頸部から直立し、口縁端部は外方に摘まみ出され、上部に面をもつ。内面はユビナデ調整。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅣ類に相当する。15世紀前半と考えられる。389はP84より出土した手捏ね整形の土師器皿である。底部は平底、体部との境は丸みを帯び、口縁部はヨコナデによって外反する。口縁端部は部分的にヨコナデによって摘まみ上げ状の部分がある。底部外面はユビオサエ整形後ナデ、体部・口縁部は 2 回のヨコナデを施す。390～392はP86から出土した。390は手捏ね整形の土師器小皿である。口径が 2 寸ほど。全体に器壁は厚く、底部は平底、口縁部との境は丸みを帯び、口縁部は短く外方へ延びる。底部内面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。391は口径が 4 寸ほど、器高がやや低い個体である。底部は平坦、体部は内湾して外方に立ち上がり屈曲して口縁部は外反する。底部・体部は薄く、ユビオサエ整形の後内外面ともにユビオサエ痕が残る。口縁部は紡錘形で端部は尖る。392は手捏ね整形の土師器皿である。口径が 4 寸ほど。全体に歪みの激しい個体である。底部はユビオサエ整形後ナデ、底部と口縁部下半の境は丸く、口縁部は強いヨコナデによって外反する。底部外面には板状工具の圧痕がある。393～395はP100から出土した。393は手捏ね整形の土師器皿である。口径が 4 寸ほど。口縁部は肥厚し、端部は角頭に近い。口縁部は外面がナデ、内面がヨコナデ調整を施す。器壁が底部は薄く、口縁部は厚い製品である。394は土師器鍋である。口縁部は緩やかに外反し端部は外方に摘まみ出される。上方に面をもつ。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅠ類に相当する。13世紀後半と考えられる。395は須恵器捏鉢である。口縁端部端面が外傾し大きく外側面を拡張する。端部の内側は凹む。兵庫津編年B３類、14世紀後半～15世紀前半か。内面に火を受けた形跡がある。396はP106から出土した土師器甕である。口縁部は外方に若干開き、口縁端部は外方に摘まみ出され、玉縁状になる。兵庫津播丹型甕形タイプⅢ類に相当する。14世紀後半と考えられる。

397は須恵器小椀である。底部は右回転の糸切りを施し、若干突出する。体部は丸みを帯びて立ち上が

り口縁部はロクロナデによって極わずかに外反する。端部は丸く収め、内側が心持ち肥厚する。内面見込みは緩やかな段をもって窪む。平高台は未調整である。11世紀後半～12世紀前半代か。398はＰ170から出土した手捏ね整形の土師器小皿である。底部内外面はナデを施す。口縁部はヨコナデ調整を施し、端部を丸く収める。全体に器壁が厚く、口縁部と底部の境が明確である。399・400はＰ167から出土した。399は手捏ね整形の土師器小皿である。口縁部は外方へ心もち内湾気味に立ち上がり、端部は尖る。器壁は薄い。内外面ともユビオサエ整形の後ナデ、口縁端部のみヨコナデを施す。400は土師器甕である。口縁部は外方に若干開き、口縁端部は外方に摘まみ出され、玉縁状になる。口縁端部は396よりも丸い。内面のあて具痕をナデ消す。兵庫津播丹型甕形タイプⅢ類に相当する。14世紀後半と考えられる。

・SK02出土土器　図示した401～427のうち、401～414が須恵器である。401～409は須恵器椀である。401・404は底部が丸みをもち、外面体部中位が屈曲を見せ口縁部は外方に伸びる。口縁端部は丸く収める。底部は右回りの回転糸切り後一部ナデ。内面見込みに段は持たず、仕上げナデを施す。402は底部が平底、体部との境は丸く、外面体部中位に一部屈曲を見せ口縁部は内湾する。端部は一部内側に摘まみ出す。底部は右回りの回転糸切り後一部ナデ。見込みは凹むが段にはならない。焼成はやや甘く体部下半にロクロ目が顕著である。403は底部が平底、体部との境は丸く、口縁部は外反し端部は肥厚する。見込みは段をもたない。底部は右回りの回転糸切り、見込みに仕上げナデを施す。405・406・408は底部が平底、但し右回りの回転糸切りによって心もち突出する。体部との境はロクロナデによって段もしくは稜をもち口縁部は外方に直線・もしくは内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く収める。406は見込みに仕上げナデを施す。408は体部下半を中心に強めのロクロナデを施す。いずれも器壁は薄い。407は少し丸みをもつ平底の底部から外方に開く体部・口縁部をもつ。底径が大きな個体である。409の器形は405・406に近いが、全体に器壁が厚く、口縁端部が肥厚している。内面の底体部境に段をもつ。底部は右回りの回転糸切りを施す。410～412は須恵器捏鉢、413は須恵器鉢である。410は外方に真直ぐ開く体部に外傾する面をもつ口縁端部が付く。端部は上方には拡張されず、下方に極わずか拡張される。外傾する面の稜は甘く丸みをもつ。底部は右回転の糸切り後ナデ消しを施すが、底部全体の調整は不充分である。また、体部下半にはロクロ目が目立つ。兵庫津編年Ｂ２～Ｂ３類、14世紀後半～15世紀前半代と考えられる。411は丸みを帯びた底部から外方に真直ぐ開く体部をもち、口縁部は内湾し端部は肥厚し外側に面をもつ。兵庫津編年Ｃ１類に相当する。13世紀後半～14世紀前半か。412は緩やかに内湾する体部に肥厚し外傾する玉縁状の口縁部をもち、端部内側は若干凹む。底部は回転糸切りを施し心持ち突出する。兵庫津編年Ｃ類に相当する。14世紀代か。413は大型の鉢口縁部である。大きく外方に広がり端部は肥厚せず外傾する面をもつ。内面は板ナデ調整を施す。兵庫津編年Ａ類に相当する。12世紀前半代と考えられる。414は口縁部が頸部からくの字に屈曲し、端部は外方に拡張し上部に面をもつ。最大径を体部中央にもつ。外面は平行タタキを施し、部分的にナデ消している。内面はあて具痕をナデ消している。兵庫津編年播丹型甕タイプⅠ類、13世紀後半代と考えられる。

415～427は土師器を上げた。415は手捏ね整形の土師器小皿である。器高は低い。底部を平坦にし、口縁部は緩やかに内湾し、端部を丸く収める。外面底部・口縁部はユビオサエ整形、底部内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデを施す。416は手捏ね整形の土師器小皿である。歪みが激しい。ユビオサエ整形後、底部はナデ調整。口縁部はヨコナデを行い外反する。口径は３寸ほど。417は手捏ね整形の土師器小皿である。口径は３寸半ほど。凹凸のある平底に真直ぐ斜めに立ちあがる口縁部が付く。口縁端部は丸く収める。底部と体部の境に粘土の継ぎ目とユビオサエ痕、口縁部中位にも粘土の継ぎ目が認められる。底部は

円形の粘土板、口縁部は粘土紐の巻き上げによって成形されたと考えられる。418は手捏ね整形の土師器皿である。口径は４寸ほど。底部と体部の境は丸く、口縁部はヨコナデによって外反する。底部・体部下半にユビオサエ痕が顕著である。419は手捏ね整形の土師器小皿である。口径は３寸半ほど。口縁部は顕著に内湾し口縁端部は外側が肥厚する。内面及び外面口縁端部はヨコナデを施す。口縁部には煤が付着し、灯明皿に使用している。420は419に比べ器高が高い個体である。口径は４寸ほど。製作技法・形体は変わりなく、平坦な底部から体部・口縁部は顕著に内湾する。口縁部は外側が肥厚する。口径は３寸半ほど。421は420と法量がほとんど変わらない手捏ね整形の土師器皿である。口径は４寸ほど。凹凸のある底部から体部は顕著に内湾する。口縁部はヨコナデによって心もち外反する。端部は丸く収める。口縁部・体部内面はヨコナデ、底部は内外面ともナデ調整を施す。外面にはユビオサエ痕が顕著である。また、底部外面には稲モミの圧痕が見られる。420と比べ器壁は薄い。422は手捏ね整形の土師器皿である。口径は４寸半ほど。底部は丸く内湾して体部に至り、口縁部はヨコナデによって心もち外反する。体部との境に弱い稜をもつ。外面体部以下はユビオサエ整形後ナデ及び板ナデを行う。内外面口縁部と体部内面はヨコナデを施す。

423は土師器鍋である。429と類似する。口縁部は頸部から直立し、端部は外反して外方に伸び上部に面をもつ。体部は最大径を下半にもち、扁平な頸部が窄まる器形である。外面は平行タタキ、内面はあて具痕をナデ消している。兵庫津編年播丹型甕タイプⅠ類、13世紀後半代と考えられる。424は土師器鍋である。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、口縁端部は外傾気味に摘まみ出され、上部に面をもつ。体部は最大径を下半にもち、扁平な頸部が窄まる器形である。外面は平行タタキ、内面はあて具痕をナデ消している。時期は口縁部の形状から兵庫津編年播丹型甕タイプⅡ類、14世紀前半代と考えられる。425は土師器鍋である。肩部より上部が出土した。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、口縁端部は外傾気味に摘まみ出され、上部に面をもつ。424に比べ口縁部は肥厚している。外面は平行タタキを施す。時期は口縁部から兵庫津編年播丹型甕タイプⅡ類、14世紀前半代と考えられる。426は土師器鍋である。335と類似する。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、端部は外方へ拡張し上部に面をもつ。外面は平行タタキ、内面は肩部に板ナデ調整を施す。兵庫津編年播丹型甕タイプⅠ類、13世紀後半か。口縁部には粘土紐の継ぎ目が顕著である。427は丸みのある肩部からくの字に屈曲し受け口状の口縁部をもつ。土師器鍋である。口縁部はヨコナデ、外面肩部はユビオサエ整形後ナデ、内面は板ナデ調整を施す。兵庫津鍋タイプ鉄鍋形Ⅱ類に対応する。13世紀代後半と考えられる。

・木棺墓SK03出土土器　428は須恵器椀下半である。平高台の底部は高く突出し側面にはロクロケズリを施す。見込みは段を持たず、深く窪む。底部は回転糸切り。体部内外面はロクロ目が顕著である。

・SK06出土土器　429は土師器鍋である。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、端部は外反して外方に伸び上部に面をもつ兵庫津編年播丹型甕タイプⅠ類、13世紀後半代と考えられる。430は土師器羽釜である。内湾する高い口縁部を持ち、端部は外方に拡張し上部に面をもつ。断面長方形の長めの鍔が下がり気味に貼付され、体部には平行タタキを施す。兵庫津羽釜タイプＢ系列Ⅰ類、14世紀前半代か。

・SK10出土土器　431～435が出土した。431～433は手捏ね整形の土師器小皿である。431は口縁部が内湾して立ち上がり肥厚し端部は丸く収める。端部に煤が付着し灯明皿に使用していたと考えられる。432はユビオサエ整形を行い平底から内湾して立ち上がる口縁部をもつ。端部は肥厚し外側に面をもつ。口縁部中位に粘土紐の痕跡が残り、内外面にはユビオサエ痕が残る。433は３寸半ほどの口径をもつ。ユビオサエ整形を行い、丸底から外方に口縁部が伸びる。口縁端部の外側が肥厚する。434は土師器鍋である。

口縁部は頸部からくの字に屈曲し、端部は摘まみ出され断面三角となり、外傾する面をもつ。兵庫津編年播丹型甕タイプⅢ類、14世紀後半代と考えられる。体部内面のあて具痕をナデ消している。435は須恵器杯もしくは皿である。杯部が外方に直線的に伸び、端部を丸く収める。底部を欠き、高台が付く可能性がある。

・SK14出土土器　436～444が出土した。436・437は土師器羽釜である。436は短く立ち上がる口縁部に短い断面三角形の鍔が付く。外面は並行タタキが鍔下まで、内面は縦ハケを体部に施す。兵庫津羽釜タイプ播磨型Ａタイプか。437は内傾気味の高い口縁部を持ち、端部は玉縁となる。円頭の長めの鍔が貼付され、体部外面には平行タタキを施す。内面はあて具痕をナデ消す。438は土師器鍋である。口縁部がやや開いて立ち上がり、端部は丸くおさめる。外面体部は右上がりの平行タタキ、内面は斜めハケを施す。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅢ類に相当する。14世紀後半と考えられる。439は瓦質土器鍋で、底部と体部の境は比較的不明確で丸みを帯び外傾気味に立ち上がる体部に至る。口縁部は退化したＬ字状である。体部外面にはユビオサエ痕が顕著である。口縁端部はやや甘く内傾する。兵庫津編年鍋形タイプ　鉄鍋形タイプⅢＢ類～ⅢＣ類　14世紀中頃から後半と考えられる。440は須恵器捏鉢である。口縁端部が上方と外方に拡張し丸く玉縁状である端部内面は心持ち凹む。兵庫津編年Ｃ２類、14世紀代か。441・442は須恵器鍋である。441は口縁部が頸部からくの字に屈曲し外方に開く。口縁端部は外方に摘まみ出され、玉縁となる。上部に心持ち外傾する面をもち、沈線が巡る。口縁部は内外面とも回転ナデ、体部外面は平行タタキ、内面はヨコナデを施す。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅢ類。14世紀後半と考えられる。442は口径27.6㎝の大型製品である。口縁部が頸部からくの字に屈曲し外方に開く。口縁端部は肥厚し、内外に摘まみ出され、丸みを帯びた断面三角形となる。上部は外傾する面となり、沈線が巡る。口縁部は内外面ともヨコナデ、体部外面は平行タタキ、内面はあて具痕をナデ消す。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅡ～Ⅲ類。14世紀代と考えられる。443・444は須恵器もしくは無釉陶器甕と考えられる。残存率が小さく、口径は不確定である。口縁部は短く屈曲し、端部を上方へ摘まみ上げ、外側に面をもつ。肩は張り稜をもつ。444は443と同一個体の可能性がある。算盤玉状に大きく肩が張る。443・444ともに内面に粘土紐の継ぎ目、ユビオサエ痕が認められる。443では外面に自然柚、内面にドベを塗布か。14世紀代の製品か。

・SK15出土土器　445は須恵器皿である。底部は平底、体部との境は丸く、斜め上方に直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収める。右回転の糸切りを行い、体部との境は左回転のロクロケズリを施す。見込みには仕上げナデを施す。

・SK16出土土器　446は土師器鍋である。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、口縁端部は外傾気味に摘まみ出され、上部に面をもつ。体部は扁平となり、大きく張り出した算盤玉状の器形である。時期は、口縁部からは兵庫津編年播丹型甕タイプⅡ類、14世紀前半代と考えられるが、器形からは疑問が残る。

・SK22出土土器　447～449を図示した。447はロクロ土師器皿である。右回りの回転ヘラ切りを施し、底部は若干突出する平高台である。底部に斜めに立ち上がり心もち外反する口縁部が付く。端部は丸く収める。見込みは窪み、ナデ調整。448は須恵器小椀である。底部は右回転の糸切りを施し、若干突出する。体部は丸みを帯びて立ち上がり口縁部はロクロナデによって極わずかに外反する。端部は丸く収め、内側が心もち肥厚する。内面見込みは段をもって窪む。高台際はロクロヘラケズリを施す。11世紀後半～12世紀前半代か。449は口径が16㎝を越え大振りの須恵器椀である。底部は右回転の糸切りを施し未調整。若干突出する。体部は内湾して立ち上がり口縁部は内側が肥厚する。内面見込みは窪みをもたずなめらかである。内面に粘土紐の継ぎ目が残る。11世紀後半～12世紀前半代か。破片が出土しSK22としたが、P120

出土の破片が大半であることからＰ120の遺物であった可能性が高い。

・SX01出土土器　450～455が出土した。450は土師器鍋である。口縁部は頸部から直立し、端部は外方に摘まみ出され上部に面をもつ。拡張した端部は丸く収める。外面は平行タタキ、内面は板ナデ調整。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅡ類、14世紀前半と考えられる。451は土師器鍋である。口縁部は外傾し、口縁端部は外方に摘まみ出される。拡張した端部は丸く収める。外面は平行タタキ、内面は同心円のあて具痕・ハケメの上からナデを施す。最大径を体部中位にもつ。兵庫津編年播丹型甕形タイプⅢ類に相当する。14世紀後半と考えられる。452は手捏ね整形の土師器小皿である。底部を平坦にし、口縁部は端部に向けて肥厚し丸く収める。外面底部・口縁部はユビオサエ整形後ナデ、外面口縁端部・内面はヨコナデを施す。453は手捏ね整形の土師器小皿である。口縁部は低く外方に開き、紡錘形である。底部・口縁部内外面はユビオサエ整形後ナデ、更に外面口縁端部・内面はヨコナデを施す。454は須恵器皿である。口縁部は外反し端部は丸く収める。器壁は薄い。455は須恵器捏鉢。体部は直線的に外方に立ち上がり口縁端部は上方に拡張し外側にやや内傾する面をもつ。兵庫津編年Ｃ１類、13世紀後半代か。

・SD01出土土器　456は土錘である。一端を欠く。丁寧にユビオサエ整形を行い、端部を作り出している。孔は貫通しており径５㎜前後を測る。

・SD06出土土器　457は手捏ね整形の土師器小皿である。ユビオサエによって半球形を作り出し、口縁端部はヨコナデによって少し尖る。口縁端部の内外面に煤焦げがあり灯明皿に使用したと考えられる。458は須恵器椀である。口縁部は外方に開き、端部は若干外側に肥厚する。459は須恵器椀、289・308と類似した器形をもつ。底部と体部の境は右回転のロクロナデにより丸く、体部は直線的に外方へ立ち上がる。口縁部は若干外反する。端部は丸く収める。460は無釉陶器鍋である。焼成の状態から陶器に分類した。口縁部は頸部からくの字に屈曲し、端部は外方へ拡張し上部に丸みを帯びた面をもつ。体部外面は平行・斜行タタキ、内面はナデ調整。兵庫津編年播丹型甕タイプⅡ類、14世紀前半代か。

・包含層出土土器　463・467・470は機械掘削によって出土した。474は12トレンチより出土した。以外は南部包含層からの出土である。461は手捏ね整形の土師器皿である。口縁部は紡錘形に肥厚する。462は土師器鍋である。口縁部は頸部から直立し、口縁端部は外方に摘まみ出され、上部に面をもつ。内面のあて具痕はナデ消されている。兵庫津編年摂丹波型甕タイプⅠ類　13世紀後半代と考えられる。463は土師器鍋もしくは羽釜類の三足脚である。464は須恵器小椀である。底部は突出し、体部下半は外反、屈曲して内湾、口縁部は外反する。外面屈曲部に稜を持ち、内面見込みは窪む。右回転の糸切りを施す。465は須恵器皿もしくは杯である底部と体部の境はロクロヘラケズリにより丸く、体部は内湾し、口縁部は外反する。端部は丸く収める。底部は回転糸切りを施す。466は須恵器椀体部である。外面に墨書がある。文字は不明である。467は須恵器甕口縁部から肩部の破片である。口縁端部外面に面を持ち、肩部に綾杉文のタタキを施す。468は丹波焼鉢である。体部は外方に立ち上がり、口縁部は内湾し、口縁端部は上部に面を持ち、窪む。469は丹波焼擂鉢である。口縁端部は肥厚し内傾して面をもつ。７本以上の櫛目を施す。近世か。470は丹波焼鉢である。外方に開く体部に、口縁は摘まみ上げ外側に面をもつ。内面には星印様のヘラ記号（カマ印）がある。15世紀代と考えられる。471は丹波焼擂鉢である。内湾気味に開く体部に、摘み上げ外側に内傾した面をもつ。内面には一本引きの擂り目が施される。長谷川分類Ⅶ期　16世紀前半と考えられる。472は白磁玉縁口縁碗Ⅳ類の破片である。12世紀代と考えられる。473は龍泉窯青磁鎬蓮弁文碗、太宰府分類碗Ⅱ-ｂ類、時期は13世紀中頃～14世紀初頭である。474は土師質土錘である。下端を欠く。

津万６西区の土器（図版106・107、写真図版142～145）

・SH09出土土器　土師器壺（475）が出土している。屈曲して外反気味に開く口縁部をもち、体部外面はハケ、内面はユビオサエを残してヘラケズリを施す。頸部の粘土継ぎ目は不調整。外面に煤が付着する。

・粘土採掘坑群（北半）出土土器　粘土採掘坑からは中世の土器とともに、外反する土師器壺口縁部（476）が出土している。また６西区確認調査時の３トレンチから須恵器無蓋高杯（477）が出土している。杯部のみの破片で、体部外面に櫛描波状文を描く。底面は回転ヘラケズリを施す。内面には自然釉が溜まる。ＴＫ23・ＴＫ47並行期のものである。

・SD01出土土器　478は短く口縁部が外反する須恵器小皿である。底部に右回転糸切りを施す。479は平底の須恵器椀である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は心もち外反する。底部は右回転糸切りを施す。体部に墨書が書かれているが、釈読は不明である。480は須恵器広口壺（壺Ａ）、所謂薬壺である。

・粘土採掘坑群（南半）出土土器　481は粘土採掘坑８周辺の直上から出土した土師器鍋である。口縁部は真っ直ぐ立ち上がり端部は外方に肥厚する。体部最大径は中位にある。兵庫津編年Ⅳ類に相当する。15世紀前半～中頃と考えられる。482は粘土採掘坑５から出土した無釉陶器羽釜である。直立する体部・口縁部に短い鍔が伴う。形状は兵庫津羽釜編年Ａ系列Ⅱ類に近いが、外面にタタキを施す。14世紀前半頃と考えられる。483は粘土採掘坑５から出土した須恵器椀口縁部である。浅く直線的に外方へ開いている。484は粘土採掘坑８から出土した完形の須恵器捏鉢である。体部は外方へ直線的に開き、口縁端部は上方に拡張し、外傾した面をもち、内面は窪む。兵庫津Ｂ３類、14世紀代と考えられる。484は底部に径４㎝ほどの孔を穿っており、粘土採掘坑を埋め戻す際に祭祀的な意図をもって投入したものと考えられる。485は調査区南西隅の粘土採掘坑群直上から出土した施釉陶器皿片である。瀬戸・美濃焼系の折縁皿と考えられる。時期は15世紀代と考えられる。486は龍泉窯青磁碗である。

・包含層出土土器　487は須恵器小皿である。口縁部は外反し端部は丸く収める。右回転糸切りを施す。488は須恵器小皿である。底部と体部の間に稜を持つ。口縁部は短く外反する。右回転糸切りを施す。489は須恵器椀である。底部外面は右回転糸切りを施し、心持ち丸みを帯びる。体部は外方に開き若干外反する。490は須恵器椀である。底部を欠く。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は心持ち外反する。491は須恵器椀である。489・490よりも深い器形である。見込みの部分が一段浅く窪む。底部外面は右回転糸切りを施し、心持ち丸みを帯びる。体部は外方に開き若干外反する。492は須恵器耳壺頸部から肩部にかけての破片である。耳の貼付部分が残存している。四耳壺と考えられるが、頸部は細い。493は丹波焼火入れである。494は無釉陶器瓶である。非常に小型、全体に自然柚がかかる。底部は若干突出し、右回転糸切りを施す。495は白磁玉縁口縁碗の底部である。見込みに沈線が一条巡る。496は龍泉窯青磁鎬蓮弁文碗である。497は青磁碗底部である。高台裏の釉は掻き落とされている。

津万６東区の土器（図版107、写真図版145）

・SH08出土土器　SH08からは土師器甕（498）が出土している。短く外反する口縁部で、体部外面にはタタキを残して縦方向ハケで仕上げる。内面もハケ仕上げ。煤が付着する。

・SH09出土土器　SH09からは499が出土している。土師器底部で、平底から大きく開く。外面はヘラミガキ、他はナデで仕上げる。

・P24出土土器　P24からは土師器高杯（500）が出土している。椀状の杯部は直立する口縁部に至り、口縁端部をヨコナデでわずかに外反気味とする。外面はヘラミガキ、内面は横方向のハケから放射方向のヘラミガキ。脚部は脚柱部から真っ直ぐに開く。外面は縦方向のヘラミガキ、内面はハケ調整から一部ナデ

で終わる。杯部の内外と脚端部に黒斑が広がる。

・SK15出土土器　SK15からは須恵器杯蓋（501）が出土している。天井部に回転ヘラケズリが当たる。ＴＫ23・ＴＫ47並行期のものである。

津万７区の土器（図版108～112、写真図版146～153）

・SD16出土土器　SD16からは弥生土器・土師器・須恵器502～564が出土している。

502は土師器二重口縁壺で、直立する頸部から屈曲して水平に開き、再び屈曲してやや開き気味に直立する口縁部へ続く。頸部外面は縦方向ハケ、口縁部はヘラミガキからヨコナデ。内面は横方向のハケからナデで仕上げる。503も二重口縁壺で、肩部から外反し、稜をもって再び外反する口縁部へ続く。口縁端部は上方に尖らせて外に面を作る。口縁部内外にヨコナデとヘラミガキを施す。胴部外面はナデとヘラミガキで仕上げ、内面は粘土継ぎ目を残して横方向の強い板ナデを施す。504は肩部から直線的に開き、口縁端部を水平に外反させる広口壺である。口縁端部は上方に拡張して擬凹線を巡らせる。肩部外面はヘラミガキ。口縁部内面はハケからヨコナデ。ナデとヘラミガキで仕上げた頸部外面に３重の沈線で囲んだ中にヘラ描きの右向きの馬のように見える文様を描いているが稚拙である。505は突出した平底から、最大径を下方に置く胴部から短く外反する口縁部をもち、口縁端部は上方に摘まみ上げている。外面は胴部最大径周辺に横方向のヘラミガキか板ナデ。その上下は縦方向のハケとヘラミガキからナデ仕上げ。肩部には右上がりの平行タタキが残存する。頸部外面にはヘラ記号様の文様を描く。内面は強いナデかハケを施す。506は球形の体部から屈曲させて外反する頸部へ続き、口縁端部は上方に摘まみ上げている。外面下半はわずかに左上がりの平行タタキを残して縦方向ヘラミガキ。上半はハケを残して縦方向のヘラミガキで仕上げる。頸部には縦方向の、その付け根には横方向のヘラミガキを当てる。内面はユビオサエを残して上半にヘラミガキ様の強いナデを施す。507は肩部から緩く屈曲して直線的に開く壺で、外面は細かくハケを入れ、上半はナデで仕上げる。内面はヘラケズリを施す。508は短く屈曲して開く口縁部で、内外にハケを当てた後に、頸部上下に縦方向のヘラミガキを施す。509は下層出土。肩から短い口縁部が直立する直口壺。510は胴部のみの出土であるが、細頸壺と思われる。算盤玉状の胴部で、外面の最大径周辺は横方向の、その上下は縦方向のヘラミガキ。内面も上下に分けて強くナデ上げで調整する。511も胴部中央が張る壺で、外面上半が縦方向ハケからヘラミガキ。下半は横方向のハケから縦方向のヘラミガキ。最大径周辺は横方向のヘラミガキを施す。内面下半は横方向のハケが残り、上半はユビオサエを残して横方向の強いナデ。最大径の部分にはヘラケズリを施す。頸部内面にはハケが残る。512は、丸底気味の底部で、ハケからナデ調整。513は脚台状の底部に焼成前の穿孔を穿つ。穿孔周辺の内面が変色している。

514は短く外反する口縁部の甕で、外面は縦方向のハケからヘラミガキか板ナデを施し、ナデ仕上げを行う。内面下半は斜め、頸部以下は横方向のヘラケズリ。515は外面には右上がり平行タタキを残して縦方向の板ナデやハケから縦方向にヘラを当てる。内面は板ナデ。外面に煤が付着する。516は小型の甕で、タタキからハケ、ナデ仕上げと思われる。517は短く外反する口縁部で、口縁端部を拡張する。肩部外面にはタタキ、内面にはハケが残る。518は外反して水平に開く口縁部で、外面に残る右上がり平行タタキは左に行くと縦方向に近くなり、再び横斜め方向になる。それが４回ほど繰り返されるので、土器本体を４回持ち替えてタタキ締める工程が読み取れる。頸部外面は縦方向ハケ、内面は横方向ハケからナデで仕上げる。煤付着。

519は下層出土。平底から最大径を上半部にもつ胴部へ、そして短く外反する口縁部をもつ甕。外面は

下から9.5㎝の粘土継ぎ目までは左上がり平行タタキ、その後、下半部に横方向のタタキ、左上がりのタタキを覆うように粘土が上から被り、下から14㎝までは横方向タタキ、その上は頸部まで右上がりのタタキ、肩部の一部にハケが見られ、ハケ・ナデ・無文のタタキによって平行タタキが消されている。内面はハケ調整。520はくの字に屈曲して直線的に広がる口縁部。外側は右上がり平行タタキで、上半はやや横方向の平行タタキで成形。その上下境の粘土継ぎ目には縦方向のハケを施す。内面はハケで仕上げる。521は外反口縁で端部を尖らせる。外面は左上がり平行タタキを縦方向ハケで消す。内面は斜めのハケで、下半は左上がりの12本／１㎝の細かいハケ、上半は右上がりの６本／１㎝の粗いハケが残る。522は平底から倒卵形の体部へ続き、屈曲して開く口縁部へ至る。外面下から12㎝までは右上がり平行タタキ、底部周辺にはその後横方向タタキ。12㎝以上にも右上がりだがやや横方向のタタキを下段のタタキに被るように施す。底面にもタタキが見られる。内底面はヘラケズリ様の強いナデ上げ。頸部内面にはハケが見られる。外面煤が付着。523は下層出土。粗い右上がりの平行タタキが外面に残っている。内面は縦方向のハケ。外面煤付着。524の外面は右上がり横方向気味の平行タタキの上から、中程の位置に右上がり縦方向タタキを少し打つ。内面中程には横方向の強い斜めハケ。外面煤付着。525は外面右上がり平行タタキ。内面縦方向ハケ。煤付着。526は外面をハケ、ナデで調整している。内面の粘土継ぎ目付近には横方向の強いナデを施す。煤付着。527は口縁端部を尖らせている。外面には右上がり平行タタキを頸部上まで残し、一部には左上がり平行タタキが見られる。内面にはハケが観察できる。528は平底から倒卵形の胴部へ続き、外反して上端を尖らせる口縁端部へ至る。外面は下から８㎝までは斜め左上がり平行タタキ、その上から12.5㎝まではやや横方向の左上がりタタキ、その上は再度斜め左上がりタタキで成形し、その上から縦方向のハケを入れる。内面は縦方向ハケ。外面に煤が付着する。529は倒卵形の胴部に強く屈曲した口縁部、そして端部は上方に大きく拡張して受け口状にする。外面の上から16㎝以下は右上がり平行タタキ、その上13.5㎝までは横方向のタタキから縦方向のハケ、その部分の内面には横方向のヘラナデが施されている。最大径以上の外面は再び右上がりのタタキ成形で、頸部付近はハケとナデで仕上げている。内面の下半は斜め方向のハケ、上半は横方向のハケが見られる。煤・焦げが付着する。530はタタキを残した頸部から外反する口縁部へ、口縁端部は上方に摘まみ上げて外面を作る。右上がり平行タタキ。最大径の部分ではそのタタキの上から横方向のタタキ。部分的に縦方向のハケを入れる。内面は横方向の粗いハケ。531は下層出土。口縁端部を上方に摘まみ上げる。外面は右上がり平行タタキ。一部タタキの上に縦方向のハケ。ナデ仕上げ。内面にはユビオサエが残る。532は鉢に近い器高で、口縁端部を上方に拡張して受け口状にする。外面には平行タタキが残り、底周辺は左上がり、中程より右上がりのタタキを施す。内面下半はナデ上げ、最大径以上は横方向のナデ。533は下層出土の小型の甕で、口縁端部を少し上方に摘まみ上げて、外面に擬凹線を巡らせる。外面は右上がり平行タタキだが、一部左上がりの平行タタキがその下に見える。内面は縦方向のハケだが、強く削り込んでいる。煤付着。534は大型の甕で、屈曲して外反する口縁端部を上下に拡張して面を作り出す。上面も受け口状になる。外面は右上がり平行タタキ。頸部から肩の一部に縦方向のハケ。内面の下半には縦方向のハケ。上半は斜め方向の板ナデか。頸部には横方向のハケが見える。

535は口縁部を失った甕の体部で、底から９㎝までの外面は左上がりの平行タタキ、それ以上はやや右上がりの横方向平行タタキで成形している。中程はナデのためかタタキが消失している。536は外面には右上がりの平行タタキを施すが、上に行くほど右上がりが強くなる。底面にも少なくとも２方向からの平行タタキが残る。内面はハケから強いナデ上げ。537の外面下半は左上がりの平行タタキ、最大径以下で

は横方向のタタキが残り、縦方向のハケを当てて仕上げるため肩部にはタタキが見られない。内面は上方向のケズリ状板ナデ、上半はハケからナデ。外面に煤が付着している。538は外面が縦方向ハケ、内面は上方向にヘラケズリを施す。

539は脚台付鉢で、ユビオサエを残して外面は縦方向ハケ、内面は横方向ハケで仕上げる。540は手捏ねミニチュアの鉢で、黒斑が顕著である。541は底面に広葉樹の葉脈痕を残して内湾気味に開き、口縁部に至る。内外をナデあげて仕上げる。542～545は有孔鉢で、焼成前の孔を穿った小さな平底底部からわずかに内湾して開く。外面には右上がりの平行タタキが残る。542内面はハケで仕上げる。口縁部のヨコナデ仕上げもほとんど見られない。下層出土の543では外面の上方には横方向のタタキが残り、内面はナデ上げて上半部は横方向のナデを施す。544では外面下半はタタキの後、ハケ或いはナデ上げ。口縁部ヨコナデ。内面はハケ。尖底気味の545では外面横方向のタタキにやや縦方向のタタキを被せる。内面はハケ。546は大型外反口縁鉢で、大きく開く体部から一旦直立した後、外反する口縁部で、端部は拡張して端面に擬凹線を巡らせる。外面下半は縦方向の、口縁直下から立ち上がり下までは横方向のヘラミガキ。内面の底付近は縦方向の、立ち上がり付近は横方向のヘラミガキで丁寧に仕上げている。下層出土の547と548も大型外反口縁鉢で、内湾する体部から外反する口縁部に続く。口縁部付近の器壁が一番厚い。548では端部を少し肥厚させている。内外面はナデとヘラミガキで比較的丁寧に仕上げている。549・550は大型の把手付鉢で、逆U字形の庇状の把手を肩部に貼り付ける。549の外面には左上がりの平行タタキが残る。内面は横方向のハケと直交するヘラミガキで仕上げる。550は内湾する体部から外反する口縁部に続き、端部はやや肥厚させて端面に擬凹線を巡らせる。外面はハケからナデ仕上げ。内面下半は縦方向のハケからヘラミガキ。頸部の上下は横方向のハケから横方向のヘラミガキを施す。口縁部はヨコナデを施し、内面はヘラミガキを追加する。

551～562は高杯・器台である。下層出土の551は内湾気味に開き、稜をもって外反して立ち上がる口縁部へ続く。中実の脚柱部から直線的に開く脚部には円孔が１ヶ所残る。杯部外面はハケ、ヘラが当たるがナデ仕上げ。内面はヘラミガキからナデ仕上げ。脚柱部内面は抉られており、中央に円筒状のものが刺さっていた形跡が残る。552は内湾して開く杯部から稜をもって外反する口縁部へと続く。杯部外面は縦方向のヘラミガキ。杯部内面は縦方向のヘラミガキ、口縁部内面は横方向のヘラミガキとヨコナデで仕上げている。下層出土の553は内湾気味に開く杯部が稜をもって一旦段を作って立ち上がり、更に直線的に開く口縁部に至る有段高杯。杯部外面には右上がりの平行タタキが残っており、縦方向のハケからヘラミガキを当てている。杯部内面は放射状のヘラミガキ、立ち上がり部から口縁部上面にはヨコナデから横方向のヘラミガキを施す。円筒状の脚柱部外面にはハケからヘラミガキを施している。下層出土の554は深く内湾した杯部から口縁部を外反させ、端部は上方に拡張させている。内外面ハケからヘラミガキか。外面に黒斑が広い範囲で広がる。555は内湾して開く杯部から外反して開く口縁部へ続く。内面に稜を作る。外面はハケから縦方向のヘラミガキ。内面は放射状ヘラミガキ、口縁部上面と稜の直下には横方向のヘラミガキを施す。556は浅い皿状の杯部をもつ。脚部は中空の柱部から直線的に開く脚部に三方の大きな円孔を穿つ。杯部外面はヘラミガキ、内面はナデ調整を施す。脚部は縦方向のヘラミガキで、脚端部は横方向にもヘラを当てる。脚部内面はハケ調整。557は深い椀状或いは鉢状の杯部に脚柱から直線的に開く脚部に続き、脚部には三方に円孔が残る。脚端部外面を浅く窪ませ、ヘラ描き鋸歯文を描く。内湾して口縁部が絞まる杯部外面は縦方向のヘラミガキの後、最大径に位置に横方向のヘラミガキを施す。内面はハケの後、ヘラミガキからヨコナデ仕上げ。脚部外面は脚柱部から鋸歯文まで縦方向のハケからヘ

ラミガキ、脚内面はハケからナデで仕上げる。558は直線的に開く脚で、端部は上下に拡張して面を作る。外面はハケを当てた後、縦方向のヘラミガキで仕上げる。内面は斜め方向のハケからヘラミガキか。559は直線的に開く脚部で、円孔を穿つ。外面は縦方向のヘラミガキ、内面はハケで仕上げる。内面裾部に煤が付着する。560はあまり広がらずに直線的に伸びる脚部で、三方に円孔を穿つ。外面は縦方向のヘラミガキ、内面はナデ仕上げ。561は短く開いた脚台で、外面はハケ調整で、極一部にヘラミガキが当たる。杯部内面にもハケ、ヘラミガキ、ナデが観察できる。脚台内は板ナデか。脚端部は不調整。562は器台円柱部。２段にわたって三方に円孔を穿つ。脚柱内面にはヘラケズリ、内外面はナデとヘラミガキで仕上げる。

563・564はSD16下層出土の須恵器壺口縁部である。564は口縁直下に櫛描き波状文を描く。古墳時代のものであろう。

・SD18出土土器　SD18からは土師器高杯脚柱部（565）が出土している。中空で内面に絞り痕を残す。

・SD19出土土器　SD19からは566が出土している。中空の高杯脚部で、脚端部を水平に広げている。外面は縦方向のハケからヘラミガキ、ナデで仕上げる。脚柱部内面は強い板ナデ状に抉っている。脚端部はヨコナデで仕上げる。

・土器溜まり出土土器　土器溜まりからは567が出土している。器台杯部で、大きく水平近くに開く口縁部。端部は下方に粘土を付加して上下に拡張している。内上面は放射方向のヘラミガキを施す。

・SD18上層出土土器　568は須恵器杯Ｈである。斜め上方に直線的に立ち上がる体部を持ち、内傾する短めの立ち上がりをもつ。飛鳥Ⅱ期、７世紀中頃か。569は須恵器杯Ａである。底部は右回転のヘラ切り、口縁部は心もち外反する。570は須恵器杯Ａである。底部は右回転のヘラ切りか。口縁部は心もち外反する。569と類似する。571は小型の杯Ａあるいは椀（盌）。但し、内面が平滑ではなく、壺類の蓋の可能性もある。本稿では杯・椀類として記述する。底部外面は回転ヘラおこし、体部は右回転のロクロナデ、口縁端部は外反する。外面に自然釉が付着する。572は須恵器皿Ａである。平坦な底部に短く外方に立ちあがる口縁部をもつ。底部外面はヘラ切り後ナデ調整を施す。573は須恵器杯B、杯部は直立に近い。口縁端部を欠く。高台は底部・体部境に近い部分に貼付されている。８世紀後半から９世紀前葉の時期と考えられる。574は須恵器壺の口頸部から肩部の破片である。瓶の可能性が高い。口縁端部を欠く。上部に波状文が残る。

・東側溝出土土器　575は須恵器壺口頸部である。肩部との境は明瞭、口縁部は外反し、端部は上方に摘まみ上げられ、外側に面を持つ。壺Ｎ（平城宮分類）もしくは双耳壺類と考えられる。９世紀前葉頃か。

津万８区の土器（図版113・114、写真図版154～157）

・SD03出土土器　溝SD03からは土師器（576～581）が出土している。576は広口壺で、外面下半は右上がりの平行タタキ、肩部はヘラミガキからナデ調整か。内面はユビオサエを残して板ナデか。577は二重口縁壺。肩部からコ字状に頸部を開き、稜を作って外反する口縁部に至る。外面は縦方向のヘラミガキ、ナデ仕上げを施す。内面肩部はユビオサエを残して横方向の板ナデ。578は口縁部を欠くが底部は丸底であろう。球形の胴部から頸部が立ち上がる。肩部外面は縦方向ハケの後、縦から横方向のヘラミガキで仕上げる。内面は横方向のハケ。

579は平底の鉢で、内湾する胴部から屈曲して開く口縁部へ続く。外面は縦方向のハケからナデやヘラミガキ。内面は縦方向のナデやヘラミガキを施す。580は有孔鉢か。尖底に焼成前の孔を穿ち、横方向の平行タタキで成形する。

581は蓋。ユビオサエを残して成形した脚台状の摘まみから外反気味に広がる。外面は斜め方向のハケで調整し、一部に縦方向のヘラミガキ、ナデで仕上げる。

・SX02出土土器　582～584・586～590は須恵器の技法で作製されているが、酸化炎で焼成されており、ここではロクロ土師器の一群として、通常の須恵器と別個に扱っておく。

582は器高の低い小皿である。右回りの回転糸切りを施し、底部は平底あるいは糸切りの状況によって高台様に突出する部分が生じている。底部に斜めに立ち上がる肥厚した口縁部が付く。端部は丸く収める。底部と口縁部の境は深く凹んでおり、円形粘土板に口縁部をつけて作成した可能性がある。583は582と同様の形状・技法をもつ小皿である。器高・深さともに1.5倍ほどの法量を測る。584は582・583と同じく酸化炎によって焼成された小皿である。底部は右回転糸切り、板状工具によってナデを施す。口縁部は短く外方に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。582・583に比べ丁寧に仕上げている。

585は手捏ね整形の土師器皿である。底部の器壁は薄く、ユビナデによる凹凸が目立つ。口縁部はヨコナデ調整、内湾し端部は丸く収める。

586～590は、酸化炎で焼成された椀である。586は底部に右回りの回転糸切りを施し、体部から口縁部な外方へ直線的に立ち上がる。口縁端部はロクロナデによって心もち外反する。587・588は底部にロクロ右回転の糸切りを施し、底部外面中央が薄らと盛り上がる。体部から口縁部は外方へ直線的に立ちあがり、端部は稜を持つ。全体にロクロ目が顕著である。588は587に比べ、器高が低く、底部がやや薄い。589・590は底部にロクロ右回転の糸切りを施し、平坦な底部を作り出している。底部・体部の境は丸みを帯び、体部・口縁部は外方へ直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。共に体部にはロクロ目が顕著である。590は器壁が589に比べ薄い。底部中央には、内面から外面に向けて穿孔されている。

591は土師器鍋である。体部は球形を呈し、口縁部は大きく外反し、外傾する面を持つ。外面は右上がりの平行タタキが連続し、内面はあて具痕をナデ消している。曽我井・沢田遺跡に類例があり、中世前期と考えられる。

592～609は須恵器である。うち、592～596は須恵器小皿である。592は、口縁部が外方に立ち上がり、端部は丸く収めている。器高は低い。底部外面は右回転の糸切りが施されている。593は底部にロクロ右回転の糸切りを施す。底部外面は中央が薄らと盛り上がり、心持ち突出する部分が生じている。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸く収める。594は592・593に比べ小径の小皿である。底部にロクロ右回転の糸切りを施すが、底部外面は中央が薄らと盛り上がりを見せる。また、体部との境についてはロクロケズリを施す。口縁部は外方に立ち上がり端部は肥厚する。595は底部にロクロ右回転の糸切りを施し、底部は厚く心もち突出する。口縁部は低く内湾気味に立ち上がり、端部は肥厚し丸く収める。形体は190・土師器583と類似する。596は底部には右回転の糸切りが施されている。切り離し後の調整はなく、粘土片が付着したままである。体部との境はロクロナデで強く外反し、口縁部は内湾する。全体に器壁が厚く、口縁端部は丸く収めている。底部にはモミ痕が残り、胎土中には種子類の可能性がある炭化物が認められる。

597は須恵器椀である。底部外面は右回転糸切りを施し、体部との境は心もち丸みを帯びる。底部内面見込みは一段窪む。体部は外方に開き、口縁端部に向かって肥厚する。口縁端部は摘み上げ状になって内面側が弱く凹む。598は597と類似する。器壁は597よりも薄く、内面に凹みはない。口縁端部に重ね焼き痕が認められる。599は597と類似する。底部にロクロ右回転の糸切りを施し、底部外面は中央が薄らと盛り上がる。底部内面見込みは浅く一段窪む。口縁部が外方に開き端部は若干外反する。器壁は597より

も薄く、底部にはモミ痕が残り、胎土中には種子類の可能性がある炭化物が認められる。600は599と類似する。底部にロクロ右回転の糸切りを施し、底部外面は中央が薄らと盛り上がる。口縁部が外方に開き、端部は心持ちロクロナデによって外反する。器壁は599と同じく薄い。601は600と同じ器形である。底部内面見込みは浅く一段窪む。底部外面には『井』様の墨書が書かれている。書き順が、右縦⇒上横・下横もしくはその逆⇒左縦の順であることから井戸の井ではなく『道満印』の九字の類の可能性も考えられる。602は601・600と同じ器形である。胎土中に計２㎜内外の炭化物が認められる。603～605は599～602と比べ器高が高く、口縁部が外反する。４点は口縁端部が何れも肥厚する。603は底部にはロクロ右回転の糸切りを施すが、体部は半球状に丸みを帯びる。全体に器壁は薄い。

604と605は603に比べ底面が平坦に近い。604は体部が603と同様に内湾して立ち上がり、口縁部は若干外反し口縁端部は肥厚する。また603・605に比べ器壁が厚い。604の外面には墨書が認められる。釈読は不明である。加えて内面全体に煤が付着しており、燃焼行為があったと考えられる。605では重ね焼きの痕跡が認められる。606は体部下半以下を欠く。605と同様に口縁部が若干外反する。607は底径が大きく体部中位に強いロクロ目が巡る他の須恵器椀と形態をことにする異形の須恵器椀である。底部にロクロ右回転の糸切りを施し平坦である。体部との境は丸みを帯び内湾気味に立ち上がり、中位のロクロ目で一旦屈曲する。体部上半は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反し端部が小さな玉縁となる。見込みは中央が窪みを見せる。

608は須恵器捏鉢である。体部から口縁部は直線的に外方に立ち上がり、口縁端部は外傾し面を持つ。兵庫津分類のＢ１類、12世紀後半の時期と考えられる。

609は古代の須恵器鉢Ｆである。内外面に刺突されている。底部の摩耗は激しい。

・SX01出土土器　610は須恵器椀である。外面底部は若干膨らみ体部との境は若干丸い。右回転の糸切りによって調整されている。体部は外方に心持ち内湾気味に開き、端部は肥厚し、丸く収める。口縁端部には重ね焼き痕が認められる。

２．木製品（図版115～118、写真図版158～164）

木製品は48点図示した。以下、地区ごとに述べてゆく。なお、本文中の上端・下端は特に断らない場合は、図化レイアウトの上下を指し、左右は図化した状態の木製品の左右を指す。

津万３西区の木製品

Ｗ１はSD05より出土した丸木杭の一部と考えられる。上端は欠損する。下端には４面の内２面削りが良く残る。四角錐に先端を尖らせていたと考えられる。

津万４中央区の木製品

Ｗ２はSB02 Ｐ３-４から出土した柱根である。下端は平坦に加工されている。上端に向けて痩せている。

津万５東区出土の木製品

Ｗ３は木棺墓SK03から出土した木棺材の底板である。丸太材を裁断し、内側を船底状に彫りくぼめている。中央に方形の孔が開いており、柱材を再加工したものか。

津万６西区出土の木製品

Ｗ４～Ｗ10が出土している。Ｗ４は歯を削り出した角形の連歯下駄の一部である。前孔部分を欠失しており、全長は不明である。左右後孔の内法が4.5㎝と極めて狭いことから子供もしくは女性用であったと考えられる。Ｗ５は粘土採掘坑から出土した。上端の右隅が丸みをもっており曲物の底板の一部と考えられる。Ｗ６は４寸径の曲物の底板である。近代の溝から出土している。

Ｗ７～Ｗ10は粘土採掘坑５から出土している。Ｗ７・Ｗ８は曲物底板である。両者はほぼ接合し、もとは１個体であったと考えられる。側面に釘孔が６か所認められる。また内外面に刃物痕が多く認められる。

Ｗ９は厚板材を棒状に加工した木製品である。上下右側は切断加工されている。左側面は欠損している。上端及び上半に２か所、中位に１か所、ハツリによる加工が認められる。陽物の可能性がある。Ｗ10は径２㎝の丸木の枝を払い、下端の内２面を丁寧に加工している。上端についても斜めにハツリが施されているが、後世の切損の可能性も残る。木製祭祀具（斎串）もしくは小径の杭と考えられる。

津万８区出土の木製品

Ｗ11～Ｗ48及び写真のみ掲載したＷ49～Ｗ53は全て８区ＳＸ02から出土した木製品である。

Ｗ11～Ｗ17は容器・道具類をあげた。Ｗ11は折敷の底板片である。左上隅を落としているが、右上の隅はそのままにしている。長辺9.95㎝を測り、３寸角の折敷と考えられる。Ｗ12は穿孔を伴う板材片である。径２㎜ほどの小孔を穿っている。方形板材の角部分と考えられる。Ｗ13は幅約2.25㎝の細長い板材の残欠である。両端を欠失している。表面に径５㎜ほどの円形のアタリが２か所にある。Ｗ14は曲物の側板の残欠である。内面には７㎜間隔前後で毛引きが施されている。板の下端近くには円孔が穿たれている。底板を木釘止めするための孔と考えられる。Ｗ15は五角形の板材に柄を造り出した杓文字もしくは羽子板と考えられる。石などを打った打痕が認められないことから杓文字としておく。Ｗ16は刀子の柄である。差し込み部の形状から、峰は平で両刃の平造りあるいは切刃造りと考えられる。茎は長さ6.5㎝前後あったと考えられる。Ｗ17は円柱状の木製品である。側面は細かく面取りを行い、上面には矩形の切れ込みと細い溝を切り込んでいる。糸巻の可能性が考えられる。

Ｗ18～Ｗ33は木製祭祀具と考えられるものである。Ｗ18は木製祭祀具の刀形と考えられる。切先、刃部と茎の境は錬区を表現しており、刃区は造り出していない。刃部の形状は切刃造りを模したものと考えられる。Ｗ19・Ｗ20は円柱状の木製品の下端を細かな削りによって尖らせている。Ｗ19は上端にも面取りを施し、胴部もまた中央に最大径をもち両端部に向かって緩やかにすぼまる形状になっている。Ｗ20もまた上端に面取りを施し上部がすぼまる。Ｗ19・Ｗ20どちらも下端が欠損している。径の大小はあるが、木製祭祀具の独楽もしくは佐助ヶ谷遺跡を類例とする鏑矢形の可能性がある。

以下の木製品Ｗ21～Ｗ33は、加工状況と形態から斎串と判断した。断面形状は丸もしくは四角く、通常の薄板材の使用ではない。切り欠きはない。Ｗ21・Ｗ22は自然木の丸木の両端を加工し、下端を尖らせたものである。Ｗ21は径９㎜前後の棒の下端を尖らせた木製祭祀具と考えられる。上端は欠失している。下端は片面を残し、もう片面を３方から斜めに削って先端を尖らせている。斎串（木針状木製品）と考えられる。Ｗ22は緩やかに曲がった自然木（丸木）の両端を加工している。上端は斜めにハツリ、下端は長く斜めに切断し尖らせている。斎串（棒状木製品）と考えられる。Ｗ23・Ｗ24は面取りをした棒状の製品である。上端は斜めに削り、下端は尖らせるものである。Ｗ23は折損し２本に分かれているが、同一個体と考えられる。共に八角形に面取りしている。上端部は斜めに削り（ハツリ）を施している。下端は先端に向かって尖らせ、扁平に造り出している。また下端は炭化している。全体の形状・加工は面取りを除けばＷ22に近い。斎串（棒状木製品）と考えられる。類例として、白山橋遺跡の先頭型木製祭祀具が上げられる。Ｗ24は面取りをした八角形の棒の一旦を斜めに削ったものである。端部の加工はＷ22・Ｗ23と共通する。木製祭祀具と考えられ、類例として、白山橋遺跡の短冊型木製品が上げられる。

Ｗ25・27～Ｗ31は棒状の木製品の上端に切れ込みを入れ、下端を加工した製品である。Ｗ25は上端に

２か所の切れ込みが入り、中央部が厚さ５㎜程度の短冊状に残っている。上端は折損もしているため、両側が故意におり取られたか、折損によって無くなったかは不明である。下端は折損しているが、削られ先端に向かって細くなっている。斎串（棒状木製品）と考えられる。W26は多角形に面取りを行った棒状木製品である。２本に分かれており、接合しないが加工状況から同一個体と考えられる。両端とも角頭である。図上上端はやや細く削られている。下端に向けては太くなるが、先端はやや細くなっている。上下については不明である。W27は断面四角の角棒の上端を斜めにカットし、切れ込みを入れ、側面を削り下半に向かって細く加工している。下端は削りによって圭頭に仕上げている。木製祭祀具と考えられ、類例として白山橋遺跡の短冊型木製品が上げられる。W28は粗く割って細長い角棒にした木製品である。上端に縦向きの切れ込みを入れ、下端を尖らせている。粗製の木製祭祀具（斎串）と考えられる。W29は粗く割って細長い角棒にした木製品である。上端に深い切れ込みを入れており、折損している。下端は尖らせている。粗製の木製祭祀具（斎串）と考えられる。W30は面取りを行い四角形の角棒にした木製品である。上半は撓んでいる。上端はW24と同じく斜めに削っており、直下には切れ込みを入れている。また、下端はW29と同様に斜めにカットし尖らせている。木製祭祀具（斎串）と考えられる。W31は粗く割って断面四角の細長い角棒にした木製品である。上端は圭頭に近い形状に加工し、切れ込みが入っている。中位から下端に向けて削り尖らせている。粗製の木製祭祀具（斎串）と考えられる。W32は木製祭祀具（斎串）と考えられる。一側面を平坦に削り出し、上端を圭頭に、下端を尖らせている。同様の形状の斎串は、曽我井沢田遺跡で出土しているが、この製品は全体に薄く作られている。これに対しW32は、中位は削らず両端に向け削りを施しているため、中央部分が厚い四角形となっている。上端は焼け焦げている。砂入遺跡Ｃ２類の斎串と考えられる。

W33は木製祭祀具（斎串）と考えられる。粗く割って矩形に削った木製品である。上端は焼け焦げているため当初の形状は不明である。全体に下方に向け削りこみ矩形にしている。下端は細かく削りを施している。この加工状況と形態から斎串と判断した。断面形状は四角・多角形と裏面の加工は疎かにしている。通常の薄板材の使用ではない。切り欠き・切り込み等の加工はない。

W34～43は棒状に加工した木製品、いわゆる箸状木製品である。食事具もしくは木製祭祀具（斎串）と考えられる。W34は断面が長方形の角棒状を呈する、いわゆる箸状木製品である。上下端共に水平にカットされ、上端に比べ下端はやや細く削り出されている。全長19.2cmは中世の箸としては短く、太い。縦割りは認められないが、食事具ではなく祭祀具の可能性が高い。W35は面取りを行い下端に向かって細くなる箸状木製品である。上端側を欠失している。断面形状はやや扁平で、三角形に近い。下端には更に削りが加えられている。W36は面取りされ、細く削り出された箸状木製品である。概ね七角形に削られ、断面形状はほぼ丸くなっている。上部を意図的に折損している。下端はほぼ先端まで残るが、側面が欠失しており、先端が細くなっていたか否かは明確ではない。W37はW35と類似した箸状木製品で、上端側を欠失している。丁寧な面取りを行い下端に向かって細くなる。断面形状は扁平な六角形に近い。先端付近４cmには更に削りが加えられ、丁寧に尖らせている。W38は面取りされ、細く削り出された箸状木製品である。概ね六角形に削られ、断面形状はほぼ丸くなっている。上部を欠損している。下端はほぼ先端まで残り、端部付近が少し細くなっている。W39は箸状木製品である。面取りを行い断面形状はやや扁平で、下端部の４cmは更に削りが加えられ先端に向かって細くなる。上端側は欠失しているが刃物痕があり、意図的に折損したと考えられる。W40は面取りされ、細く削り出された箸状木製品である。面取りを行い断面形状はやや扁平で、一面を平坦にしている。上端側は欠失しているがほぼ先端に近い。下端の

約1.5㎝分に更に加工を加え尖らせている。形状から食事具ではなく木製祭祀具（斎串）と考えられる。W41は面取りされ、細く削り出された箸状木製品である。断面形状は丸く、W40の様な平坦面を造り出していない。上端側は欠失し、下端に向かって細くなっている。形状から食事具と考えられる。W42は面取りを行った棒状の木製品である。両端を欠失している。丁寧な面取りを行い、断面形状は扁平な八角形に近い。形状はW35・37に近く、W42も先端を尖らせていた可能性が高い。

W43は細く削り出された箸状の木製品である。面取りを行い、断面形状は丸く、下端に向かって若干細くしている。形状はW41と類似している。食事具（箸）と考えられる。

W44～ W46は短冊形の材に加工を加えた不明木製品である。W44は全長15.1㎝・幅1.9㎝の短冊形の木製品である。断面形状は楔形で、一方に向けて厚みが薄くなっている。用途は不明。木製祭祀具の可能性がある。W45は断面長方形の柄若しくは板材の一旦を加工したものである。左辺の中で、斜めにカットされた部分以外は折損している。木札あるいは形代の可能性があるが、確実な用途は不明である。

W46は断面長方形の柄若しくは棒状の木製品の一旦を階段状に切削したものである。再加工した意図・用途は不明である。

W47は板材である。上端以外は欠損している。

W48は角材を粗く割って細長い角棒にしたと考えられる。上端は凸部を削り出している。下端は粗くそろえている。用途は不明である。

３．金属器（図版119・120、写真図版165～167）

M１からM９は津万３中央区の木棺墓SK20から出土した金属製品である。青白磁合子・白磁碗・土師器小壺とともに出土しており、おそらく木製の箱に収められた化粧道具一式であろう。図化した他に写真掲載のM30～ M33のスラグがSK20から出土している。

M１は青銅製の方形鏡で、湖州鏡である。縦9.2㎝、横9.1㎝、厚さは0.1㎝程度で、鈕の高さ0.25㎝の非常に薄い鏡体で、出土時にはかなり亀裂が入り破損していた。鏡背面のほぼ全面と鏡面のごく一部に縦方向の繊維をもつ針葉樹と思われる木質が付着していた。両面に付着していることから、化粧道具箱本体ではなく、鏡箱或いは鏡収納内箱があったものと思われる。漆膜は確認されていない。鈕は位置や向きが鏡本体からずれており、形も歪である。

M２は鉄製の毛抜きで、M３の和鋏の握内に落ち込むように出土した。長さ8.2㎝、基部の幅0.5㎝、厚さ0.4㎝、両側部幅0.7㎝、厚さ0.3㎝、刃先幅0.3㎝を測り、バネとなる基部が厚く、握の部分の幅が広く、刃先の幅の狭いものである。

M３は和鋏（握り鋏）で、全長16.1㎝、刃長7.0㎝、各々の刃は内湾している。刃先は尖らせてあり、刃の基部が最も幅をもつ。基部の断面は細く方形を呈すが、握部側面は断面長方形に握りやすく作る。

M４は刀子である。残存長11.6㎝、刃部残存長7.0㎝。小さな両関をとって続く茎部には木質が残っており、木製の柄を装着したものと思われる。柄は関を少し刃部側に越えた位置で直線的に切れている。

M５は鏡背の木質上に付着して出土した鉄製の針で、おそらく両端部を失うが、残存長2.65㎝を測る。断面は円形を呈し、直径0.25～0.3㎝で下方が細くなる。針穴は見られない。

M６～ M８は両端を失った断面が方形を呈する鉄製品である。幅・厚さが0.5㎝以下で一方が細くなるM７・M８は、釘の可能性が高い。M６は中央部の幅・厚さが0.6㎝で、両端部へ向かって細くなり、断面は円形に近くなる。残存長が14.3㎝と長く、別の製品を考えた方がよい。

M９は頭部を直角に打ち広げた頭巻き釘で、頭部付近で0.4㎝ほどの幅である。

Ｍ10～Ｍ13は津万３西区出土の金属製品である。Ｍ10は円形竪穴住居址ＳＨ01から出土しているが、おそらく中世頃の混入であろう。長さ3.25㎝の角釘で頭部をたたき広げ折り曲げている。Ｍ11は機械掘削時に出土した刀子で、鉄製の刃幅1.4㎝の本体に銅製の柄を取り付けたものである。本体の刃部と茎部間には両関がわずかに作られる。図の右側に刃が付く。Ｍ12は水田上層の包含層から出土した。鉄板の一側辺に溝を入れた作りで、溝に木製部を差し込む鋤・鍬先の一部であろう。Ｍ13は上層水田から出土した方柱状の鉄棒で、上方の基部が幅・厚さが大きく断面が長方形を成しており、刃先の下部は細くなり断面は方形である。鉄製の馬鍬の刃と思われる。

Ｍ14～Ｍ17は津万３中央区出土の鉄製品である。

Ｍ14～Ｍ16は鉄釘である。Ｍ15は包含層から出土した。Ｍ16は上層大畦畔北側の小溝検出中に出土した。Ｍ17は大畦畔南に平行して走る溝ＳＤ05から出土した。同溝からは土師器鍋片が出土している。中央部は幅・厚みが0.65㎝の断面方形を呈すが、両端部をやや丸く細く作る。残存長9.3㎝と大きめであるが、合釘であろう。

Ｍ18～Ｍ22は津万４西区から出土した鉄製品である。Ｍ18はＳＨ01の埋土から出土している。幅1.1㎝、厚さ0.4㎝、残存長9.45㎝の細い板状の製品である。ヤリガンナの柄部かもしれない。Ｍ19～Ｍ22はＳＤ04から出土した。ＳＤ04からは土師器杯（272）や須恵器椀（273）等が出土している。すべて断面が方形か長方形を呈しており、大小があるが、釘と思われる。

Ｍ23・Ｍ24は津万４中央区の包含層からの出土で、Ｍ23は鍬、Ｍ24は全長10.2㎝の角釘である。

Ｍ25～Ｍ27は津万５東区南半部掘削中に出土した。Ｍ25は一端を欠き、折り曲がった刀子状の形態をもつが、刃部はなく、断面は長方形であった。Ｍ26は厚さ0.2㎝弱の鉄板を折り曲げて作られる。Ｍ27はＰ164から出土した釘である。写真掲載のＭ34は同じく５東区南半機械掘削で出土したスラグである。

Ｍ28・Ｍ29は津万６西区掘削中に出土した。Ｍ28は薄い鉄板の一部を尖らせ、その根元を先の尖った木質で挟み込んだ状態であり、逆刺のある鏃身を根挟みがやや歪んだ位置にずれた鉄鏃と思われる。Ｍ29はやや厚みのある鉄板の一側辺を折り返したような形状で、鉄製唐鋤の風呂部の破片と考える。写真掲載のＭ35～Ｍ37は同じく６西区掘削中に出土したスラグである。

４．石器（図版121、写真図版168）

石器はＳ１～Ｓ９の９点が各地区より出土している。

Ｓ１は４西区ＳＨ01から出土した打製石鏃である。表面は両面とも風化により灰白色化する。基部の形態は凹基式である。腹面からみて右側の脚部は欠損している。脚部外縁はくの字状に屈曲し、この特徴は縄文時代の円脚鏃と形態が似る。刃部側縁は細かな押圧剝離によって直線的に作られている。全長1.45cm、最大幅0.91cm、最大厚0.25cm、重量0.3ｇ、抉りの深さ0.30cm、石材はサヌカイトである。

Ｓ２は６西区から出土した打製石鏃である。先端部は衝撃剝離によって微欠する。また、先端部やや下方には、風化度合いの異なる抉りの深い剝離が見られる。これは使用時に生じた衝撃剝離であると考えられる。基部の形態は凹基式である。刃部及び脚部側縁は細かな押圧剝離によって直線的に作られており、抉りが全長の４分の１程度であるため、逆Ｖ字形の石鏃であると言える。全長2.20cm、最大幅1.70cm、最大厚0.40cm、重量1.0ｇ、抉りの深さ0.51cm、石材はサヌカイトである。

Ｓ３は確認調査時に６区旧河道から出土した打製石鏃である。表面は両面とも風化により灰白色化する。腹面先端にみられる剝離は、先端部に打点をもっており使用時の衝撃剝離である。基部の形態はやや異形ながら、平基式である。調整時の押圧剝離は、大きさや深さが不統一であり、平面形も整っているとは言

い難い。全長2.70cm、最大幅1.75cm、最大厚0.50cm、重量2.4ｇ、石材はサヌカイトである。

Ｓ４は５東区南部包含層から出土した石錐である。上部は折れにより欠損しており、つまみ部にあたる箇所は殆ど確認できない。また、腹面からみて左側も折れによって欠損している。ただし、この左側箇所は欠損後再加工を施している。一方、錐部の先端は衝撃剝離により欠損している。背腹面ともに素材剝片を多く残しており、調整のための押圧剝離は作用部位である錐部に集中する。残存長5.40cm、最大幅1.85cm、最大厚0.65cm、重量5.4ｇ、石材はサヌカイトである。

Ｓ５は６西区粘土採掘坑５から出土した打製石包丁である。背面の一部には、風化面と朽木状の原礫面が残る。またそれ以外の背面側縁は、刃潰しが施されている。刃部は細かな押圧剝離によって片刃に加工されており、使用痕と考えられる摩滅が全体的にみられる。全長14.25cm、最大幅5.55cm、最大厚0.95cm、重量77.1ｇ、石材はサヌカイトである。

Ｓ６は確認調査Ｔ28（４中央区）から出土した楔形石器の欠損品である。上端は直線的であり、両極技法の影響で端部にはツブレが生じている。調整用の押圧剝離は粗雑で少ない。加工中に下面が欠損したと考えられる。全長2.52cm、最大幅3.36cm、最大厚0.70cm、重量6.5ｇ、石材はサヌカイトである。

Ｓ７は５東区から出土した楔形石器である。背面に一部原礫面を残す。上端は直線的で、弱いツブレが生じている。一方で全体的に剝離は浅く、石器中心部にまで及ぶ深く長い剝離が少ない。また、一部で刃を作り出すための細かな押圧剝離を施している。そのため、楔形石器ではなく削器である可能性も考えられる。全長3.80cm、最大幅4.50cm、最大厚1.05cm、重量16.1ｇ、石材はサヌカイトである。

Ｓ８は３中央区Ｐ67から出土した砥石である。大型で安定感がよく、置き砥であると判断される。４面に使用面が見られ、砥石長軸方向に使用痕が観察できる。一方で、図の上部にあたる面は丸みを帯びており、敲打痕が見られるため、敲石としての用途も兼ね備えていた可能性がある。長軸20.4cm、短軸10.3cm、最大厚4.50cm、重量1425ｇ、石材は砂岩である。

Ｓ９は４西区ＳＨ02、西壁中央直下の床面に置かれた台石である。２面に使用痕である摩滅がみられる。研磨痕や敲打痕は見られない。長軸38.3cm、短軸25.8cm、最大厚7.0cm、重量11700ｇである。

参考文献

（**土　器**）神野　恵　2005「第３章　出土遺物」『平城宮発掘調査報告ＸⅥ』奈良文化財研究所学報第70冊
全国シンポジウム2005.9『中世窯業の諸相』資料集
太宰府市教育委員会2002.3『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財　第49集
西脇市教育委員会2005.3『西脇市窯跡調査集報』
日本中世土器研究会2015.12『中近世土器の基礎研究26　東播系須恵器－編年と分布から考える－』
兵庫県教育委員会2004.3『兵庫津遺跡Ⅱ　浜崎・七宮地区の調査』第270冊
兵庫県教育委員会2006.3『板場町遺跡』第294冊
（**木製品**）佐助ヶ谷遺跡発掘調査団1993.6『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書』
穴水町教育委員会1987.3「白山橋遺跡」『西川島　能登における中世村落の発掘調査』
兵庫県教育委員会2012.3『曽我井・堂ノ元遺跡、曽我井・野入遺跡、曽我井・沢田遺跡』第434冊
兵庫県教育委員会1997.3『砂入遺跡』第161冊

表３　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
1	82	93	弥生土器	広口壺	(13.6)	(13.9)	腹径(16.5)		1/4		体1/4	3西区	SH01	
2	82	93	弥生土器	広口壺	(13.3)	(10.3)	-		1/4弱			3西区	SH01	
3	82	93	弥生土器	壺	-	(11.1)	腹径(20.9)				体上部1/4	3西区	SH01	
4	82	93	弥生土器	直口壺	10.8	(24.65)	腹径(19.55)		1/4欠	1/2		3西区	SH01	
5	82	93	弥生土器	直口壺	12.8	(11.25)	-		1/4		頸部1/2	3西区	SH01	
6	82	93	弥生土器	直口壺	(13.3)	(11.3)	-		1/4			3西区	SH01	
7	82	93	弥生土器	直口壺	(12.6)	(7.4)	-		小片			3西区	SH01	
8	82	93	弥生土器	高杯	(22.8)	(4.1)	-		小片			3西区	SH01	
9	82	93	弥生土器	甕	(15.25)	19.8	4.45		1/2	1/2		3西区	SH01	
10	82	93	弥生土器	甕	(16.0)	(3.8)	-		1/6			3西区	SH01	
11	82	94	弥生土器	甕	-	(6.5)	(3.4)			完存		3西区	SH01	
12	82	94	弥生土器	鉢	(22.25)	11.6	(5.4)		1/7	完存		3西区	SH01	
13	82	94	弥生土器	高杯	14.3	(10.6)	-		1/4		脚柱部完存	3西区	SH01	
14	82	94	弥生土器	高杯	(12.5)	(8.8)	-		1/2		脚柱部のみ残	3西区	SH01	
15	82	94	土師器	壺	-	-	腹径(20.0)				頸～体部1/4	3西区	SX13	
16	82	95	土師器	壺	(10.0)	(5.9)	-		1/6			3西区	P18	SB02
17	82	94	弥生土器	底部	-	(1.4)	5.0			2/3		3西区	SD3001	
18	83	94	土師器	椀	(15.9)	3.9	7.1		1/4	完		3西区	P01	
19	83	95	土師器	皿	(14.6)	(3.05)	-		若干残	若干残		3西区	SK01	
20	83	95	土師器	小皿	(11.9)	(2.55)	-		1/4			3西区	SK04	
21	83	95	須恵器	皿	(14.7)	(2.65)	-		1/8			3西区	SK04	
22	83	95	土師器	鍋	(21.0)	(13.8)	24.2		3/4		体部1/3残	3西区	SK06･07	
23	83	95	土師器	鍋	(20.0)	(18.55)	(24.2)		若干		体部1/10残	3西区	SK06･07	兵庫津播丹型甕タイプⅡ～Ⅲ類
24	83	95	無釉陶器	擂鉢	-	(7.1)	(12.3)			1/2		3西区	SK13	丹波焼
25	83	94	土師器	小皿	8.25	1.55	-		1/2			3西区	SK16	
26	83	95	無釉陶器	底部		(7.5)	(16.65)			1/4		3西区	SK16	丹波焼
27	83	95	須恵器	小皿	(7.25)	1.6	(5.3)		1/4			3西区	SD11 北半	上層水田水路
28	83	95	須恵器	小皿	(6.95)	1.3	(4.9)		1/5			3西区	SD11 南半	上層水田水路
29	84	96	須恵器	杯蓋	(16.2)	(1.25)	天井部(11.15)		1/6			3西区	下層水田精査	水田畦畔出し時出土 8C後半?
30	84	96	須恵器	杯	(12.8)	2.55	(9.15)				口~底1/8	3西区	下層水田精査	水田畦畔出し時出土
31	84	96	須恵器	皿	(15.8)	2.4	(12.4)		1/8			3西区	下層水田土壌中	
32	84	96	白磁	碗	(17.0)	(4.45)	-		1/10			3西区	下層水田イコウ面まで検出	Ⅳ類
33	84	96	須恵器	蓋	(18.4)	(2.25)	-		小片			3西区	下層水田直上まで	
34	84	96	須恵器	蓋	(17.65)	(1.8)	-		1/4			3西区	下層水田直上まで	墨痕・転用硯
35	84	96	須恵器	蓋	(11.8)	(1.2)	-		小片			3西区	下層水田直上まで	
36	84	96	須恵器	底部	長(4.05)	-	厚(0.45)			小片		3西区	下層水田直上まで	墨痕
37	84	96	須恵器	底部	長(4.2)	-	厚0.6			小片		3西区	中層水田土壌中	墨痕
38	84	96	須恵器	杯A	(10.9)	2.8	(6.4)		1/8	1/8		3西区	下層水田直上まで	微高地肩近く
39	84	96	須恵器	杯B	-	(1.5)	(8.05)			小片		3西区	下層水田直上まで	
40	84	97	須恵器	小皿	(7.6)	1.5	(5.6)		1/5	1/4		3西区	下層水田直上まで	炭あと有
41	84	96	須恵器	小椀	(8.8)	3.2	(4.3)		1/6	1/4		3西区	下層水田直上まで	微高地肩近く
42	84	96	須恵器	底部	-	(2.5)	(6.0)			1/4		3西区	中層水田土壌(2a)	下層水田直上まで
43	84	96	須恵器	椀	-	(3.9)	(6.4)			1/4		3西区	中層水田土壌中	
44	84	97	須恵器	椀	-	(4.9)	(6.1)			ほぼ残	体部若干残	3西区	下層水田面直上まで	
45	84	97	無釉陶器	擂鉢	(24.0)	(6.5)	-		1/12			3西区	下層水田直上まで	微高地肩近く 丹波焼
46	84	97	白磁	碗	(15.2)	(2.5)			小片			3西区	下層水田面直上まで	Ⅳ類
47	84	97	須恵器	捏鉢	(26.65)	(3.5)	-		1/10			3西区	水田肩部	C-2類　14c前半か
48	84	97	須恵器	鉢	(41.9)	(7.6)	-		1/16			3西区	水田肩部	
49	85	97	須恵器	椀	-	(2.2)	6.5			完存		3西区	下層水田直上まで	
50	85	97	須恵器	椀	-	(3.6)	4.0			完存	体1/3	3西区	水田部分南北section	※主に1a
51	85	97	須恵器	椀	(14.6)	3.55	(5.5)		1/4	1/4		3西区	上層水田包含層	
52	85	97	須恵器	捏鉢	(28.0)	(3.85)	-		1/20			3西区	上層水田畦畔直上	被覆土　水田土壌
53	85	97	須恵器	捏鉢	(23.35)	(3.55)	-		1/8			3西区	水田部分南北section	※主に1a 兵庫津C2類　14c前半
54	85	97	須恵器	捏鉢	(25.0)	(4.25)	-		1/12			3西区	水田上層包含層	
55	85	97	無釉陶器	擂鉢	(38.0)	(4.7)	-		1/10			3西区	上層水田包含層	丹波焼　15c後半
56	85	97	青磁	碗	(15.3)	(2.25)	-		1/10			3西区	上層水田包含層	
57	85	98	須恵器	蓋	-	(1.75)	-				小片	3西区	上層水田被覆土中	水田土壌･墨痕
58	85	98	須恵器	小皿	(7.8)	1.55	(5.1)		1/5	1/5		3西区	上層水田直上まで	
59	85	98	須恵器	小皿	(7.75)	1.4	(4.9)		1/6	1/6		3西区	上層水田被覆土中	
60	85	98	須恵器	底部	-	(2.5)	(6.5)			1/3		3西区	上層水田被覆土中	水田土壌･墨痕か

表 4　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
61	85	98	須恵器	底部	-	(2.7)	5.6			ほぼ完存		3西区		
62	85	98	須恵器	捏鉢	(24.55)	(3.7)	-		小片			3西区	上層水田被覆土中	兵庫津C1類
63	85	98	須恵器	捏鉢	(25.5)	(4.5)	-		1/12			3西区		
64	85	98	須恵器	捏鉢	-	(4.4)	(8.0)			若干		3西区	中央北端上層水田検出	洪水層レキ･墨痕か?
65	85	99	須恵器	口縁部	(15.0)	(2.2)	-		1/8			3西区	上層包含層	
66	85	99	無釉陶器	鍋	(20.15)	(6.4)	-		1/8			3西区	南東端	兵庫津甕タイプⅢ類 14C後半
67	85	99	土師器	羽釜	(22.4)	(5.0)	-		1/8			3西区	上面 面精査	
68	85	98	瓦	丸瓦	長(5.2)	幅(6.85)	厚1.95				玉縁付近の小片	3西区	上層包含層	
69	85	98	白磁	輪花皿	(9.9)	2.05	(3.45)		1/4	1/4		3西区	上層包含層	
70	85	99	須恵器	小皿	(7.7)	1.0	(6.05)		1/2	1/2		3西区		
71	85	99	須恵器	蓋	(13.7)	(1.95)	天井部(8.2)		小片			3西区	南北section	
72	85	99	施釉陶器	丸椀	(11.3)	(3.65)	-		1/8			3西区		美濃焼 15c前半～16c初頭 大窯I前半 丸碗A類
73	86	100	土師器	壺	(13.5)	(8.0)	-		1/3			3中央区	SH02	
74	86	99	土師器	壺	(20.0)	(6.1)			若干			3中央区	SH02	東アゼ下層
75	86	99	土師器	壺	(20.8)	(4.3)			1/6			3中央区	SH02	中層
76	86	99	土師器	甕	(16.5)	(3.95)	-		1/8			3中央区	SH02	
77	86	99	土師器	甕	(19.9)	(6.25)			1/6			3中央区	SH02	西アゼ中層
78	86	100	土師器	甕	15.2	(11.4)	腹径(19.15)		3/4		体上部1/2	3中央区	SH02	
79	86	99	土師器	甕	(15.2)	(3.1)	-		1/8			3中央区	SH02	
80	86	100	土師器	甕	(22.5)	27.1	10.7		1/4	ほぼ完	体1/4	3中央区	SH02	中層
81	86	100	土師器	小型丸底壺	(12.8)	(6.95)	-		1/5			3中央区	SH02	南アゼ下層
82	86	99	土師器	小型丸底壺	(12.9)	(7.6)	腹径(11.75)		わずか		体1/5	3中央区	SH02	
83	86	100	土師器	小型丸底壺	(8.7)	7.4	腹径8.65				ほぼ完形	3中央区	SH02内	
84	86	100	土師器	有孔鉢	-	(9.1)	1.0			完		3中央区	SH02内	
85	86	100	土師器	小型丸底鉢	14.7	6.0	-		1/2		体1/2	3中央区	SH02	東アゼ中層
86	86	100	土師器	鉢	(8.4)	(5.35)	5.0		1/2	完		3中央区	SH02	
87	86	100	土師器	高杯	(17.8)	(5.8)	-		1/2弱			3中央区	SH02	
88	86	100	土師器	高杯	-	(5.15)	-				脚部1/2ほど	3中央区	SH02	
89	86	99	土師器	底部	-	(3.4)	(2.8)			1/2	体わずか	3中央区	SH02	
90	86	99	土師器	底部	-	(2.3)	(5.3)			2/3		3中央区	SH02	南アゼ中層
91	86	99	土師器	底部	-	(2.8)	(2.5)			1/3		3中央区	SH02	中層
92	86	100	土師器	底部	-	(2.75)	4.55				脚ほぼ完杯わずか	3中央区	SH02	
93	86	99	土師器	高杯	脚部径(4.15)	(4.5)	(9.95)			底～脚1/8	杯わずか	3中央区	SK24　中央土坑	SH02内
94	86	99	土師器	壺	-	(3.2)	-		小破片			3中央区	P77	SH02内
95	86	99	土師器	底部	-	(2.65)	4.0			完	体わずか	3中央区	P77	SH02内
96	87	101	土師器	鉢	(6.85)	4.3	(2.0)				1/2	3中央区	SH01	
97	87	101	土師器	底部	-	(3.05)	3.55			ほぼ完	体わずか	3中央区	SH01	
98	87	101	土師器	底部	-	(5.4)	6.0			完	体わずか	3中央区	SH01	
99	87	101	土師器	壺	(20.7)	(4.3)	-		小片			3中央区	SH03	
100	87	101	土師器	鉢	(10.4)	(4.6)	(5.6)		1/4弱	ほぼ残		3中央区	SH03	
101	87	101	土師器	高杯	(15.0)	12.3	(11.8)		1/2強	脚1/3		3中央区	SH03	
102	87	101	土師器	高杯	(15.7)	(5.4)	-		1/7			3中央区	SH03	
103	87	101	土師器	把手	長(6.95)	幅(2.9)	厚1.4				把手2/3	3中央区	SH03	
104	87	102	土師器	壺	(16.85)	(19.7)	腹径(30.9)		1/4		体部1/3	3中央区	SH04	
105	87	102	土師器	壺	腹径(24.2)	(16.9)	(5.55)			1/2	体部1/2	3中央区	SH04	
106	87	102	土師器	壺	-	(11.2)	4.9			完存		3中央区	SH04	
107	87	102	土師器	直口鉢	(12.4)	7.25	4.1		若干	脚完存		3中央区	SH04	
108	87	102	土師器	底部	-	(2.7)	(4.9)			1/3		3中央区	SH04	
109	87	102	土師器	底部	-	(4.1)	3.7			完存		3中央区	SH04	
110	87	102	土師器	壺	(12.0)	(4.15)	-		1/3			3中央区	SK08	SX01内
111	87	102	土師器	底部	-	(3.1)	5.6			完		3中央区	SK08	SX01内
112	88	102	土師器	鉢	(12.5)	5.85	(6.2)		1/16	1/4	体1/4	3中央区	SX02	
113	88	102	土師器	底部	-	(3.25)	5.3			完		3中央区	SX02	
114	88	102	土師器	高杯	-	(6.7)	(8.4)			1/8		3中央区	SX02	
115	88	103	土師器	甕	(16.8)	(10.15)	-		1/6			3中央区	SX04	中層
116	88	103	土師器	甕	(18.4)	(4.1)	-		若干			3中央区	SX04	上層
117	88	103	土師器	甕	(18.0)	(2.7)	-		1/8			3中央区	SX04	一括
118	88	103	土師器	甕	(11.8)	(10.7)	腹径(11.8)		1/2弱		体部1/2弱	3中央区	SX04	
119	88	103	土師器	甕	(9.4)	8.8	2.8		若干	完存		3中央区	SX04	
120	88	104	土師器	壺	(14.5)	(4.1)	-		若干			3中央区	SX04	上層
121	88	104	土師器	壺	(16.6)	(1.75)	-		1/8			3中央区	SX04	上層
122	88	104	土師器	壺	(18.8)	(3.0)	-		1/12			3中央区	SX04	中層
123	88	103	土師器	器台	21.4	12.4	-		1/2強			3中央区	SX04	
124	88	104	土師器	高杯	(15.8)	(4.8)	-		1/8			3中央区	SX04	上層
125	88	103	土師器	高杯	12.05	8.65	8.35		3/4		脚端部若干	3中央区	SX04	
126	88	104	土師器	高杯	(13.8)	(4.15)	-		若干			3中央区	SX04	上層
127	88	104	土師器	高杯	(11.8)	(3.7)	-		1/4			3中央区	SX04	
128	88	104	土師器	高杯	(13.0)	(3.1)	-		1/8			3中央区	SX04	一括
129	88	103	土師器	底部	-	(2.6)	(4.3)			完		3中央区	SX04	
130	88	103	土師器	底部	-	(3.65)	3.2			完		3中央区	SX04	一括
131	88	103	土師器	底部	-	(2.95)	(5.65)		1/3			3中央区	P65	SX04内
132	88	105	土師器	甕	(20.85)	(4.35)	-				口～体わずか	3中央区	P32	SB05
133	88	105	土師質	製塩土器	(4.15)	(4.3)	-				口～体1/4	3中央区	P33	SB05
134	88	105	土師質	製塩土器	(3.75)	(2.15)	-		1/5			3中央区	P68	

表 5　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
135	88	105	土師質	壺	(11.9)	2.0	-		わずか			3中央区	P136	完掘
136	88	103	須恵器	杯身	(10.25)	4.8	(10.7)		1/2	1/2		3中央区	P64	
137	89	106	弥生土器	壺	(13.8)	(3.75)	-		1/5			3中央区	SD01	
138	89	106	弥生土器	壺	(14.0)	(3.75)	-		1/6			3中央区	SD01	
139	89	106	弥生土器	壺	(16.4)	(5.0)	-		1/8			3中央区	SD01	
140	89	106	弥生土器	甕	(15.1)	(5.15)	-		1/5			3中央区	SD01	
141	89	106	弥生土器	甕	(14.9)	(6.5)	-		1/12			3中央区	SD01	
142	89	106	弥生土器	底部	-	(8.6)	4.4			完		3中央区	SD01	
143	89	106	弥生土器	底部	-	(7.7)	3.3			完		3中央区	SD01	
144	89	106	弥生土器	鉢	(30.9)	(9.1)	-		1/10			3中央区	SD01	
145	89	103	弥生土器	直口鉢	11.2	6.4	2.4		1/4欠			3中央区	SD01	
146	89	103	弥生土器	台付鉢	-	(5.6)	(4.7)		1/2		体若干	3中央区	SD01	
147	89	106	弥生土器	高杯	(18.4)	(3.0)			若干			3中央区	SD01	
148	89	106	弥生土器	脚部	-	(7.7)	(18.4)			1/6		3中央区	SD01	
149	89	107	弥生土器	直口壺	(17.0)	(7.3)	-		1/6			3中央区	SD17	
150	89	107	弥生土器	甕	(16.85)	(7.05)	-		1/6			3中央区	SD17	
151	89	105	弥生土器	台付鉢	-	(4.15)	3.95				脚完杯わずか	3中央区	SD17	弥生後期
152	89	107	弥生土器	底部	-	(2.65)	1.9			完		3中央区	SD17	
153	89	107	土師器	製塩土器	(10.8)	3.0	(4.6)		1/16			3中央区	SD13	西側面精査
154	89	107	土師器	製塩土器	(9.05)	3.45	(5.2)		1/5	1/3		3中央区	SD13	西側面精査
155	89	107	須恵器	杯身	(9.9)	(3.5)	-		1/4			3中央区	SD13	西側面精査
156	89	107	須恵器	杯身	(11.4)	-	-		1/16			3中央区	SD13	
157	89	107	土師器	甕	(18.8)	(4.3)	-		1/6			3中央区	SK01(混入)	
158	89	107	土師器	製塩土器	(4.2)	(3.1)	-		1/4弱			3中央区		面検出
159	89	107	須恵器	杯身	(11.9)	(4.8)	-		小片			3中央区		面精査
160	90	105	無釉陶器	鍋	(25.2)	(10.75)	腹径(28.5)		1/6		体1/6	3中央区	SK01	
161	90	106	土師器	鍋	21.65	(14.9)	腹径24.4		完存		体3/4	3中央区	SK01	
162	90	106	土師器	小皿	(8.4)	1.8	4.4		3/4	完		3中央区	SK02	
163	90	108	土師器	鍋	(20.0)	(10.6)	-		1/6			3中央区	SK07	
164	90	108	土師器	鍋	(18.9)	(4.9)	-		1/6			3中央区	SK07	
165	90	108	無釉陶器	羽釜	(21.45)	(7.9)	腹径(23.2)		1/5		体1/8	3中央区	SK07	
166	90	110	土師器	小皿	8.0	1.05	6.4				完形	3中央区	SK20	
167	90	110	土師器	小皿	8.0	1.3	5.0		1/2	完		3中央区	SK20	
168	90	110	土師器	小皿	-	(1.25)	4.9		-	完		3中央区	SK20	
169	90	110	土師器	小壺	3.3	4.3	4.45				完形	3中央区	SK20	
170	90	110	青白磁	合子身	4.6	2.45	4.0				完形	3中央区	SK20	
171	90	109	白磁	端反口縁碗	(15.3)	(6.9)	-		1/12			3中央区	SK20	
172	90	109	土師器	小皿	(7.8)	(2.1)	-		1/4			3中央区	SK21	
173	90	109	土師器	鍋	(22.3)	(4.8)	-		1/6			3中央区	SK26	
174	90	109	須恵器	椀	(14.5)	3.3	-		1/4			3中央区	SK27(P70)	
175	90	110	須恵器	小皿	7.7	1.7	4.2				完形	3中央区	SK27	
176	90	110	須恵器	椀	16.0	4.4	6.4		3/4	完		3中央区	SK27	
177	90	110	須恵器	椀	16.0	4.75	4.5				完形	3中央区	SK27	
178	91	110	土師器	小皿	(7.15)	1.4	2.9		1/2	完存		3中央区	P63	SB06
179	91	105	土師器	椀	(10.6)	3.15	(6.15)		1/3	1/3		3中央区	P28	SB06
180	91	109	土師器	鍋	-	(6.15)	-		破片			3中央区	P103	SB06
181	91	105	土師器	小皿	(7.15)	2.0	2.25		1/2	1/2		3中央区	P06	
182	91	110	土師器	小皿	(7.65)	2.15	-		1/3	3/4		3中央区	P47	
183	91	109	無釉陶器	鍋	(27.6)	(4.1)	-		わずか			3中央区	P144	完掘
184	91	109	土師器	鍋	(20.4)	(7.4)	-		1/6			3中央区	SX03	
185	91	109	須恵器	皿	(13.5)	(3.15)	-				口～体1/8	3中央区	P38	
186	91	110	土師器	小皿	(8.45)	2.4	(7.1)		1/3	1/3		3中央区		人力面検出
187	91	107	土師器	羽釜	(14.8)	(4.5)	-		1/8			3中央区	SX01(混入)	
188	91	107	土師器	羽釜	(28.5)	(5.2)	-		小破片			3中央区	P67-周辺	砥石が出たところ
189	91	110	須恵器	小皿	8.0	1.5	5.65		1/8欠	完存		3中央区		面精査
190	91	110	須恵器	小皿	(8.85)	1.9	4.7		1/2	完存		3中央区		P64東側
191	91	107	須恵器	椀	(16.8)	(2.9)	-		1/16			3中央区	SX01(混入)	
192	92	111	土師器	壺	(13.95)	(4.6)	-		1/4			3東区	SD04	北
193	92	111	土師器	壺	(27.75)	(1.75)	-		1/8			3東区	SD04	
194	92	111	土師器	壺	-	(4.4)	(9.95)			1/4		3東区	SD04	
195	92	111	土師器	鉢	(15.8)	(6.1)	-		1/7			3東区	SD04	北
196	92	111	土師器	底部	-	(4.0)	5.4			完	体わずか	3東区	SD04	南
197	92	111	土師器	底部	-	(4.7)	2.9			完	体1/8	3東区	SD04	
198	92	111	土師器	底部	-	(3.8)	6.8			完	体わずか	3東区	SD04	北
199	92	111	土師器	底部	-	(3.45)	2.8			完	体わずか	3東区	SD04	北
200	92	112	土師器	鍋	(21.35)	(6.1)	-		1/6			3東区	SK03	兵庫津播丹型甕形タイプI類 13c後半
201	92	111	土師器	鍋	(20.4)	(13.8)	腹径(24.2)		わずか		体1/3	3東区	SK03	
202	92	112	無釉陶器	鍋	(21.6)	(3.8)	-		1/4			3東区	SK03	兵庫津甕形タイプV類か15c後半～16c初頭
203	92	112	土師器	鍋	(22.9)	(4.7)	-		1/6	-	-	3東区	SD01	兵庫津甕形タイプⅣ類～V期 15c前半～中頃
204	92	112	土師器	羽釜	(20.25)	(5.75)	-		1/6			3東区	SD01	B系列 IB類 15c中頃
205	92	112	須恵器	捏鉢	(22.7)	(6.65)	-		1/8			3東区	SD01	兵庫津C3類か 14c前半
206	92	111	土師器	小皿	9.7	2.45	5.4				ほぼ完形	3東区	SD04(混入)	北
207	93	113	土師器	広口壺	(20.6)	(4.7)	-		若干			4西区	SH01	上面
208	93	113	土師器	広口壺	(27.2)	(4.75)			1/12			4西区	SH01	東南
209	93	113	土師器	壺	(13.6)	(3.8)	-		若干			4西区	SH01	上面
210	93	113	土師器	小型丸底壺	(14.1)	(7.75)	-		3/4		体部若干	4西区	SH01	西北
211	93	113	土師器	甕	(12.2)	(14.2)			若干		体部1/4	4西区	SH01	東南

表 6　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
212	93	113	土師器	甕	(14.0)	(5.6)	-		1/3			4西区	SH01	東北
213	93	113	土師器	鉢	(7.9)	(6.3)	2.7		若干	完		4西区	SH01	東南
214	93	113	土師器	底部	-	(5.55)	5.7			完存		4西区	SH01	西北
215	93	113	土師器	底部	-	(2.4)	2.5			完		4西区	SH01	くぼみ
216	93	113	土師器	底部	-	(2.6)	3.7			完		4西区	SH01	上面
217	93	113	土師器	甕(底)	-	(6.2)	3.6			完		4西区	SH01	東南
218	93	113	土師器	甕(底)	-	(3.9)	(3.95)			完存		4西区	SH01	東北
219	93	113	土師器	底部	-	(3.0)	3.1			完		4西区	SH01	上面
220	93	114	土師器	底部	-	(3.7)	10.7			3/4		4西区	SH01	西南
221	93	114	土師器	高杯	(17.3)	(3.5)			1/8			4西区	SH01	西南
222	93	113	土師器	高杯	(11.0)	(7.9)	-		2/5		脚部若干	4西区	SH01	西北
223	93	113	土師器	高杯	-	(3.65)	7.8			脚1/2		4西区	SH01	西北
224	93	114	土師器	高杯	-	(9.8)	(16.1)			脚1/10	杯部若干	4西区	SH01	東北
225	93	114	土師器	器台	(10.2)	(8.0)	-		1/4			4西区	SH01	南端部くぼみ
226	93	114	土師器	器台	-	(8.1)					脚上半完	4西区	SH01	東南
227	93	115	土師器	山陰型甑	長(12.7)	幅(18.4)	厚0.8				体部若干	4西区	SH01	南端部くぼみ
228	93	115	土師器	山陰型甑(把手)	長(6.8)	幅(3.4)	厚2.55				把手若干	4西区	SH01	南端部くぼみ
229	93	114	土製品	土製勾玉	長4.9	幅2.2	厚1.8				完形	4西区	SH01	西北
230	93	114	土師器	高杯	(17.1)	(3.1)	-		1/10			4西区	P17	SH01内
231	93	114	土師器	脚部	-	(4.9)	8.8			1/4		4西区	P07	SH01内
232	93	114	土師器	甕	(12.0)	(5.2)	-		1/6			4西区	P21	SH01内
233	93	114	土師器	脚部	-	(3.3)	(5.0)			1/2弱		4西区	P66	SH01内
234	93	114	土師器	高杯	(10.45)	9.85	6.9		若干	脚完存		4西区	P49	SH01内
235	94	116	土師器	短頸壺	(9.65)	(10.4)	腹径(15.8)		1/8		体1/4残	4西区	SK16	SH01内
236	94	116	土師器	甕	-	(10.5)	-				頸～体上半1/8残	4西区	SK16	SH01内
237	94	114	土師器	甕	(15.3)	20.1	(3.4)		1/4	ほぼ完存		4西区	SK16	SH01内
238	94	116	土師器	甕	(13.2)	(6.6)	-		1/4			4西区	SK16	SH01内
239	94	116	土師器	台付鉢	(11.7)	7.75	4.7		2/3欠			4西区	SK16	SH01内
240	94	116	土師器	壺	-	(6.4)	-		若干			4西区	SK16	SH01内
241	94	116	土師器	壺	(16.7)	(8.0)	-		1/6			4西区	SD01	SH01上
242	94	116	土師器	壺	(15.8)	(5.1)	-		1/8			4西区	SD01	SH01上
243	94	117	土師器	壺	(15.1)	(7.4)	-		若干			4西区	SD01	SH01上
244	94	117	土師器	甕	(18.2)	(21.4)	-		若干			4西区	SD01	SH01上
245	94	116	土師器	短頸壺	(9.0)	(4.4)	-		1/6			4西区	SD01	SH01上
246	94	116	土師器	山陰型甑(把手)	長(8.1)	幅(4.3)	厚2.7				把手の2/3	4西区	SD01	SH01上
247	94	115	土師器	山陰型甑(底)	長(5.4)	幅(7.4)	厚(1.35)			若干		4西区	SD01	SH01上
248	94	116	須恵器	杯身	(11.4)	-	-		1/7			4西区	SD01	SH01上
249	94	116	土師器	甕	(18.5)	(6.15)	-		1/8	-		4西区	SD01	
250	94	116	土師器	甕	(12.2)	(6.7)	-		若干	-	頸部上半1/4残	4西区	SD01	
251	94	116	土師器	高杯	-	(4.95)	(14.7)		-	1/8		4西区	SD01	
252	94	117	須恵器	高杯	-	(7.6)	(9.1)		欠	1/2	杯部若干	4西区	SD01	
253	94	116	土師器	鉢?	(20.3)	(6.98)	-		1/10	-		4西区	SK01(混入)	
254	95	117	土師器	甕	(15.7)	(4.7)	-		若干			4西区	SH02	上面
255	95	117	土師器	甕	(15.6)	(6.25)	-		若干	-	頸部1/8	4西区	SH02	北西
256	95	117	土師器	甕	(14.6)	(4.3)	-		1/8			4西区	SH02	北東
257	95	117	土師器	広口壺	(15.8)	(4.65)	-		-	-	頸部1/8	4西区	SH02	南西
258	95	117	土師器	器台	(24.0)	(2.9)	-		1/8			4西区	SH02	北東
259	95	117	土師器	高杯	(15.8)	(3.0)	-		1/8	-		4西区	SH02	上層 土坑
260	95	117	土師器	台付甕	-	(9.75)	(6.5)			体～脚2/3残		4西区	SK10	
261	95	117	土師器	脚台部	-	(2.85)	4.5				脚のみ残	4西区	P57	
262	95	117	土師器	羽釜	(30.2)	(7.9)	鍔径(39.36)		1/5			4西区	P12	SB01
263	95	117	土師器	小皿	(7.2)	1.4	3.75		1/4欠			4西区	P25	SB01
264	95	117	土師器	鍋	(23.2)	(5.7)	-		若干			4西区	P58	
265	96	117	土師器	鍋	(20.95)	(4.8)	-		若干	-		4西区	SK01	
266	96	117	土師器	羽釜	(20.7)	(5.15)	鍔径(23.3)		1/5弱	-		4西区	SK01	
267	96	117	土師器	羽釜	(22.5)	(10.45)	鍔径(24.5)		1/6	-		4西区	SK01	羽釜形タイプB系列 中世後期? 15c代?
268	96	117	須恵器	捏鉢	(32.3)	(4.9)	-		1/16	-		4西区	SK01	
269	96	117	無釉陶器	擂鉢	-	(5.8)	(16.0)		-	1/5		4西区	SK01	丹波焼
270	96	118	土師器	鍋	(22.25)	(19.95)	腹径(25.7)		1/6			4西区	SK02	
271	96	118	土師器	羽釜	(17.75)	(6.5)	腹径(21.0)		1/4			4西区	SK06	
272	96	118	土師器	杯A	-	(3.5)	5.95		-	完存		4西区	SD04	
273	96	118	須恵器	椀	(13.6)	(3.1)	(8.5)		1/4	2/5		4西区	SD04	
274	96	118	須恵器	壺	-	(6.6)	-		-	-	頸部のみ1/2弱残	4西区	SD04	
275	96	118	土製品? ミニチュア土器	(無頸)壺	1.4	3.05	腹径4.65		-	-	ほぼ完形	4西区		人力
276	96	118	土師器	杯	(12.7)	(2.9)	-		1/10	-		4西区		内外面漆付着
277	96	118	須恵器	蓋	-	(2.3)	つまみ径2.35		-	-	天井部とつまみのみ残	4西区		人力
278	96	118	須恵器	杯	(14.1)	(2.65)	-		1/6	1/4		4西区		人力
279	96	118	須恵器	小皿	(8.2)	(1.5)	(6.5)		1/4	2/5		4西区		キカイ
280	96	118	須恵器	皿	(17.5)	(2.75)			1/7			4西区	南部包含層	重機掘削
281	96	118	白磁	皿?	(11.1)	(2.4)	-		1/10			4西区		太宰府白磁Ⅲ区-3類か 13c後半～14c前半
282	97	119	土師器	甕	(11.9)	(3.5)	-		1/4			4中央区	SD03	
283	97	119	土師器	脚部	-	(5.5)	6.45		-	1/2強		4中央区	SD03	

表７　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
284	97	119	土師器	脚部	－	(5.3)	6.55		若干	完存		4中央区	SD03	
285	97	119	土師器	(外反口縁)鉢	(31.6)	(8.75)	－		1/10			4中央区	SD03	
286	97	119	土師器	鍋	(28.8)	(5.3)	－		1/6	－		4中央区	P02	SB01
287	97	119	土師器	小皿	(8.6)	(1.85)	－		1/3	3/5		4中央区	P02	SB01
288	97	120	土師器か	椀	(16.4)	(4.0)	7.3		1/6	完存		4中央区	P04	SB01
289	97	120	須恵器	椀	(15.6)	(3.75)	(7.5)		1/8	1/3		4中央区	P15	
290	97	121	須恵器	杯B	－	(1.95)	(8.3)			1/4		4中央区	人力掘削	
291	97	121	須恵器	杯B	－	(2.6)	(9.3)			1/2		4中央区	イコウ面まで	人力
292	97	121	須恵器	鉢	(28.0)	(7.7)	－		若干			4中央区	イコウ面まで	人力
293	97	121	土師器	小皿	(6.7)	1.7	(3.8)		1/2	1/2		4中央区	イコウ面まで	人力
294	97	119	土師器	小皿	8.4	1.6	6.2				ほぼ完形	4中央区	スキ溝01 南側	
295	97	121	須恵器	小皿	(8.4)	1.3			1/3			4中央区		
296	97	119	須恵器	椀or皿	－	(2.05)	(6.9)			1/5		4中央区	イコウ面まで	墨書
297	98	122	縄文	?	長(4.2)	幅1.1	(4.25)		小破片			4東区		人力
298	98	122	縄文	?	長(4.45)	幅0.95	(4.3)		小破片			4東区		人力
299	98	122	縄文	?	長(5.55)	幅0.85	(4.9)		小破片			4東区		人力
300	98	122	土師器	甕	(16.6)	(3.5)	－		1/14			4東区	SD01	
301	98	122	土師器	直口壺	(14.9)	(6.3)	－		1/6			4東区	SD01	
302	98	122	土師器	甕	(14.5)	(3.1)	－		1/3			4東区	SD10	
303	98	122	土師器	器台	－	(8.0)	(32.4)		－	1/14		4東区	SD10	
304	98	123	須恵器	杯Bor椀	(15.0)	(5.0)	－		1/10			4東区	P63	SB01
305	98	123	須恵器	椀	(17.6)	(3.7)	(7.2)		1/6	1/4		4東区	P03	SB02
306	98	123	須恵器	捏鉢	(36.0)	(3.9)	－		1/18			4東区	P03	SB02
307	98	123	土師器	小皿	(6.3)	0.9	(4.8)		1/6			4東区	P06	SB04
308	98	123	須恵器	椀	(15.4)	(4.1)	(7.1)		1/10	1/3		4東区	P33	SB04
309	98	123	須恵器	椀	(15.4)	4.0	7.3		1/4	1/3		4東区	P02	
310	98	123	土師器	小皿	7.7	1.4	4.0		1/3			4東区	P07	
311	98	123	須恵器	椀	(9.5)	3.2	(4.2)		1/3	1/3		4東区	P69	
312	98	123	須恵器	椀	(16.4)	(4.75)	－		1/4			4東区	P69	
313	98	123	土師器	小皿	7.2	1.55	－					4東区	SK04	
314	98	123	須恵器	椀	(14.4)	(4.0)	(5.2)		若干	2/5		4東区	SK04	
315	98	123	須恵器	椀	(15.8)	(4.8)	(5.95)		若干	ほぼ完存		4東区	SK04	
316	98	123	須恵器	椀	(15.6)	(3.9)	(5.4)					4東区	SK04	
317	98	123	須恵器	椀	(15.2)	(5.85)	6.1		若干	ほぼ完存		4東区		
318	98	123	須恵器	椀	(15.6)	(5.8)	(4.8)		1/4	1/4		4東区		西側溝北端 須恵器は測点
319	98	123	土師質	土錘	長(4.0)	径1.66 ～1.68	孔径 0.57				端部欠損	4東区		人力
320	99	124	白磁	壺	－	(5.1)	腹径 (18.0)		－		体部若干	5西区		太宰府Ⅲ-1類 11c後半～12c代
321	99	124	縄文	深鉢	－	(2.3)	－		小片			5東区	SK19	晩期
322	99	124	土師器	甕	(14.0)	(8.5)	－		3/4			5東区	SD01	
323	99	124	土師器	底部	－	(2.5)	(6.4)		－	1/2		5東区	SD18	
324	99	130	土師器	鍋	(20.6)	(7.4)	－		1/10			5東区	P01	SB01 兵庫津甕形タイプⅠ類 (Ⅱ類に近い) 13c後半
325	99	125	土師器	皿	(14.1)	(3.85)	(11.0)		1/8	1/8		5東区	P07	SB01 兵庫津非轆轤土師器 Ⅱb類か 13c後半か
326	99	124	須恵器	椀	(15.5)	4.0	(6.25)		1/3	1/3		5東区	P34	SB01
327	99	125	須恵器	椀	(14.2)	3.85	6.45		1/5	1/2		5東区	P34	SB01
328	99	124	須恵器	鉢	(18.15)	6.7	8.4		若干	3/4		5東区	P35	SB01 兵庫津C1類 13c後半~14c前半
329	99	125	土師器	小皿	(8.2)	1.45	(6.6)		1/4	1/3		5東区	P37	SB01
330	99	126	土師器	小皿	7.5	(1.3)	－		1/4	1/2		5東区	P46	SB02
331	99	126	土師器	小皿	(7.2)	(0.9)	－		1/2			5東区	P46	SB02
332	99	124	須恵器	椀	(15.9)	(3.5)	(7.1)		1/3	1/5		5東区	P46	SB02
333	99	126	土師器	小皿	(8.55)	1.3	(6.9)		1/4	1/4		5東区	P56	SB02
334	99	126	土師器	皿	(14.8)	2.2	(11.1)		小片	小片		5東区	P56	SB02
335	99	124	土師器	鍋	(22.2)	(7.4)	－		1/4弱			5東区	P56	SB02 兵庫津甕タイプ Ⅰ類 13c後半か
336	99	126	土師器	皿	(12.6)	(2.7)	－		1/7			5東区	P72	SB02
337	99	124	土師器	鍋	(18.95)	(13.3)	(21.4)		1/5		肩部1/4	5東区	P77	SB02 兵庫津甕タイプ Ⅱ類　14c前半代
338	99	129	土師器	小皿	(8.1)	(0.9)	－		1/4			5東区	P94	SB02
339	99	129	土師器	皿	(13.4)	(2.4)	－		1/6			5東区	P94	SB02
340	99	129	土師器	皿	(13.2)	(2.4)	－		若干			5東区	P94	SB02
341	99	129	土師器	鍋	(23.6)	(3.35)	－		1/8			5東区	P94	SB02
342	99	124	須恵器	椀or皿	(16.2)	(2.6)	－		1/6			5東区	P147	SB02
343	100	127	土師器	小皿	(6.6)	(1.1)	－		1/3			5東区	P105	SB03
344	100	127	土師器	皿	(11.0)	(2.65)	－		1/9			5東区	P117	SB03
345	100	128	須恵器	椀	－	(2.0)	(6.0)		－	1/6		5東区	P117	SB03
346	100	127	土師器	小皿	(6.6)	0.9	(3.7)		1/3			5東区	P131	SB03
347	100	127	土師器	小皿	(6.2)	1.1	(3.8)		1/3	若干		5東区	P131	SB03
348	100	127	土師器	小皿	(7.3)	1.25	(4.2)		1/3	1/4		5東区	P131	SB03
349	100	127	土師器	小皿	(8.1)	1.25	(3.8)		1/4			5東区	P131	SB03
350	100	127	土師器	小皿	(8.7)	1.4	(5.7)		1/6	1/8		5東区	P131	SB03
351	100	127	土師器	皿	(10.7)	(1.75)	(6.5)		1/12			5東区	P131	SB03
352	100	128	土師器	皿	(12.0)	2.15	(7.3)		1/4	1/6		5東区	P131	SB03
353	100	127	土師器	皿	(10.8)	(3.4)	(7.2)		1/4	1/4		5東区	P131	SB03
354	100	127	土師器	皿	(12.0)	(2.5)	－		1/3			5東区	P131	SB03

表 8　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
355	100	128	土師器	皿	(12.9)	(2.7)	-		1/4			5東区	P131	SB03
356	100	128	土師器	皿	(13.1)	2.9	(8.0)		1/4	1/4		5東区	P131	SB03
357	100	128	土師器	皿	(13.3)	(2.6)	-		1/4			5東区	P131	SB03
358	100	128	土師器	皿	(12.16)	2.0	(7.8)		1/4	若干		5東区	P131	SB03
359	100	128	土師器	皿	(13.4)	2.4	(8.6)		1/4	1/8		5東区	P131	SB03
360	100	127	土師器	皿	(11.4)	(2.05)	-		若干			5東区	P128	SB03
361	100	129	土師器	小皿	(8.2)	1.05	(5.6)		1/4	1/4		5東区	P67	SB04
362	100	129	須恵器	捏鉢	-	(4.7)	-		若干			5東区	P67	SB04 兵庫津B3類 14c後半～15c前半
363	100	129	須恵器	捏鉢	(27.8)	(9.65)	-		1/8	-		5東区	P111	SB04
364	100	130	土師器	皿	(11.2)	1.3	(10.6)		1/8	1/8		5東区	P49	SB05
365	100	130	土師器	皿	(18.8)	(2.4)	(13.4)		若干			5東区	P49	SB05 兵庫津IIB2b類 15c前半か
366	100	130	須恵器	捏鉢	(32.8)	(11.8)	-		1/2			5東区	P61	SB05 兵庫津E1類 14c後半代
367	100	130	土師器	鍋	(27.2)	(5.9)	-		小片			5東区	P81	SB05 兵庫津甕タイプI類 13c後半代
368	100	130	土師器	皿	(11.7)	2.1	(8.1)		1/4	1/4		5東区	P95	SB05
369	100	130	土師器	皿	(8.45)	1.6	(7.4)		1/3	1/3		5東区	P176	SB05
370	100	131	須恵器	椀	(15.4)	4.1	(6.55)		若干	1/3		5東区	P177	SB05
371	101	130	土師器	小皿	(9.3)	(1.6)	(4.6)		1/7	1/4		5東区	P119	SB06
372	101	131	土師器	鍋	(17.0)	(7.75)	-		1/4			5東区	P119	SB06
373	101	131	土師器	甕	(33.2)	(18.6)	腹径 (28.5)		1/7			5東区	P119	SB06
374	101	130	須恵器	椀	(14.7)	(5.95)	6.7		わずか	完存		5東区	P119	SB06
375	101	130	須恵器	椀	(15.95)	(6.25)	(5.1)		わずか	完存		5東区	P119	SB06
376	101	130	須恵器	椀	(16.05)	6.0	5.25		1/9	完存		5東区	P119	SB06
377	101	130	須恵器	椀	(14.7)	(5.55)	6.2		1/3	3/5		5東区	P119	SB06
378	101	131	須恵器	椀	(13.6)	(4.2)	-		1/4			5東区	P119	SB06
379	101	131	須恵器	椀	-	(3.1)	5.65		-	完存		5東区	P119	SB06
380	101	131	土師器	小皿	(7.55)	0.9	(5.9)		-	2/3		5東区	P120	SB06
381	101	131	須恵器	椀	(13.7)	(6.2)	(5.2)		1/4	1/5		5東区	P120	SB06
382	101	130	須恵器	椀	(16.3)	5.7	5.2		1/4	完存		5東区	P120	SB06
383	101	131	須恵器	椀	-	(2.5)	5.2		-	完存		5東区	P120	SB06
384	101	129	土師器	皿	(16.4)	(3.0)	(13.2)		若干			5東区	P55	兵庫津IIID類 13c後半か
385	101	129	須恵器	皿	(14.8)	2.0	(7.0)		1/8	1/8		5東区	P64	
386	101	129	土師器	小皿	(9.0)	(1.5)	-		1/5			5東区	P66	灯明皿に使用か
387	101	129	須恵器	皿	-	(2.0)	-		若干			5東区	P66	
388	101	130	土師器	鍋	(17.1)	(4.0)	-		1/12			5東区	P69	兵庫津甕形タイプIV類 15c前半
389	101	131	土師器	皿	(13.8)	2.5	(8.6)		1/3	1/3		5東区	P84	
390	101	129	土師器	小皿	(5.85)	1.1	(5.0)		1/4弱	1/4弱		5東区	P86	
391	101	129	土師器	皿	(12.2)	(2.3)	-		1/4弱	若干		5東区	P86	
392	101	131	土師器	皿	(12.2)	2.4	(8.7)		2/3	2/3		5東区	P86	
393	101	130	土師器	皿	(12.5)	2.65	(8.3)		若干	若干		5東区	P100	
394	101	130	土師器	鍋	(23.5)	(5.05)	-		1/8弱			5東区	P100	兵庫津甕形タイプI類 13c後半代
395	101	129	須恵器	捏鉢	(28.4)	(4.95)	-		1/12			5東区	P100	兵庫津B2～B3類 14c後半～15c前半
396	101	130	土師器	甕	(24.1)	(4.65)	-		若干			5東区	P106	兵庫津甕形タイプIII類 14c後半代
397	101	131	須恵器	小椀	9.5	3.5	4.35		1/8	完存		5東区	P107	
398	102	131	土師器	小皿	7.85	1.6	6.2		完存	完存		5東区	P170	
399	102	131	土師器	小皿	7.6	1.2	5.35		3/4	4/5		5東区	P167	
400	102	133	土師器	甕	(21.05)	(5.7)	-		1/3	-		5東区	P167	兵庫津甕形タイプIII類 14c後半代
401	102	133	須恵器	椀	15.1	4.3	7.8				完形	5東区	SK02	
402	102	133	須恵器	椀	14.6	4.3	5.6		1/2	完存		5東区	SK02	
403	102	133	須恵器	椀	14.6	3.7	5.6		1/2	完存		5東区	SK02	
404	102	132	須恵器	椀	(14.7)	4.0	6.6		1/3	1/2強		5東区	SK02	
405	102	132	須恵器	椀	(15.5)	(4.75)	(7.1)		1/3	1/4		5東区	SK02	
406	102	132	須恵器	椀	(15.6)	(4.75)	(6.0)		1/3	1/4		5東区	SK02	
407	102	133	須恵器	椀	(15.2)	4.2	(7.55)		1/2弱	1/2		5東区	SK02	
408	102	133	須恵器	椀	15.3	3.95	6.6		7/8	3/4		5東区	SK02	
409	102	132	須恵器	椀	(15.1)	(4.55)	(7.4)		1/15	2/5		5東区	SK02	
410	102	133	須恵器	捏鉢	(25.8)	(10.05)	(10.4)		1/2	1/6		5東区	SK02	兵庫津B2～B3類 14c後半～15c前半代
411	102	133	須恵器	捏鉢	(29.6)	(5.95)	-		1/7			5東区	SK02	
412	102	133	須恵器	捏鉢	(27.5)	9.8	8.4		1/3	完存		5東区	SK02	兵庫津捏鉢C類 14c代
413	102	133	須恵器	鉢	(34.2)	(6.3)	-		1/4弱			5東区	SK02	
414	102	133	須恵器	鍋	(19.7)	(10.65)	腹径 (24.5)		1/3 +1/12		体部上半 1/3 +1/5	5東区	SK02	兵庫津甕形 タイプI類
415	103	134	土師器	小皿	(7.9)	(1.4)	-		1/6			5東区	SK02	
416	103	134	土師器	小皿	(9.0)	1.55	(7.2)		1/4	1/4		5東区	SK02	
417	103	135	土師器	小皿	(11.1)	(2.05)			1/4	3/7		5東区	SK02	
418	103	134	土師器	皿	(12.4)	2.2	(8.3)		1/4	若干		5東区	SK02	
419	103	134	土師器	小皿	(11.1)	(2.15)	-		1/2			5東区	SK02	
420	103	134	土師器	皿	(11.9)	2.7	(7.7)		1/6	1/6		5東区	SK02	
421	103	135	土師器	皿	12.5	2.95	8.25		1/2	1/2		5東区	SK02	
422	103	135	土師器	皿	(13.2)	(3.9)	-		1/3			5東区	SK02	
423	103	135	土師器	鍋	23.05	(16.6)	腹径 (27.25)		3/4		体部上半 1/4	5東区	SK02	兵庫津甕形タイプI類 13c後半

表 9　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
424	103	135	土師器	鍋	23.3	(15.1)	腹径(27.7)		7/8		体部1/2	5東区	SK02	
425	103	135	土師器	鍋	(18.7)	(5.6)	-		1/6			5東区	SK02	兵庫津甕形タイプⅡ類 14c前半
426	103	135	土師器	鍋	22.2	(8.85)	-		3/4			5東区	SK02	兵庫津甕形タイプⅠ類 13c後半か
427	103	135	土師器	鍋	(28.5)	(5.1)	-		1/8			5東区	SK02	兵庫津鍋形タイプ 鉄鍋系Ⅱ類か? 13c後半代
428	103	136	須恵器	椀	-	(2.5)	(6.4)		-	1/6		5東区	SK03	
429	103	136	土師器	鍋	(23.3)	(9.0)	-		1/4弱			5東区	SK06	兵庫津甕形タイプⅠ類 13c後半代
430	103	136	土師器	羽釜	(30.6)	(8.1)	鍔径(35.7)		1/18	-	鍔1/8	5東区	SK06	兵庫津羽釜形タイプⅠ類 14c前半代
431	103	136	土師器	小皿	(8.8)	(1.45)	-		1/4弱	-		5東区	SK10	東北
432	103	136	土師器	小皿	(11.3)	(2.35)	-		1/6	-		5東区	SK10	東北
433	103	136	土師器	小皿	(11.3)	(2.35)	-		1/8	-		5東区	SK10	東北
434	103	136	土師器	鍋	(26.6)	(8.5)	-		1/9			5東区	SK10	東北 兵庫津甕形タイプ Ⅲ類 14c後半代
435	103	136	須恵器	杯or皿	(15.0)	(2.6)	-		1/8	-		5東区	SK10	
436	104	137	土師器	羽釜	(23.0)	(5.9)	鍔径(25.0)		1/8			5東区	SK14	兵庫津羽釜形タイプ 播磨型A
437	104	137	土師器	羽釜	(31.4)	(8.4)	鍔径(38.3)		若干			5東区	SK14	
438	104	137	土師器	鍋	(20.3)	(8.8)	-		1/6			5東区	SK14	兵庫津甕形タイプⅢ類 14c後半代
439	104	135	瓦質土器	鍋	(19.2)	(6.95)	-		1/4			5東区	SK14	兵庫津鍋形タイプ 鉄鍋系ⅢB～ⅢC類 14c中～後半
440	104	137	須恵器	捏鉢	(24.4)	(5.3)	-		若干			5東区	SK14	兵庫津C2類 14c代
441	104	137	須恵器	鍋	(18.4)	(6.3)	-		1/4			5東区	SK14	兵庫津甕形タイプⅢ類 14c後半
442	104	137	須恵器	鍋	(27.6)	(8.8)	-		1/6			5東区	SK14	兵庫津甕形タイプⅡ～Ⅲ類 14c代
443	104	137	須恵器	甕	(18.2)	(10.4)	腹径(34.0)		若干	-	肩部1/12	5東区	SK14	
444	104	137	須恵器	甕	-	(22.3)	腹径(33.0)		-	-	体部若干	5東区	SK14	
445	104	135	須恵器	皿	(14.8)	2.85	7.55		1/3	完存		5東区	SK15	
446	104	137	土師器	鍋	(24.0)	(15.0)	腹径(29.4)		1/8		体部1/8	5東区	SK16	兵庫津甕形タイプⅡ類 14c前半～Ⅲ類 14c後半に近い
447	104	135	土師器	皿	10.3	2.15	5.7				完形	5東区	SK22	
448	104	135	須恵器	小椀	9.45	3.2	4.5		2/3	完存		5東区	SK22	
449	104	135	須恵器	椀	16.35	5.8	5.7		11/12	完存		5東区	SK22	
450	105	137	土師器	鍋	(21.05)	(7.35)	-		1/8強			5東区	SX01	兵庫津甕形タイプⅡ類 14c前半
451	105	137	土師器	鍋	(18.3)	(13.2)	腹径(20.8)		1/4			5東区	SX01	兵庫津甕形タイプⅢ類 14c後半
452	105	138	土師器	小皿	(7.0)	1.3	-		1/8			5東区	SX01	
453	105	138	土師器	小皿	(10.75)	(1.7)	-		1/8			5東区	SX01	
454	105	138	須恵器	皿	(15.45)	(1.9)	-		小片			5東区	SX01	石列東側
455	105	138	須恵器	捏鉢	(21.7)	(5.0)	-		1/10			5東区	SX01	石敷
456	105	138	土師質	土錘	長(3.6)	幅(1.25)	厚(1.15)				体部2/3	5東区	SD01	
457	105	138	土師器	小皿	(7.0)	1.8	(3.6)		1/4	1/4		5東区	SD06	
458	105	138	須恵器	椀	(15.0)	(3.2)	-		1/8			5東区	SD06	
459	105	135	須恵器	椀	15.3	4.4	6.6		1/2	ほぼ完存		5東区	SD06	東端
460	105	138	無釉陶器	鍋	(22.8)	(5.65)	-		1/8			5東区	SD06	
461	105	138	土師器	皿	(10.9)	(1.9)	-		1/8	-		5東区	南部包含層	
462	105	138	土師器	鍋	(27.05)	(5.7)	-		1/8弱	-		5東区	南部包含層	兵庫津甕形タイプⅠ類 13c後半代
463	105	138	土師器	脚	長(13.7)	幅3.1	厚2.9				脚のみ	5東区		キカイ
464	105	139	須恵器	小椀	(9.3)	(2.85)	(4.2)		1/4	1/3		5東区	南部包含層	
465	105	139	須恵器	杯or皿	(15.6)	3.15	8.85		1/7	-		5東区	南部包含層	
466	105	139	須恵器	椀	-	(2.7)	-		-	-	体部破片	5東区	南部包含層	墨書(文字不明)
467	105	139	須恵器	甕	-	(8.55)	-		若干	-	体部若干	5東区		外面 綾杉文
468	105	140	陶器	鉢	(17.8)	(4.4)	-		1/7	-		5東区	南部包含層	丹波焼
469	105	140	陶器	擂鉢	-	(5.35)	-		小片	-		5東区	南部包含層	丹波焼 近世か?
470	105	140	無釉陶器	鉢	-	(5.6)	-		若干	-		5東区		ヘラ記号(カマ印)
471	105	140	陶器	擂鉢	(37.0)	(5.5)	-		小片	-		5東区	南部包含層	丹波焼
472	105	141	白磁	碗	(19.25)	(5.5)	-		若干	-		5東区	南部包含層	
473	105	141	青磁	碗	(16.9)	(5.15)	-		1/8	-		5東区	南部包含層	龍泉窯青磁鎬連弁碗(太宰府分類椀Ⅱ-b類) 13c中頃～14c初
474	105	122	土師質	土錘	長1.25	幅1.25	(3.65)	5.20g			2/3	5東区		キカイ
475	106	142	土師器	壺	(14.8)	(8.8)	-		1/3	-		6西区	SH09	
476	106	142	土師器	壺	(25.7)	(8.4)	-		若干			6西区	北半 粘土採掘坑	
477	106	122	須恵器	高杯	(16.5)	(5.85)			1/16		坏部1/8	6西区	溝上遺構	3トレンチ
478	106	142	須恵器	小皿	7.3	1.5	5.1		-	-	完形	6西区	SD01	
479	106	142	須恵器	椀	15.6	5.65	6.7		完存	5/6		6西区	SD01	墨書なのか?
480	106	142	須恵器	壺	(13.2)	(16.9)	(15.8)		若干	若干	体部若干	6西区	SD01	
481	106	143	土師器	鍋	(19.5)	(9.7)	腹径(25.6)		小片			6西区		南西部
482	106	143	無釉陶器	羽釜	(13.5)	(4.7)	-		1/3			6西区	粘土採掘坑	南東隅
483	106	143	須恵器	椀	(18.0)	(2.35)	-		1/12			6西区	粘土採掘坑5	大畦畔含む
484	106	142	須恵器	捏鉢	25.6	9.55	9.4				ほぼ完形	6西区	粘土採掘坑8	
485	106	143	施釉陶器	皿	(17.7)	(2.9)	-		小片			6西区		瀬戸焼
486	106	143	青磁	碗	-	(3.1)	-			1/2 高台部欠		6西区		南西部 龍泉窯 15c代

表10　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
487	107	145	須恵器	小皿	(7.55)	(1.55)	(5.2)		1/7	1/3		6西区	遺構面まで	微高地上
488	107	145	須恵器	小皿	7.2	1.6	5.6				ほぼ完形	6西区	南西半	旧トレンチ　あげ土内
489	107	144	須恵器	椀	(13.9)	3.65	(5.1)		1/12			6西区		
490	107	144	須恵器	椀	(15.75)	(3.75)	-		小片			6西区		
491	107	144	須恵器	椀	(15.6)	4.85	(6.0)		1/12	1/4		6西区		重機掘削
492	107	144	須恵器	壺	-	(6.6)	-		-	-	肩部1/6	6西区		
493	107	144	施釉陶器	火入れ	(9.5)	(4.15)	-		1/7			6西区		重機掘削
494	107	144	無釉陶器	瓶	-	(3.5)	2.9		-	完存		6西区		
495	107	144	白磁	底部	-	(2.45)	6.6		-	完存		6西区		キカイ
496	107	144	青磁	碗	(15.8)	(3.65)	-		小片			6西区	遺構面まで	微高地上
497	107	144	青磁	底部	-	(2.25)	5.45		-	完存	-	6西区		重機掘削
498	107	145	土師器	甕	(12.85)	(6.55)	-		わずか		肩部1/8	6東区	SH08	
499	107	145	土師器	底部	-	(3.0)	(4.5)			2/3	体わずか	6東区	SH09	
500	107	145	土師器	高杯	(12.15)	11.8	10.05 脚柱径最少 2.65		1/2			6東区	P24	
501	107	145	須恵器	杯蓋	(12.0)	-	-		1/6			6東区	SK15	
502	108	146	弥生土器	壺	(13.4)	(6.6)	-		1/4弱			7区	SD16	
503	108	146	弥生土器	壺	(18.6)	(6.2)+ (9.3)	-		1/2		体1/4	7区	SD16	
504	108	146	弥生土器	広口壺	(14.7)	(9.3)	-		1/2	-	-	7区	SD16	
505	108	146	弥生土器	壺	(11.65)	(23.5)	6.2		1/4	完存	体部1/2	7区	SD16	
506	108	146	弥生土器	壺	15.9	(19.9)	腹径 (22.05)		1/2	-	体部上半 1/3	7区	SD16	
507	108	147	弥生土器	壺	12.7	19.6	4.6		2/3	完存		7区	SD16	
508	108	146	弥生土器	壺	(13.6)	(10.05)	-		1/6		肩部1/2	7区	SD16	
509	108	146	弥生土器	直口壺	(10.4)	(6.2)	-		1/4			7区	SD16	
510	108	147	弥生土器	細頸壺	-	(11.5)	-		-	-	体1/2弱	7区	SD16	
511	108	147	弥生土器	壺	-	(19.9)	-				頸部若干. 体部1/4	7区	SD16	
512	108	147	弥生土器	底部	-	(6.55)	4.0		-	完存	-	7区	SD16	
513	108	146	弥生土器	底部	-	(8.8)	3.75			完形	体1/2	7区	SD16	
514	108	147	弥生土器	甕	(13.6)	(16.5)	腹径 (28.9)		1/4弱		上体部3/4	7区	SD16	
515	108	147	弥生土器	甕	(18.05)	(15.1)	-		2/3	-	体部上半3/4	7区	SD16	
516	108	146	弥生土器	甕	(10.9)	(5.95)	-		1/3			7区	SD16	
517	108	147	弥生土器	甕	13.1	(4.95)	-		ほぼ完		体部わずか	7区	SD16	
518	108	147	弥生土器	甕?	14.0	(9.6)	腹径 (15.2)		1/3		体上部3/4	7区	SD16	
519	109	147	弥生土器	甕	16.2	24.6	3.8		2/3	完形		7区	SD16	
520	109	148	弥生土器	甕	(13.7)	(9.15)	-		1/4			7区	SD16	
521	109	148	弥生土器	甕	14.1	(11.85)	腹径15.8		1/3		体部1/2	7区	SD16	
522	109	148	弥生土器	甕	(13.4)	23.15	3.3		1/2	完存	体部1/6欠	7区	SD16	
523	109	148	弥生土器	甕	(13.85)	(13.9)	腹径 (14.3)		4/5		体1/2	7区	SD16	
524	109	148	弥生土器	甕	12.55	(12.95)	腹径 (15.8)		3/4	欠	体上半1/3	7区	SD16	
525	109	148	弥生土器	甕	(16.3)	(9.95)	-		1/4	-	体部1/2	7区	SD16	
526	109	148	弥生土器	甕	(11.4)	(11.45)	-		若干		体部1/4	7区	SD16	
527	109	149	弥生土器	甕	(15.8)	(6.3)	-		1/3			7区	SD16	
528	109	149	弥生土器	甕	(14.8)	24.3	(4.9)		若干欠		底～体下半 1/4欠	7区	SD16	
529	109	149	弥生土器	甕	16.6	(25.2)	腹径19.95		ほぼ完存	欠	体3/4	7区	SD16	
530	109	149	弥生土器	甕	(15.0)	(14.2)	-		3/5	欠	体部上半3/4	7区	SD16	
531	109	149	弥生土器	甕	(13.8)	(19.5)	3.4		1/8	完形		7区	SD16	
532	109	149	弥生土器	甕	(13.9)	(11.75)	3.0		若干	完存		7区	SD16	
533	109	150	弥生土器	甕	(12.25)	(10.8)	腹径 (12.2)				口～体1/2	7区	SD16	
534	109	150	弥生土器	甕	(25.6)	(14.6)	-		1/8	-	肩部1/4	7区	SD16	
535	110	150	弥生土器	甕	-	(20.9)	6.2		-	完存	体部1/3	7区	SD16	
536	110	150	弥生土器	甕	-	(11.4)	4.6		-	完	体下半4/5	7区	SD16	土器群
537	110	150	弥生土器	甕	-	(7.7)	3.5		-	ほぼ完	体下半1/3	7区	SD16	土器群
538	110	150	弥生土器	甕か	-	(10.1)	(3.7)		-	3/4	体下半1/3	7区	SD16	土器群
539	110	150	弥生土器	鉢	8.3	5.7	4.4		1/2	5/6		7区	SD16	
540	110	150	弥生土器	ミニチュアの鉢	-	(2.7)	2.8		わずか	完形		7区	SD16	
541	110	151	弥生土器	鉢	(13.9)	(10.5)	4.1		1/8	完存		7区	SD16	
542	110	151	弥生土器	有孔鉢	(12.3)	9.65	2.75		若干	完存		7区	SD16	
543	110	151	弥生土器	有孔鉢	(12.55)	9.15	2.7		若干	3/4		7区	SD16	
544	110	151	弥生土器	有孔鉢	14.1	8.9	3.45				完形	7区	SD16	
545	110	151	弥生土器	有孔鉢	(14.2)	(10.2)	2.9		1/6	完存	体3/5	7区	SD16	
546	110	151	弥生土器	鉢	(22.9)	(7.2)	-		1/4弱			7区	SD16	
547	110	151	弥生土器	鉢	(26.4)	(14.5)	-		1/4			7区	SD16	
548	110	151	弥生土器	鉢	(23.5)	(15.8)	腹径 (22.4)		1/3	欠	体1/3	7区	SD16	
549	110	152	弥生土器	把手付鉢	-	(7.7)	-			把手のみ		7区	SD16	
550	110	152	弥生土器	把手付鉢	(36.3)	(10.3)	-		1/5	欠	把手1ケ	7区	SD16	
551	111	152	弥生土器	高杯	22.75	(17.1)	-		2/5	欠	脚柱部完存	7区	SD16	
552	111	152	弥生土器	高杯	(28.4)	(5.2)	-		1/5			7区	SD16	
553	111	152	弥生土器	高杯	(24.9)	(15.2)	-		若干	欠	脚柱部完存	7区	SD16	
554	111	152	弥生土器	高杯	(19.4)	(7.7)	-		1/4		体1/4	7区	SD16	
555	111	152	弥生土器	高杯	(22.0)	(6.3)			1/3			7区	SD16	
556	111	153	弥生土器	高杯	14.0	12.5	(15.3)		1/4	1/6		7区	SD16	
557	111	153	弥生土器	高杯	-	(13.6)	13.4		-	1/4	椀部若干	7区	SD16	
558	111	153	弥生土器	高杯	-	(6.25)	(18.55)			1/2		7区	SD16	
559	111	153	弥生土器	高杯	-	(4.7)	8.4			完存	脚柱完 坏部わずか	7区	SD16	
560	111	153	弥生土器	高杯	(19.7)	(5.9)					脚端部1/3	7区	SD16	

表11　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
561	111	153	弥生土器	高杯	脚柱径最少3.6	(9.65)	11.3			7/8	脚柱完坏部わずか	7区	SD16	
562	111	152	弥生土器	器台	-	(14.6)	脚柱部最少6.15				脚柱部のみ完	7区	SD16	
563	111	152	須恵器	壺	(19.9)	(5.85)	-		1/6			7区	SD16	
564	111	152	須恵器	壺	(14.9)	(4.3)	-		1/8			7区	SD16	
565	112	153	土師器	高杯	-	(5.4)	-		-	-	脚部若干	7区	SD18	
566	112	153	土師器	高杯	-	(8.45)	11.9		-	9/10	脚ほぼ完	7区	SD19	
567	112	153	土師器	器台	(23.8)	(5.45)	-		1/6			7区	土器溜まり	
568	112	153	須恵器	杯身	(9.5)	(2.3)	-		1/6			7区	SD18　上層	
569	112	153	須恵器	杯	(14.3)	3.8	(9.6)		1/3	若干		7区	SD18　上層	
570	112	153	須恵器	杯	(12.8)	(4.45)	(8.7)		1/4	若干		7区	SD18　上層	
571	112	153	須恵器	椀or杯	(9.2)	3.5	(3.8)		1/4	若干		7区	SD18　上層	
572	112	153	須恵器	皿	(16.8)	2.8	(13.9)		1/8	1/6		7区	SD18　上層	
573	112	153	須恵器	杯B	-	(4.75)	(11.1)		-	1/4		7区	SD18　上層	
574	112	153	須恵器	壺	-	(4.6)	-		-	-	頸部若干	7区	SD18　上層	
575	112	153	須恵器	壺	(9.2)	(5.45)	-		5/6		頸ほぼ完	7区	東側溝	
576	113	154	弥生土器	広口壺	(12.35)	(10.4)	腹径(18.55)		2/5	欠	体部上半1/3	8区	SD03	
577	113	154	弥生土器	壺	(16.5)	(11.4)	-		1/4		頸部2/3	8区	SD03	
578	113	154	弥生土器	壺	-	(27.0)	腹径(26.4)		-	-	頸2/3体1/3	8区	SD03	
579	113	154	弥生土器	鉢	(17.3)	(11.9)	4.2		1/8	完存		8区	SD03	
580	113	154	弥生土器	有孔鉢か	-	(11.0)	1.2					8区	SD03	
581	113	154	弥生土器	蓋	(14.15)	6.4	つまみ径4.2		1/6		つまみほぼ完	8区	SD03	
582	113	154	土師器	小皿	7.75	0.9	4.95				完形	8区	SX02	
583	113	155	土師器	小皿	(8.2)	1.5	(5.2)		1.2	3/4		8区	SX02	
584	113	155	土師器	小皿	7.9	1.4	5.8				完形	8区	SX02	
585	113	156	土師器	皿	(14.0)	(2.5)	-		1/4	1/3		8区	SX02	
586	113	155	土師器	椀	(15.35)	3.75	7.0		1/4	完存		8区	SX02	
587	113	156	土師器	椀	14.7	3.95	5.8				完形	8区	SX02	
588	113	155	土師器	椀	(15.7)	3.4	(7.55)		1/7	1/3		8区	SX02	
589	113	156	土師器	椀	15.7	4.5	7.0		-	-	ほぼ完形	8区	SX02	東西土手内
590	113	156	土師器	椀	15.8	3.6	6.8		1/2	完存		8区	SX02	
591	113	156	土師器	鍋	(24.8)	(18.5)	腹径(25.8)		1/6	欠	体部上半1/4	8区	SX02	
592	114	157	須恵器	小皿	(7.7)	1.15	(5.6)		1/3	1/3		8区	SX02	
593	114	156	須恵器	小皿	(7.8)	(1.7)	5.6		1/4	完存		8区	SX02	
594	114	156	須恵器	小皿	7.3	1.9	4.0		2/3	ほぼ完存		8区	SX02	
595	114	156	須恵器	小皿	8.1	1.7	4.7		8/9	完存		8区	SX02	
596	114	156	須恵器	小皿	8.2	1.9	5.4		-	-	完形	8区	SX02	
597	114	156	須恵器	椀	16.3	4.0	7.5		1/2	1/2		8区	SX02	
598	114	157	須恵器	椀	(16.0)	4.3	5.8		1/6	完存		8区	SX02	東西土手内
599	114	156	須恵器	椀	16.1	4.7	5.55		わずかに欠損	完存		8区	SX02	
600	114	156	須恵器	椀	(16.0)	(4.6)	(6.3)		1/2	1/3		8区	SX02	
601	114	157	須恵器	椀	(17.15)	4.6	5.7		1/6	完存		8区	SX02	墨書土器
602	114	157	須恵器	椀	16.55	4.75	6.0		1/2	ほぼ完存		8区	SX02	
603	114	157	須恵器	椀	16.5	5.1	6.25		4/5	完存		8区	SX02	
604	114	157	須恵器	椀	(16.7)	4.7	(6.1)		1/6	1/8		8区	SX02	墨書土器
605	114	157	須恵器	椀	16.6	5.45	6.6				ほぼ完形	8区	SX02	
606	114	157	須恵器	椀	(15.7)	(3.45)	-		1/8			8区	SX02	
607	114	157	須恵器	椀	(14.3)	(4.2)	(6.3)		1/3	完存		8区	SX02	
608	114	157	須恵器	捏鉢	(32.6)	(8.75)	-		1/5			8区	SX02	
609	114	157	須恵器	鉢	-	(5.0)	9.9			完存		8区	SX02	
610	114	157	須恵器	椀	(16.3)	4.75	(6.6)		1/3	1/2		8区	SX01	
701		97	須恵器	鉢								3西区	北半中央	下層水田直上まで
702		97	須恵器	鉢								3西区	下層水田直上まで	微高地肩近く
703		99	須恵器	椀								3西区		上層水田直上まで
704		99	須恵質	土錘								3西区	北東側人力	
705		101	土師器	高杯								3中央区	SH03	
706		102	弥生土器	壺								3中央区	SX02-①と②のセクション	
707		106	土師器	高杯								3中央区	SD01	
708		111	土師器	高杯								3東区	SD04	北
709		112	陶器	鉢								3東区		
710		112	陶器	擂鉢								3東区		人力掘削
711		118	須恵器	椀								3東区		キカイ
712		118	須恵器	高杯								3東区	SD01	
713		118	須恵器	高杯								4西区	SD01	東部
714		120	土師器	椀								4西区	P02(SB01)	
715		120	土師器	皿								4西区	P04(SB01)	
716		120	須恵器	椀								4東区	P015	
717		123	須恵器	椀								4東区	SK04	土器①
718		132	須恵器	椀								4東区	SK02	土器②
719		133	須恵器	鉢								4東区	SK02	土器②
720		134	土師器	小皿								5東区	SK02	土器②
721		134	土師器	皿								5東区	SK02	土器②
722		136	土師器	小皿								5東区	SK10	東北
723		138	須恵器	鉢								5東区	SX01	
724		138	須恵器	瓦								5東区	SD06	

表12　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					口径	器高	底径	重量	口縁	底	他			
725		138	土師器	皿								5東区		西半部
726		138	須恵器	鍋								5東区		南半部
727		139	須恵器	椀								5東区		北半部
728		139	須恵器	椀								5東区		キカイ
729		139	須恵器	椀								5東区		キカイ
730		139	須恵器	皿								5東区	南部包含層	
731		140	須恵器	片口鉢								5東区		キカイ
732		141	緑釉陶器	碗								5東区		南部
733		141	陶磁器	碗								5東区		キカイ
734		141	陶磁器	碗								5東区		南部
735		141	陶磁器	碗								5東区		キカイ
736		141	青磁	碗								5東区		キカイ
737		141	青磁	碗								5東区	南部包含層	
738		141	青磁	碗								5東区		キカイ
739		142	瓦	平瓦								5東区		キカイ
740		142	土師器	壺								5東区	北半 粘土採掘坑	
741		142	土師器	鉢								5東区	SX04	
742		143	陶器	皿								6西区	粘土採掘坑4	
743		143	陶磁器	碗								6西区	粘土採掘坑5	
744		144	須恵器	椀								6西区		
745		144	須恵器	椀								6西区		茶灰～褐灰 主
746		144	陶磁器	碗								6西区		キカイ
747		145	陶器	鍋								6西区		
748		145	陶器	鍋								6西区		
749		145	土師器	鍋								6西区		茶灰～褐灰 主
750		145	陶器	底								6西区	粘土採掘坑3	
751		145	土師質	土錘								6西区		南西部
752		145	土師質	焼土塊								6西区	SH08	北西
753		149	土師器	甕								6西区	SD16	
754		153	土師器	甕								6西区		No.1杭横トレンチ
755		153	緑釉陶器	碗								7区		
756		153	須恵器	椀								7区	SD18 北側	
757		154	土師器	甕								7区	SD	
758		155	土師器	底部								7区	SX02	

表13　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					長さ	幅	厚さ	重量	口縁	底	他			
W1	115	158		杭	28.2	4.6	4.5				先端と上部欠損	3西区	SD05	
W2	115	158	建築部材	柱根	(34.75)	(11.3)	(8.3)				下部のみ残存	4中央区	SB02 P3-4	
W3	115	158		木棺	137.7	32.5	8.3				底板のみ残存	5東区	SK03	
W4	116	159	服飾品	下駄	(10.75)	(7.45)	2.0				上半欠損	6西区	-	残土
W5	116	159	容器	曲物	(16.6)	(4.5)	(0.75)				底板一部残存	6西区	粘土採掘坑	南東隅
W6	116	159	容器	曲物	幅(8.3)	厚(0.6)	径(13.15)				底板3/5残存	6西区	北側溝際	
W7	116	160	容器	曲物	(20.75)	(4.55)	1.1				底板一部残存	6西区	粘土採掘坑5	南東隅
W8	116	160	容器	曲物	(20.25)	(1.95)	1.0				底板一部残存	6西区	粘土採掘坑5	南東隅
W9	116	159	不明木製品	陽物か?	(9.4)	(2.5)	(1.7)				?	6西区	粘土採掘坑5	南東隅
W10	116	160	祭祀具	斎串	47.4	2.0	2.0				ほぼ完形	6西区	大畦畔下採掘坑5	
W11	116	160	容器	折敷(座板)	9.95	1.85	0.15				座板2/3残存	8区	SX02	
W12	116	160	?	板材	(4.35)	(1.55)	0.5				一部のみ残存	8区	SX02	
W13	116	160	板状木製品	?	(9.45)	2.25	0.65				一部残存	8区	SX02	
W14	116	161	容器	曲物	(18.0)	(10.15)	0.7				側板一部残存	8区	SX02	
W15	116	161	食事具	杓文字	(12.8)	(7.4)	(1.15)				柄･杓部1/3欠損	8区	SX02	
W16	116	161	工具	刀子の柄	15.1	1.75	1.1				完形	8区	SX02	
W17	116	161	紡績具	糸巻	6.9	径 3.1	-				1/6欠損	8区	SX02	
W18	117	162	刃物状木製品	刃物型斎串	21.45	2.256	1.1				完形	8区	SX02	
W19	117	162	祭祀具	独楽or鏑矢形	9.95	径 2.9	-				先端と上部欠損	8区	SX02	
W20	117	162	祭祀具	独楽or鏑矢形	6.3	1.85	(1.15)				1/2欠損	8区	SX02	東西土手内
W21	117	162	祭祀具(針状木製品)	斎串	(7.05)	0.9	0.85				上部欠損	8区	SX02	
W22	117	162	祭祀具	(斎串)	32.35	3.25	1.85				一部欠損	8区	SX02	
W23	117	162	祭祀具	斎串	(27.9) + (7.2)	1.25	1.05				一部欠損	8区	SX02	
W24	117	162	祭祀具?	斎串?	(4.65)	1.3	1.4				上部欠損	8区	SX02	
W25	117	162	棒状木製品	斎串	(21.0)	1.45	1.4				先端欠損	8区	SX02	東西土手内
W26	117	163	棒状木製品	(斎串)	(11.5)+ (7.95)	1.45	1.65				両端残存	8区	SX02	
W27	117	163	祭祀具	斎串	(19.5)	(1.4)	0.8				ほぼ完形	8区	SX02	
W28	117	163	祭祀具	斎串	30.05	1.25	0.7				ほぼ完形	8区	SX02	
W29	117	163	祭祀具	斎串	(24.6)	1.75	1.0				先端と上部欠損	8区	SX02	
W30	117	163	祭祀具	斎串	(40.1)	1.4	1.0				?	8区	SX02	
W31	117	163	祭祀具	斎串	(29.2)	(2.0)	(1.1)				ほぼ完形	8区	SX02	
W32	117	163	祭祀具	斎串	20.4	1.1	0.8				完形	8区	SX02	
W33	117	163	祭祀具	斎串	18.9	1.3	0.65				完形	8区	SX02	
W34	118	163	箸状木製品	箸状木製品	(19.2)	0.65	0.55				完形	8区	SX02	
W35	118	163	箸状木製品	箸状木製品	11.0	0.8	0.5				両端欠損	8区	SX02	
W36	118	163	箸状木製品	箸状木製品	(6.5)	0.45	0.35				両端欠損	8区	SX02	
W37	118	163	箸状木製品	箸状木製品	(13.25)	0.75	0.4				上部欠損	8区	SX02	東西土手内
W38	118	163	箸状木製品	箸状木製品	(6.7)	0.45	0.35				両端欠損	8区	SX02	
W39	118	163	箸状木製品	箸状木製品	(9.1)	0.7	0.6				上半欠損	8区	SX02	
W40	118	163	箸状木製品	箸状木製品	(12.35)	0.5	0.35				上部欠損	8区	SX02	残土
W41	118	163	箸状木製品	箸状木製品	(8.9)	0.35	0.45				端部片方欠損	8区	SX02	
W42	118	164	棒状木製品	棒状木製品	(14.5)	0.55	0.35				両端欠損	8区	SX02	
W43	118	164	箸状木製品	箸状木製品	(9.15)	0.5	0.4				両端欠損	8区	SX02	
W44	118	164	不明木製品	不明木製品	(15.1)	(1.9)	0.7				ほぼ完形	8区	SX02	
W45	118	164	不明木製品	木札or形代?	(14.8)	(1.15)	0.55				端面一部のみ残存	8区	SX02	
W46	118	164	不明木製品	不明木製品	(6.55)	1.5	0.95				?	8区	SX02	
W47	118	164	部材?	不明木製品	(43.2)	(12.25)	(1.1)				?	8区	SX02	
W48	118	164	部材?	不明木製品	(48.45)	(3.35)	(1.6)				?	8区	SX02	
W49		163										8区	SX02	
W50		163										8区	SX02	
W51		163										8区	SX02	
W52		164										8区	SX02	
W53		164										8区	SX02	

表14　出土遺物観察表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					長さ	幅	厚さ	重量	口縁	底	他			
M1	119	165	銅製品	方形鏡	9.2	9.1	0.1					3中央区	SK20	
M2	119	165	鉄器	毛抜き	8.2	1.6	1.0					3中央区	SK20	
M3	119	165	鉄器	和鋏	16.1	0.8	1.25					3中央区	SK20	
M4	119	165	鉄器	刀子	(11.6)	1.95	0.35 0.4				先端欠	3中央区	SK20	
M5	119	165	鉄器	針	(2.65)	0.3	0.25					3中央区	SK20	
M6	119	165	鉄器	?	(14.3)	0.7	0.55					3中央区	SK20	
M7	119	165	鉄器	角釘	(4.15)	0.45	0.45					3中央区	SK20	
M8	119	165	鉄器	角釘	(5.25)	0.35	0.3				頭･先端欠損	3中央区	SK20	
M9	119	165	鉄器	角釘	(2.3)	1.55	0.3	4.2g				3中央区	SK20	畦より東側
M10	120	166	鉄器	角釘	(3.25)	頭0.5 0.3	0.35					3西区		
M11	120	165	銅製品	刀子	(4.55)	1.5	0.45					3西区		機械掘削
M12	120	166	鉄器	鋤or鍬先	7.8	5.8	1.1					3西区		
M13	120	166	鉄器	馬鍬の刃	(13.95)	1.5	0.85 0.65					3西区		
M14	120	166	鉄器	釘	(2.6)	0.65	0.45				先端残存	3中央区		
M15	120	166	鉄器	釘	(2.65)	0.35	0.35				頭部欠損	3中央区	包含層	
M16	120	166	鉄器	角釘	(2.75)	0.6	0.55					3中央区	大畦畔 北側の小溝	
M17	120	166	鉄器	合釘	(9.3)	0.7	0.65				頭欠	3中央区	SD05	
M18	120	166	鉄器	ヤリガンナ?	(9.45)	1.1	0.4					4西区	SH01	
M19	120	166	鉄器	釘	(3.2)	0.25	0.3					4西区	SD04南西	
M20	120	166	鉄器	釘?	(4.0)	0.6	0.45					4西区	SD04南西	
M21	120	166	鉄器	釘?	(3.6)	0.65	0.55					4西区	SD04南西	
M22	120	166	鉄器	?	(6.6)	1.05	0.6					4西区	SD04南西	
M23	120	166	鉄器	鍔	(7.7)	1.6	0.5					4中央区		
M24	120	166	鉄器	角釘	10.2	0.8	0.6					4中央区	遺構面まで	
M25	120	167	鉄器	刀子?	(8.35)	1.2	0.45				茎部欠損	5東区	機械	
M26	120	167	鉄器	?	(3.5)	0.55	0.55					5東区	南半	人力面検出
M27	120	167	鉄器	角釘	(2.0)	0.5	0.4				両端欠損	5東区	P164	
M28	120	167	鉄器	鏃	(4.85)	(1.95)	(0.2)				?	6西区		
M29	120	167	鉄製品	唐鋤風呂部	12.1	7.85	1.7				?	6西区	機械	
M30		167		スラグ				5.5g				3中央区	SK20	
M31		167		スラグ				13.9g				3中央区	SK20	
M32		167		スラグ				17.5g				3中央区	SK20	
M33		167		スラグ				26.0g				3中央区	SK20	
M34		167		スラグ				131.7g			頭部残	5東区	南半	機械
M35		167		スラグ				76.9g				6西区		
M36		167		スラグ				25.1g				6西区		No4以北 西北部
M37		167		スラグ				79.9g				6西区		重機掘削

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)				残存			出土地区	出土遺構	備考
					長さ	幅	厚さ	重量	口縁	底	他			
S1	121	168	石器	石鏃	1.45	0.91	0.25	0.3g				4西区	SH01	埋土
S2	121	168	石器	石鏃	2.20	1.70	0.40	1.0g				6西区		南東部住居付近
S3	121	168	石器	石鏃	2.70	1.75	0.50	2.4g				6区確認	旧河道	周囲は弥生･中世土器含む
S4	121	168	石器	石錐	5.40	1.85	0.3~ 0.65	5.4g				5東区	南部包含層	
S5	121	168	石器	打製石包丁	14.25	5.55	0.95	77.1g				6西区	粘土採掘坑5	
S6	121	168	石器	楔形石器	2.52	3.36	0.70	6.5g				4中央区	T28	
S7	121	168	石器	楔形石器	3.80	4.50	1.05	16.1g				5東区		北サブトレンチ(側溝)
S8	121	168	石製品	砥石	20.4	10.3	4.50	1425g				3中央区	P67	砥石
S9	121	168	石製品	台石	38.3	25.8	7.0	11700g				4西区	SH02	台石

第３章　自然科学分析

出土人骨・樹種同定・放射性炭素年代（AMS測定）について分析を行った。放射性炭素年代（AMS測定）については、分析資料の大半が、遺構面より下層から採取したサンプルであり、分析結果を使った地形分類については津万遺跡群２発掘調査報告書に掲載する予定である。このため、今回は詳細な分析手法などの掲載は見送り、分析結果のみ掲載する。

第１節　津万遺跡群４出土の人骨について

藤田　尚（パレオ・ラボ）

１．はじめに

津万遺跡群４、津万５東区（2009189）木棺墓SK03出土人骨の鑑定結果について報告する。

２.人骨の所見

図版59表示のＢの人骨について、断片化しており骨表面の４分の１程度しか残存していない。但し、長管骨であることは確かである。形質的には、上肢骨（上腕骨、橈骨、尺骨）のいずれか、もしくはこれらが混入していると考えられた（写真１・２）。残存長は約110㎜×23㎜である。

Ｂのなかでも微細破片骨については、微細骨片であるため、どの部位であるか同定は不可能である（写真３・４）。

図版59表示の歯Ａについては永久歯と判断され（写真５・６）、少なくとも12本は残存すると確認できるが、これも破片化しており詳細な同定は不可能である。歯根が残っていないため、上顎・下顎および左右の判別はつかない。ただ、犬歯と思われる歯（青矢印）を観察すると、咬耗によって象牙質が露出している。したがって、この個体は、成人以降壮年期から熟年期に属するものと考えられた。その他の歯については、小臼歯（赤矢印）と思われる歯が確認された。これら犬歯以外の歯の咬耗は、認められない程度の軽度なものである。

３．まとめ

骨も歯も非常に保存状態が不良であることから、詳しい形質は不明である。骨からは、性別の判定は不可能であるが、年齢については、犬歯の咬耗度が進んでいることから壮年期から熟年期に属する個体と思われた。被熱の痕跡が認められないことから、火葬はされていないと判断される。

表 15　出土人骨鑑定結果

調査番号	地区		分類群	部位	左右	状態	備考	写真
5東区	SK03	B	ヒト	長管骨	不明	破片	上肢骨(上腕骨、橈骨、尺骨)のいずれかまたは混入か	写真1
5東区	SK03	B	ヒト	長管骨	不明	破片	上肢骨(上腕骨、橈骨、尺骨)のいずれかまたは混入か 残存長は以下のとおり。①50×9、②50×14、③22×11、④23×18、⑤21×15(単位はいずれも㎜)	写真2
5東区	SK03	B	ヒト	部位不明	不明	破片	微細骨片	写真3
5東区	SK03	B	ヒト	部位不明	不明	破片	微細骨片	写真4
5東区	SK03	A	ヒト	犬歯および臼歯	不明	破片	12本残存、壮年期から熟年期、その他微細片あり	写真5
5東区	SK03	A	ヒト	犬歯および臼歯	不明	破片	12本残存、壮年期から熟年期、その他微細片あり	写真6

参考文献

White, TD. and Folkens, PA.（2005）The Human Bone Manual. Academic Press, Elsevier, Tokyo,464.

写真１（SK03，B）

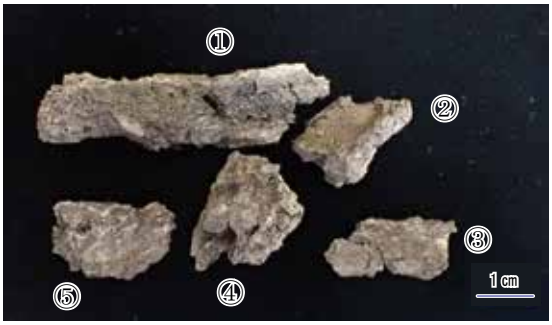


写真２（SK03，B）

写真３（SK03，B）

写真４（SK03，B）

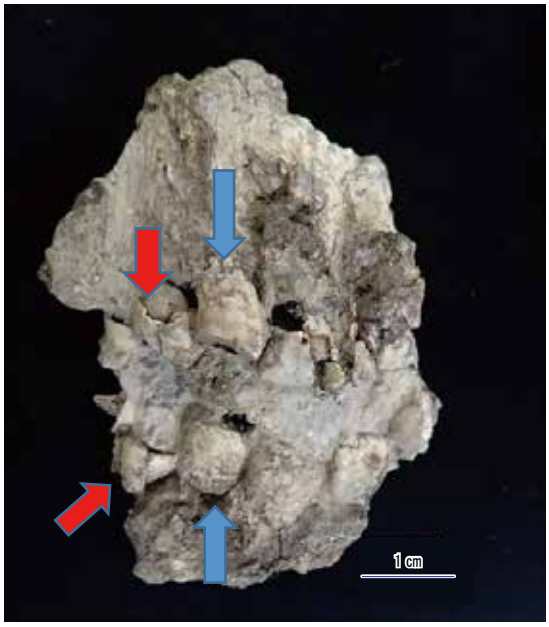


写真５（SK03，A）　青矢印：犬歯、赤矢印：小臼歯

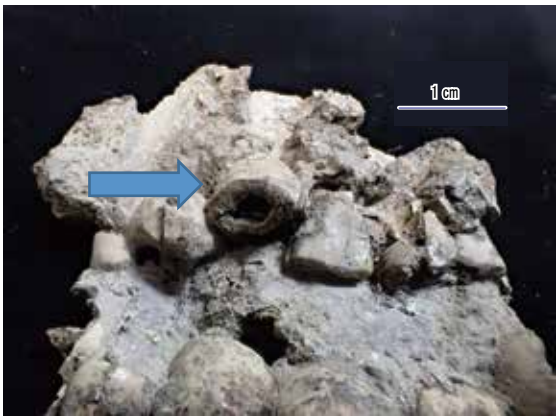


写真６（SK03，A）、犬歯部分拡大

第１図　出土人骨　写真１～６

第 2 節　津万遺跡群 4 における樹種同定

一般社団法人 文化財科学研究センター

金原美奈子　金原裕美子

1．はじめに

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

2．試料と方法

試料は、建物址、溝、木棺墓、土坑、粘土採掘坑などより出土した柱根、杭、木棺、杓文字、糸巻、下駄、曲物、斎串などの木製品12点である。なお、時期は中世である。試料は結果表に記す。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡（OPTIPHOTO-２：Nikon）によって40～1000倍で観察した。切片をMount-Quick“Aqueous”（大道産業）で封入し、プレパラートを作製する。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

3．結果

表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

1）モミ属　*Abies*　マツ科

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射柔細胞の分野壁孔は小型のスギ型で１分野に１～４個存在する。放射柔細胞の壁が厚く、数珠状末端壁が見られる。放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からモミ属に同定される。日本に自生するモミ属は５種であり、モミ以外は亜寒帯種である。常緑高木で高さ45m、径1.5mに達する。

2）マツ属複維管束亜属　*Pinus subgen. Diploxylon*　マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道などから構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と緩やかな箇所があり、垂直樹脂道が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状で、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の特徴からマツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。材はいずれも水湿によく耐え、広く用いられる。

3）スギ　*Cryptomeria japonica D.Don*　スギ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、１分野に２個存在するものがほとんどである。放射組織は単列の同性放射組織型で、１～14細胞高である。

以上の特徴からスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で高さ40m、径２mに達する。

4）ヒノキ　*Chamaecyparis obtuse Endl.*　ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で１分野に２個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、１～15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。

5）ヒノキ属　*Chamaecyparis*　ヒノキ科

横断面、放射断面、接線断面共にヒノキ科の特徴を示し、分野壁孔は１分野に２個存在するが、分野壁孔の型が不明瞭なものはヒノキ属とした。

6）ヤブツバキ　*Camellia japonica Linn.*　ツバキ科

小型でやや角張った道管が、単独ないし２～３個複合して散在する散孔材である。道管の径は緩やかに減少する。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は８～30本ぐらいである。放射組織は、異性放射組織型で、１～３細胞幅である。直立細胞には大きく膨れているものが存在する。

以上の特徴からヤブツバキに同定される。ヤブツバキは本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、通常高さ５～10m、径20～30cmである。

４．所見

同定の結果、津万遺跡群４の木製品はモミ属４点、マツ属複維管束亜属２点、スギ１点、ヒノキ２点、ヒノキ属２点、ヤブツバキ１点であった。

モミ属は木棺、杓文字、板材？などに利用されている。モミ属は温帯性のモミと考えられ、材は耐朽・保存性は低いが、軽軟なため加工が容易である。建物の内装や建具によく利用され、調湿・防臭効果や高い防虫効果を期待され食品などの保管箱に利用されることもある。下駄や板材に利用されることが多いが棺材の例は少なく、同じ兵庫県では棺材が二葉町遺跡（鎌倉時代）から同定されている。また杓文字形の木製品が上脇遺跡（鎌倉時代）より出土している。マツ属複維管束亜属は杭、鏑矢の先の可能性があるものに用いられている。木材は重硬で水湿によく耐え腐りにくく、建築部材の中でも水湿の影響がある柱、礎板などに用いられることが多く、杭にも有用である。矢にマツ属複維管束亜属が利用された例は極めて少ない。スギは斎串に利用されている。木材は加工工作が容易な上、大きな材がとれる良材で、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。ヒノキは木札もしくは形代、曲物に利用されている。材は木理通直、肌目緻密で強靭であり、耐朽・耐湿性も高く良材である。加工工作が容易な上、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられ、スギと並び木簡や斎串などによく利用される。ヒノキ属は柱根、下駄に利用されている。ヒノキ属にはヒノキ、サワラなどがあり、木理通直で強靱であり、耐朽・耐湿性に優れた材ばかりである。そのため、柱根や下駄に適材と考えられる。ヤブツバキは糸巻に利用されている。強靱、堅硬な良材で切削・加工は困難であるが、建築、器具、楽器、船、彫刻などに用いられる。糸巻の用材にはヒノキなどの針葉樹を用いたものが多くヤブツバキが利用される例は極めて少ない。

同定された樹種はいずれも温帯から温帯下部の暖温帯に分布する樹木である。モミ属、スギ、ヒノキは谷間や緩傾斜地の適潤な肥沃地を好む樹木であり、一方でマツ属複維管束亜属は土壌条件の悪い岩山に生育したと考えられる。なお、マツ属複維管束亜属（生態的にアカマツ）は二次林を形成する。ヤブツバキは比較的人里に近い山林に生育する。

いずれの樹木も当時遺跡および周辺に生育していたとみなされ、遺跡周辺からか、または流通によって近隣地域よりもたらされたと推定される。また一方で、加古川を利用して遠隔地より成品がもたらされた可能性もある。なお、マツ属複維管束亜属を矢の一部に、またヤブツバキを糸巻などの紡織具に用いる例は極めてめずらしい。

参考文献

伊東隆夫・山田昌久（2012）木の考古学，雄山閣，p.449.

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296.

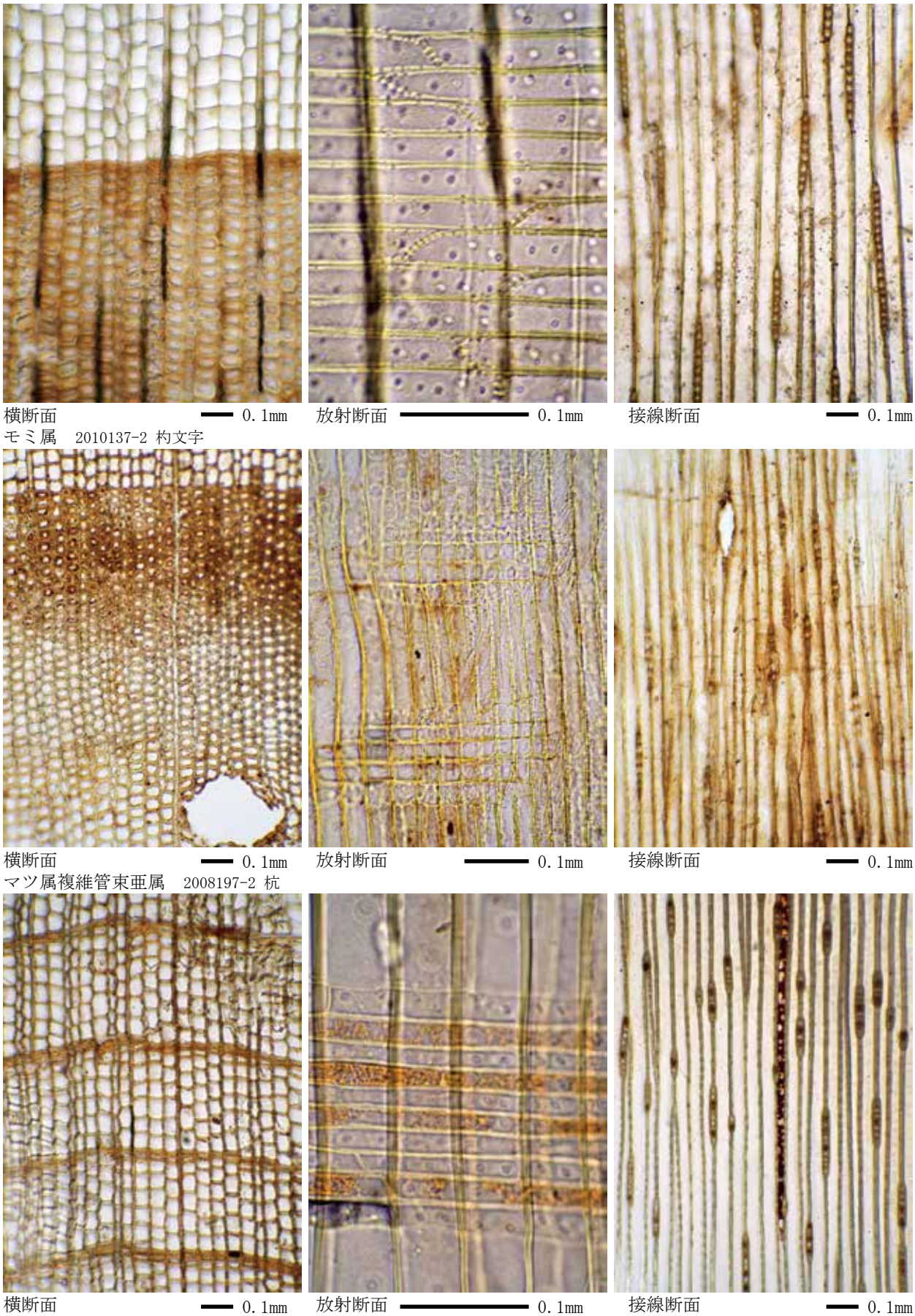
パリノ・サーヴェイ（2002）上脇遺跡から出土した木材・炭化材の樹種，神戸西バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 上脇遺跡Ⅱ，兵庫県文化財調査報告第233冊，兵庫県教育委員会，p.140－141・148－152.

松葉礼子（2001）二葉町遺跡出土木製品の樹種同定，二葉町遺跡発掘調査報告書 第３・５・７・８・９・12次調査，神戸市教育委員会，p.141－166.

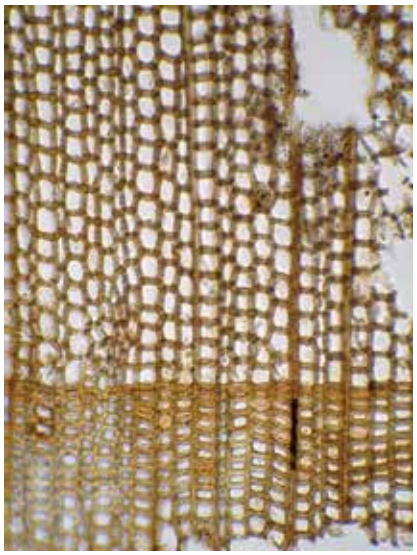
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第１号，植生史研究会，p.242.

表 16　津万遺跡群 4 における樹種同定結果

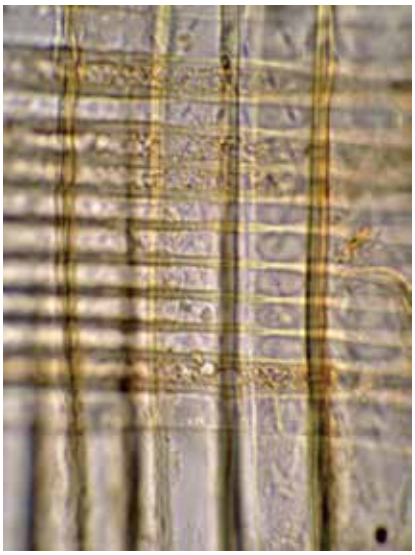
No.	実測・処理No.	種別	器種	出土地区	出土遺構	時期	結果（学名 / 和名）		備考
W2	2008197-1	建築部材	柱根	津万4中央区	SB02 P3-4		Chamaecyparis	ヒノキ属	
W1	2008197-2		杭	津万3西区	SD05		Pinus subgen. Diploxylon	マツ属 複維管束亜属	
W3	2009189-16		木棺	津万5東区	SK03	中世（鎌倉）	Abies	モミ属	
W45	2010137-1	祭祀具	木札 もしくは形代	津万8区	SX02	中世（鎌倉）	Chamaecyparis obtusa Endl.	ヒノキ	
W15	2010137-2	食事具	杓文字	津万8区	SX02	中世（鎌倉）	Abies	モミ属	
W17	2010137-3	紡績具	糸巻	津万8区	SX02	中世（鎌倉）	Camellia japonica Linn.	ヤブツバキ	
W4	2010137-6	服飾品	下駄	津万6西区	-		Chamaecyparis	ヒノキ属	
W7	2010137-12	容器	曲物	津万6西区	粘土 採掘坑５	中世(14C ～)	Chamaecyparis obtusa Endl.	ヒノキ	
W47	2010137-40	部材?	不明木製品	津万8区	SX02	中世（鎌倉）	Abies	モミ属	
W34	2010137-44	箸状木製品	斎串	津万8区	SX02	中世（鎌倉）	Cryptomeria japonica D.Don	スギ	箸状 木製品
W19	2010137-52	祭祀具	鏑矢形 もしくは独楽	津万8区	SX02	中世（鎌倉）	Pinus subgen. Diploxylon	マツ属 複維管束亜属	
W48	2010137-59	部材?	不明木製品	津万8区	SX02	中世（鎌倉）	Abies	モミ属	不明 木製品



第 2 図　津万遺跡群 4 の木材（1）



横断面　0.1mm



放射断面　0.1mm

接線断面　0.1mm

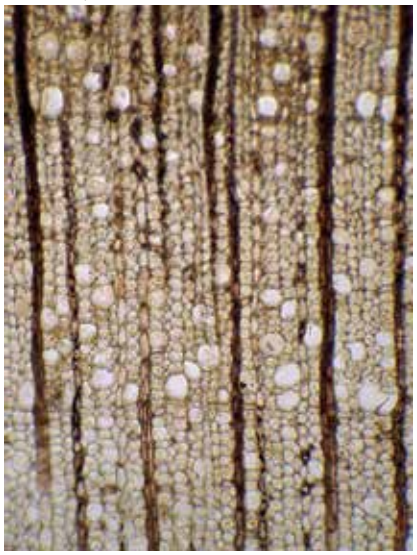
ヒノキ　2010137-1 木札もしくは形代

横断面　0.1mm

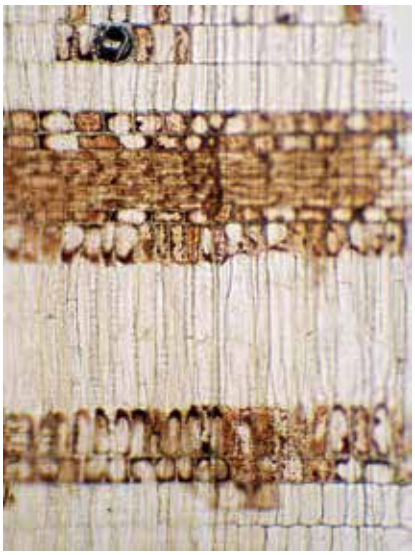
放射断面　0.1mm

接線断面　0.1mm

ヒノキ属　2010137-6 下駄



横断面　0.1mm



放射断面　0.1mm

接線断面　0.1mm

ヤブツバキ　2010137-3 糸巻

第 3 図　津万遺跡群 4 の木材（2）

第3節　津万遺跡群4における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

津万遺跡群4は、兵庫県西脇市津万地先に所在する。測定対象試料は、土壌の中から採取した木炭または炭化物が3点、土壌が7点の合計10点である（表17）。

2　測定結果（表17、18）

3西区から採取された試料1、2の^{14}C年代は、試料1が670±20yrBP、試料2が2030±20yrBPである。暦年較正年代（1σ）は、試料1が1285～1381cal ADの間に2つの範囲、試料2が51cal BC～5 cal ADの範囲でそれぞれ示される。試料1は中世頃、試料2は弥生時代中期頃に相当する（佐原2005、小林2009）。

4東区から採取された試料3、9、10の3点の^{14}C年代は、6530±30yrBP（試料10）から3420±20yrBP（試料9）の間にある。暦年較正年代（1σ）は、最も古い試料10が5512～5476cal BCの範囲、最も新しい試料9が1747～1688cal BCの範囲でそれぞれ示される。古い方から順に試料10が縄文時代早期後葉から末葉頃、試料3が縄文前期初頭から前葉頃、試料9が縄文時代後期中葉頃に相当する（小林編2008、小林2017）。

5東区から採取された試料4～8の5点の^{14}C年代は、6560±30yrBP（試料7）から2870±20yrBP（試料8）の間にある。暦年較正年代（1σ）は、最も古い試料7が5528～5482cal BCの範囲、最も新しい試料8が1107～1001cal BCの間に2つの範囲でそれぞれ示される。古い方から順に試料7が縄文時代早期後葉から末葉頃、試料6が縄文時代前期初頭頃、試料5が縄文時代前期中葉から後葉頃、試料4が縄文時代中期前葉から中葉頃、試料8が縄文時代晩期前葉頃に相当する（小林編 2008、小林 2017）。

木炭または炭化物試料3点（試料1、2、7）の炭素含有率は、3点のうち試料1が67%、試料2が70%の適正な値である。試料7の炭素含有率は26%と炭化物としては低い値である。土の中に含まれる微細

表 17　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C(‰)(AMS)	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-190904	1	（3西区） 層位：上層（水田包含層） 暗オリーブ灰シルト	木炭	AAA	-26.79 ± 0.21	670 ± 20	92.02 ± 0.25
IAAA-190905	2	（3西区） 遺構：SH01 層位：土器7	木炭	AAA	-25.83 ± 0.22	2,030 ± 20	77.70 ± 0.22
IAAA-190906	3	（4東区） サンプルNo. 1 層位：灰褐色シルト	土壌	HCl	-26.13 ± 0.23	5,910 ± 30	47.93 ± 0.18
IAAA-190907	4	（5東区） サンプルNo. 2 層位：黒灰色シルト	土壌	HCl	-23.42 ± 0.20	4,510 ± 30	57.03 ± 0.19
IAAA-190908	5	（5東区） サンプルNo. 3 層位：灰黒色シルト	土壌	HCl	-22.74 ± 0.22	5,240 ± 30	52.07 ± 0.18
IAAA-190909	6	（5東区） サンプルNo. 4 層位：黒灰色シルト	土壌	HCl	-25.47 ± 0.21	6,080 ± 30	46.90 ± 0.17
IAAA-190910	7	（5東区） サンプルNo. 5 層位：黒灰色シルト	炭化物	AaA	-25.46 ± 0.20	6,560 ± 30	44.21 ± 0.16
IAAA-190911	8	（5東区） サンプルNo. 1 層位：灰黒色シルト	土壌	HCl	-23.02 ± 0.22	2,870 ± 20	69.98 ± 0.21
IAAA-190912	9	（4東区） サンプルNo. 1 層位：灰黒色シルト	土壌	HCl	-22.57 ± 0.20	3,420 ± 20	65.33 ± 0.20
IAAA-190913	10	（4東区） サンプルNo. 2 層位：暗灰色シルト	土壌	HCl	-22.63 ± 0.25	6,530 ± 30	44.36 ± 0.16

［IAA 登録番号：#9818］

表 18　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

測定番号	δ^{13}C補正なし		暦年較正用（yrBP）	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-190904	700 ± 20	91.69 ± 0.25	668 ± 21	1285calAD – 1300calAD（41.0%） 1369calAD – 1381calAD（27.2%）	1279calAD – 1311calAD（53.8%） 1359calAD – 1388calAD（41.6%）
IAAA-190905	2,040 ± 20	77.57 ± 0.22	2,026 ± 23	51calBC – 5calAD（68.2%）	96calBC – 30calAD（93.0%） 37calAD – 50calAD（ 2.4%）
IAAA-190906	5,930 ± 30	47.82 ± 0.17	5,907 ± 29	4799calBC – 4726calBC（68.2%）	4841calBC – 4716calBC（95.4%）
IAAA-190907	4,490 ± 30	57.22 ± 0.19	4,511 ± 26	3342calBC – 3321calBC（10.0%） 3272calBC – 3267calBC（ 2.3%） 3236calBC – 3171calBC（31.6%） 3164calBC – 3115calBC（24.3%）	3351calBC – 3263calBC（31.8%） 3246calBC – 3100calBC（63.6%）
IAAA-190908	5,200 ± 30	52.31 ± 0.18	5,242 ± 28	4143calBC – 4139calBC（ 1.6%） 4054calBC – 3984calBC（66.6%）	4226calBC – 4203calBC（ 6.1%） 4167calBC – 4128calBC（11.9%） 4115calBC – 4100calBC（ 2.0%） 4076calBC – 3973calBC（75.5%）
IAAA-190909	6,090 ± 30	46.86 ± 0.17	6,081 ± 29	5029calBC – 4949calBC（68.2%）	5197calBC – 5179calBC（ 2.3%） 5064calBC – 4907calBC（92.7%） 4863calBC – 4858calBC（ 0.5%）
IAAA-190910	6,560 ± 30	44.17 ± 0.16	6,556 ± 29	5528calBC – 5482calBC（68.2%）	5603calBC – 5599calBC（ 1.0%） 5559calBC – 5475calBC（94.4%）
IAAA-190911	2,830 ± 20	70.27 ± 0.21	2,867 ± 23	1107calBC – 1103calBC（ 2.0%） 1086calBC – 1001calBC（66.2%）	1116calBC – 974calBC（92.5%） 956calBC – 942calBC（ 2.9%）
IAAA-190912	3,380 ± 20	65.66 ± 0.20	3,419 ± 24	1747calBC – 1688calBC（68.2%）	1865calBC – 1850calBC（ 2.4%） 1773calBC – 1642calBC（93.0%）
IAAA-190913	6,490 ± 30	44.57 ± 0.16	6,530 ± 28	5512calBC – 5476calBC（68.2%）	5553calBC – 5468calBC（95.4%）

［参考値］

な炭化物を集めて試料としたが、土を十分除去できなかったことから、測定された炭素の由来に若干の注意を要する。土壌試料７点（試料３～６、８～10）の炭素含有率は、７点のうち試料10を除く６点が1.0％（試料６）～2.9％（試料５）の土壌としては特に低くない値である。試料10は0.5％という低い値となっており、測定された炭素の由来に注意を要する。

文献

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり　第４巻　弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82

小林謙一 2017 縄文時代の実年代　―土器型式編年と炭素14年代―, 同成社

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, 佐原眞, ウェルナー・シュタインハウス監修, 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集, ドイツ展記念概説　日本の考古学　上巻, 学生社, 14-1

表19　津万遺跡群４遺構概容一覧

区		遺構名	立地	標高(m)	種別	形状など	規模		法量(m)			軸方位	遺物	時期	備考
							桁×梁	床面積	長さ	幅	深さ				
3	西	SH01	微高地	59.8	竪穴住居	円形		63.58㎡	9.0	9.0	0.16		1~14		
		SB01	微高地	59.7	掘立柱建物	総柱建物	2×2間	8.82㎡	3.2	2.8		N4°E		中世か	
		SB02	微高地	59.8	礎石建物	側柱建物	2×1間	8.75㎡	3.5	2.5		N28°W	16		
		SB03	微高地	59.7	掘立柱建物	総柱建物	4×2間	27.28㎡	6.2	4.4		N83°E		中世か	
		SK01	微高地		集石土坑	不整楕円形							19		
		SK04	微高地	59.7	土坑	卵形			1.0	0.8	0.16	N6°W	20·21	中世前期か	
		SK05	微高地	59.7	土坑	長楕円形			1.0	0.6	0.13	N24°E			
		SK06·07	微高地	59.7	土坑	くの字			2.1	2.1	0.15	N3°E	22·23	14世紀代	
		SK10	微高地	59.8	土坑	楕円形			1.9	1.7	0.13			SB01より古い	
		SK13	微高地	59.8	集石土坑	楕円形			4.8	2.1	0.25	N28.5°E	24	中世後半	
		SK14	微高地	59.8	土坑	不整形			2.25	2.0	0.28				
		SK16	微高地	59.8	土坑	隅丸方形			4.3	1.7	0.15	N19°W	25·26	中世後半	
		SX03	微高地	59.7	土坑	卵形			2.4	1.5	0.54	N63°E		SB03より新しい	
		上層水田	谷部	59.7	中小畦畔·溝	不整形区画							49~56	中世前期	
		下層水田	谷部	59.5	小畦畔	不整形区画							29~32	古代~中世	
		SD11	谷部	59.6	溝					0.7	0.15	N3.5°W	27·28	上層水田に伴う	
		SD12	谷部	59.6	溝					0.7	0.2	N56°W		上層水田に伴う	
		SD3001	微高地	59.1	溝					1.4	0.5	N114°E	17	弥生時代後期末	
	中央	SH01	微高地	60.0	竪穴住居	方形			4.0	3.4	0.12	N45°W	96~98		
		SH02	微高地	59.9	竪穴住居	正方形			6.2	6.2	0.4		73~95		
		SH03	微高地	59.85	竪穴住居	方形			5.8	5.4	0.1		99~103		
		SH04	微高地	60.0	竪穴住居	楕円形			5.5	5.2	0.06~0.13		104~109		
		SH05	微高地	60.0	竪穴住居	円形			8.2	8.2			110·111		
		SB01	微高地	59.7	掘立柱建物	礎盤建物	4×2間	13.0㎡	6.5	2.0		N45°E	土器	古墳時代以前か	
		SB02	微高地	59.9	掘立柱建物	独立棟持柱	2×1間	9.45㎡	3.5	2.7		N70°W	土器	古墳時代以前か	
		SB03	微高地	59.7	掘立柱建物	庇·縁付建物	2×1間	8.96㎡	3.2	2.8		N36°E			
		SB04	微高地	59.9	掘立柱建物	総柱建物	2×2間	7.75㎡	3.1	2.5		正方位	糸切り底部片	中世	
		SB05	微高地	59.8	掘立柱建物		2×2間	15.0㎡	5.0	3.0		正方位	132·133	中世	
		SB06	微高地	59.8	掘立柱建物		3×2間	15.68㎡	4.9	3.2		N10°W	178~180	中世	
		SD01	微高地	59.8	溝	弧状				1.6~2.5	0.7~0.85		137~148	弥生時代中期	環濠の一部か
		SD13	微高地	59.9	溝					3.7	0.17	南北方向	153~156	5世紀後葉	
		SD17	微高地	60.0	溝					0.85	0.35		149~152	弥生時代中期	SD01と連結
		SX02	微高地	60.0	土坑	不整形							112~114		SD15流末
		SX04	微高地	59.5	土坑	不整円形			9.0	9.0	0.9		115~131		
		SK16	微高地	59.95	土坑				1.6	0.6	0.3				
		大畦畔	微高地	60	水田畦畔					0.9~2.0	0.25~0.38			中世	微高地横断
		SK01	微高地	59.9	集石土坑	不整円形			3前後	3前後	0.25		160·161	15世紀前半	
		SK02	微高地	59.8	土坑	楕円形			0.95	0.7	0.13		162	中世後期	
		SK03	微高地	59.95	土坑	不整形楕円			0.9	0.55	0.35				
		SK07	微高地	59.8	土坑	不整形楕円							163~165	15世紀代か	
		SK20	微高地	59.95	木棺墓	隅丸長方形			1.65	1.15	0.25	東西方向	化粧道具ほか	中世前期	屋敷墓
		SK26	微高地	59.9	土坑	不整楕円形			1.0	0.9	0.15		173	14世紀前半	
		SK27	微高地	59.9	土坑	隅丸長方形			1.2	0.75			175~177	11~12世紀代	
	東	SK02	微高地	59.7	土坑	不整五角形			0.75	0.63	0.2	N48°E			
		SK03	微高地	59.8	石組水溜遺構						0.55	N90°W	200~202	中世後半	
		SD01	微高地	59.7	溝					1.0	0.15	N8°W	203~205	14世紀~15世紀	
		SD02	微高地	59.7	溝	V字溝				0.3	0.1	N13.5°W			
		SD03	微高地	60.0	溝	逆台形				0.5	0.08				
		SD04	微高地	59.7	溝	V字溝				1.7~2.0	0.55		192~199	弥生時代後期	
4	西	SH01-1	微高地	59.7	竪穴住居	円形			9.8	10.1					多角形ヵ
		SH01-2	微高地	59.5	竪穴住居	円形			7.1	7.9					多角形ヵ
		SH02	微高地	59.7	竪穴住居	方形			5.5	5.1	0.3		254~259		
		SH03	微高地	59.7	竪穴住居	方形			3.2以上		0.08				
		SB01	微高地	59.6	掘立柱建物	総柱建物	5×2間	49.50㎡	11.0	4.5		N9°E	262·263	14世紀前半	2棟並列ヵ
		SK01	微高地	59.7	石敷き土坑	不整形							265~269	中世後半	分水施設
		SK02	微高地	59.7	集石土坑	不整形			4.5	3.3	0.7		270	14世紀後半	
		SK04	微高地		土坑	不整円形			0.8	0.8	0.25				
		SK06	微高地	59.6	集石土坑	楕円形					0.3		271	15世紀前半	
		SK07	微高地	59.7	土坑	楕円形			2.4	1.4	0.25				
		SK09	微高地	59.6	土坑	隅丸方形			1.1	1.1	0.2				
		SK10	微高地	59.7	土坑	楕円形			0.76	0.57	0.2		260		
		SK11	微高地	59.7	土坑	楕円形			2.0	1.6	0.4				
		SK13	微高地	59.7	皿状土坑	円形			1.0	1.0					
		SD01	微高地	59.55	溝					1.2~1.5	0.5~0.8		241~253	TK23·47並行期	
		SD02·03	微高地	59.7	溝										分岐溝
		SD04	微高地	60.1	溝				8.4	0.9	0.35		272~274	中世前期か	条溝
	中央	SB01	谷部	59.5	掘立柱建物	総柱建物	4×4間	91.80㎡	10.2	9.0		N12°E	286~288	中世前期	
		SB02	微高地	59.5	掘立柱建物	総柱建物	5×3間	72.60㎡	11.0	6.6		N3.5°E		中世前期	
		SB03	微高地	59.5	掘立柱建物	総柱建物	3×3間	41.25㎡	7.5	5.5		N2°E			
		SK01	谷部	59.5	土坑	不整円形			0.65	0.6	0.25	N1.5°E			
		SK03	谷部	59.7	土坑	楕円形			1.0	0.6以上	0.1	N7°E		スキ溝3に先行	
		SD01·03	谷部	59.4	溝					2.7	0.3	N85°E	282~285		
		SD02	谷部	59.5	溝					0.5	0.2	N80°W		スキ溝群が先行	
		スキ溝1~4	谷部	59.5	鋤溝					0.25~0.4	0.1	N9°W			
		スキ溝5~17	谷部	59.3	鋤溝					0.25~0.4	0.1	N12~17°E			
		大畦畔跡	谷部~	59.8	条里地割					0.7~1.0		N7°E		中世後半	
	東	SB01	谷部~	59.5	掘立柱建物	総柱建物	4×4間	120㎡	12.0	10.0		N2°E	304	古代ヵ	
		SB02	微高地	59.7	掘立柱建物	東西棟	3×1間	16.8㎡	6.0	2.8					
		SB03	微高地	59.6	掘立柱建物		2以上×3間	24㎡以上	6.0	4以上		N8°E	須恵器椀	中世前期	
		SB04	微高地	59.7	掘立柱建物	南北棟	3×4間	57.6㎡	7.2	6.0			307·308	13世紀	
		SB05	微高地	59.7	掘立柱建物	側柱建物	2×2間	17.6㎡	4.4	4.0			須恵器椀·鉢片など	中世	
		SB06	微高地~	59.6	掘立柱建物		1×2間以上			2.4			土師器鍋片	中世	

区		遺構名	立地	標高(m)	種別	形状など	規模		法量(m)			軸方位	遺物	時期	備考
							桁×梁	床面積	長さ	幅	深さ				
4	東	SK03	谷部~	59.65	土坑	方形				1.0	1.0				
		SK04	谷部~	59.7	集石土坑	隅丸方形			4以上	3以上			313~316	13~14世紀	
		SK05	微高地	59.7	土坑	長円形			0.96	0.4	0.3				
		SD01	谷部~	59.6	耕作痕	鋤溝ヵ			11.5以上	0.7	0.1		300·301		
		SD10	微高地~	59.6	溝					1.3~1.7	0.13~0.23		302·303		低湿地にも延びる
		SD11	微高地	59.5	溝					1.0	0.17				SD10から分岐
		SD15	微高地	59.7	溝					0.6	0.05				SD10と並行
		SD17	微高地~	59.5	溝	東西溝				0.6	0.4				4中央区SD03延長
5	東	SB01	微高地	59.2	掘立柱建物	庇縁付建物	5×4間	78.0㎡	10.0	7.8		N10°E	324~329	14世紀代カ	
		SB02	微高地	59.3	掘立柱建物	総柱建物	6×4間	92.8㎡	11.6	8.0		正方位	330~342	14世紀代カ	
		SB03	微高地	59.4	掘立柱建物	総柱建物ヵ	3×2間	27.0㎡	6.3	4.3		N4°E	343~360	中世後半	
		SB04	微高地	59.3	掘立柱建物	総柱建物	4×2間	41.2㎡	8.6	4.8		N2°E	361~363	14~15世紀	
		SB05	微高地	59.3	掘立柱建物	総柱建物	3×3間	60.20㎡	8.6	7.0		N3°W	364~370	14世紀	
		SB06	微高地	59.35	建物·棚列	門ヵ	2×1間	11.50㎡	4.6	2.5		N14°E	371~383	中世前期	
		SX01	微高地	59.35	集石土坑	三角形							450~455	14世紀代前半	
		SK02	微高地	59.2	集石土坑	隅丸長方形			3.9	2.55	0.3		401~427	14世紀代前半	
		SK03	微高地	59.2	木棺墓	楕円形			1.94	0.89	0.31		漆椀·烏帽子·短刀ヵ	中世前半	屋敷墓
		SK04	微高地	59.2	焼土坑	円形			0.85	0.85					炭含む。
		SK06	微高地	59.3	集石土坑	倒卵形			2.0	1.8	0.28		429·430	13後半~14前半	
		SK10	微高地	59.3	集石土坑	楕円形			4.7	3.7	0.65		431~435	14世紀後半	
		SK11	微高地	59.3	土坑	円形			1.4	1.4	0.45		糸切り底須恵器	中世前期	
		SK13	微高地	59.3	土坑	楕円形			0.9	0.65	0.40		糸切り底須恵器椀	中世前期	
		SK14	微高地	59.4	集石土坑	不整円形に突出部			3.4	2.4	0.70		436~444	14世紀前半	
		SK15	微高地	59.3	集石土坑	隅丸長方形			1.58	1.12	0.45		445	中世	
		SK16	微高地	59.3	土坑	楕円形			0.75	0.5	0.35		446	14世紀代カ	
		SK17	微高地	59.3	土坑	楕円形			0.6	0.6	0.3				
		SK19	微高地		落ち込み	風倒木ヵ			1.2	1.2	0.15		縄文土器321		
		SK21	微高地	59.3	土坑	隅丸長方形			0.85	0.75					
		SK22	微高地	59.4	土坑	楕円形			1.05	0.73	0.1		447~449	11~12世紀	
		SK24	微高地	59.3	炭土坑	長円形			2.0	0.7	0.1		須恵器甕·土師器鍋		
		SK25	微高地	59.3	焼土坑	隅丸方形			1.5	1.3	0.08				炭含む。
		SK26	微高地	59.3	土坑	円形			0.75	0.75	0.3		土師器·須恵器片		
		SK28	微高地	59.4	集石土坑	楕円形			0.5前後	0.5前後	0.1				
		SD01	微高地~	59.1	溝	条里に並行				0.4	0.1		322·456		
		SD02	微高地	59.15	溝					0.3	0.1				
		SD03	微高地	59.25	溝					0.25	0.1	N60°W			
		SD04	微高地	59.2	溝					0.25	0.05				
		SD06	微高地	59.35	溝	条里溝						東西方向	457~460	14世紀前半	
		SD18	微高地		溝					1.05	0.15	N55°W			4東区SD10の延長
6	西	SB01	微高地	59.1	掘立柱建物	一部総柱建物	4×3間	29.58㎡	5.8	5.1		N27°E			
		SB02	微高地	59.6	掘立柱建物	側柱建物	2×1間	4.26㎡	2.75	1.55		N20°E			井戸の上屋ヵ
		SE16	微高地	59.6	井戸	卵形			1.5	1.35	0.8	N23°W			
		粘土採掘坑1	谷部	58.7	土坑	不整形			1.35	1.0	0.2	N80°E		中世前期	
		粘土採掘坑5	谷部	58.2	土坑	不整楕円形			1.7	1.3	0.9	N85°W	木製品W10	中世前期	
		粘土採掘坑6	谷部	58.8	土坑	袋形			0.9	0.6	0.3	N89°E		中世前期	
		粘土採掘坑8	谷部	58.5	土坑	不整方形			2.4	2.0	0.15	N80°E	484	13世紀後半	
		ピット群	谷部	58.2	ピット19個							N88°W		中世前期	畦畔保護·足場
		SK10	微高地	58.9	土坑	勾玉形			0.9	0.6	0.1	N53°W			
		SK11	微高地	58.9	土坑	三角形ヵ			1.1	1.0	0.4	N12°E			
		SK12	微高地	58.8	土坑	不整形			1.1	0.4	0.25	N15°E			
		SK13	微高地	58.9	土坑	楕円形			1.6	1.25	0.3				
		SK14	微高地	58.9	土坑	楕円形			1.08	0.6	0.35	N25°E			
		SK17	微高地	59.0	土坑	不整楕円形			1.7	1.1	0.25	N24°E			
		SD02	微高地	59.0	溝				17.5	0.35	0.1	N60°E			
		SD06	微高地	59.0	溝				4.1	0.55	0.07	N3°E			
		SD15	微高地	58.9	溝					0.35	0.15	N52°W			
		上層水田	微高地	59.1											
		下層水田	微高地	58.9											
	東	SH08	微高地	59.3	竪穴住居	円形				8.2	8.2		498·500	弥生時代	多角形ヵ
		SH09	微高地	59.3	竪穴住居	隅丸方形				4.75	5.2	0.15	N6°W	499	弥生時代
		SB01	微高地	59.2	掘立柱建物		2×1間			3.2	3.1		N6°W		
		SB02	微高地	59.2	掘立柱建物		2以上×1間			2.8	2.2		N70°E		
		SA01	微高地	59.3	柵		2間			3.5			N26°E		
		SK15	微高地	59.3	土坑	隅丸方形				0.75	0.5	0.3	N34°E	501	5世紀後葉
		SD02	微高地	59.3	溝	U字溝					0.8	0.3			
		SD04	微高地	59.2	溝					1.2	0.3	0.05	N6°W		
		水田遺構	谷部	59.0	中規模畦畔						0.5		N46°E		
7		SK10	扇状地	59.0	炭土坑	円形				1.0	1.0	0.6			時期不明
		SK15	扇状地	59.2	土坑	楕円形				2.75	1.75	0.12	N24°W		時期不明
		SD16	扇状地	59.1	溝	V字溝					2.9	0.95		502~564	弥生時代後期末
		SD18	扇状地	58.9	溝	逆台形					2.0~2.7	0.3~0.5		565·568~574	古墳後期~奈良
		SD21	扇状地	59.0	溝	逆台形					3.5	1.2	N24°E	土器群A	弥生時代後期末
		畦畔14	扇状地	59.1											波板状凹凸面
8		SX01	扇状地	58.5	土坑	不整楕円形				2.5	1.5	0.15	N24°W	610	13世紀
		SX02	扇状地	58.5	池状遺構	楕円形				8.0	6.5	1.1	N7°E	墨書土器·祭祀遺物	12世紀
		SD03	扇状地	58.6	溝						2.1	0.7		576~581		7区SD16延長

第４章　まとめ

１．各区の調査成果と変遷

今回の調査では、北西から南東に走る事業地の調査を行った。

調査の結果、縄文時代中期後葉、弥生時代後期末～古墳時代初期、奈良時代、平安時代後期～鎌倉時代、室町時代～近世と幅広い時期の遺構・遺物が見つかっている。

各調査区は、完新世段丘上の扇状地に位置しており、微細に見れば、埋没中州が形成する微高地と埋没旧河道が形成する谷地形から形成されている。調査区は北西から南東に走っており、各調査区からはそれに直交する形で、３区北西半の谷地形（埋没旧河道）・３区中央部から４区北西半の間の微高地（埋没旧中州）・４区と５区の西半から４区中央部の谷地形（埋没旧河道）、４区東半から５区北西半を中心とした微高地（埋没旧中州）・５区南東半から６区西半に広がる谷地形（埋没旧河道）、７区以南には微高地（埋没旧中州）が広がる。調査区が狭い７・８区を除くと、北半から生産域（水田）の谷地形（埋没旧河道）・居住域（集落）が連続して検出された。

各区の遺構の概要・時期を以下にまとめておく。

津万２区から３区北西半の間は谷地形（埋没旧河道）となっており、２～３面の水田遺構が検出されている。各水田土壌に包含される土器には時期のばらつきが大きいが、下層水田土壌には11世紀代の土器が含まれないことから11世紀以前の可能性があり、中層水田は11世紀以降、上層水田は13世紀から14世紀頃の可能性が高い。上層水田に含まれる炭化物のAMS分析の結果も1285～1381cal ADを示しており、大きな齟齬はない。

３区中央・南半から４区北半部分にかけては微高地（埋没旧中州）上にあたる。この部分には弥生時代後期～古墳時代前期・古墳時代後期・中世前期～後期にかけての遺構・遺物が認められる。

特に、弥生時代後期末～古墳時代初頭の遺構が多く、弥生時代後期末頃の大溝が弧状に巡っており、環濠の可能性がある。また、大溝の内側からは弥生時代後期末～古墳時代初頭の円形竪穴住居址３基・方形竪穴住居址２基が検出されている。

微高地上からは、古代～中世後期にかけての遺構・遺物も検出されているが、概ね小規模な掘立柱建物址・木棺墓・土坑・畑遺構などである。３中央区を北東から南西に走る大畦畔とSD02・03は地形に沿って敷設されたものと考えられ、谷部南肩部の上層水田畦畔と向きを同じくしている。これ以外に大畦畔の南側に地形に沿って走る溝SD02・03・05・07がある。SD05の流末にあたるSX03からは14世紀前半代の土師器堝（184）が出土しており、これらの溝が使用された時期を推し量ることができる。また、SX03以外にも中世後期の遺物が出土する建物SB01、土坑群が４西区より検出されている。

注目すべきは３中央区の木棺墓SK20である。青白磁合子・化粧道具箱を副葬する。周囲に建物がなく、大畦畔によって耕地との間を画した屋敷地の端に造営された、13世紀代～14世紀にかけての屋敷墓と考えられる。但し、屋敷墓に対応する屋敷地については詳らかではない。

４西区南半・５西区において顕著な谷地形（埋没旧河道　第４図網部）は、その延長上にあたる４中央区・４東区では明らかではなく、中世前期以降の掘立柱建物・畑遺構（スキ溝群）が顕著に認められる。これは、３西区側の谷地形や、４西区南半・５西区よりも、４中央区・４東区では谷地形の埋没が早かったためと考えられる。

この埋没した谷部から５東区の中央部にかけては、規模の大きな掘立柱建物群・集石土坑群・木棺墓・畑遺構などから構成される集落もしくは屋敷地と捉えられるスペースである。この内、４中央区ではSB02・03以外には遺構が南半には乏しく、概ね建物群は４中央区北端から４東区、および５東区に集中している。これは谷地形上にあたる４中央区南半の地盤が周辺と比べ、大型建物造営には不適であったためと考えられる。

５東区南半から６西区にかけては谷地形（埋没旧河道　第４図網部）であったと考えられ、中世には全面に水田が造作されていた可能性がある。６西区では広範囲に水田畦畔の痕跡・溝が検出されており、更に調査区の南西隅部分では14世紀代の粘土採掘坑群が検出されている。

６西区・６東区では方形竪穴住居址１基・円形竪穴住居址１基が検出されており、弥生時代後期末～古墳時代初頭にかけて居住区であったと考えられる。中世と確定できる建物・土坑は６区以南では検出されていないが、６西区SB01は中世前期の溝SD01に柱穴を削平されている可能性が高い。住居址・掘立柱建物址は７区・８区では検出されておらず、各時期の集落の南端である可能性が高い。

３区・４区において認められた環濠の可能性がある大溝は７区・８区においても出現している。

７区では両側に溝が付く畦畔（波板状凹凸面）が検出されている。この畦畔は蛇行しており、凹凸面は家畜が歩行した痕跡である可能性が鹿児島県大坪遺跡（鹿児島2005）で指摘されている。

８区では湧水を伴うため池状遺構SX02が検出されている。この遺構からは多量の木製祭祀具が出土している。時期は12世紀代である。

２．条里型地割について

第１章でも触れているが、本調査地点周辺にはＮ７°Ｅに軸方位をもつ条里型地割が存在している。今回の調査では遺構面上からもほぼ同方位に軸をとる大畦畔・中規模畦畔・溝が検出されている。

坪境を画すると考えられる大畦畔は概ね現代の地割と重複あるいは近接して検出されている。

南北方向では４中央区西端で中世後半と考えられる大畦畔が検出されている。また、６西区においては畦畔を伴う中世前期の溝SD01が東端で南北方向に検出されており、坪境であったと認識できる。

これ以外にも津万遺跡群３発掘調査報告書において報告された津万２区の西端において南北方向の溝肩が検出されている。

東西方向では５東区の北端を農道と重複して東西に走る溝SD06が見つかっている。ここからは13～14世紀にかけての土器が出土している。また、６西区においては調査区南端から東西方向の大畦畔が検出されている。この畦畔についても13～14世紀にかけて営まれていた可能性が高い。

以上の畦畔・溝を第４図に落としたところ現行の地割にほぼ重複する地割の存在が推測できる。これ以外にも４中央区を東西方向に走る溝SD02、５東区をSD06と並行して走るSD１・04、６西区の西端からは南北方向の中規模畦畔が検出されている。時期は13～14世紀にかけて営まれていた可能性が高く坪内についても細かく地割が存在した可能性が考えられる。

現在のところ13～14世紀にかけて現行の地割に続く条里型地割が既に存在した可能性は高い。これらのしっかりとした畦畔以外にも、同様の方位をとる３西区の水田遺構、７区SD11・８区SX02に伴う溝の走行などで確認されている。また、３西区の水田遺構は上・中・下層において検出されており、これらもまた、現行条里に近い方位を示すものがある。その中で、下層水田は11世紀代もしくはそれ以前に遡る可能性があることは第２章でも述べた。

このほかに注目される点として、畦畔を伴う溝の存在がある。３西区上層水田遺構に伴うSD11は、小

第 4 図　条里型地割と土地利用

規模畦畔を両肩に伴う溝である。下層・中層には溝はなく、用水を畔越しに流したと考えられ、谷部の埋没に伴う乾燥化に伴い上層水田になって敷設された可能性が高い。また、畦畔を伴う溝は他に６西区SD01、微高地を横断する３中央区で検出された大畦畔に伴うSD02・03が認められる。

これらは、何れも土地の乾燥に伴う導水対策と考えられる。また、４区・５区の微高地上ではスキ溝が顕著に認められ、これも乾燥化に伴い畑地へと変遷した可能性が考えられよう。これらの想定は、周辺河川の河床の低下による段丘化が伴うものと考えられ、その評価については、津万遺跡群２発掘調査報告書に掲載予定の青木哲哉氏の分析を待って再度言及することとしたい。

３．集落の性格について

今回の調査において検出した掘立柱建物址の内、規模が50㎡以上の床面積を持つ建物が、４中央区と５東区に集中しており、微高地上において、一つの集落を形成している点が特徴である。

この集落は４西区から５西区・４中央区北西に広がる谷地形（埋没旧河道）と５東区南東半に広がる谷地形（埋没旧河道）の間に広がる微高地（埋没旧中州）上にある。建物はほぼ前述したＮ７°Ｅに軸をもつ条里型地割と類似した方位を持っている。また、特徴として、４区と５区間の坪境を越えて南北に広がっており、かつ北西側と南東側については、谷地形によって限られた自然地形の微高地上にある。坪境を介して、南北２つの屋敷地が存在していると考えられる。

先述したように、４区では４東区を中心に建物が集中している。中でも４東区のSB01（120㎡）・礎石を伴う４中央区のSB01（91.8㎡）は共に４×４間の総柱建物で、規模が大きく、４中央区SB02についても５×３間、72.60㎡を測る。４東区は、南側を坪境が通るが、北・東側については路線の都合上三角形に調査をしており、建物の分布状況から推して更に北・東側へ屋敷地が広がる可能性が高い。

これに対して５東区では、西端のSB01が５×４間、93.6㎡、中央のSB02が６×４間、92.8㎡の床面積を持つ。５東区の建物群は南側を谷地形で限られ、北側については坪境が通る。SB01・02以外には100㎡近い建物は存在しなかったと推定できる。

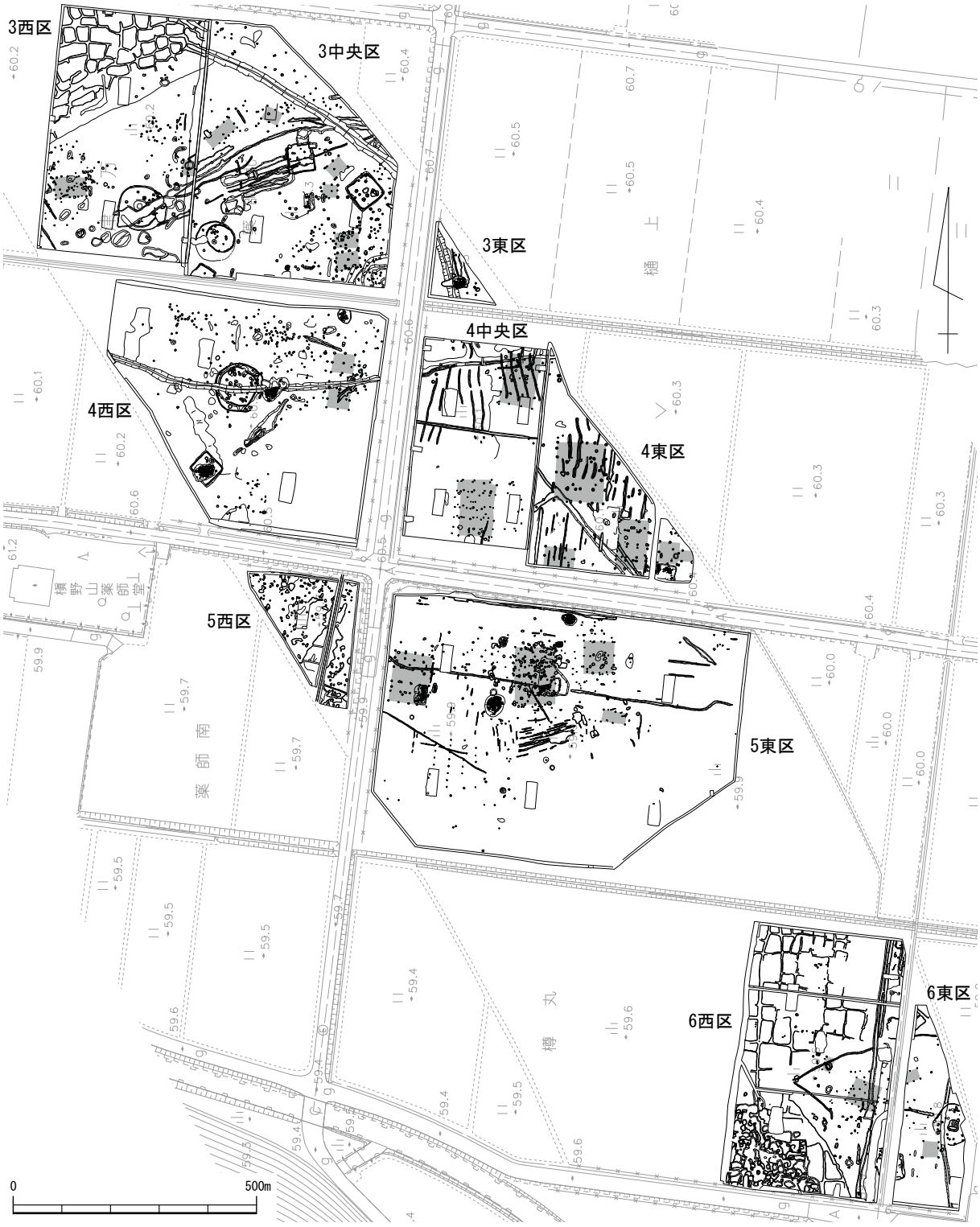
両者の違いを考えると、これらの建物の中で、５東区の２棟の建物は建物内に集石土坑を取り込む点が特徴的であり、集石土坑内の遺物から14世紀前半に存続していたと考えられる。

これに対して、４中央区SB01･４東区SB01～03では集石土坑を取り込むことはなく、集石をもつＳＫ04が建物に近接して存在する。SB02のピット及びSK04の遺物は何れも13世紀代に収まると考えられる。

雑駁な議論となるが、４区の屋敷地の大型建物は、５区の大型建物に先行して存在していた可能性が高い。この点を補強するものとしてスキ溝群の存在が上げられる。スキ溝群は４区を中心に南北方向の走行をもって造られており、掘立柱建物群よりも新しい。５区ではスキ溝群が建物と切り合うことはなく、SB01・02を避けて鋤かれている。また、SB02の南側には谷部の肩に沿ったスキ溝が走っている。３区では地形に沿った溝は14世紀代の可能性があることを述べた。５東区の屋敷地に鋤かれる溝も掘立柱建物の時期から14世紀代の可能性が伺える。少なくとも大型建物については、４区よりも５区で遅れて出現したと考えられる。

但し、４区においての大型建物の廃絶は、屋敷地全域を調査しておらず断定できるものではない。屋敷地の変遷と津万遺跡群を通した土地開発の変遷については今後の課題としたい。

次に４区・５区を中心とした屋敷地の造営階層について触れておく。今回の調査では、３区及び５区では木棺墓が検出されている。これらは屋敷墓と考えられ、播磨地域では在地領主層と名主層が造営階層として概ね推測される（西口2009）。



第５図　集落の配置

３区では屋敷墓（木棺墓）に対応する建物などは復元出来ていない。

４区・５区では、先述した床面積100㎡を前後する掘立柱建物が、概ね屋敷地の主屋として機能したと考えられる。ここでは、集落内の大規模建物の床面積から屋敷地の住人の階層を推定する。

およそ中世村落に関わる身分・階層は①在地領主層:開発領主や荘園を管理する地頭・下司・公文などの荘官。②名主層（百姓上層）:百姓層の中で上位にあたり、村落を運営・指導する層。③小百姓層:百姓層の中で、名主層に比べ保有地・経営規模が小さく、村落の運営に直接参加ができない流動的な下位の百姓層。④下人・所従層:荘官や有力名主に隷属する層の４つに分けることができる（上横手ほか2002）。

橘田正徳は考古学の視点から、広瀬和雄の「建物群による階層比定」を参考に屋敷墓の造営層の検討を行い、在地領主層と名主層（橘田分類では百姓層）については細分を行っている。即ち屋敷墓に関わる建物群を名主層（Ａ・Ｂ型建物群）・在地領主層（Ｃ・Ｄ型建物群）の４つのタイプに分類した。

Ａ型建物群（床面積20～40㎡の主屋をもつ小規模な名主層）・Ｂ型建物群（床面積40～100㎡の総柱建物の主屋をもつ有力な名主層）・Ｃ型建物群（床面積80㎡以上の複数の大型建物の主屋、方半町～方一町の敷地を占有する郷規模の在地領主）・Ｄ型建物群（床面積80㎡以上の複数の大型建物の主屋、方一町以上の敷地を占有する国・郡規模の在地領主、堀・土塁を伴う方形居館の主）の分類である（広瀬1986・橘田1991）。

この分類を参考に屋敷地の造営主体を考えてみると、４区・５区では複数の大型建物が存在した可能性があり、在地領主層の屋敷地であった可能性がある。但し、何れの屋敷地についても屋敷地を明確に区画する溝は見つかっていない点が疑問点としては残る。これについては、南北の谷部によって地形的に明確に屋敷地を限れること、あるいは坪境に伴う溝が農道の下に存在する可能性が高いことなどが、区画溝を伴わない理由として考えられる。

４．おわりに

津万遺跡群４の調査結果から条里型地割と集落について述べてきた。条里型地割については限られた範囲の調査の中で、少なくとも13世紀・14世紀代には地割が存在した可能性について触れた。ここで、先に報告書が刊行されている津万遺跡群３掲載の調査結果に触れておきたい。

嶋６区には調査区の東壁を南北方向に走る溝SD01がある。この溝は大型建物SB02よりも古く、井戸SE01よりも新しいことが調査で判明している。SE01からは10世紀代末頃に遡る須恵器椀が出土しており、SD01からもほぼ同時期か若干下る時期の須恵器椀類が出土している。SB02からは時期が明確な遺物が出土していないが、同時期と考えられるSB03の柱穴からは土師器鍋（兵庫津編年甕タイプⅠ類　13世紀代）が出土している。SD01は条里坪境にはあたらないが、軸方位はＮ７°Ｅ。周辺の条里型地割と同じ方向に走る。条里型地割が11世紀代に遡る可能性を検討する余地があることを示している。

集落については、嶋６区において検出された大型建物としてSB02・03・07がある。調査区の制約があるため断定はできないが、津万４区・５区から250ｍほど北西にもう一つの屋敷地が存在したと考えられる。この屋敷地は津万２区と嶋５区の谷部に挟まれた微高地に立地しており、屋敷墓をもつ。建物規模についてもSB03は桁行７間、15ｍを測る。SB02の床面積は75㎡、SB07の床面積は63㎡を測る。屋敷墓SX01の追善供養遺物の可能性がある土器群は12世紀前半代と考えられる。

以上の点から嶋６区の屋敷地は津万４区・５区よりも古くに形成されたと考えられ、標高の高い北側の微高地から順次南側へと微高地に屋敷地が営まれた可能性が考えられる。

参考文献

上横手雅敬ほか　2002『日本の中世８　院政と平氏、鎌倉政権』中央公論新社

鹿児島県立埋蔵文化財センター2005『大坪遺跡』

橘田正徳　1991「屋敷墓試論」『中近土器の基礎研究Ⅶ』日本中世土器研究会

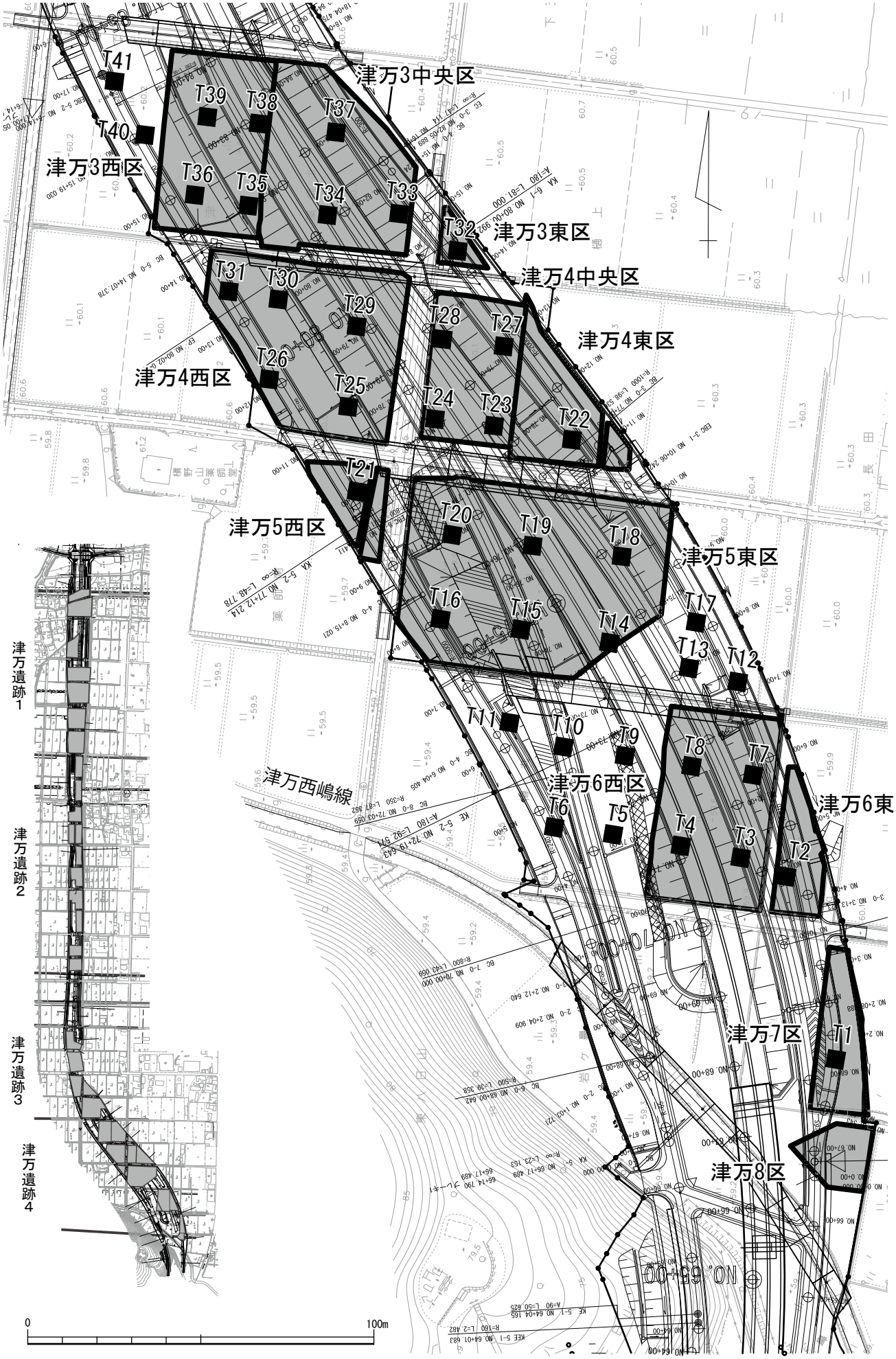
西口圭介　2009「近畿の中世墓」『日本の中世墓』高志書院

兵庫県教育委員会2004『兵庫津遺跡Ⅱ　浜崎・七宮地区の調査』第270冊

兵庫県教育委員会　2019『津万遺跡群３』第509冊

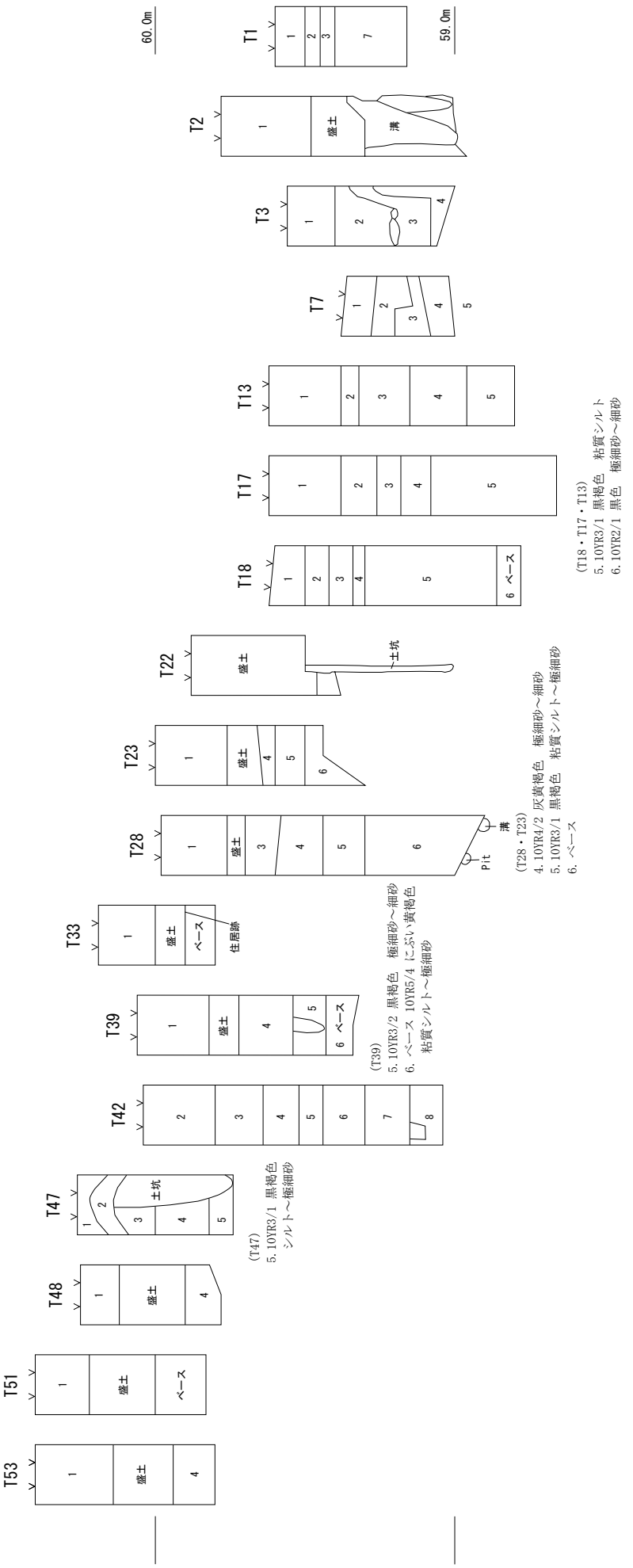
広瀬和雄　1986「中世への胎動」『岩波講座　日本考古学６　変化と画期』岩波書店

図　　版



津万遺跡群４　関係トレンチ配置図

図版２



＜基本土層＞

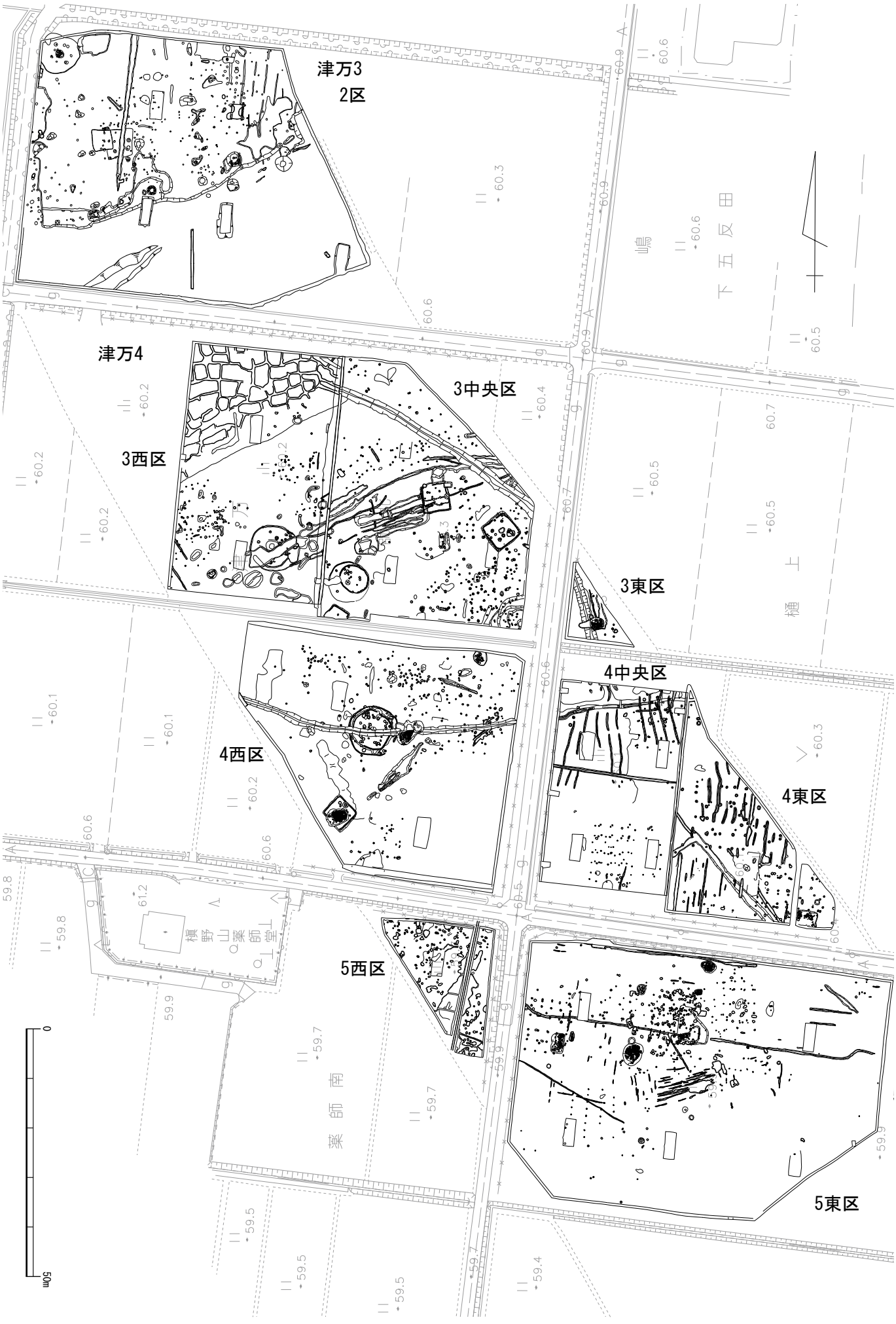
1. 表土 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂
2. 旧耕土 10YR5/1 褐灰色 シルト～極細砂
3. 旧耕土 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂
4. 包含層 10YR2/2 黒褐色 シルト～細砂
5. 10YR3/1 黒褐色 粘質シルト～極細砂
6. 10YR4/1 褐灰色 粘質シルト
7. 10YR3/1 黒褐色 粘質シルト
8. ベース 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘質シルト～極細砂

津万遺跡群４　確認調査　土層断面

津万遺跡群４　調査区位置図

図版４

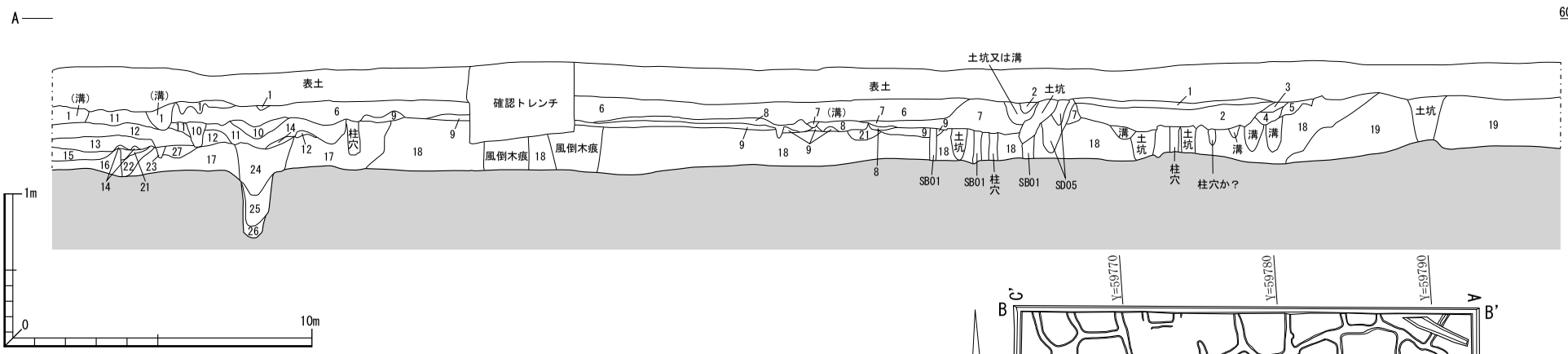
津万遺跡群４　津万地区調査区配置図



津万地区北半遺構位置図

Y=59760
Y=59770
Y=59780
Y=59790
X=-111370
X=-111380
X=-111390
X=-111400
X=-111410
X=-111420
SD12
T39
SD11
SX05
SK04
SK10
SB01
SX03
SK05
SB03
SK12
SK11
SD05
SK07
SK06
SK03
SH01
P01
SB02
SK14
SK16
SD02
SX02
T36
SK13
SX01
SX13
SD01
SK02
SK01
SX07
SX09
SX12
SX08
SX10
SX11
0
10m

3 西区　全体図

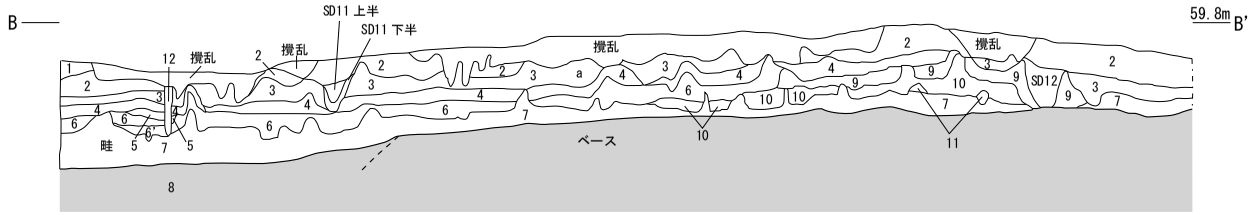


3西区　東壁土層断面

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト～極細砂 しまりやや弱 粘性やや弱 鉄分を非常に多く含む
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト～極細砂 しまり中 粘性中
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘質シルト～極細砂 しまり中 粘性やや強
4. 7.5YR4/2 灰褐色 粘質シルト～極細砂 しまりやや強 粘性やや強
5. 7.5YR4/2 灰褐色 粘質シルト～極細砂 しまりやや強 粘性やや強 上部にマンガン粒顕著
6. 2.5Y3/2 黒褐色 粘質シルト しまり強 粘性強
7. 10YR4/2 灰黄褐色 粘質シルト～極細砂 しまりやや強 粘性やや強
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色 粘質シルト しまり強 粘性やや強
9. 2.5Y5/6 黄褐色 中砂～粗砂混じりシルト質細砂 しまり弱 粘性やや弱 鉄分を非常によく含む
10. 10YR5/2 灰黄褐色 粘質シルト～極細砂 しまり強 粘性やや強 マンガン粒少し含む
11. 10YR5/1 褐灰色 粘質シルト～極細砂 しまり強 粘性やや強 マンガン粒含む
12. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土～粘質シルト しまり強 粘性強
13. 10YR4/1 褐灰色 粘土～粘質シルト しまり強 粘性強
14. 10YR3/1 黒褐色 中砂混じり粘質シルト～極細砂 しまりやや強 粘性強
15. 10YR3/2 黒褐色 中砂混じり粘質シルト～細砂 しまりやや強 粘性やや強
16. 10YR2/2 黒褐色 粘土～粘質シルト しまり強 粘性強
17. 10YR3/3 暗褐色 細砂混じり粘質シルト しまりやや強 粘性強 上部は土壌化する
18. 10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂混じりシルト質極細砂～細砂 しまり中 粘性中
19. 10YR3/2 黒褐色 シルト質細砂～粗砂 しまり弱 粘性弱 φ1.5～20cm大の礫を30%程度含む
20. 7.5Y3/1 黒褐色 粘質シルト～極細砂 しまり中 粘性強
21. 10YR3/1 黒褐色 細砂～中砂混じり 粘土～粘性シルト しまり強 粘性強
22. 10YR3/2 黒褐色 細砂～中砂混じり 粘土～粘性シルト しまり強 粘性強
23. 10YR3/2 黒褐色 中砂～粗砂混じり～細砂 しまりやや強 粘性強 粘性シルト
24. 5YR2/1～3/1 黒褐色 細砂粒含むシルト質極細砂
25. 5YR2/1 黒褐色 細砂混じりシルト SD3001埋土
26. 7.5YR3/1 黒褐色 中砂・細砂混じりシルト 中～細砂粒多し
27. 7.5YR3/1 黒褐色 中砂・細砂混じり極細砂

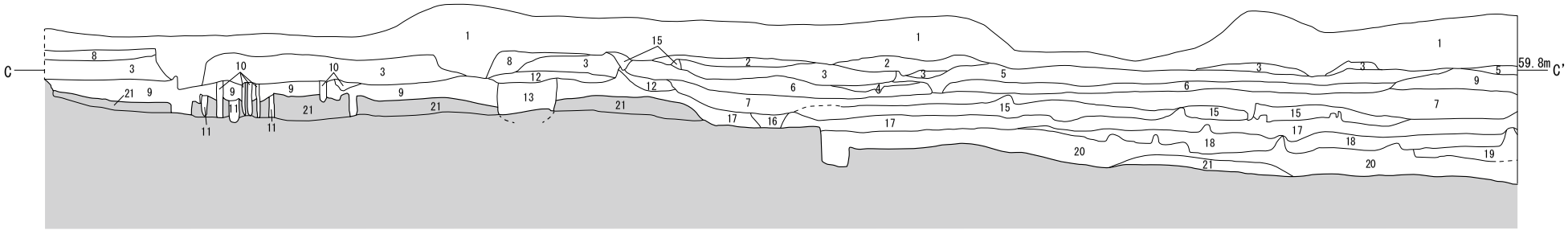
津方　3図区

北壁

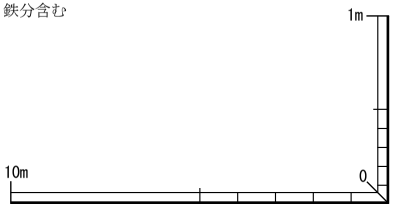


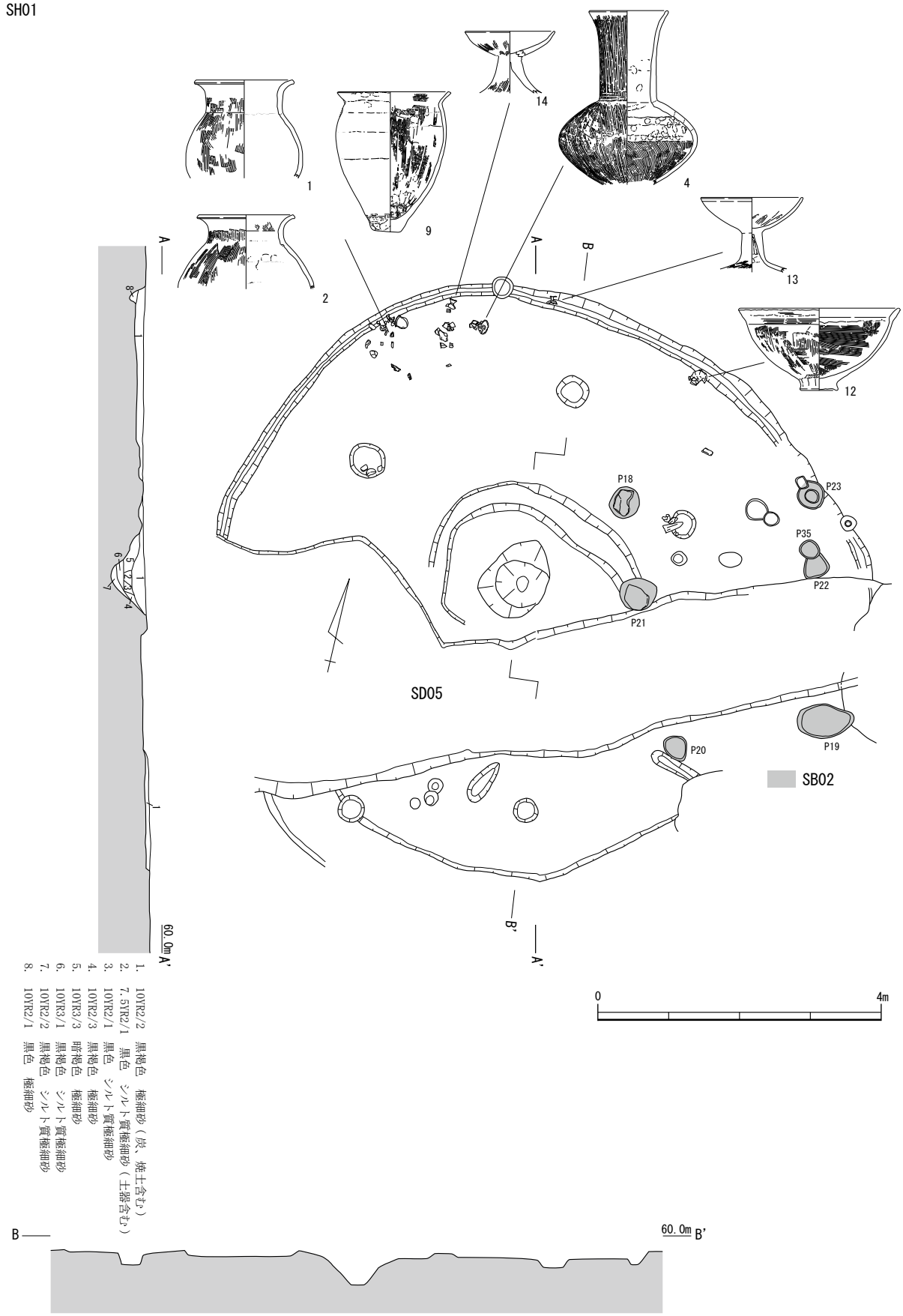
1.　耕土　10YR5/2　灰褐色　極細砂
2.　7.5YR4/2　灰褐色
3.　7.5YR3/2　黒褐色
4.　7.5YR2/1　黒色　細砂混じり極細砂　黒色調
5.　7.5YR3/1　黒褐色　極細砂
6.　10YR3/3　黒褐色　シルト質極細砂
6′　10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂　鉄分含む
7.　10YR2/2～2/3　黒褐色　シルト
8.　10YR1.7/1　黒色　シルト　SD3001埋土か
9.　5YR3/1　黒褐色　レキ混じり極細砂　φ1cm内外レキ含む　同水田か
10.　5YR3/2　黒褐色　細砂混じり極細砂　同水田か
11.　7.5YR3/2　黒褐色　細砂質極細砂　畦畔
12.　7.5YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂

西壁



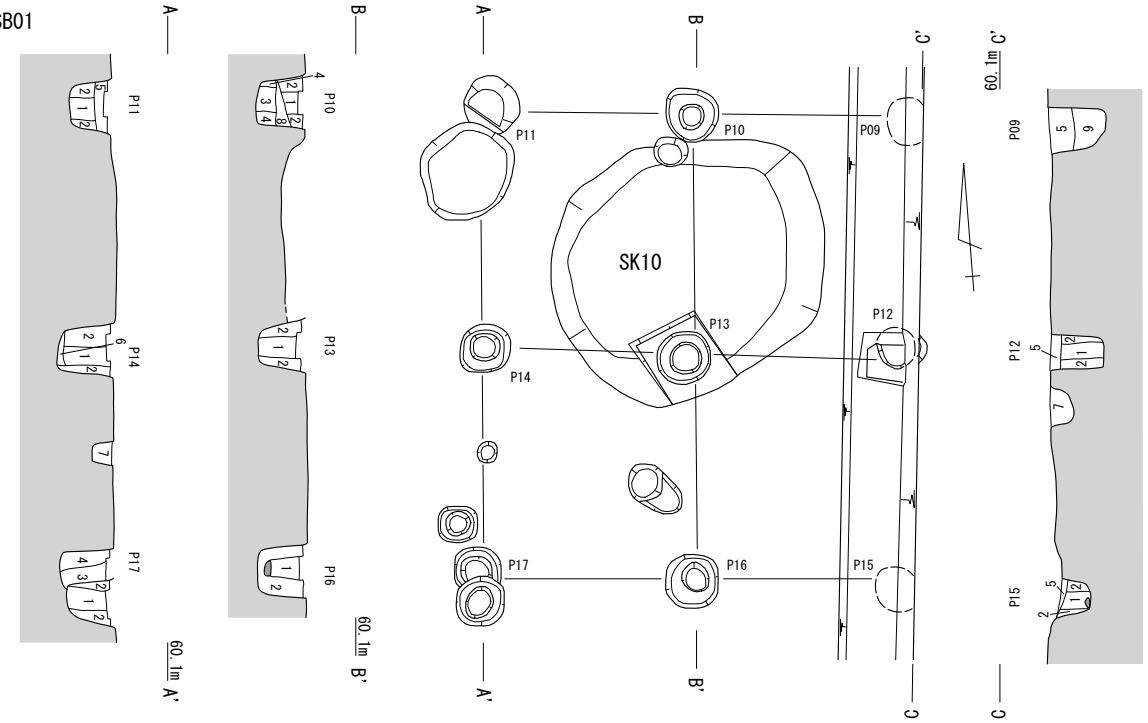
1.　耕土　10YR5/2　灰褐色　極細砂
2.　耕土　2.5Y5/2　暗灰褐色　極細砂
3.　2.5Y5/6　黄褐色　シルト質極細砂（２層ブロックで入る）
4.　2.5Y5/6　黄褐色　シルト質極細砂（２層多く入る）
5.　2.5Y6/3　にぶい黄色　シルト質極細砂（２層ブロックで入る）
6.　2.5Y6/2　灰黄色　シルト質極細砂（２層多く入る）
7.　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト質極細砂（粘度強い、円礫混じる）―上層包含層
8.　5Y4/3　暗オリーブ色　シルト質極細砂（1層混じる）
9.　10YR3/3　暗褐色　中～細砂　上面にマンガン堆積
10.　10YR3/4　暗褐色　細砂（地山・中砂混じる）
11.　10YR2/2　黒褐色　細砂
12.　10YR3/2　黒褐色　極細砂（マンガン含む）
13.　7.5YR2/2　黒褐色　極細砂
14.　5YR5/2　灰褐色　極細砂
15.　7.5YR3/2～10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂　細砂混じり　φ1～2mm礫多く含む
16.　10YR3/3　暗褐色　シルト・粗砂混じり極細砂　SD11埋土
17.　7.5YR3/1 黒褐色 粗砂混じり極細砂質シルト 上層水田土壌層　φ1～3mm礫含む　鉄分集積
18.　10YR3/1　黒褐色　礫含むシルト　粘性あり　中層水田土壌層　φ1～5mm礫まばらに含む　鉄分含む
19.　5YR2/1　黒褐色　細砂混じりシルト
20.　2.5Y3/1　黒褐色　細砂混じり極細砂シルト　下層水田土壌層　腐植質含む
21.　10YR4/3　にぶい黄褐色　極細砂混じりシルト　鉄分集積





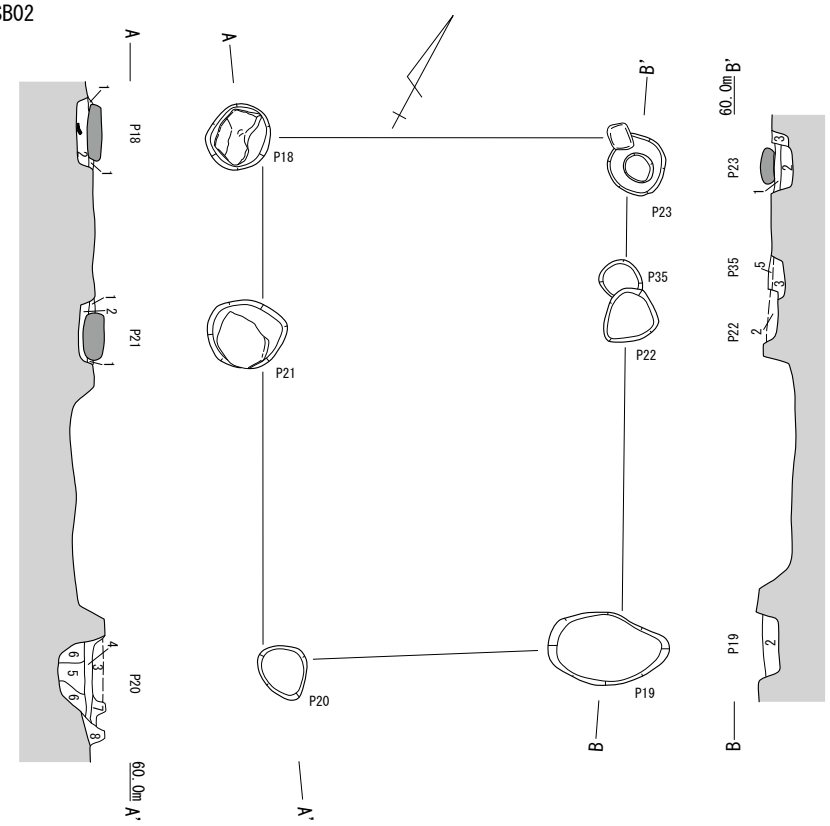
３西区　竪穴住居址　SH01

SB01

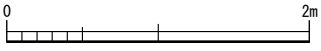


1. 7.5YR2/1　黒色　シルト質極細砂
2. 10YR2/3　黒褐色　極細砂（地山シルトブロック含む）
3. 10YR2/1　黒色　極細砂
4. 10YR2/2　黒褐色　極細砂（地山シルトブロック含む）
5. 10YR3/3　暗褐色　極細砂
6. 10YR1.7/1　黒色　極細砂（地山砂ブロックで入る）
7. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂　上層遺構の埋土
8. 10YR5/4　にぶい黄褐色　細砂（鉄分含む）
9. 10YR3/4　暗褐色　極細砂（5層と似る）

SB02

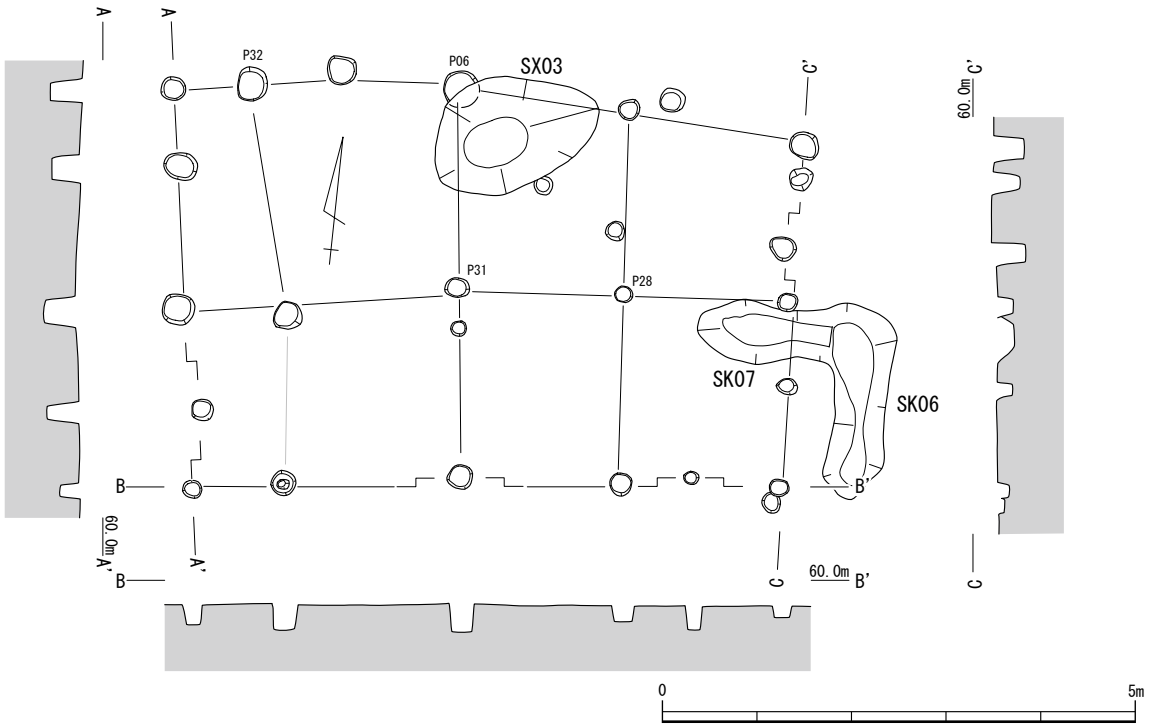


1. 10YR3/2　黒褐色　極細砂
2. 10YR3/3　暗褐色　極細砂
3. 10YR2/2　黒褐色　極細砂
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト質極細砂　（3層ブロック入る）
5. 10YR3/2　黒褐色　細砂
6. 10YR3/4　暗褐色　極細砂　（地山ブロック入る）
7. （4層と3層混じる）　10YR4/4　褐色　細砂～極細砂
8. 10YR5/4　にぶい黄褐色　細砂（鉄分含む）

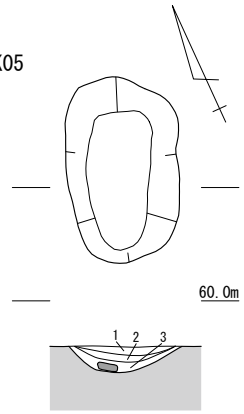


3西区　掘立柱建物址　SB01・02

SB03

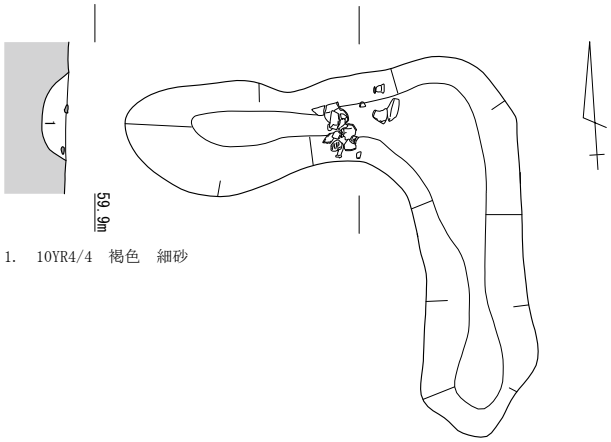


SK05



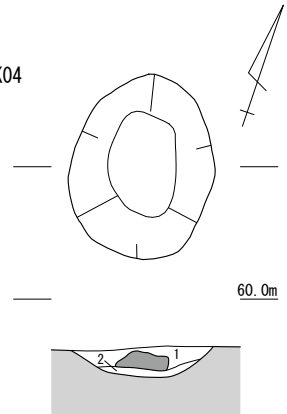
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂
2. 10YR3/3 暗褐色 極細砂
3. 10YR4/4 褐色 極細砂

SK06・07

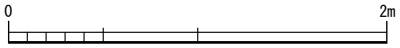


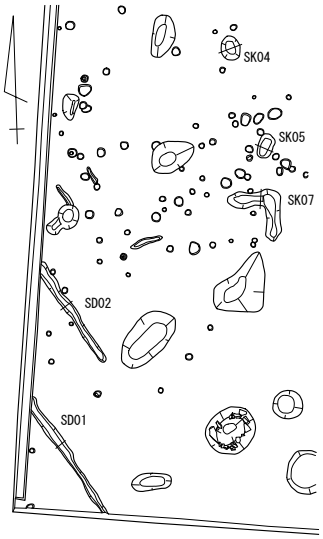
1. 10YR4/4 褐色 細砂

SK04

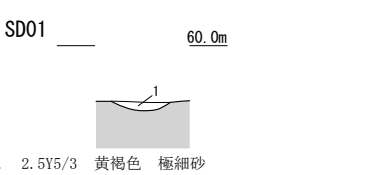


1. 10YR3/3 暗褐色 細砂
2. 10YR4/4 褐色 極細砂



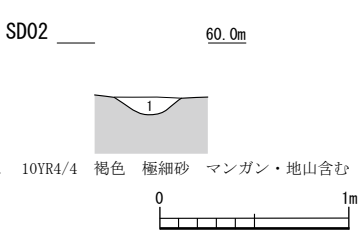


SD01



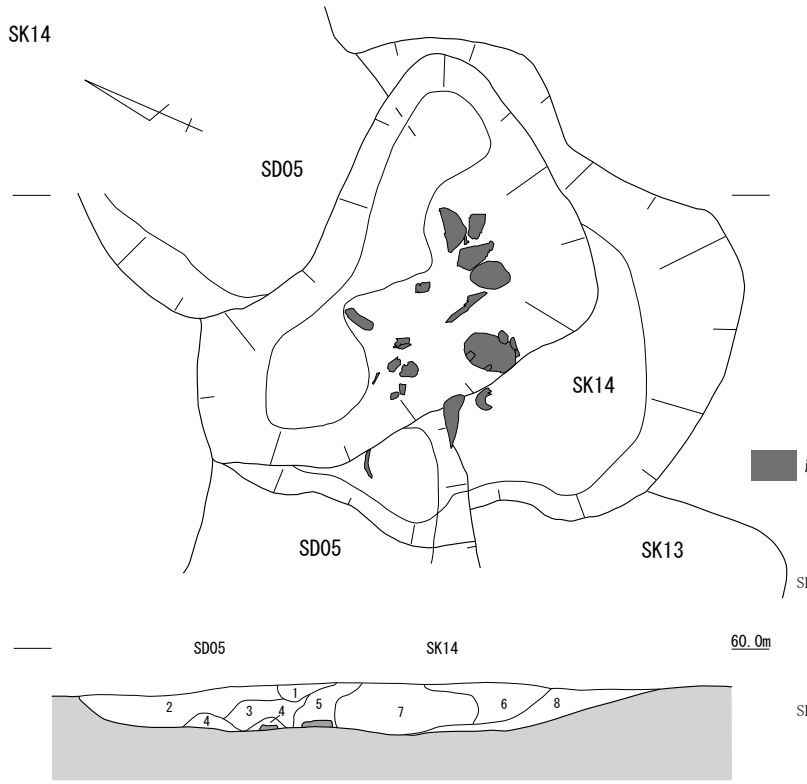
1. 2.5Y5/3 黄褐色 極細砂
(2.5Y5/6 黄褐色 極細砂ブロック多く含む)

SD02



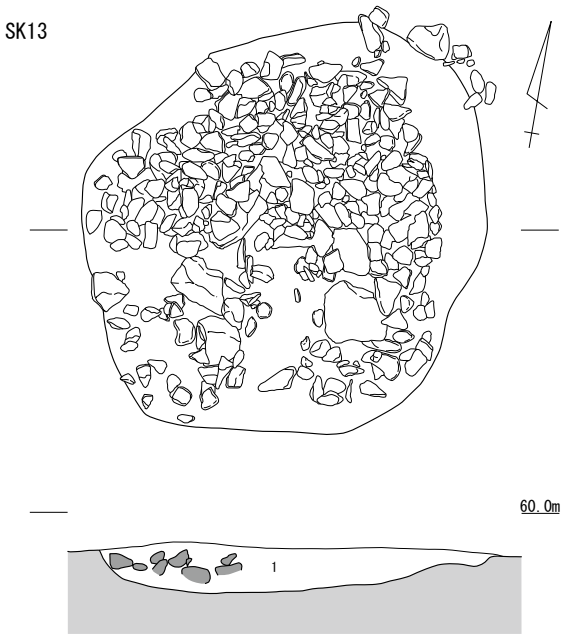
1. 10YR4/4 褐色 極細砂 マンガン・地山含む

3西区 掘立柱建物址 SB03・土坑①・溝①

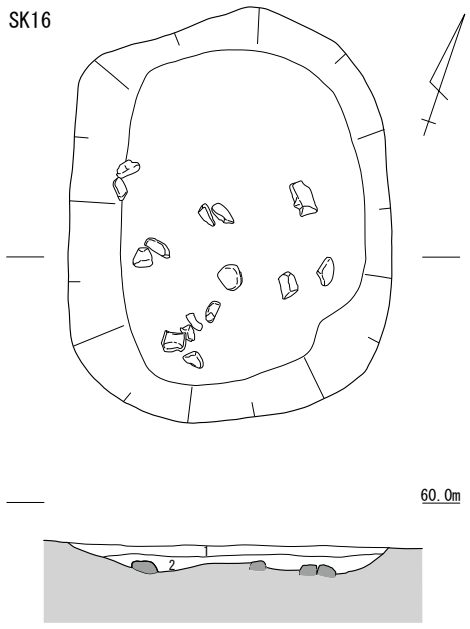


SD05
1. 10YR3/3　暗褐色　シルト質極細砂　マンガン含む
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色　細砂　マンガン含む
3. 10YR4/4　褐色　細砂
4. 10YR3/4　暗褐色　シルト質極細砂
5. 7.5YR2/3　極暗褐色　シルト質極細砂

SK14
6. 10YR2/3　黒褐色　シルト質極細砂
7. 10YR1.7/1　黒色　シルト質極細砂
8. 10YR1.7/1　黒色　極細砂（炭、焼土含む）

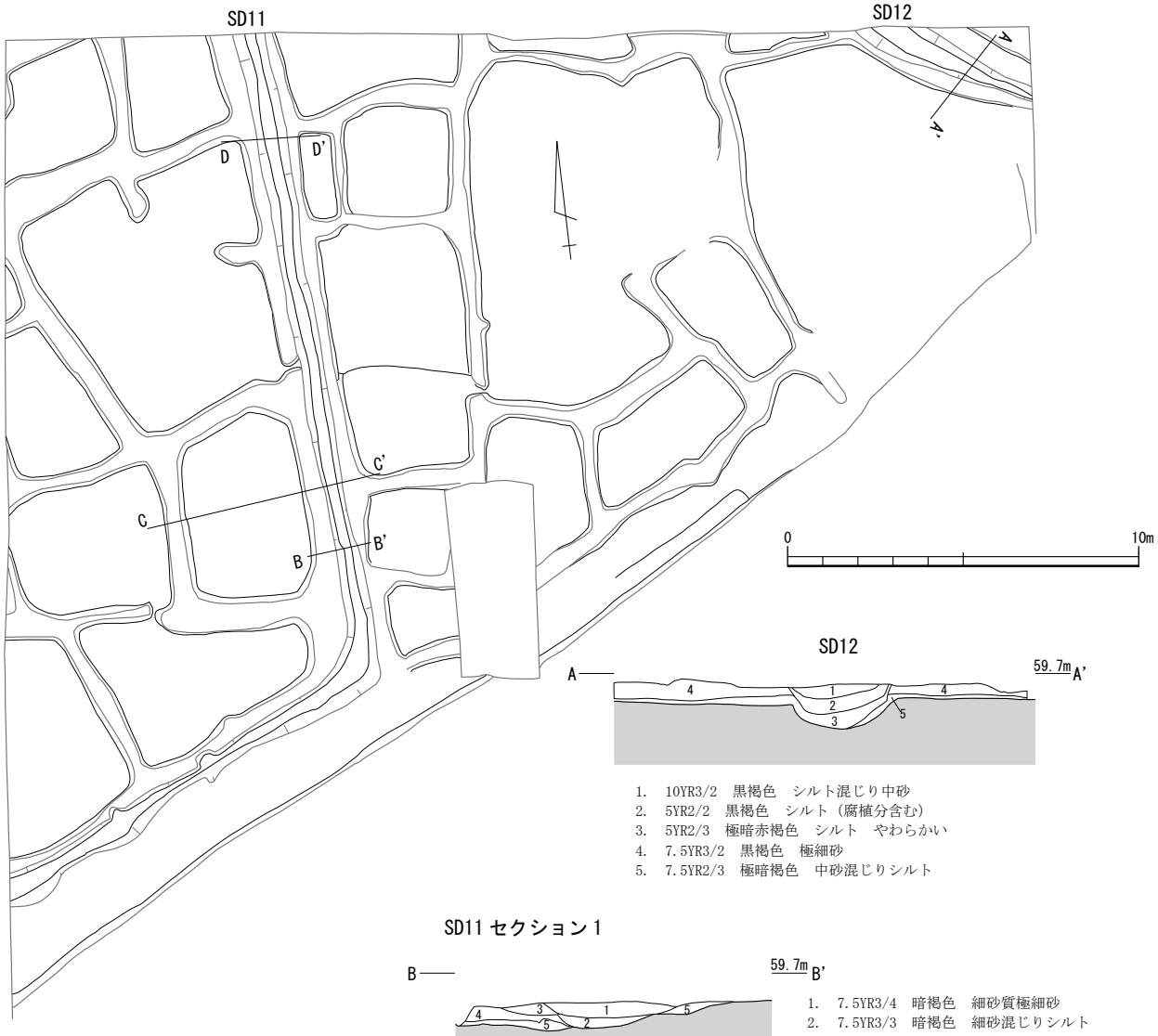


1. 10YR3/3　暗褐色　シルト質極細砂
7.5YR2/3　極暗褐色　シルト質極細砂ブロック入る



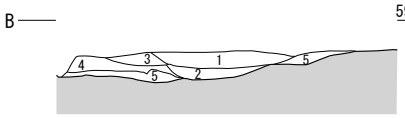
1. 10YR3/3　暗褐色　極細砂（マンガン含む）
2. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂

3西区　土坑②



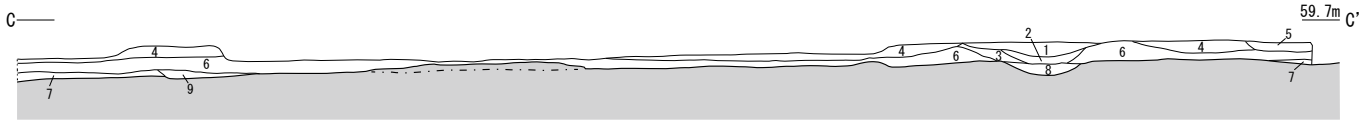
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり中砂
2. 5YR2/2 黒褐色 シルト（腐植分含む）
3. 5YR2/3 極暗赤褐色 シルト やわらかい
4. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂
5. 7.5YR2/3 極暗褐色 中砂混じりシルト

SD11 セクション1



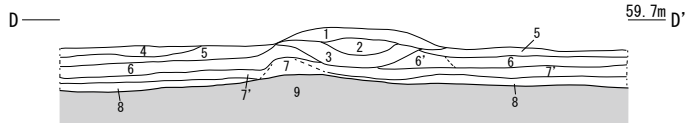
1. 7.5YR3/4 暗褐色 細砂質極細砂
2. 7.5YR3/3 暗褐色 細砂混じりシルト
3. 5YR3/2 暗赤褐色 極細砂
4. 2.5YR2/2 極暗赤褐色 シルト質極細砂
5. 7.5YR3/2 黒褐色 シルト混じり細砂

SD11 セクション2

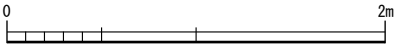


1. 10YR3/3 暗褐色 極細砂混じり細砂
2. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト混じり細砂
3. 5YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂（細砂混じり）
4. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂
5. 7.5YR3/2 黒褐色 細砂混じり極細砂
6. 7.5YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト質極細砂
7. 7.5YR1.7/1 黒色 シルト
8. 5YR2/1 黒褐色 シルト
9. 7.5YR3/2 黒褐色 シルト

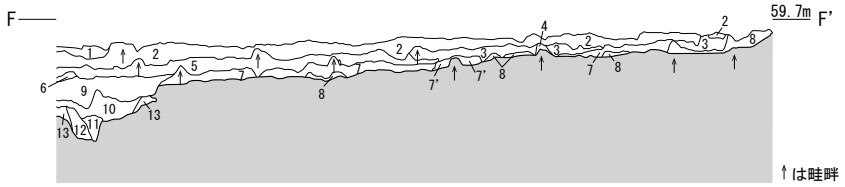
SD11 セクション3



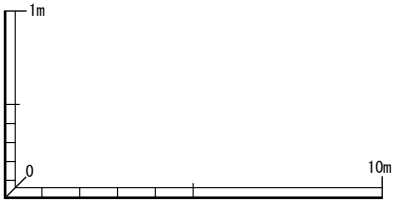
1. 7.5YR4/2 灰褐色 細砂混じり極細砂 畦畔
2. 7.5YR3/2 黒褐色 細砂 SD11上半
3. 2.5YR3/2 暗赤褐色 シルト混じり細砂 SD11下半
4. 10YR3/3 暗褐色 細砂混じり極細砂
5. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂
6. 7.5YR3/3 暗褐色 極細砂混じり細砂
6'. 7.5YR3/3 暗褐色 シルト混じり極細砂 畦畔
7. 7.5YR3/1 黒褐色 細砂混じり極細砂質シルト
7'. 5YR3/1 黒褐色 シルト（耕土）
8. 10YR3/2 黒褐色 シルト
9. 7.5YR3/2 黒褐色 シルト



3西区 上層水田・溝②

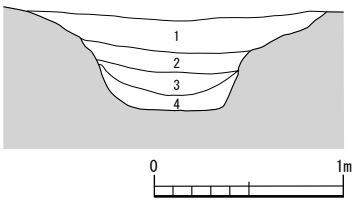


1. 上層水田を被覆する洪水層礫（西壁7層）
2. 10YR2/3 黒褐色 細砂混じり極細砂（西壁17層）
3. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂質シルト（中層水田土壌Ⅰ）
4. 5YR2/3 極暗赤褐色 細砂混じり極細砂（中層水田Ⅰに対応する畦畔か）
5. 7.5YR3/2 黒褐色 細砂質極細砂（中層水田土壌Ⅱ．西壁18層）
6. 7.5YR2/3 極暗褐色 シルト質極細砂（5層の母層．西壁19層）
7. 5YR3/1 黒褐色 腐植質シルト（下層水田土壌．西壁20層）
7'．下層水田の畦畔
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト混じり極細砂（7層の母層）
9. 10YR3/1 黒褐色 細砂含む極細砂（下層水田土壌）
10. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂質シルト（下層水田土壌）
11. 7.5YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト（SD3001埋土）
12. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト 細砂若干含む（SD3001埋土）
13. 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト ベース



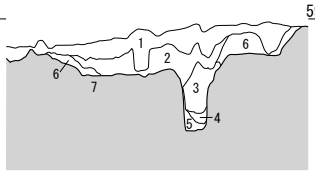
3西区　下層水田・南北土層断面

D—— 59.8m ——D'



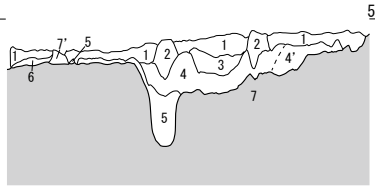
1. 5YR2/1 黒褐色～7.5YR2/1黒色 シルト混じり極細砂
2. 7.5YR2/1 黒色 シルト混じり細砂質極細砂
3. 5YR1.7/1 黒色 シルト φ3cm内外円礫含む
4. 10YR2/2 黒褐色 細砂含むシルト
東壁SD3001最下層と同じベースブロック入る

A—— 59.6m ——A'



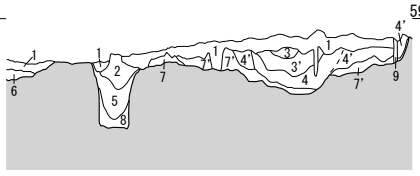
1. 5YR2/1 黒褐色 極細砂混じりシルト
2. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト 粘性あり
3. 10YR2/1 黒色 SD3001埋土 極細砂を若干含むシルト
4. 7.5YR2/1 黒色 SD3001埋土 細砂を若干含むシルト 7層ブロックを含む
5. 7.5YR1.7/1 黒色 SD3001埋土 シルト
6. 10YR3/2～2/2 黒褐色 細砂混じりシルト
7. 10YR3/2黒褐色～5/3にぶい黄褐色 ベース 細砂混じりシルト

B—— 59.6m ——B'



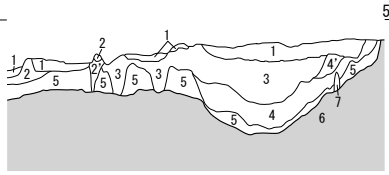
1. 5YR2/2 黒褐色 極細砂混じりシルト
2. 2.5Y2/1～10YR2/1 黒色 細砂質極細砂を含むシルト (畦畔)
3. 7.5YR2/1 黒色 シルト
4. 7.5YR1.7/1 黒色 極細砂混じりシルト
4'. 7.5YR2/2 黒褐色 シルト
5. 10YR2/1 黒色 極細砂粒を若干含むシルト SD3001埋土
6. 5YR2/2 黒褐色 細砂混じり極細砂
7. 7.5YR4/1 褐灰色 細砂混じりシルト ベース
7'. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂混じりシルト ベース

C—— 59.6m ——C'

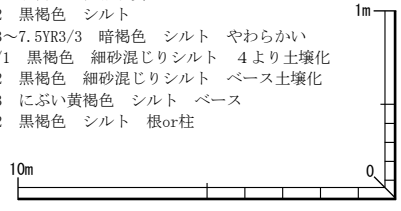


1. 極細砂混じりシルト
2. 10YR2/1 黒色 細砂粒含むシルト
3. 7.5YR2/1 黒色 シルト
3'. 7.5YR2/2 黒褐色 シルト やわらかい 粘性あり
4. 5YR2/2 黒褐色 細砂を微量含むシルト
4'. 5YR3/1 黒褐色 シルト 細砂ごく微量
5. SD3001埋土
6. 10YR3/1～2/2 黒褐色 細砂・シルト混じり極細砂
7. 2.5YR4/3 にぶい赤褐色 細砂質極細砂混じりシルト ベース
7'. 5YR3/1 黒褐色 シルト ベースの土壌化
8. 10YR2/2 黒褐色 細砂質極細砂混じりシルト SD3001埋土
9. 5YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト 黄色土ブロック入る 柱根

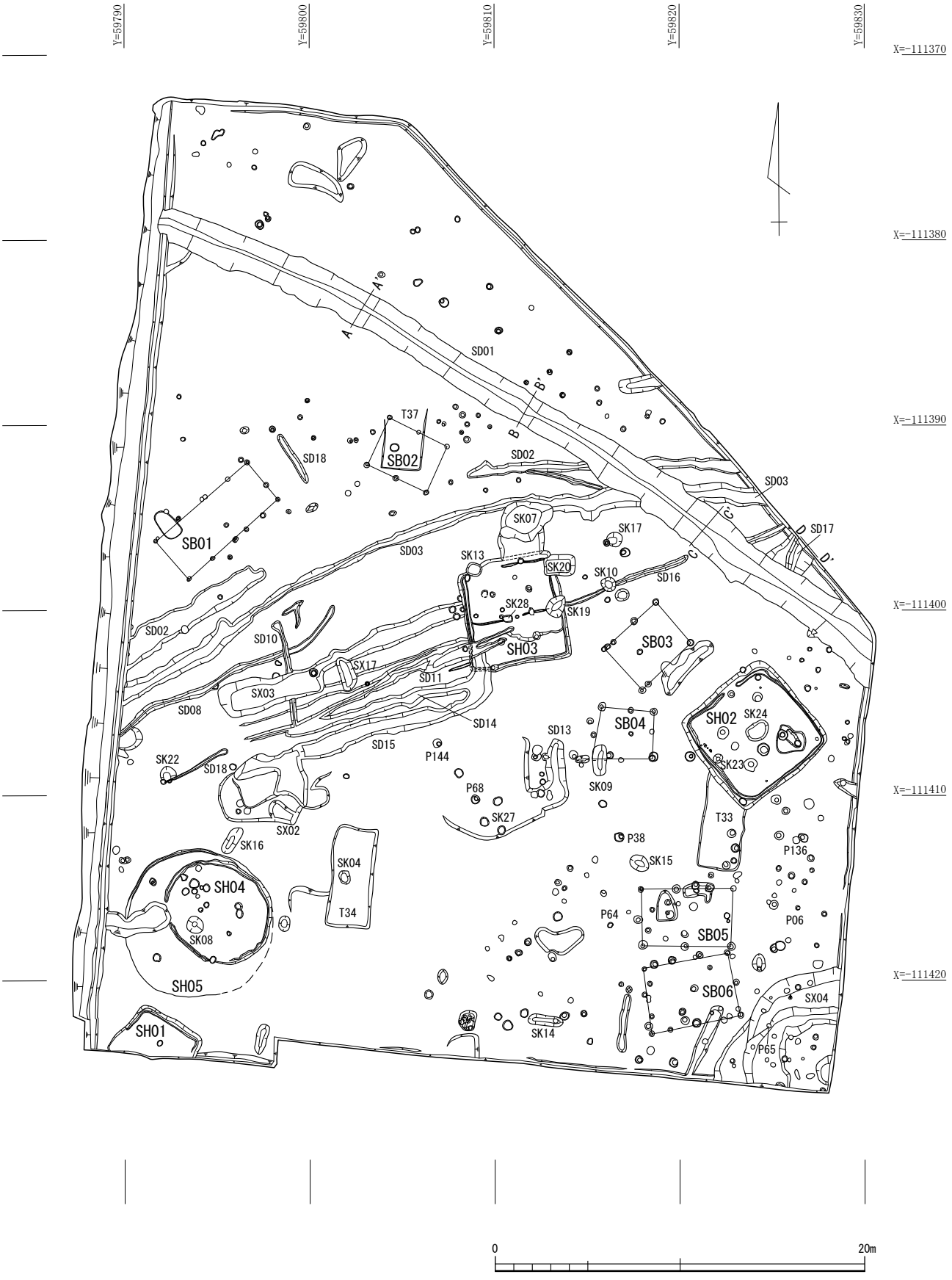
E—— 59.6m ——E'



1. 10YR3/2 黒褐色 細砂積む混じり極細砂
2. 5YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂
2'. 2.5Y3/2 黒褐色 極細砂質シルト
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト
4. 10YR3/3～7.5YR3/3 暗褐色 シルト やわらかい
4'. 7.5YR3/1 黒褐色 細砂混じりシルト 4より土壌化
5. 10YR3/2 黒褐色 細砂混じりシルト ベース土壌化
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト ベース
7. 10YR3/2 黒褐色 シルト 根or柱



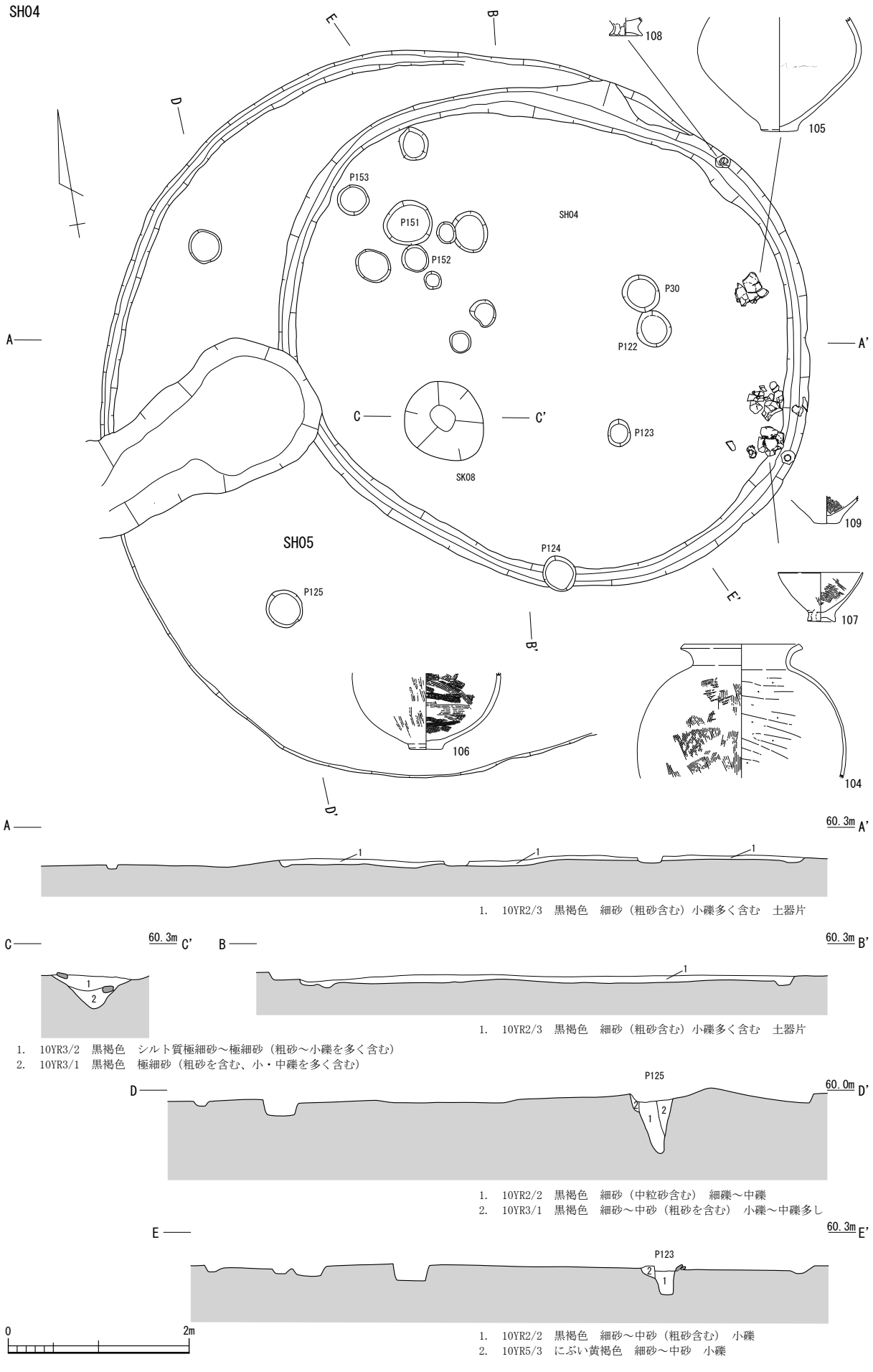
3西区 下層水田下の溝


Y=59790
Y=59800
Y=59810
Y=59820
Y=59830
X=-111370
X=-111380
X=-111390
X=-111400
X=-111410
X=-111420
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
SD01
SD02
SD03
SD10
SD11
SD13
SD14
SD15
SD16
SD17
SD18
SD08
T37
SB01
SB02
SB03
SB04
SB05
SB06
SH01
SH02
SH03
SH04
SH05
SK04
SK07
SK08
SK09
SK10
SK13
SK14
SK15
SK16
SK17
SK19
SK20
SK22
SK23
SK24
SK27
SK28
SX02
SX03
SX04
SX17
P144
P68
P38
P64
P65
P06
P136
T33
T34
0
20m

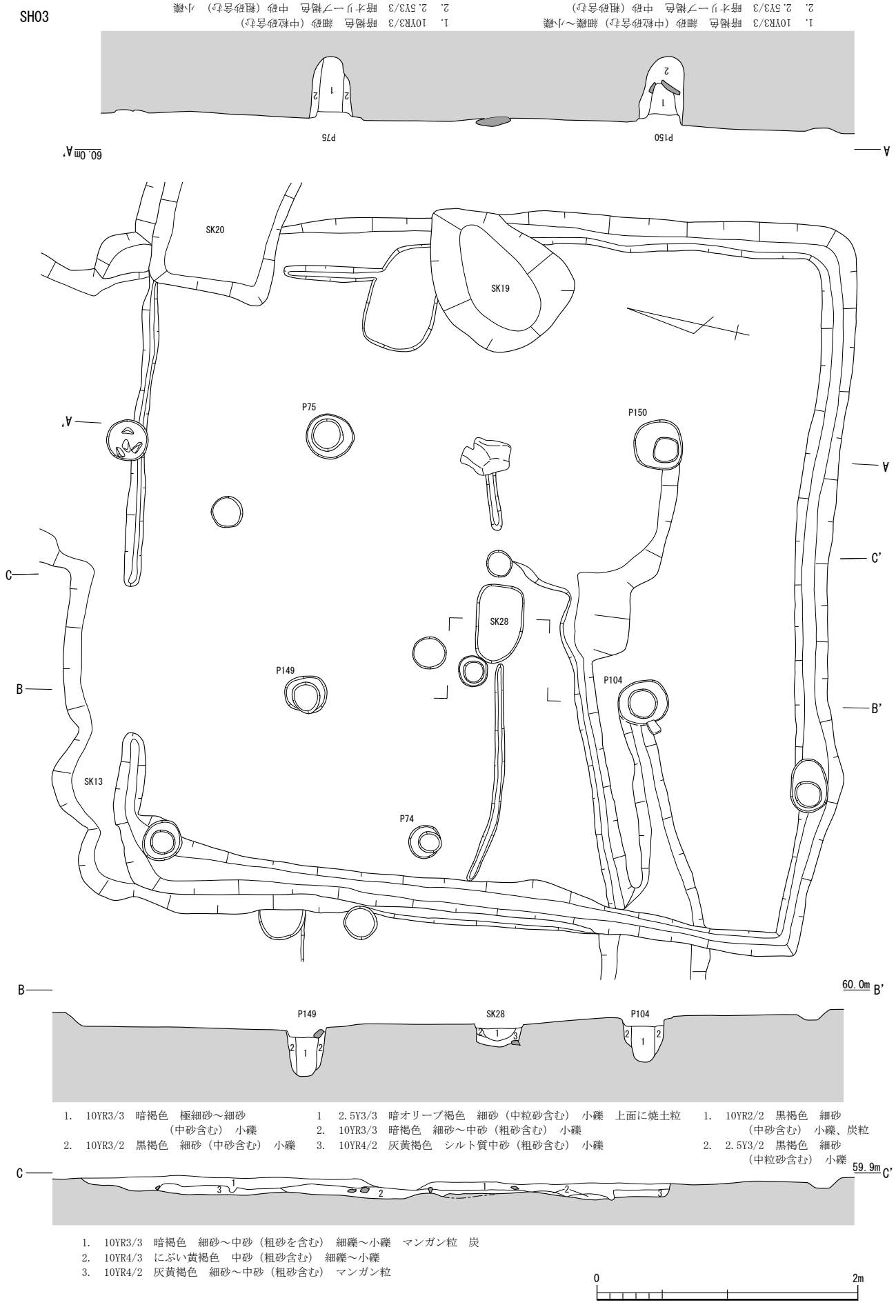
3 中央区　下層　全体図

Y=59790
Y=59800
Y=59810
Y=59820
Y=59830
X=-111370
X=-111380
X=-111390
X=-111400
X=-111410
X=-111420
SD01
SD18
SD02
大畦畔
SK07
SD03
SK20
SK18
SD05
SD07
SX03
SD08
SD10
SK21
P144
SD04
SK27
P70
P38
SK02
SK26
SK03
SK01
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
0
20m

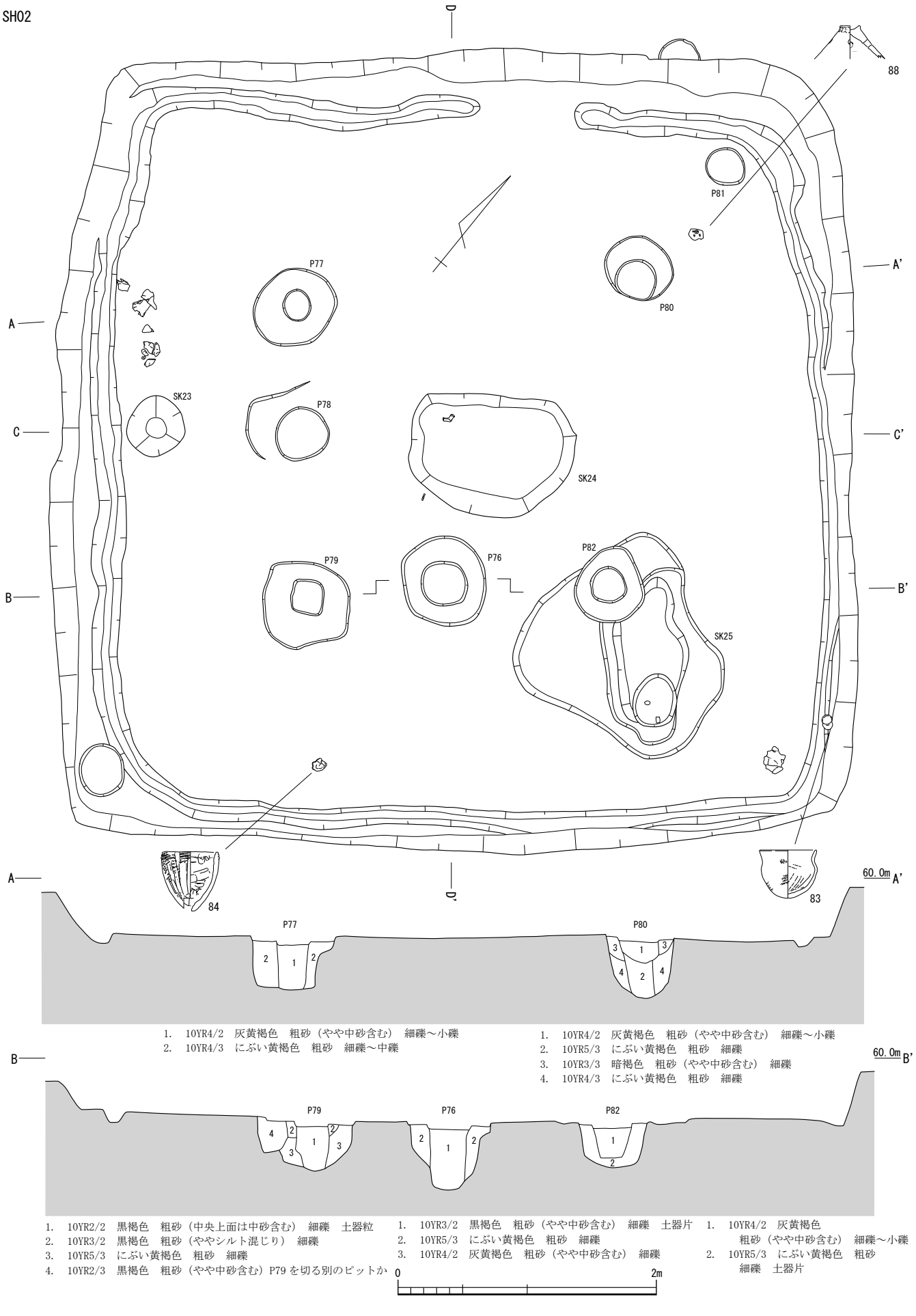
3 中央区　上層　全体図



3中央区　竪穴住居址　SH04・05



3中央区　竪穴住居址　SH03



1. 10YR4/2　灰黄褐色　粗砂（やや中砂含む）　細礫～小礫
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色　粗砂　細礫～中礫

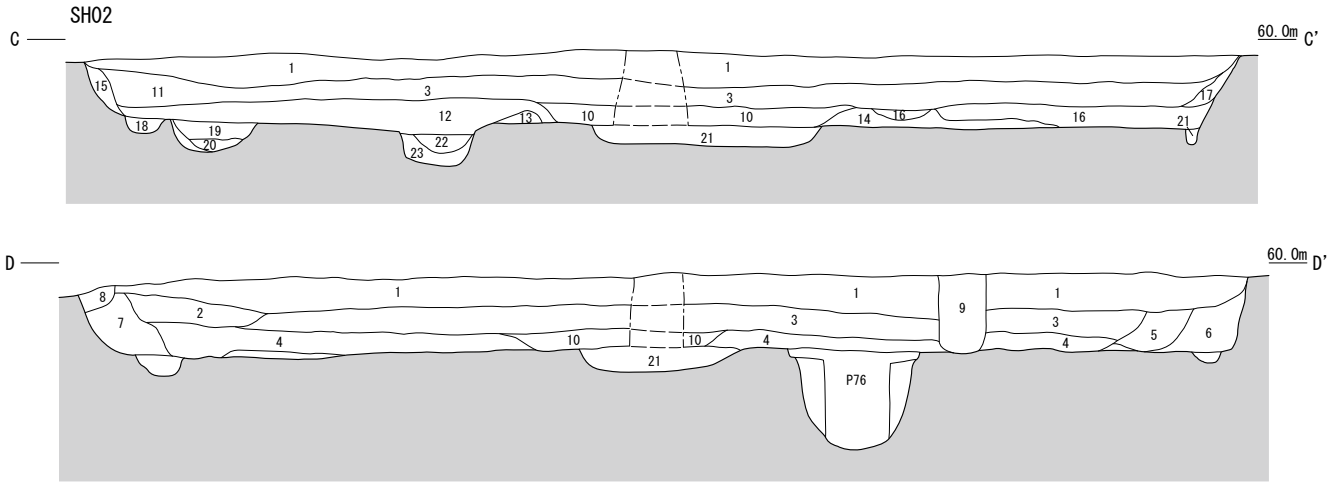
1. 10YR4/2　灰黄褐色　粗砂（やや中砂含む）　細礫～小礫
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色　粗砂　細礫
3. 10YR3/3　暗褐色　粗砂（やや中砂含む）　細礫
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色　粗砂　細礫

1. 10YR2/2　黒褐色　粗砂（中央上面は中砂含む）　細礫　土器粒
2. 10YR3/2　黒褐色　粗砂（ややシルト混じり）　細礫
3. 10YR5/3　にぶい黄褐色　粗砂　細礫
4. 10YR2/3　黒褐色　粗砂（やや中砂含む）P79 を切る別のピットか

1. 10YR3/2　黒褐色　粗砂（やや中砂含む）　細礫　土器片
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色　粗砂　細礫
3. 10YR4/2　灰黄褐色　粗砂（やや中砂含む）　細礫

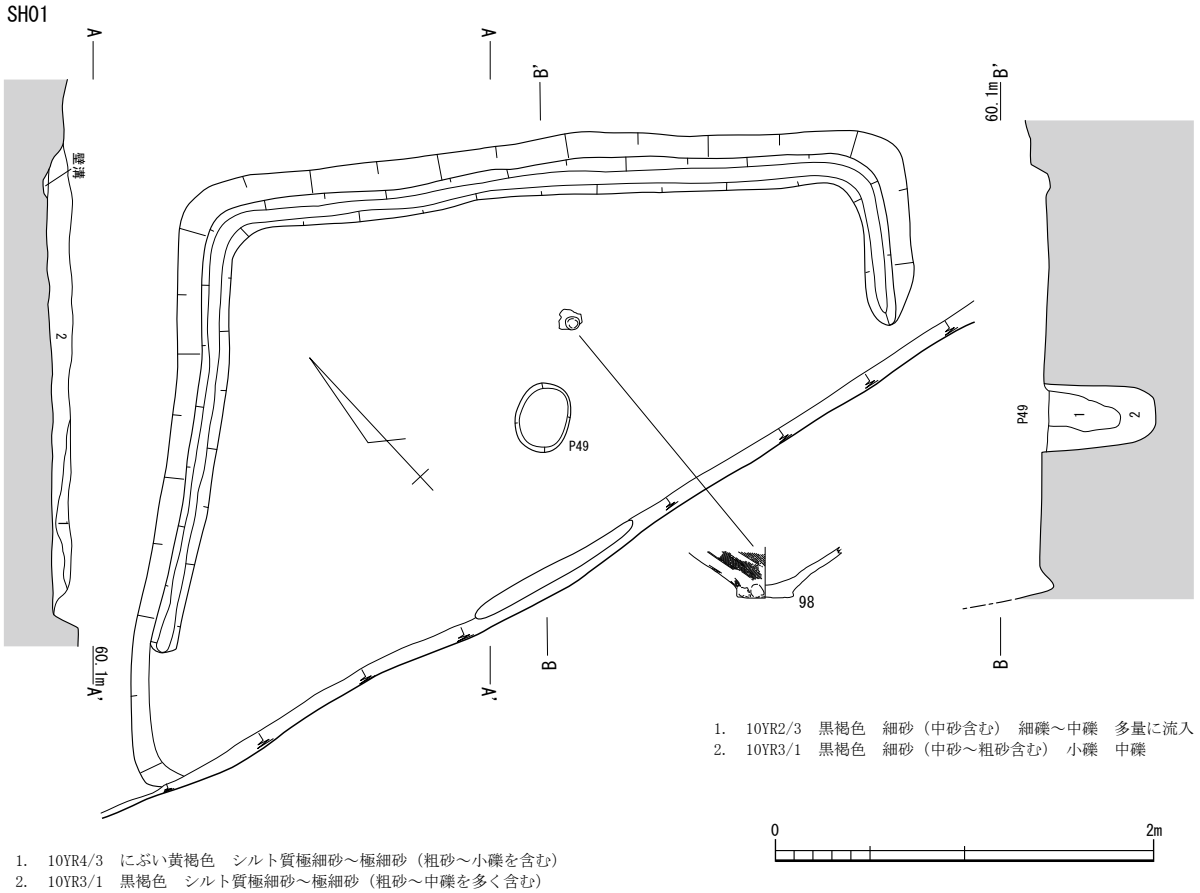
1. 10YR4/2　灰黄褐色
粗砂（やや中砂含む）　細礫～小礫
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色　粗砂
細礫　土器片

3 中央区　竪穴住居址　SH02



1. 10YR2/2　黒褐色　中砂（粗砂～極粗砂含む）　細礫～小礫　わずかに中礫　土器片　マンガン粒
2. 10YR3/2　黒褐色　粗砂（極粗砂含む）　細礫～小礫　土器片
3. 10YR2/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫～小礫　土器片
4. 10YR3/1　黒褐色　中砂～粗砂（極粗砂含む）　土器片
5. 10YR3/2　黒褐色　中砂（粗砂含む）　細礫～小礫多し
6. 10YR5/2　灰黄褐色　粗砂（極粗砂含む）　細礫～小礫含む
7. 10YR3/2　黒褐色　中砂（粗砂含む）　細礫～小礫含む
8. 10YR5/2　灰黄褐色　細砂（中砂含む）　細礫：中世以降の撹乱
9. 10YR3/3　暗褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　土器片　細礫～小礫
10. 10YR2/2　黒褐色　中砂（粗砂含む）　土器片
11. 10YR3/1　黒褐色　中砂～粗砂（極粗砂含む）　細礫～小礫：2層に類似
12. 10YR3/1　黒褐色　中砂～粗砂（極粗砂含む）　細礫～小礫　土器片：4層に対応
13. 10YR4/4　褐色　細砂（中粒砂含む）　細礫含む
14. 10YR4/2　灰黄褐色　粗砂（極粗砂含む）　細礫　ベースか　中央土坑の周堤状
15. 10YR3/2　黒褐色　中砂～粗砂（極粗砂含む）　細礫～小礫：7層に対応か
16. 10YR2/2　黒褐色　中砂～粗砂（極粗砂含む）
17. 7層に類似か
18. 10YR3/2　黒褐色　細砂～粗砂（極粗砂含む）：周壁溝
19. 10YR2/2　黒褐色　細砂～粗砂（極粗砂～小礫を含む）　SK23
20. 10YR3/2　黒褐色　中砂～粗砂（極粗砂～小礫を含む）　SK23
21. 10YR3/2　黒褐色　細砂～粗砂（小礫を少量含む）
　中央土坑 SK24
22. 10YR2/2　黒褐色　粗砂（中砂含む）　細礫　P78
23. 10YR4/2　灰黄褐色　粗砂　細礫　P78

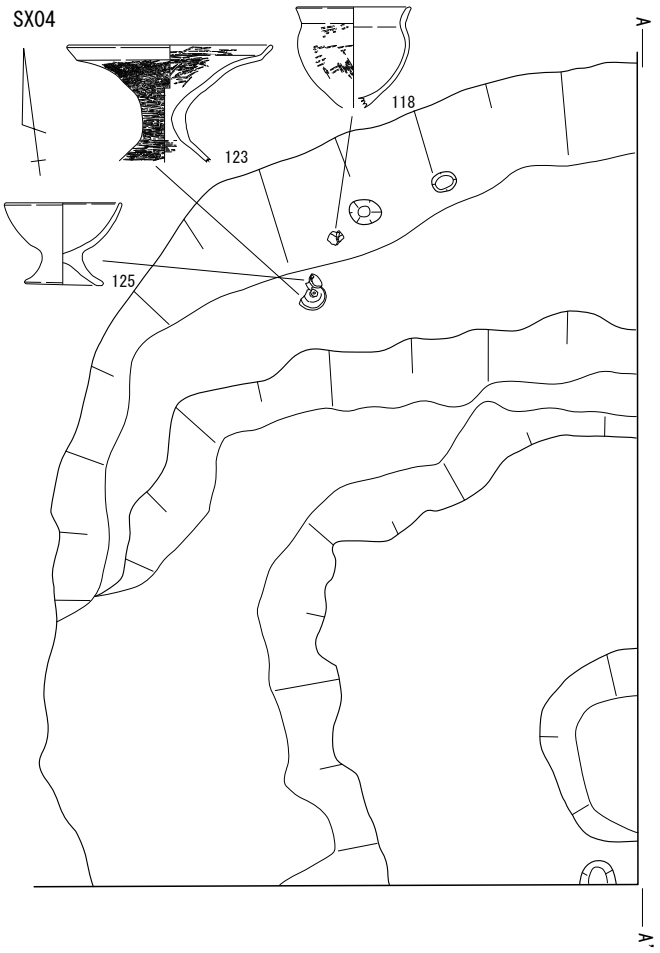
SH02　土層断面

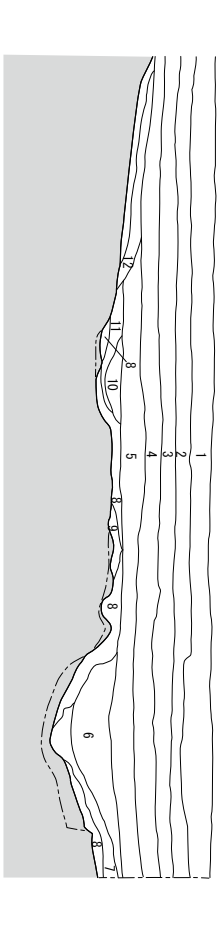


1. 10YR2/3　黒褐色　細砂（中砂含む）　細礫～中礫　多量に流入
2. 10YR3/1　黒褐色　細砂（中砂～粗砂含む）　小礫　中礫

1. 10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む）
2. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（粗砂～中礫を多く含む）

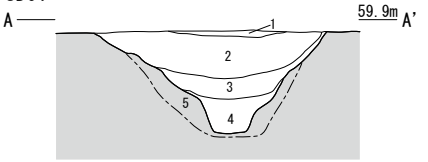
3中央区　竪穴住居址　SH01



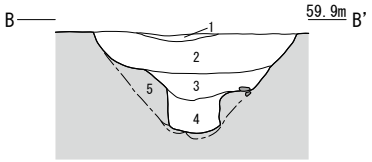


1. 10YR5/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　小礫～中礫：耕土
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色　細砂（中砂含む）　細礫～小礫：床土
3. 10YR3/3　暗褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫　土器片　マンガン粒
4. 10YR2/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫　土器片
5. 10YR2/3　黒褐色　中砂（粗砂含む）　細礫　土器片　炭粒
6. 10YR3/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫　土器片
7. 10YR2/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　炭粒　土器片　マンガン粒（少量）
8. 10YR2/3　黒褐色　中砂～粗砂（ややシルト混じり）　土器粒　マンガン粒（少量）
9. 10YR3/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫　マンガン粒
10. 10YR2/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫
11. 10YR3/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫
12. 10YR2/2　黒褐色　中砂～粗砂　細礫～小礫含む：8層に類似か

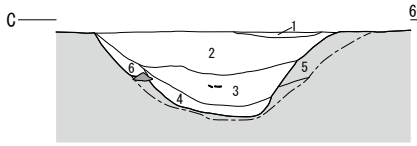
SD01



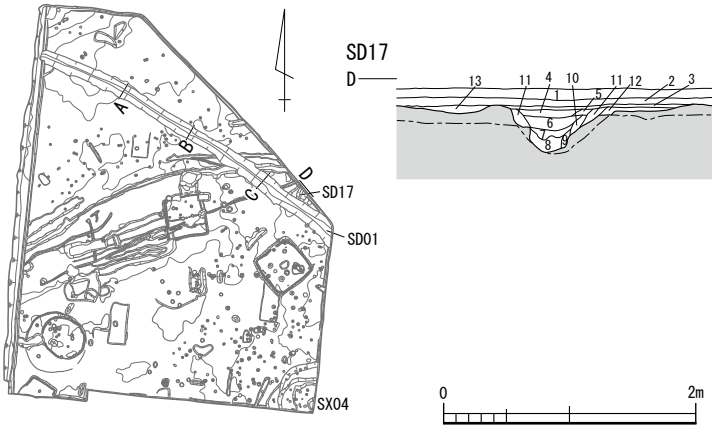
1. 10YR5/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫～小礫　土器片　マンガン粒
2. 10YR3/2　黒褐色　細礫～中砂（粗砂含む）　細礫～小礫　土器　マンガン粒
3. 10YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂（中砂含む）　土器片　細礫～小礫　マンガン粒
4. 10YR3/3　暗褐色　中砂（粗砂～極粗砂含む）　細礫～小礫
5. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂～粗砂（極粗砂含む）　細礫～小礫：ベース or ベースの二次堆積か



1. 10YR5/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫～小礫　マンガン粒
2. 10YR2/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　土器片　細礫　マンガン粒
3. 10YR3/1　黒褐色　細砂（中粒砂含む）　土器片　細礫～小礫　わずかに中礫　マンガン粒
4. 10YR3/3　暗褐色　中砂（粗砂含む）　小礫　わずかに中礫
5. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂～粗砂　細礫～小礫：ベース or ベースの二次堆積か



1. 10YR5/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫～小礫　土器　マンガン粒
2. 10YR3/1　黒褐色　細砂（中粒砂含む）　土器　細礫～小礫　マンガン粒
3. 10YR2/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　土器　細礫～小礫　わずかに中礫　マンガン粒
4. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂～細砂（中砂含む）　小礫　わずかに中礫　マンガン粒
5. 10YR3/3　暗褐色　細砂（中砂含む）　細礫～小礫
6. 10YR2/3　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫～小礫：ベース or ベースの二次堆積か

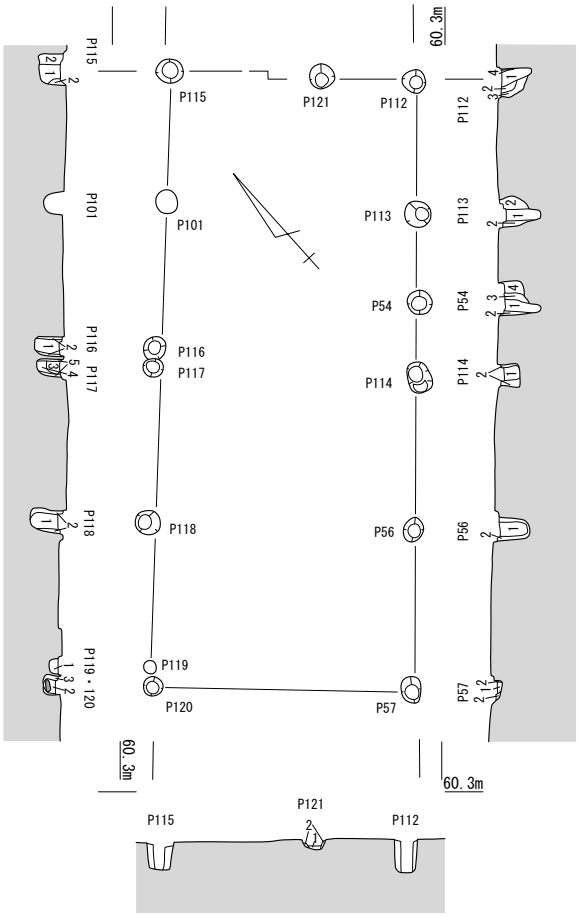


SD17

1. 10YR5/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　小礫～中礫：耕土
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色　細砂（中砂含む）　細礫～小礫：床土
3. 10YR4/6　褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫：床土の一部
4. 10YR3/1　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　小礫
5. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂（粗砂含む）　細礫～小礫
6. 10YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂（中砂含む）　細礫～小礫
7. 10YR3/1　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　小礫　土器粒
8. 10YR2/2　黒褐色　中砂（粗砂含む）　小礫～中礫
9. 10YR3/3　暗褐色　中砂（粗砂含む）　細礫
10. 10YR2/3　黒褐色　細砂（中砂～粗砂含む）　細礫～小礫
11. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂～粗砂　細礫～小礫
12. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　小礫
13. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　細礫～小礫、マンガン粒

3中央区　SX04・溝①

SB01



P112
1. 10YR2/2　黒褐色　極細砂～細砂（中粗砂含む）　マンガン粒
　　灰黄褐土小ブロック流入
2. 10YR2/3　黒褐色　細砂（中砂含む）
3. 10YR3/1　黒褐色　極細砂～細砂（中砂含む）　灰黄褐土ブロック流入
4. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）

P113
1. 10YR2/2　黒褐色　極細砂～細砂（中砂含む）　下半部に灰黄褐土流入
2. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む　マンガン粒）

P54
1. 10YR2/2　黒褐色　細砂（中粗砂含む）
2. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂（粗砂含む）
3. 10YR3/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　下半部に灰黄褐ブロック流入
4. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）

P114
1. 10YR2/3　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）
2. 10YR3/3　暗褐色　細砂（中粗砂含む）

P56
1. 10YR2/3　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）細礫
2. 10YR3/3　暗褐色　細砂～中砂（粗砂含む）細礫

P57
1. 10YR3/2　黒褐色　中砂～粗砂（極粗砂含む）
2. 10YR4/2　灰黄褐色　粗砂（極粗砂含む）

P121
1. 10YR3/3　暗褐色　中砂～粗砂
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色　粗砂（極粗砂含む）

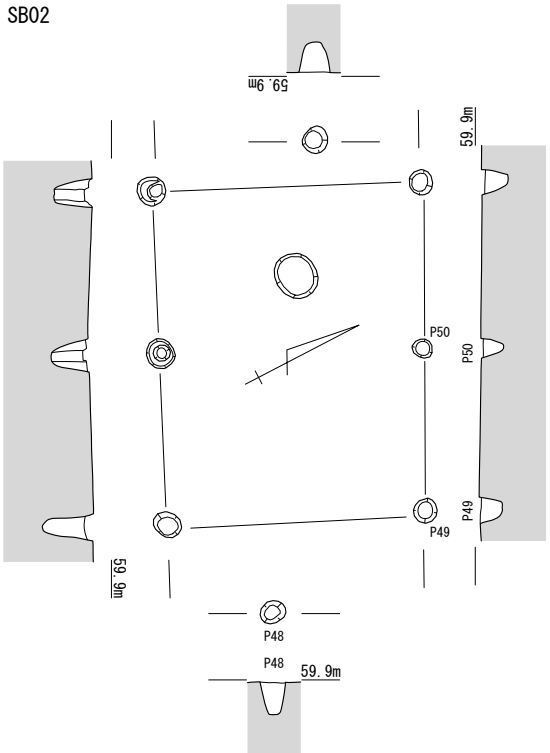
P115
1. 10YR2/3　黒褐色　中砂～粗砂　土器粒　下半部灰黄褐砂ブロック流入
2. 10YR5/2　灰黄褐色　粗砂（極粗砂含む）

P116・P117
1. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂（粗砂含む）　マンガン粒
2. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　マンガン粒（少量）
3. 10YR3/3　暗褐色　中砂（粗砂含む）　マンガン粒（少量）
4. 10YR5/3　にぶい黄褐色　中砂（粗砂含む）　柱痕下半部に堆積
5. 10YR4/3　にぶい黄褐色　中砂～粗砂

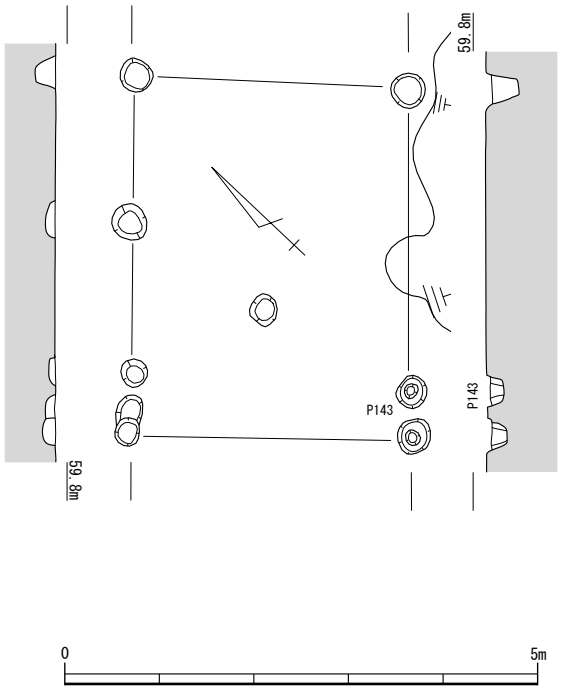
P118
1. 10YR3/2　黒褐色　細砂（中粗砂含む）　土器粒　灰黄褐土ブロック流入
2. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂（中粗砂含む）

P119・P120
1. 10YR3/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　灰黄褐土ブロック流入
2. 10YR2/3　黒褐色　細砂（中砂含む）　土器粒　底面付近に中礫
3. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂～中砂

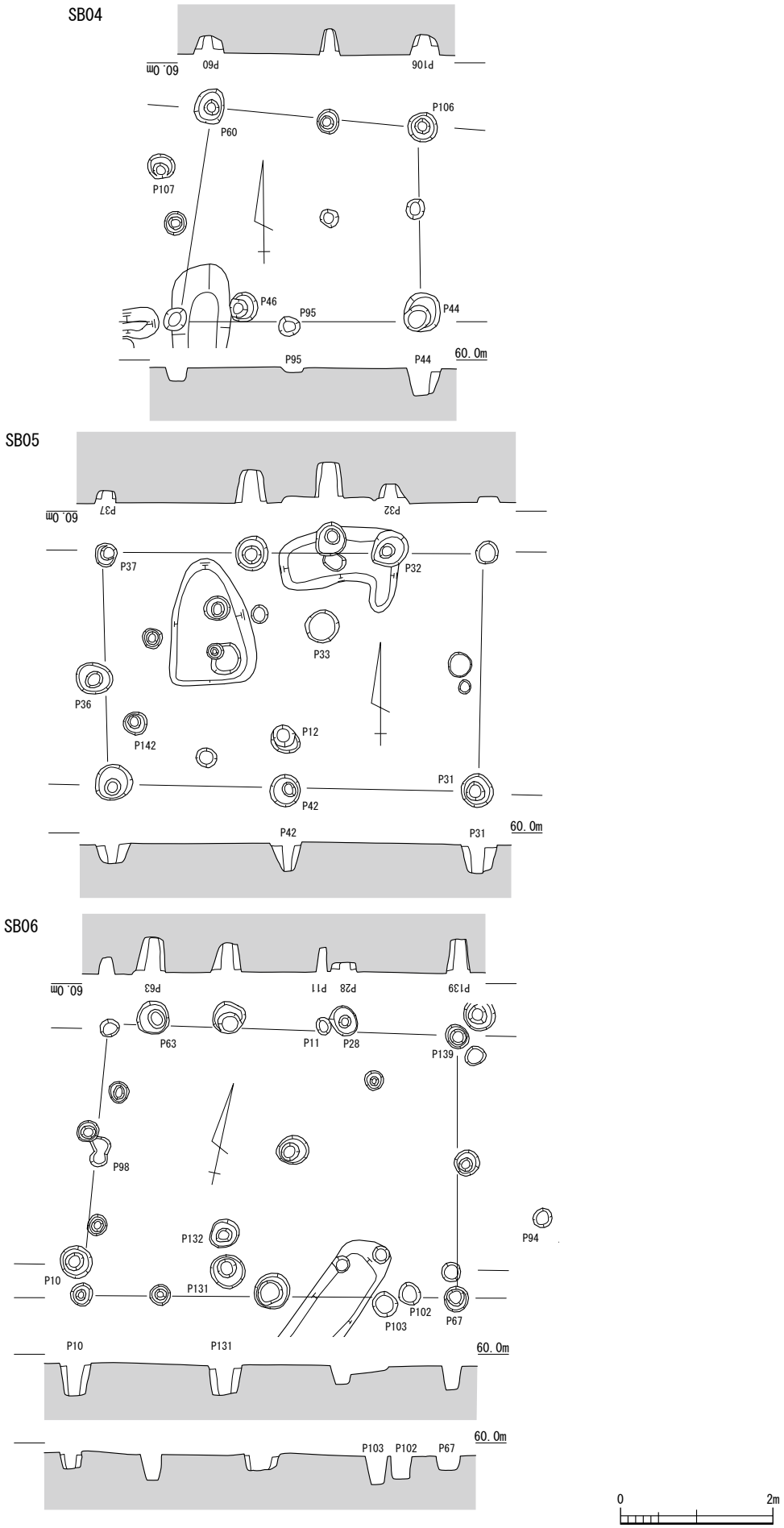
SB02



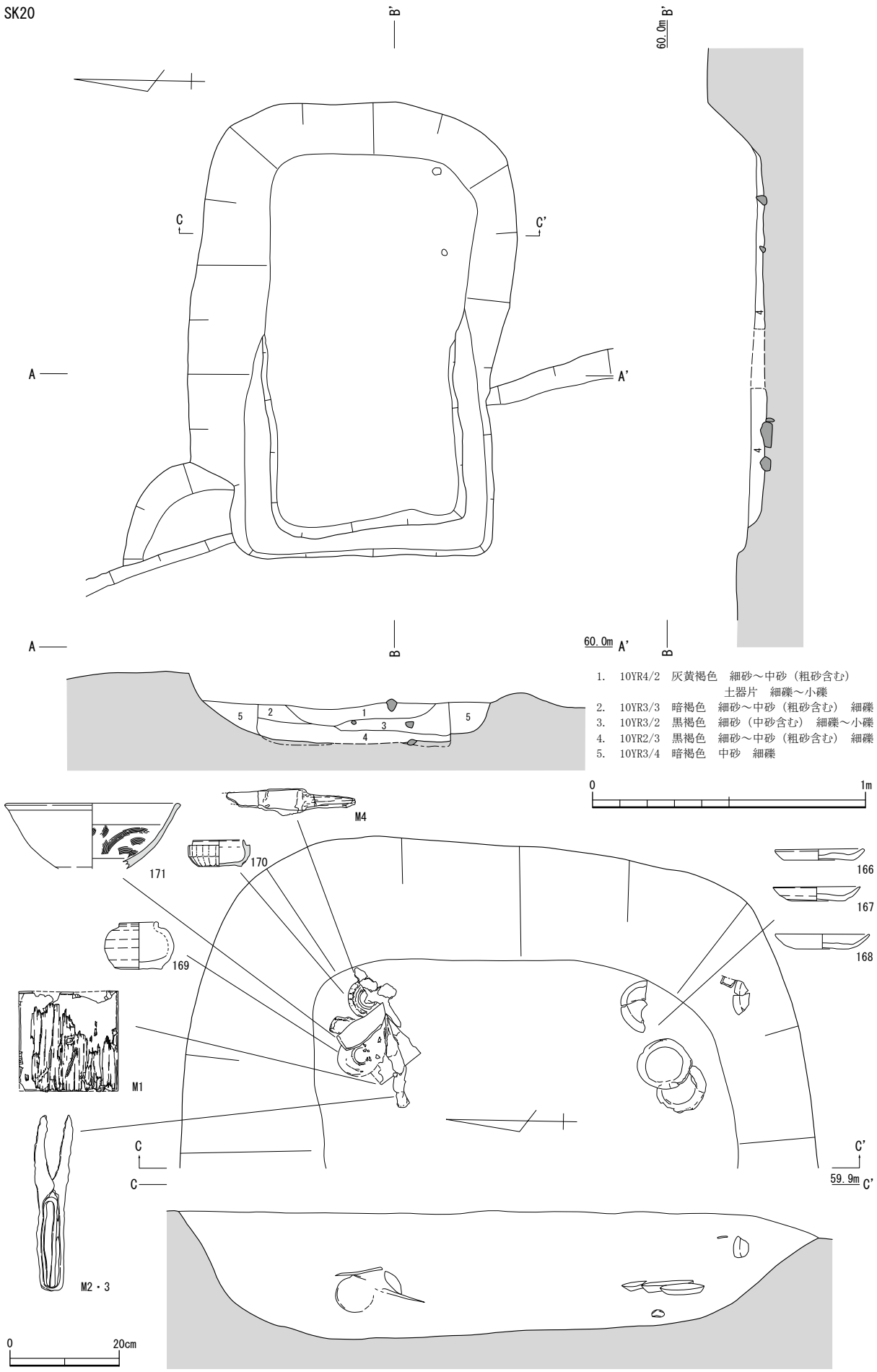
SB03



3中央区　掘立柱建物址　SB01・02・03

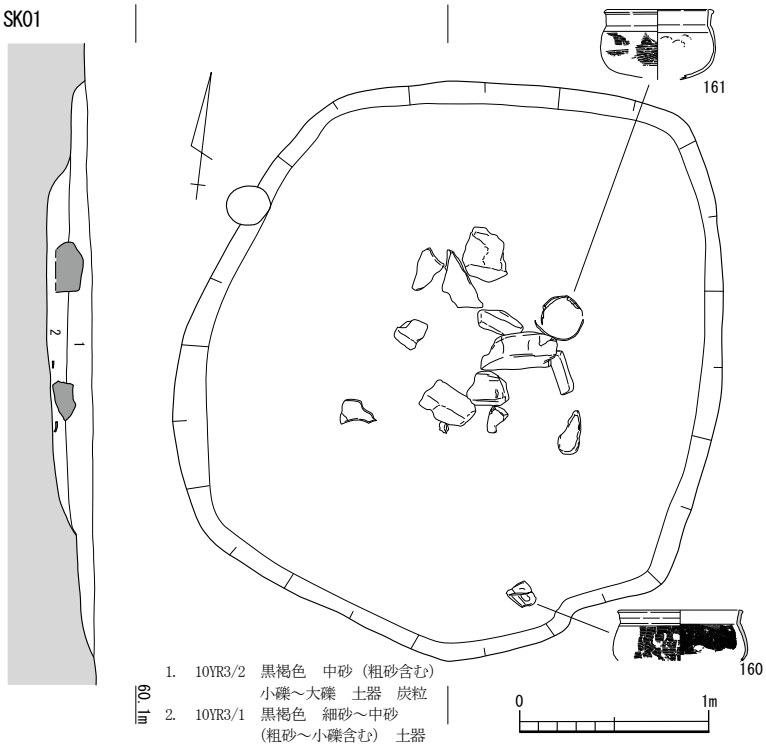


3 中央区　掘立柱建物址　SB04・05・06



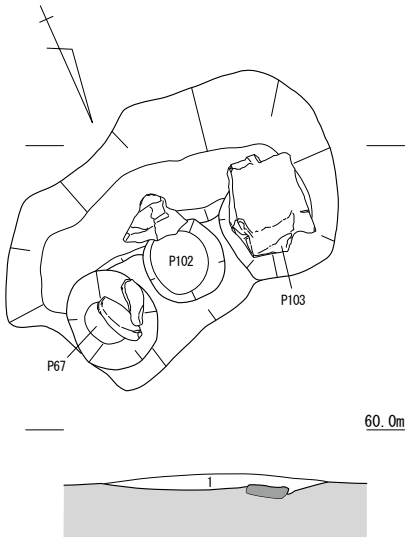
3中央区　上層　木棺墓（SK20）

SK01



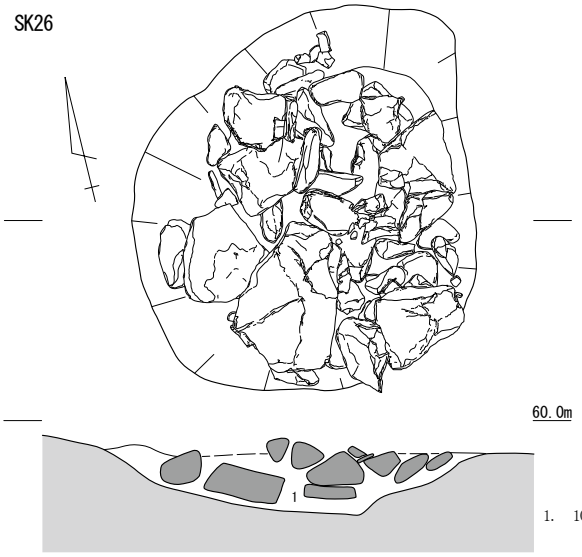
1. 10YR3/2 黒褐色 中砂（粗砂含む）
小礫～大礫 土器 炭粒
2. 10YR3/1 黒褐色 細砂～中砂
（粗砂～小礫含む） 土器

SK03



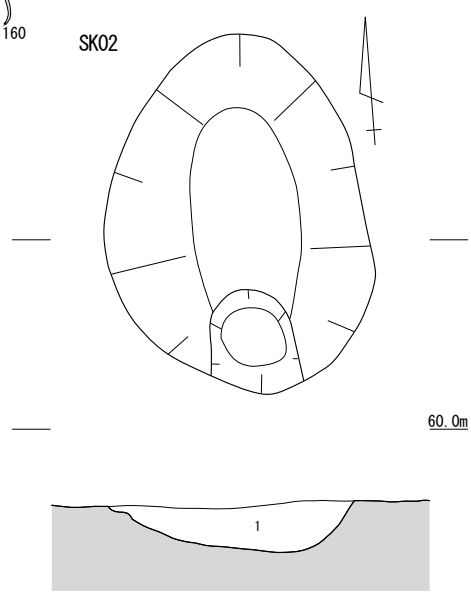
1. 10YR3/3 暗褐色 中砂（粗砂含む）

SK26



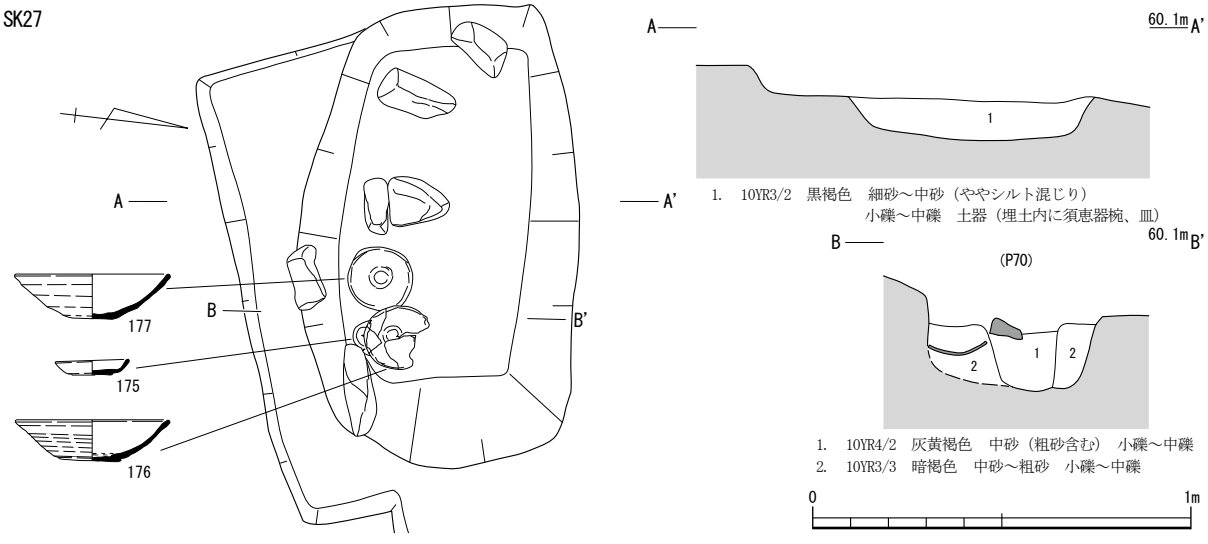
1. 10YR4/2 灰黄褐色 中砂（粗砂含む）
小礫～巨礫が多量に集積する 土器片

SK02



1. 10YR3/2 黒褐色 細砂（中砂～粗砂含む）
小礫 土器 マンガン粒

SK27



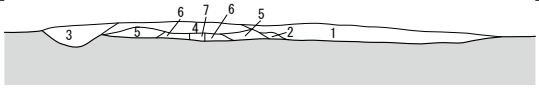
1. 10YR3/2 黒褐色 細砂～中砂（ややシルト混じり）
小礫～中礫 土器（埋土内に須恵器椀、皿）

1. 10YR4/2 灰黄褐色 中砂（粗砂含む） 小礫～中礫
2. 10YR3/3 暗褐色 中砂～粗砂 小礫～中礫

3中央区 上層 土坑①

大畦畔

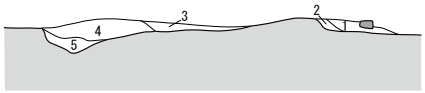
A——



60.0m A'

1. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 小礫
2. 10YR3/2 黒褐色 細砂（中砂含む） マンガン粒：ベース土に近似
3. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂（中粒砂含む） 小礫 上面にマンガン粒：1層に類似
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂（中粒砂含む） マンガン粒少量
5. 10YR3/4 暗褐色 細砂～中砂（粗砂含む）
6. 10YR3/3 暗褐色 細砂（中粒砂含む）
7. 10YR4/1 褐灰色 細砂（中砂含む）

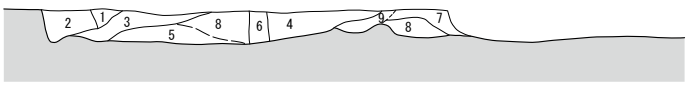
B——



60.0m B'

1. 10YR3/3 暗褐色 中砂（粗砂含む） 中礫
2. 10YR3/4 暗褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 細礫
3. 10YR4/2 灰黄褐色 中砂（粗砂含む） 中礫：1層に類似か
4. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂（中砂含む） 中礫
5. 10YR3/2 黒褐色 細砂（中砂含む）

C——



60.0m C'

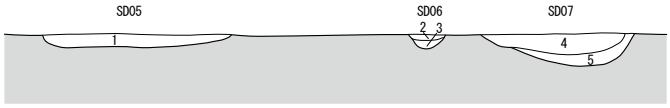
1. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 黄灰シルトブロックが流入
2. 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂（中砂含む） 細礫含む
3. 10YR3/2 黒褐色 細砂（中砂含む）
4. 10YR5/2 灰黄褐色 細砂（中砂含む） 炭粒 中礫含む
5. 10YR2/2 黒褐色 極細砂～細砂（中粒砂含む）
6. 2.5Y5/1 黄灰色 極細砂～細砂
7. 10YR3/3 暗褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 細礫 マンガン粒
8. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂（中粒砂含む） マンガン粒
9. 10YR5/2 灰黄褐色 細砂～中砂 小礫～中礫多量に含む：4層の一部

D——

60.3m D'

1. 10YR3/3 暗褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 小礫 土器片
   上面にマンガン粒
2. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 上面にマンガン粒
3. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 細礫～小礫
   上面にマンガン粒
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂～粗砂（細礫～小礫含む）
   ベース土に近似も少し混じりあり

E——

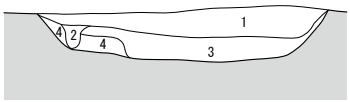


60.3m E'

1. 10YR3/3 暗褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 細礫 上面にマンガン粒
2. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 上面にマンガン粒
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色 中砂（粗砂含む） 小礫：ベース土に近似
4. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂（粗砂含む） 細礫～小礫 上面にマンガン粒
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂～粗砂（細礫～小礫含む） ベース土に近似も少し混じりあり

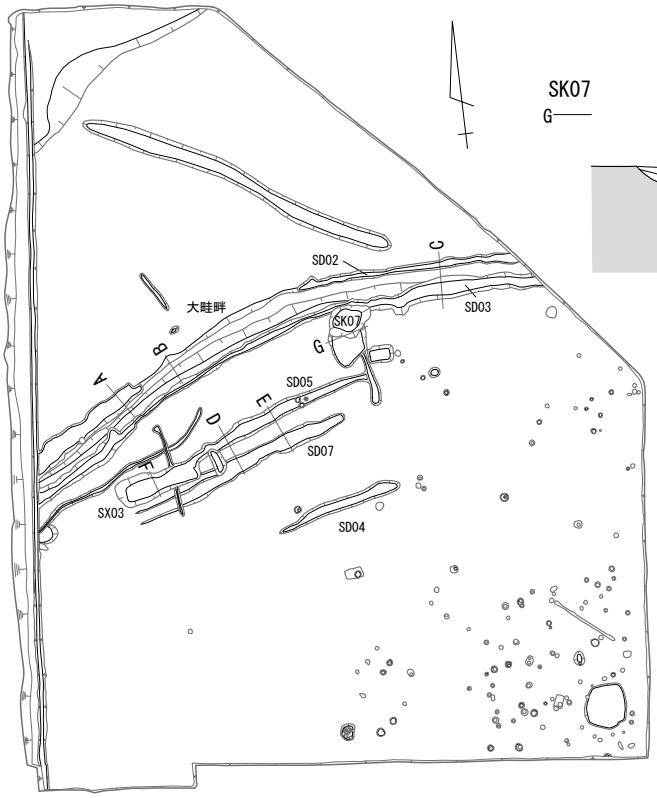
SX03

F



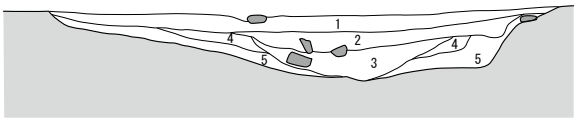
60.3m F'

1. 10YR2/2 黒褐色 極細砂～細砂（中砂含む） 細礫～小礫 土器片
   マンガン粒
2. 10YR3/2 黒褐色 極細砂（中砂含む） 小礫 マンガン粒 土器片
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂～粗砂 粗砂やや多し 細礫～小礫
4. 10YR4/2 灰黄褐色 中砂～粗砂 細礫



SK07

G——



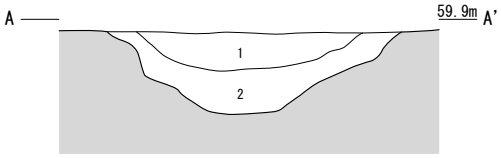
60.1m G'

1. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂（中粒砂含む） 細礫 一部中礫 マンガン粒
2. 10YR3/3 暗褐色 極細砂～細砂（中粒砂含む） 細礫～小礫 少し中礫
   マンガン粒
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト混じり極細砂（中砂含む） 細礫～小礫
   少し中礫
4. 10YR4/4 褐色 中砂（粗砂含む）：ベースか？ 二次堆積か
5. 10YR3/3 暗褐色 シルト質中砂（粗砂含む）：ベースか

0 2m

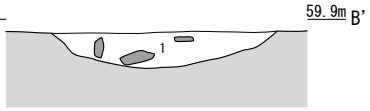
3中央区 上層 大畦畔・溝②・土坑②

SK17



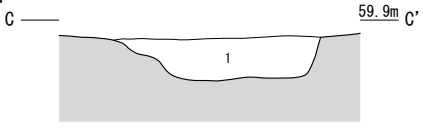
1. 10YR3/3　暗褐色　中砂（粗砂含む）　小礫　マンガン粒
2. 10YR3/2　黒褐色　中砂（粗砂含む）

SK18



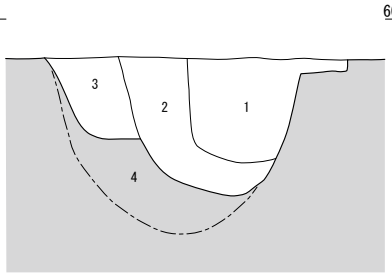
1. 10YR2/2　黒褐色　中砂（粗砂含む）　小礫～中礫

SK04



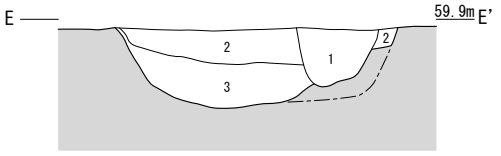
1. 10YR2/3　黒褐色　細砂（中粒砂含む）

SK09



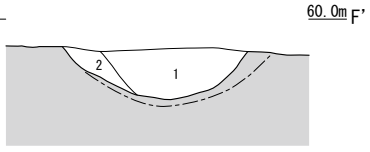
1. 10YR3/3　暗褐色　極細砂～細砂（中砂含む）　細礫
2. 10YR2/3　黒褐色　極細砂～細砂（中粒砂含む）　細礫
3. 10YR2/2　黒褐色　細砂（中粒砂含む）　細礫～小礫
4. 10YR3/4　暗褐色　細砂（中砂含む）　小礫

SK10



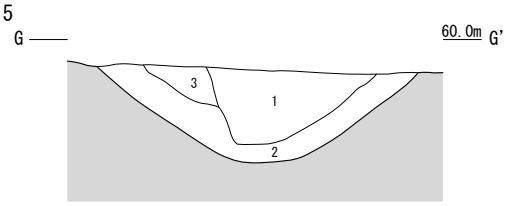
1. 10YR3/1　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　マンガン粒
2. 10YR2/3　黒褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　土器片
　小礫～中礫　マンガン粒
3. 10YR3/2　黒褐色　中砂（粗砂含む）　小礫

SK14



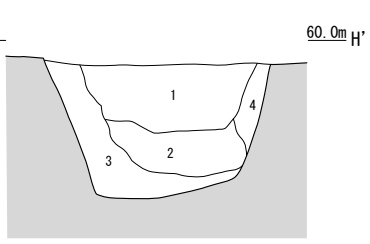
1. 10YR3/3　暗褐色　細砂（中粒砂含む）　細礫
2. 10YR3/4　暗褐色　細砂～中砂（粗砂含む）

SK15

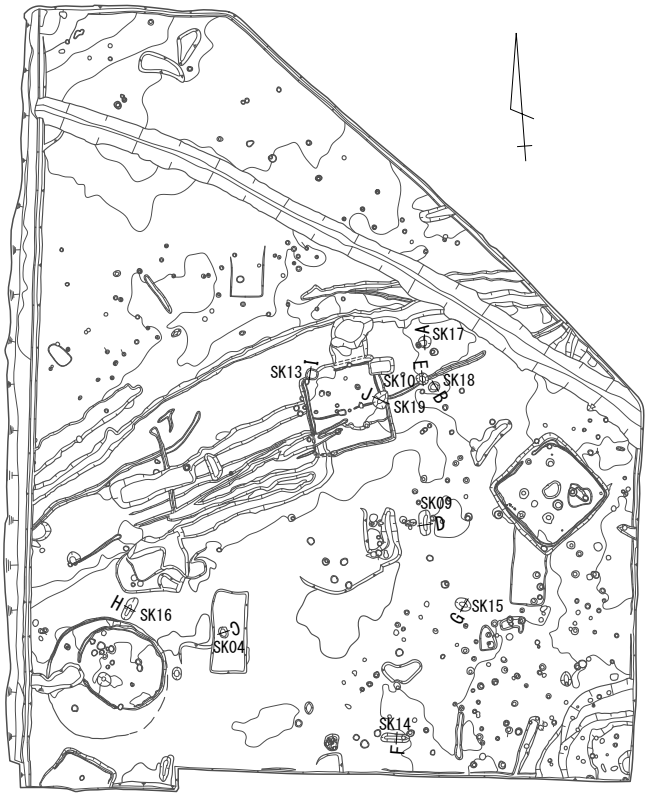


1. 10YR3/1　黒褐色　細砂（中砂～粗砂含む）　小礫
2. 10YR3/3　暗褐色　中砂（粗砂含む）
3. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）

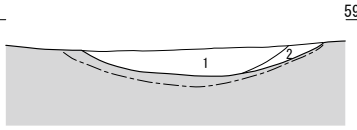
SK16



1. 10YR3/2　黒褐色　細砂（中砂含む）　細礫
2. 10YR2/2　黒褐色　細砂（中粒砂含む）　細礫～小礫
3. 10YR3/2　黒褐色　極細砂～細砂（中砂含む）　細礫～小礫
4. 10YR3/3　暗褐色　細砂（中粒砂含む）　細礫

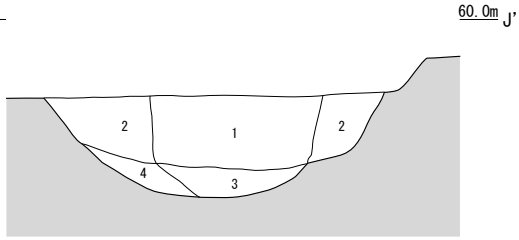


SK13

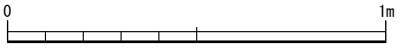


1. 10YR2/3　黒褐色　細砂（中砂含む）　小礫
2. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂～中砂（粗砂含む）　小礫

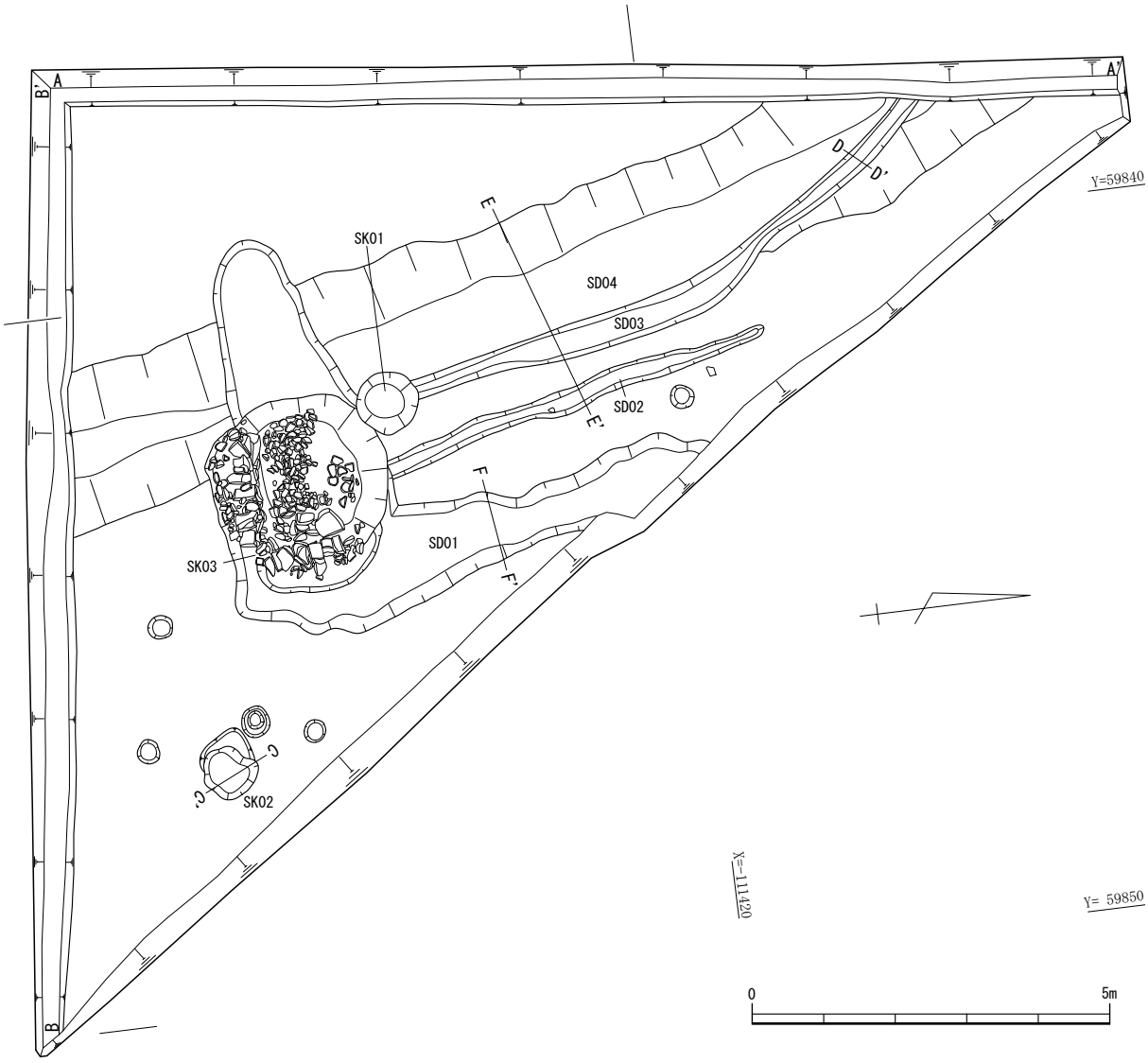
SK19

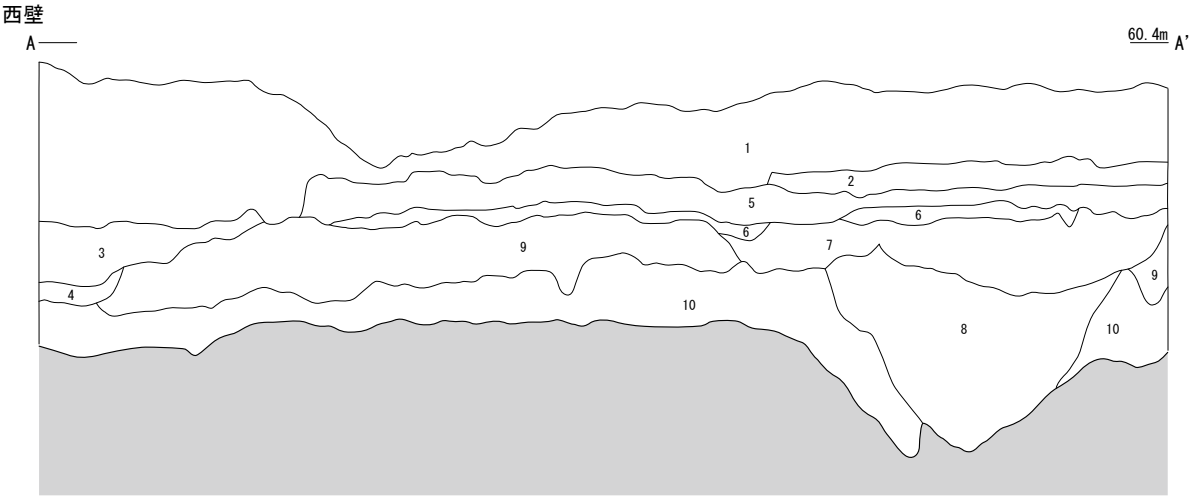


1. 10YR2/2　黒褐色　極細砂～細砂（中砂含む）　土器片
2. 10YR2/3　黒褐色　極細砂～細砂（中砂含む）
3. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂（中砂含む）　土器片
4. 10YR3/3　暗褐色　極細砂（中砂含む）



3中央区　土坑③

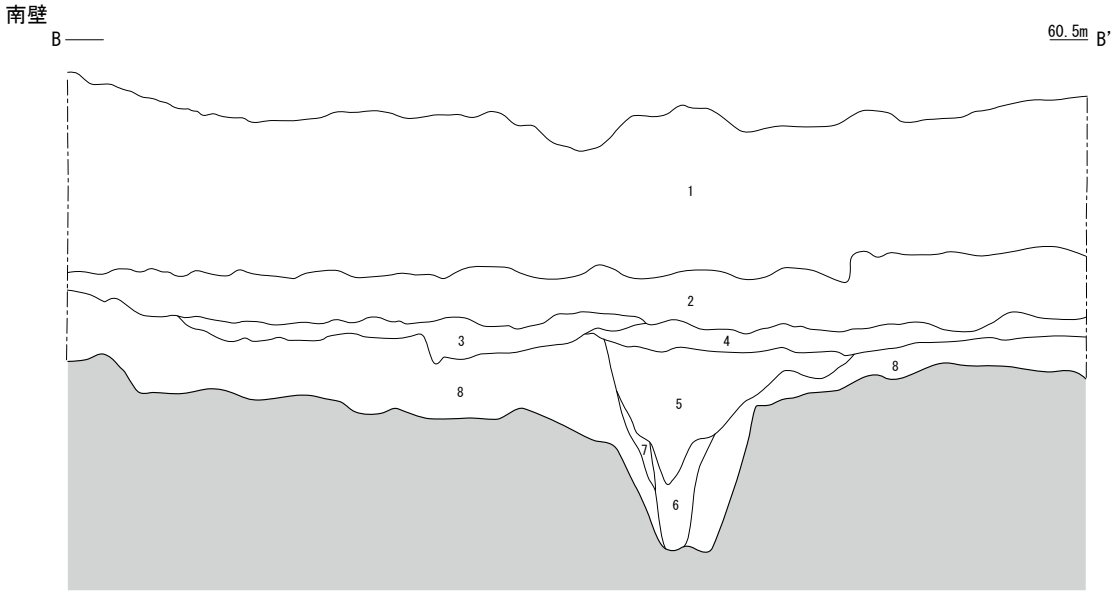




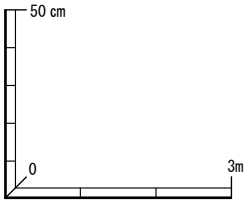
1. 表土
2. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂 粗砂・小礫を少量含む
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細砂 粗砂・小礫を含む
4. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂 粗砂・小礫を含む
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色 極細砂 粗砂を多く、小礫を含む
6. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を少量含む
7. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂・小礫を含む
8. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂・小礫を含む
9. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂・小礫を含む
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細～中砂 粗砂・小礫を含む

3東区　全体図・西壁土層断面図

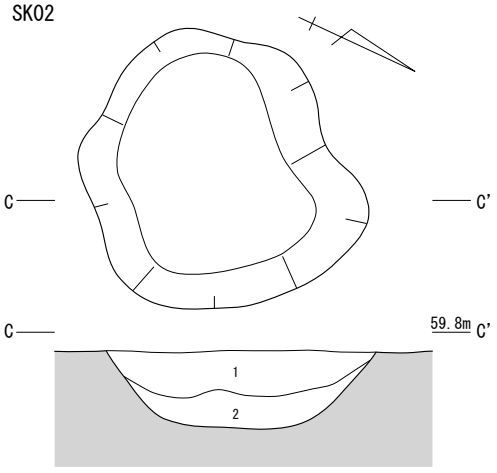
南壁



1. 表土
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細砂 粗砂・小礫を含む
3. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂 粗砂・小礫を少量含む
4. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂 粗砂・小礫を含む
5. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂・小礫を少量含む
6. 10YR2/3 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を少量含む
7. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細～中砂 粗砂・小礫を含む

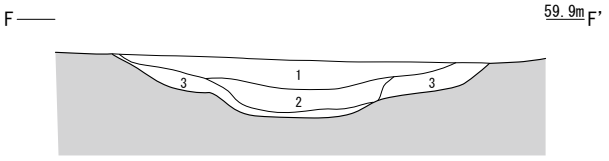


SK02



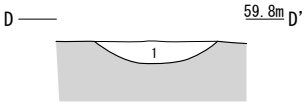
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 粗砂を含む
2. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂 粗砂を含む

SD01



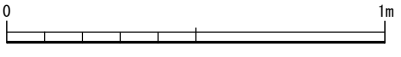
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂～中礫を含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂 粗砂・小礫を含む
3. 地山

SD03



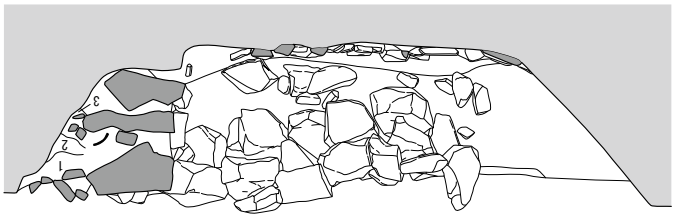
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂・小礫を含む
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂・小礫を多く含む
3. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂～中礫を含む
4. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂～中礫を含む
5. 地山



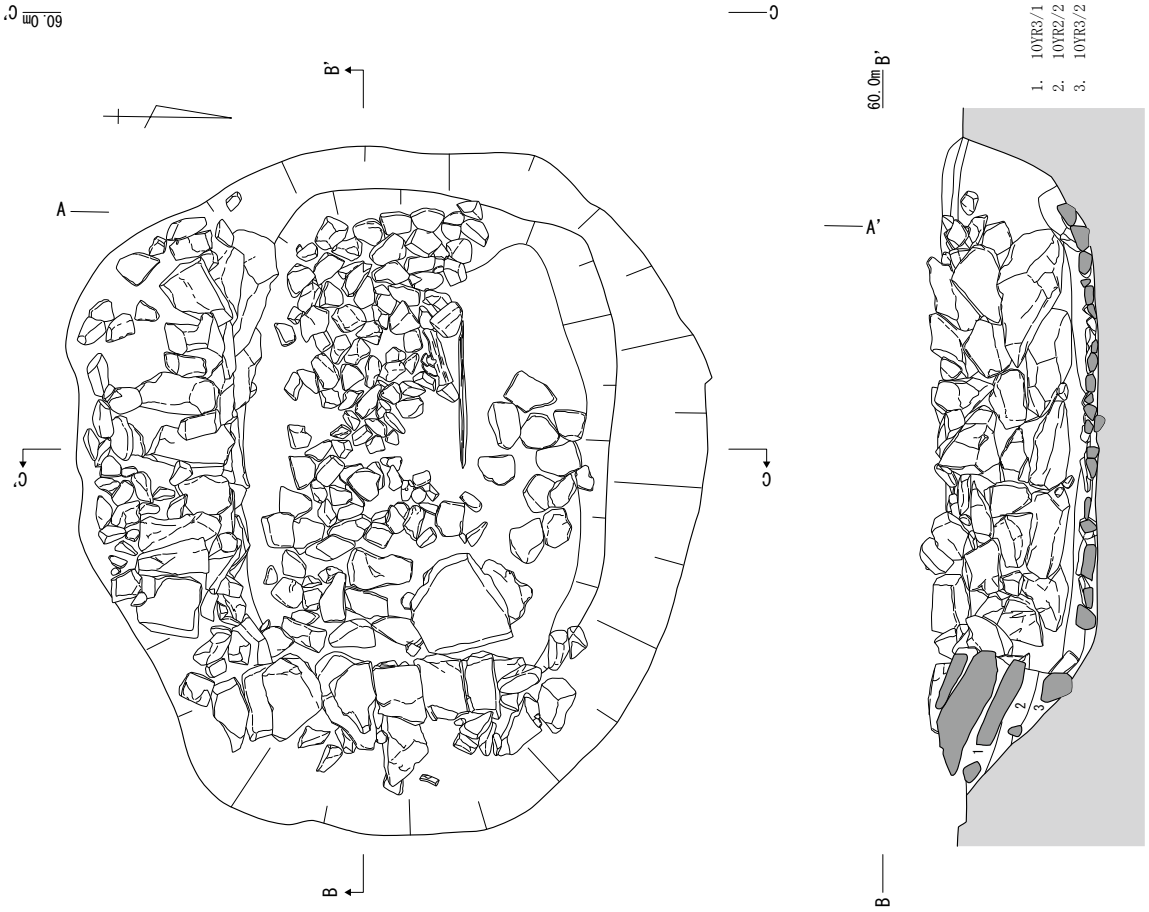
3東区 南壁土層断面・土坑・溝

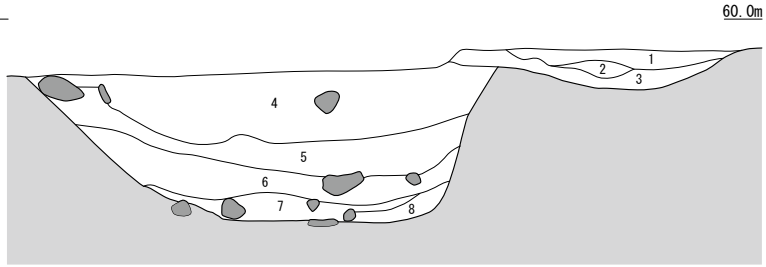
SK03



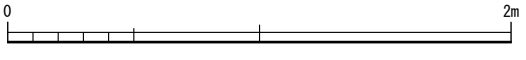
1. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（細砂を含む）
2. 10YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（細砂を含む）
3. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（中礫を多く含む）

1. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（中礫を含む）
2. 10YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（細砂を含む）
3. 10YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（中礫を多く含む）

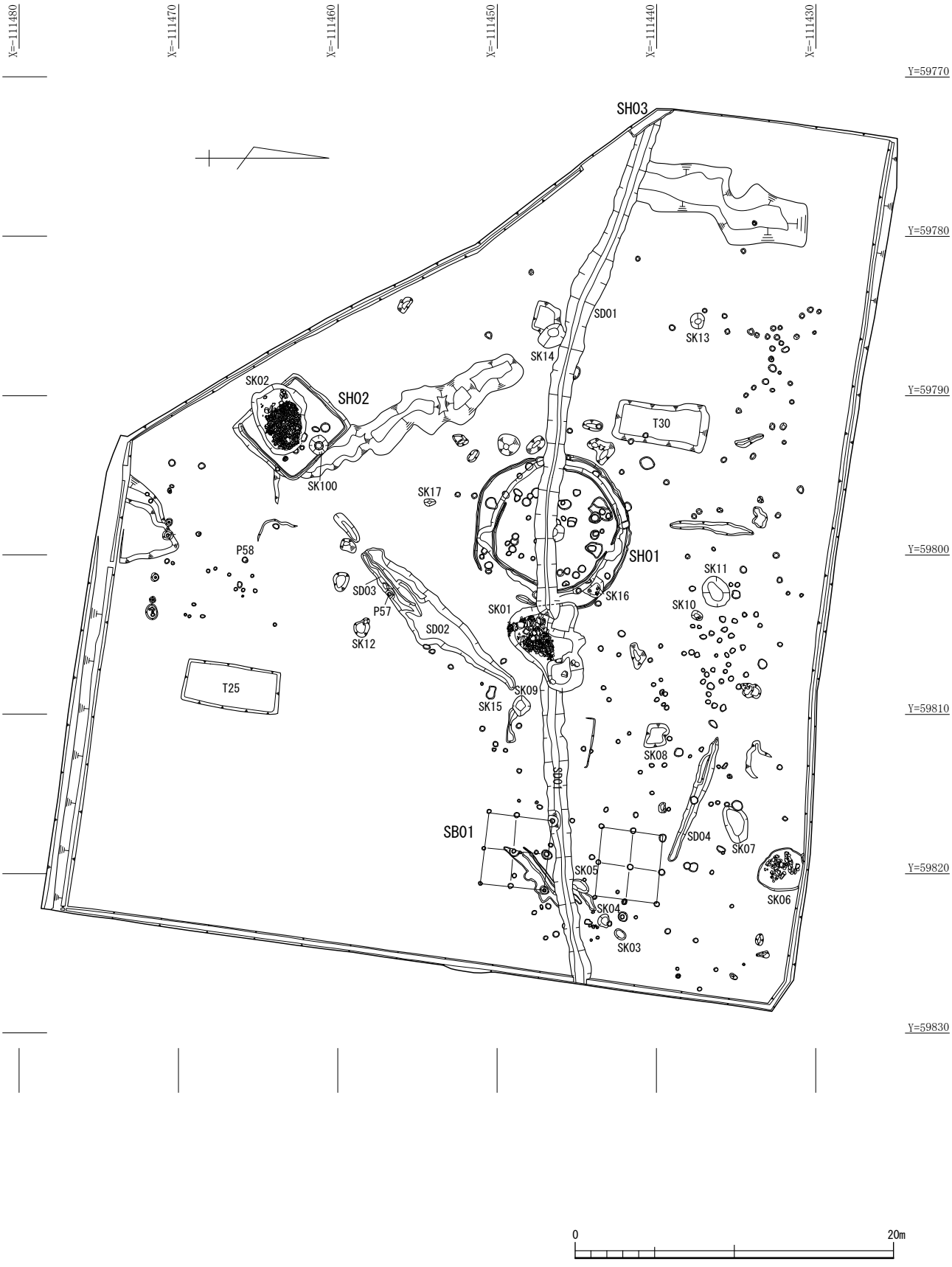




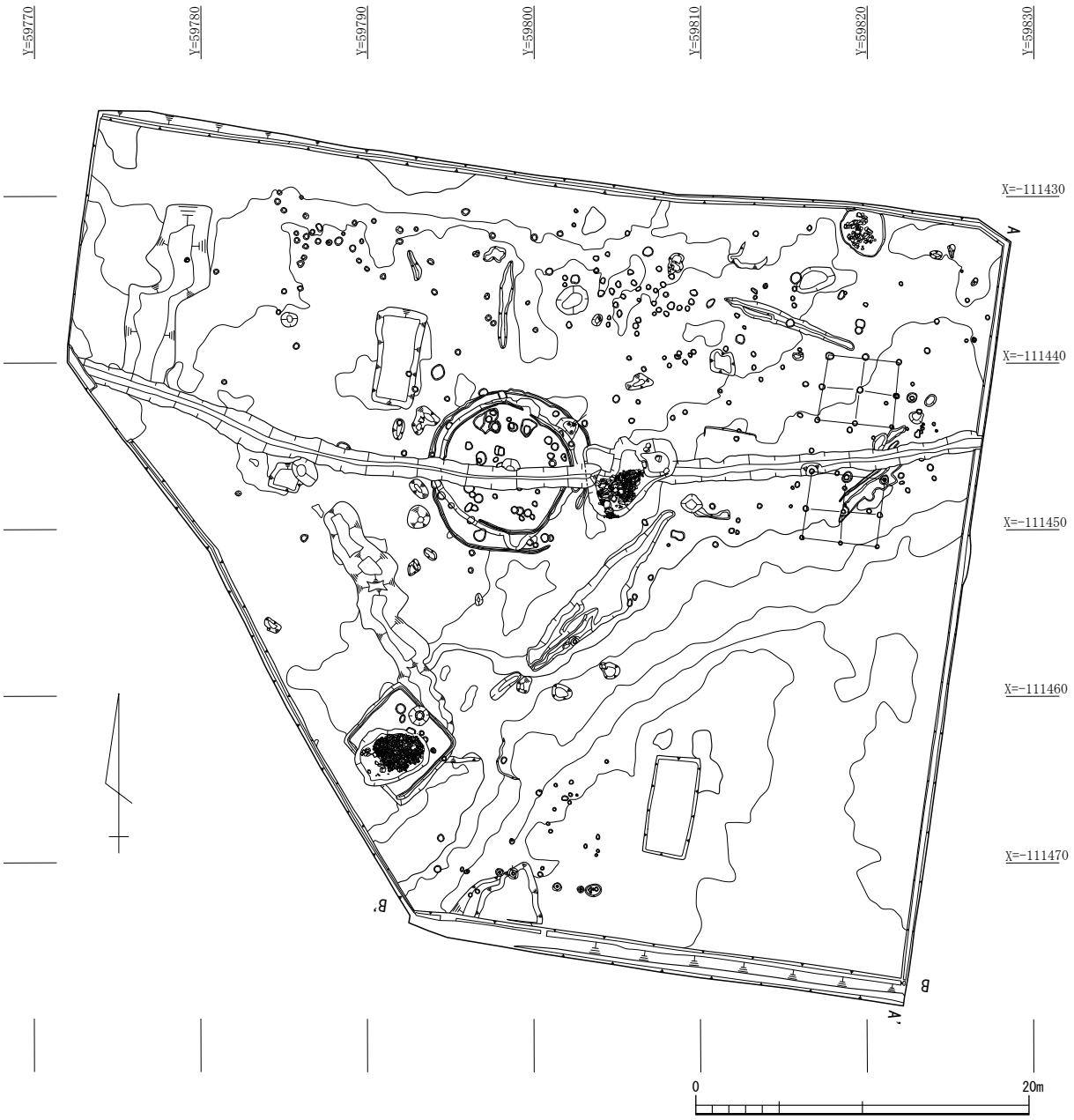
1. 10YR5/3　にぶい黄褐色　極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
3. 10YR5/2　灰黄褐色　極細砂（粗砂を含む）
4. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂～細砂（粗砂を多く含む、中・小礫を含む）
5. 10YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
6. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（粗砂・小礫を含む）
7. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（粗砂を少量含む、中・小礫を含む）
8. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）

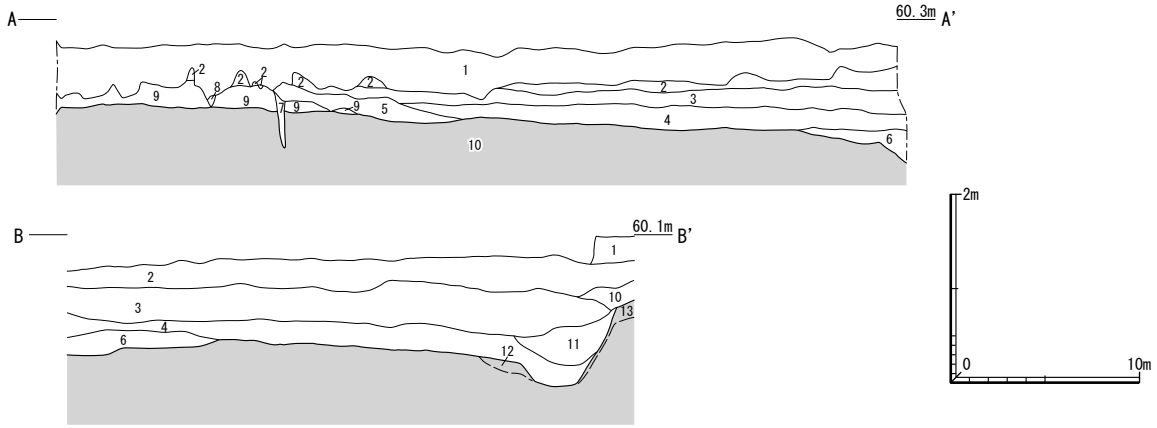


3東区　石組水溜遺構（SK03）


X=-111480
X=-111470
X=-111460
X=-111450
X=-111440
X=-111430
Y=59770
Y=59780
Y=59790
Y=59800
Y=59810
Y=59820
Y=59830
SH03
SD01
SK13
SK14
SK02
SH02
T30
SK100
SK17
P58
SH01
SK11
SD03
SK16
SK10
P57
SK01
SD02
SK12
T25
SK09
SK15
SK08
SD01
SB01
SD04
SK07
SK05
SK06
SK04
SK03
0
20m

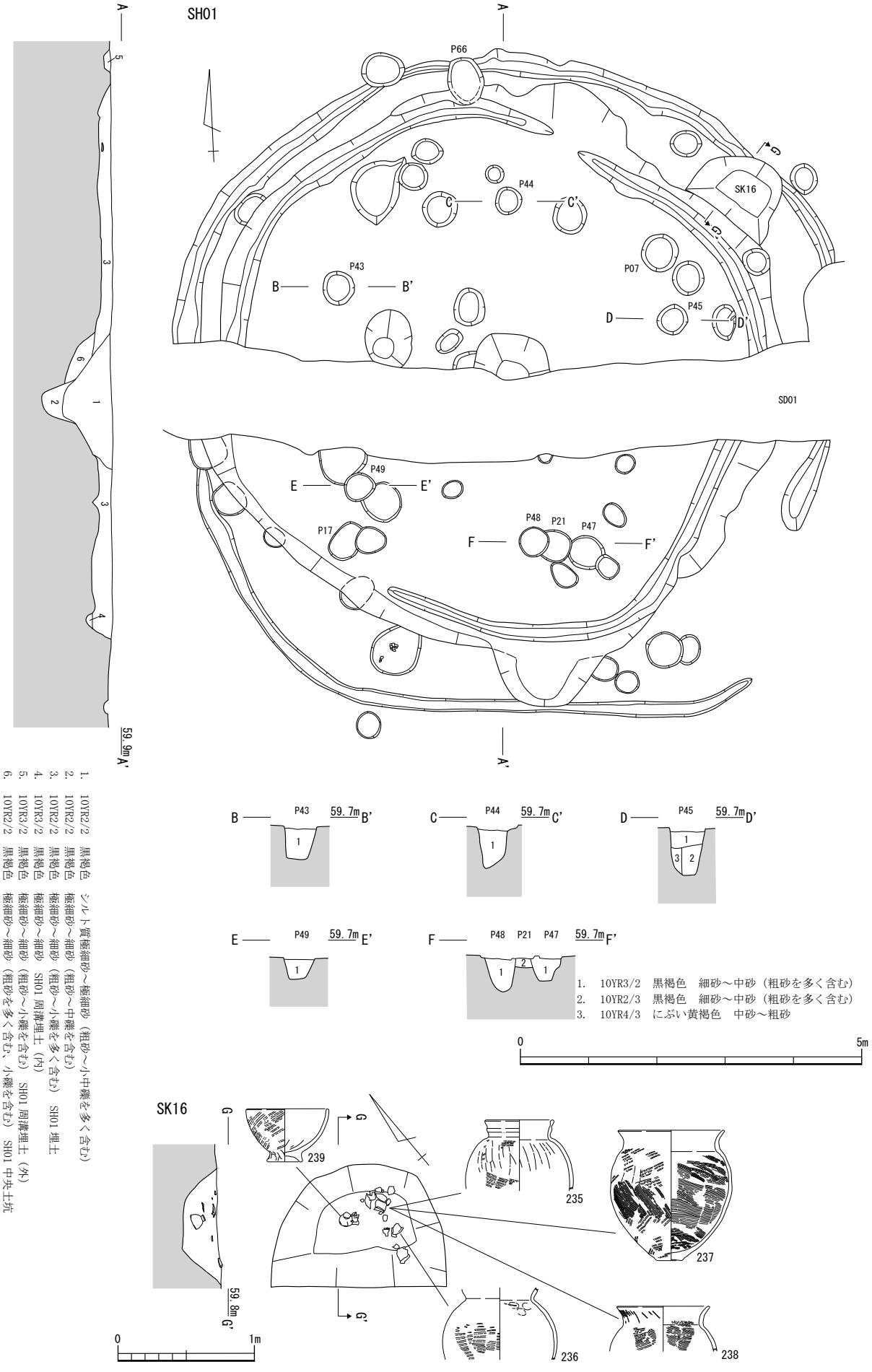
4 西区　全体図





1. 表土・盛り土
2. 2.5Y5/3 黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む）
4. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂（粗砂を少量含む）
5. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む）
6. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂
7. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む） SD01
8. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～中砂（粗砂を含む）
10. 10YR3/3 暗褐色 極細砂～細砂（粗砂～小礫を含む）
11. 10YR2/3 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を少量含む）
12. 5Y5/2 灰オリーブ色 シルト質極細砂
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む） 地山

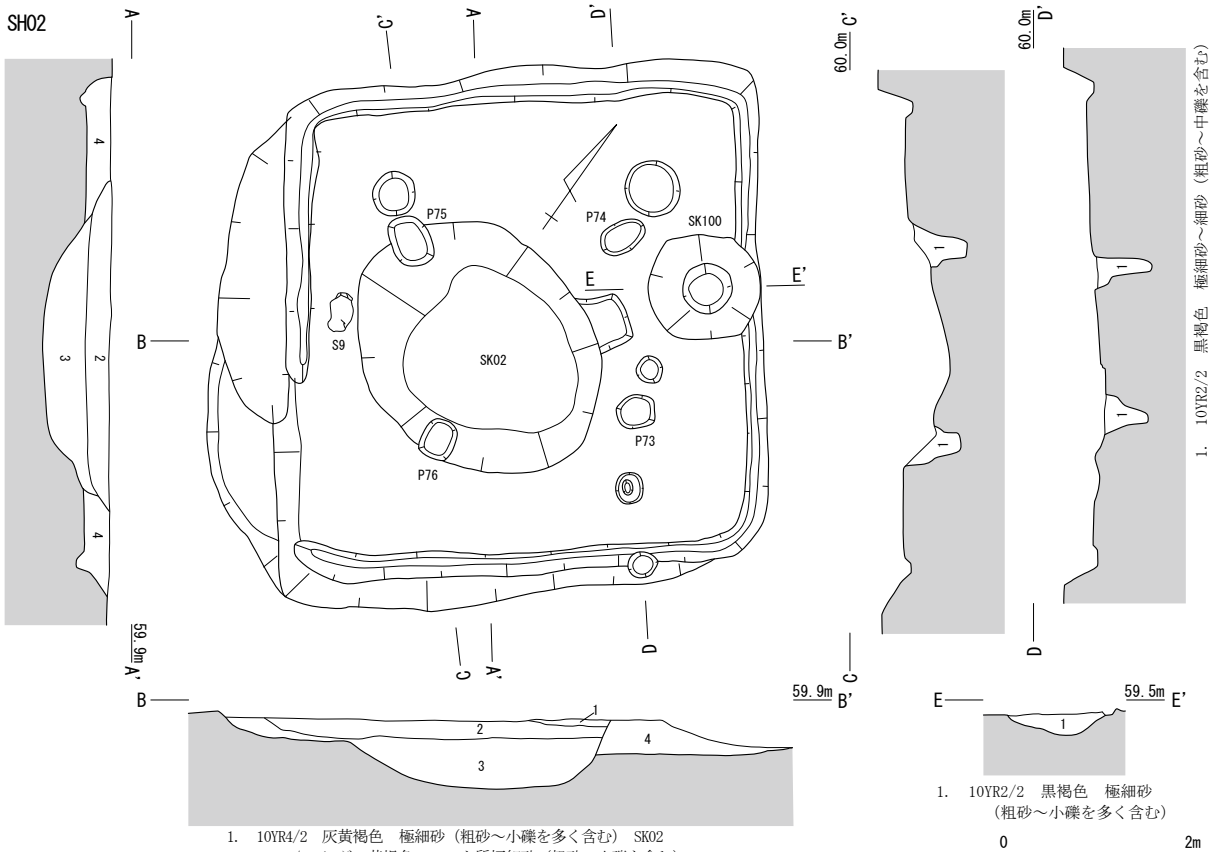
4西区 全体図 南壁・東壁土層断面

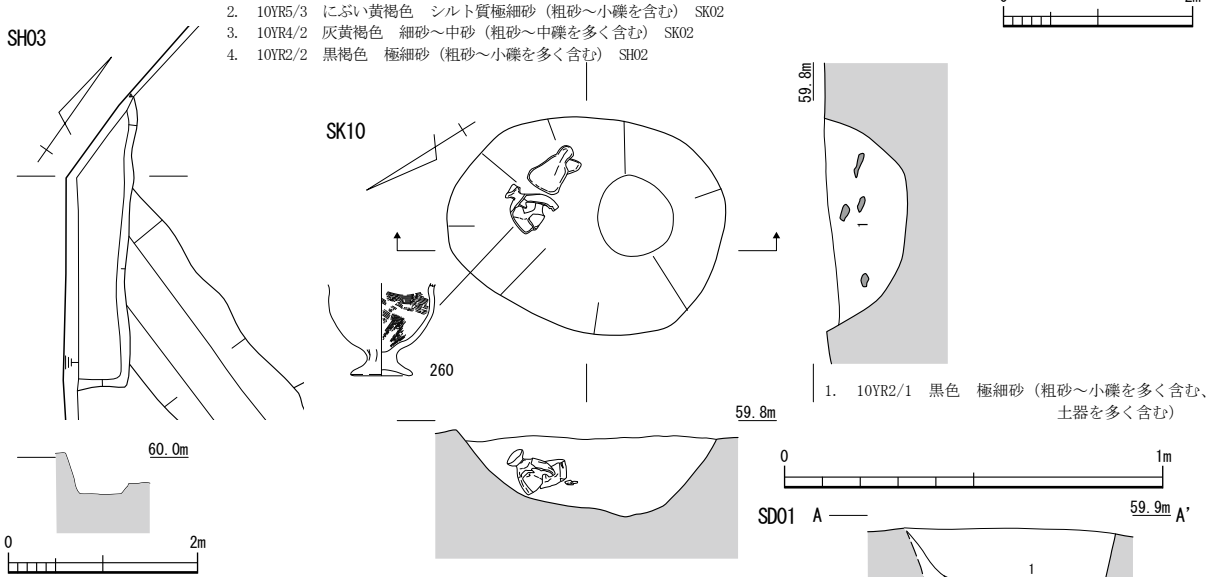


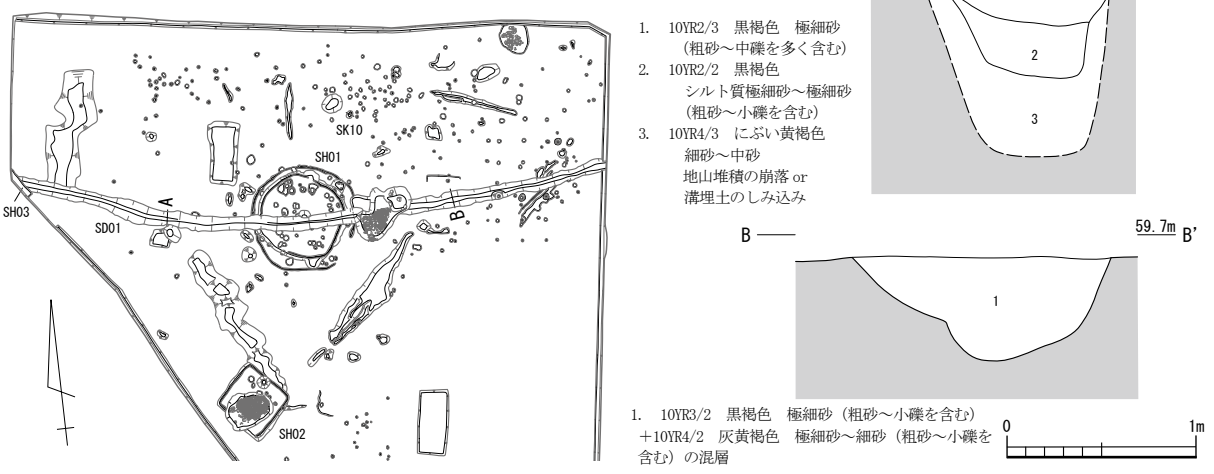
1. 10YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小中礫を多く含む）
2. 10YR2/2　黒褐色　極細砂～細砂（粗砂～中礫を含む）
3. 10YR2/2　黒褐色　極細砂～細砂（粗砂～小礫を多く含む）　SH01 埋土
4. 10YR3/2　黒褐色　極細砂～細砂　SH01 周溝埋土（内）
5. 10YR3/2　黒褐色　極細砂～細砂（粗砂～小礫を含む）　SH01 周溝埋土（外）
6. 10YR2/2　黒褐色　極細砂～細砂（粗砂を多く含む、小礫を含む）　SH01 中央土坑

1. 10YR3/2　黒褐色　細砂～中砂（粗砂を多く含む）
2. 10YR2/3　黒褐色　細砂～中砂（粗砂を多く含む）
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色　中砂～粗砂

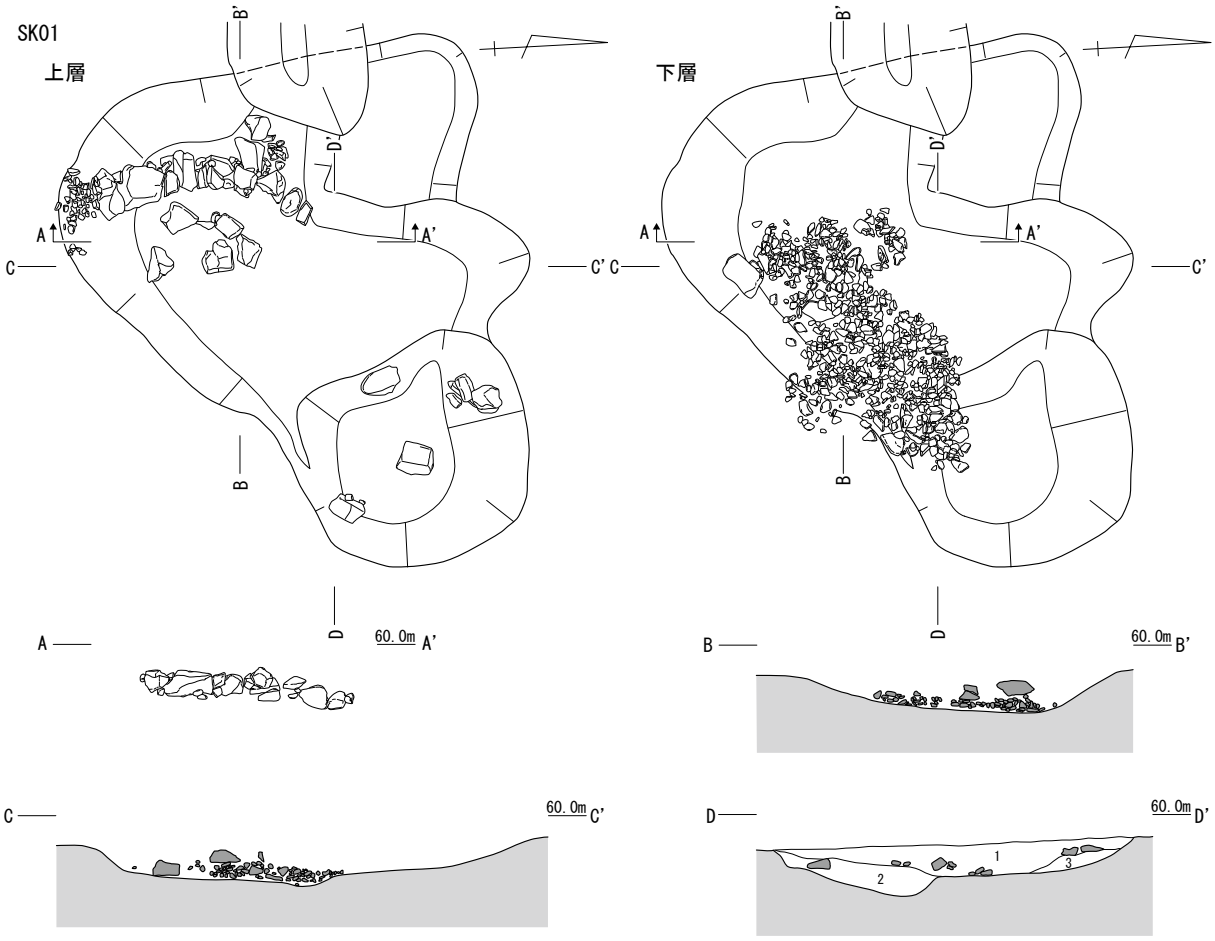
4西区　竪穴住居址　SH01・土坑　SK16



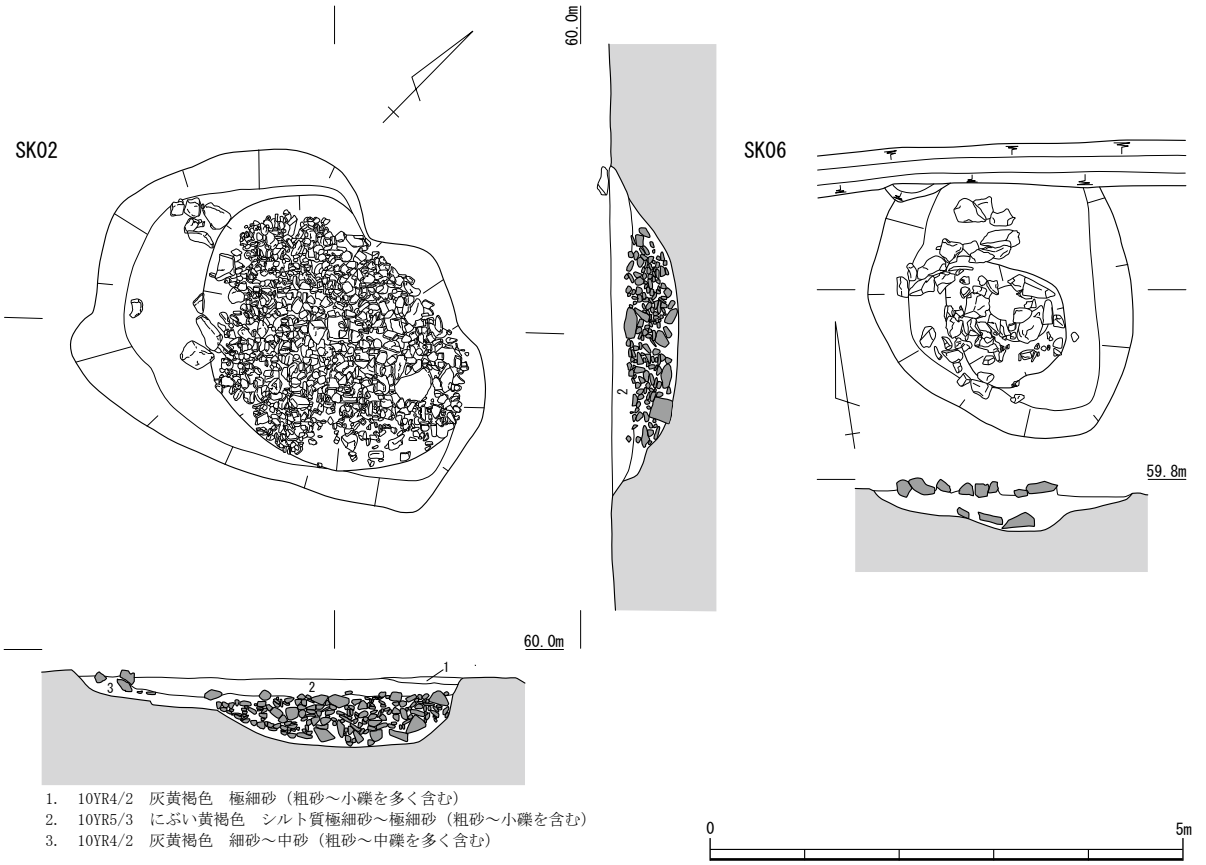




4西区　竪穴住居址　SH02・土坑②・溝①

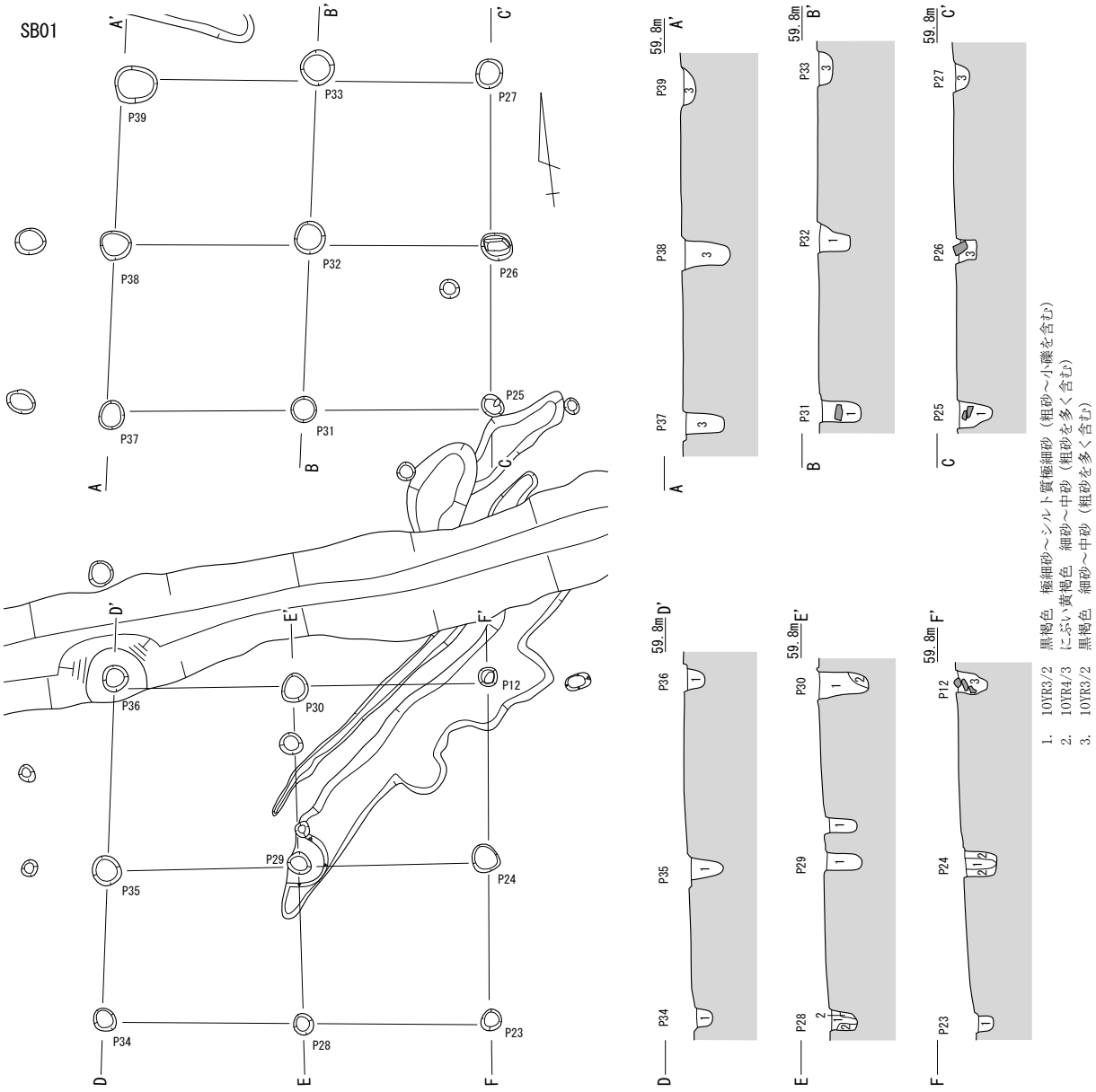


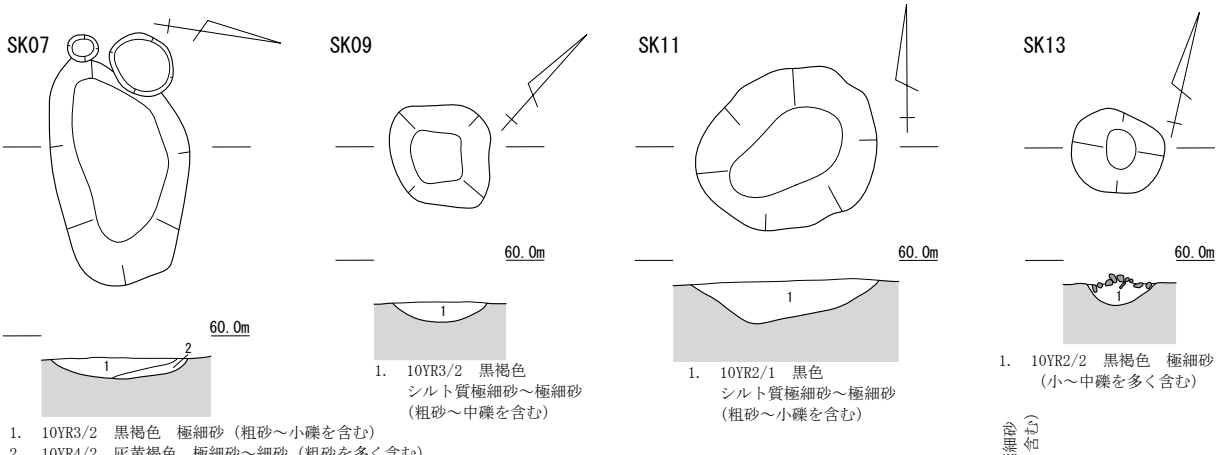
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～大礫を含む）
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む）
3. 10YR2/2 黒褐色 極細砂～細砂（粗砂～小礫を含む）

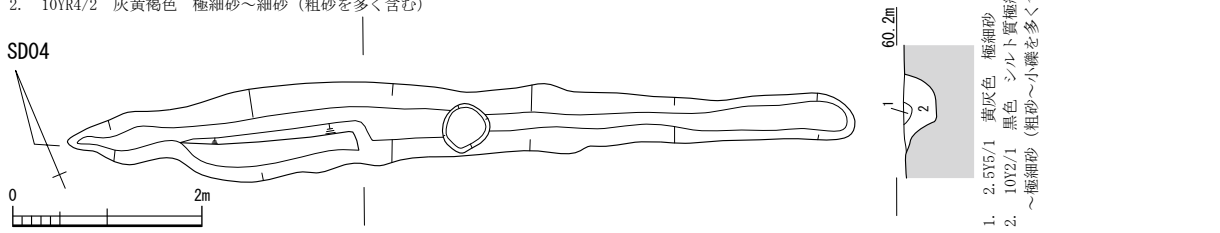


1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を多く含む）
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む）
3. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂（粗砂～中礫を多く含む）

4西区 土坑③





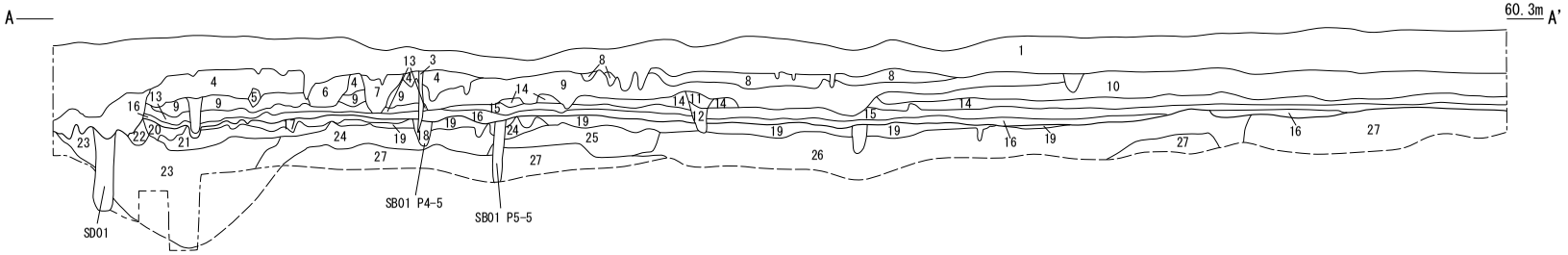


4西区　掘立柱建物址　SB01・土坑④・溝②

Y=59830
Y=59840
Y=59850
Y=59860
X=-111440
X=-111450
X=-111460
X=-111470
X=-111480
B'
D
SK02
D'
SK05
C
C'
SD03
SD01
スキ溝 6
スキ溝 5
A
SK01
θ
F
スキ溝 12
F'
SK03
E'
スキ溝 14
スキ溝 10
スキ溝 9
E
スキ溝 4
スキ溝 3
スキ溝 2
スキ溝 1
T28
スキ溝 11
SB01
T27
スキ溝 13
SD02
スキ溝 16
スキ溝 15
SB03
T24
T23
SB02
B
スキ溝 17
A'
大畦畔
0
10m

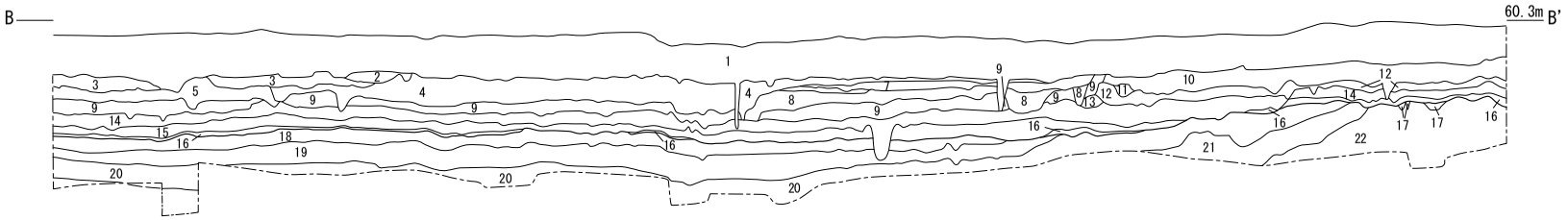
4 中央区　全体図

東壁

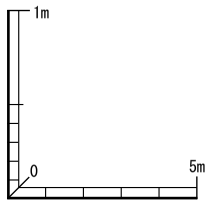


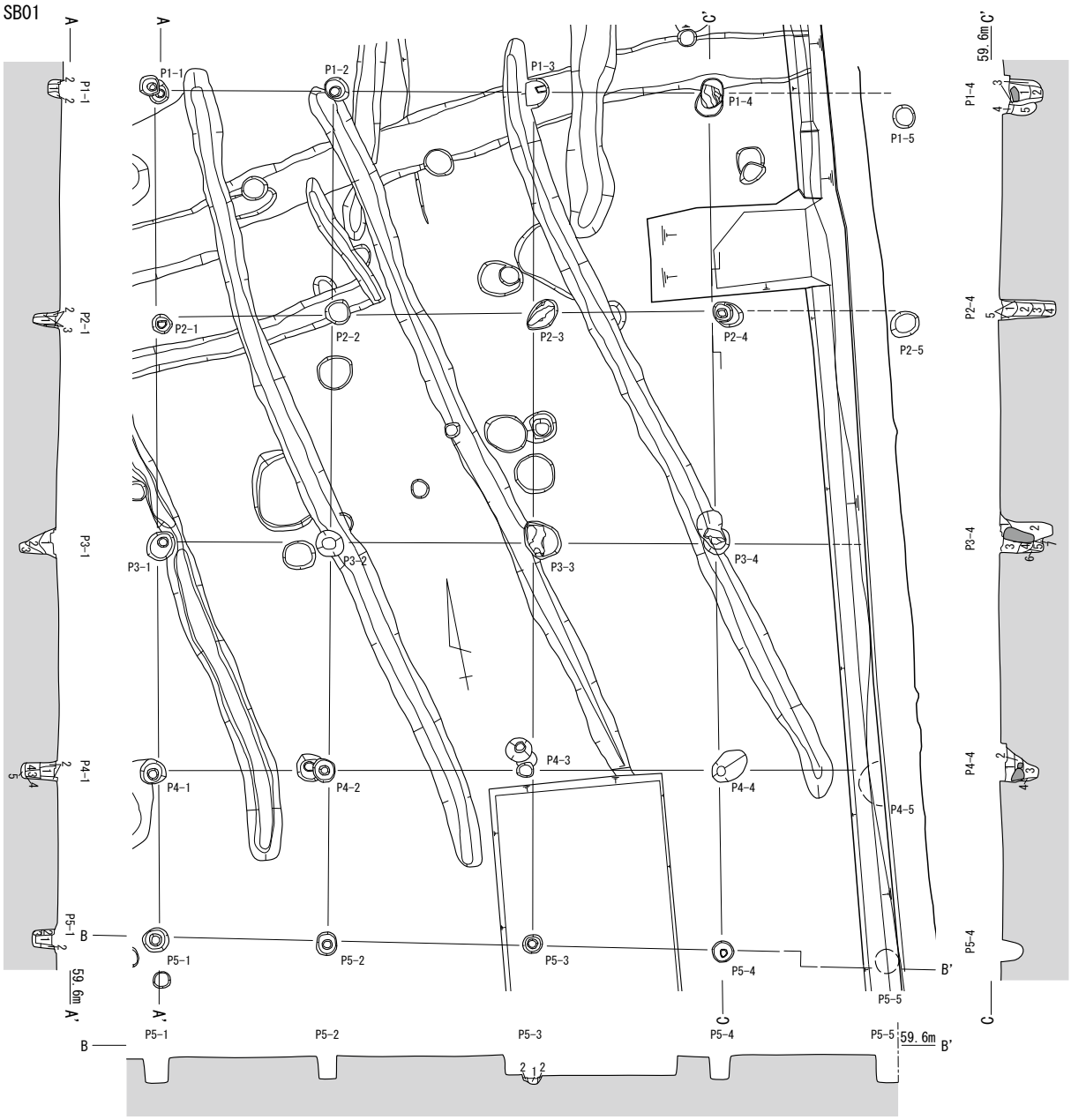
1. 耕土
2. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂～粗砂混じりシルト質極細砂　しまり弱　粘性弱
3. クラック
4. 2.5Y4/3　オリーブ褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂　しまり弱　粘性中
5. 2.5Y5/2　暗灰黄色　中砂混じりシルト～極細砂　しまり中　粘性やや弱
6. 2.5Y4/2　暗灰黄色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂　しまり弱　粘性弱
7. 2.5Y4/3　オリーブ褐色　中砂混じり極細砂～細砂　しまりなし　粘性弱
8. 2.5Y5/4　黄褐色　中砂混じり極細砂～細砂　しまり弱　粘性弱
9. 2.5Y4/4　オリーブ褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　しまり弱　粘性中
10. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト～極細砂　しまり弱　粘性弱
11. 2.5Y4/2　暗灰黄色　中砂混じり極細砂～細砂　しまり中　粘性中
12. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂　しまり中　粘性やや強
13. 10YR3/2　黒褐色　中砂混じりシルト～細砂　しまり中　粘性中
14. 10YR5/2　灰黄褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂　しまり中　粘性中
15. 10YR3/2　黒褐色　中砂混じりシルト～細砂　しまり中　粘性中
16. 10YR3/4　暗褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　しまりやや強　粘性やや強
17. 10YR3/2　黒褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂　しまりやや強　粘性中
18. 10YR3/3　暗褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂　しまりやや強　粘性強　SB01 柱穴（P4-5）
19. 10YR3/2　黒褐色　中砂混じりシルト質極細砂　しまりやや強　粘性中
20. 10YR3/3　暗褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂　しまり中　粘性中
21. 10YR2/2　黒褐色　中砂混じりシルト～極細砂　しまりやや強　粘性やや強
22. 10YR2/3　黒褐色　中砂混じりシルト～極細砂　しまりやや強　粘性中
23. 10YR2/1　黒色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　しまりやや強　粘性やや強
24. 10YR2/2　黒褐色　中砂混じりシルト～極細砂　しまりやや強　粘性やや強
25. 10YR2/2　黒褐色　中砂混じりシルト～極細砂　しまりやや強　粘性強
26. 10YR3/1　黒褐色　シルト～極細砂　しまりやや強　粘性やや強
27. 10YR3/3　暗褐色　中砂混じり粘質シルト～細砂　しまりやや強　粘性やや強

西壁



1. 耕土
2. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト質極細砂～細砂　しまり弱　粘性弱
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色　中砂混じりシルト～細砂　しまり弱　粘性中
4. 2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト質細砂～中砂　しまり弱　粘性弱
5. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂～細砂　しまり弱　粘性弱
6. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト～極細砂　しまり弱　粘性中
7. 2.5Y4/3　オリーブ褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　しまり弱　粘性中
8. 2.5Y5/3　黄褐色　中砂混じり粘質シルト～細砂　しまり弱　粘性中
9. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂混じり粘質シルト～細砂　しまり中　粘性中
10. 2.5Y4/4　オリーブ褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　しまり弱　粘性中
11. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　中砂混じり極細砂～細砂　しまり弱　粘性弱
12. 2.5Y4/1　黄灰色　中砂混じり粘質シルト～細砂　しまり中　粘性やや強
13. 10YR3/3　暗褐色　中砂混じり極細砂～細砂　しまり中　粘性やや弱
14. 10YR3/2　黒褐色　中砂混じりシルト～細砂　しまり中　粘性中
15. 10YR3/3　暗褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　しまり中　粘性中
16. 10YR3/4　暗褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　しまりやや強　粘性やや強
17. 7.5YR3/2　黒褐色　中砂混じりシルト～極細砂　しまり中　粘性中
18. 10YR2/3　黒褐色　中砂混じり粘土～極細砂　しまりやや強　粘性やや強
19. 10YR3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂　しまりやや強　粘性強
20. 10YR3/2　黒褐色　粘土～粘質シルト　しまり強　粘性やや強
21. 10YR2/3　黒褐色　粘土～粘質シルト　しまり強　粘性強
22. 10YR3/3　暗褐色　中砂混じりシルト質極細砂　しまり弱　粘性弱





P1-1 1. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土～粘質シルト
2. 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト～極細砂

P2-1 1. 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じりシルト質極細砂～細砂
2. 10YR3/3 暗褐色 中砂混じり極細砂～細砂
3. 10YR3/2 黒褐色 粘質シルト～極細砂

P3-1 1. 10YR3/2 黒褐色 中砂混じり極細砂～細砂
2. 10YR2/2 黒褐色 中砂混じり粘質シルト～細砂
3. 10YR3/3 暗褐色 細砂混じり粘質シルト
4. 10YR2/3 黒褐色 中砂混じり粘質シルト～細砂

P4-1 1. 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じりシルト質極細砂～細砂
2. 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト～細砂
3. 10YR3/3 暗褐色 粘質シルト～細砂
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘質シルト～細砂
5. 10YR4/4 褐色 粘質シルト～細砂

P5-1 1. 10YR3/3 暗褐色 中砂混じりシルト～極細砂
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂混じり粘質シルト～極細砂
3. 10YR3/4 暗褐色 シルト～細砂

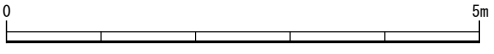
P5-3 1. 10YR3/2 黒褐色 中砂混じりシルト質極細砂～細砂
2. 10YR3/3 暗褐色 中砂混じりシルト質極細砂～細砂

P1-4 1. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土～粘質シルト
2. 10YR2/2 黒褐色 粘質シルト～細砂
3. 10YR3/2 黒褐色 粘質シルト～極細砂
4. 10YR3/3 暗褐色 シルト質極細砂～細砂
5. 10YR2/2 黒褐色 粘質シルト～極細砂

P2-4 1. 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じりシルト質極細砂～細砂
2. 10YR3/3 暗褐色 中砂混じり粘質シルト～細砂
3. 10YR3/2 黒褐色 中砂混じり粘質シルト～細砂
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 中砂混じりシルト～細砂
5. 10YR2/2 黒褐色 中砂混じりシルト質極細砂

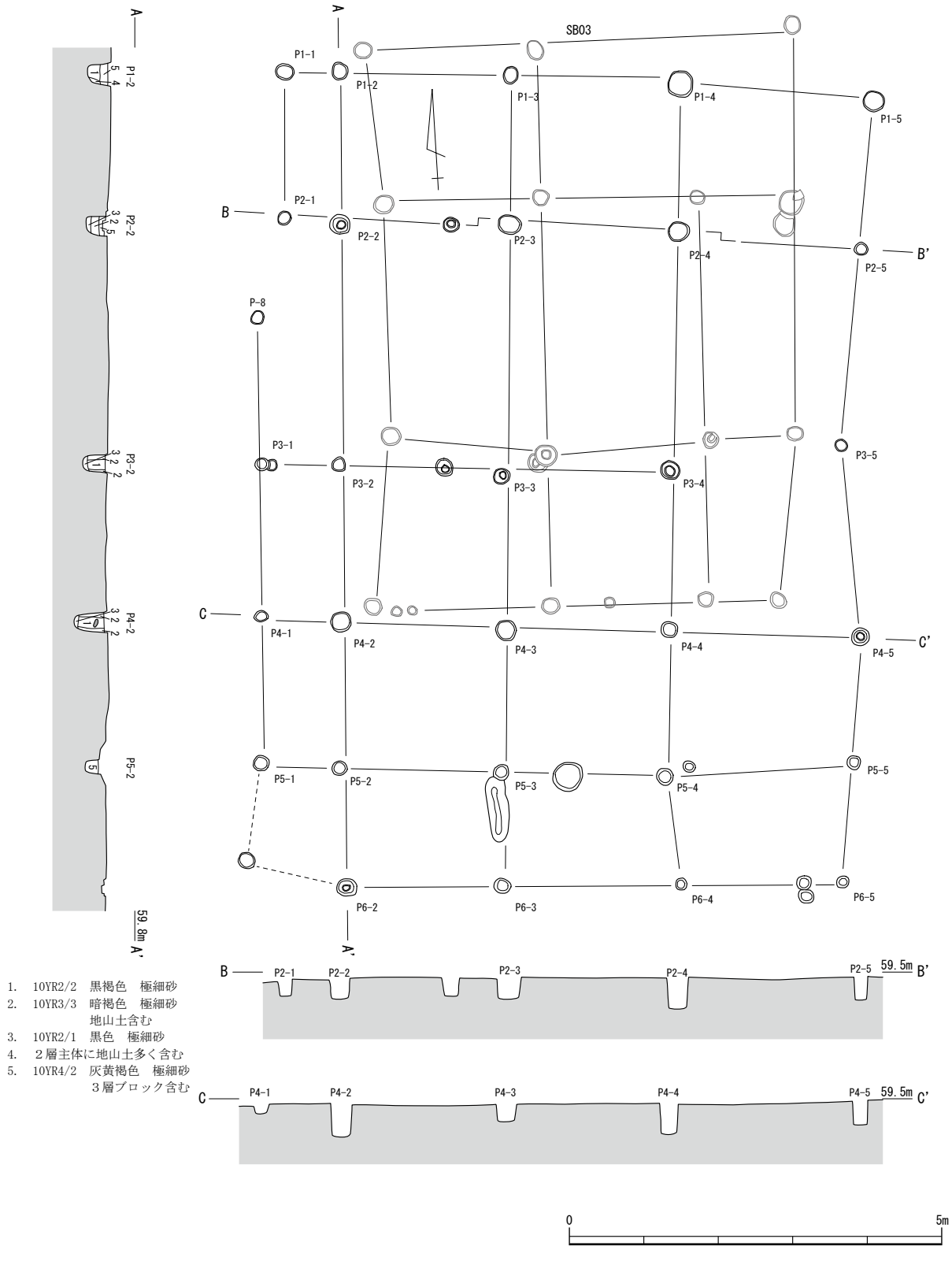
P3-4 1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～細砂
2. 10YR4/4 褐色 シルト質極細砂～細砂
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト～極細砂
4. 10YR3/4 暗褐色 粘質シルト～細砂
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘質シルト～極細砂
6. 10YR3/3 暗褐色 粘質シルト～細砂
7. 10YR2/2 黒褐色 中砂混じり粘質シルト

P4-4 1. 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じりシルト質極細砂～細砂
2. 10YR2/2 黒褐色 中砂混じり粘質シルト～極細砂
3. 10YR2/3 黒褐色 粘質シルト～極細砂
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘質シルト～極細砂



4中央区　掘立柱建物址　SB01

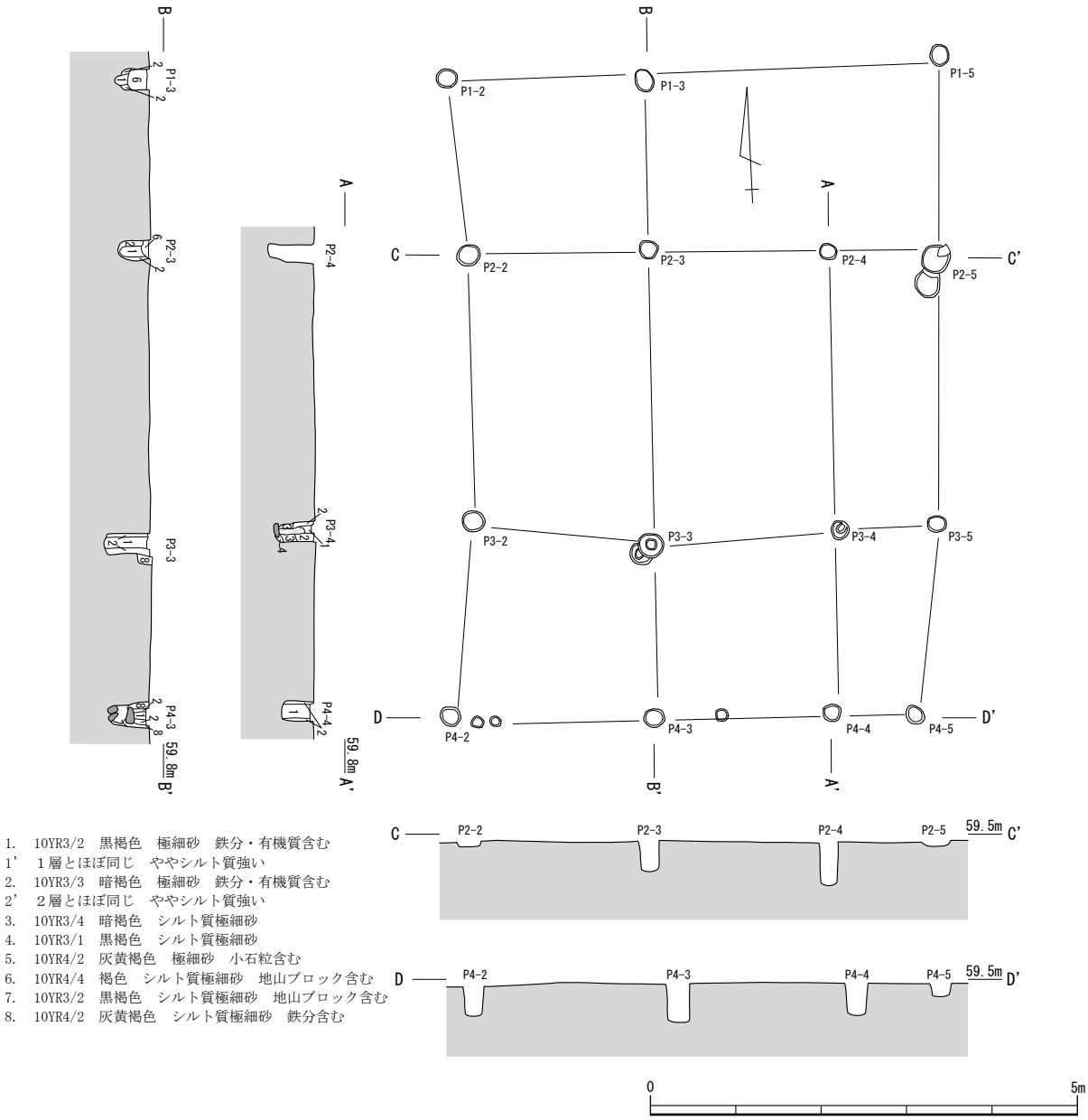
SB02



1. 10YR2/2　黒褐色　極細砂
2. 10YR3/3　暗褐色　極細砂
   地山土含む
3. 10YR2/1　黒色　極細砂
4. ２層主体に地山土多く含む
5. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂
   ３層ブロック含む

４中央区　掘立柱建物址　SB02

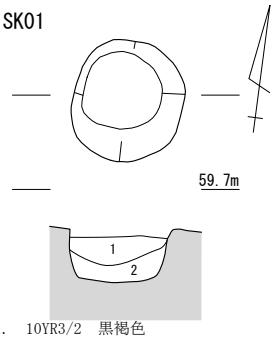
SB03



1. 10YR3/2　黒褐色　極細砂　鉄分・有機質含む
1' 1層とほぼ同じ　ややシルト質強い
2. 10YR3/3　暗褐色　極細砂　鉄分・有機質含む
2' 2層とほぼ同じ　ややシルト質強い
3. 10YR3/4　暗褐色　シルト質極細砂
4. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂
5. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂　小石粒含む
6. 10YR4/4　褐色　シルト質極細砂　地山ブロック含む
7. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂　地山ブロック含む
8. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　鉄分含む

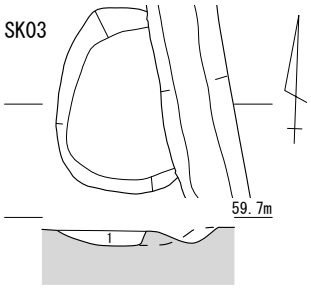
4中央区　掘立柱建物址　SB03

SK01



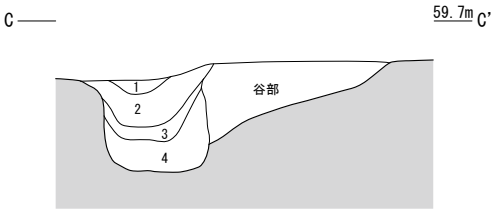
1. 10YR3/2　黒褐色
　中砂混じり粘質シルト～極細砂
　しまり中　粘性やや強
2. 10YR3/3　暗褐色　粘質シルト～細砂
　しまり中　粘性強

SK03



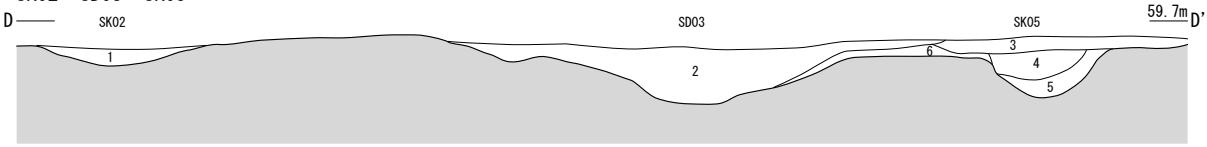
1. 10YR2/3　黒褐色
　シルト質極細砂～細砂
　しまり中　粘性強

SD01

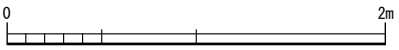


1. 10YR3/2　黒褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂
　しまり中　粘性中
2. 10YR3/1　黒褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂
　しまり中　粘性中　ベースをブロック状に含む
3. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト～細砂　しまり中　粘性やや強
　ベースをブロック状に含む
4. 10YR2/2　黒褐色　粘質シルト～細砂　しまり中　粘性強
　ベースをブロック状に含む

SK02・SD03・SK05

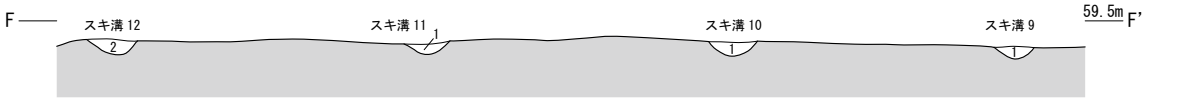


1. 10YR3/3　暗褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂　しまりやや弱　粘性弱
2. 10YR2/1　黒褐色　中砂混じりシルト質細砂　しまり中　粘性やや強
3. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト混じり中砂～粗砂　しまり弱　粘性わずか
4. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト混じり中砂～粗砂　しまり弱　粘性わずか
5. 2.5Y5/3　黄褐色　中砂～粗砂　しまりなし　粘性ほとんどなし
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色　中砂混じりシルト質細砂　しまり弱　粘性弱

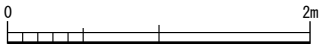


スキ溝

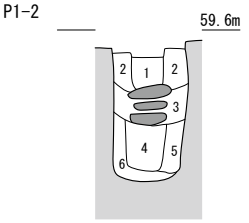
1. 10YR4/2　灰黄褐色　中砂混じりシルト質極細砂　しまり中　粘性やや弱



1. 10YR3/2　黒褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂　しまり中　粘性中
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂　しまり中　粘性弱

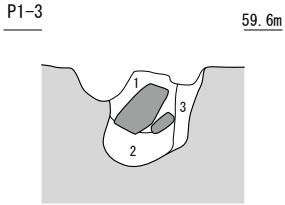


P1-2



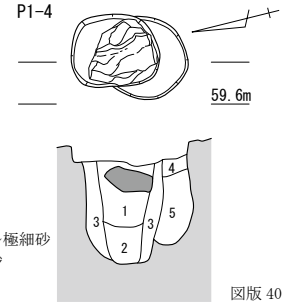
1. 10YR3/3　暗褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂
2. 10YR3/2　黒褐色　中砂混じりシルト質極細砂～細砂
3. 10YR2/2　黒褐色　中砂混じりシルト～極細砂
4. 10YR2/3　黒褐色　細砂混じり粘質シルト
5. 10YR4/4　褐色　粘質シルト～極細砂
6. 10YR3/4　暗褐色　シルト～細砂

P1-3



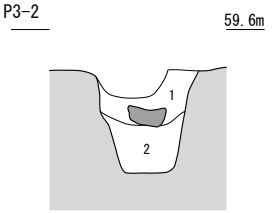
1. 10YR4/2　灰黄褐色　粘質シルト～極細砂
2. 10YR3/2　黒褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂
3. 10YR3/3　暗褐色　中砂混じり極細砂～細砂

P1-4



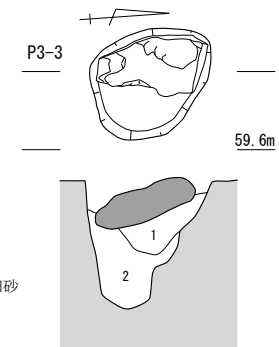
図版 40 の SB01 の土層名参照

P3-2



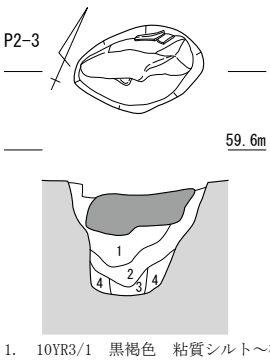
1. 10YR4/2　灰黄褐色
　中砂混じり粘質シルト～細砂
2. 10YR2/1　黒色　粘質シルト～細砂

P3-3



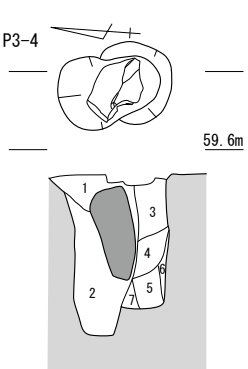
1. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂～細砂
2. 10YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂～細砂

P2-3



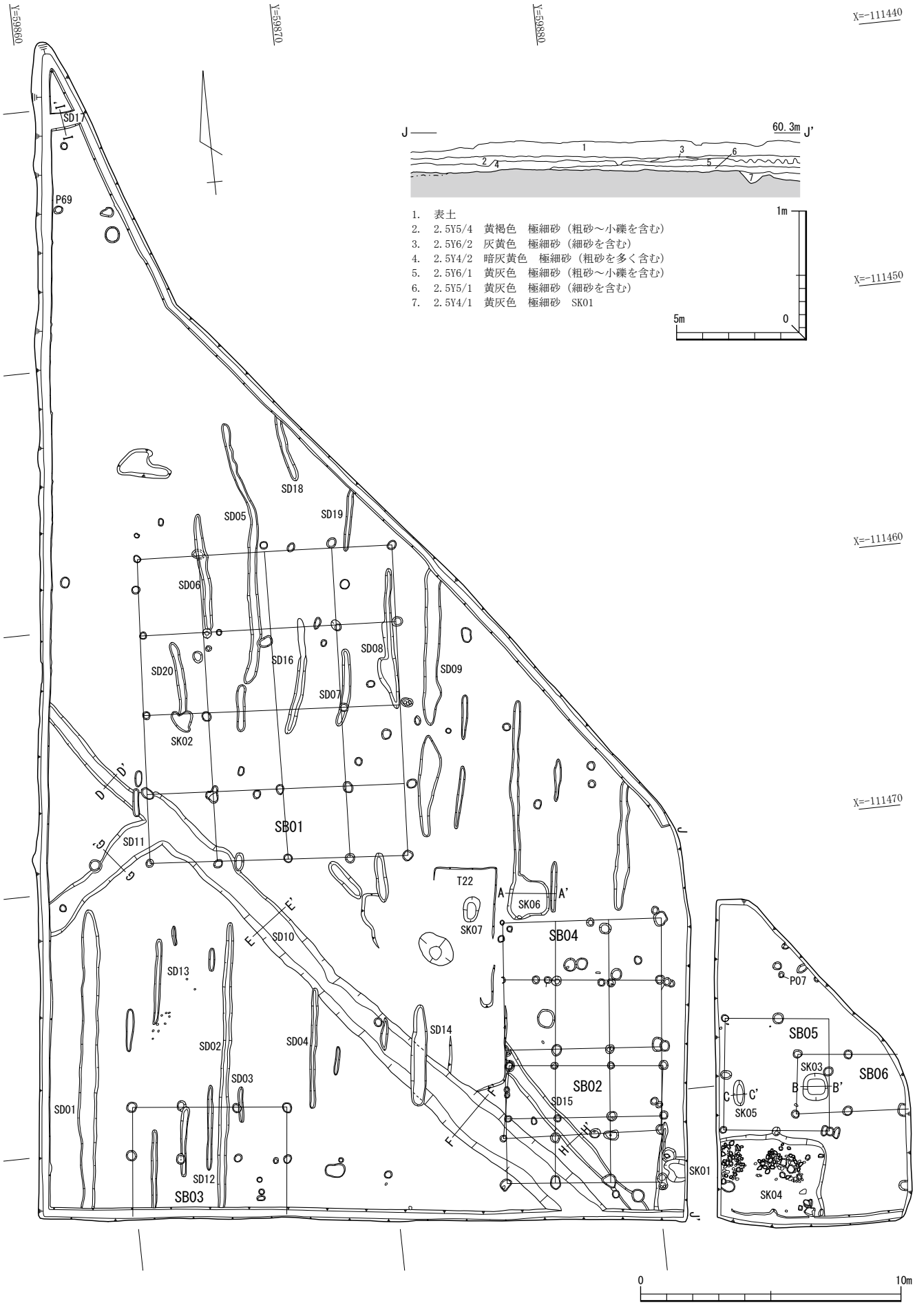
1. 10YR3/1　黒褐色　粘質シルト～極細砂
2. 10YR3/3　暗褐色
　中砂混じりシルト質極細砂～細砂
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色
　中砂混じり粘質シルト～細砂
4. 10YR2/3　黒褐色　中砂混じり粘質シルト～極細砂

P3-4

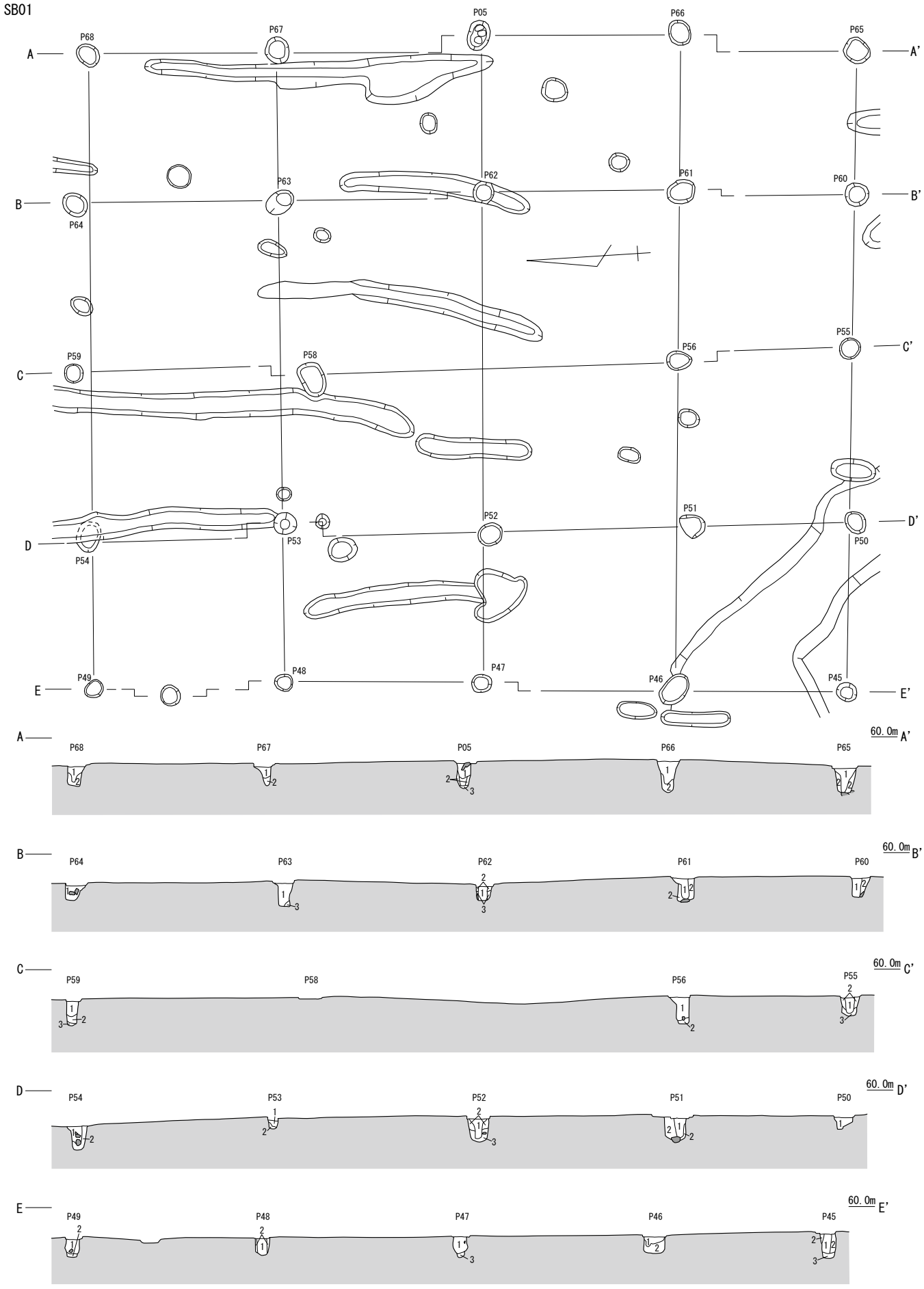


図版 40 の SB01 の土層名参照

4中央区　土坑・溝・掘立柱建物址柱穴

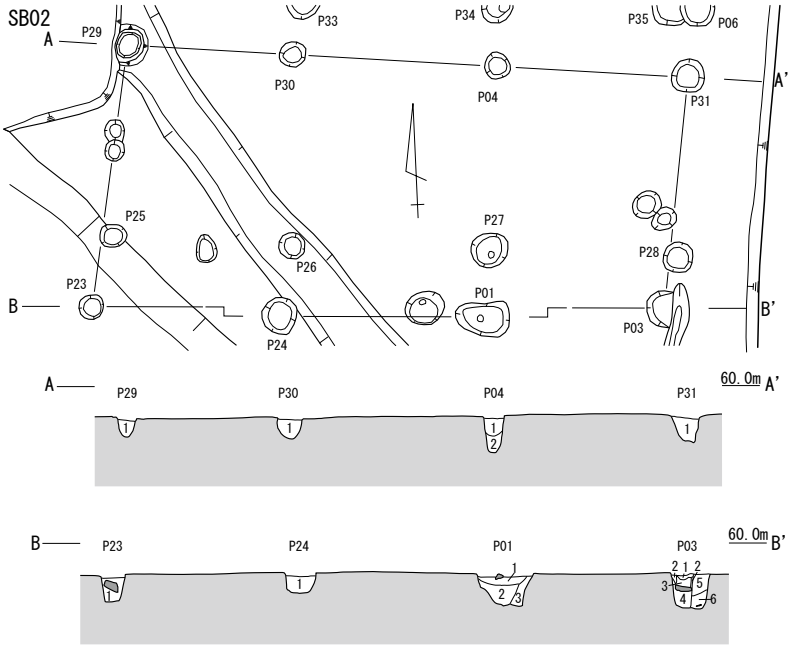


4東区　全体図・東壁土層断面図



1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂

4東区 掘立柱建物址 SB01



P29
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）

P30
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を少量含む）

P04
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂、黒色土ブロックを含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂

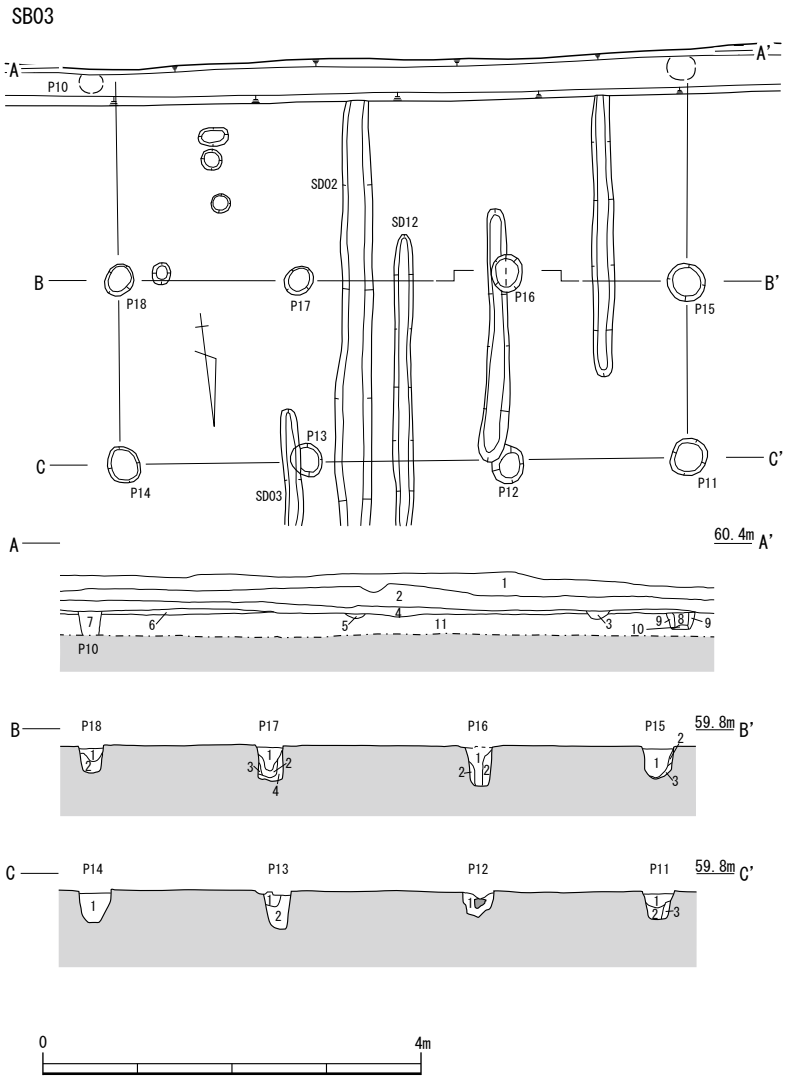
P31
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂、小礫を少量含む）

P23
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂を含む）

P24
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂、小礫を含む）

P01
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（炭・粗砂を含む）
2. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～シルト質極細砂（炭・粗砂を含む）
3. 10YR2/1 黒色 シルト質極細砂

P03
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
3. 5Y7/3 浅黄色 シルト 白色粘土
4. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂
5. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂を含む）
6. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）



4東区南壁（A-A'）
1. 表土
2. 2.5Y5/4 黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）
3. 2.5Y5/1 黄灰色 極細砂（粗砂を含む） スキ溝
4. 2.5Y5/1 黄灰色 極細砂（粗砂を含む）
5. 2.5Y5/1 黄灰色 極細砂（粗砂を多く含む） スキ溝 SD02
6. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～シルト質極細砂（粗砂を少量含む）
7. 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂～シルト質極細砂（炭化物を含む）
粗砂、小礫を多く含む P10
8. 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂～シルト質極細砂（粗砂を含む）
9. 2.5Y5/1 黄灰色 極細砂～シルト質極細砂（粗砂を含む）
10. 2.5Y3/1 黒褐色 極細砂～シルト質極細砂
11. 10YR3/1 黒褐色～ 10YR2/1 黒色 シルト質極細砂～極細砂
（所により小・中礫を含む）

P18
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂

P17
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂～小礫を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂
4. 10YR3/3 暗褐色 シルト質極細砂～極細砂

P16
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂

P15
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂

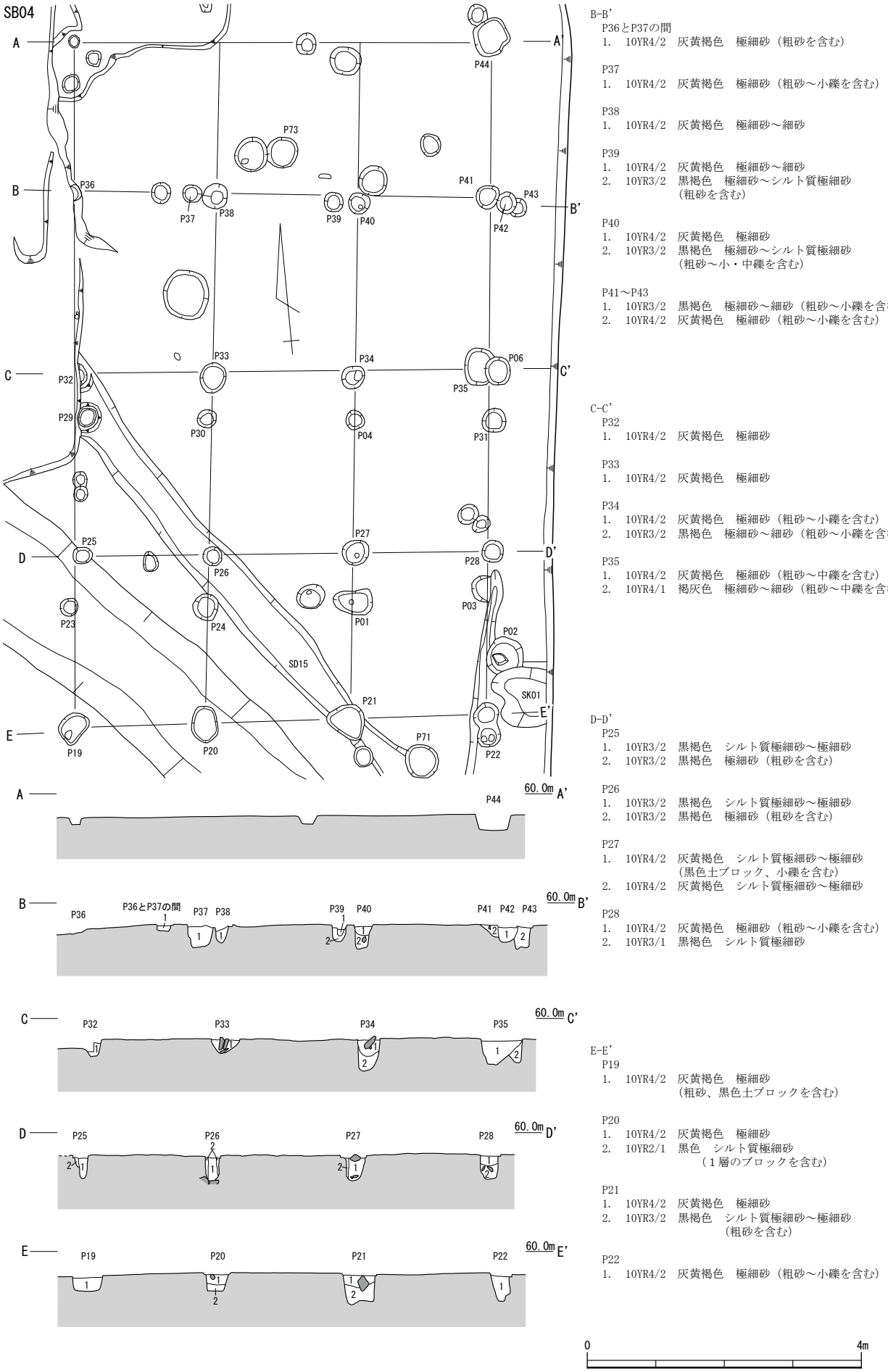
P14
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を少量含む）

P13
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
（黒色土ブロックを多く含む）

P12
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂～小礫を含む）

P11
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂
3. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

4東区 掘立柱建物址 SB02・03



B-B'
P36とP37の間
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂を含む）

P37
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）

P38
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂

P39
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂
2. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～シルト質極細砂
(粗砂を含む)

P40
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂
2. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～シルト質極細砂
(粗砂～小・中礫を含む)

P41～P43
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂（粗砂～小礫を含む）
2. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）

C-C'
P32
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂

P33
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂

P34
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂（粗砂～小礫を含む）

P35
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～中礫を含む）
2. 10YR4/1 褐灰色 極細砂～細砂（粗砂～中礫を含む）

D-D'
P25
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
2. 10YR3/2 黒褐色 極細砂（粗砂を含む）

P26
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
2. 10YR3/2 黒褐色 極細砂（粗砂を含む）

P27
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
(黒色土ブロック、小礫を含む)
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂

P28
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂

E-E'
P19
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂
(粗砂、黒色土ブロックを含む)

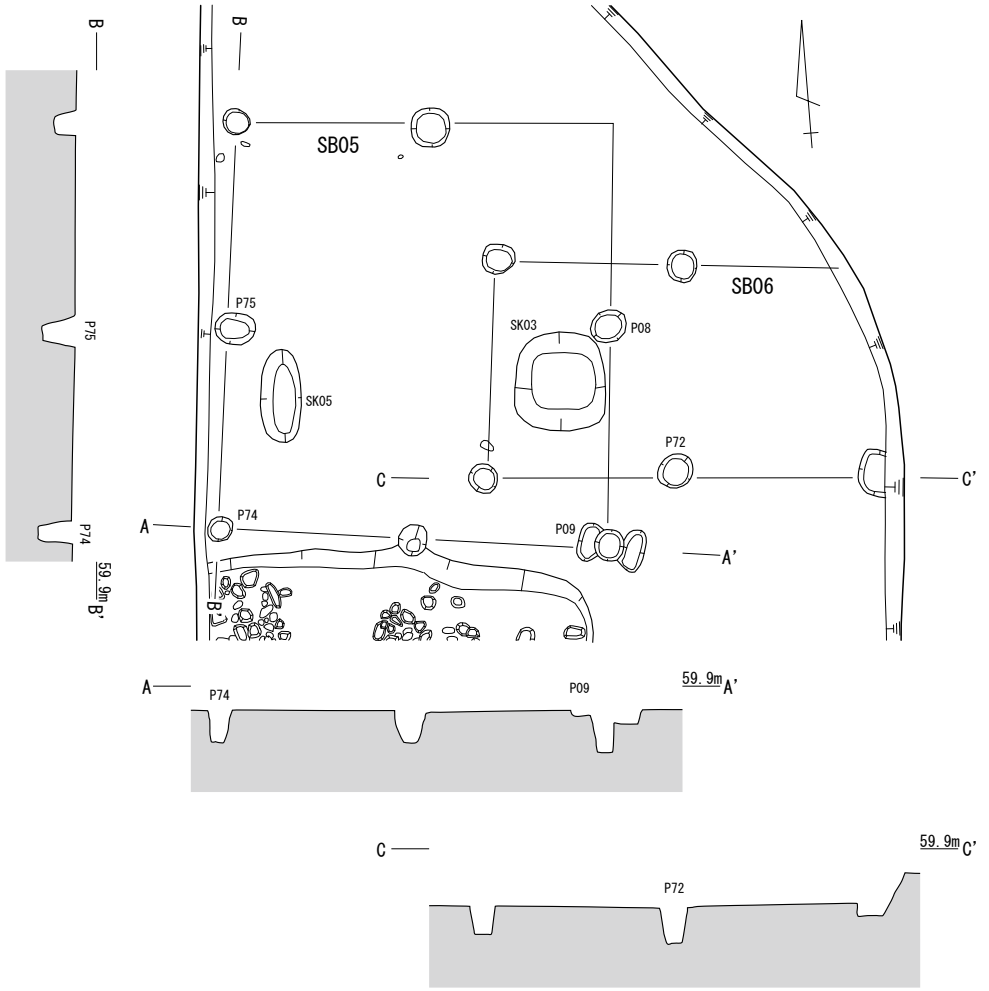
P20
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂
2. 10YR2/1 黒色 シルト質極細砂
（1層のブロックを含む）

P21
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
(粗砂を含む)

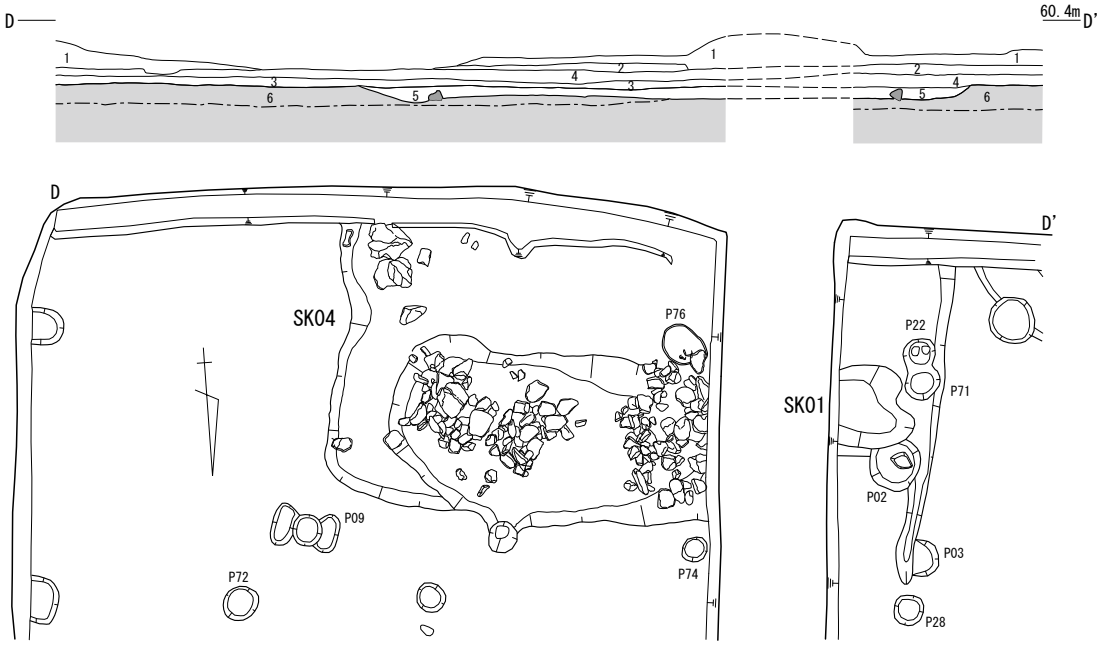
P22
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）

4東区 掘立柱建物址 SB04

SB05・06



SK01・04



1. 表土
2. 2.5Y5/4 黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）
3. 2.5Y5/1 黄灰色 極細砂（粗砂を含む）
4. 2.5Y6/1 黄灰色 極細砂（粗砂～小礫を含む）
5. 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂 SK01
6. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（粗砂・小礫を含む）

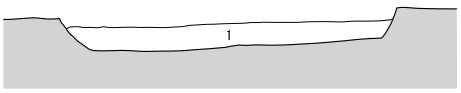
0 4m

4東区 掘立柱建物址 SB05・06、土坑 SK01・04

SK06

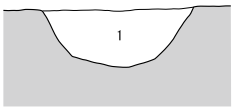
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト質極細砂～極細砂（細砂を含む）

SK03

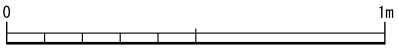


1. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細砂（粗砂を含む）

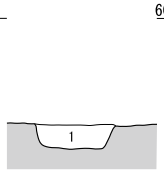
SK05



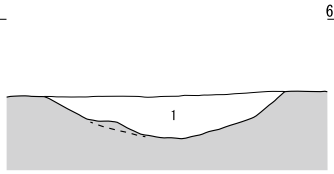
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細砂～シルト質極細砂



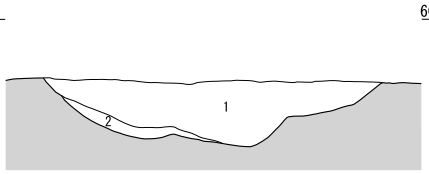
SD10



1. 10YR2/2 黒褐色
シルト質極細砂～極細砂
（粗砂を少量含む）



1. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂～小礫を含む）

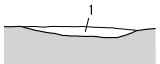


1. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む）
2. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

SD11

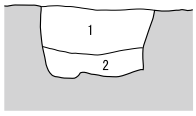
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂～小礫を少量含む）

SD15

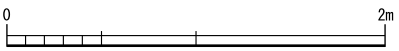


1. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂を少量含む）

SD17



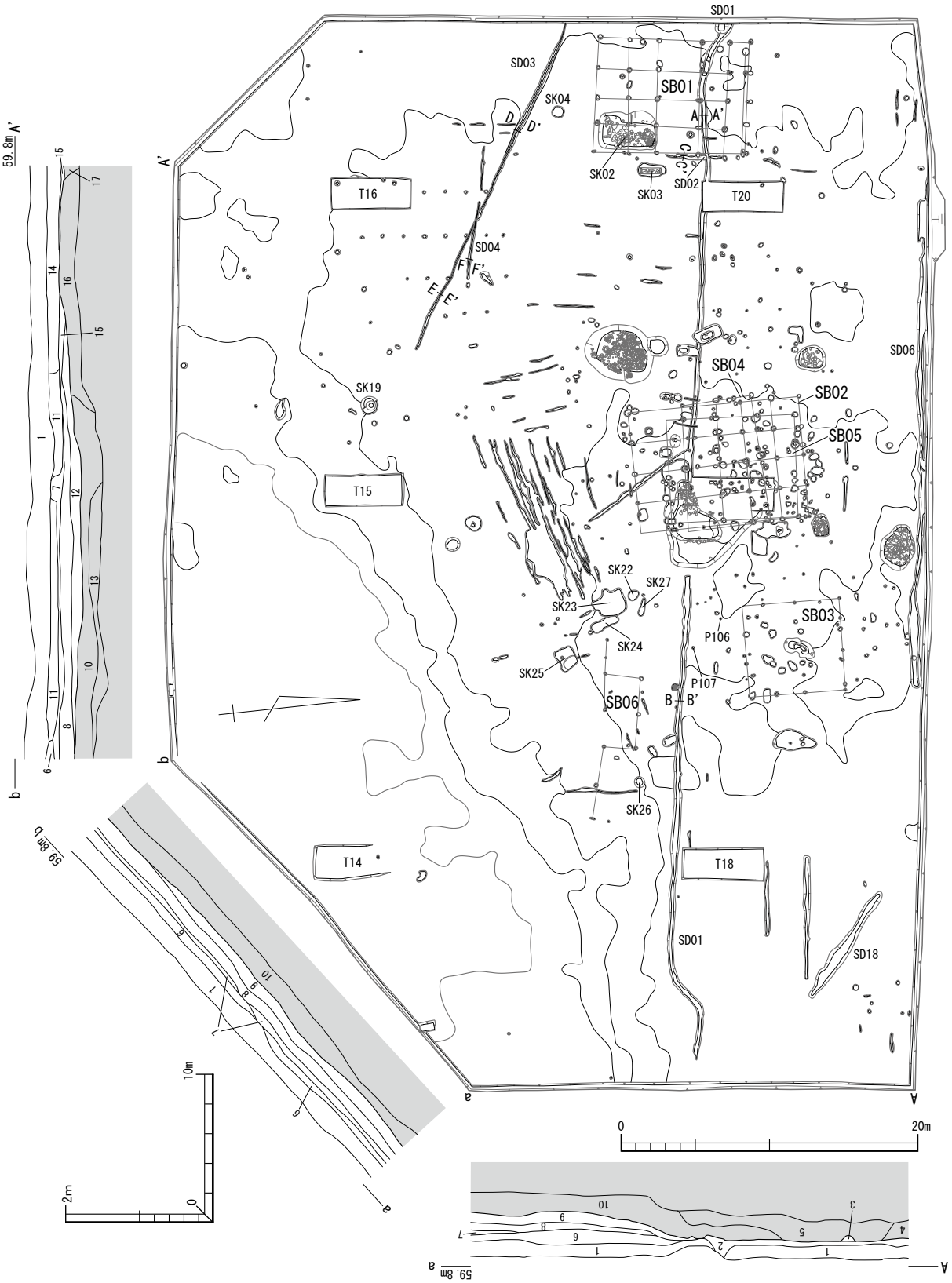
1. 10YR2/1 黒色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む）
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を少量含む）



5西区 全体図 東壁・畔・溝土層断面

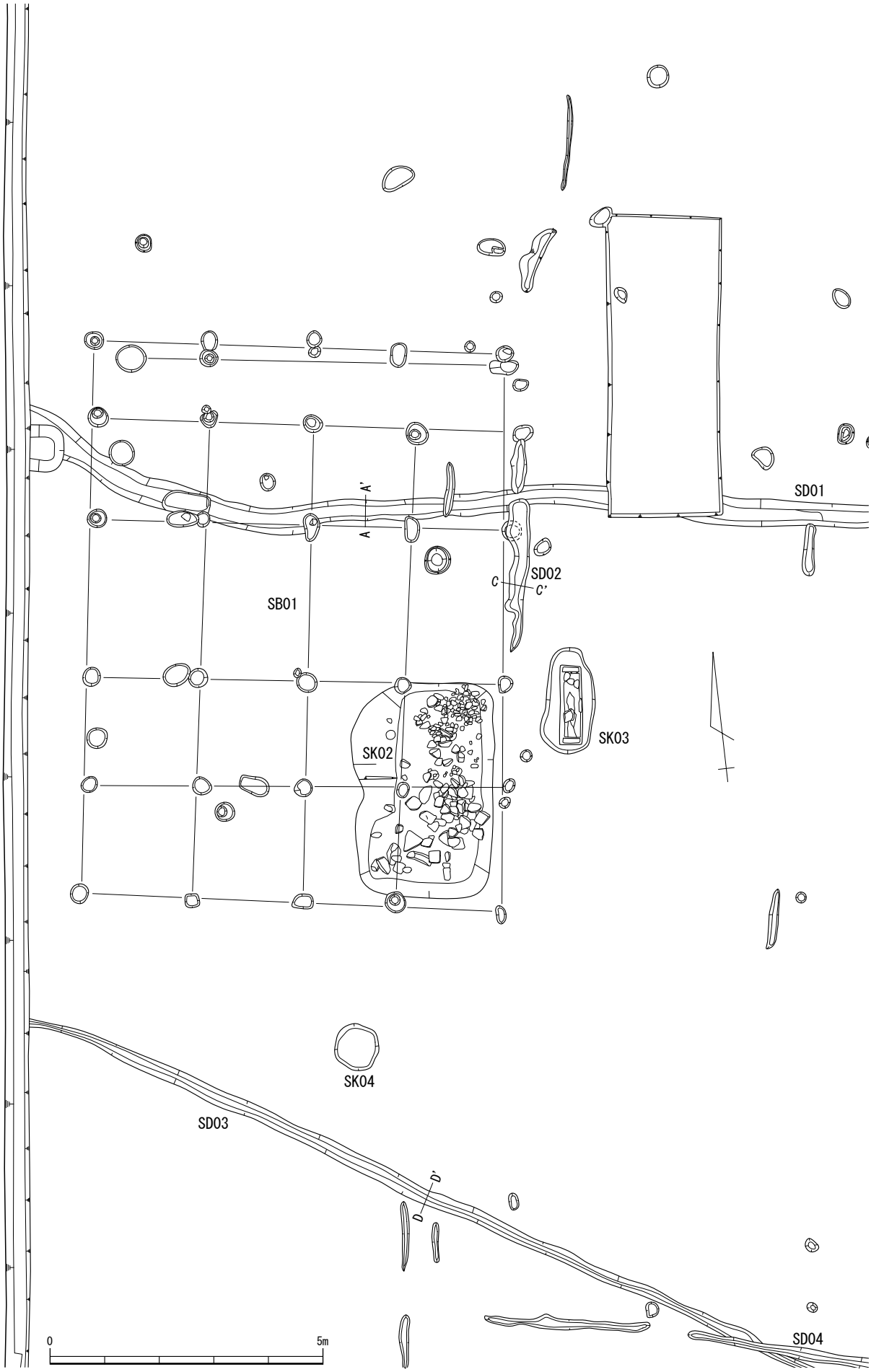
X=-111540
X=-111530
X=-111520
X=-111510
X=-111500
X=-111490
Y=59830
Y=59840
Y=59850
Y=59860
Y=59870
Y=59880
Y=59890
Y=59900
SK01
SB01
SD03
SK04
SK02
SK03
SD02
SD01
T16
T20
SD04
SK10
SK11
SK19
SK06
SK16 SK17
SB04
SB02
SK13
SK21
SB05
T15
SX01
SK15
SK14
SK22
SK23
SK27
SK24
SB03
SK25
SK28
SB06
SD06
SK22
SK26
T14
T18
SD01
SD18
0
20m

5 東区　全体図



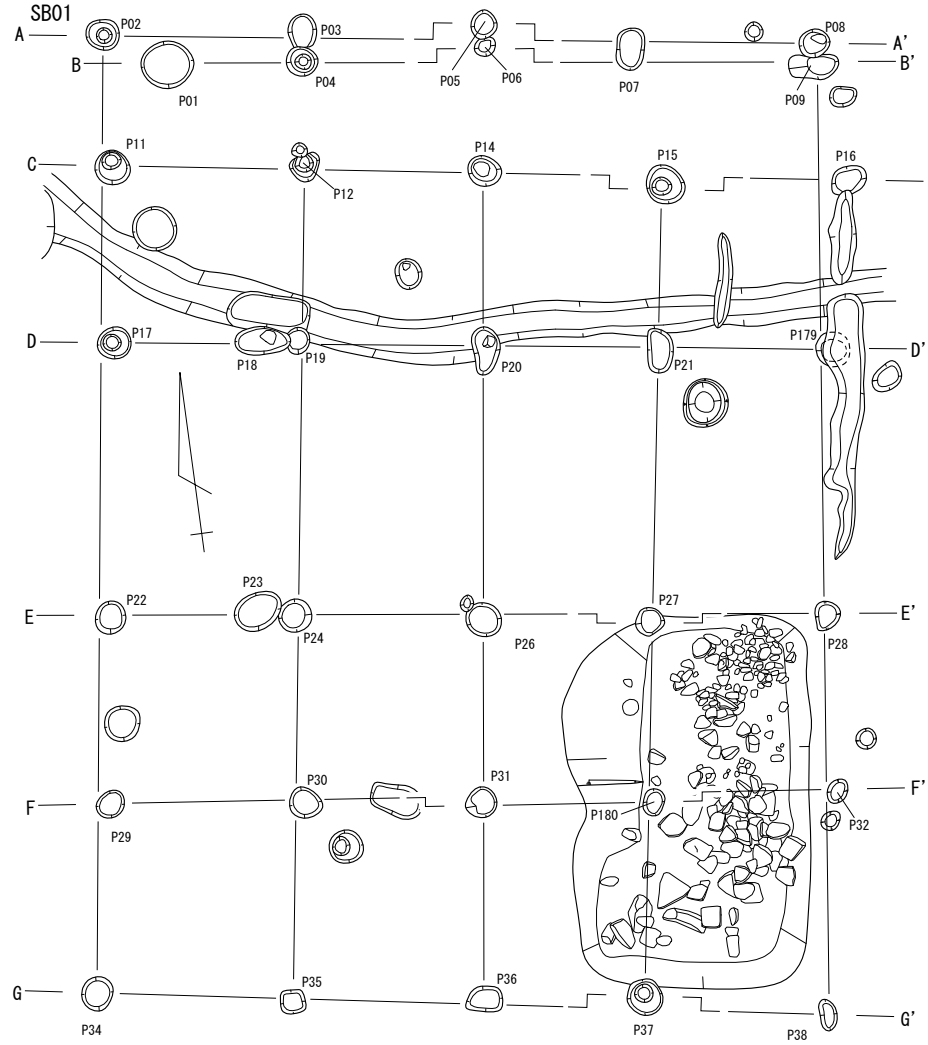
1. 表土
2. 床土
3. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む） 中世以後 スキ溝？
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む） 地山
5. 砂礫 地山
6. 2.5YR5/3 黄褐色 細砂（粗砂を少量含む）
7. 2.5YR5/3 黄褐色 細砂（粗砂を含む） 中世～中世後期？
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂（粗砂～小礫を多く含む） 中世～中世後期？
9. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～小礫を含む） 中世
10. 10YR2/1 黒色 シルト質極細砂 10層上面が弥生か
11. 2.5Y5/2 暗灰黄色 極細砂（粗砂を少量含む） 旧耕土
12. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
13. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂 地山
14. 2.5Y5/4 黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を少量含む） 床土、盛土
15. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細砂（粗砂を含む）
16. 10YR5/2 灰黄褐色 細砂～中砂 地山
17. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂 地山 10層に対応

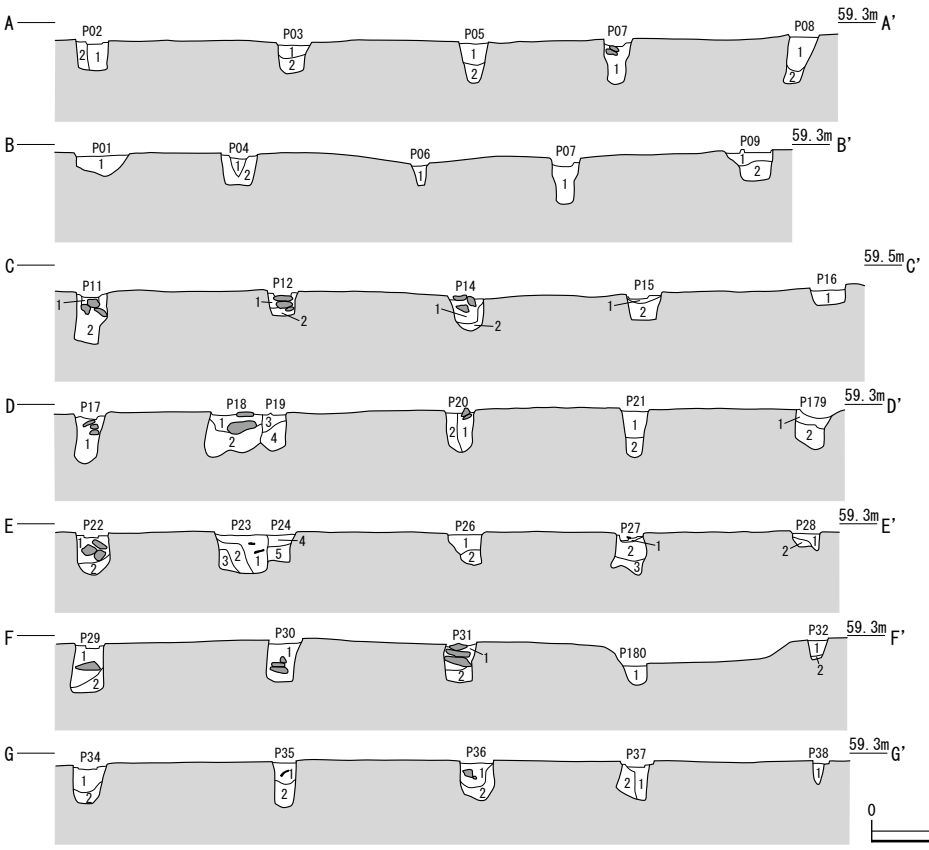
5東区 全体図・東壁～南壁土層断面



5 東区　SB01 周辺図

5 東区　SB02・04・05 周辺図





P02
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

P03
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

P05
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂

P07
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

P08
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（黄色砂を含む）

P01
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）

P04
1. 10YR3/3 暗褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂（粗砂を含む）

P06
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

P09
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/3 暗褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

P11
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

P12
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂

P14
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂（粗砂を含む）

P15
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂（粗砂を含む）

P16
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂、小礫を含む）

P17
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）

P18・P19
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂を含む）：P18
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂～中砂
（黒色土ブロックを含む）：P18
3. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）：P19
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂：P19

P20
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂を含む、黄橙色土粒を含む）

P21
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

P179
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/3 暗褐色 細砂（粗砂を含む）

P22
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂（黒色土ブロックを含む）

P23・P24
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂
4. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂

P26
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂（粗砂を含む）

P27
1. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂（黄橙色土を含む）
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂～中砂（黒色土ブロックを含む）

P28
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂

P29
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）

P30
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）

P31
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂（粗砂を含む）

P180
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（黄色砂を含む）

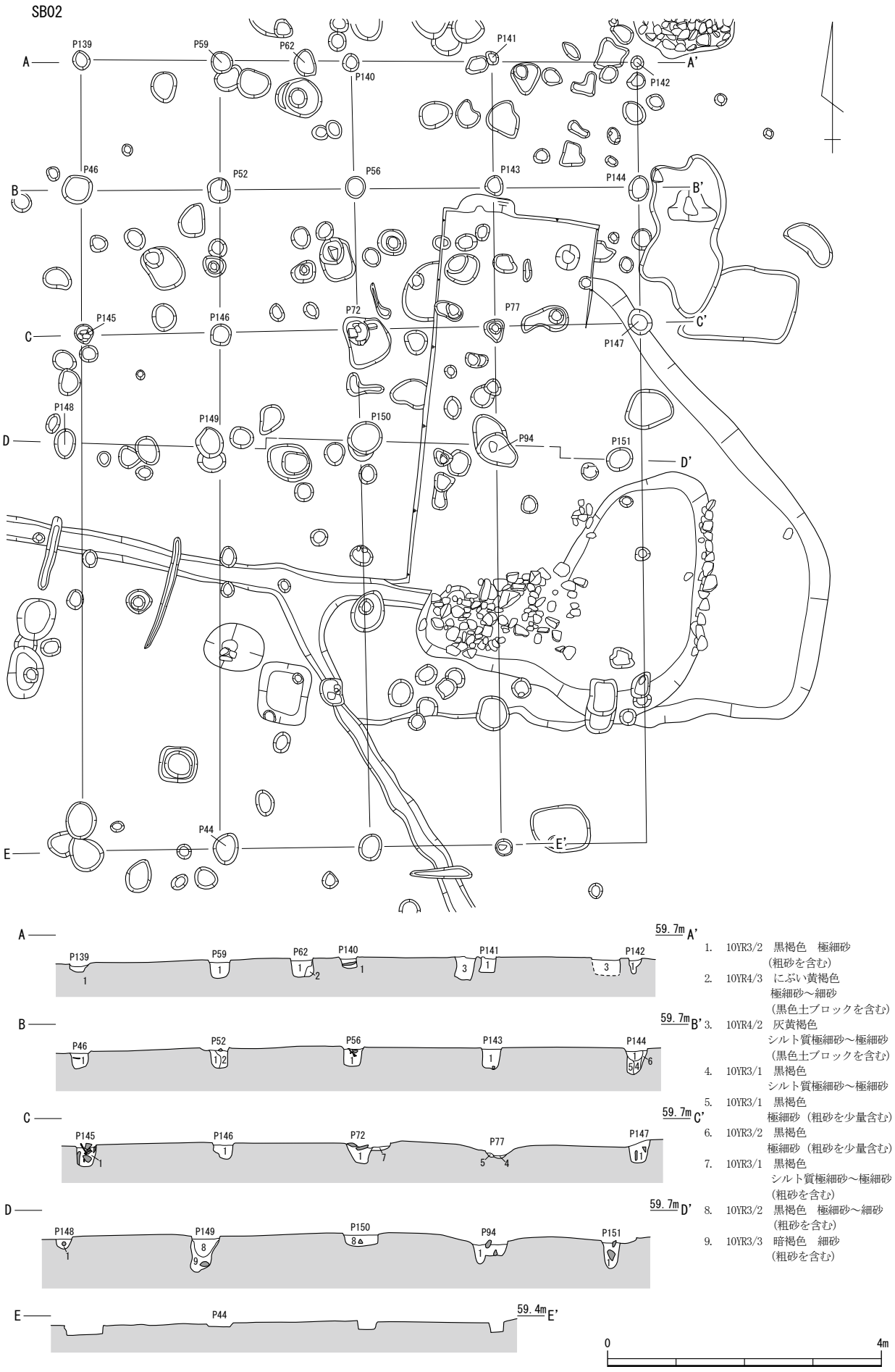
P32
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂

P34・35・36
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（黄色砂を含む）

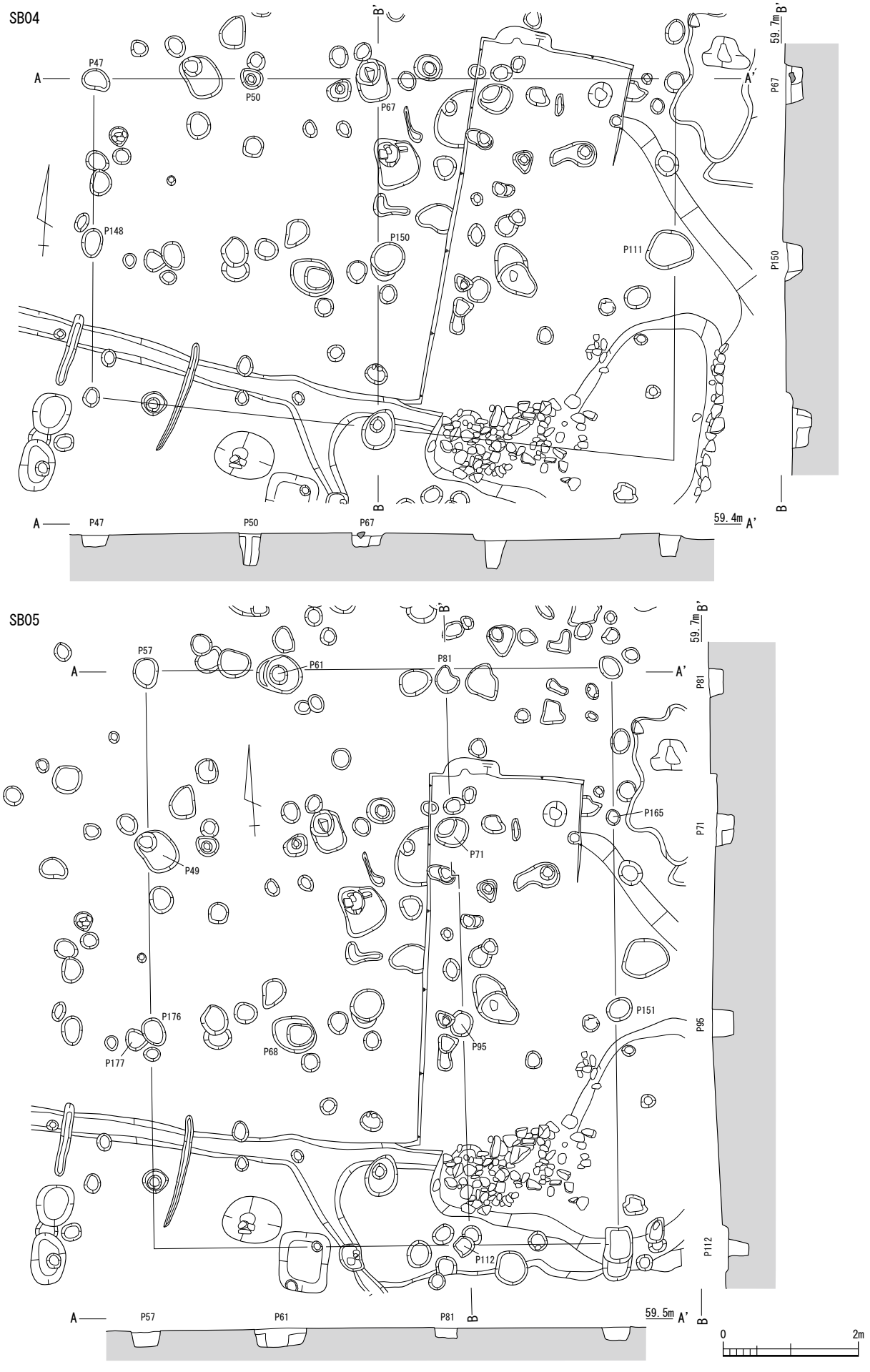
P37
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂（粗砂を含む）

P38
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（黄色砂を含む）

5東区　掘立柱建物址　SB01

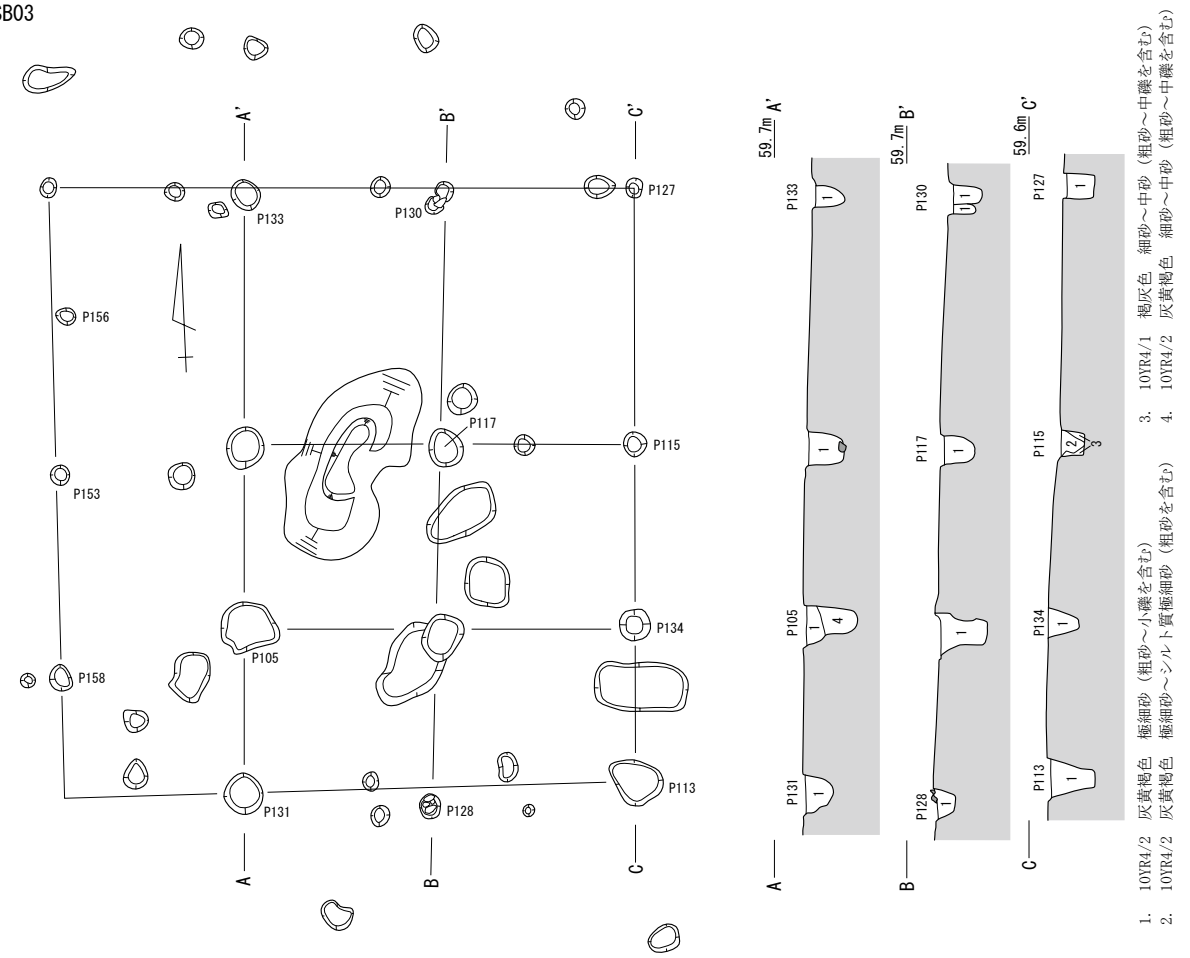


5東区　掘立柱建物址　SB02

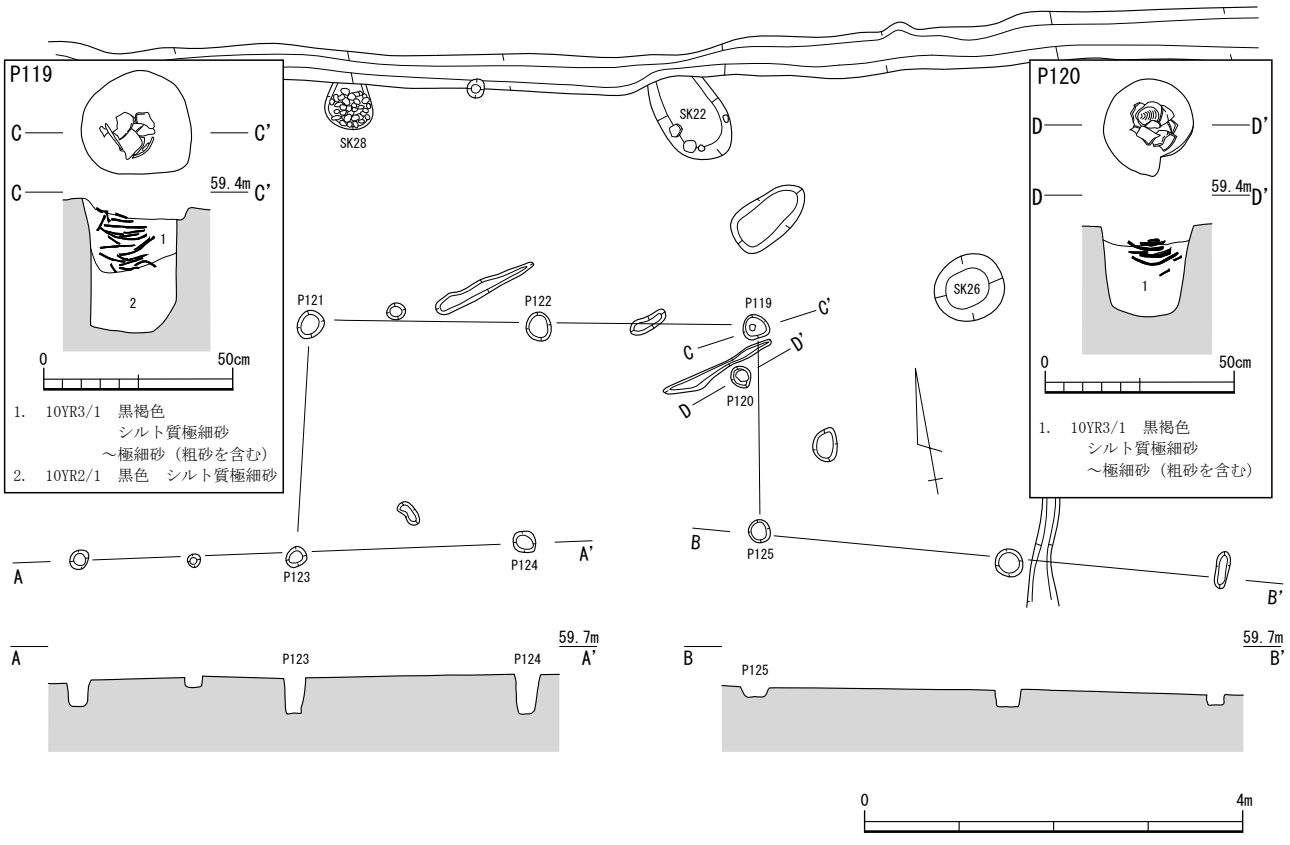


5 東区　掘立柱建物址　SB04・05

SB03

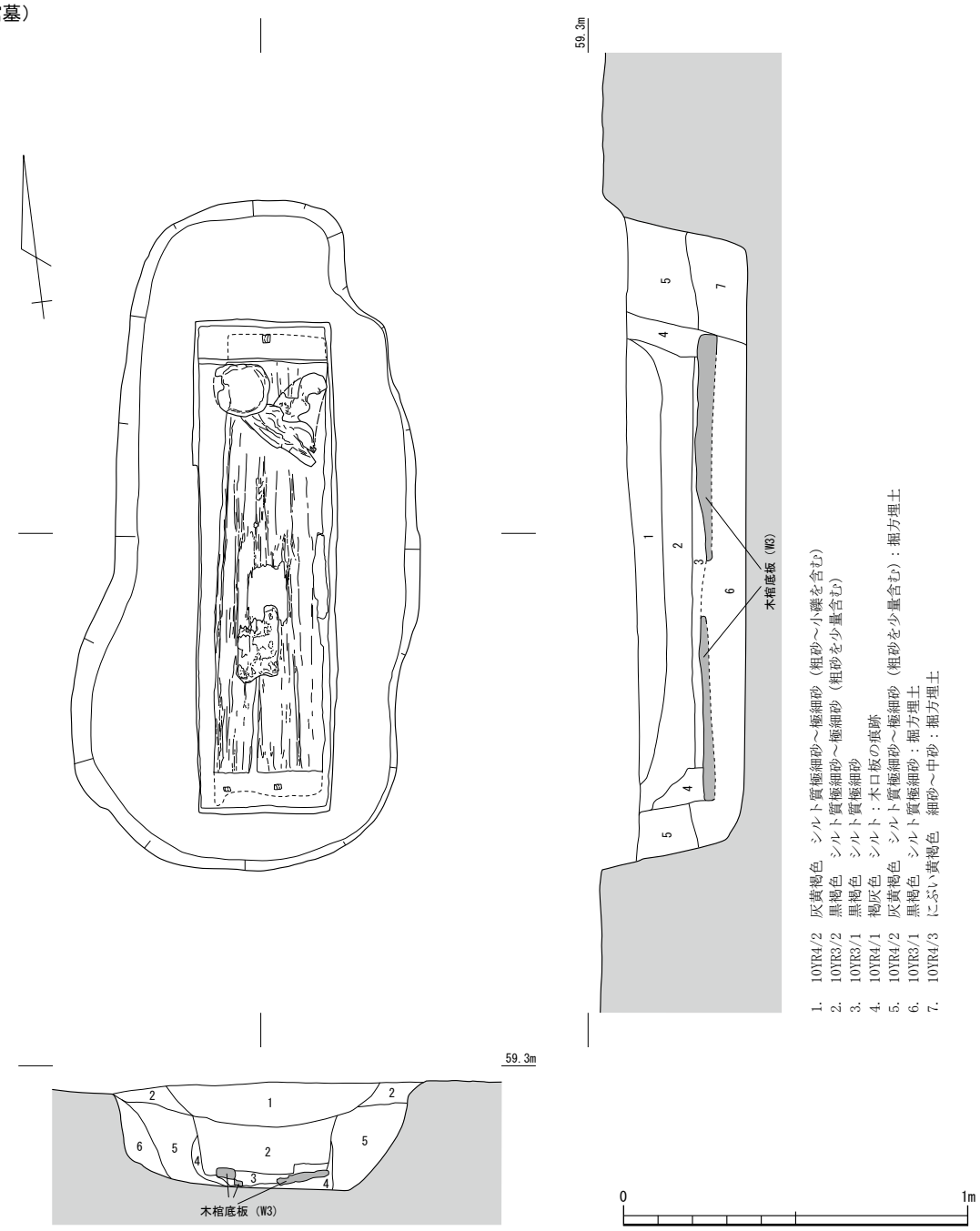


SB06

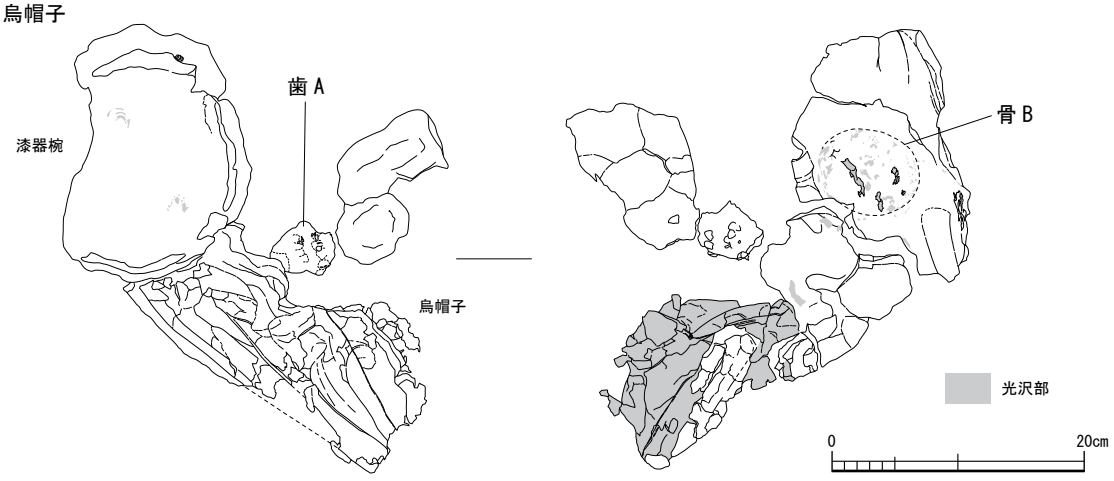


5東区　掘立柱建物址　SB03・06

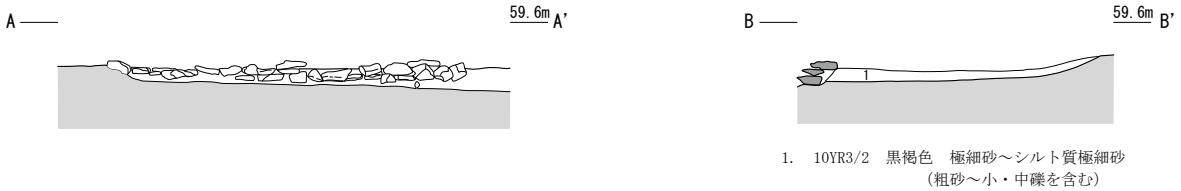
SK03（木棺墓）



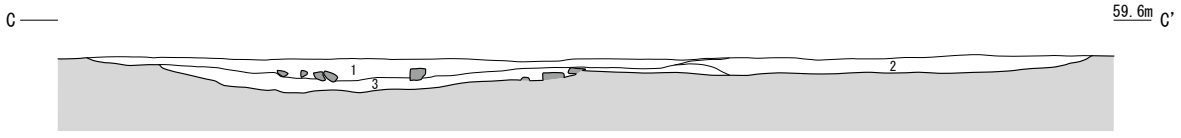
漆器椀・烏帽子



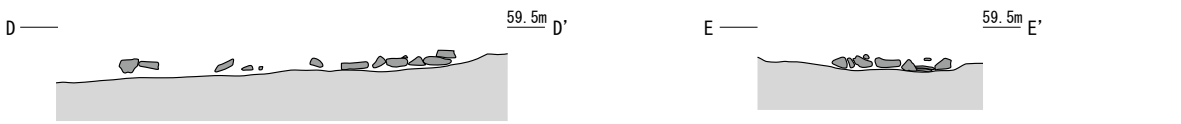
5東区　木棺墓（SK03）



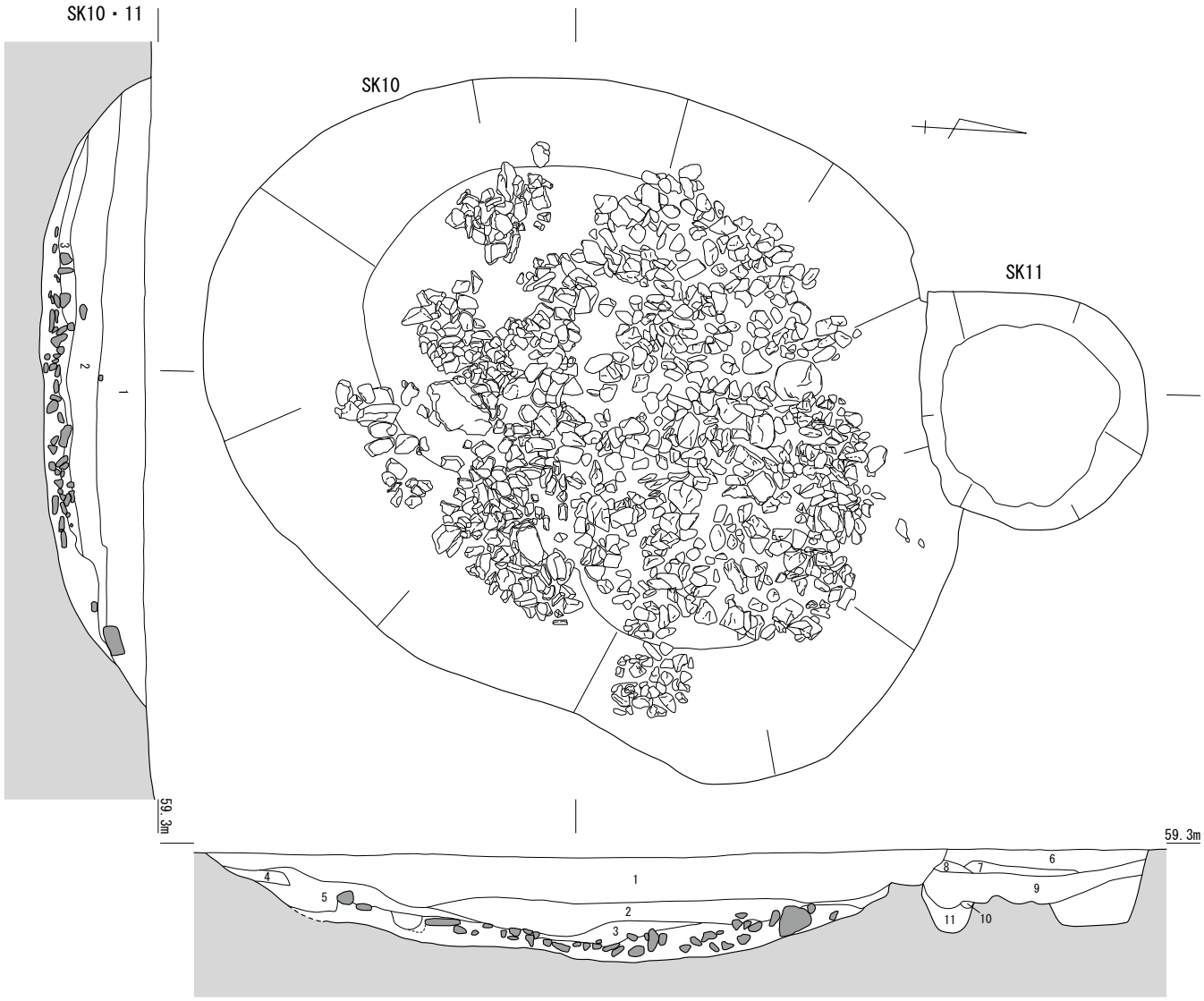
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～シルト質極細砂
（粗砂～小・中礫を含む）

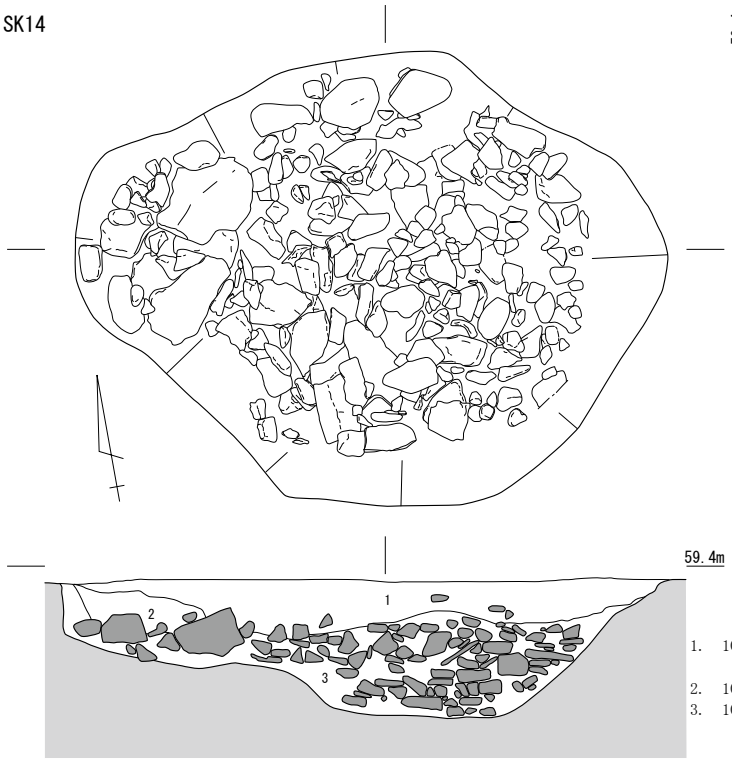


1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂～中礫を含む）
2. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂（粗砂～小礫を含む）
3. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂（細砂～小礫を含む）



5東区 土坑①





1. 10YR3/2 黒褐色
シルト質極細砂～極細砂
(小・中礫～粗砂を多く含む)
2. 10YR3/1 黒褐色
シルト質極細砂～極細砂
(粗砂～小礫を含む)
3. 2.5Y3/1 黒褐色
シルト質極細砂
4. 10YR3/2 黒褐色
シルト質極細砂～極細砂
(粗砂を多く含む)
5. 10YR4/2 灰黄褐色
シルト質極細砂～極細砂
(粗砂を含む)
6. 10YR3/2 黒褐色
シルト質極細砂～極細砂
(粗砂を多く含む、小礫を含む)
7. 10YR1.7/1 黒色
シルト質極細砂～極細砂
(粗砂を多く含む、小礫を含む)
8. 10YR3/2 黒褐色
シルト質極細砂～極細砂
9. 10YR3/2 黒褐色
シルト質極細砂～極細砂
(粗砂、炭を含む)
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色
中砂～細砂
11. 10YR3/1 黒褐色
シルト質極細砂～極細砂
(粗砂を含む)

1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
(粗砂～小礫を多く含む)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細砂 (粗砂を少量含む)
3. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂

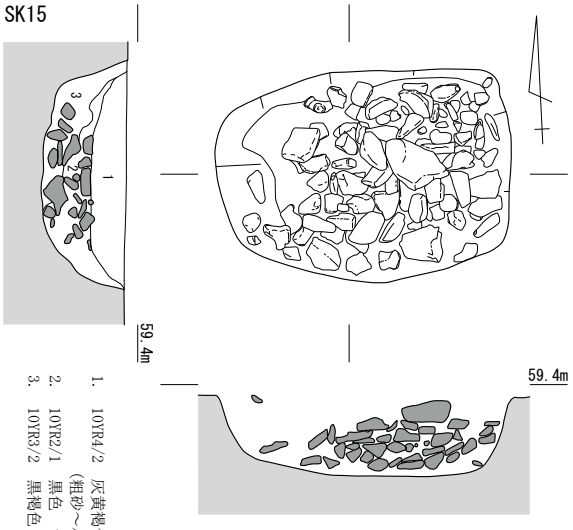
0 2m

5東区 土坑②

SK02

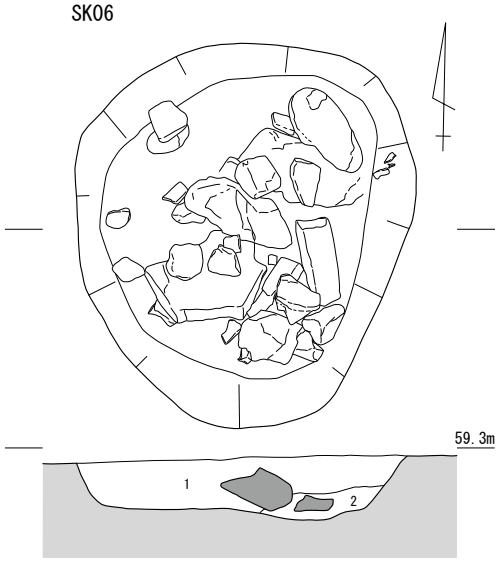
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を多く含む）
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を含む）
3. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂 地山の土壌化
4. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を多く含む）：P180

SK15

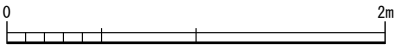


1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～小礫を含む）
2. 10YR2/1 黒色 シルト質極細砂
3. 10YR3/2 黒褐色 極細砂

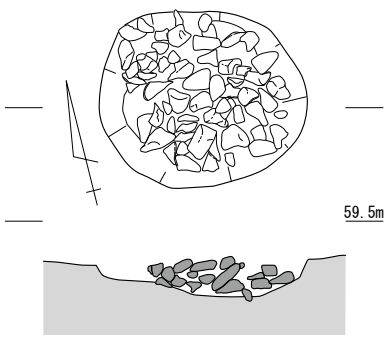
SK06



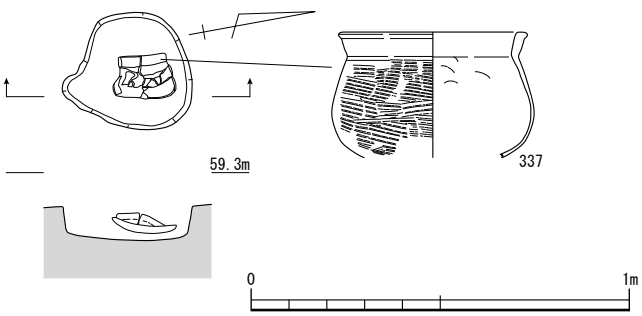
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（粗砂を多く含む、小礫を含む）
2. 10YR2/1 黒色 極細砂

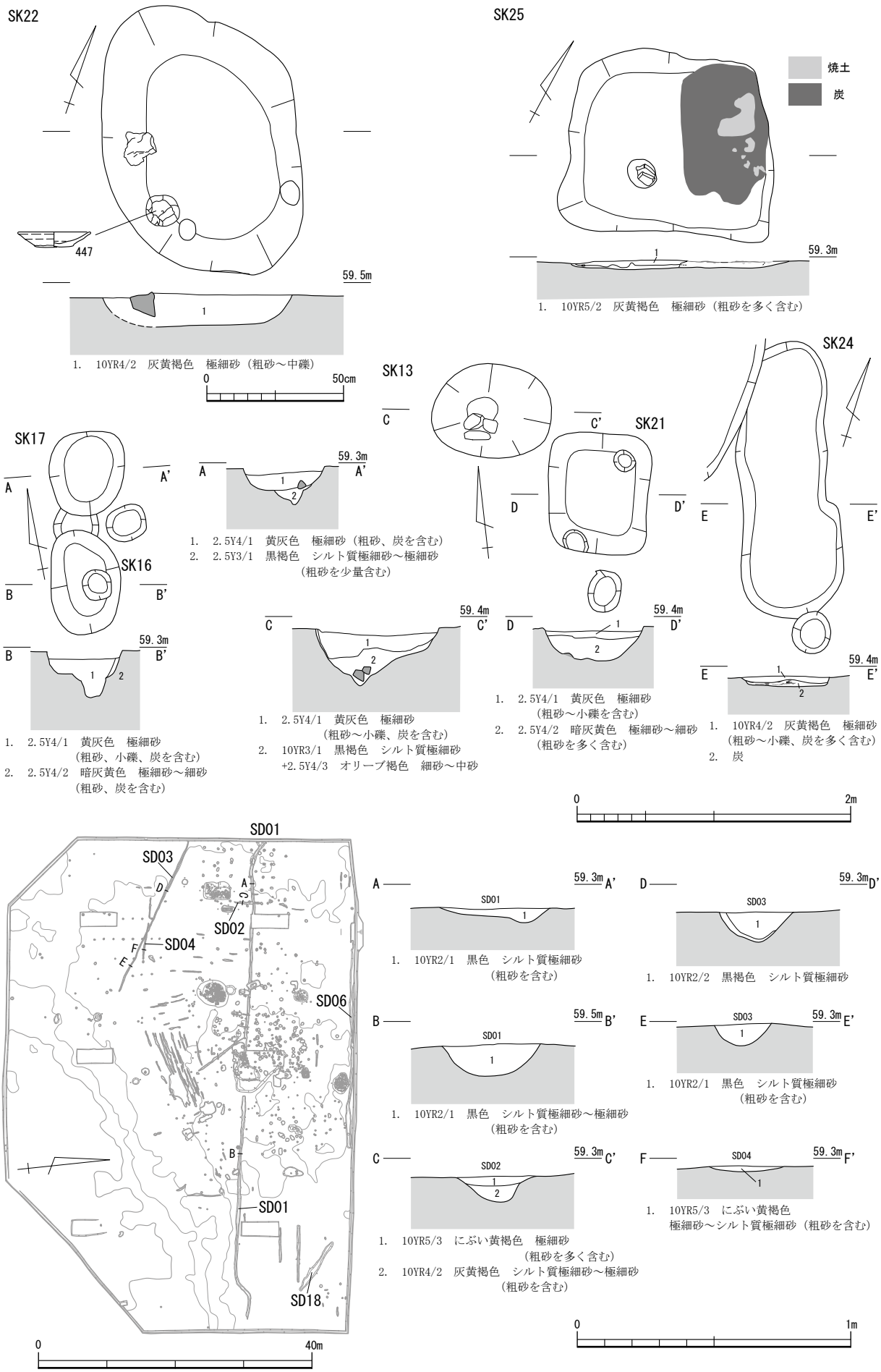


SK28



P77(SB02)

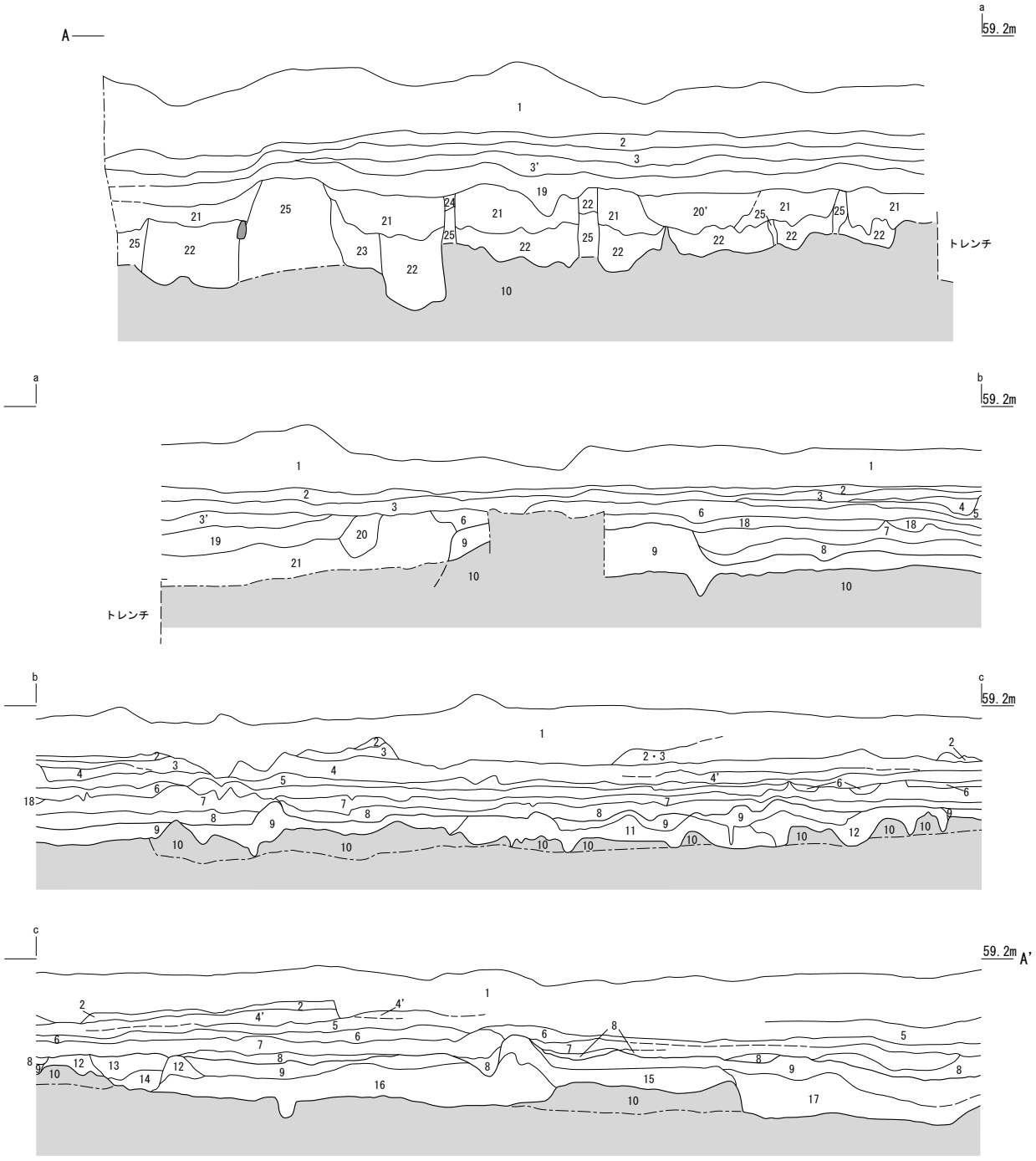



SK22
447
59.5m
1
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂～中礫）
0
50cm
SK25
焼土
炭
1
59.3m
1. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂（粗砂を多く含む）
SK13
C
C'
SK21
D
D'
SK24
E
E'
SK17
A
A'
SK16
B
B'
59.3m
1
2
1. 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂（粗砂、炭を含む）
2. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂を少量含む）
59.4m
1. 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂
（粗砂～小礫、炭を含む）
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂
+2.5Y4/3 オリーブ褐色 細砂～中砂
1. 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂
（粗砂～小礫を含む）
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細砂～細砂
（粗砂を多く含む）
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂
（粗砂～小礫、炭を多く含む）
2. 炭
1. 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂
（粗砂、小礫、炭を含む）
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細砂～細砂
（粗砂、炭を含む）
0
2m
SD01
SD03
SD02
SD04
SD06
SD18
0
40m
SD01
1. 10YR2/1 黒色 シルト質極細砂
（粗砂を含む）
SD03
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂
SD02
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細砂
（粗砂を多く含む）
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
（粗砂を含む）
SD04
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色
極細砂～シルト質極細砂（粗砂を含む）
0
1m

5東区　土坑④・溝

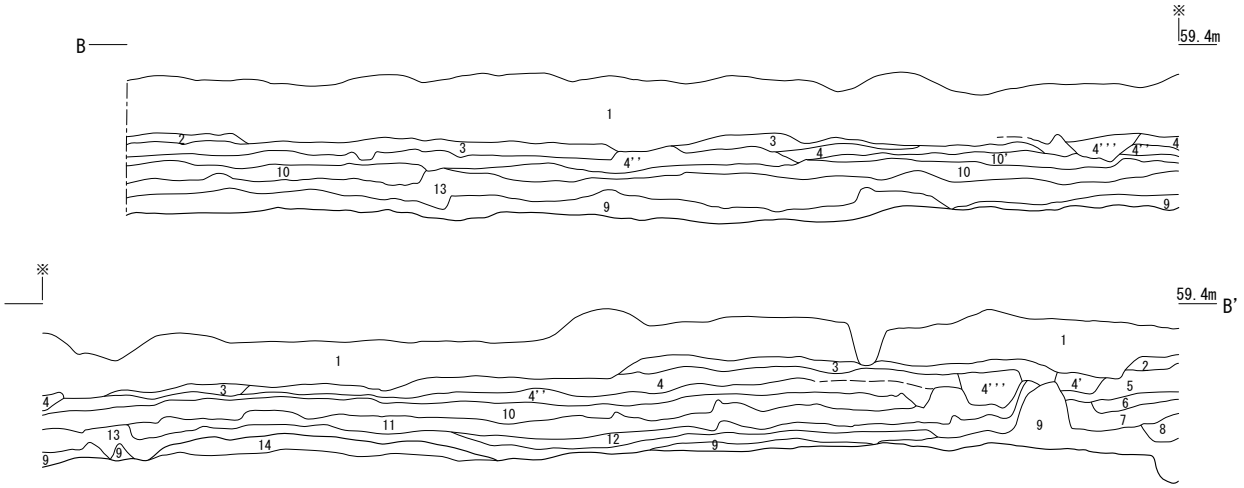
Y=59930
Y=59920
Y=59910
Y=59900
X=-111560
X=-111570
X=-111580
X=-111590
X=-111600
A
A'
C
C'
SD01
T8
SX04
SK03
SD02
SK22
SE16
SB02
SB01
SK17
SD15
SK11
SK10
SK12
SK19
SK21
SD06
SK14
SK13
SK20
SH09
P08
0
10m

6 西区　全体図

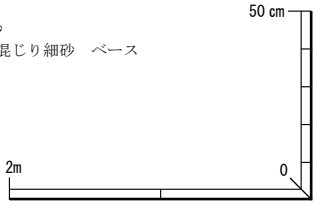


1. 耕土
2. 床土　2.5Y5/6　黄褐色　極細砂
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色　極細砂混じり細砂
3' 10YR4/2　灰黄褐色　レキ混じり極細砂質細砂　φ5㎜前後のレキ含む　基本的には3層と同じ
4. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂混じりシルト　φ3～5㎜のレキ多し　マンガン含む
4' 10YR4/2　灰黄褐色　細砂混じり極細砂　φ1㎜前後の砂粒多い　4層に比べて砂粒少ない
5. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂　マンガン含む
6. 10YR3/3　暗褐色　極細砂質シルト～細砂質シルト　φ3㎜前後のレキ含む　マンガン含む
7. 5YR3/2　暗赤褐色　極細砂質シルト　中世水田土層
8. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂　7層の母層
9. 7.5YR3/1 黒褐色　極細砂混じりシルト
10. 10YR5/3～5/2　にぶい黄褐色～灰黄褐色　極細砂若干混じりシルト　鉄分多く含む
11. 7.5YR3/3 暗褐色　シルト　粘性あり　マンガン・鉄分斑痕状に含む
12. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂　粘性ややそしい　9・11層に近い
13. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂質シルト　粘性あり　9層に近い
14. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂混じりシルト　φ1㎜前後の砂粒含む　12層に近い
15. 5YR3/1　黒褐色　シルト混じり極細砂　部分は鉄分斑痕状多い
16. 5YR4/1　褐灰色　極細砂混じりシルト　粘性多し　10層の土壌化か?
17. 7.5YR4/1 褐灰色　極細砂質シルト　粘性あり　基本的には15層と同じ
18. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　φ1㎜以下の砂粒含む　マンガンの斑痕あり
19. 10YR4/2　灰黄褐色　細砂混じりシルト質極細砂　基本的には3層と同じ
20. 7.5YR4/2 灰褐色　極細砂混じりシルト
21. 10YR4/2　杯黄褐色　シルト質極細砂～極細砂　粗砂を含む
22. 7.5YR3/1 黒褐色　細砂混じりシルト　埋め戻し土
23. 23層よりやや暗調
24. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂～7.5YR2/1　暗灰色　シルト
25. 10YR3/2　黒褐色　極細砂混じりシルト　24層の母層

6西区　西壁土層断面

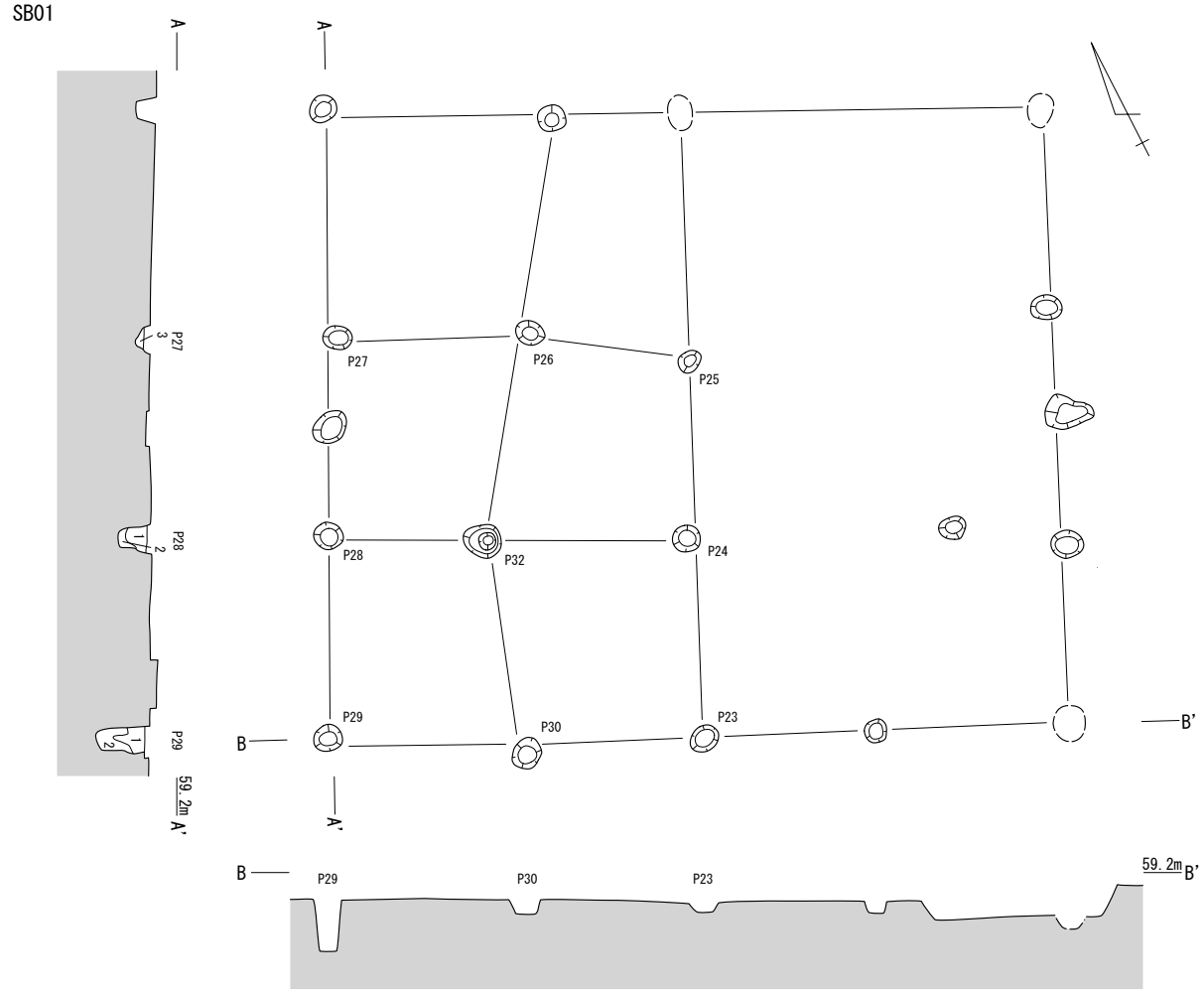


1. 現耕土
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂混じり極細砂 鉄分、マンガン含む
3. 10YR5/8 黄褐色 床土 鉄分集積層 基本は4層と同じ
4. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～礫混じり細砂 φ1㎝内外亜円礫多く含む
4' 10YR3/2 黒褐色 極細砂
4'' 10YR3/2 黒褐色 礫・細砂混じり極細砂 φ5㎜内外礫多し
4''' 10YR3/2 黒褐色 極細砂混じりシルト～細砂 溝埋土
5. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂 上半鉄分多 下半土壌化
6. 5YR3/1 黒褐色 極細砂質細砂 φ1㎜内外砂粒含む
7. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト・細砂を含む極細砂
8. 2.5YR3/1 暗赤灰色 細砂混じりシルト
9. 10YR3/1～2.5YR3/1 黒褐色～暗赤灰色 極細砂質細砂
10. 7.5YR3/1 黒褐色 細砂混じり極細砂
10' 2.5YR4/1～5YR4/1 赤灰色～褐灰色 極細砂質シルト マンガン斑多
11. 7.5YR3/2 黒褐色 細砂混じりシルト質極細砂 φ1㎝内外礫含む
有機分、マンガン多し
12. 10YR4/4 褐色 シルト質極細砂
13. 5YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
14. 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト混じり細砂 ベース



6西区 北壁土層断面

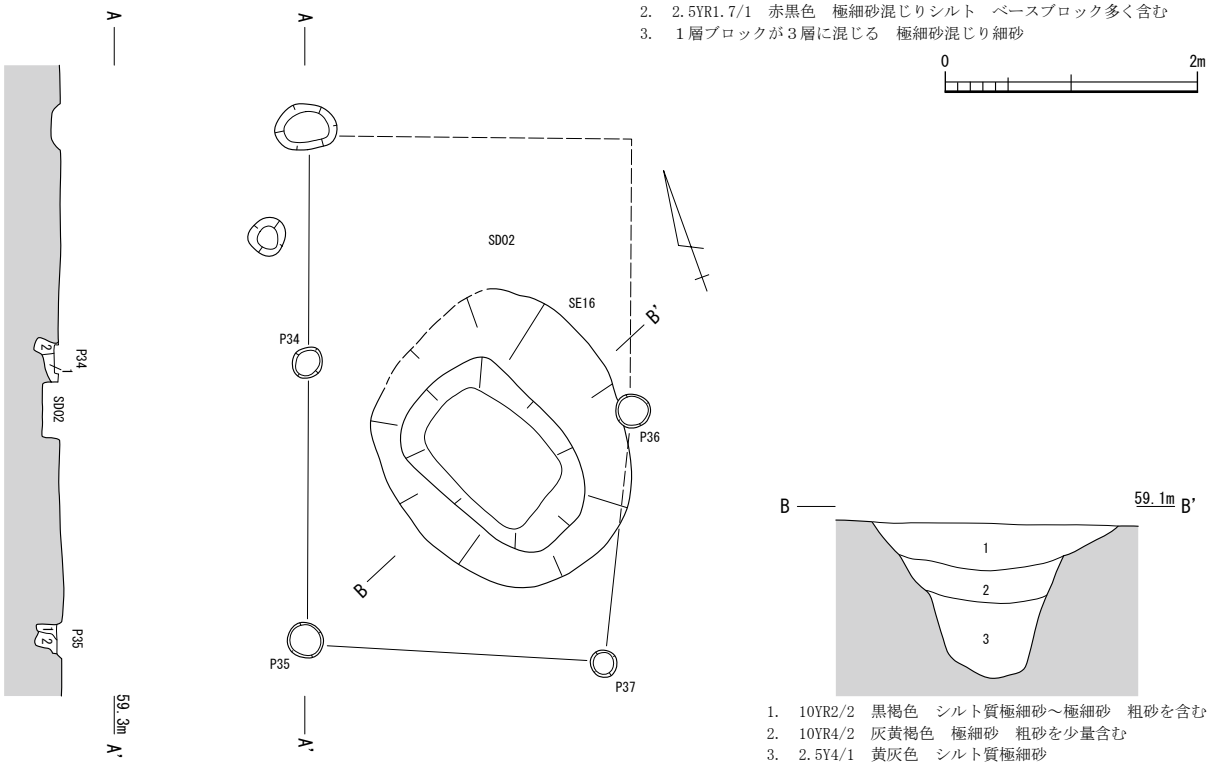
SB01



1. 5YR1.7/1 黒色 シルト質極細砂
2. 2.5YR1.7/1 赤黒色 極細砂混じりシルト ベースブロック多く含む
3. 1層ブロックが3層に混じる 極細砂混じり細砂

0 2m

SB02・SE16

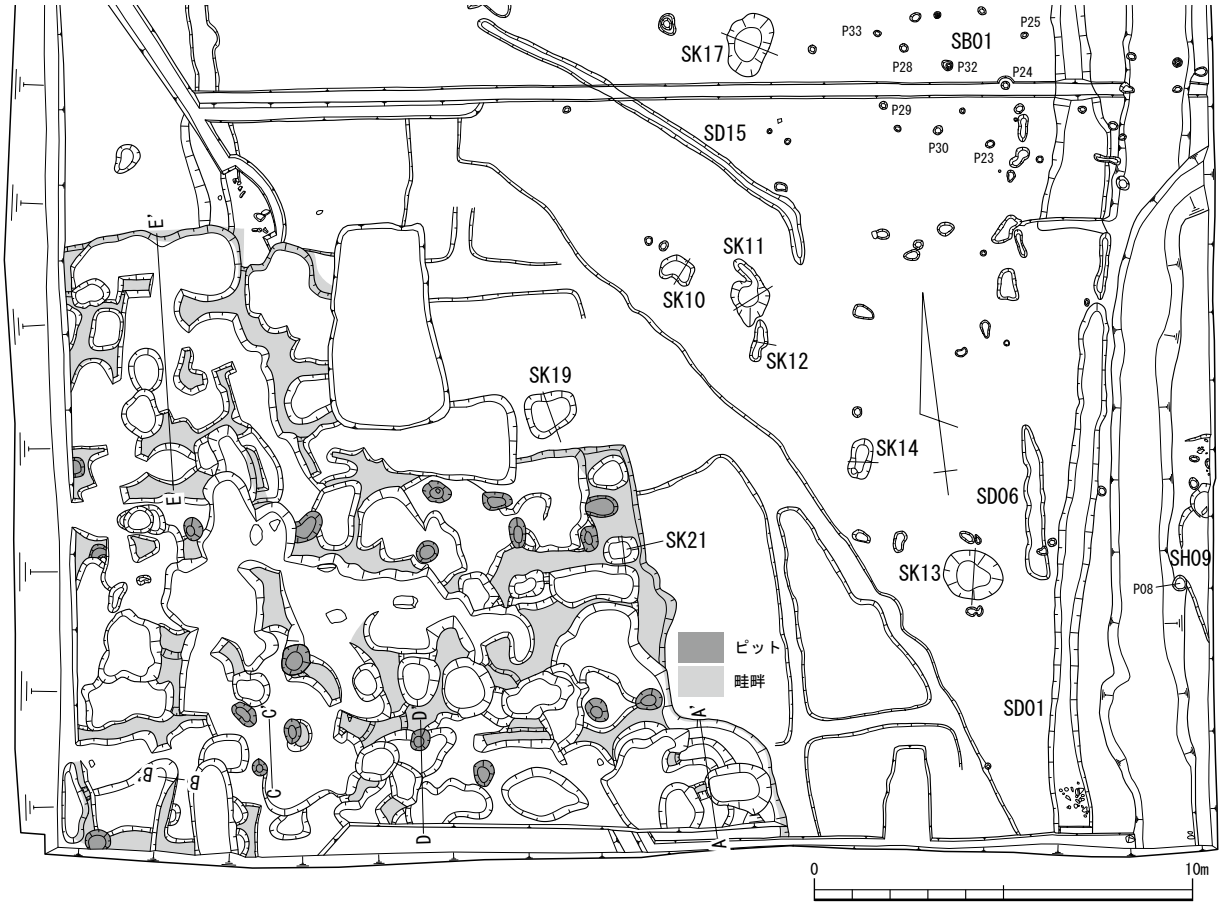


1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂（細砂を含む）
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂（細砂を含む）

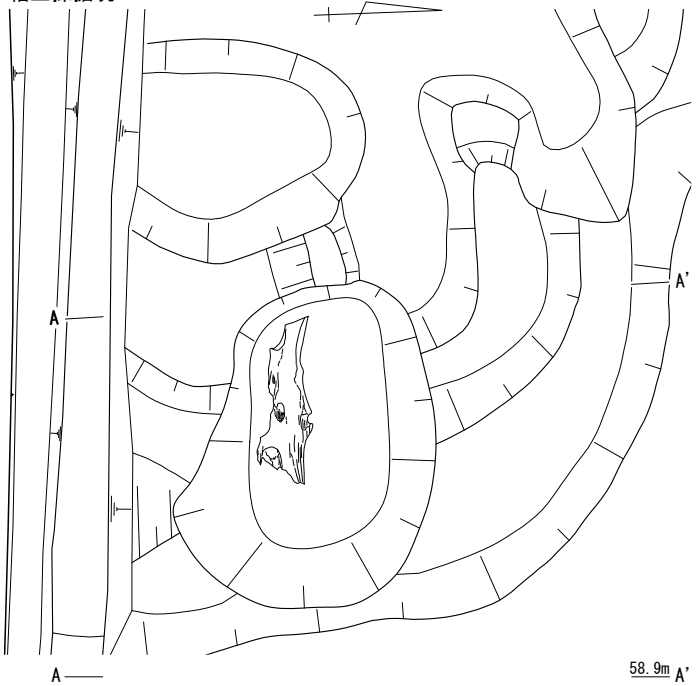
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む
2. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂 粗砂を少量含む
3. 2.5Y4/1 黄灰色 シルト質極細砂

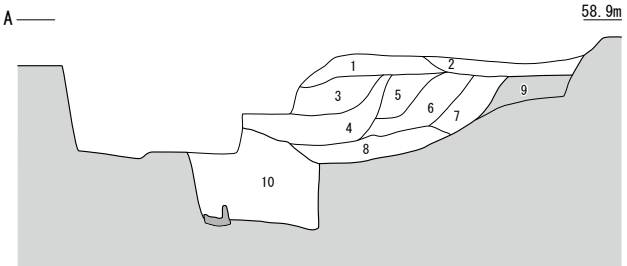
0 2m

6西区 掘立柱建物址・井戸

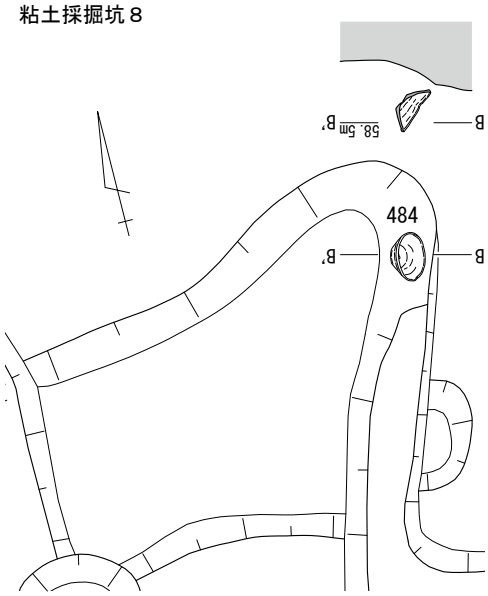


粘土採掘坑５



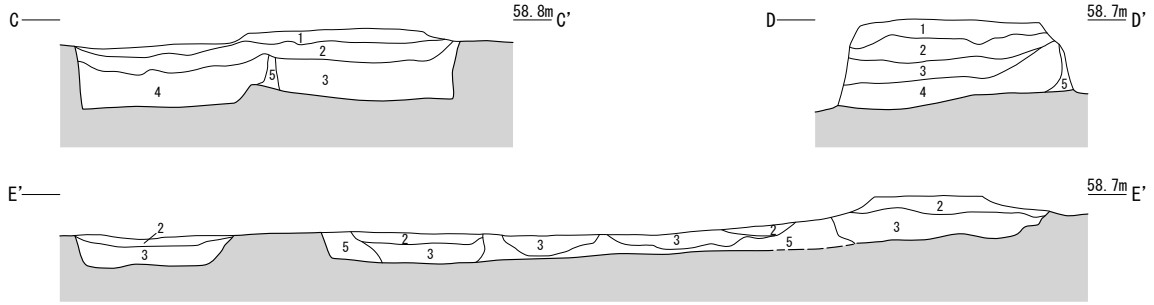


粘土採掘坑８



1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂質細砂
2. 7.5YR3/2 黒褐色 細砂質極細砂 マンガン・鉄分含む
3. 5YR3/1 黒褐色 細砂混じりシルト
4. 7.5YR3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト 極細砂は少ない
5. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト混じり極細砂
6. 7.5YR4/1 褐灰色 極細砂質シルト 粘性あり
7. 10YR4/1 褐灰色 極細砂質シルト
8. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂
9. 10YR3/1 黒褐色 極細砂質シルト
   粘土採掘坑の最終対象土（暗灰シルト）
10. 7.5YR3/1 黒褐色 細砂混じりシルト

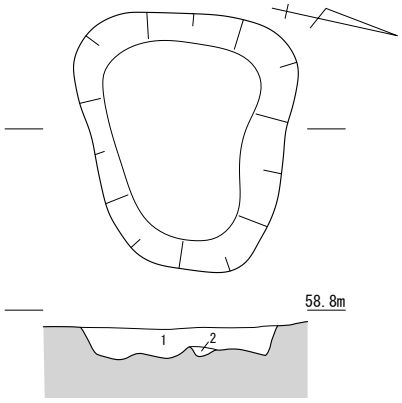
６西区　粘土採掘坑①



1. 7.5YR3/3 暗褐色 細砂質極細砂 φ1～2㎜砂粒多し
2. 7.5YR3/3 暗褐色 細砂混じり極細砂 マンガン・鉄分含む
3. 7.5YR3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト 埋め戻し土 3層ブロック含む
4. 7.5YR3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト 埋め戻し土 3・4層ブロック多し
5. 7.5YR2/1 黒色 粘土対象土 暗灰シルト

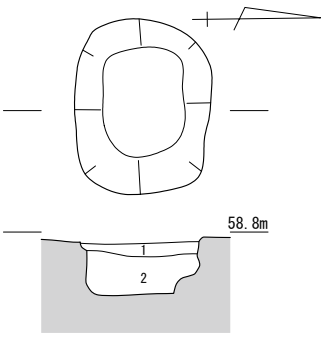
0 2m

粘土採掘坑１（SK19）



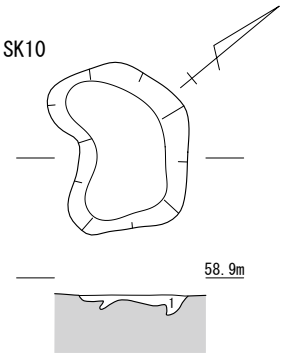
1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂

粘土採掘坑６（SK21）



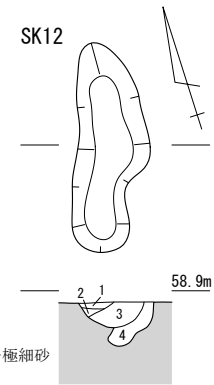
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む
2. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂 黒褐色ブロック含む

SK10



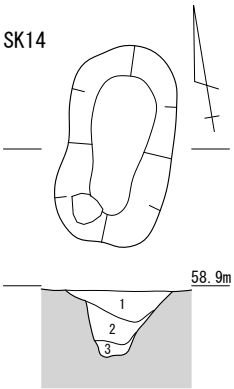
1. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂～極細砂 黄色土ブロック含む

SK12



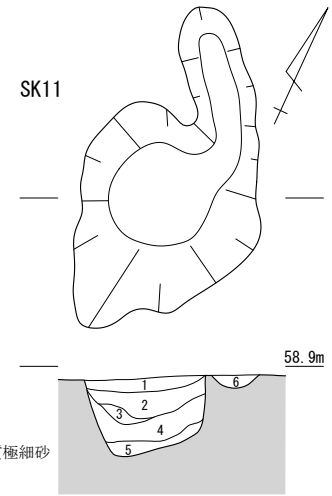
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色 極細砂
3. 1層と同じ
3. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂

SK14



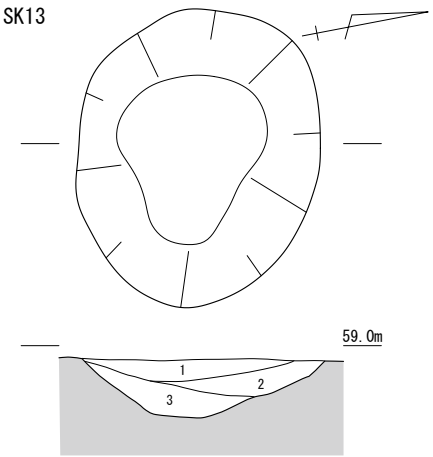
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 小・中礫を含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
3. 10YR4/1 褐灰色 極細砂

SK11



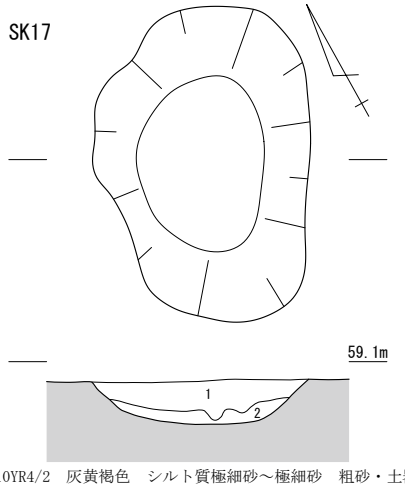
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂 小・中礫を含む
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
3. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂
4. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂 黄色土ブロック含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂 黄色土ブロック含む
6. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂

SK13



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色 極細砂 粗砂・小礫含む
2. 10YR2/1 黒色 シルト質極細砂
3. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂 粗砂を少量含む

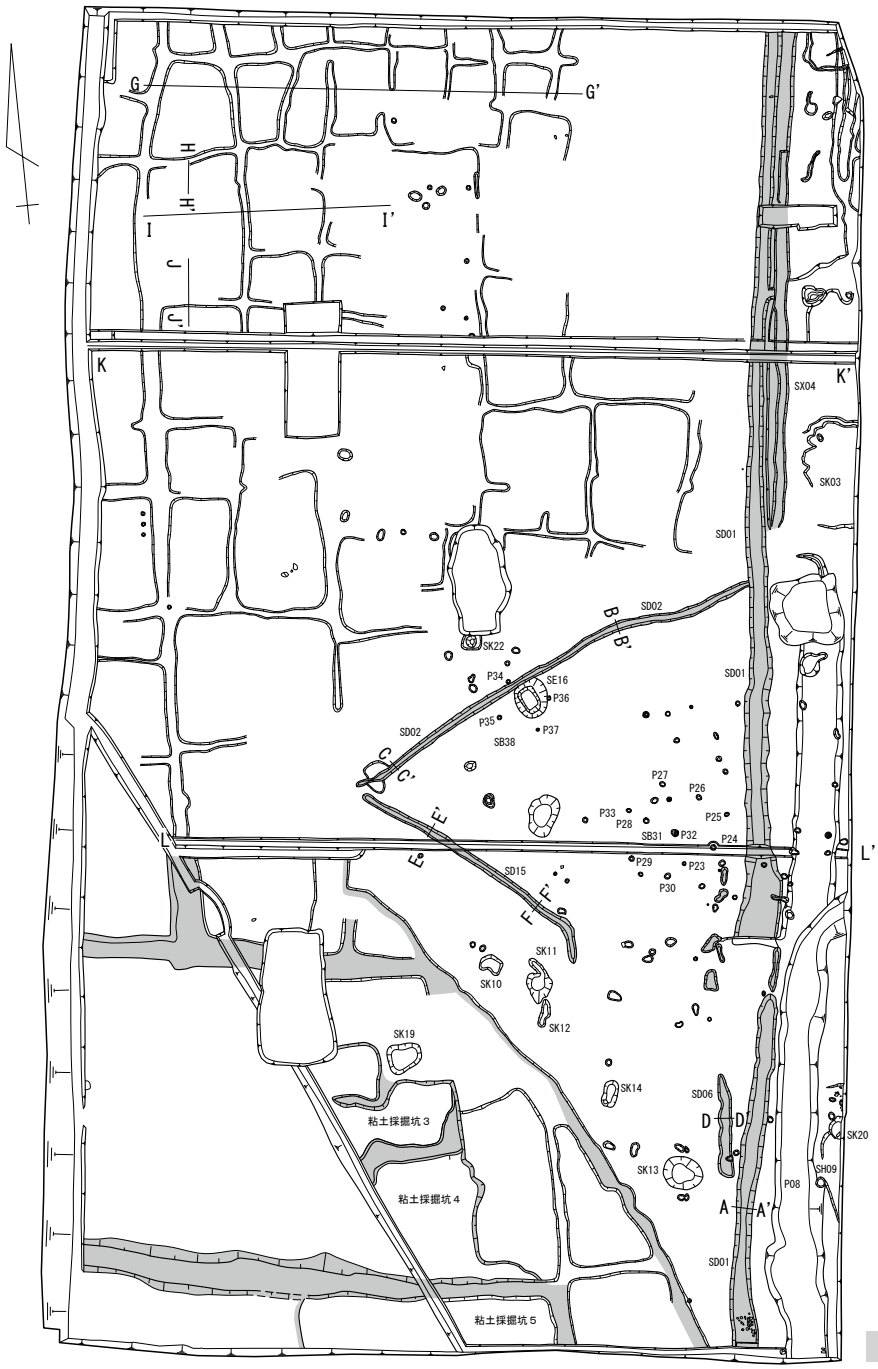
SK17



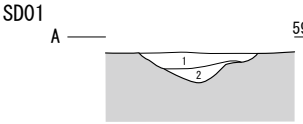
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂・土器細片含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 黄色土ブロック含む

0 1m

6西区 粘土採掘坑②・土坑

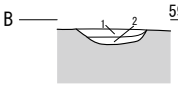


SD01

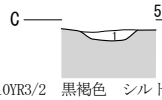


1. 10YR5/3 にぶい黄橙色 細砂 粗砂を含む
2. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂 粗砂を含む

SD02

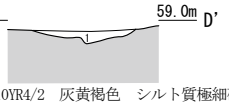


1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質細砂～極細砂 粗砂を含む
2. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂 黄色土ブロック含む



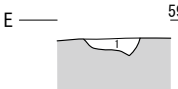
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む 黄色土ブロック含む

SD06

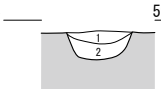


1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂・小礫を多く含む 黄色土ブロック含む

SD15

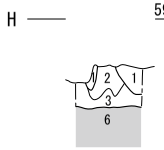


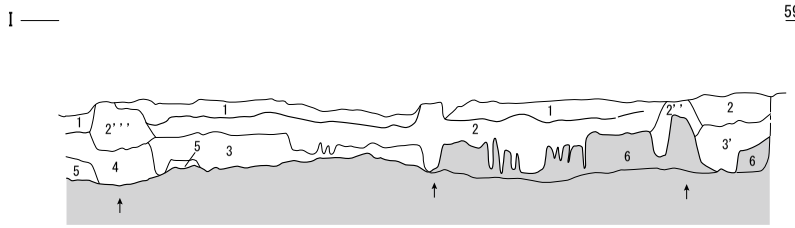
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂含む 黄色土ブロック含む

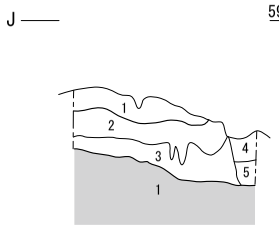


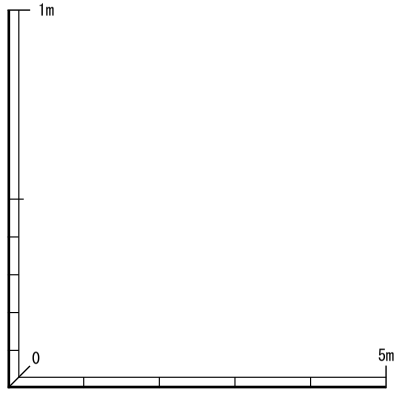
1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂含む
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂 黄色土ブロック含む

6 西区 上層遺構・上層水田



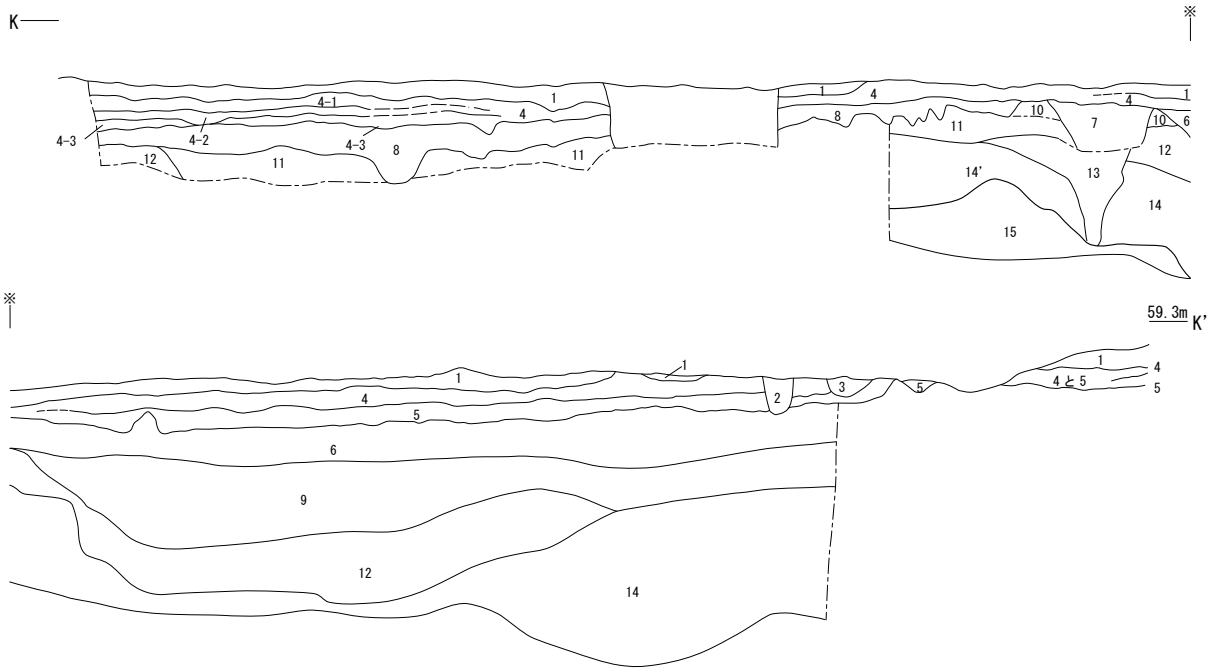




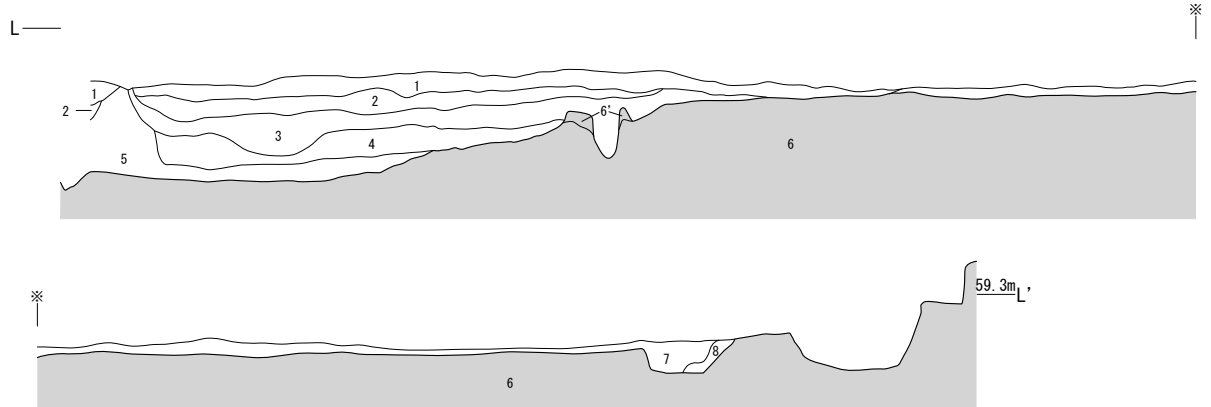


1.　7.5YR3/3　暗褐色　細砂質極細砂　洪水砂ｂ層
2.　7.5YR4/2　灰褐色　極細砂質シルト　洪水土壌層ａ層
2'　畦畔部分　２層より若干土壌化が少ない
2''　10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂に 7.5YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂がブロックで混じる　畦畔部分
2'''　10YR3/2　黒褐色　極細砂質シルト　畦畔部分
3.　10YR3/2　黒褐色　細砂混じりシルト　やや土壌化
4.　10YR3/2 ～ 2/1　黒褐色～黒色　極細砂質シルト　やや土壌化　粘性あり
5.　7.5YR3/1　黒褐色　極細砂混じりシルト　土壌層　グライ化している
6.　10YR5/3　にぶい黄褐色　細砂混じりシルト　ベース

↑は畦畔

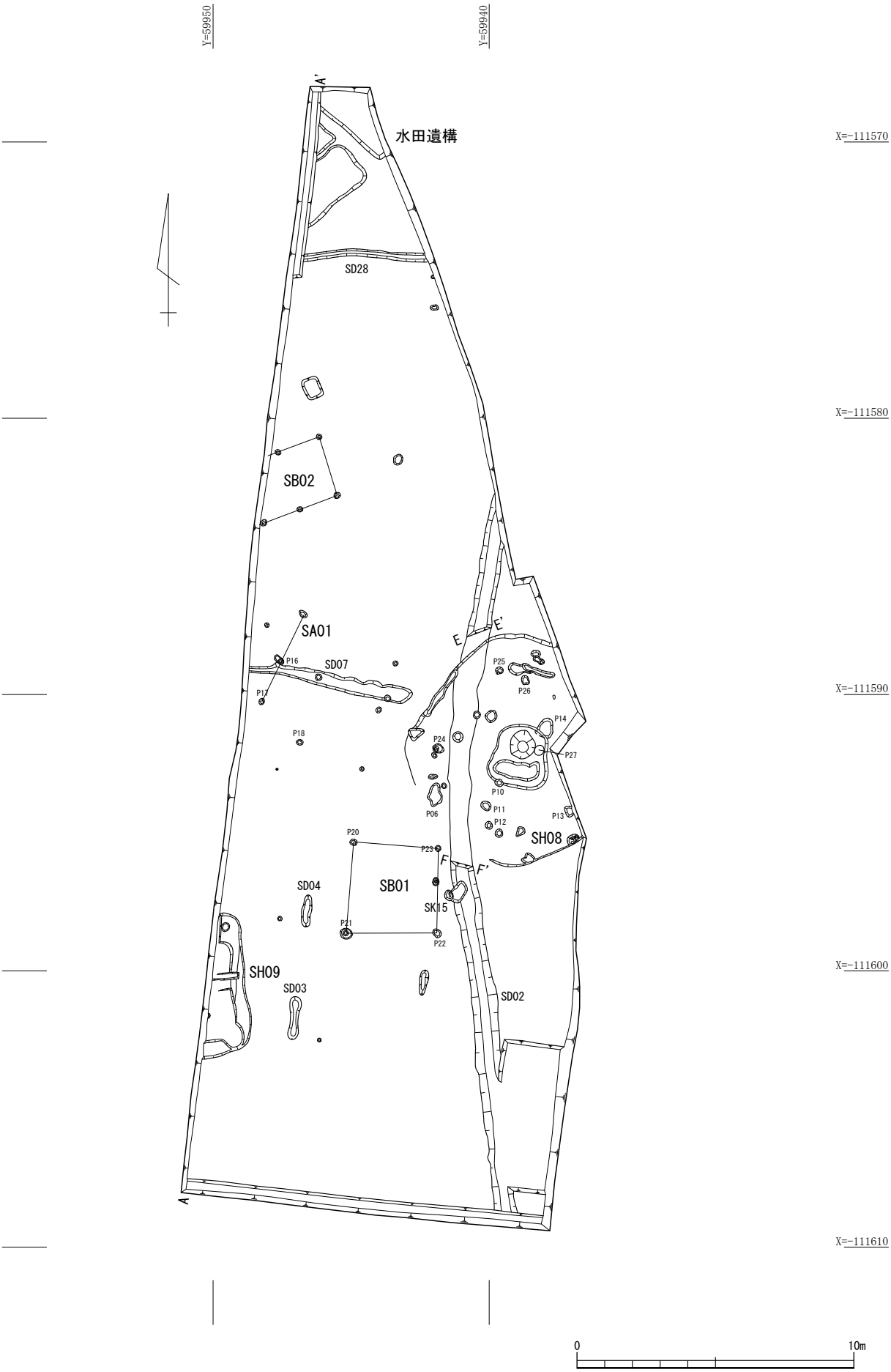


1. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂質極細砂 φ2㎜砂粒多し 鉄分集積
2. 5YR3/2 暗赤褐色 シルト混じり極細砂 2層をブロックで含む
3. 7.5YR4/2 灰褐色 極細砂混じり細砂 φ2㎜前後の砂粒多く含む 溝埋土
4. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂 土壌層 マンガン斑塊あり
4-1 10YR4/2 灰黄褐色 やや土壌化乏しい 極細砂多い
4-2 10YR3/3 暗褐色 土壌化 シルト分多い
4-3 10YR4/2 灰黄褐色 やや土壌化乏しい 極細砂質
5. 7.5YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂 2層より土壌化が少ない
6. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト 粘性あり 若干極細砂混じり
7. 7.5YR3/1～10YR3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト 粘性あり 有機分多い 溝か？ 下層の砂粒が粗い
8. 7.5YR3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト 鉄分含む
9. 黒灰色 シルト：細砂若干混入
10. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト混じり極細砂 8層が土壌化したもの
11. 10YR4/1～7.5YR4/1 褐灰色 シルト混じり極細砂 鉄分多く含む グライ化
12. 2.5YR5/3～10YR5/3 にぶい赤褐色～にぶい黄褐色 極細砂・細砂混じりシルト マンガン・鉄分斑塊を含む
13. 暗灰色～緑灰色 砂質シルト：砂は細砂
14. 緑灰色 シルト質砂：細砂主体
14’ 黄褐色 シルト質砂：細砂主体
15. 黄褐色 砂レキ：φ3～8㎝の亜角～亜円礫主、Maxφ16㎝ マトリックス粗砂

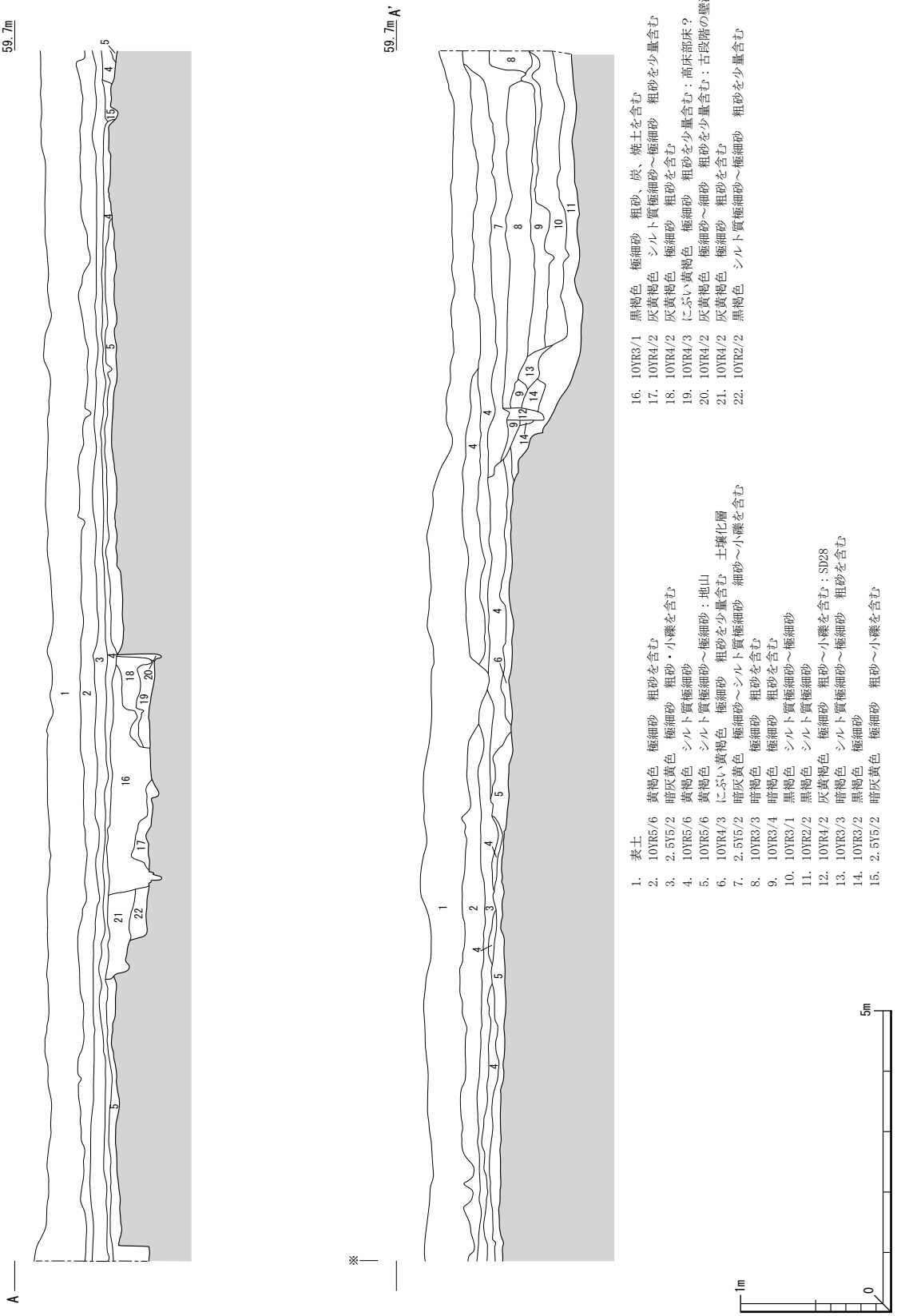


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂
3. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂混じりシルト 4層の土壌化
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細砂混じりシルト 3層に比して粘性あり
5. 10YR4/1～7.5YR3/2 褐灰色～黒褐色 極細砂を若干含むシルト
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 細砂混じりシルト ベース
6’ やや土壌化している 4層に近い
7. 7.5YR4/2 灰褐色 粗砂混じり細砂
8. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂混じり細砂

6西区 遺構面下層断ち割り土層断面


Y=59950
Y=59940
X=-111570
X=-111580
X=-111590
X=-111600
X=-111610
水田遺構
SD28
SB02
SA01
SD07
P16
P17
P18
P25
P26
P14
P24
P27
P10
P06
P11
P12
P13
SH08
P20
P23
SD04
SB01
SK15
P21
P22
SH09
SD03
SD02
A
A'
E
E'
F
F'
0
10m

6 東区　全体図

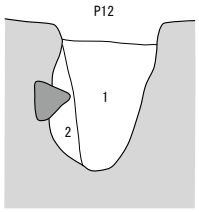

※
59.7m
A
A'
59.7m
※
SH09
1. 表土
2. 10YR5/6　黄褐色　極細砂　粗砂を含む
3. 2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂　粗砂・小礫を含む
4. 10YR5/6　黄褐色　シルト質極細砂
5. 10YR5/6　黄褐色　シルト質極細砂～極細砂：地山
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色　極細砂　粗砂を少量含む　土壌化層
7. 2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂～シルト質極細砂　細砂～小礫を含む
8. 10YR3/3　暗褐色　極細砂　粗砂を含む
9. 10YR3/4　暗褐色　極細砂　粗砂を含む
10. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂
11. 10YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂
12. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂　粗砂～小礫を含む：SD28
13. 10YR3/3　暗褐色　シルト質極細砂～極細砂　粗砂を含む
14. 10YR3/2　黒褐色　極細砂
15. 2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂　粗砂～小礫を含む
16. 10YR3/1　黒褐色　極細砂　粗砂、炭、焼土を含む
17. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂～極細砂　粗砂を少量含む
18. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂　粗砂を含む
19. 10YR4/3　にぶい黄褐色　極細砂　粗砂を少量含む：高床部床？
20. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂～細砂　粗砂を少量含む：古段階の壁溝
21. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂　粗砂を含む
22. 10YR2/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂　粗砂を少量含む
0
1m
5m

6東区　西壁土層断面

SH08

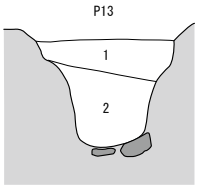
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 粗砂～小礫含む 焼土塊含む
2. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 粗砂を含む
3. 10YR2/1 黒色 シルト質極細砂～極細砂
4. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂～中礫含む
   SD02 の埋土
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む
6. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 粗砂～小礫含む
7. 10YR2/2 黒褐色 極細砂 粗砂～小礫・焼土塊・炭を含む
8. 10YR3/3 暗褐色 細砂～中砂 粗砂～小礫・鉄を含む
   焼土塊も少量含む
9. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂
10. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 ?
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂 粗砂～中礫を含む

A —— 59.4m A'



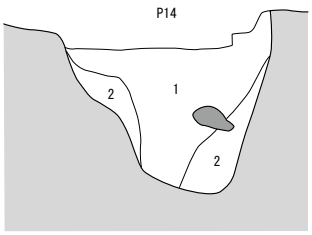
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 粗砂～小礫含む
2. 10YR3/3 暗褐色 極細砂 粗砂を含む

B —— 59.4m B'



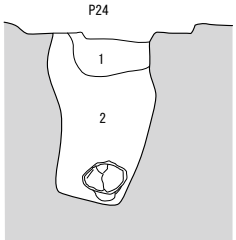
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 粗砂・炭を含む
2. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂 粗砂・焼土を含む

C —— 59.4m C'



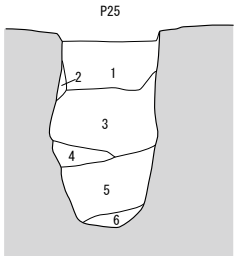
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む
2. 10YR3/3 暗褐色 極細砂～細砂 粗砂を含む

D —— 59.4m D'



1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂 粗砂を含む
2. 10YR3/3 暗褐色 極細砂～細砂 粗砂・小礫・炭を含む

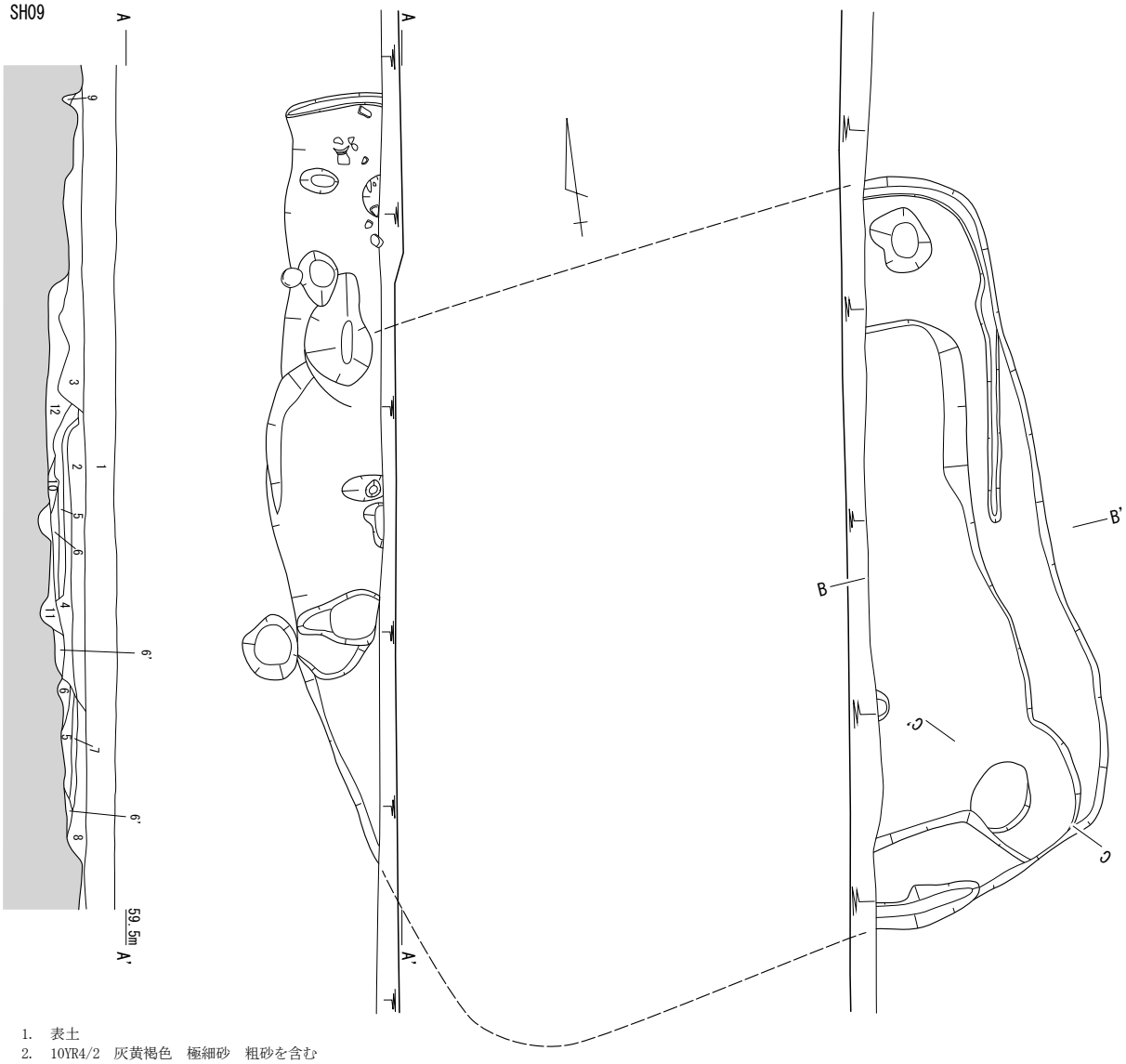
E —— 59.4m E'



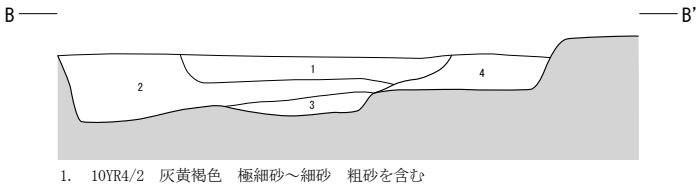
1. 10YR3/1 黒褐色 極細砂 粗砂を含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂
3. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 炭を少量含む
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂
5. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
6. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂～細砂 粗砂を含む

0 1m

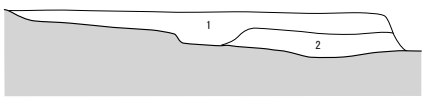
6 東区 竪穴住居址 SH08



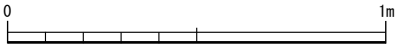
1. 表土
2. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂　粗砂を含む
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色　極細砂　粗砂を含む
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト質極細砂～極細砂　粗砂を含む
5. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂　粗砂を含む
6. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂～極細砂　粗砂を含む
7. 10YR4/4　褐色　極細砂　粗砂を含む
8. 10YR5/2　灰黄褐色　極細砂　粗砂を含む
9. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂
10. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂～極細砂
11. 10YR5/3　にぶい黄褐色　極細砂～細砂（焼土粒を含む）



1. 10YR4/2　灰黄褐色　極細砂～細砂　粗砂を含む
2. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂～極細砂　粗砂を含む
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色　極細砂～細砂　粗砂を含む
4. 10YR5/3　にぶい黄褐色　細砂　粗砂を含む

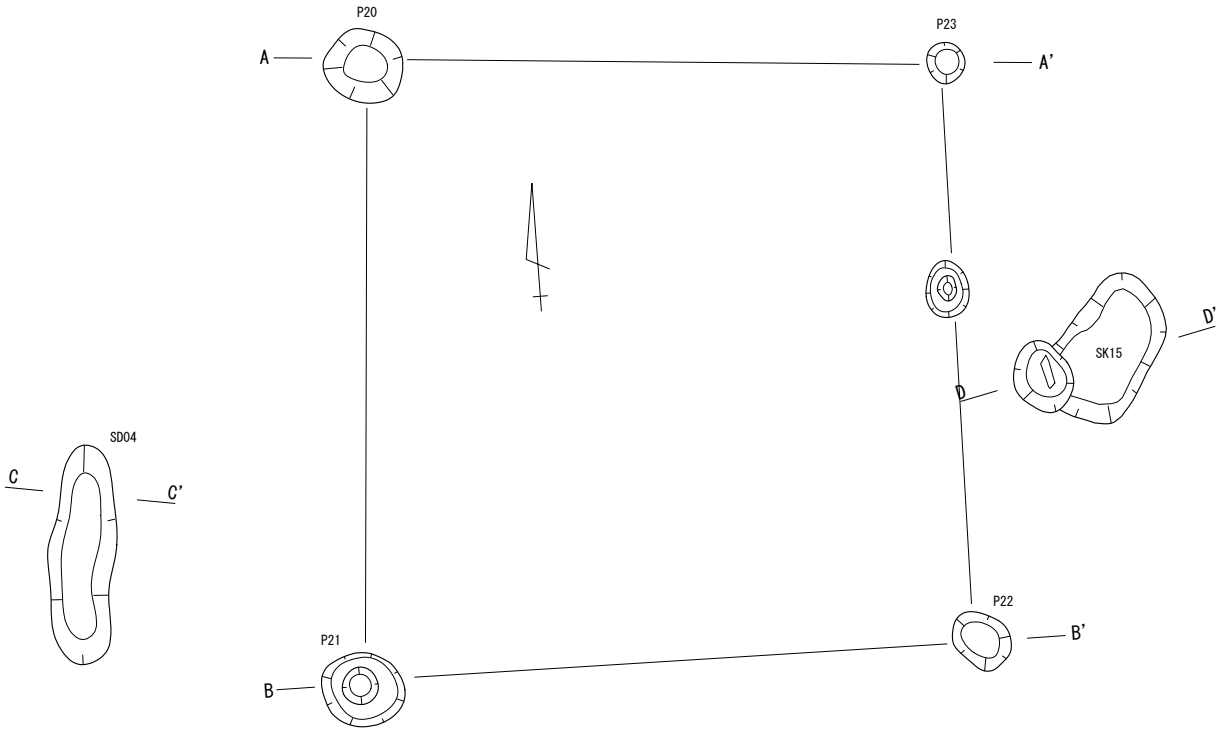


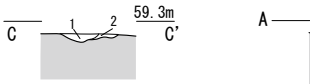
1. 10YR3/2　黒褐色　極細砂　粗砂を含む
2. 10YR4/4　褐色　細砂　粗砂を含む



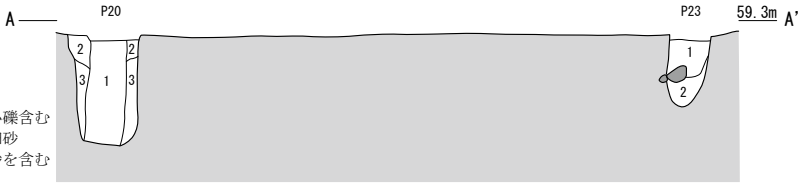
6西・東区　竪穴住居址　SH09

SB01・SD04・SK15



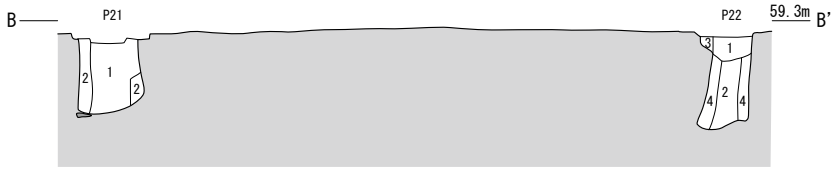


1. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂
   粗砂・小礫含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色 極細砂
   粗砂を含む



1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂

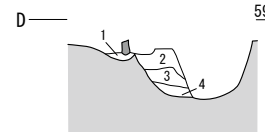
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 粗砂を含む
2. 10YR3/2 黒褐色 細砂～中砂 粗砂～中礫を含む



1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂
   焼土・炭を含む 粗砂を含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂 粗砂を含む

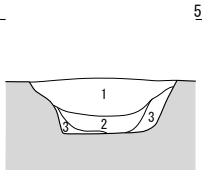
1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 粗砂を含む
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
   炭・焼土を含む
3. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂～細砂 粗砂～小礫を含む
4. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む

SK15

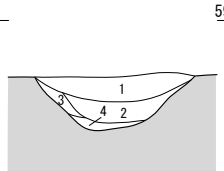


1. 10YR3/3 暗褐色 極細砂：ピート
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
   焼土粒・炭・粗砂を含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂
   粗砂を含む
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
   焼土粒・炭・粗砂を含む

SD02

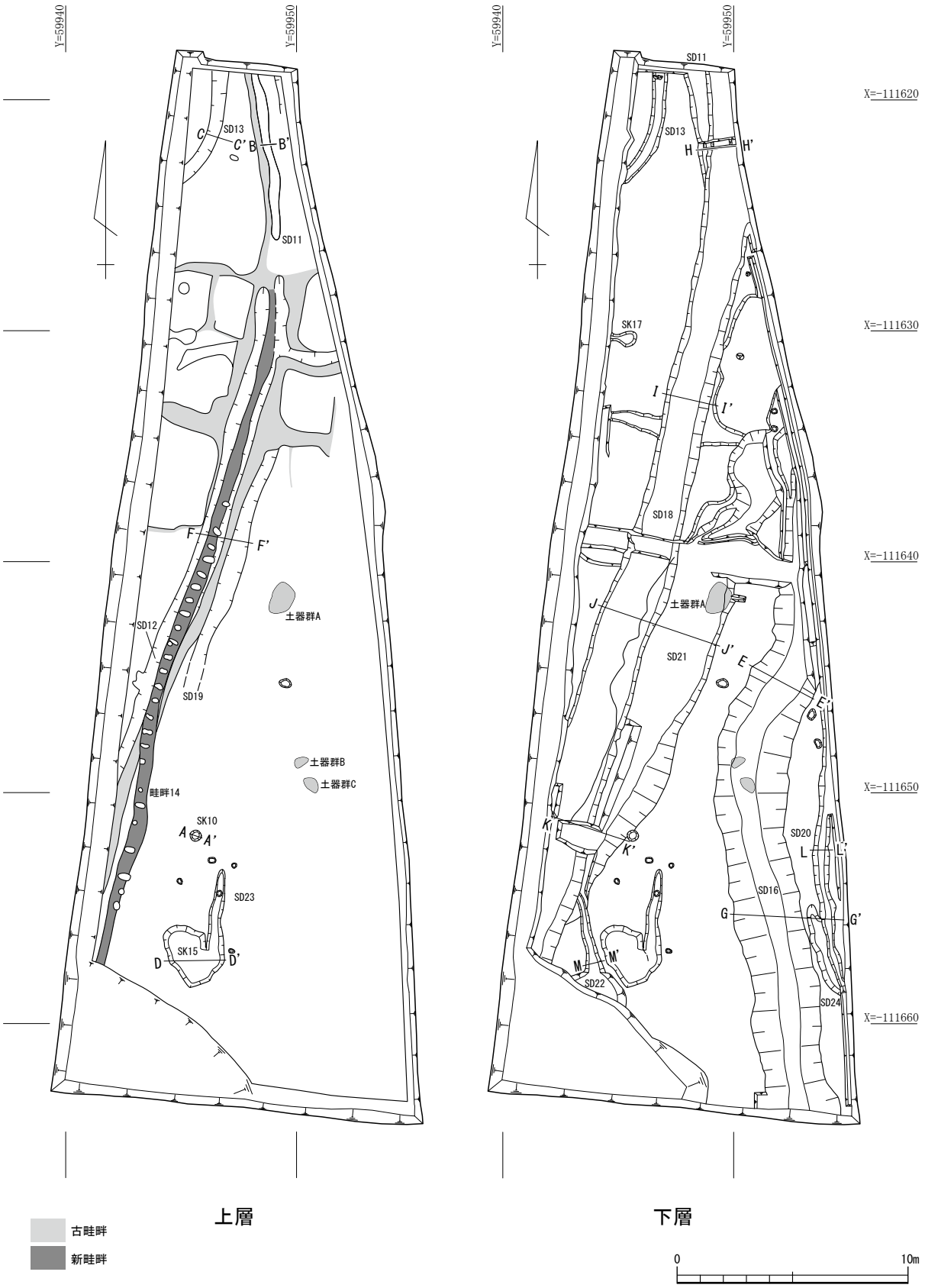


1. 10YR3/1 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
   粗砂を少量含む
2. 10YR3/1 黒褐色 極細砂 粗砂を含む
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト質極細砂～極細砂
   中砂を含む



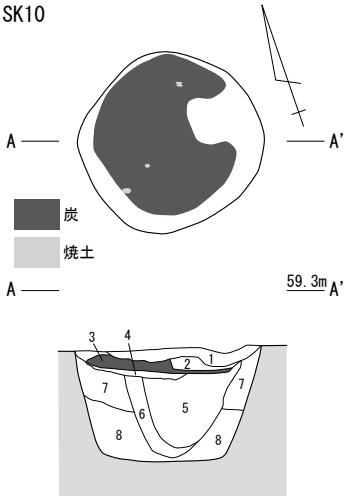
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
   粗砂～中礫を含む
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト質極細砂～極細砂
   粗砂～小礫を含む
3. 10YR3/4 暗褐色 極細砂 粗砂～小礫を含む
4. 10YR3/3 暗褐色 極細砂 粗砂～小礫を含む

6東区 掘立柱建物址 SB01・土坑・溝


Y=59940
Y=59950
X=-111620
X=-111630
X=-111640
X=-111650
X=-111660
SD11
SD13
SD18
SD21
SD20
SD16
SD24
SD12
SD19
SD23
SD22
SK10
SK15
SK17
土器群A
土器群B
土器群C
畦畔14
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
I
I'
J
J'
K
K'
L
L'
M
M'
上層
下層
古畦畔
新畦畔
0
10m

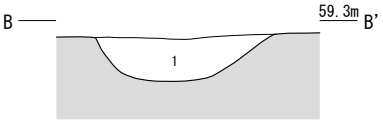
7区　全体図　上層・下層

SK10



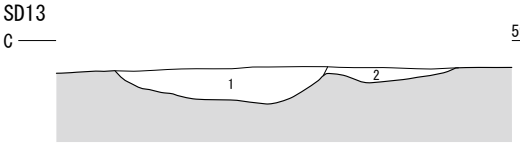
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂混じり極細砂
3. 10YR1.7/1 黒色 炭層
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂質極細砂
5. 7.5YR4/3 ～ 10YR4/3 褐色～にぶい黄褐色 極細砂混じり細砂
6. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト混じり細砂
7. 10YR4/4 褐色 細砂混じり極細砂 粒子荒い
8. 10YR3/3 暗褐色 シルト混じり細砂 粒子荒い

SD11



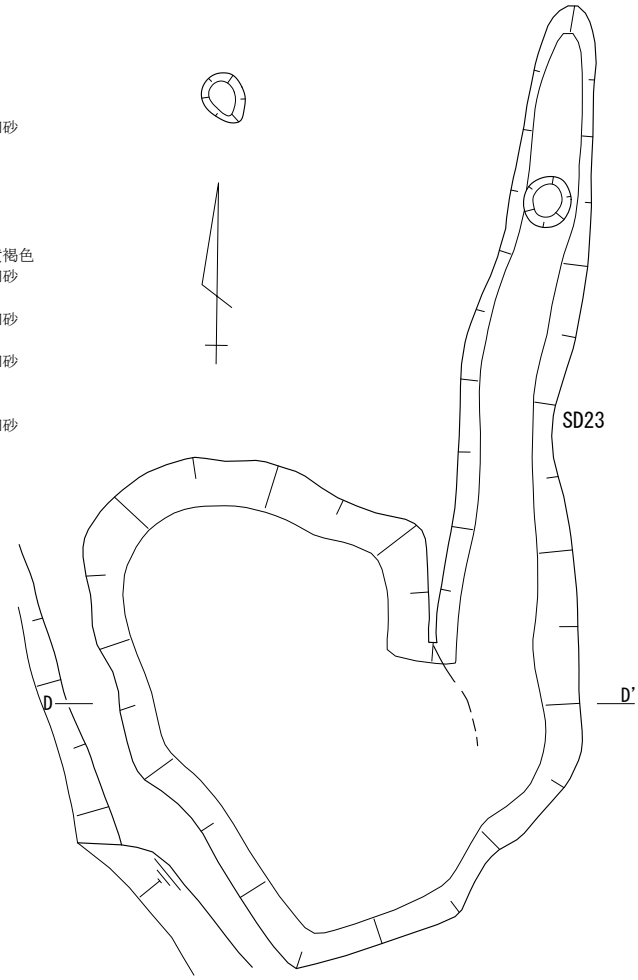
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む 畦畔の下部

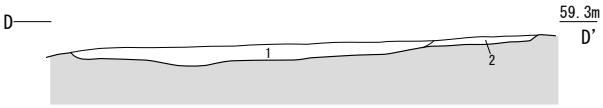
SD13



1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む
2. 10YR3/3 暗褐色 極細砂 粗砂を含む

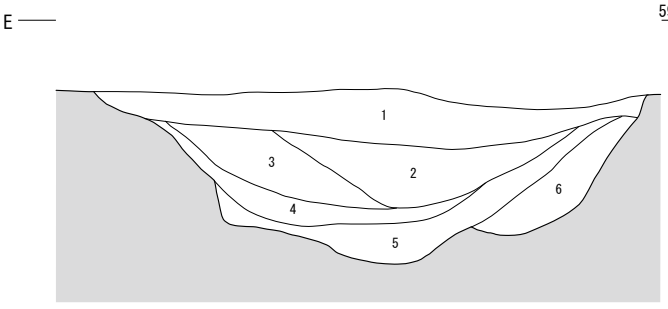
SK15



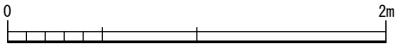


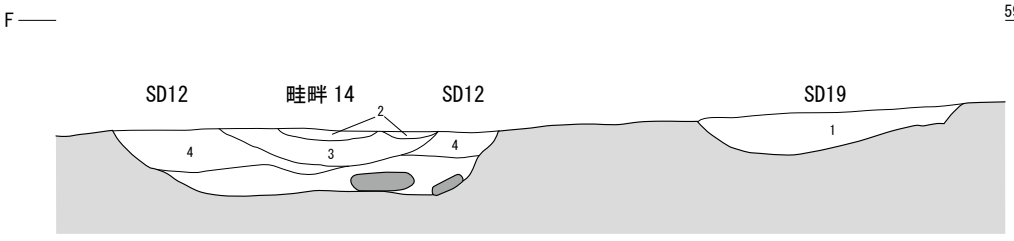
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細砂 粗砂を含む
2. 10YR5/2 灰黄褐色 極細砂 粗砂を含む

SD16

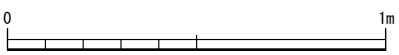


1. 7.5YR3/2 黒褐色 細砂混じり極細砂
2. 7.5YR2/2 黒褐色 極細砂・中砂混じり細砂 φ3cm 内外礫、土器多く含む
3. 7.5YR2/2 黒褐色 2と同質 土器をほとんど含まない
4. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂混じり細砂 粒子粗い
5. 5YR3/2 暗赤褐色 極細砂混じりシルト 炭化物・土器・円礫含む φ5cm内外の円礫多い
6. 7.5YR2/2 黒褐色 シルト質細砂





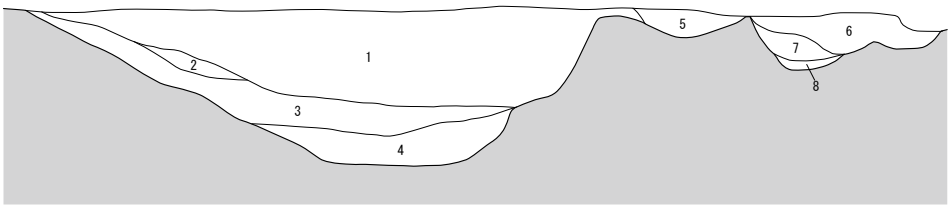
1. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂 粗砂少量含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色 細砂～中砂 粗砂を含む
3. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 アゼの下部
4. 10YR4/2 灰黄褐色 極細砂 粗砂を含む



7区 上層 土坑・溝①

SD16
G——

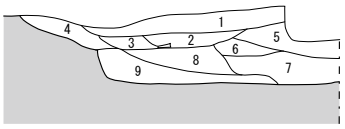
59.5m G'



1. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂 粗砂～中礫多く含む
2. 10YR2/2 黒褐色 極細砂 粗砂～小礫含む
3. 10YR3/3 暗褐色 極細砂～細砂 粗砂～中礫含む
4. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂 粗砂～小礫含む
5. 10YR3/3 暗褐色 細砂 粗砂～小礫含む
6. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂、小礫を含む
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂 粗砂、小礫を含む
8. 10YR3/3 暗褐色 細砂～中砂 粗砂を含む

SD18
H——

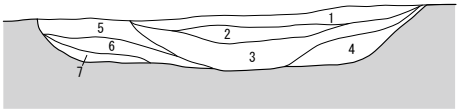
59.2m H'



1. 7.5YR3/2 黒褐色 極細砂混じり細砂
2. 7.5YR3/3 暗褐色 細砂質極細砂
3. 5YR3/2 暗赤褐色 細砂質極細砂
4. 5YR3/2 暗赤褐色 極細砂混じり細砂
5. 7.5YR2/2 黒褐色 シルト混じり極細砂
6. 5YR2/3 極暗赤褐色 中砂質細砂
7. 2.5YR3/1 暗赤灰色 細砂混じりシルト 炭化物を含む
8. 2.5YR2/2 極暗赤褐色 シルト質極細砂
9. 2.5YR3/2 暗赤褐色 粗砂～シルト

SD18
I——

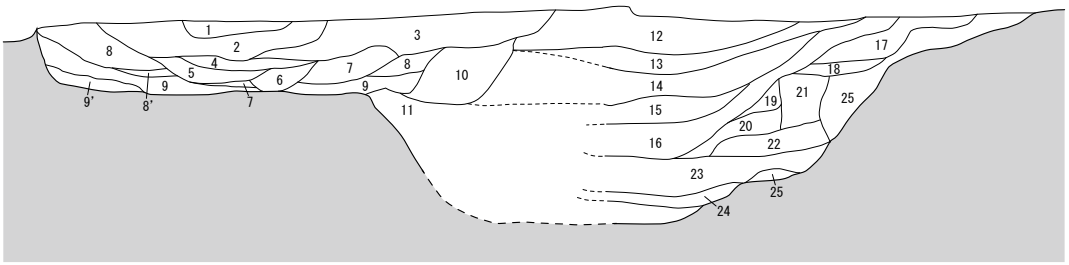
59.2m I'



1. 5YR4/1 ～ 3/1 褐灰色～黒褐色 シルト混じり細砂
2. 7.5YR3/2 黒褐色 シルトブロックを含む細砂（7.5YR4/2 灰褐色）
3. 7.5YR3/2 ～ 5YR3/2 黒褐色～暗赤褐色 中砂～細砂
4. 5YR2/3 極暗赤褐色 粗砂～極細砂
5. 7.5YR3/2 黒褐色 細砂混じり極細砂
6. 5YR3/2 暗赤褐色 シルト混じり極細砂
7. 5YR2/2 黒褐色 極細砂質シルト

SD18・21
J——

59.2m J'

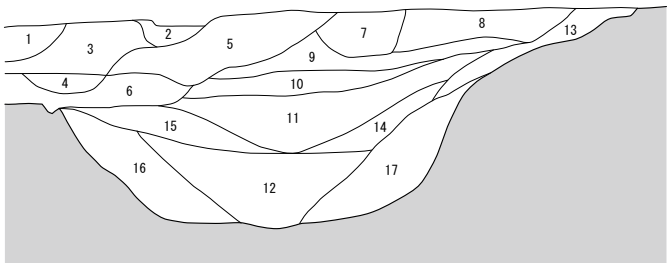


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂混じり細砂 鉄分集積
2. 5YR4/2 灰褐色 粗砂混じり中砂
3. 7.5YR3/1 黒褐色 極細砂質細砂
4. 5YR3/2 暗赤褐色 粗砂混じり中砂
5. 7.5YR3/2 黒褐色 中砂
6. 5YR3/2 暗赤褐色 極細砂混じり細砂～中砂
7. 2.5YR2/3 極暗赤褐色 細砂混じり中砂 マンガン集積
8. 2.5YR3/2 暗赤褐色 極細砂混じり細砂
8'. 2.5YR3/2 暗赤褐色 中砂
9. 5YR3/2 暗赤褐色 シルト混じり細砂
9'. 7.5YR3/2 黒褐色 シルト混じり細砂質極細砂
10. 2.5YR2/2 極暗赤褐色 シルト混じり細砂
11. 5YR3/3 暗赤褐色 極細砂若干混じり細砂
12. 5YR3/2 暗赤褐色 極細砂混じり細砂 遺物包含
13. 2.5YR3/1 暗赤灰色 細砂質極細砂
14. 5YR3/2 暗赤褐色 極細砂質シルト
15. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト
16. 5YR3/1 黒褐色 シルト混じり極細砂
17. 5YR2/1 黒褐色 シルト混じり極細砂
18. 2.5YR2/2 極暗赤褐色 極細砂質シルト ある時期の地表か
19. 10R2/1 赤黒色 極細砂混じり細砂 粒子荒い
20. 2.5YR3/2 暗赤褐色 シルト混じり細砂 粒子荒い
21. 10YR1.7/1 黒色 シルト混じり細砂
22. 5YR1.7/1 黒色 シルト
23. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト混じり中砂～細砂
24. 7.5YR3/3 暗褐色 シルト混じり極細砂質細砂～細砂
25. 10YR4/6 褐色 細砂混じりシルト ベース

津万 7区

No.1 東西トレンチ
K——

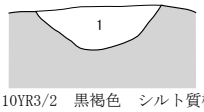
59.3m K'



1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂含む 畦畔の下部
2. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂、中礫含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂、中礫含む
4. 10YR3/2 黒褐色 極細砂～細砂 粗砂含む
5. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂含む
6. 10YR3/3 暗褐色 極細砂～中砂 粗砂含む
7. 10YR3/2 黒褐色 極細砂 粗砂、小礫を含む 畦畔の下部
8. 10YR3/3 暗褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂を含む
9. 10YR3/4 暗褐色 極細砂～細砂
10. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
11. 10YR3/3 暗褐色 シルト質極細砂～極細砂
12. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 粗砂含む
13. 10YR2/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂
14. 10YR3/3 暗褐色 極細砂～細砂 粗砂含む
15. 14 と同じ
16. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂 粗砂、黄色土ブロック含む
17. 10YR4/2 灰黄褐色 細砂～中砂

SD20
L——

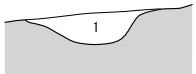
59.3m L'



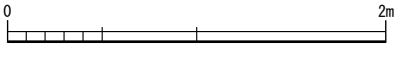
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト質極細砂～極細砂 （粗砂～中砂を多く含む）

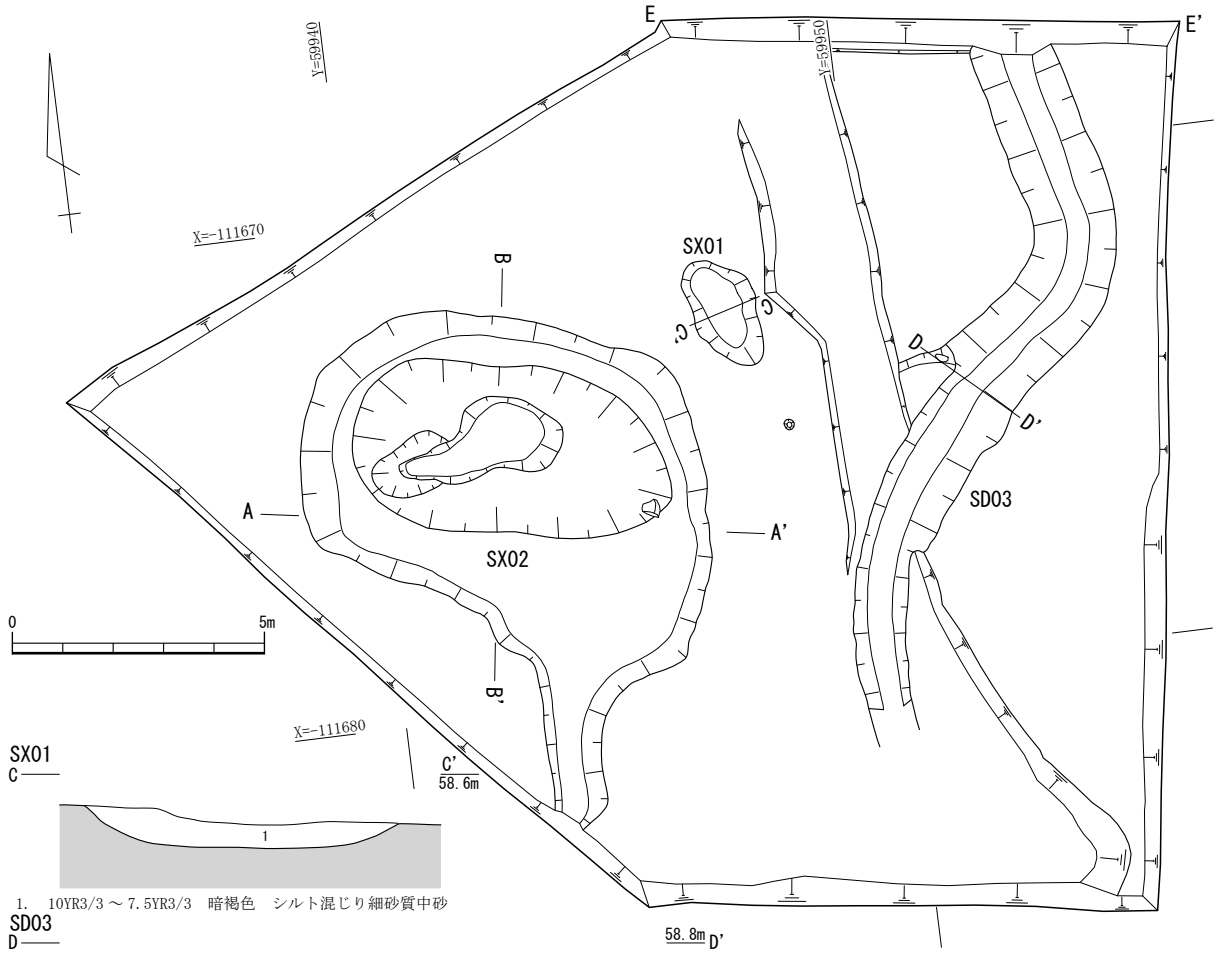
SD22
M——

59.3m M'



1. 10YR3/3 暗褐色 極細砂 粗砂を含む

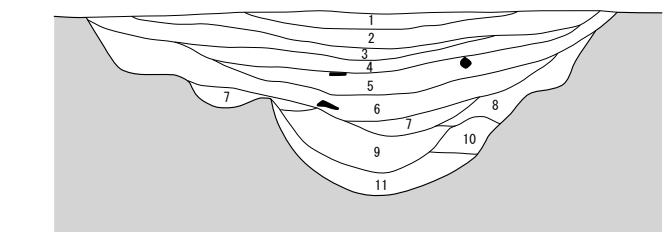




SX01

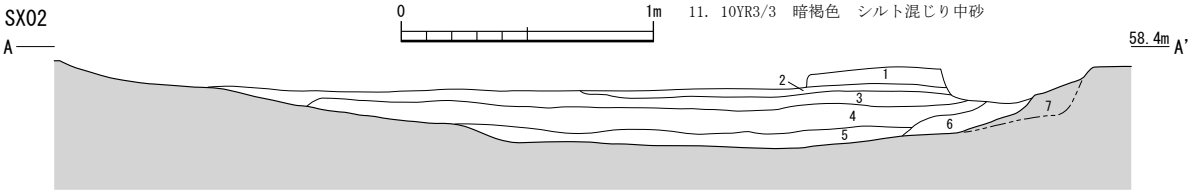
1. 10YR3/3 ～ 7.5YR3/3　暗褐色　シルト混じり細砂質中砂

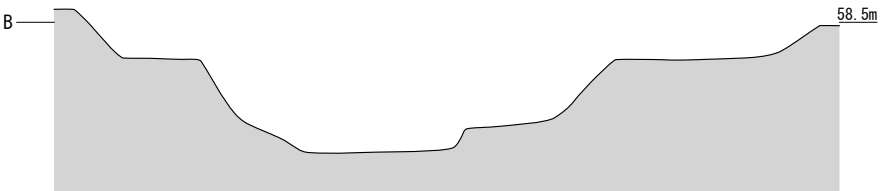
SD03



1. 7.5YR3/2　黒褐色　細砂
2. 10YR3/4　暗褐色　中砂～極細砂
3. 5YR3/2　暗赤褐色　シルト混じり中砂質細砂
4. 5YR2/2　黒褐色　極細砂・シルト混じり細砂　土器含む
5. 5YR2/3　極暗赤褐色　中砂混じりシルト質極細砂　土器含む　黄色土ブロック入る
6. 7.5YR3/2　黒褐色　シルト混じり中砂　土器含む
7. 7.5YR2/1　黒色　シルトブロックを多く含む中砂
8. 5YR3/1　黒褐色　中砂混じりシルト
9. 10YR3/1　黒褐色　シルト混じり細砂質中砂　グライ化
10. 5YR2/2　黒褐色　中砂混じりシルト
11. 10YR3/3　暗褐色　シルト混じり中砂

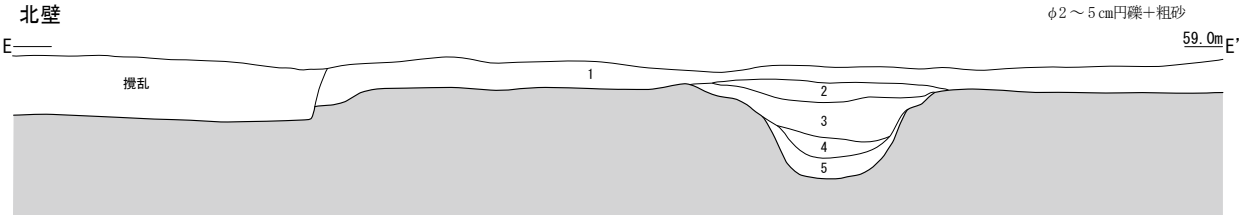
SX02





1. 7.5YR3/3　暗褐色　細砂質極細砂　φ3 cmの円礫が混じる
2. 10YR3/2　黒褐色　シルト混じり極細砂（洪水層）
3. 7.5YR3/1　黒褐色　腐食質シルト
4. 7.5YR2/1　黒色　腐食質シルト（植物が未分解）
5. 10YR3/1　黒褐色　細砂混じり腐食質シルト
6. 10YR2/1　黒色　シルト混じり細砂　腐食物混じる
7. 10YR3/2 ～ 4/2　黒褐色～灰黄褐色　砂礫層　φ2 ～ 5 cm円礫＋粗砂

北壁



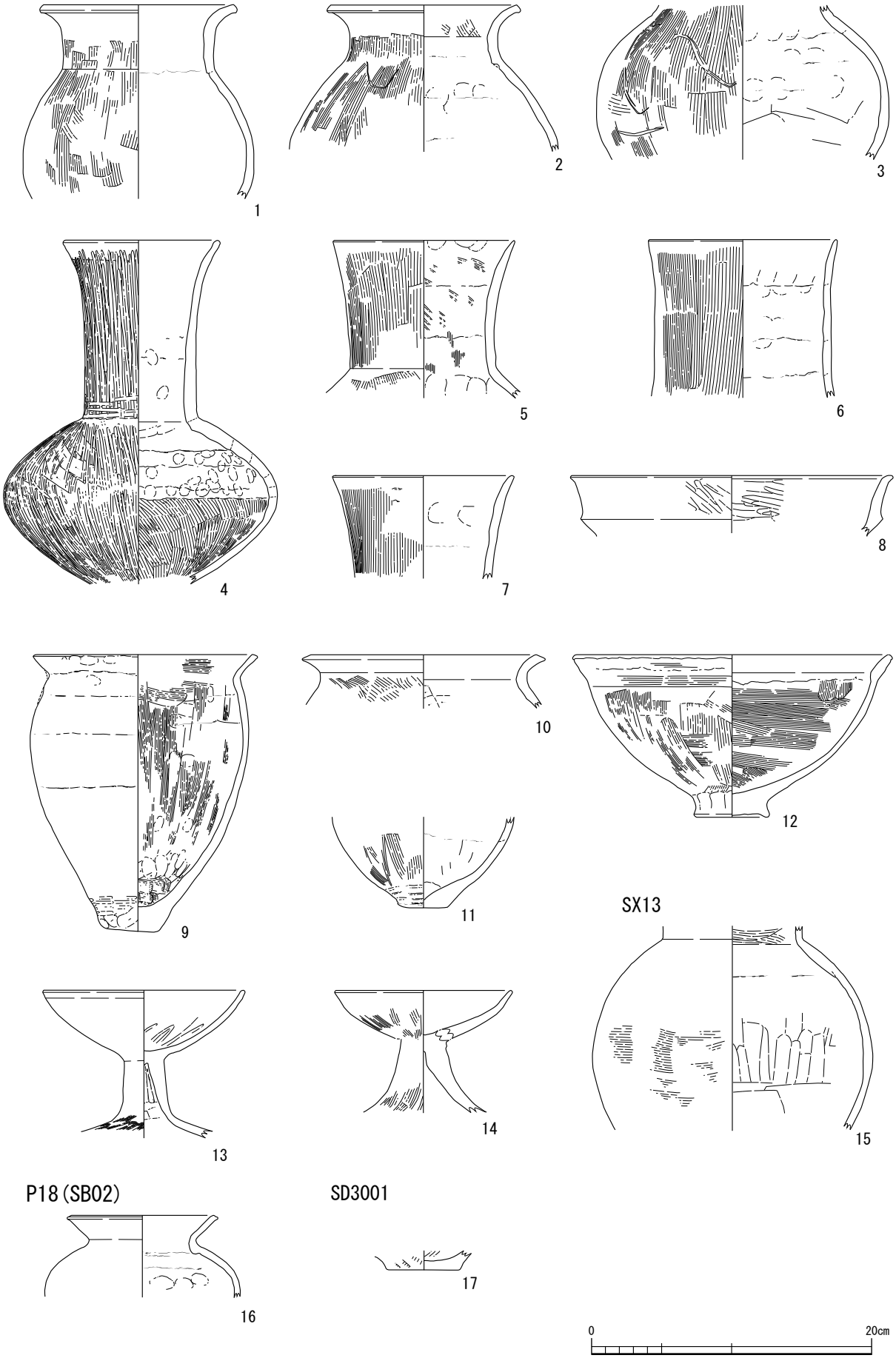
1. 耕土
2. 攪乱（圃場の盛土）
3. SD03 断面　1 ～ 7 層
4. SD03 断面　8・9 層
5. SD03 断面　10・11 層

0　2m

津万８区　　全体図・溝・不明遺構・北壁土層断面

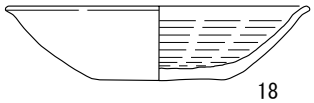
図版 82

SH01



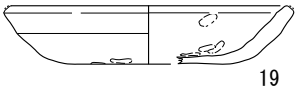
3西区　出土土器 1

P01



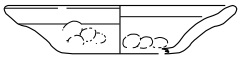
18

SK01

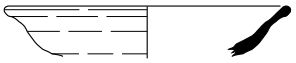


19

SK04

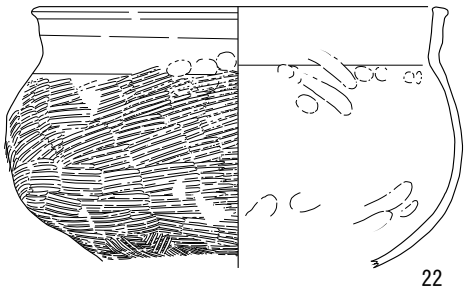


20

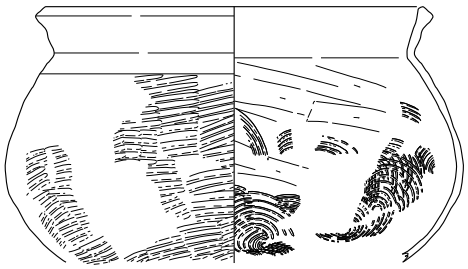


21

SK06・07

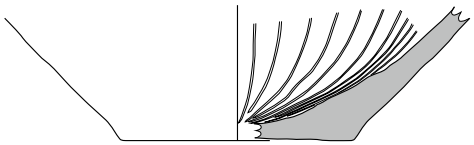


22



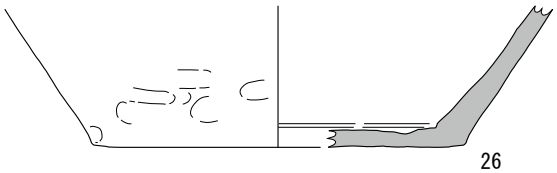
23

SK13

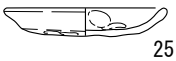


24

SK16

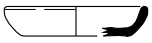


26



25

SD11

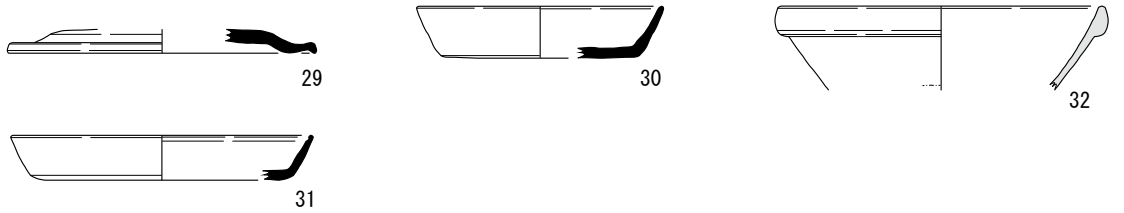


27

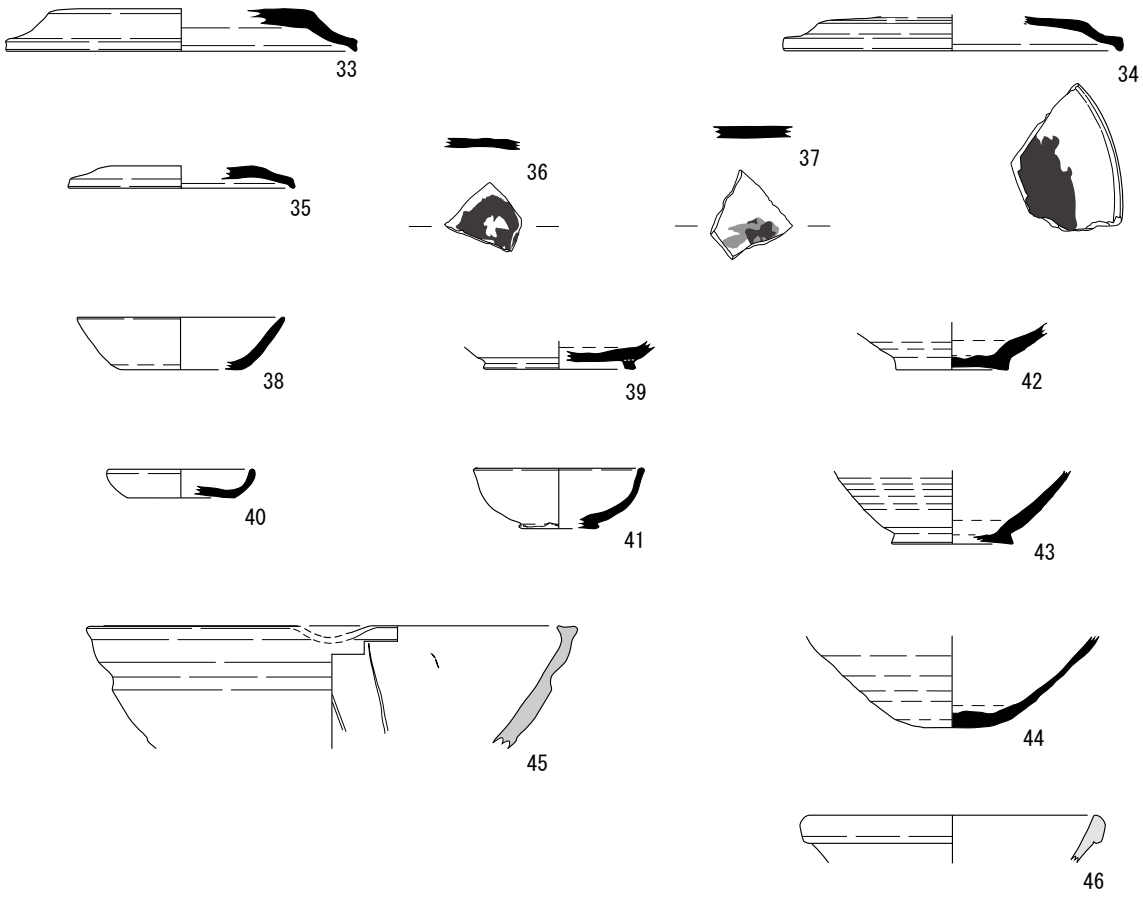
28

3西区　出土土器2

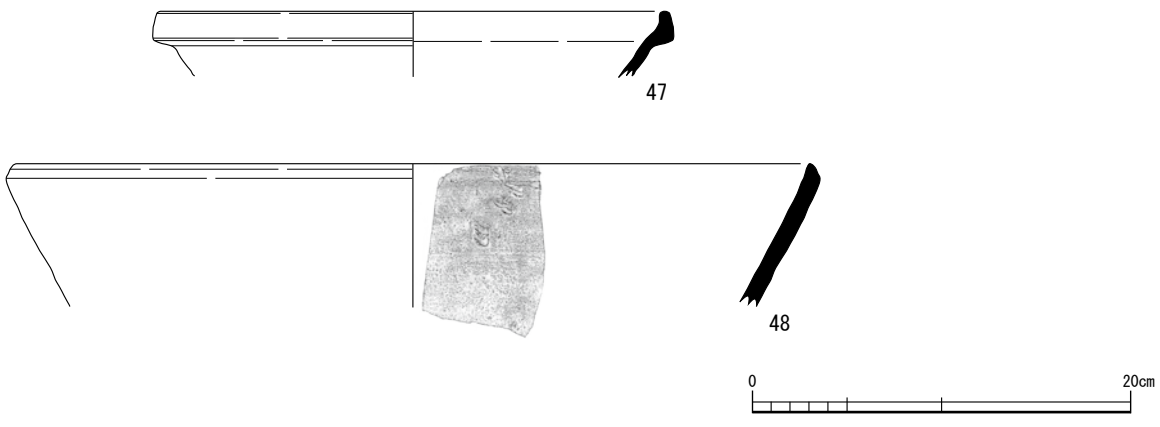
下層水田



中層水田

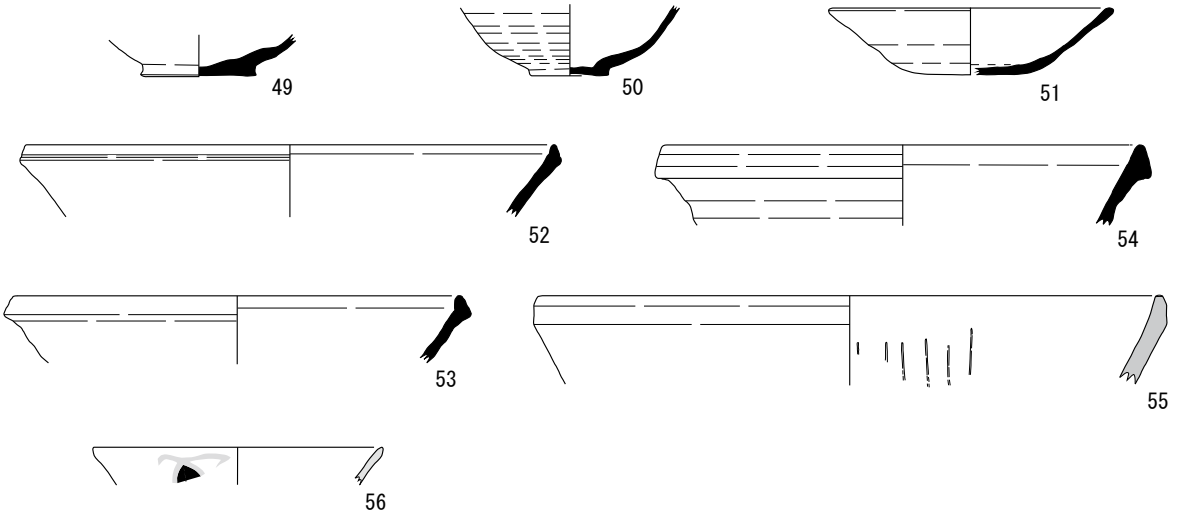


中層水田肩部

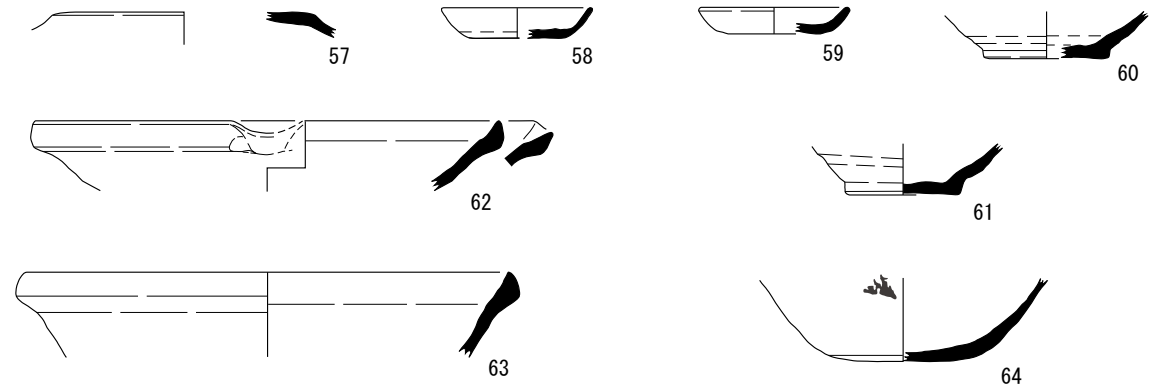


3西区　出土土器3

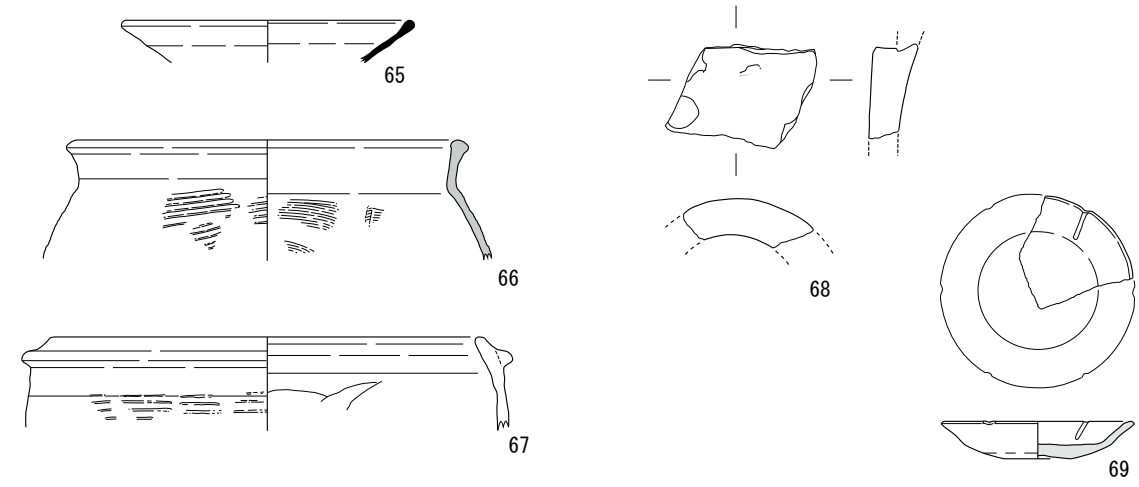
上層水田



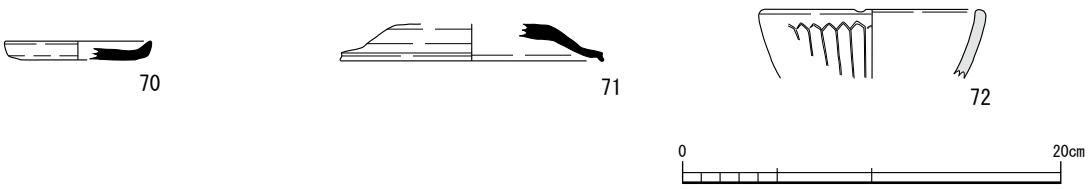
上層水田被覆土



微高地包含層

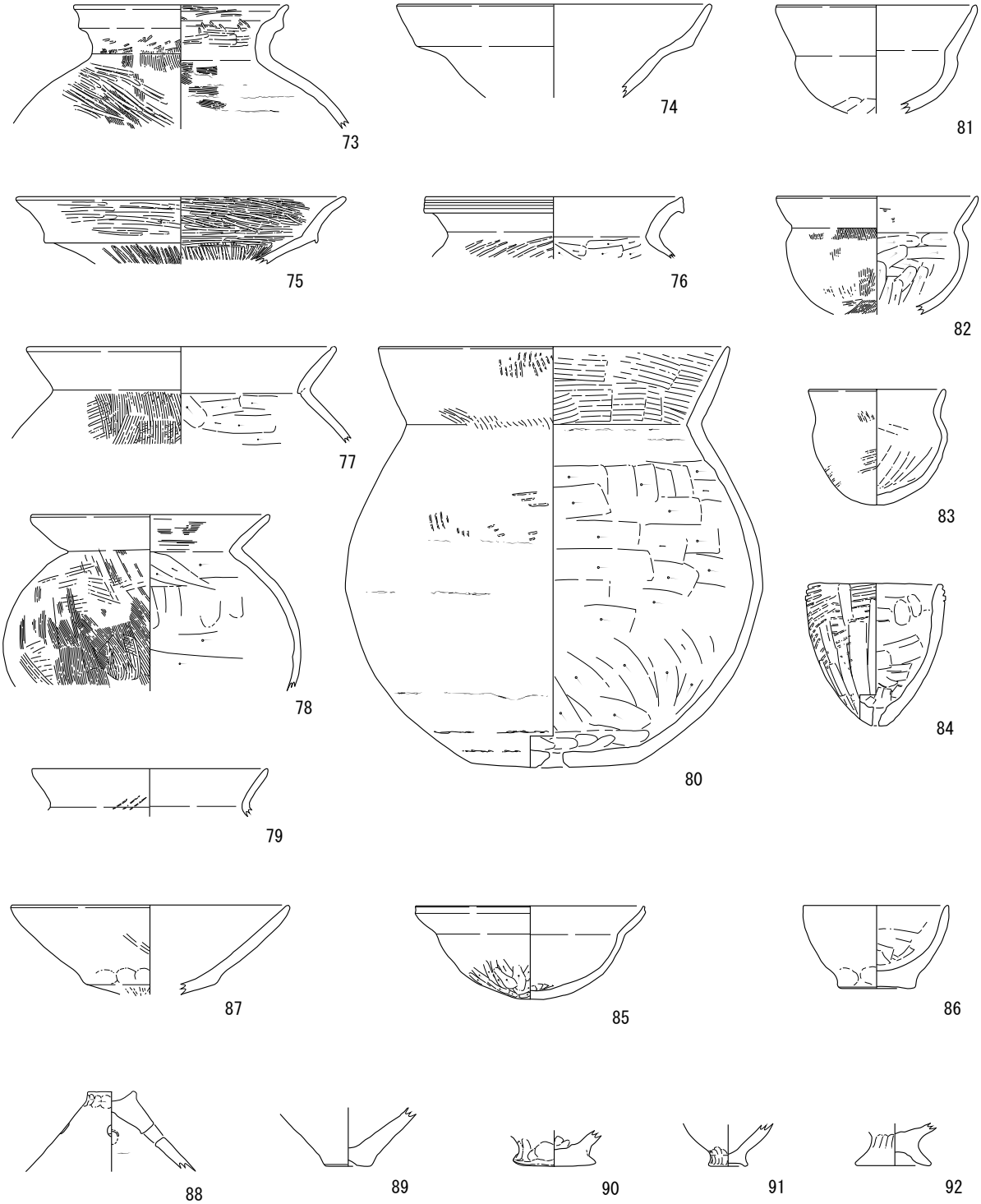


土手及び機械掘削

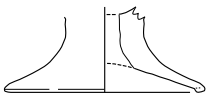


3西区　出土土器4

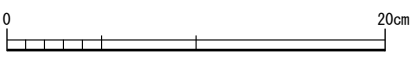
3中央区 SH02



SK24 中央土坑（SH02）

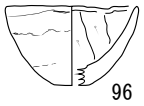


P77(SH02)

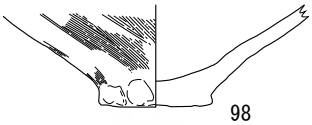


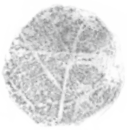
3中央区　出土土器1

SH01

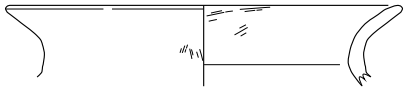

96

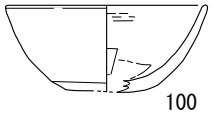
97

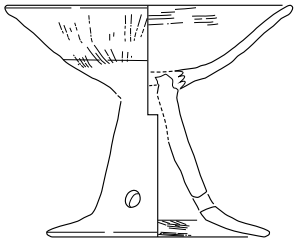

98

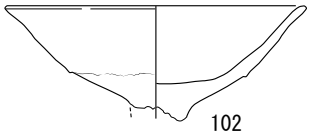


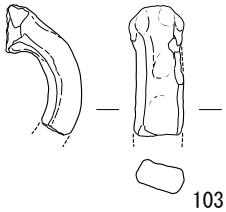
SH03


99

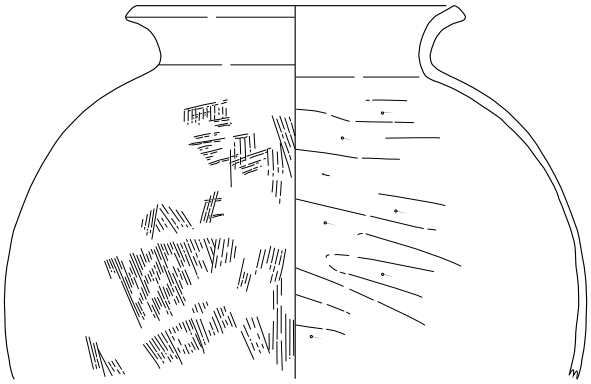

100

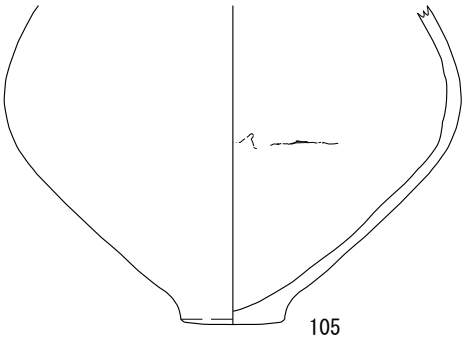

101

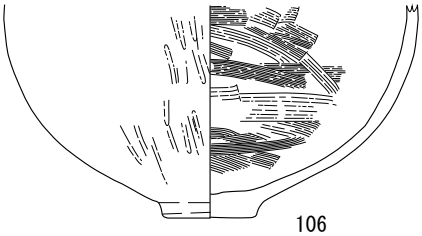

102

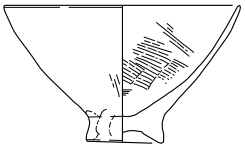

103

SH04


104


105

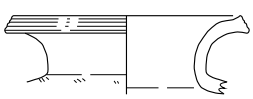

106

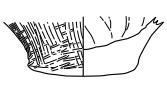

107

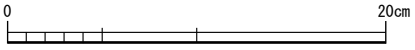
108

109

SK08


110

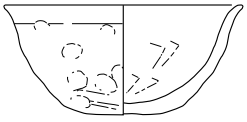

111



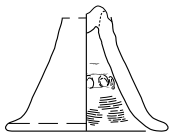
３中央区　出土土器２

図版 88

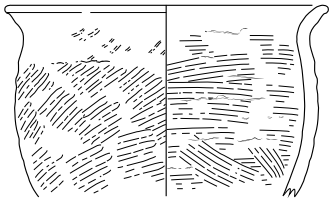
SX02

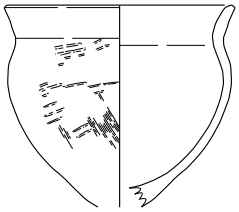

112

113


114

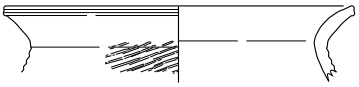
SX04

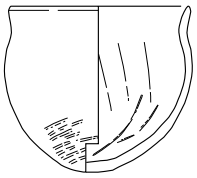

115

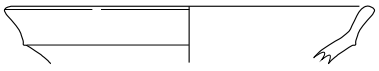

118

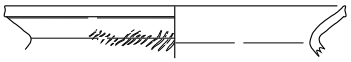
120

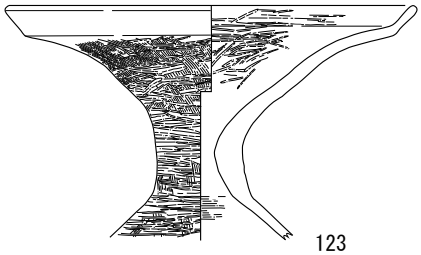
121

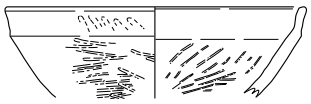

116

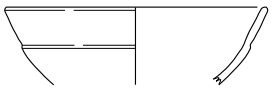

119

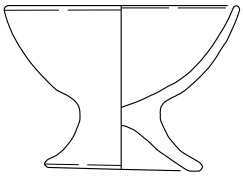

122

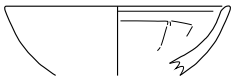

117


123


124


126


125


127

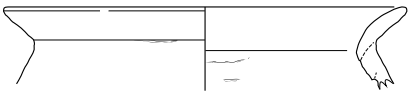
128

129

130

131

P32 (SB05)


132

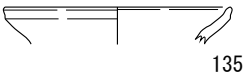
P33 (SB05)

133

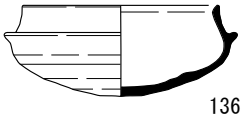
P68

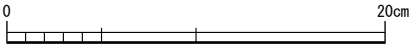
134

P136


135

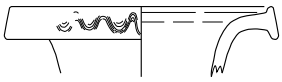
P64

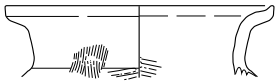

136

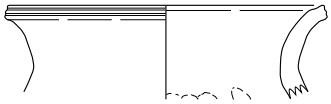


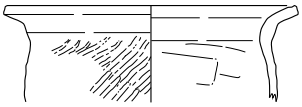
３中央区　出土土器３

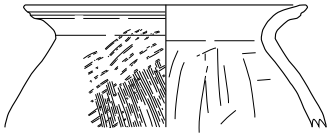
SD01

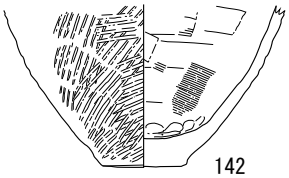

137

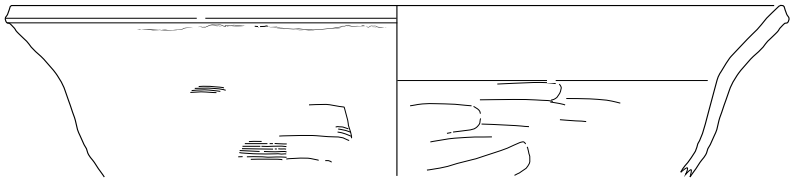

138

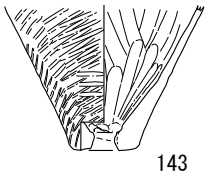

139

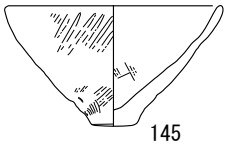

140

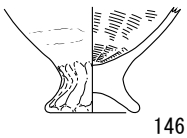

141

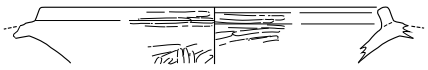

142

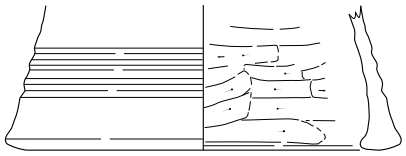

144


143


145

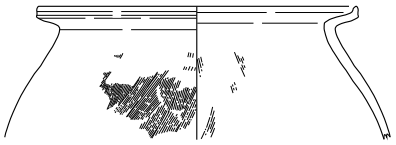

146

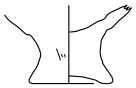

147

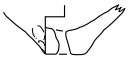

148

SD17

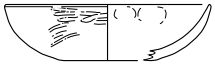
149

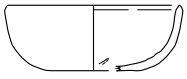

150

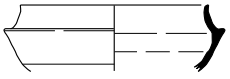

151


152

SD13

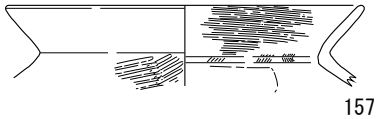

153


154

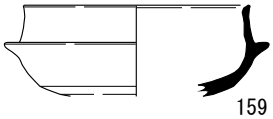

155

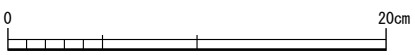
156

包含層


157

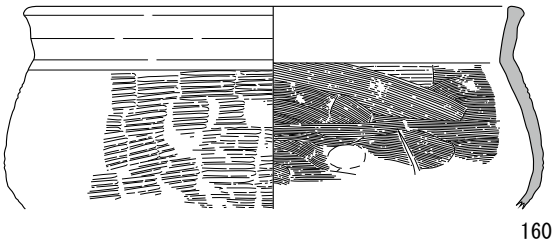
158


159

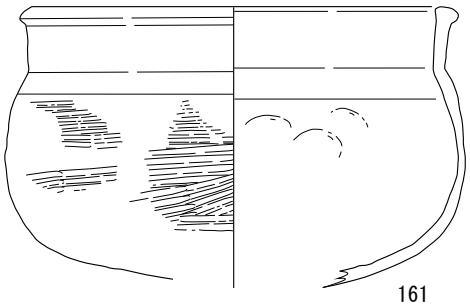


３中央区　出土土器４

SK01



160

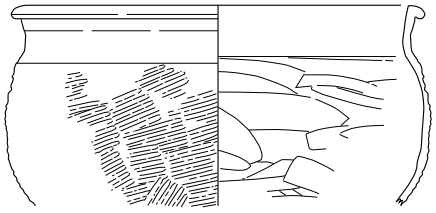


161

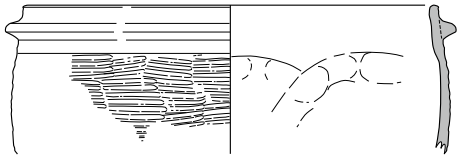
SK02

162

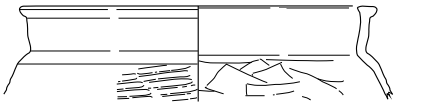
SK07



163



165

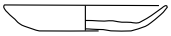


164

SK20

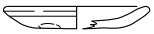
166

167

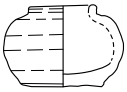


168

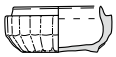
SK21



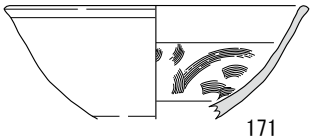
172



169



170

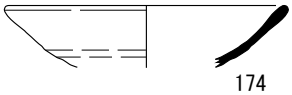


171

SK26

173

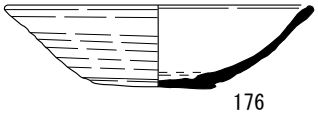
SK27 (P70)



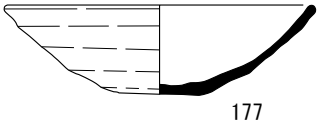
174

SK27

175



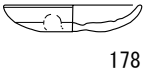
176



177

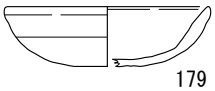
３中央区上層　出土土器１

P63 (SB06)



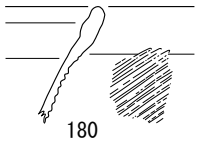
178

P28 (SB06)



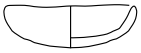
179

P103 (SB06)



180

P06



181

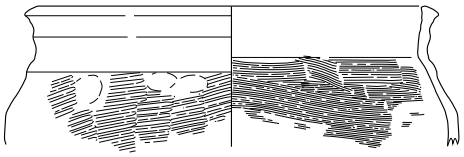
P47

182

P144

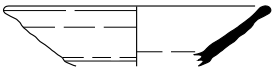
183

SX03



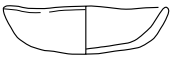
184

P38

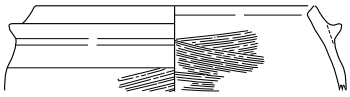


185

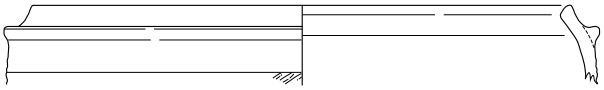
包含層



186



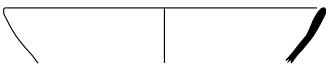
187



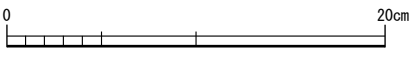
188

189

190

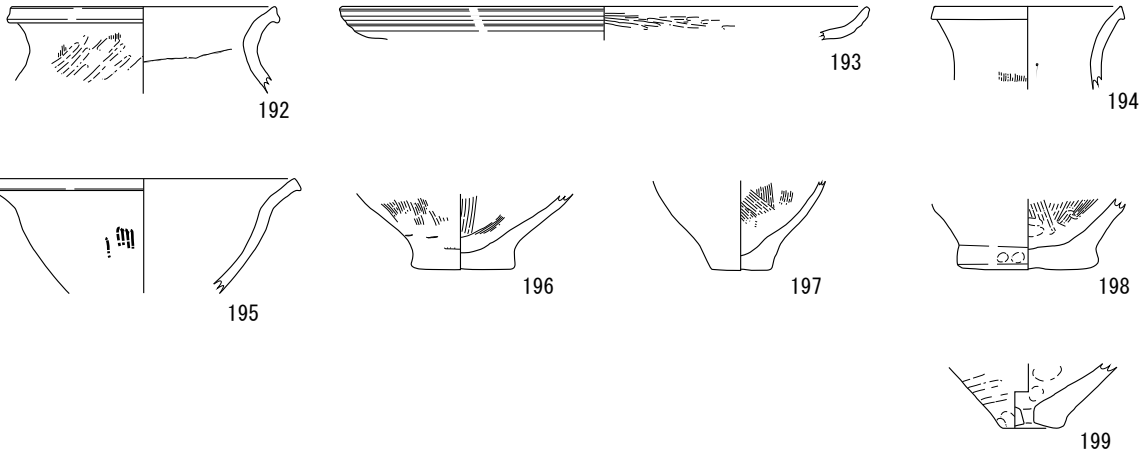


191

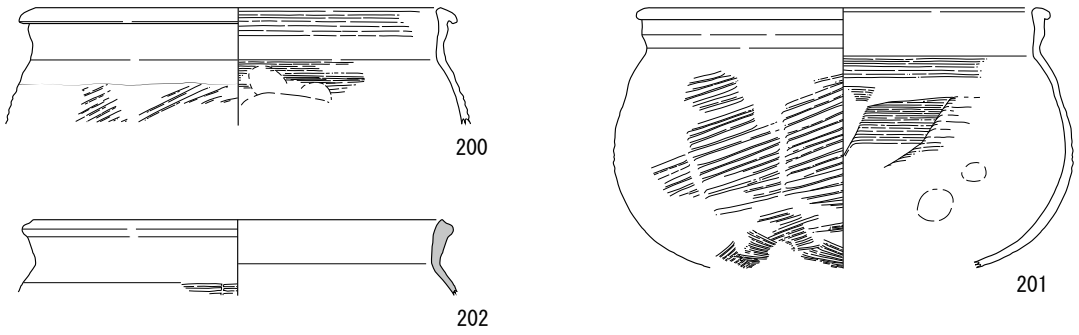


３中央区上層　出土土器２

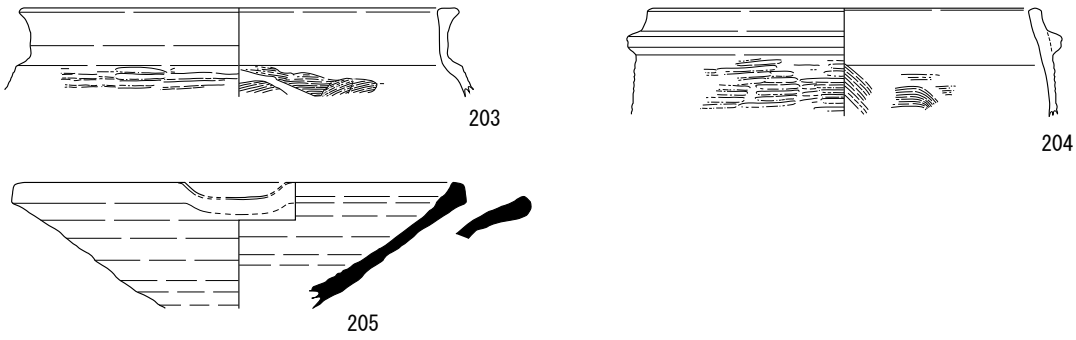
SD04



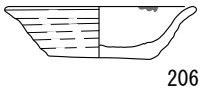
SK03

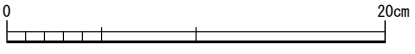


SD01

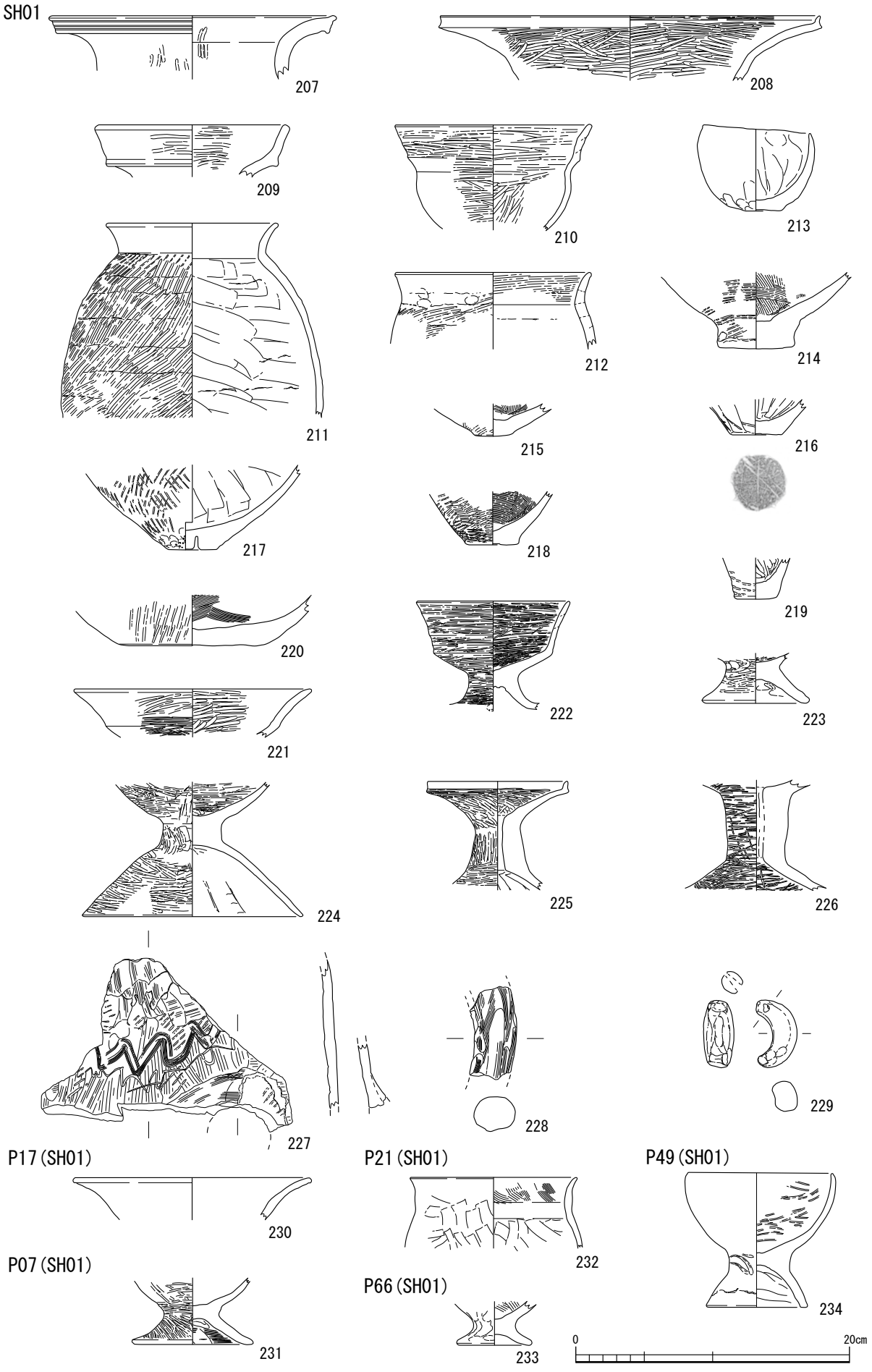


包含層(SD04)



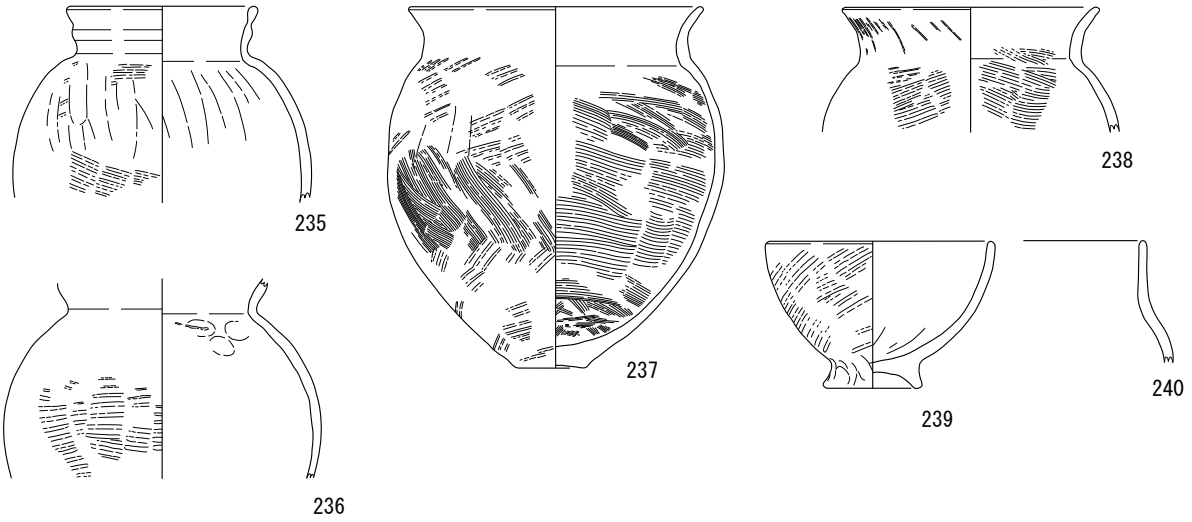


3東区　出土土器

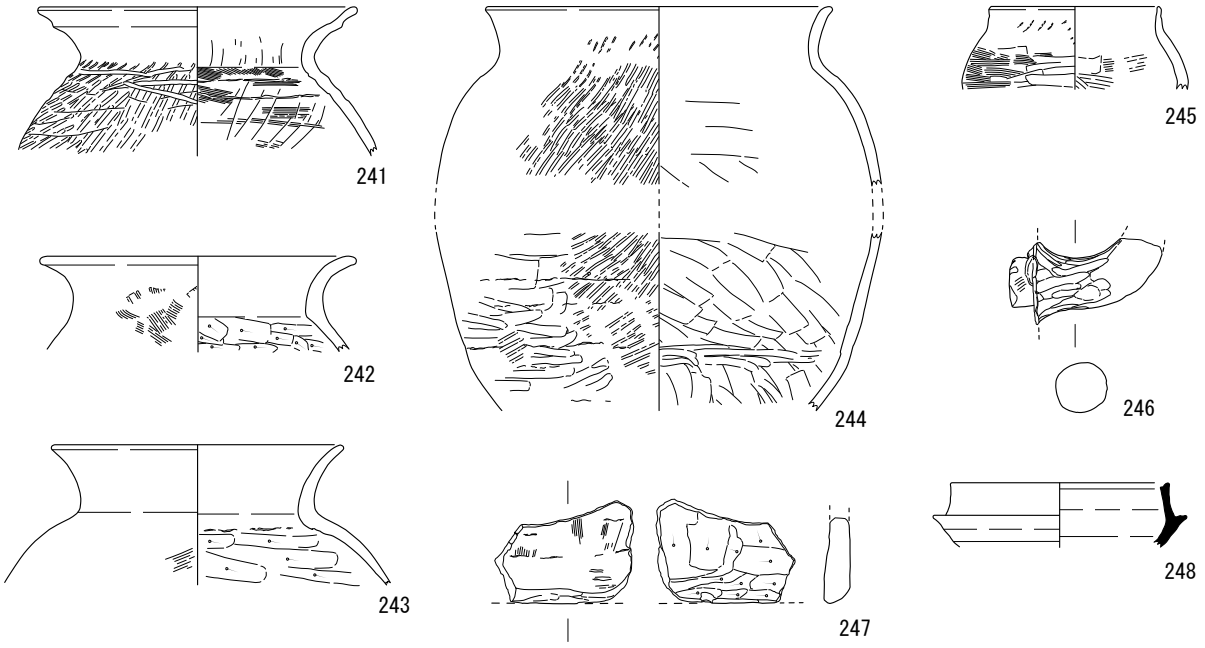

SH01
207
208
209
210
213
211
212
214
215
216
217
218
219
220
222
223
221
224
225
226
227
228
229
P17(SH01)
230
P21(SH01)
232
P49(SH01)
P07(SH01)
231
P66(SH01)
233
234
0
20cm

4西区　出土土器 1

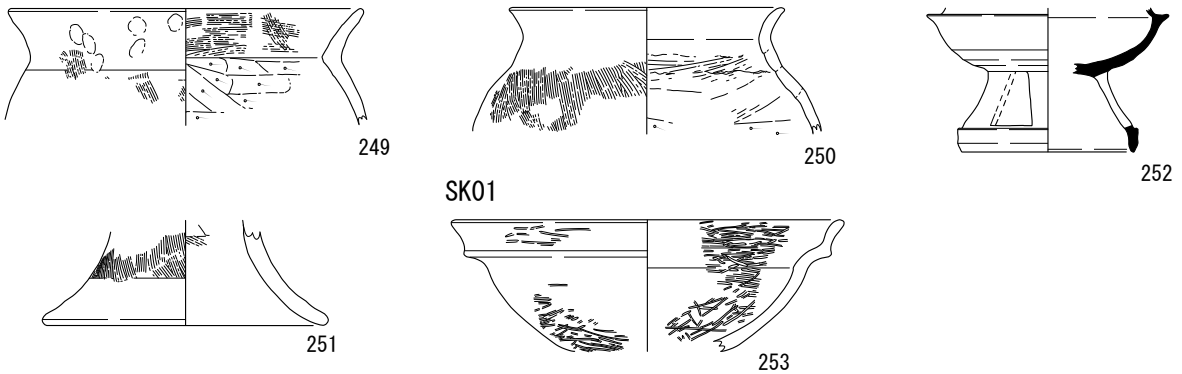
SK16（SH01 内）



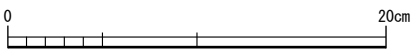
SD01（SH01 上）



SD01

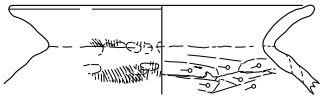


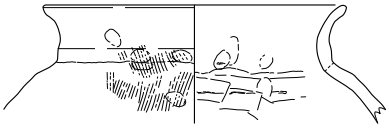
SK01

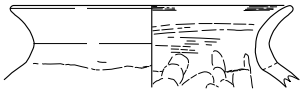


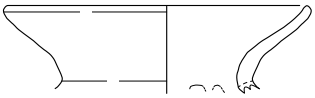
４西区　出土土器２

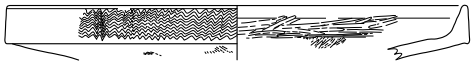
SH02

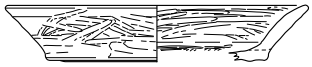

254


255

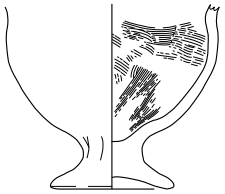

256


257


258


259

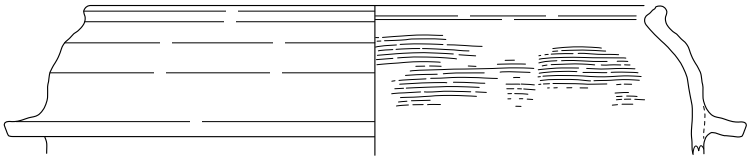
SK10


260

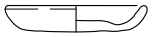
P57

261

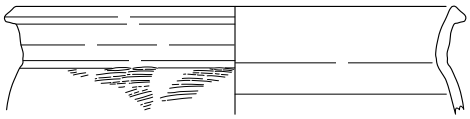
P12 (SB01)

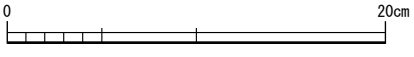

262

P25 (SB01)


263

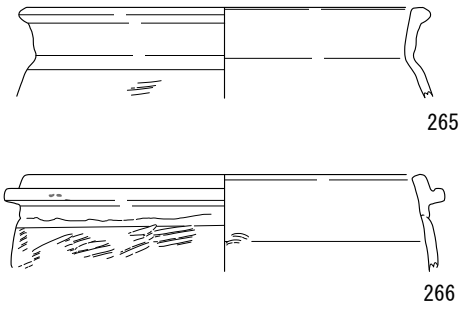
P58

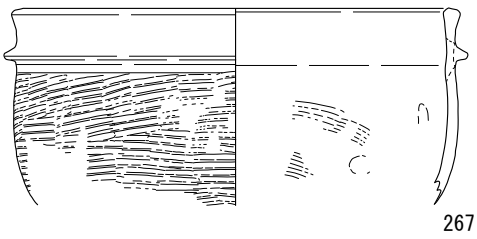

264

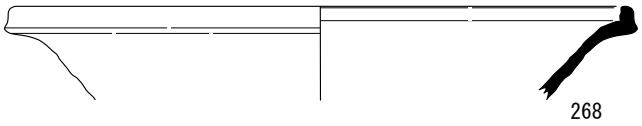


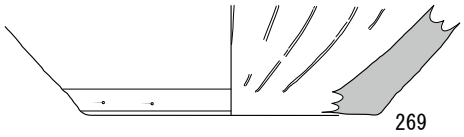
4西区　出土土器3

SK01

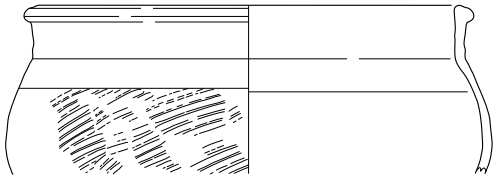




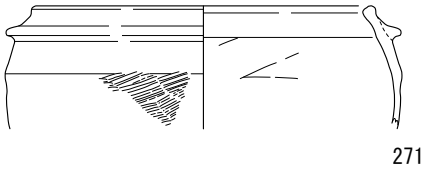




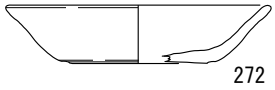
SK02

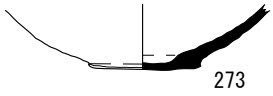


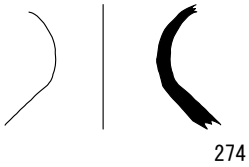
SK06



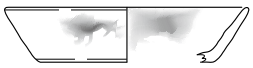
SD04

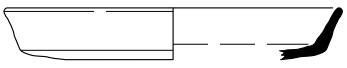


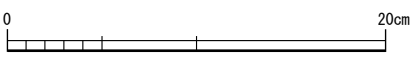




包含層　人力

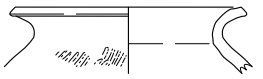


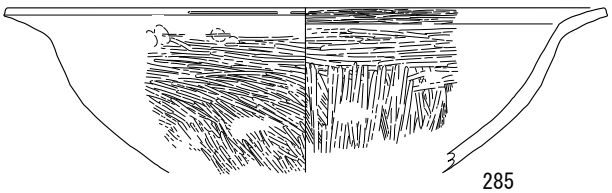


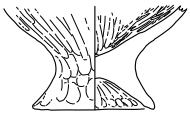


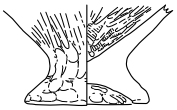
4西区　出土土器4

SD03

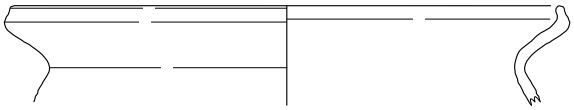

282


285


283


284

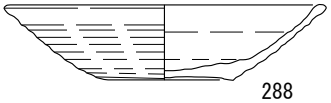
P2-3(SB01)


286

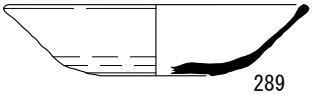
P2-3(SB01)

287

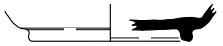
P4-2(SB01)

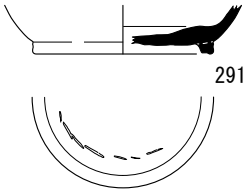

288

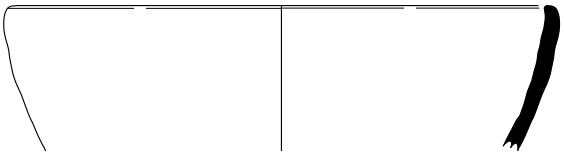
P15

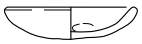

289

包含層


290

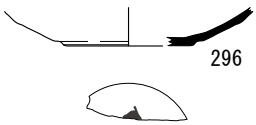

291

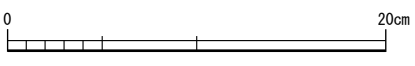

292


293

294

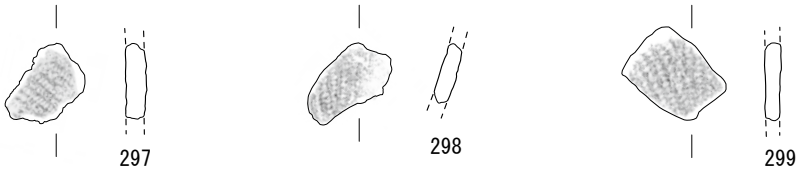
295


296



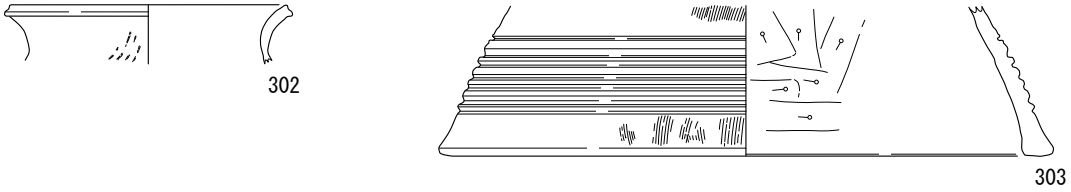
4中央区　出土土器

T22　縄文

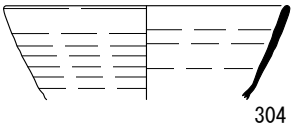


SD01

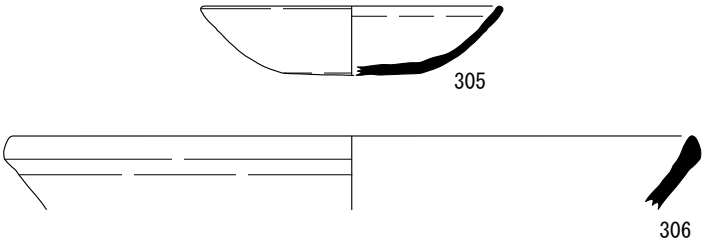
SD10



P63 (SB01)



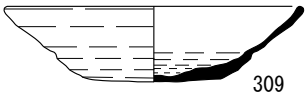
P03 (SB02)



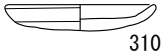
P06 (SB04)

P33 (SB04)

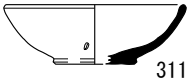
P02



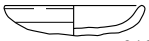
P07

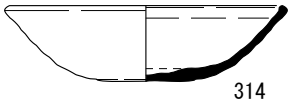


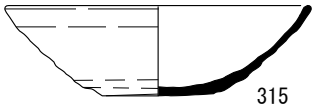
P69

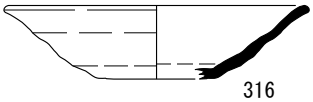


SK04

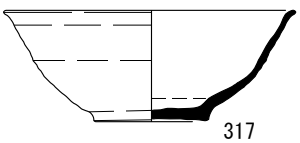


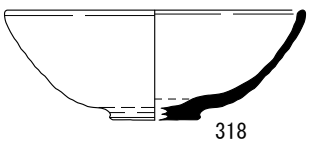


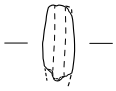


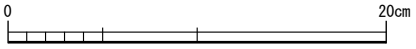


包含層



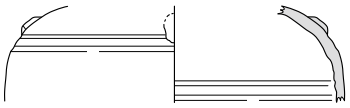






4東区　出土土器

5西区 包含層



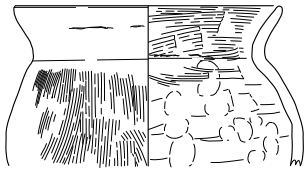
320

5東区

SK19

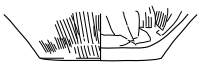
321

SD01



322

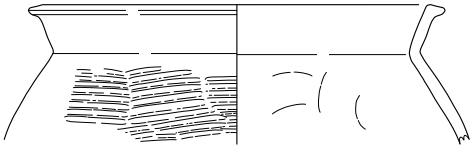
SD18



323

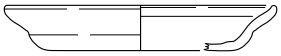
SB01

P01 (SB01)



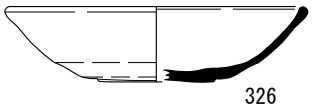
324

P07 (SB01)

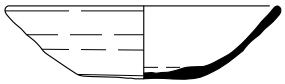


325

P34 (SB01)

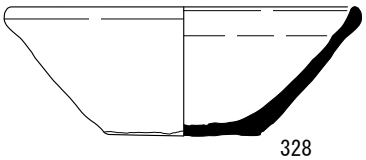


326



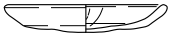
327

P35 (SB01)



328

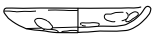
P37 (SB01)



329

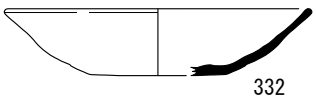
SB02

P46 (SB02)



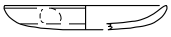
330

331

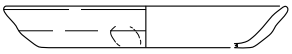


332

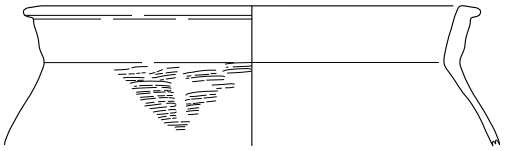
P56 (SB02)



333

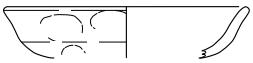


334



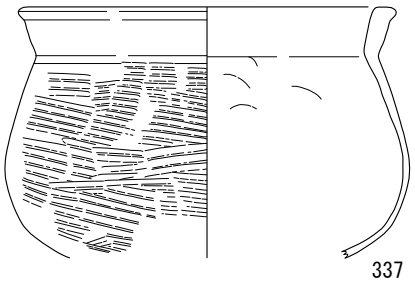
335

P72 (SB02)



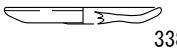
336

P77 (SB02)

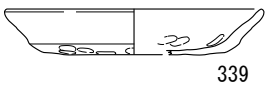


337

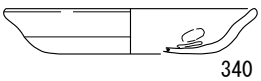
P94 (SB02)



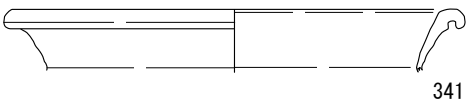
338



339

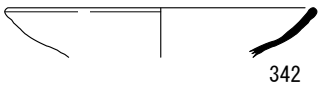


340



341

P147 (SB02)

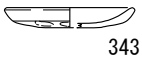


342

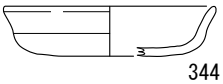
0 20cm

5西区 出土土器・5東区 出土土器1

SB03　P105 (SB03)

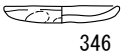

343

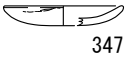
P117 (SB03)


344

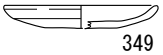
345

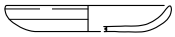
P131 (SB03)

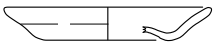

346

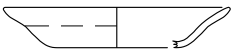

347

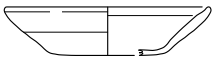
348

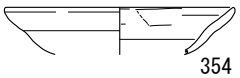

349

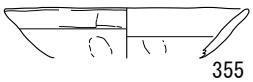

350

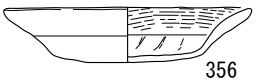

351

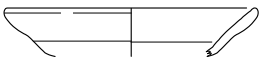

352

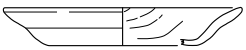

353


354

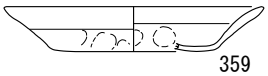

355


356


357


358

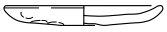
P128 (SB03)

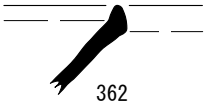

359

360

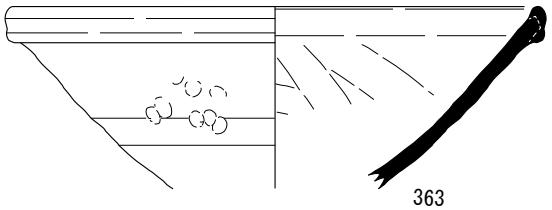
SB04

P67 (SB04)


361


362

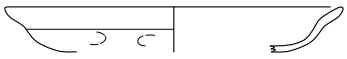
P111 (SB04)


363

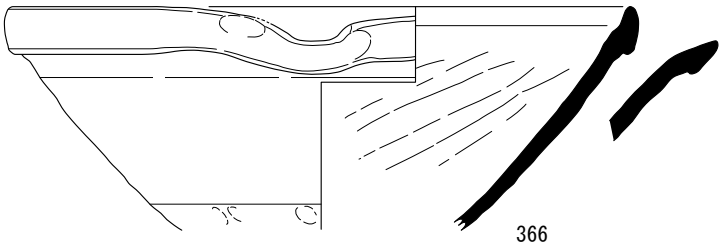
SB05

P49 (SB05)

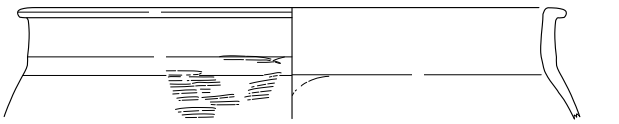
364


365

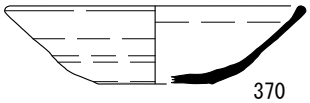
P61 (SB05)


366

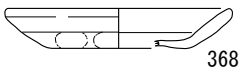
P81 (SB05)


367

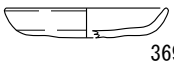
P177 (SB05)

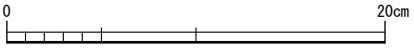

370

P95 (SB05)


368

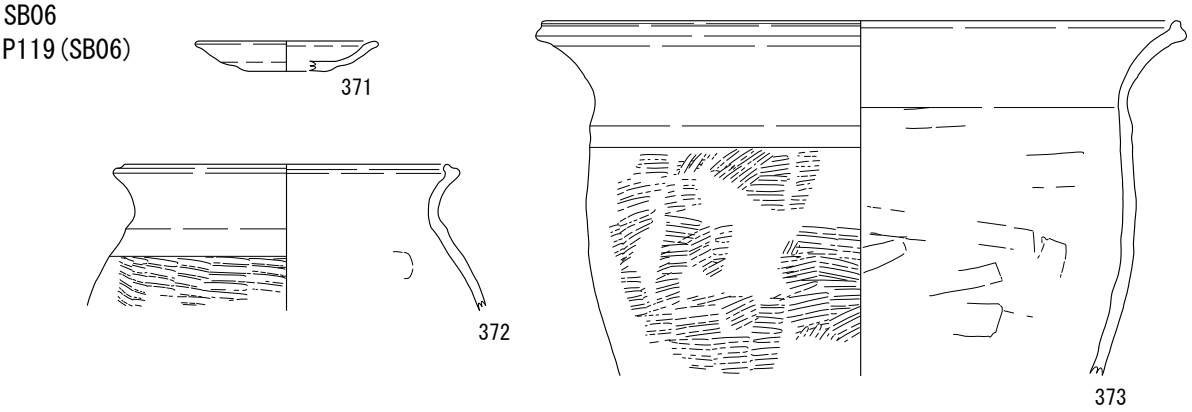
P176 (SB05)

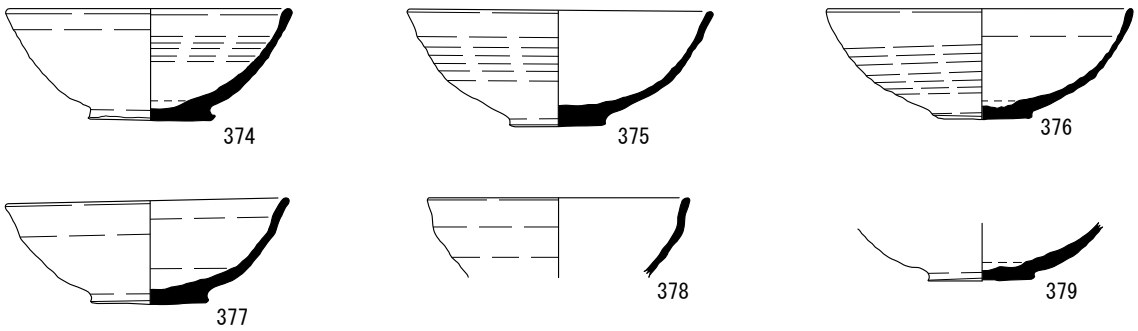

369



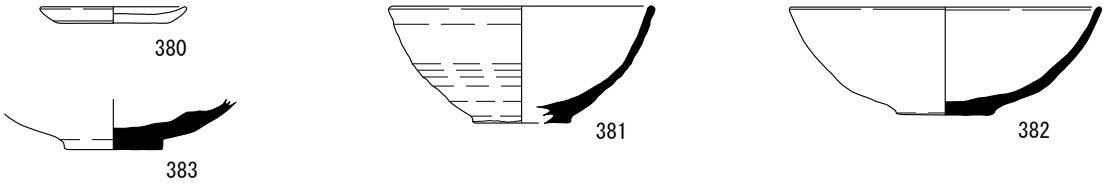
５東区　出土土器２

SB06
P119 (SB06)



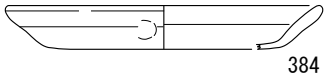


P120 (SB06)

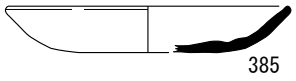


その他 Pit

P55



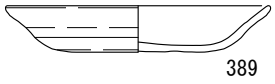
P64



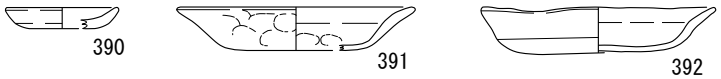
P66

P69

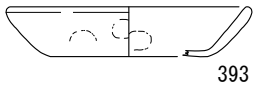
P84



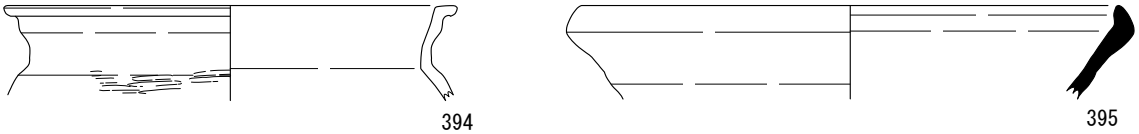
P86



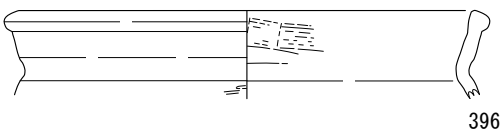
P100



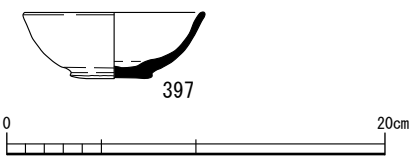
P100



P106



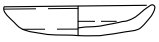
P107



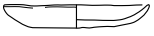
５東区　出土土器３

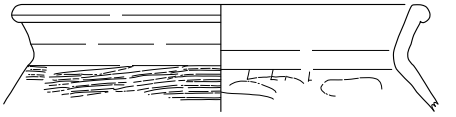
図版 102

P170

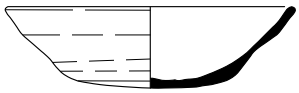

398

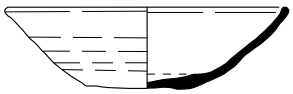
P167

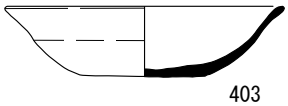

399

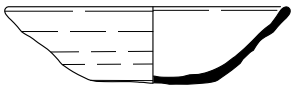

400

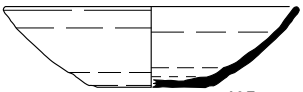
集石長方形土坑 SK02

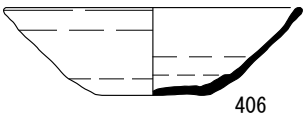

401

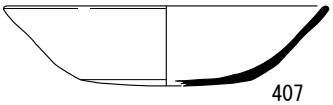

402

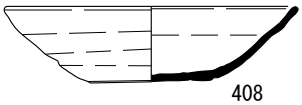

403


404

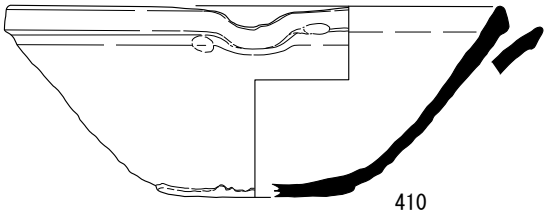

405

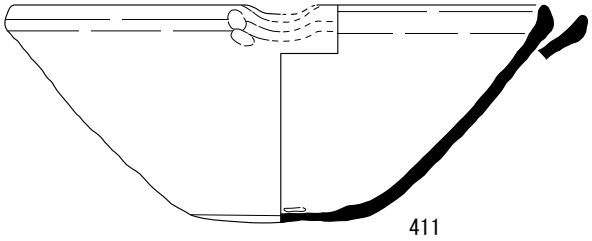

406

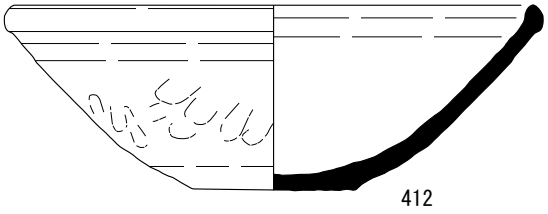

407

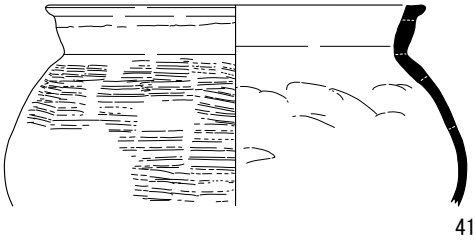

408

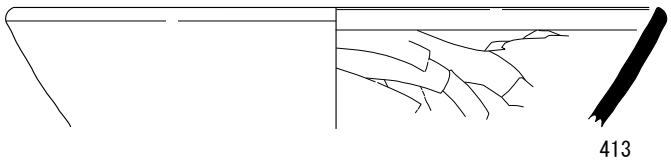
409

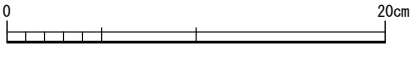

410


411


412

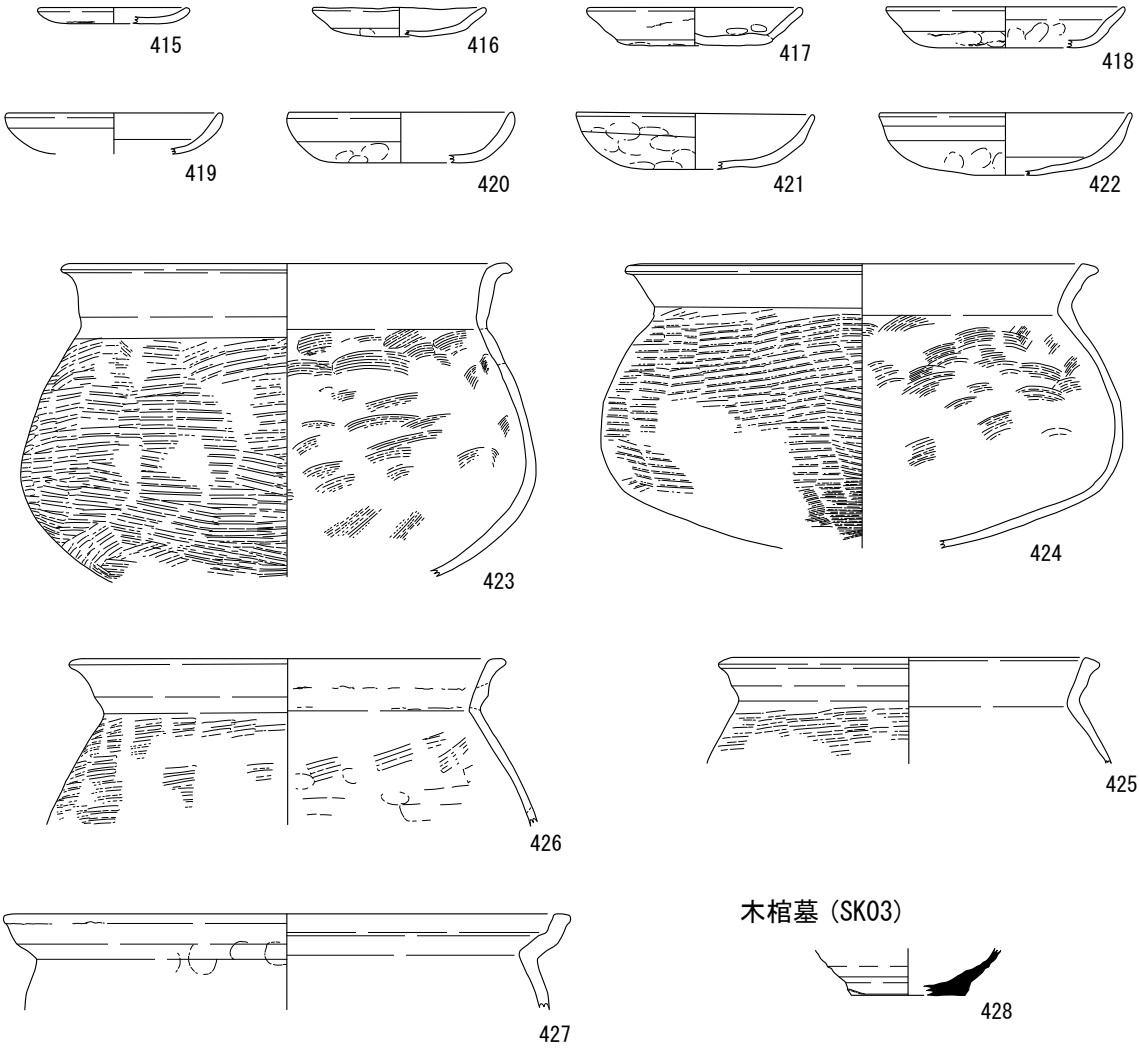

414


413



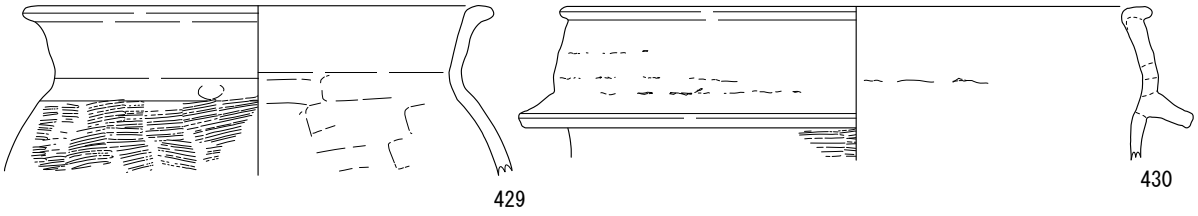
５東区　出土土器４

集石長方形土坑　SK02

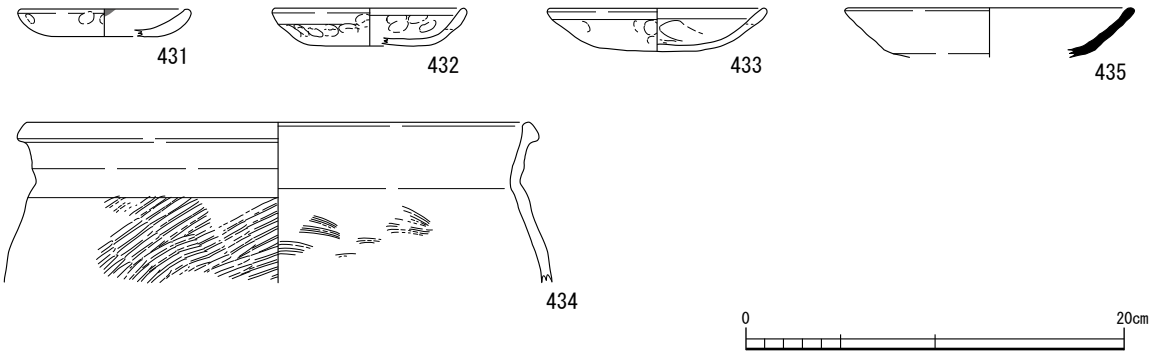


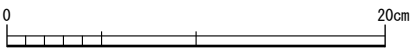
木棺墓（SK03）

SK06



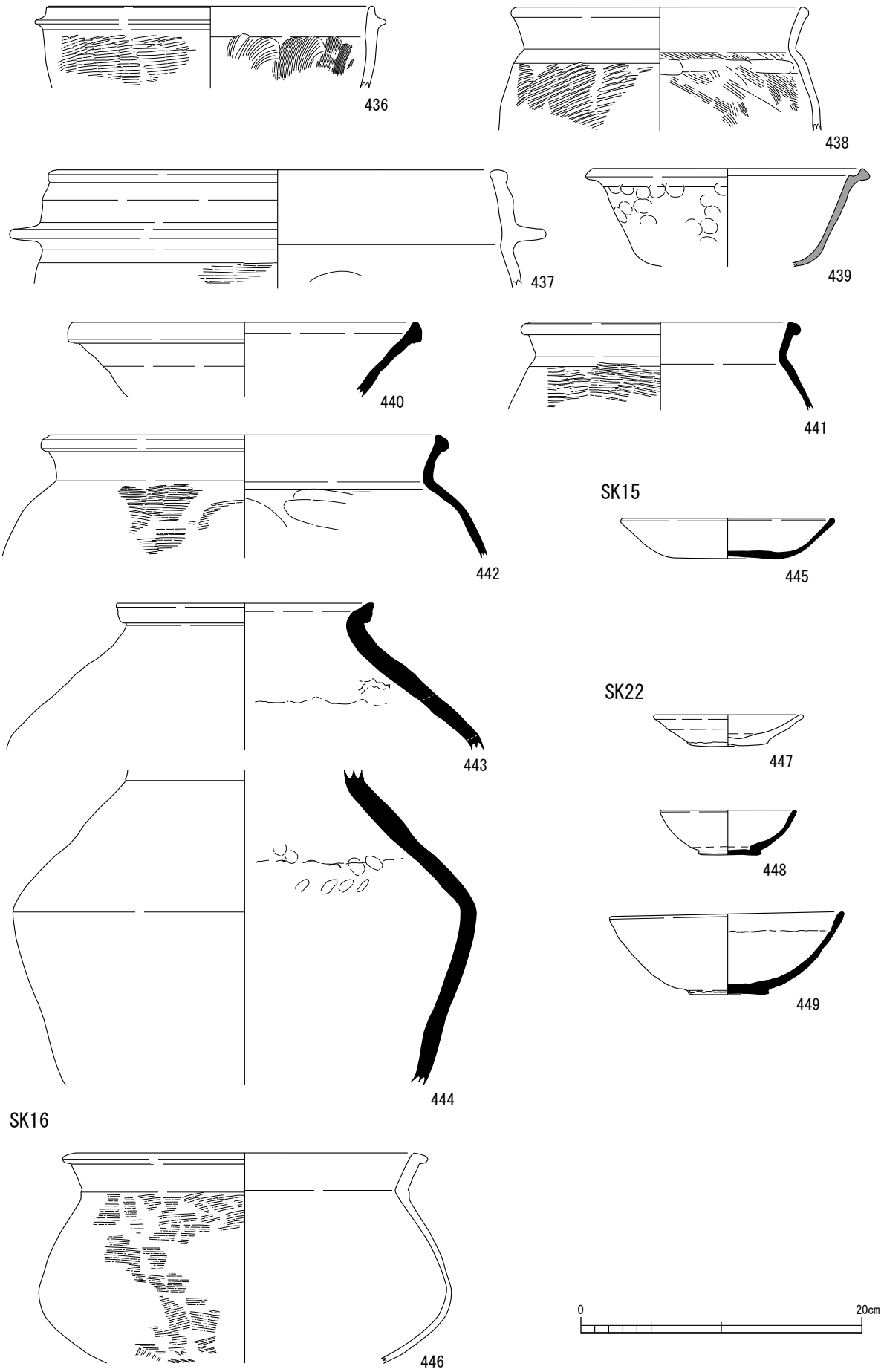
SK10



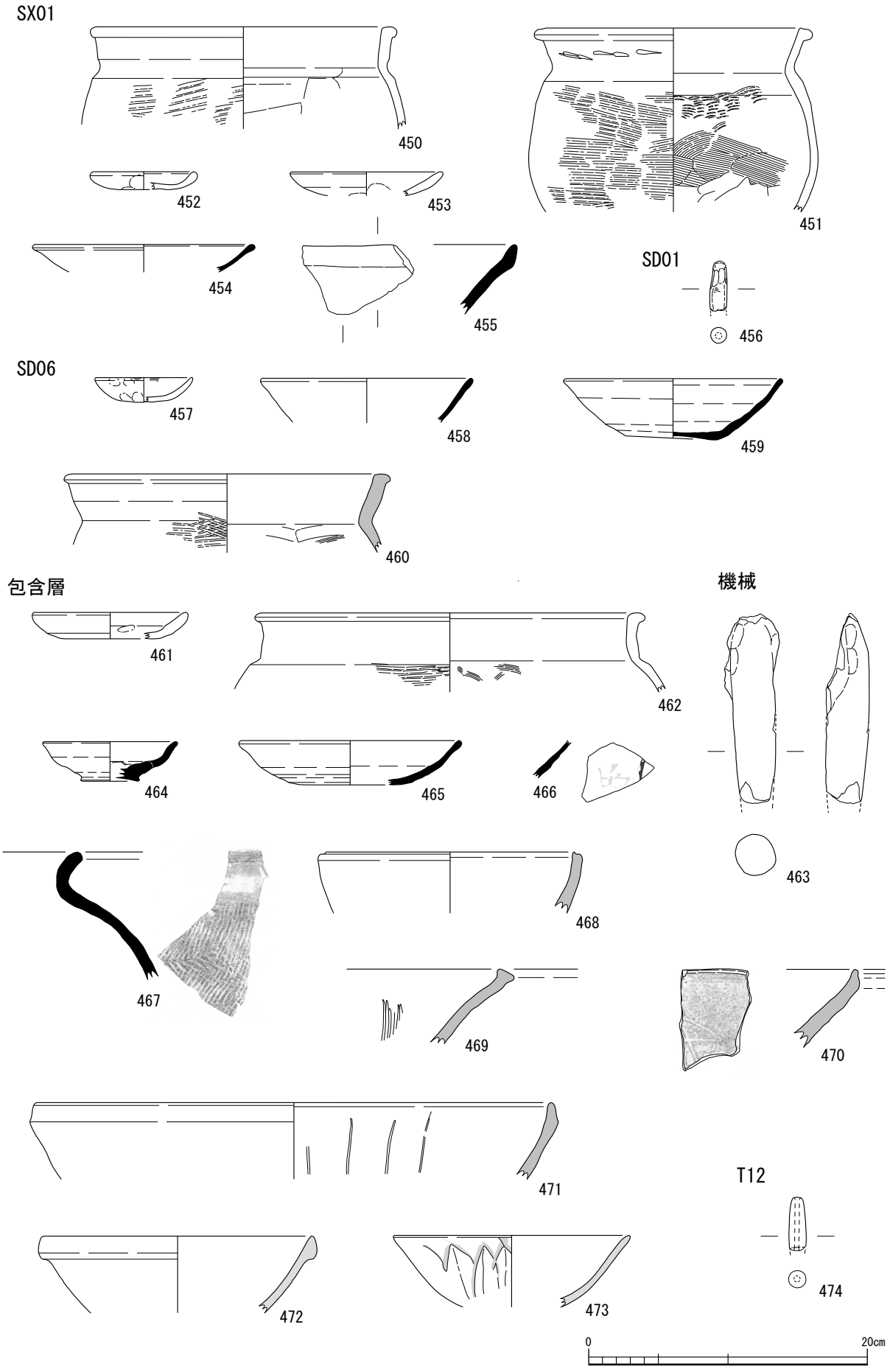


５東区　出土土器５

集石土坑 SK14

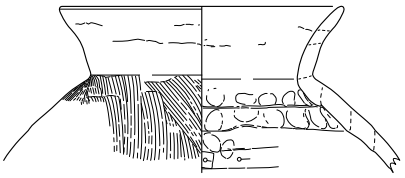


５東区　出土土器６


SX01
450
451
452
453
454
455
SD01
456
SD06
457
458
459
460
包含層
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
機械
T12
474
0
20cm

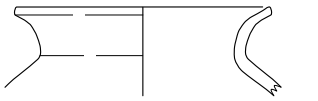
５東区　出土土器７

SH09



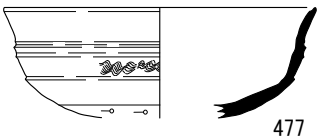
475

粘土採掘坑埋土



476

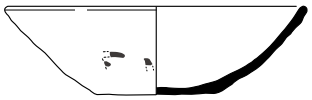
T3



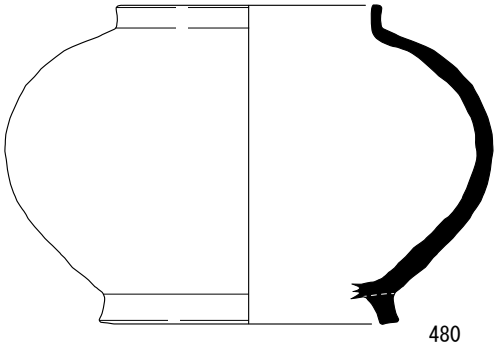
477

SD01

478

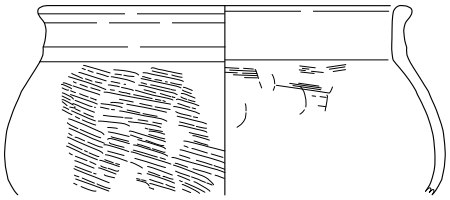


479

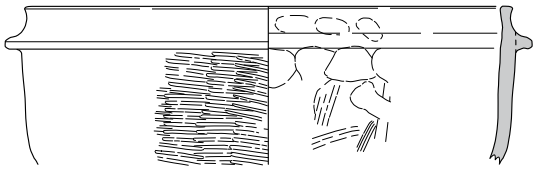


480

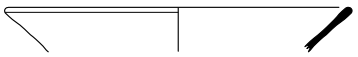
拡張区
粘土採掘坑



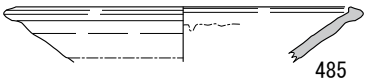
481



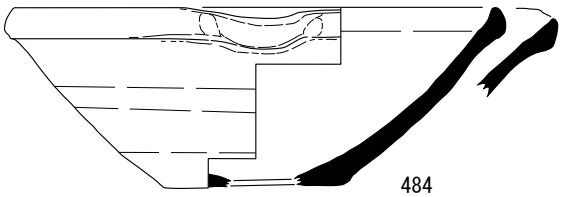
482



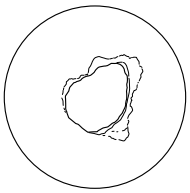
483

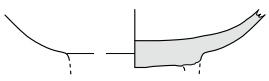


485

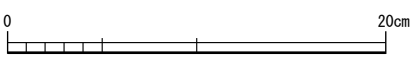


484



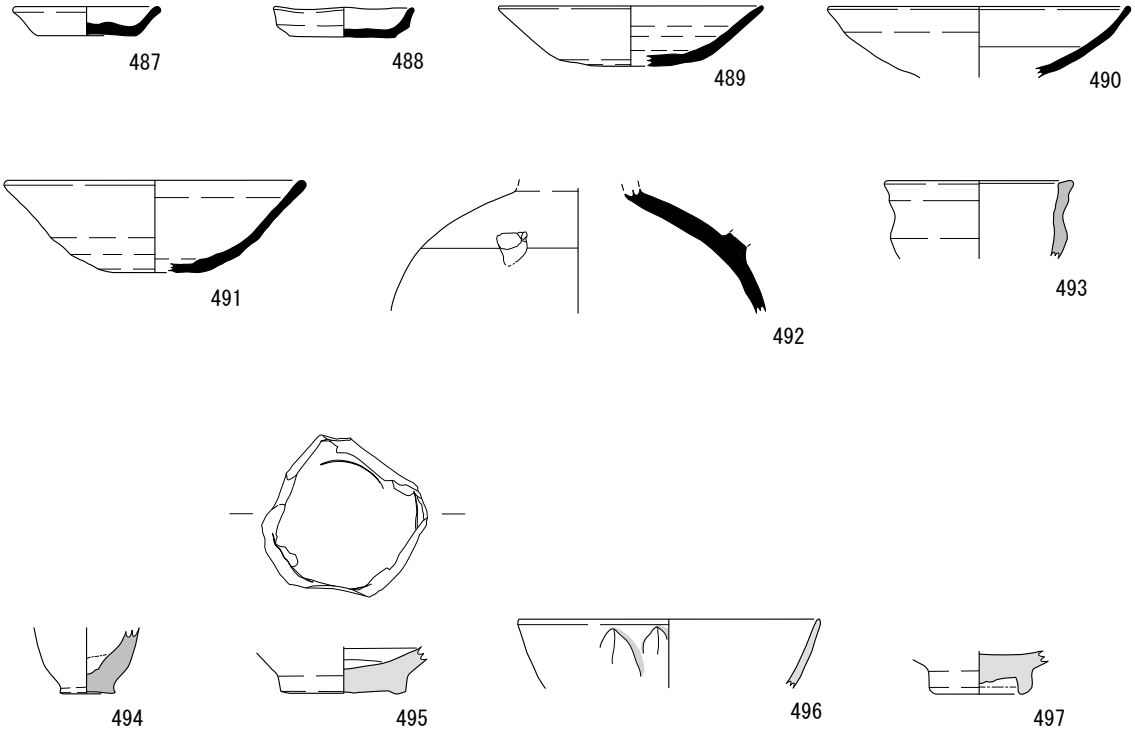


486



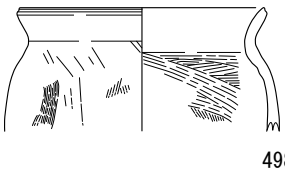
6西区　出土土器 1

６西区 包含層

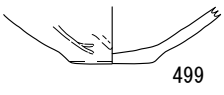


６東区

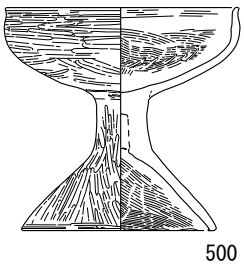
SH08



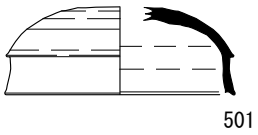
SH09

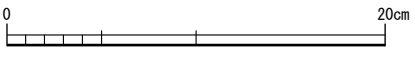


P24



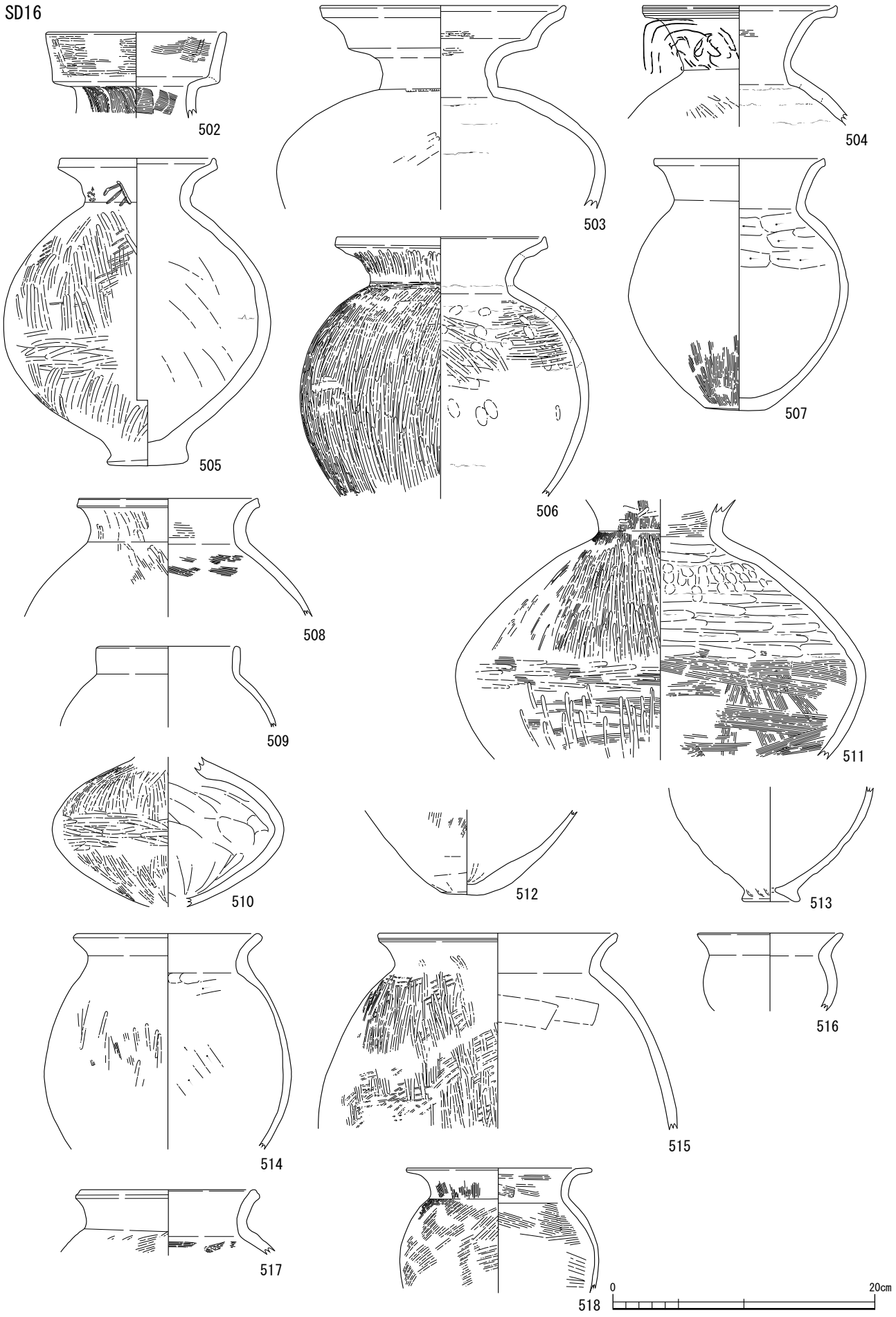
SK15



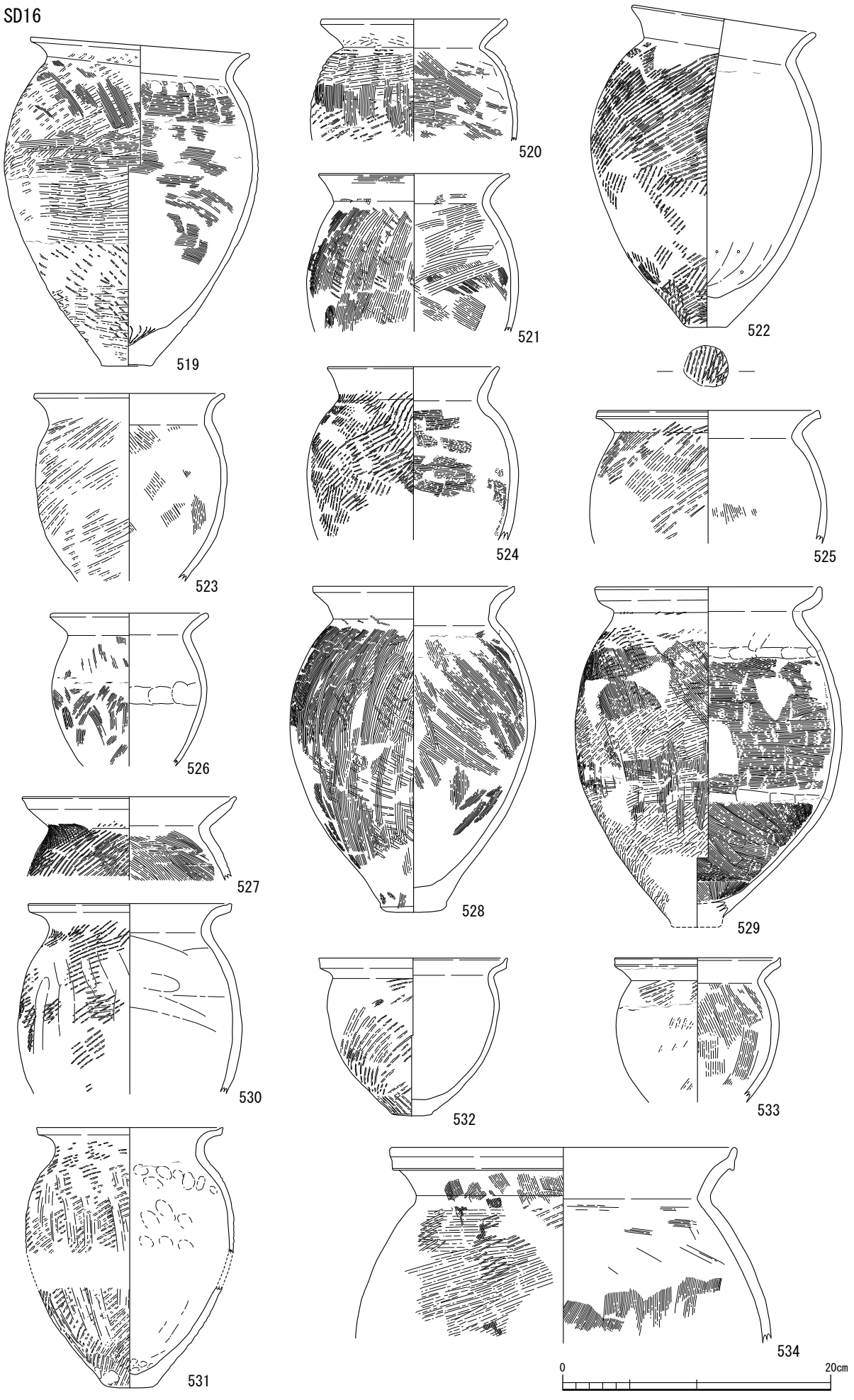


６西区　出土土器２・６東区　出土土器１

SD16

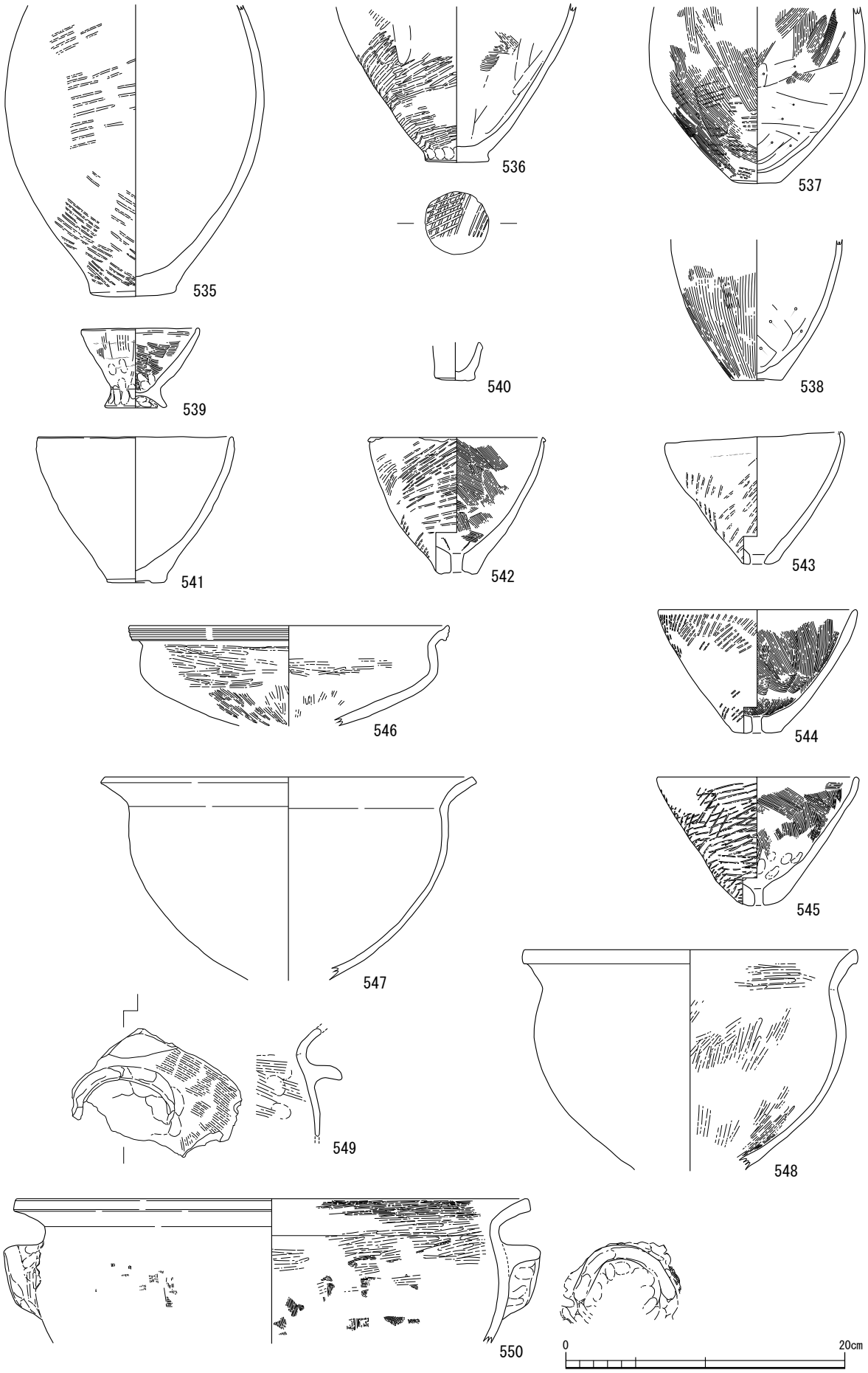


7区　出土土器 1


SD16
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
0
20cm

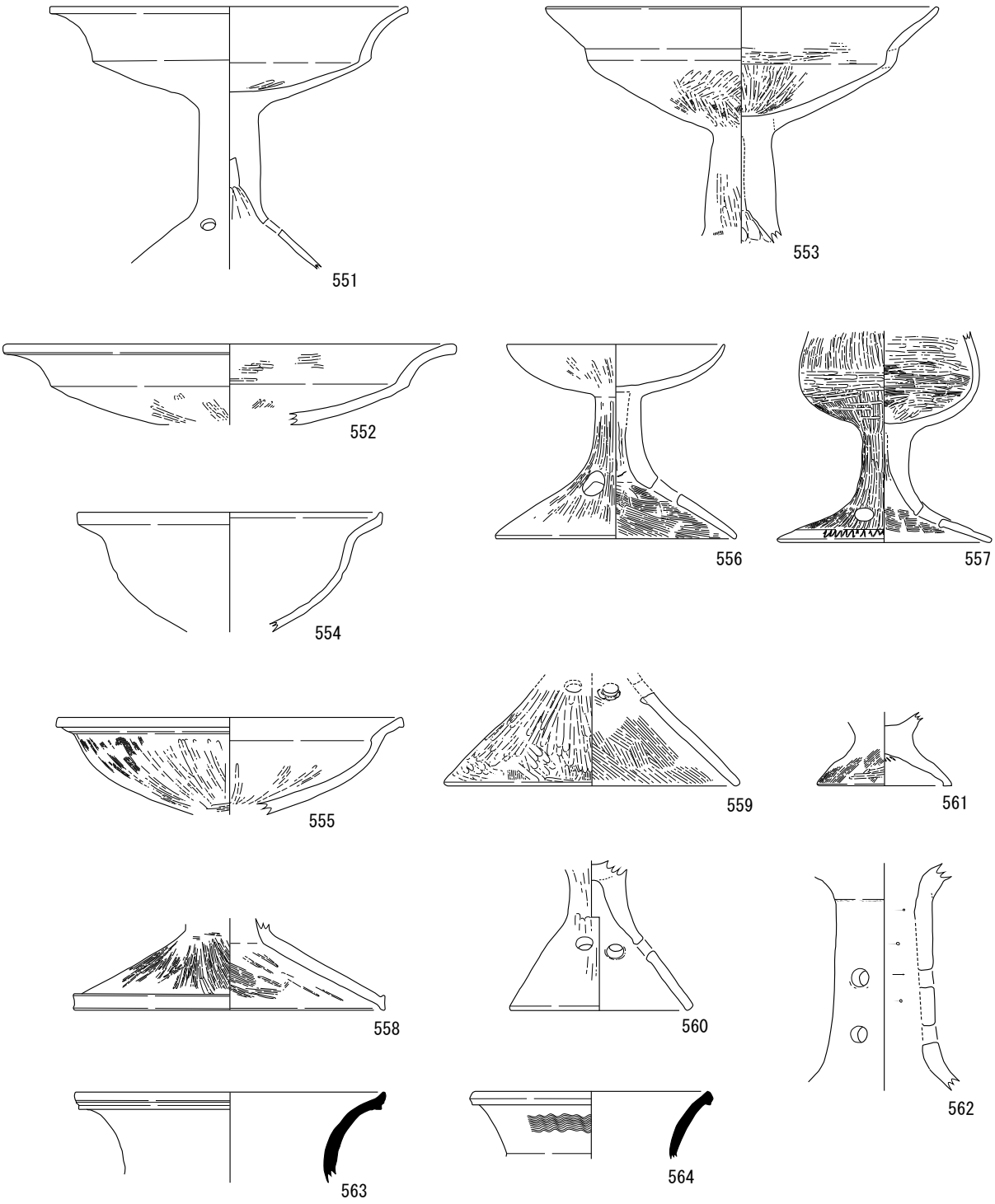
7区　出土土器2

SD16



7区　出土土器３

SD16

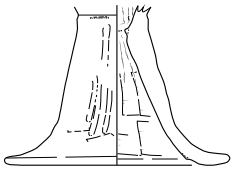


7区　出土土器４

SD18

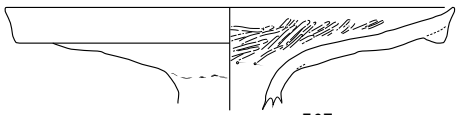
565

SD19



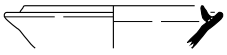
566

土器溜まり

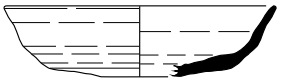


567

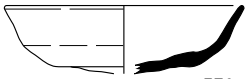
SD18　上層



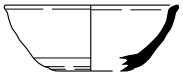
568



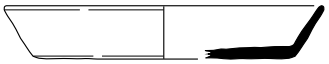
569



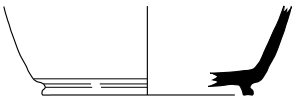
570



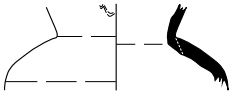
571



572

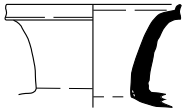


573

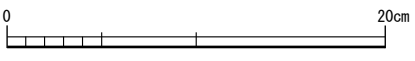


574

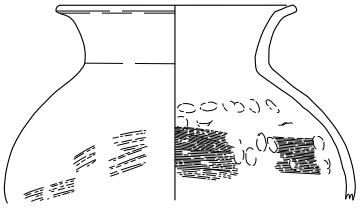
東側溝

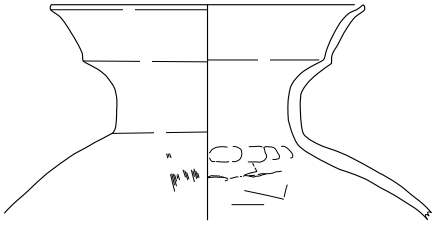


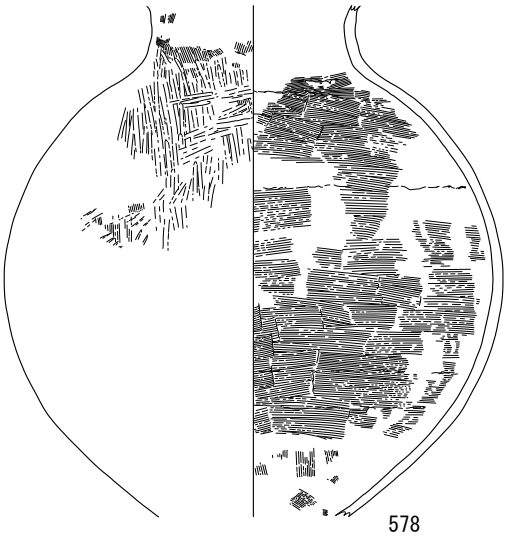
575

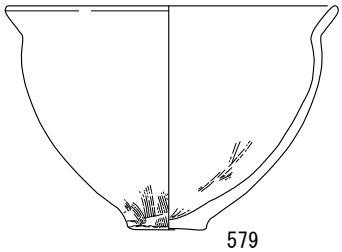


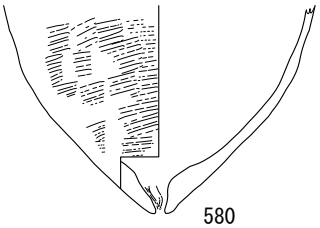
SD03

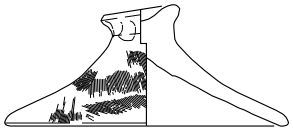

576


577

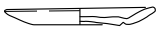

578


579

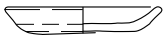

580

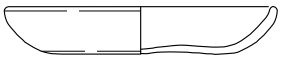

581

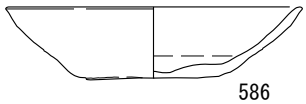
SX02

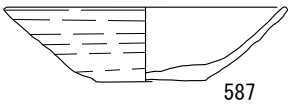

582

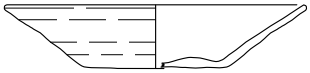
583

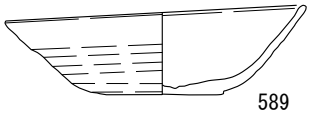

584

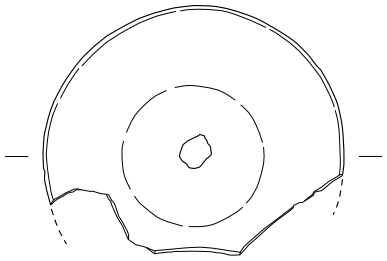

585

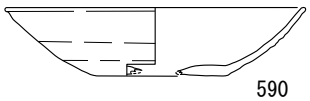

586

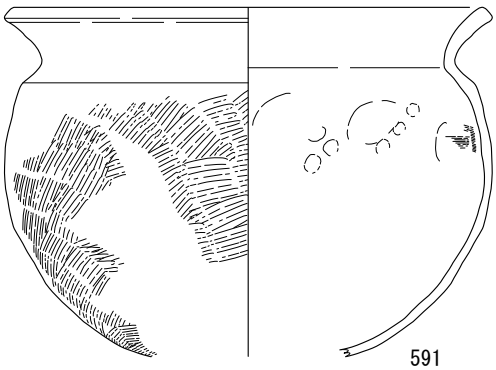

587

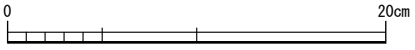

588


589

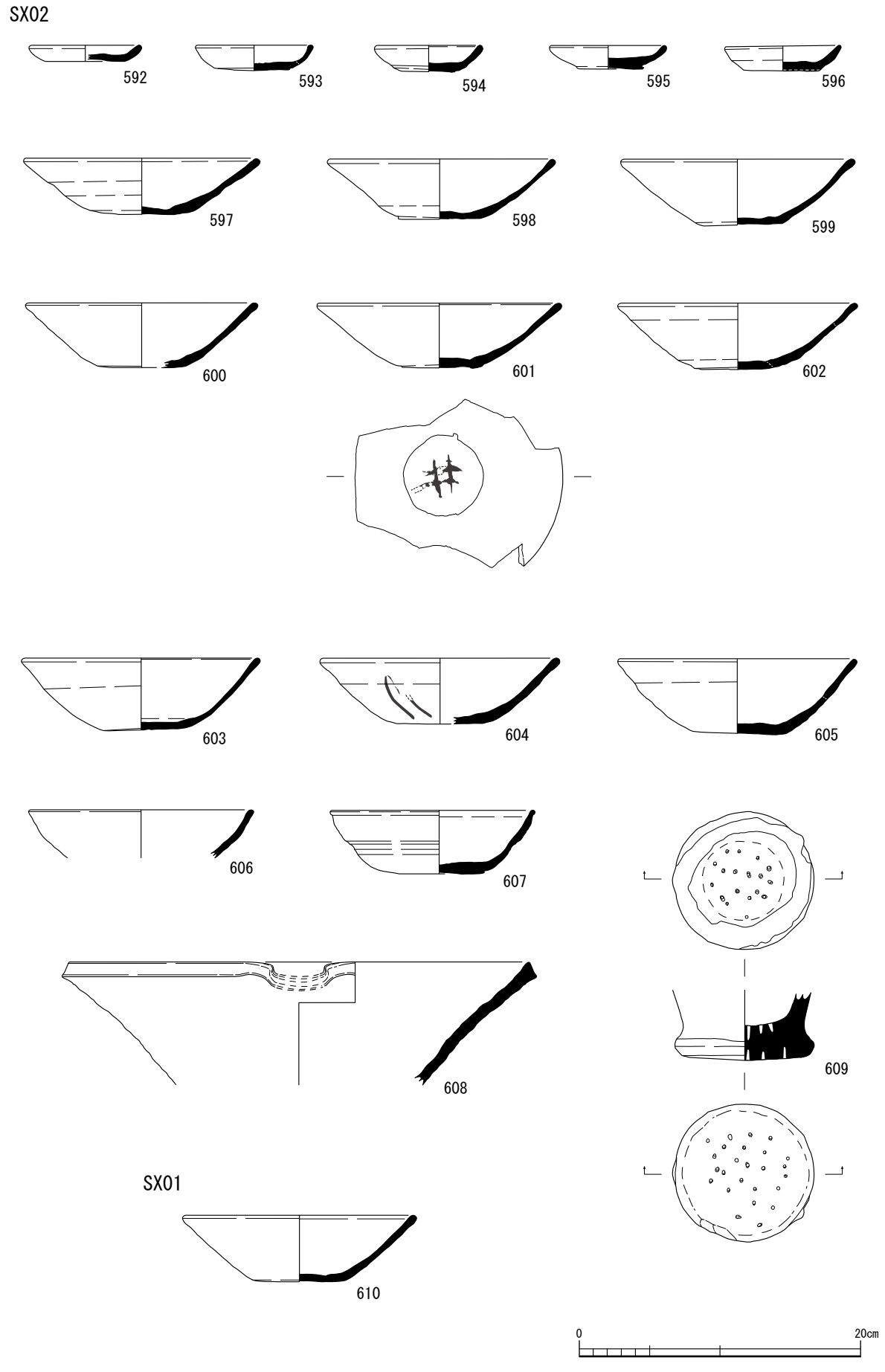



590


591

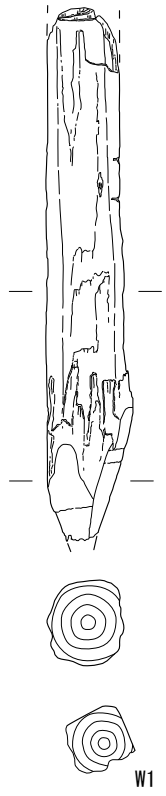


８区　出土土器１


SX02
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
SX01
610
0
20cm

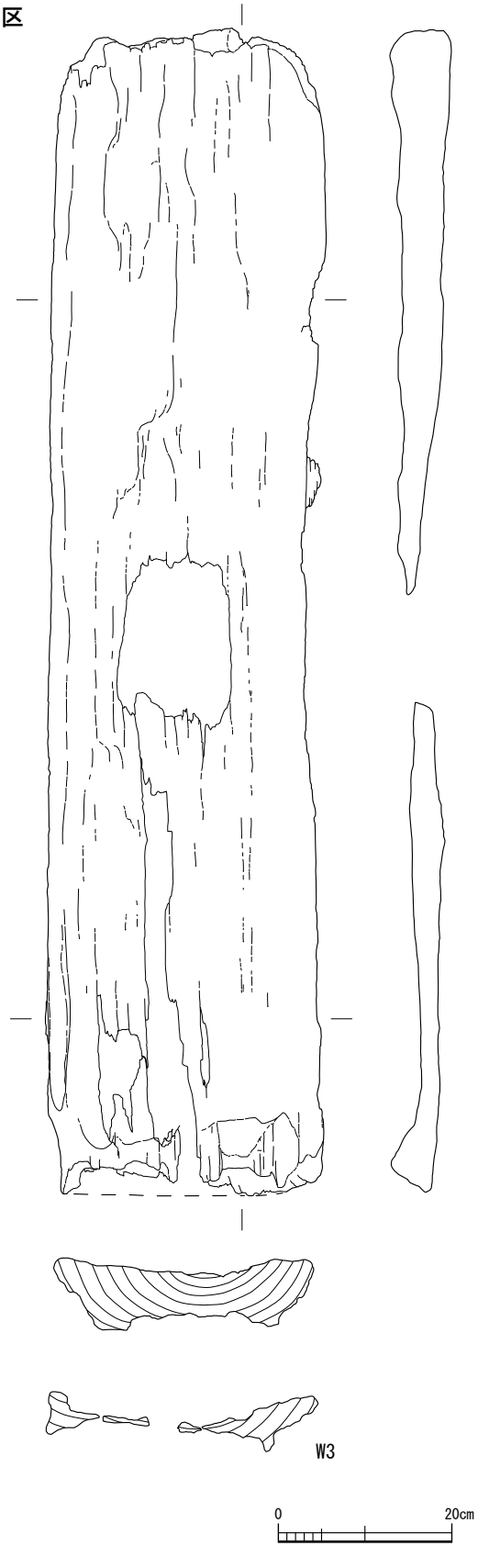
8区　出土土器２

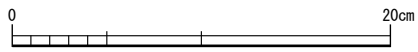
3 西区



4 中央区

5 東区

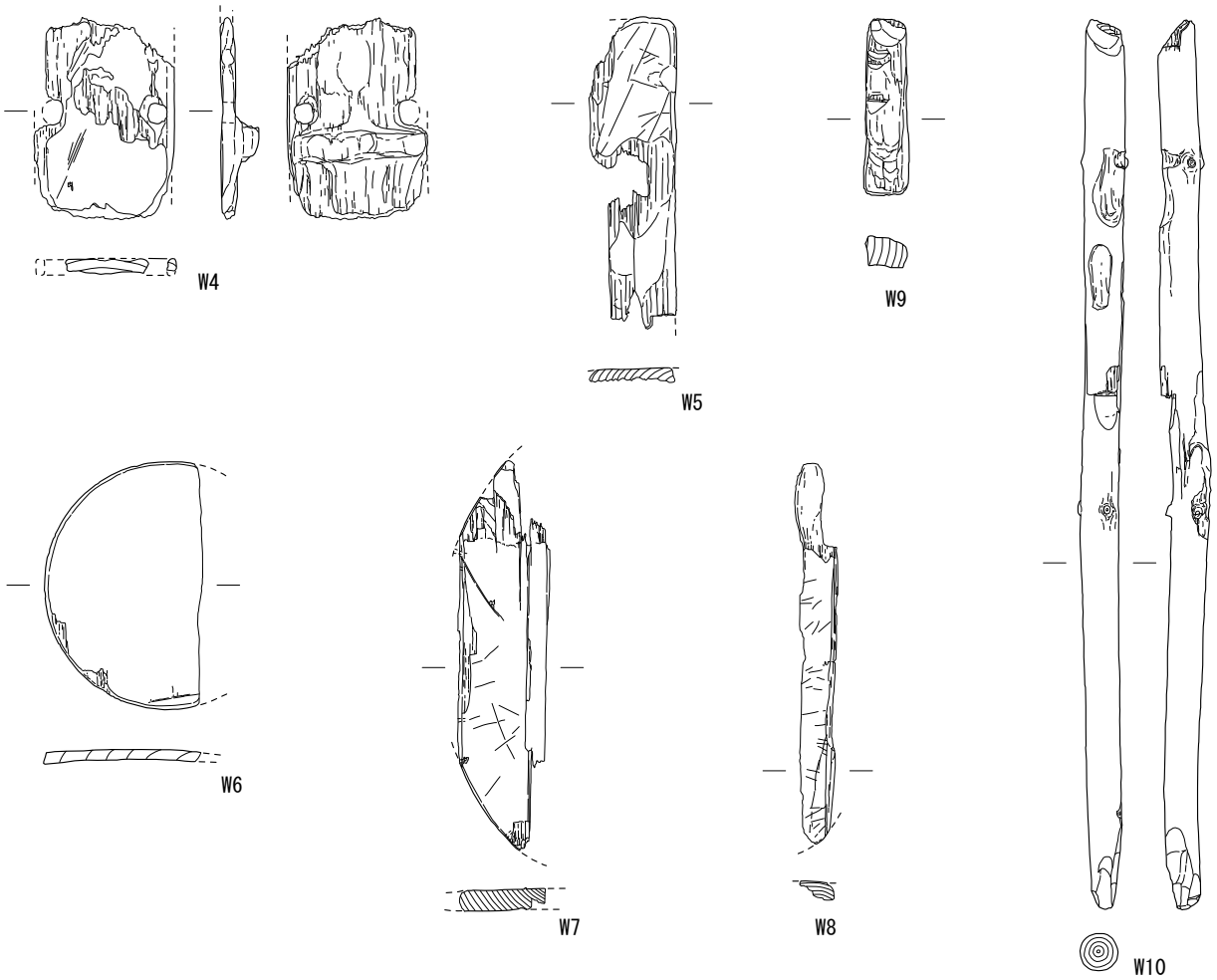




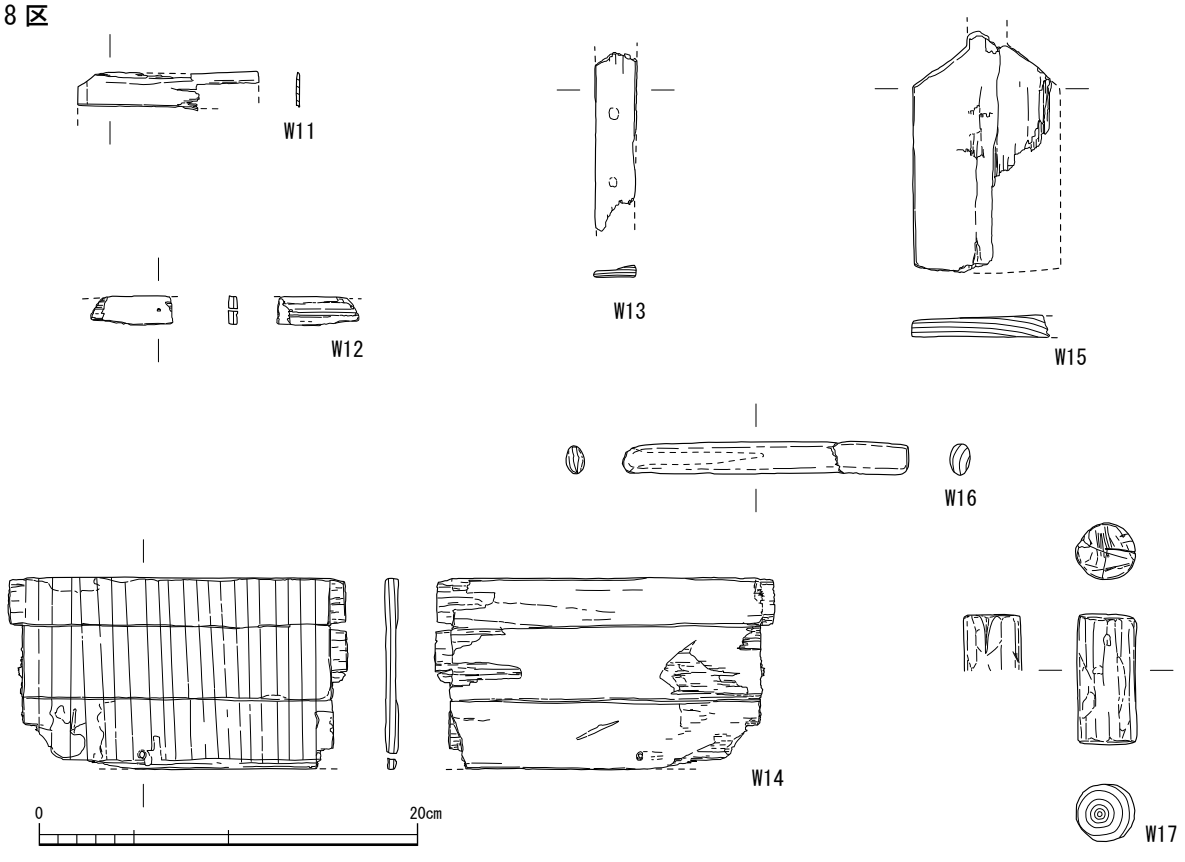
津万遺跡群４　出土木製品１

図版 116

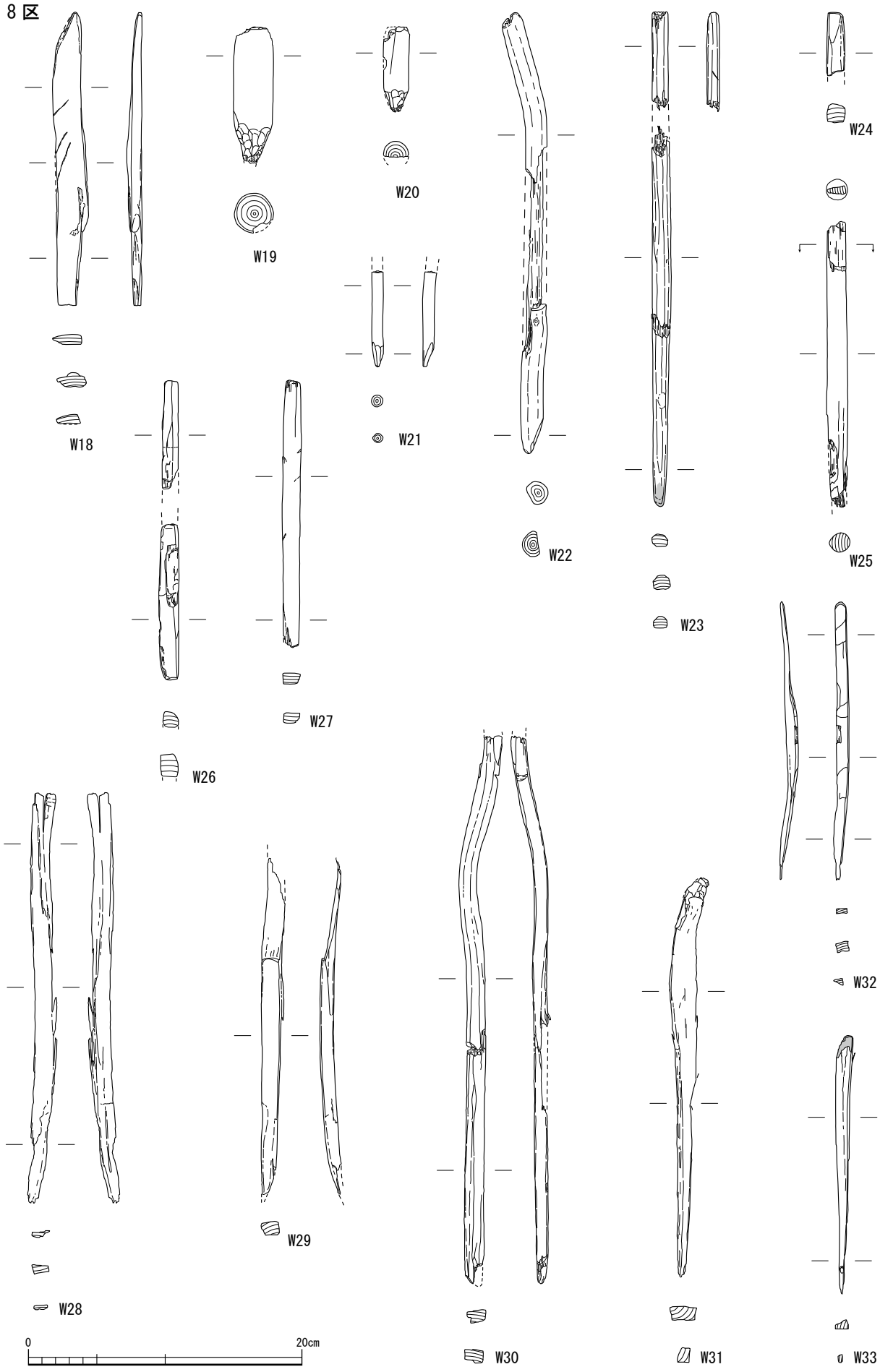
6 西区



8 区

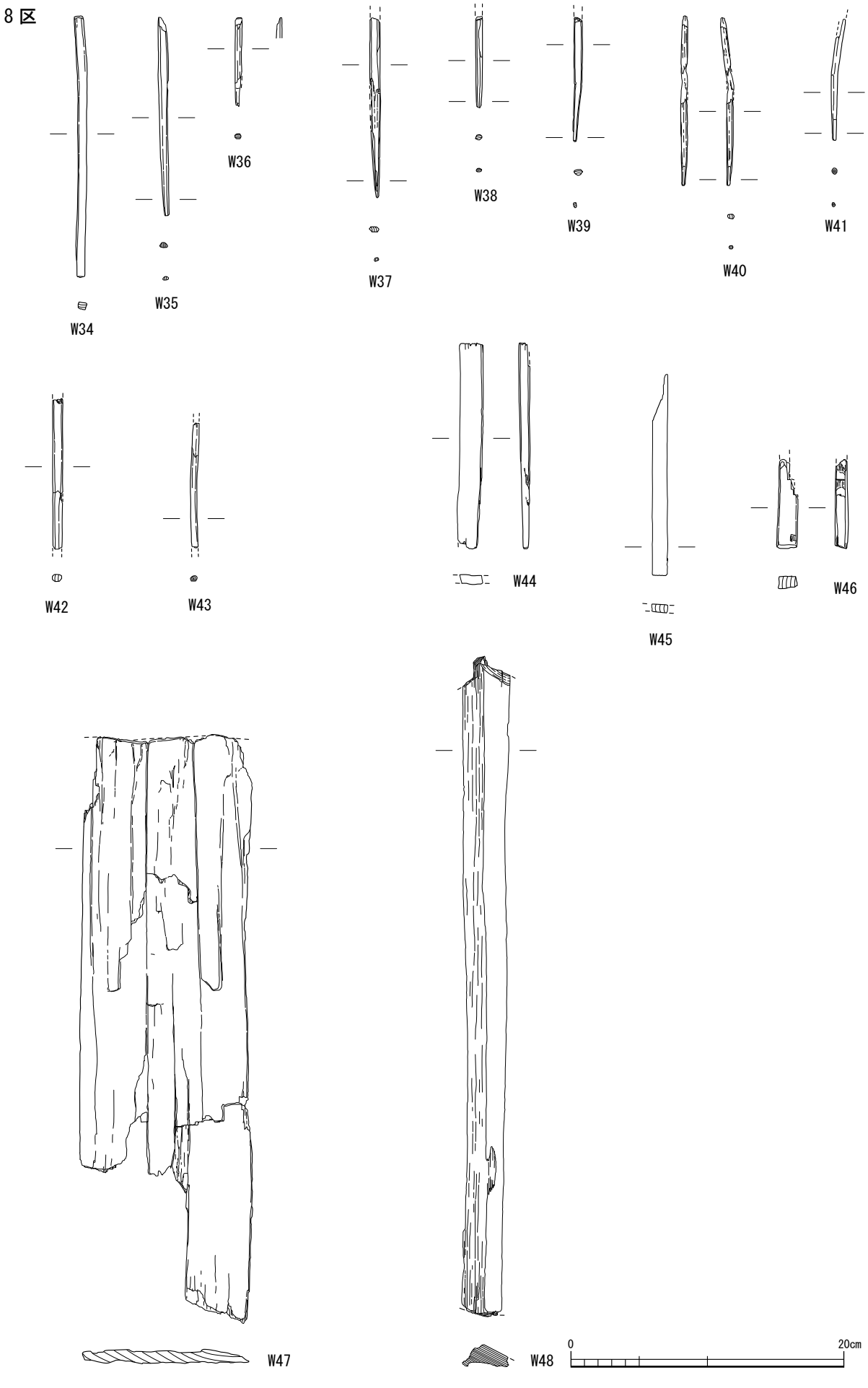


津万遺跡群４　出土木製品２



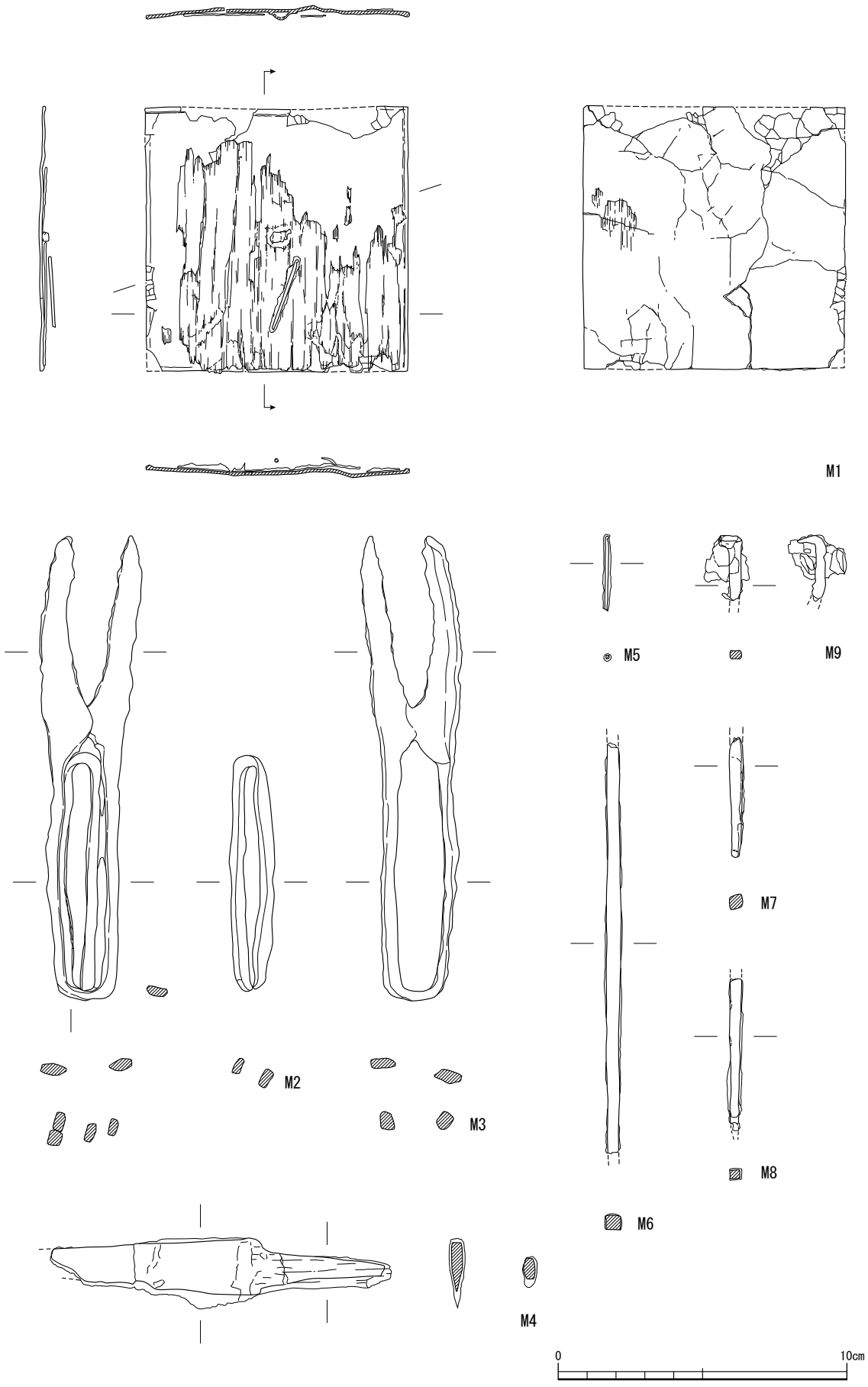
津万遺跡群４　出土木製品３

図版 118



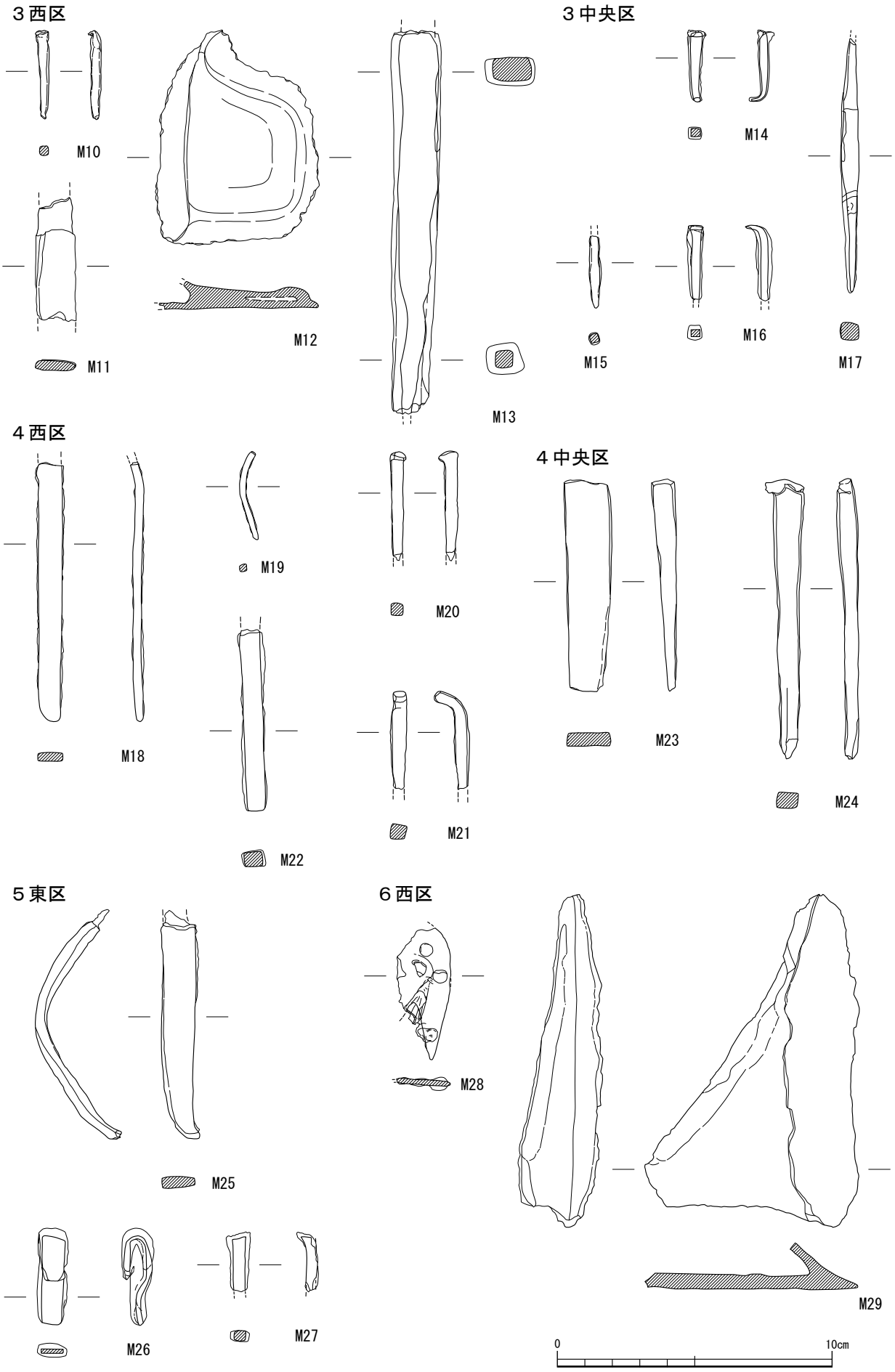
津万遺跡群４　出土木製品４

３中央区　SK20

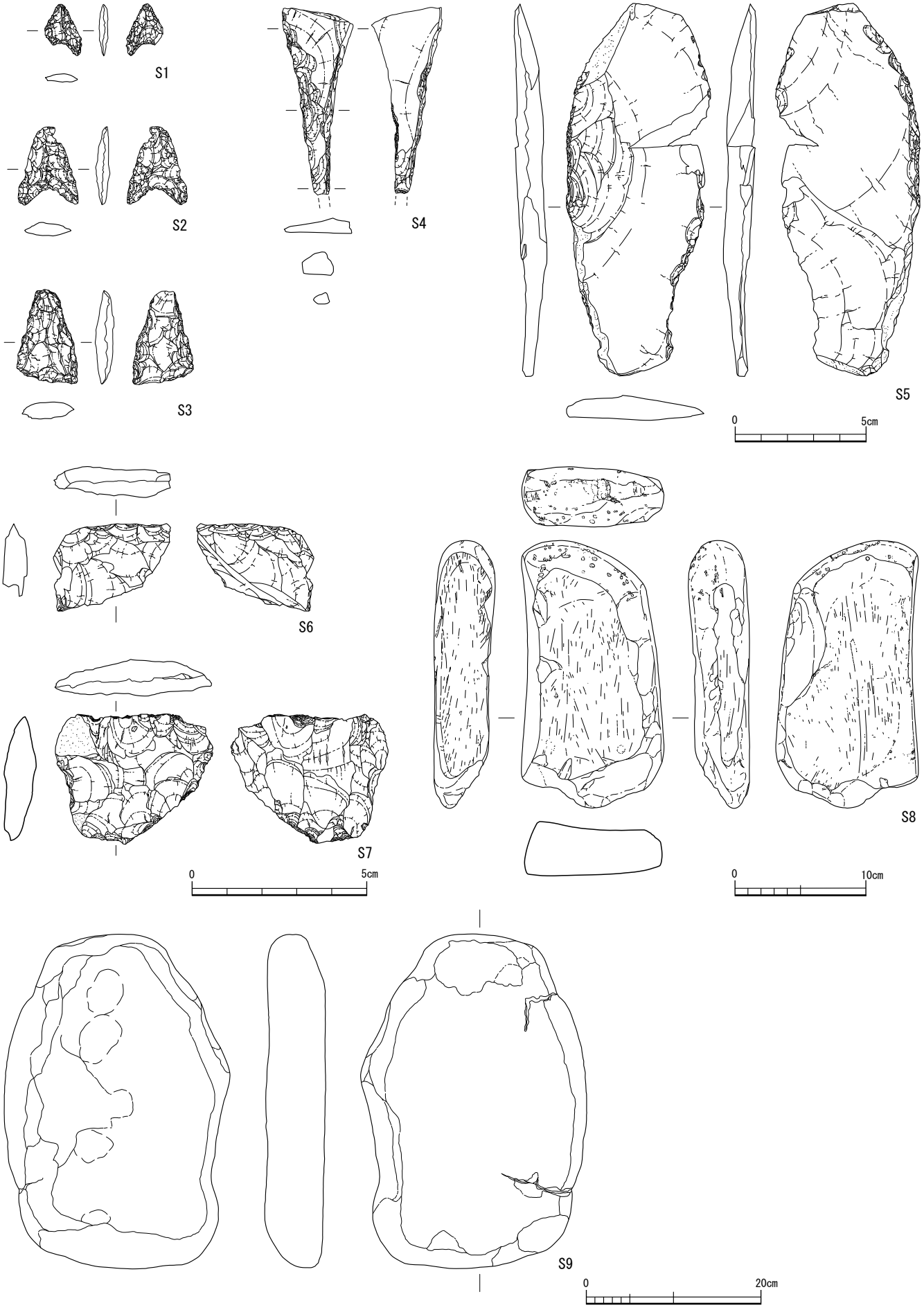


津万遺跡群４　出土金属器１

図版 120



津万遺跡群４　出土金属器２

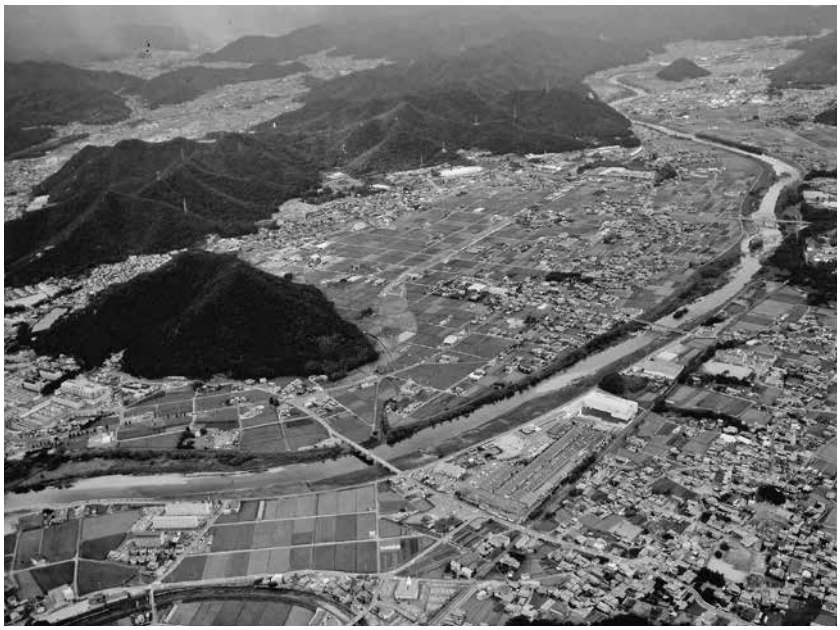


津万遺跡群４　出土石器

写　真　図　版

遺跡遠景　空中写真１

津万遺跡群遠景（東から）



津万遺跡群と加古川（南東から）

津万地区遠景（北から）

写真図版 2

遺跡遠景　空中写真２

津万地区遠景（南東から）

津万地区３～５区全景（南から）

津万地区３～５区全景（東から）

３～５区全景

津万３～５区 全景 空中写真（南東から）

３西区　全景１

津万３西区 全景 空中写真（南から）

３西区　全景２

３西区 全景（南から）

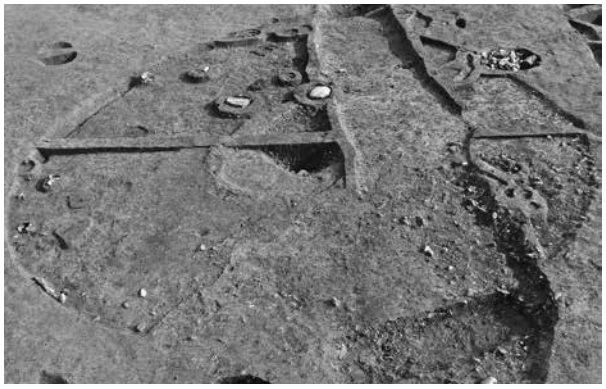
３西区 南半全景（西から）

３西区 南半全景（東から）

３西区　遺構１

SH01（南から）

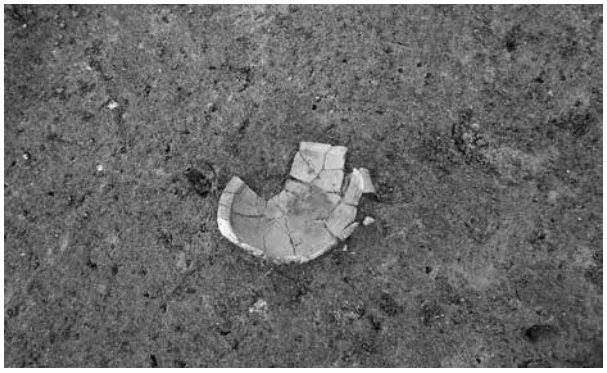
SH01 全景（南西から）



SH01 アゼ（南西から）

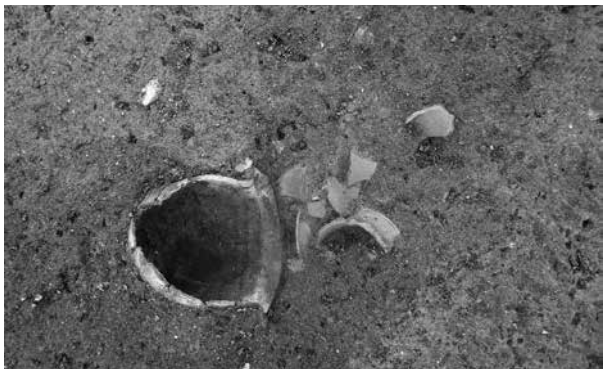
SH01 全景（南東から）

SH01 中央土坑断面（南西から）



SH01 土器（12）出土状況（北から）

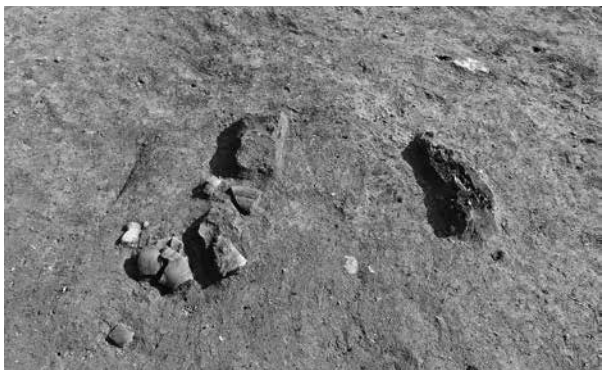
SH01 土器（４）出土状況（北から）



SH01 土器（９他）出土状況（北から）

SH01 土器（13）出土状況（北から）

SH01 土器（12）出土状況（北から）

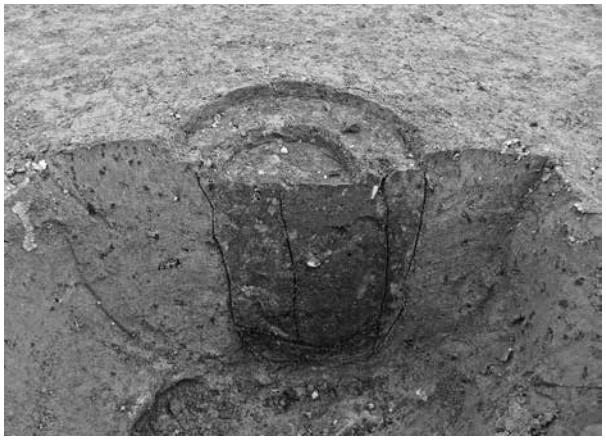


SH01 土器出土状況（北から）

３西区　遺構３

SB01（西から）

SB01 P11 土層断面（西から）



SB01 P14 土層断面（西から）

SB01 P15 土層断面（西から）

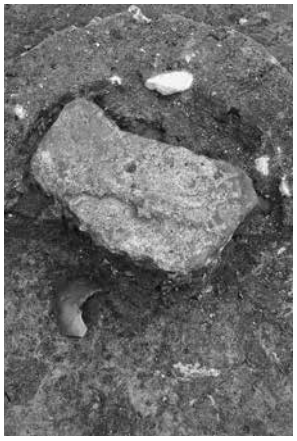
SB01 P16 土層断面（西から）

SB01 P17 土層断面（西から）

SB01 東壁（西から）

SB01 断ち割り（西から）

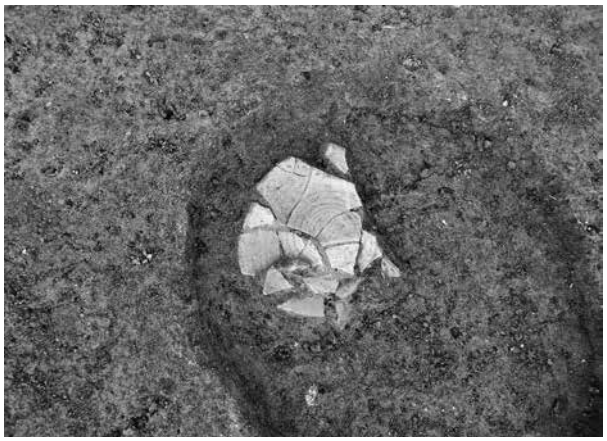
SB02（北から）



SB02 P18 土層断面（西から）

SB02 P21 土層断面（西から）

SB02 P23 土層断面（東から）



P01 土器（4）出土状況（南から）

SB03 P06 土層断面（南から）

３西区　遺構５

SK07 土器(22･23)出土状況(北から)

SK07 土器(22･23)出土状況(西から)

SK13（西から）

SK13（南から）

SK13 擂鉢出土状況(北から)

SK16（北から）

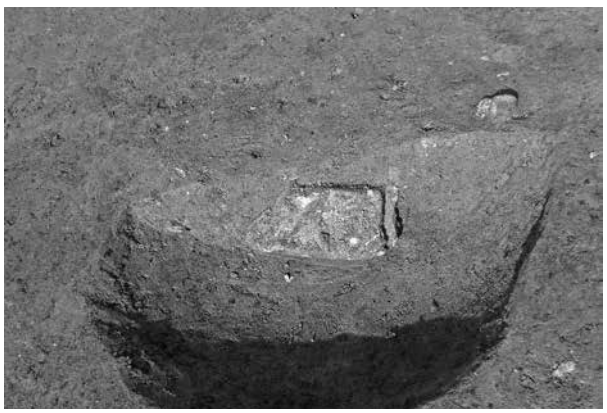
SK16（南東から）

SK16 土器(26)出土状況(南から)

SK01（南から）

SK11（南西から）

SK14（西から）


SK04（南から）

SD01 アゼ(北西から)

３西区　遺構７

上層水田（南西から）

上層水田（南西から）

上層水田（東から）

下層水田　検出状況（東から）

下層水田（東から）

SD12・畦畔　土層断面（南東から）

SD3001（東から）

SD3001 土層断面
（東から）

西壁北端土層断面（東から）

西壁際 南北方向下層断ち割り（北北東から）

３中央区　全景１

津万３中央区　全景　空中写真（南から）

３中央区　全景２

３中央区　全景（東から）

３中央区　全景（南西から）

３中央区　遺構１

SH01（北東から）

SH01 P49土層断面（東から）

SH01 出土土器(98)

SH02（南西から）

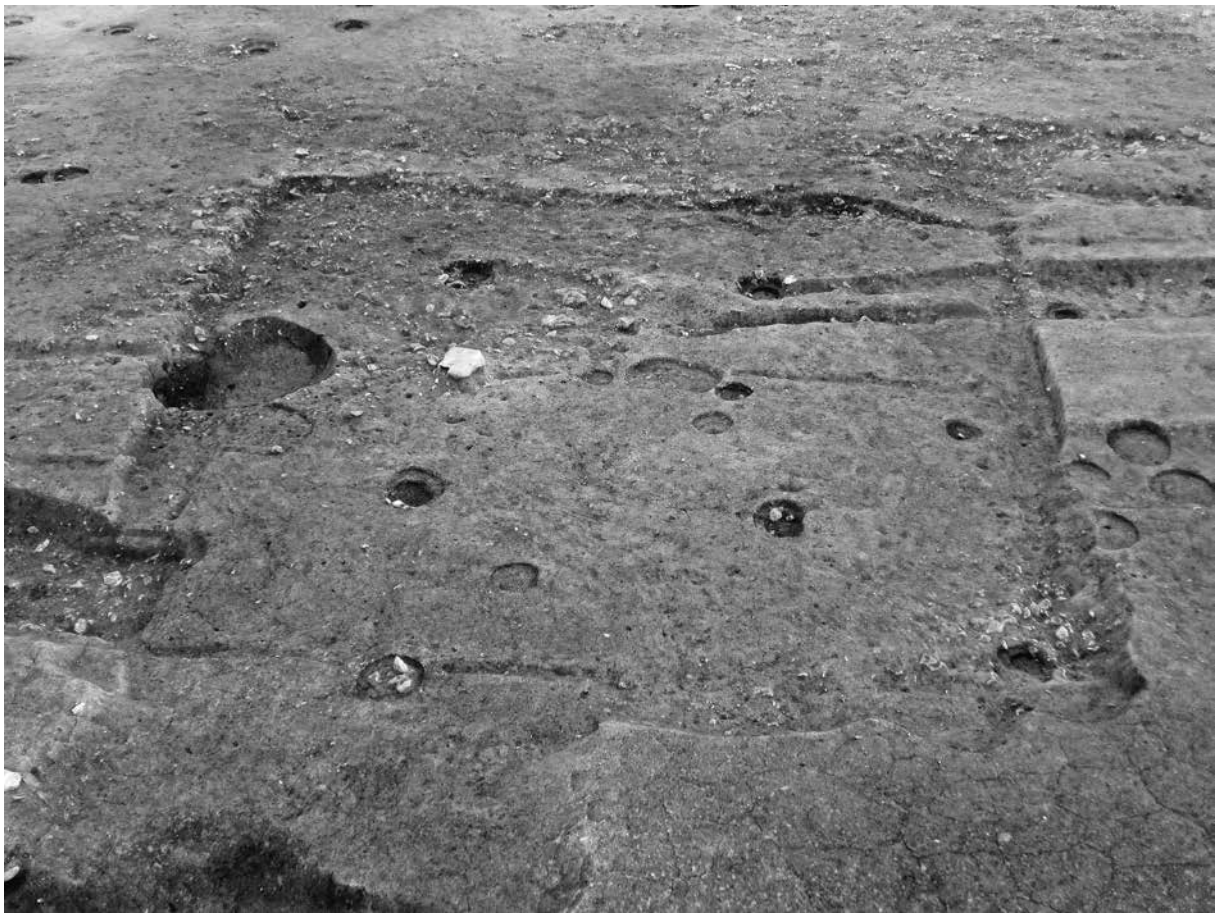
SH02 中央土坑 SK24 土層断面（東から）

SH02 P80 土層断面（西から）

SH02 土器（83）出土状況

SH02 土器（88）出土状況

３中央区　遺構３



SH03（北から）

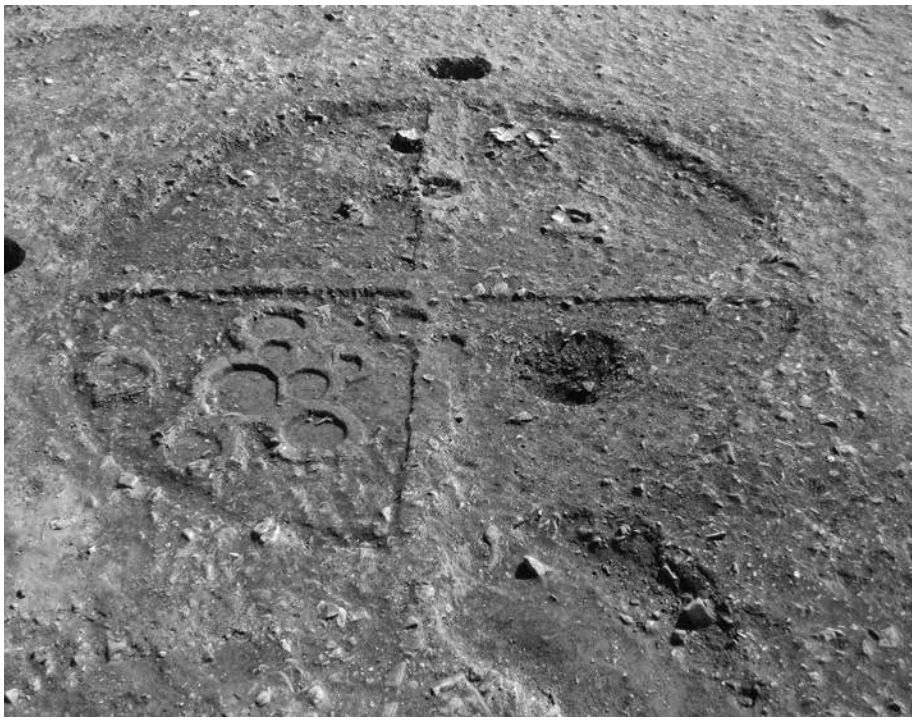
SH03 SK19 土層断面（南から）

SH03 P75 土層断面（東から）

SH03 P149 土層断面（西から）

SH03 P150 土層断面（東から）

SH04（西から）

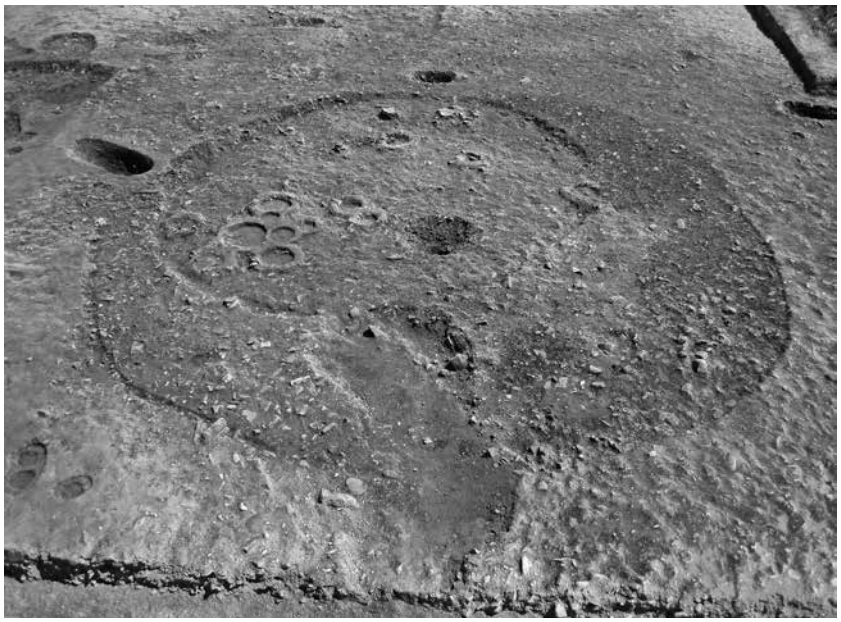


SH04 土層（西から）

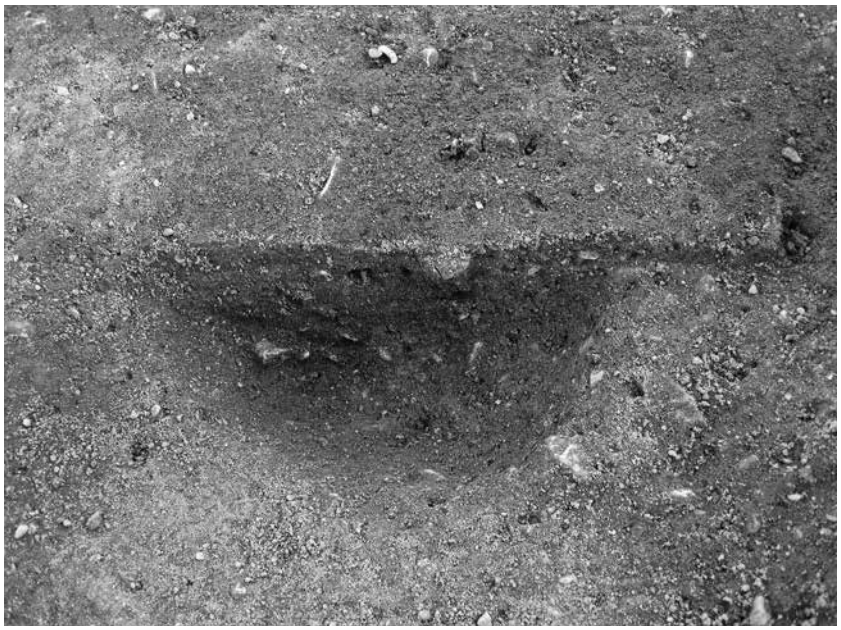
SH04 P122･30 土層断面（東から）

SH04 土器（104他）出土状況

３中央区　遺構５



SH05（西から）

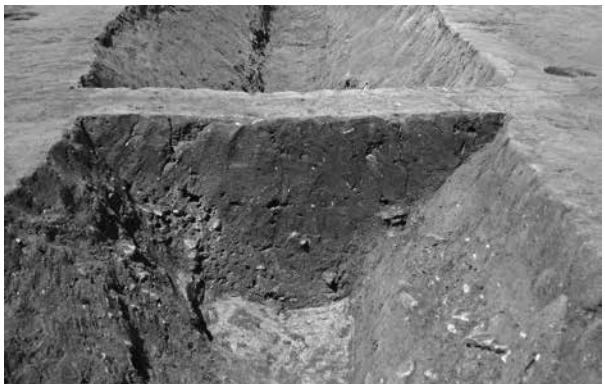


SH05 中央土坑 SK08
土層断面（南から）

SH05 P151・152
土層断面（西から）

SD01（北西から）

SD01 土層断面(A-A')(東から)



SD01 土層断面(B-B')(東から)

SD17 土層断面(南から)

SD13 土層断面(南から)

３中央区　遺構７

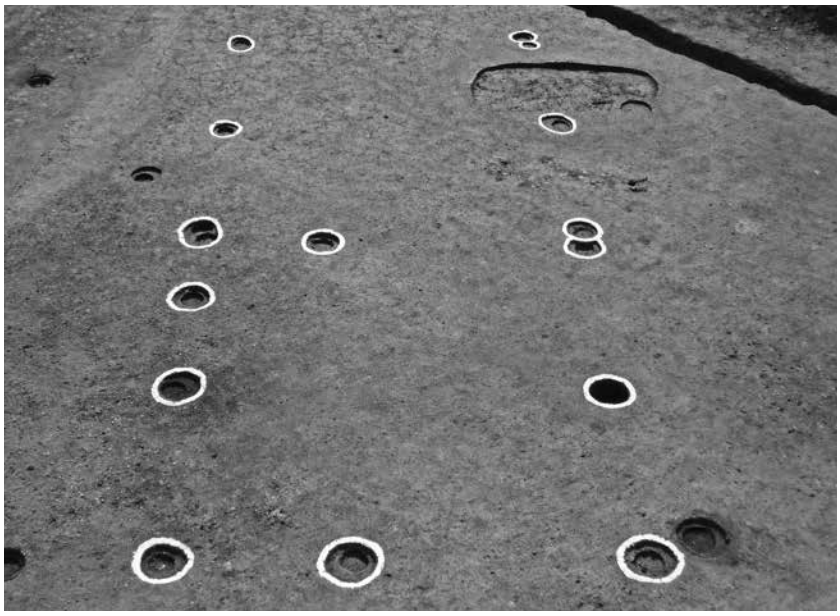
SX04（北西から）

SX04 断面（北から）

SX04 土器（123・125）出土状況

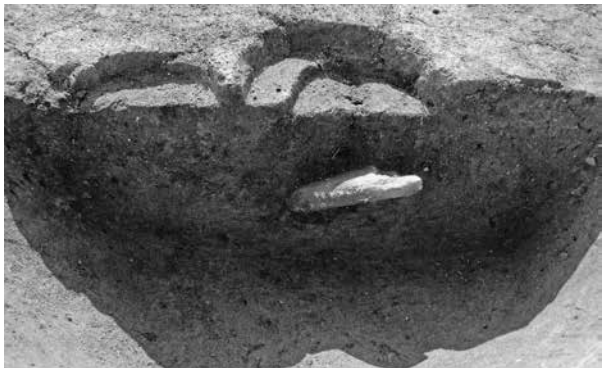
SX04 土器（118）出土状況

SX02 土層断面（東から）



SB01（北東から）

SB01 P57 土層断面（南から）



SB01 P119・120 土層断面（北から）

SB01 P54 土層断面（南から）

SB01 P118 土層断面（北から）

SB01 P113 土層断面（南から）

SB01 P116・117 土層断面（北から）

３中央区　遺構９

上層　大畦畔（西から）

大畦畔とSD02･03（北東から）

大畦畔とSD02･03（北東から）

大畦畔断ち割り（北東から）

大畦畔検出状況（東から）

SD03･08･10･14･15･16（西から）

SD14･15 土層断面（東から）

SD16 土層断面（西から）

上層 SK07 土層断面（北から）

上層 SK21 土層断面（南西から）

３中央区　遺構11

上層 南東部の遺構
（北から）

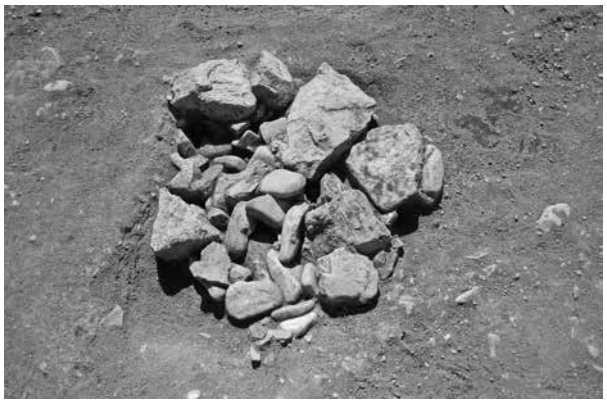
SK01（西から）

SK01 検出状況（北から）

SK01 土器（161）出土状況

SK02 土層断面（北から）

P67 砥石出土状況・P102・P103（SK03 下層）（東から）


SK26（北から）

SK26 断面（東から）

SK27 土器（175～177）出土状況（北から）

SK10 土層断面（西から）

SK17 土層断面（東から）

SK18（西から）

３中央区　遺構13

SK20 木棺墓（西から）

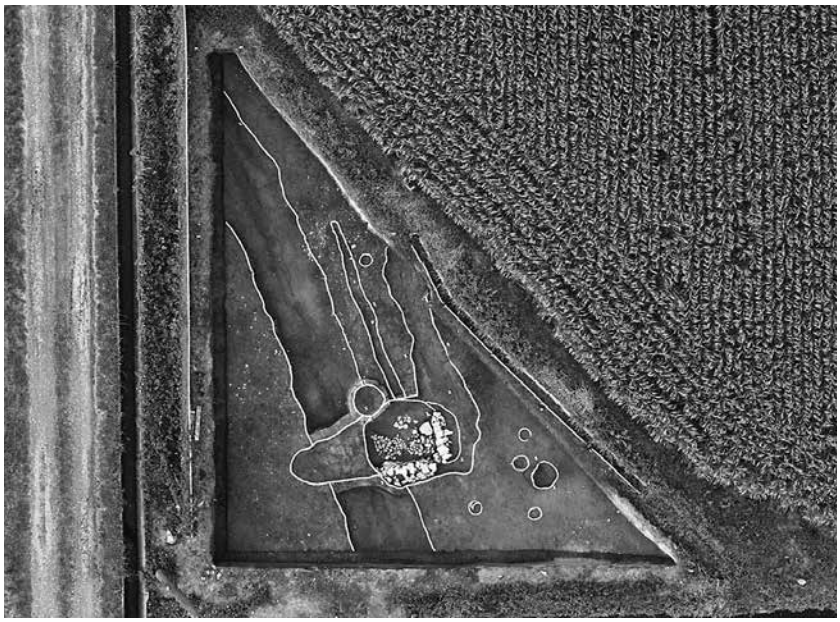
SK20 土層断面（西から）

SK20 遺物出土状況（西から）

SK20 化粧箱？（169～171）（北から）

SK20 土師皿（166～168）（北から）

３東区　全景・遺構１



津万３東区　空中写真（南から）

３東区　全景（南から）

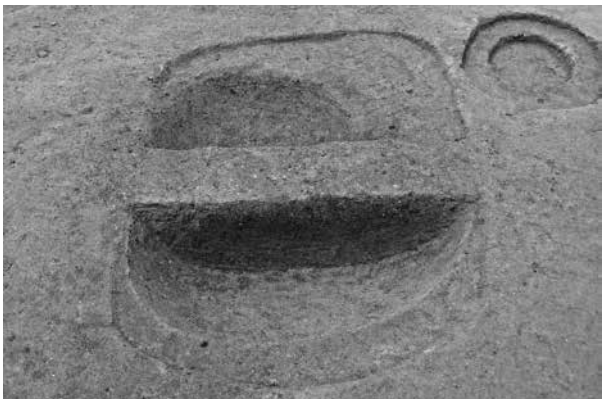
SD04（南から）

３東区　遺構２・土層

西壁（A-A'）（東から）

西壁 SD04部分（東から）

南壁（北から）



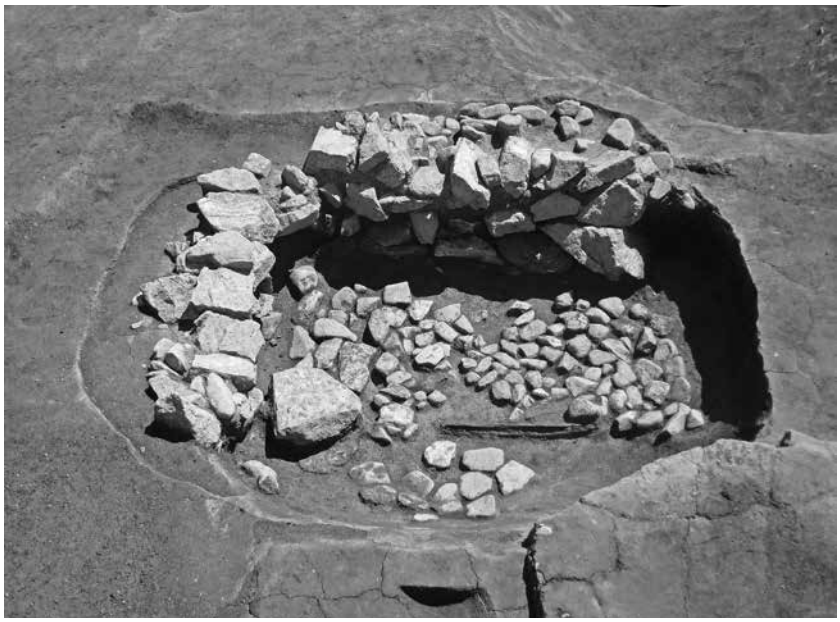
SK02 土層断面（北東から）

SD01 土層断面（南から）

SD02 土層断面（南から）

SD04・03・02（南から）

SD04 土層断面（南から）



SK03（北から）

SK03（西から）

SK03（北から）

３東区　遺構４

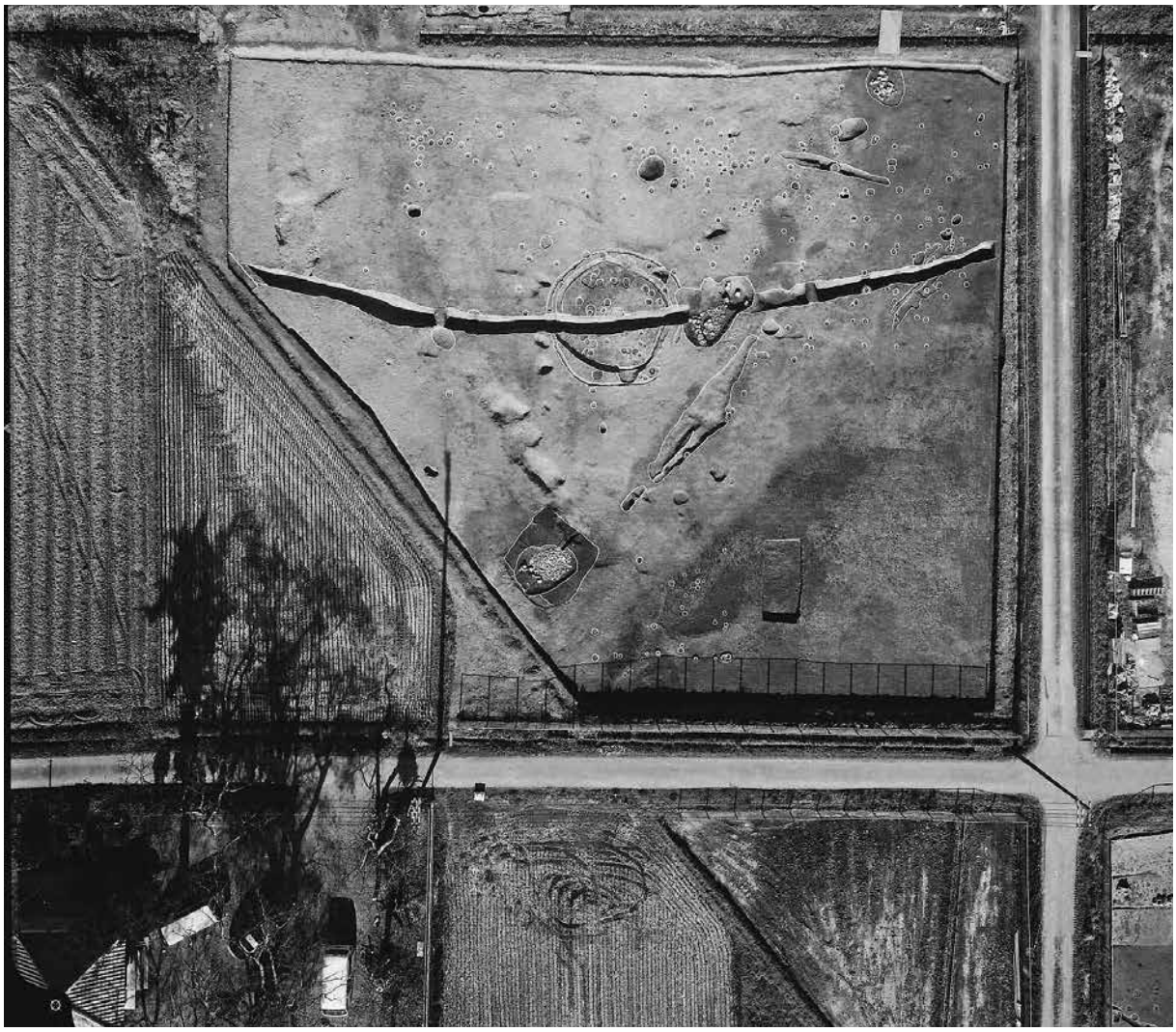
SK03（北から）

SK03（西から）

SK03 土層断面（東から）

SK03 東西土層断面（北から）

４西区　全景１



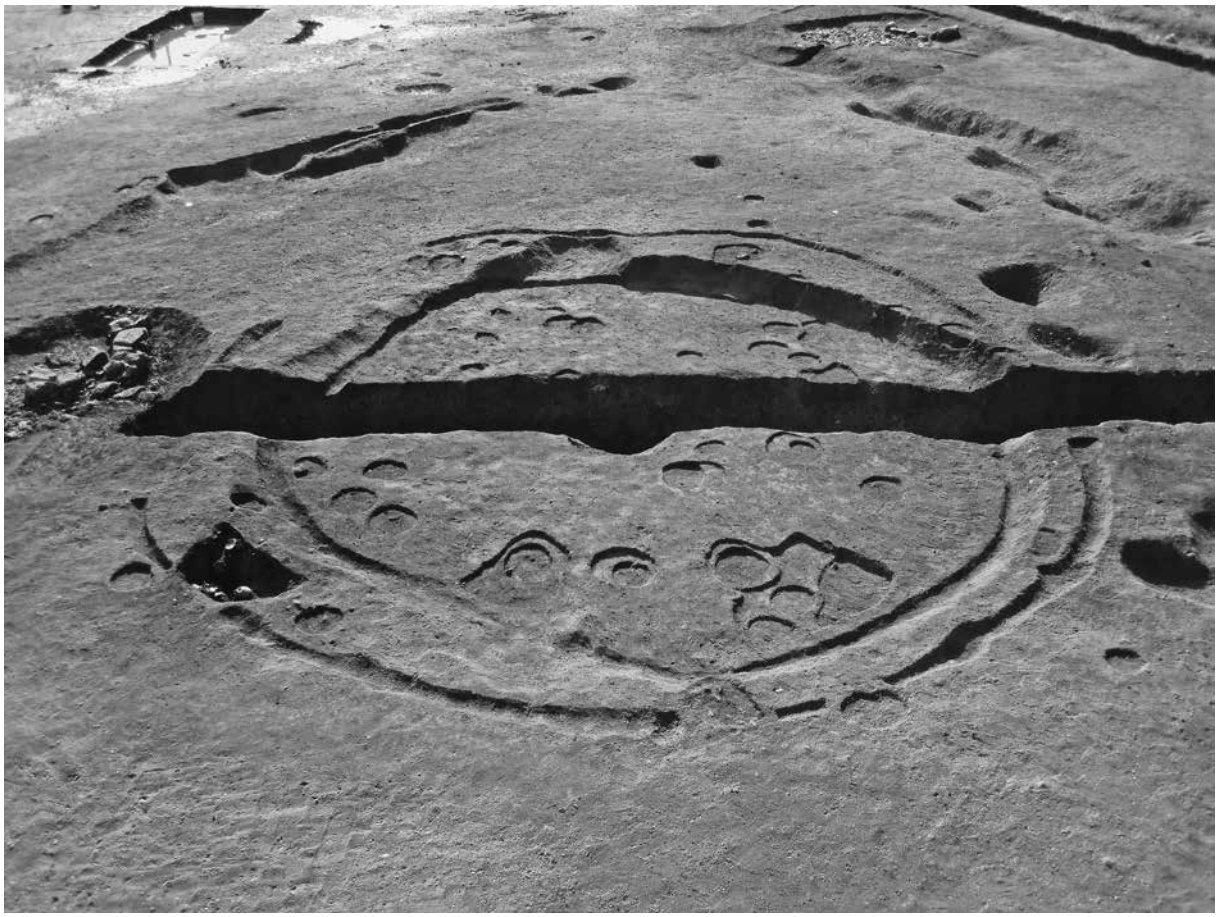
津万４西区　全景　空中写真（南から）

４西区　全景（東から）

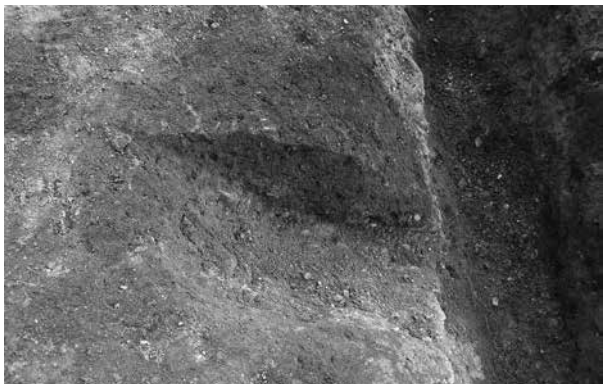
４西区　全景２

４西区　全景（北西から）

４西区　南東部全景（北東から）



SH01（北から）



SH01 中央土坑土層断面（西から）

SK16（235～239）（西から）

SH01 P49 土層断面（北から）

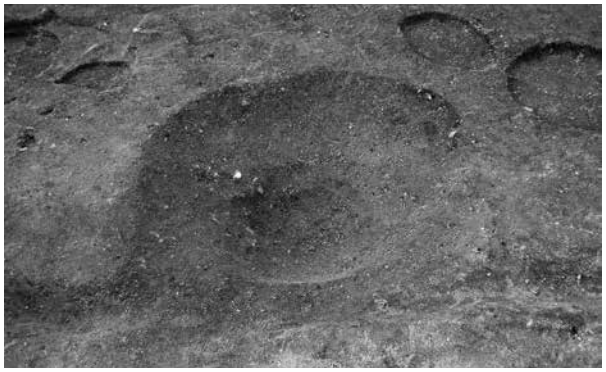
SH01 P47・P21・48 土層断面（北から）

４西区　遺構２

SH02（北東から）

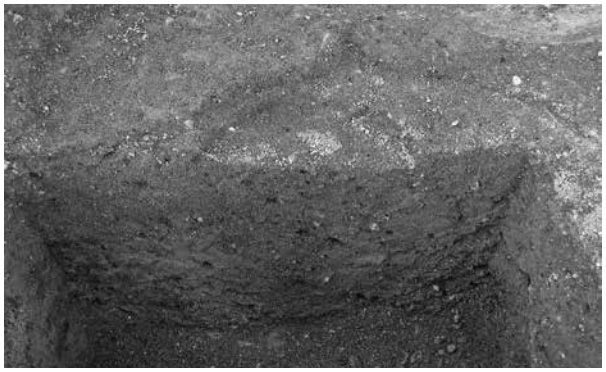
SH02 土層断面（北東から）

SH02 内 SK100 土層断面（東から）



SH02 内 SK100 完掘状況（東から）

SH02 床面出土台石（S9）



SH02 P73 土層断面（東から）

SH02 P74 土層断面（東から）

SD01（東から）

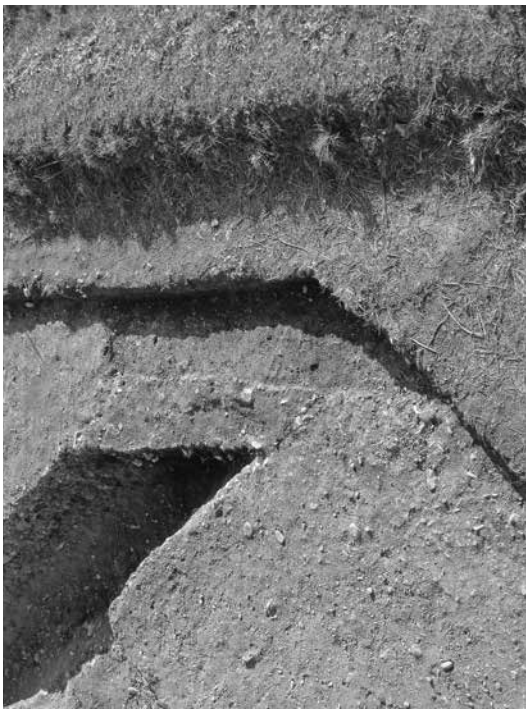
SD01（西から）

SD01 土層断面(B-B')(西から)

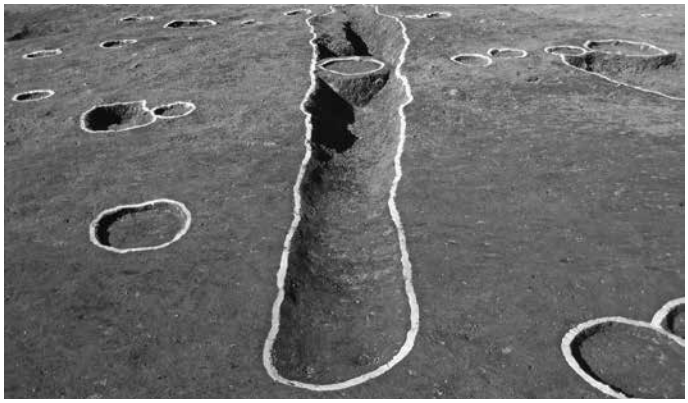
SD01 土層断面(A-A')(西から)

４西区　遺構４

SK10 土器(260)出土状況(東から)



SH03（東から）



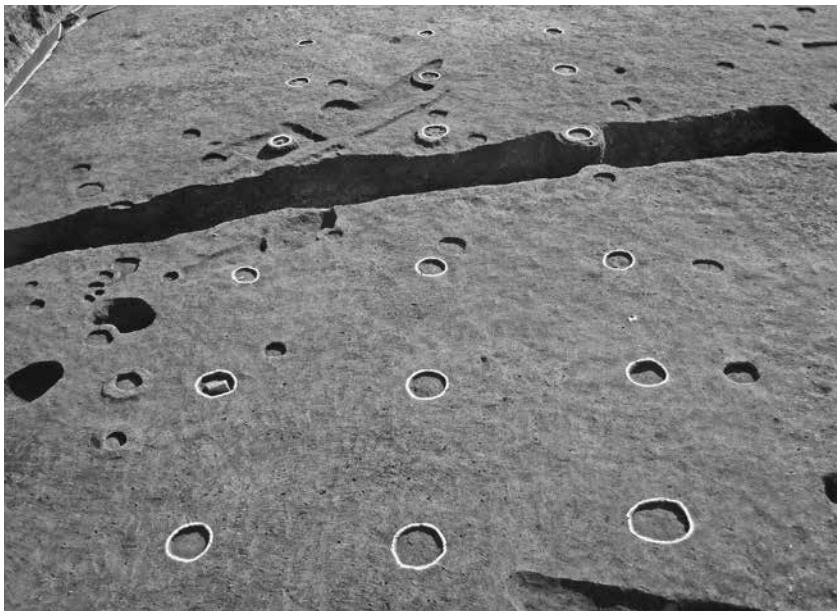
SD04（東から）

SK04 土層断面(南から)

SK11 土層断面(南から)

SD02･03（北東から）

南西部土層断面（北東から）



SB01（北から）

SB01 P12 土層断面（東から）

SB01 P25 土層断面（東から）

SB01 P26 土層断面（東から）

SB01 P27 土層断面（東から）

SB01 P28 土層断面（東から）

SB01 P29 土層断面（東から）

４西区　遺構６

SK01（北から）

SK01（東から）

SK01 石列（東から）

SK02（南東から）

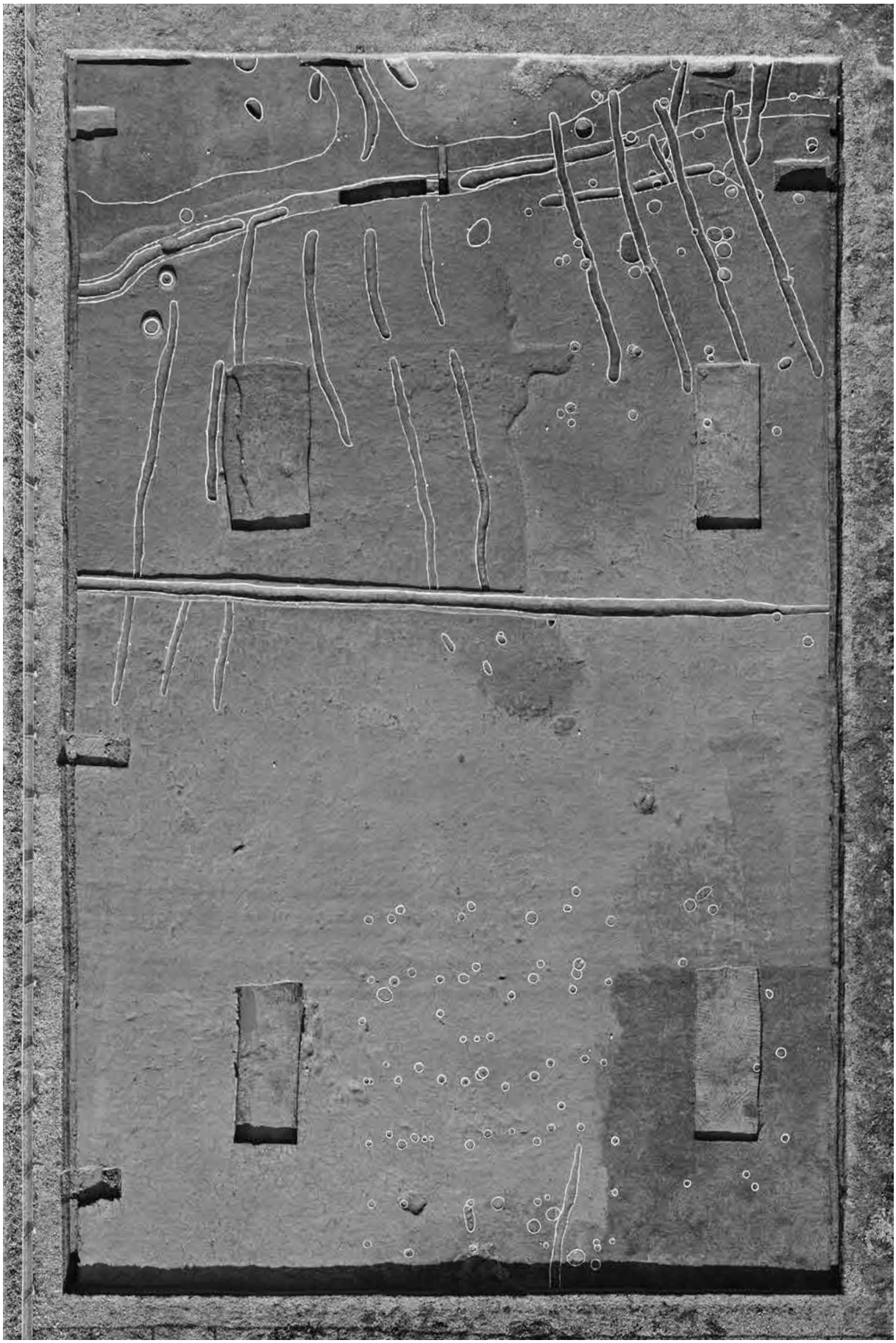
SK02（北東から）

SK02 土層断面（東から）

SK06（東から）

SK06 土層断面（南から）

４中央区　全景１



津万４中央区　全景　空中写真（南から）

４中央区　全景２

４中央区　調査区全景（北から）

４中央区　調査区全景（南から）

４中央区　拡張区全景（西から）

４中央区　拡張区南半（南から）

SB01（西から）

SB01（北から）

SB01 P1-2 土層断面（北から）

SB01 P1-3 土層断面（南から）

４中央区　遺構２

SB01 P1-4 土層断面（西から）

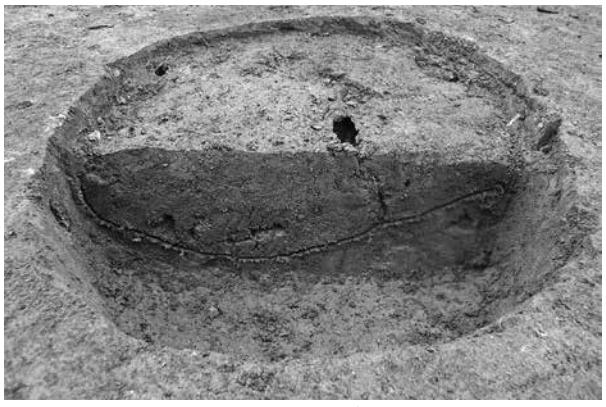
SB01 P2-3 土層断面（北から）

SB01 P2-4 土層断面（東から）

SB01 P3-2 土層断面（北から）

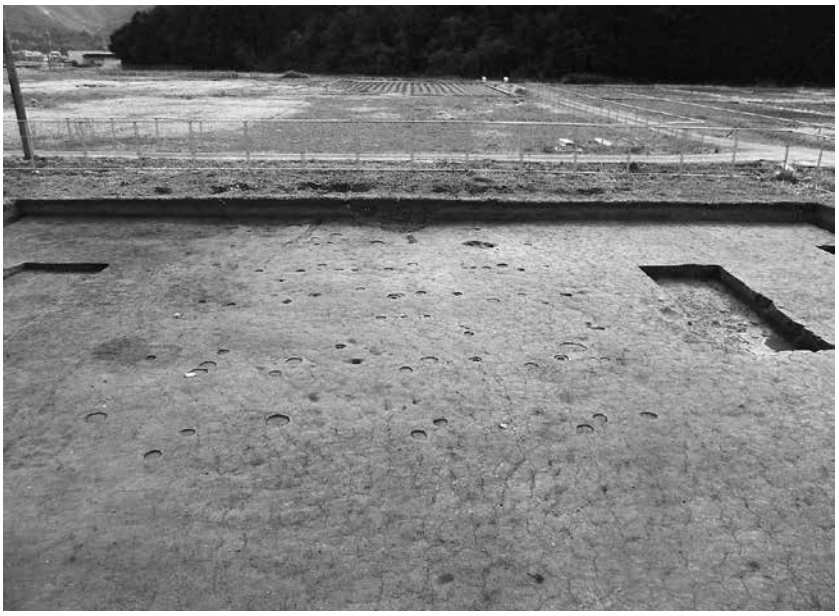
SB01 P3-3 土層断面（西から）

SB01 P3-4 土層断面（西から）



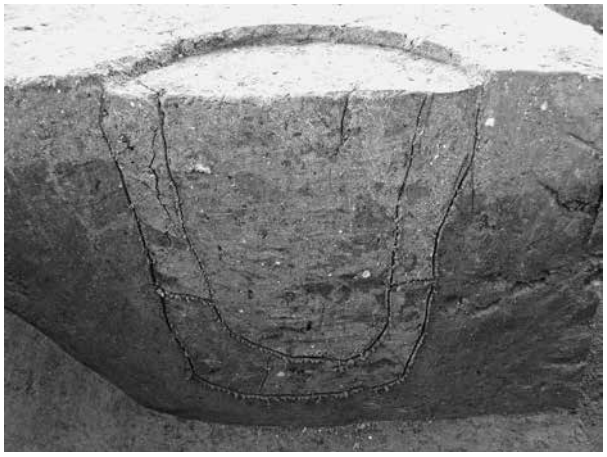
SK01 土層断面（南から）

SK03 土層断面（南から）


SB02･03（北から）

SB02･03（南から）

SB02 P08 土層断面（西から）


SB02 P2-4 土層断面（東から）

SB03 P3-4 土層断面（東から）

SB03 P4-2 土層断面（西から）

SB03 P4-3 土層断面（東から）

４中央区　遺構４

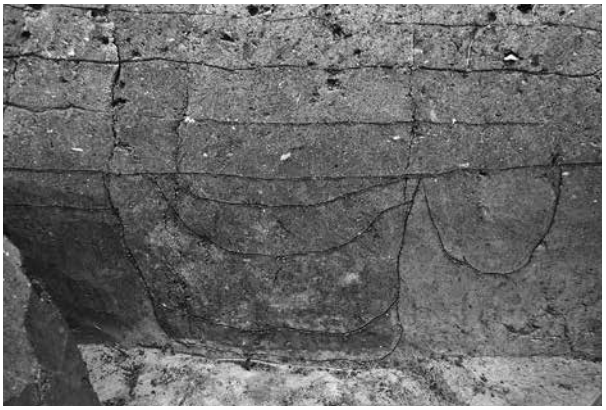
SD03（南から）

スキ溝１土層断面（北から）

スキ溝３土層断面（南から）

スキ溝９土層断面（北から）

下層溝 SD01（東から）



調査区東壁 SD01 部分（西から）

SD01 中央土層断面（A-A'）（南東から）

SD01 中央土層断面（A-A'）（東から）

４東区　全景

津万４東区　全景　空中写真（南から）

４東区　全景（北西から）

４東区　全景（北西から）

４東区　遺構１

SB01（西から）

SB01 P45 土層断面（西から）

SB01 P47 土層断面（西から）

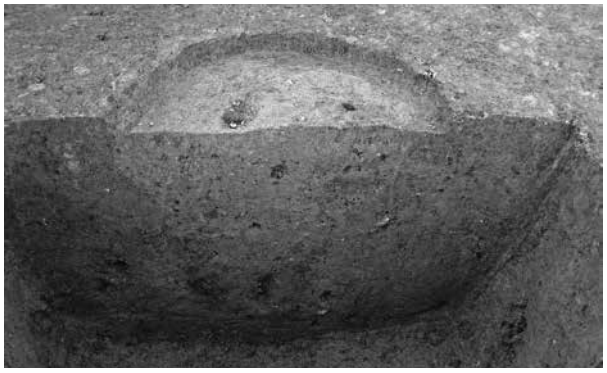
SB01 P49 土層断面（西から）

SB01 P51 土層断面（西から）

SB01 P63 土層断面（西から）

SB01 P64 土層断面（西から）

SB03（北西から）



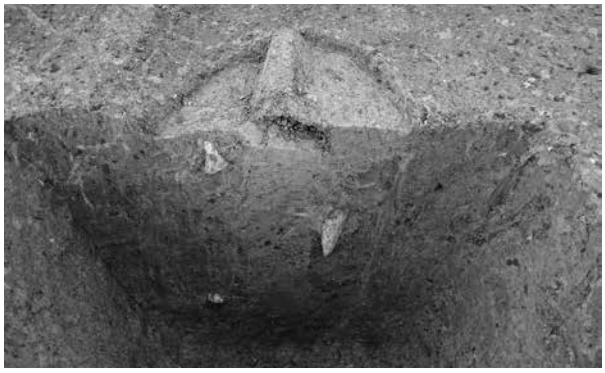
SB03 P11 土層断面（北から）

SB03 P12 土層断面（北から）

SB03 P13 土層断面（北から）

SB03 P14 土層断面（北から）

SB03 P15 土層断面（北から）

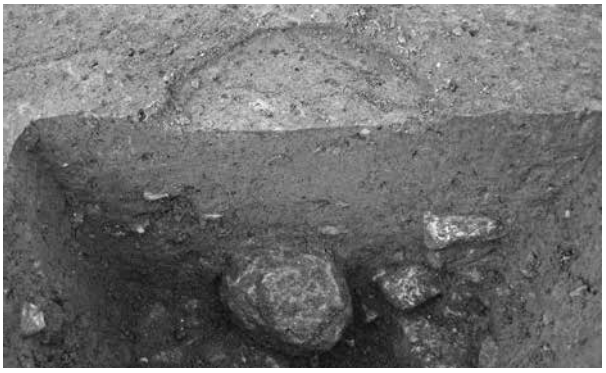


SB03 P16 土層断面（北から）

４東区　遺構３

SB02・04（西から）

SB02 P04 土層断面（南から）



SB02 P31 土層断面（南から）

SB04 周辺 P02 土層断面（南から）

SB04 P23 土層断面（南から）

SB04 P39・40 土層断面（南から）

SB04 P41・42・43 土層断面（南から）

SD10・11（北西から）

SK04（北から）

SD10 土層断面(F-F')(南東から)

SK03（南から）

５西区　全景１

津万５西区　全景　空中写真（南から）

５西区　全景（南東から）

５西区　全景２・遺構１

５西区　西半部（西から）

５西区　西半部
落込み土層断面（南から）

５西区　東半部（南西から）

SD01 土層断面（東から）

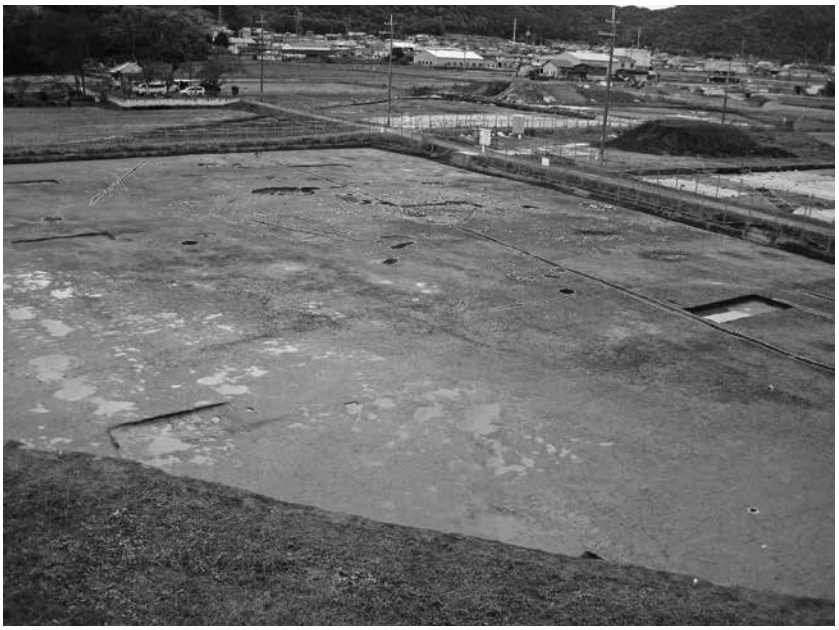
５東区　全景１

津万５東区　全景　空中写真（南から）

５東区と４区（南から）

５東区　全景２

５東区　北半部（西から）



５東区　南半部（南東から）

５東区　北半部（東から）

５東区　遺構１

SB01・02・03・04・05（西から）

SB01・02・03・04・05（東から）

SB01（南から）

SB01 P11 土層断面（南から）

SB01 P14 土層断面（南から）

SB01 P17 土層断面（南から）

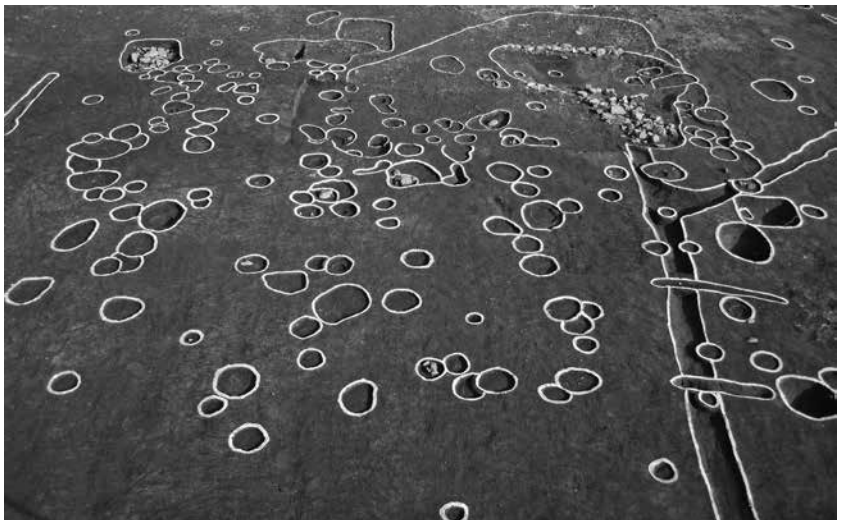
SB01 P18･19 土層断面（南から）

SB01 P34 土層断面（南から）

SB01 P38 土層断面（南から）

５東区　遺構３

SB02･04･05（東から）



SB04･05（西から）

SB02 P140 土層断面（南から）

SB02 P145 土層断面（南から）

SB02 P46 土層断面（南から）

SB05 P61 土層断面（南から）

SB03（南から）

SB03 P131 土層断面（東から）

SB03 P105 土層断面（東から）

SB03 P133 土層断面（東から）

SB03 P130 土層断面（東から）

SB03 P115 土層断面（東から）

SB03 P127 土層断面（東から）

５東区　遺構５

SB06（北東から）

SB06 P119 土器出土状況（東から）

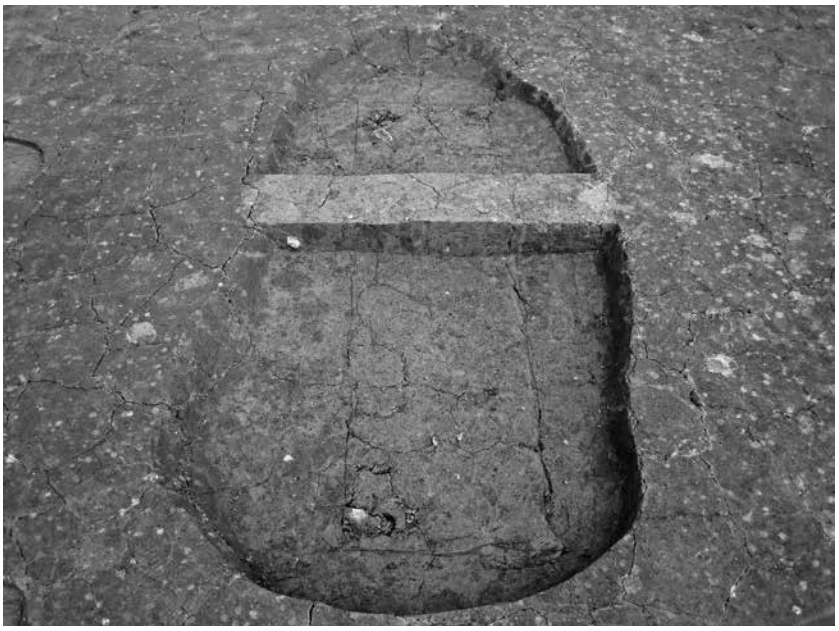
SB06 P119 土層断面（南から）

SB06 P120 土器出土状況（東から）

SB06 P120 土層断面（南から）

SB06 P122 土層断面（南から）

SB06 P123 土層断面（南から）



SK03 木棺出土状況（南から）

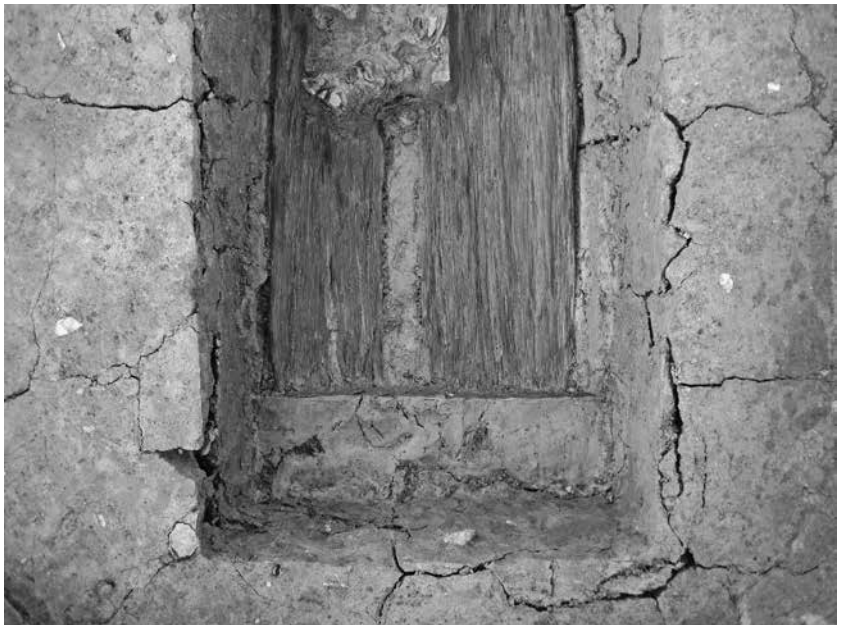
SK03 （木棺墓）（東から）

SK03 北木口（東から）

５東区　遺構７

SK03 漆椀・烏帽子

SK03 棺中央　鉄製品・漆製品



SK03 南木口

SK03 土層断面（南から）

SK03 墓壙土層断面（南から）

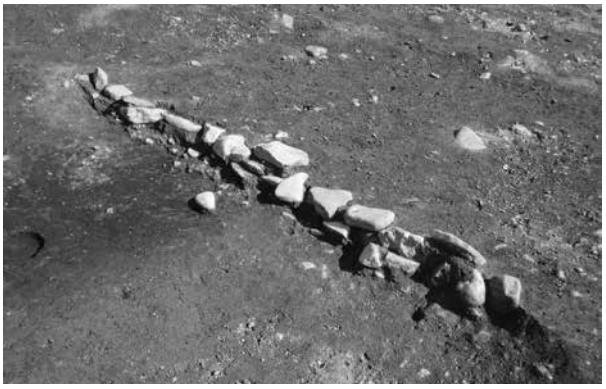
SK03 木棺底板の状況（南から）

５東区　遺構９

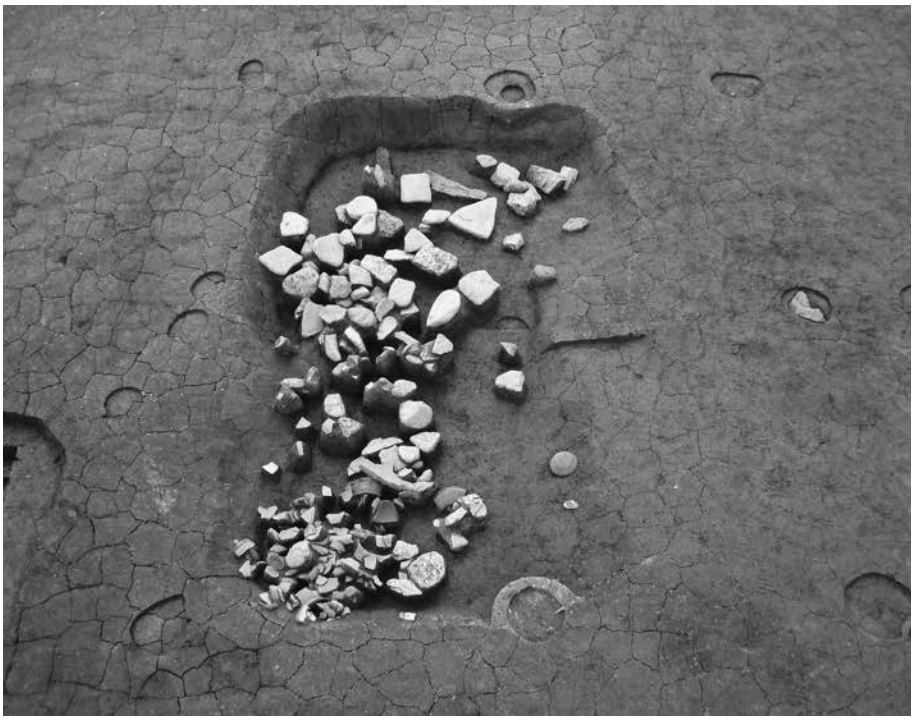
SX01（西から）

SX01（南西から）

SX01 集石（西から）



SX01 石列（南西から）



SK02（北から）

SK02 土層断面（南から）

SK02 北東隅土器（415他）出土状況（北から）

SK02 北西部土器（401）出土状況（西から）

５東区　遺構11

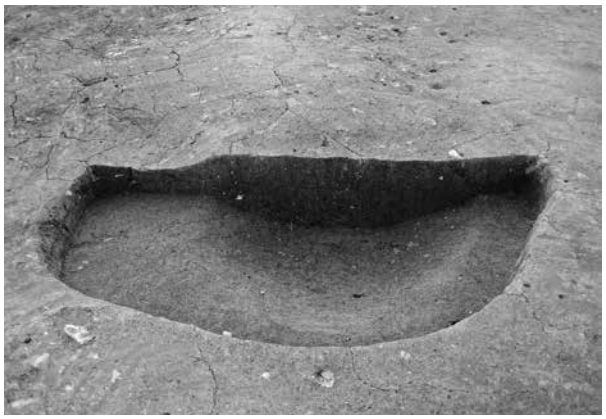
SK06（東から）

SK06（北から）

SK06 土層断面（南から）

SK28（南から）

SK28 土層断面（南から）



SK19 土層断面（北東から）

SK16 土層断面（南から）

SK10･11（南東から）

SK10 土層断面（南から）

SK10 集石断ち割り（東から）

SK11（東から）

５東区　遺構13

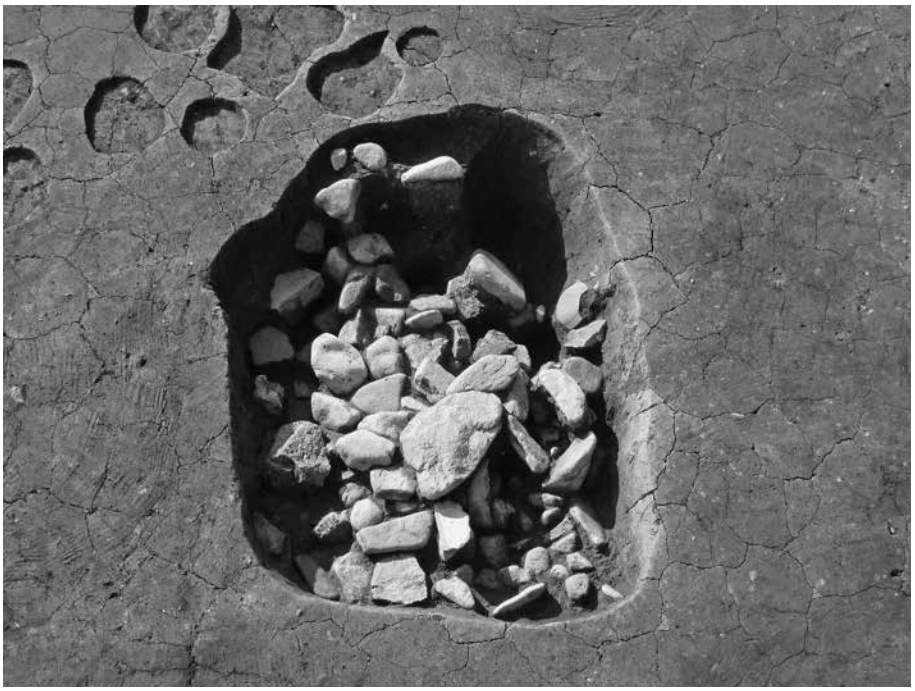
SK14（南から）

SK14（東から）

SK14 土器出土状況

SK14 完掘状況（東から）

SK15（南から）

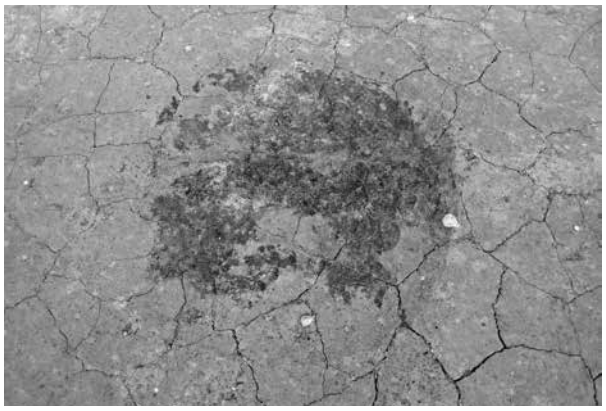


SK15（東から）

SK15 土層断面（西から）

SK15 完掘状況（西から）

５東区　遺構15



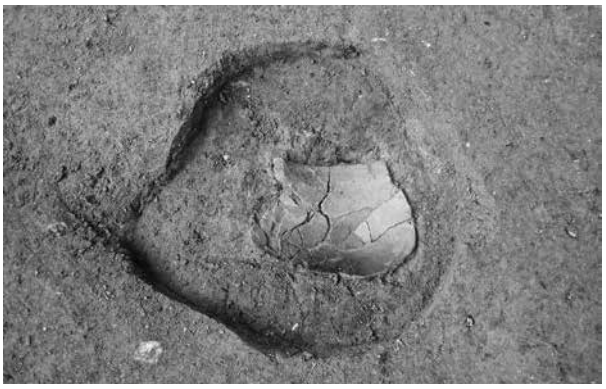
SK04（南から）

SK25（南から）

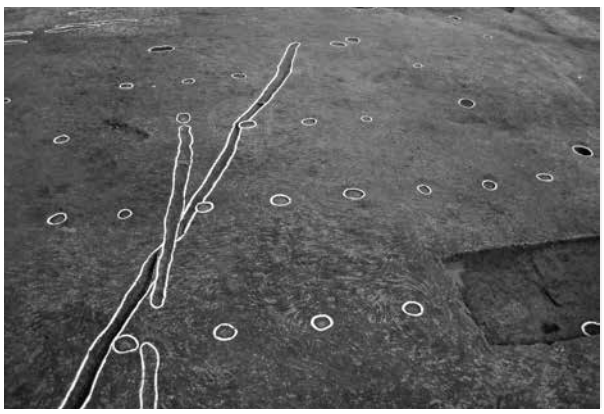
SK24（南から）

SK22 土層断面 土器出土状況(447)(南から)

SK26（東から）



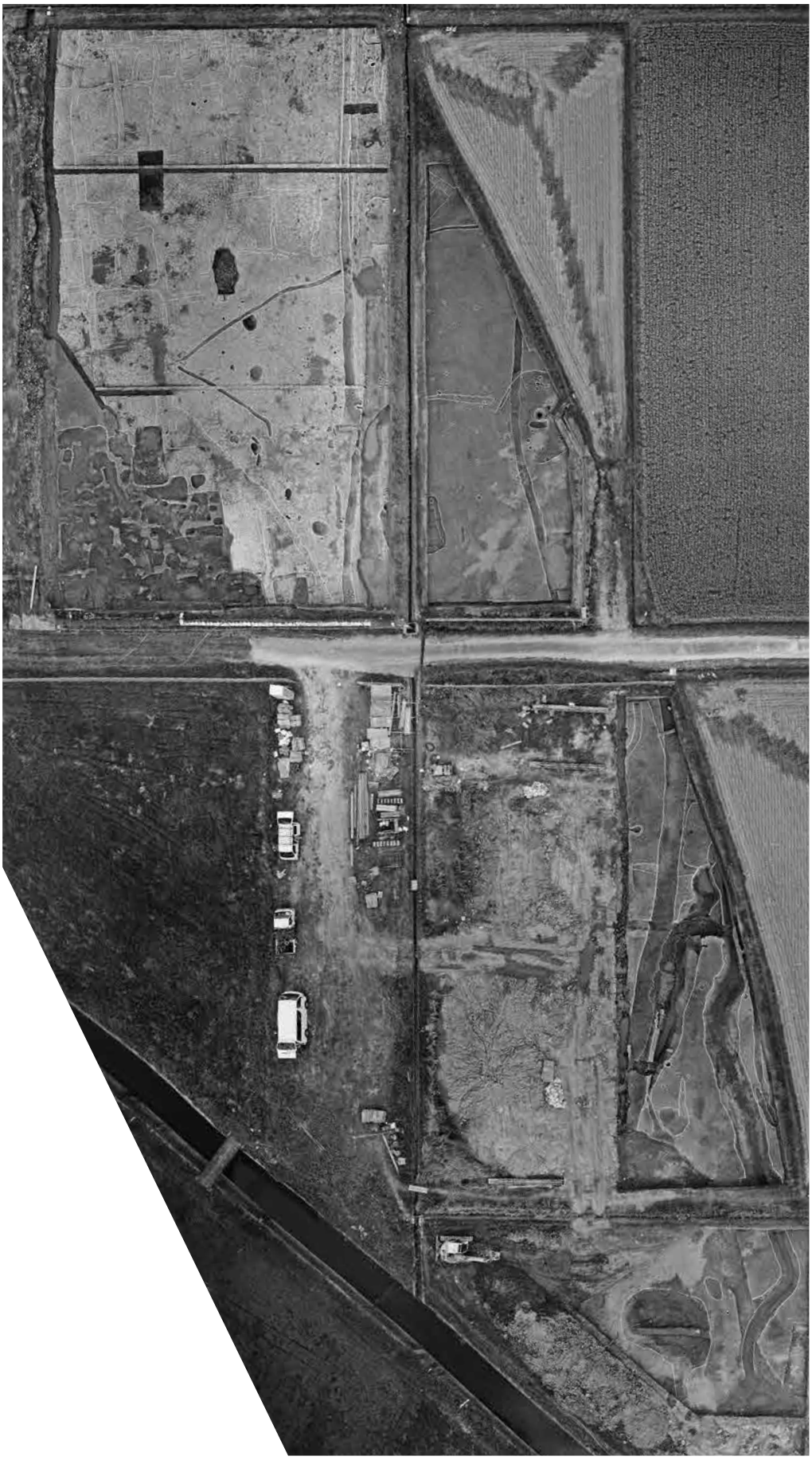
P77 土器(337)出土状況(東から)



SD03･04（東から）

SD01 と SX01（東から）

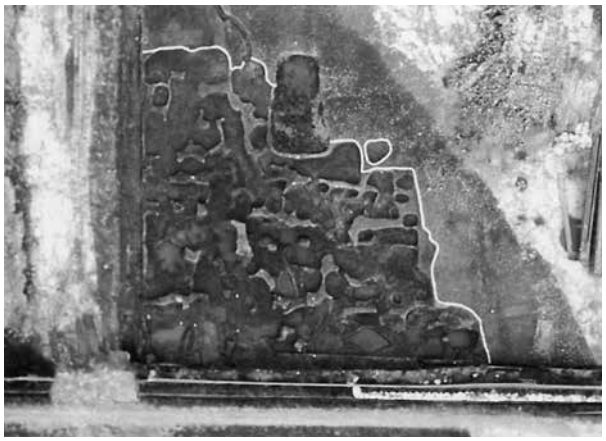
６～８区全景１



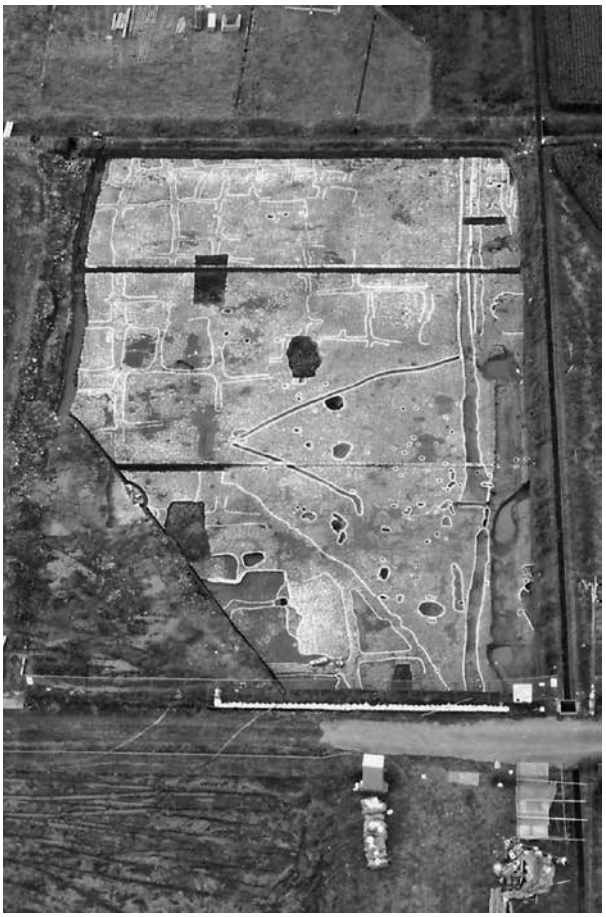
津万６～８区 全景 南から

写真図版 72

６区～８区　全景２



６西区 下層 粘土採掘坑（南から）

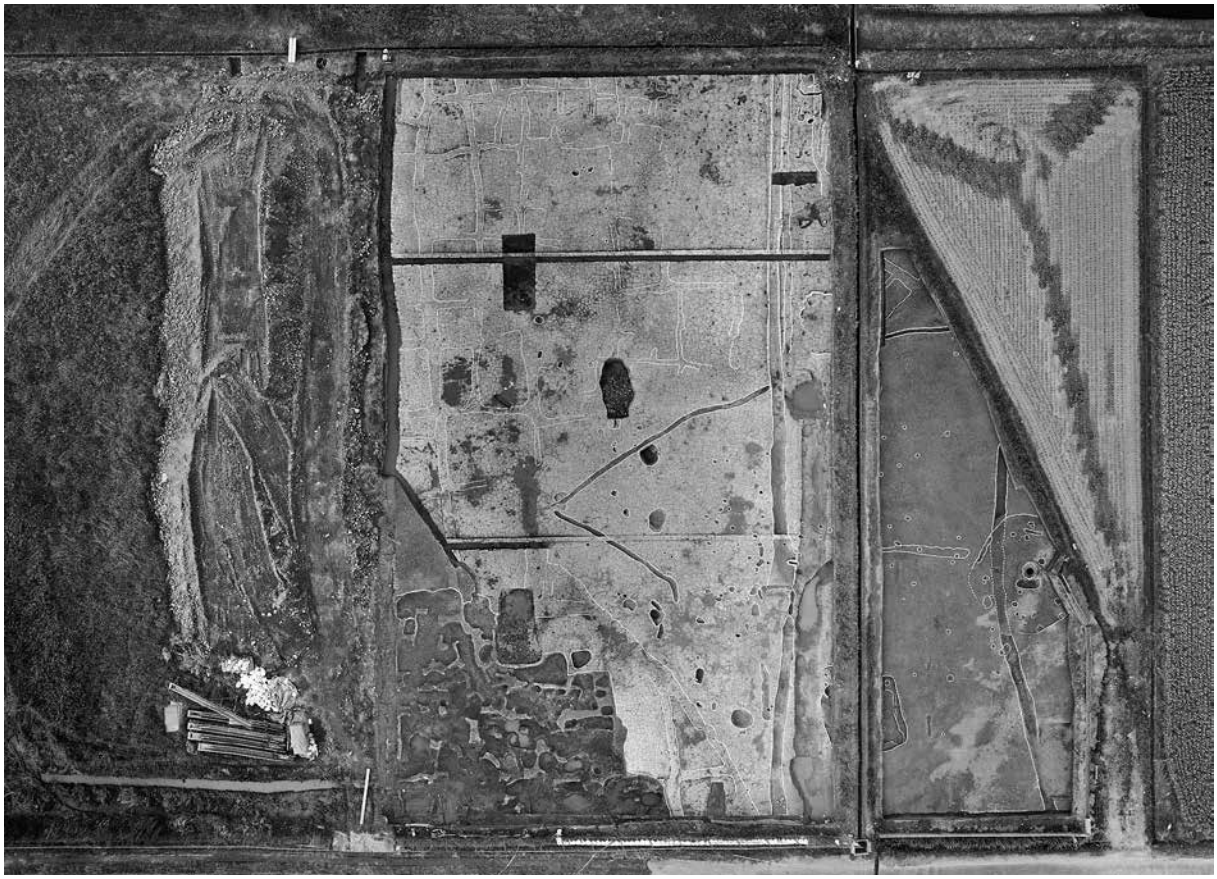


６西区 上層・下層 全景（南から）

津万６～８区 全景（北から）

6 西区　全景 1

6 西区 上層全景 空中写真（南から）



6 西区 下層全景 空中写真（南から）

6 西区　全景 2

6 西区　調査区全景（北から）

調査区全景（南から）

北半部の水田遺構（西から）

中央部の水田遺構（西から）

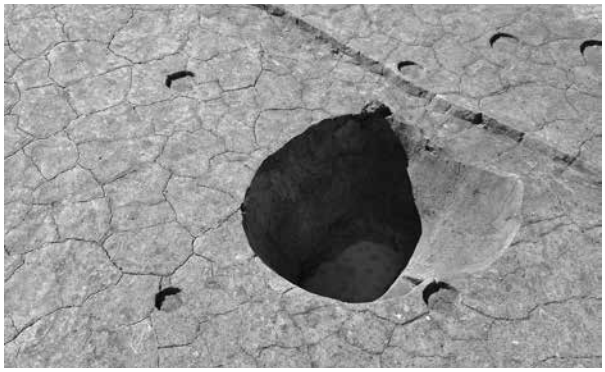
南半部の水田遺構（北西から）

SB01・02 周辺（南から）

SB01 部分（南から）

SB01 P28 土層断面（西から）

SB01 P29 土層断面（西から）



SE16 と SB02（東から）

SE16（南から）

SE16 土層断面（南から）

6 西区　遺構 2

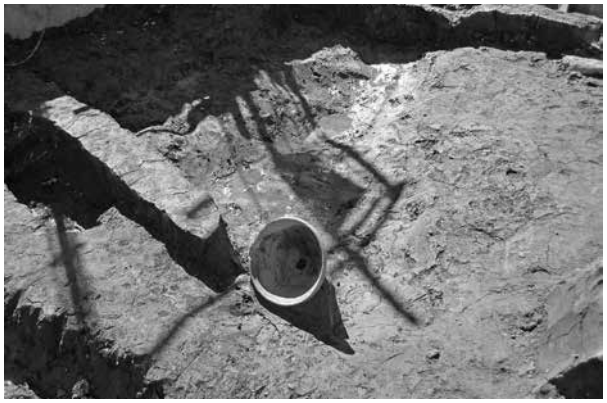
粘土採掘坑群（北から）

粘土採掘坑群（北西から）

粘土採掘坑群（西から）

粘土採掘坑 5　木片（東から）

粘土採掘坑 5　土層断面（A-A'）（東から）

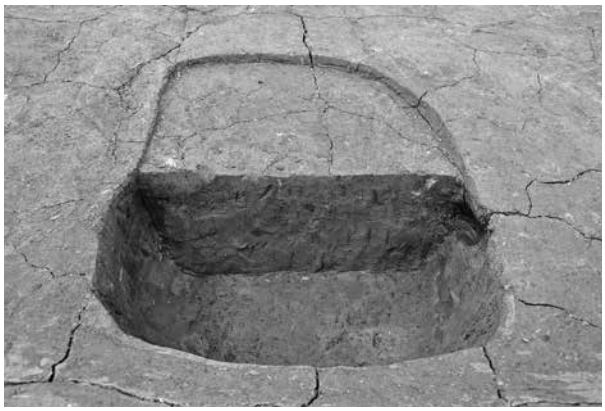

粘土採掘坑 8　土器（484）出土状況（北東から）

粘土採掘坑 8　土器（484）出土状況　近接（北から）

土層断面（C-C'）（東から）

土層断面（D-D'）（東から）

粘土採掘坑 1（SK19）土層断面（東から）

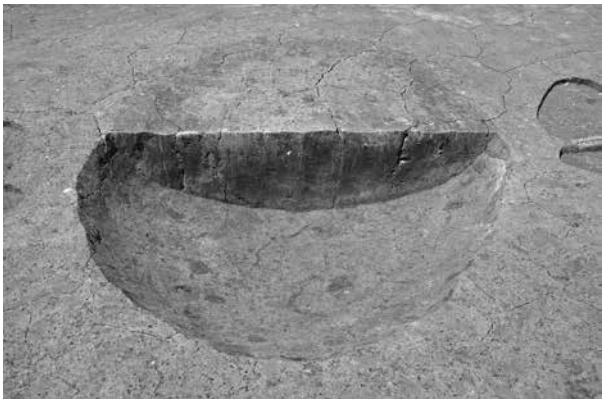

粘土採掘坑 6（SK21）土層断面（東から）

6 西区　遺構 4

SK10（南東から）

SK11（南から）

SK12（南から）

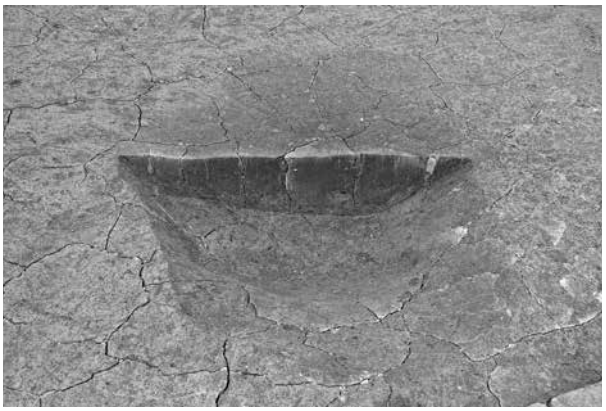


SK13（東から）

SK13（東から）

SK14 土層断面（南から）

SK14（南から）

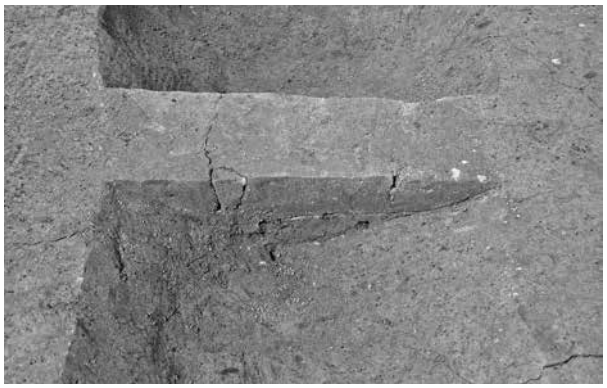


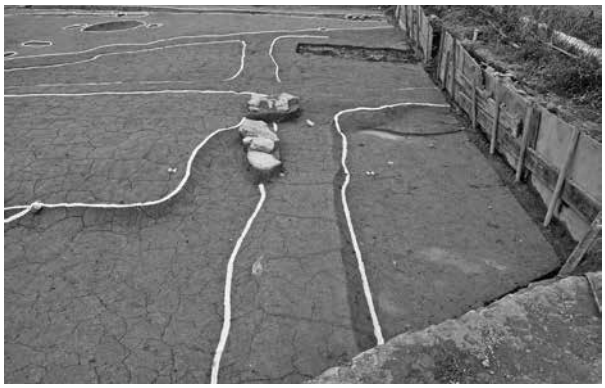
SK17（南から）

SD01（北北西から）

SD01（北から）

SD01･06（南から）


SD01 土層断面（A-A'）（南から）


上層水田の大畦畔（西から）

６西区　遺構６・土層

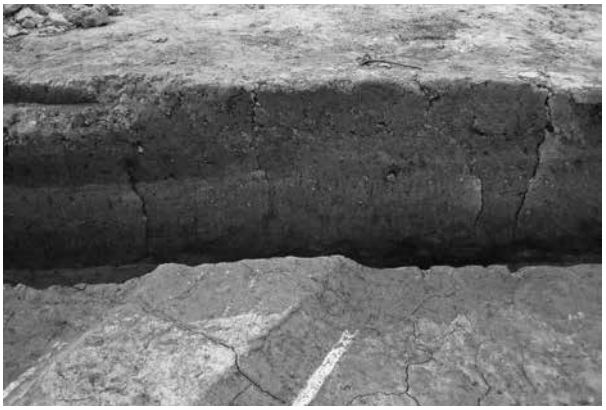
SD02（南西から）

SD02 土層断面(B-B')(南西から)

SD15（南東から）

SD15 土層断面(F-F')(南東から)

調査区北壁 SD01部分 土層断面

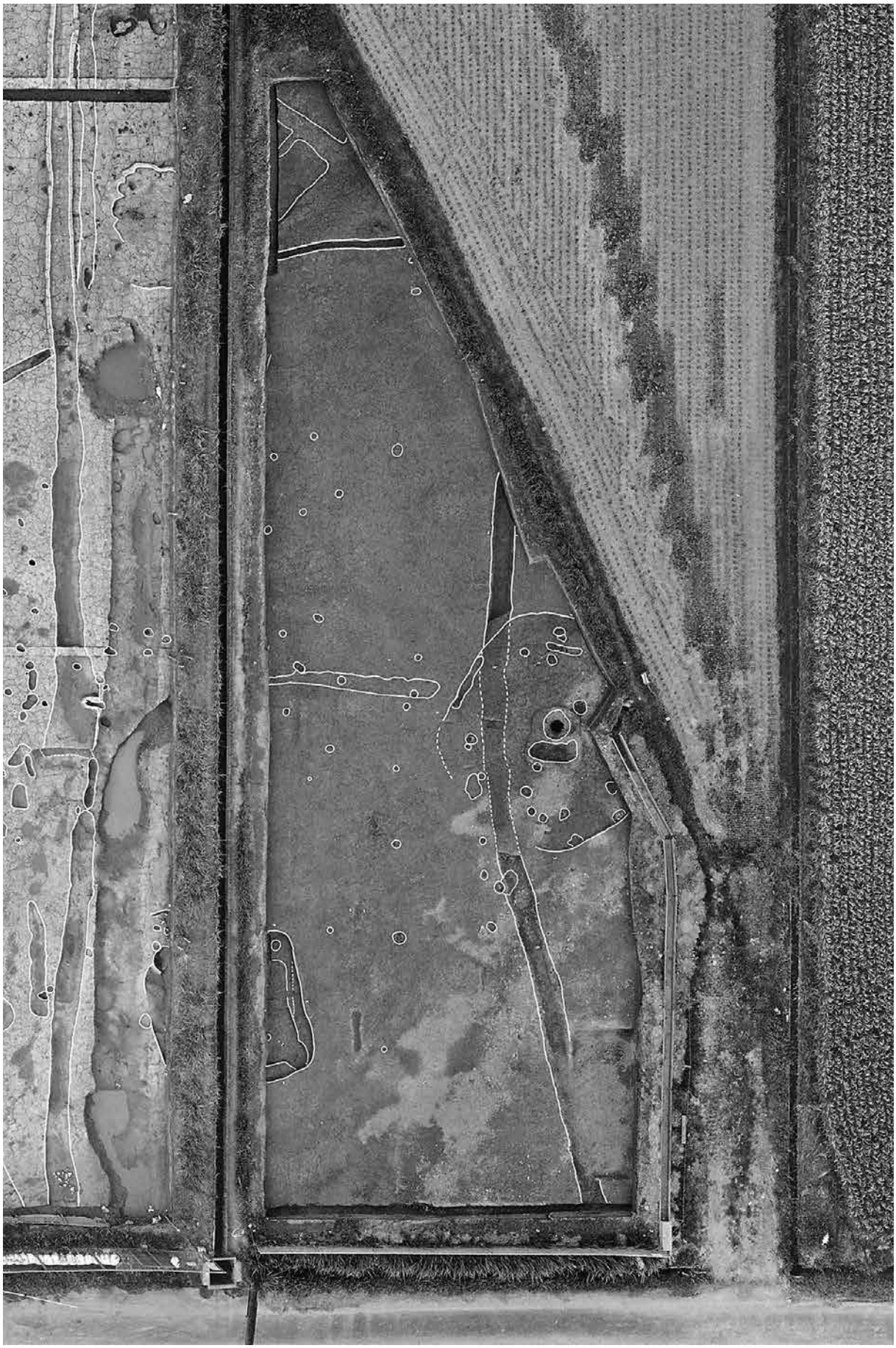


調査区西壁･南端畦畔 土層断面(東から)

水田断ち割り(I-I')中央部　土層断面(南から)

下層断ち割り 土層断面(南から)

6 東区　全景 1



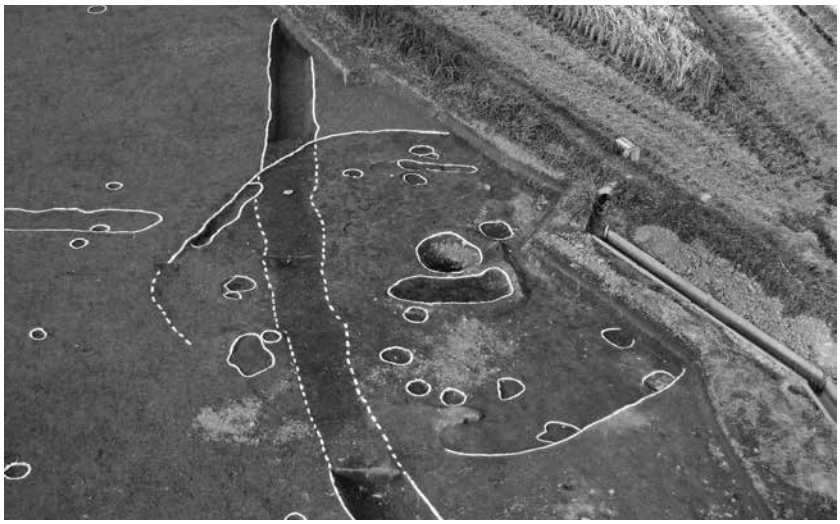
津万 6 東区　全景　空中写真（南から）

６東区　全景２

６東区　全景（南から）

６東区　全景（北から）

SH08（北から）



SH08（南から）

SH08 検出状況（南から）

SH08 中央土坑（西から）

SH08 中央土坑 土坑断面（西から）

SH09 東南隅土坑断面（北東から）

６東区　遺構２

SH09（東から）

SH09（６西区側)(北から）

SH09 土層断面(南から）

SH09 周壁溝(南から）

SH08 P12 土層断面（西から）

SH08 P13 土層断面（西から）

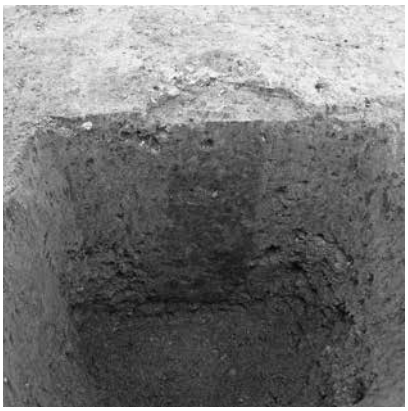
SH08 P14 土層断面（北から）

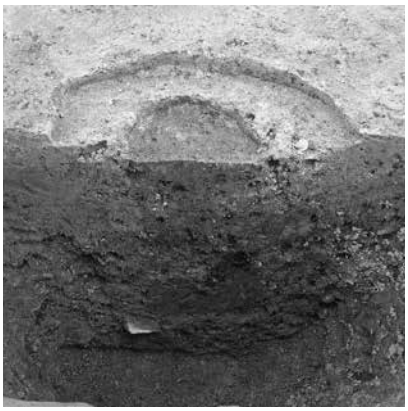
SH08 P24 土器出土状況（北から）

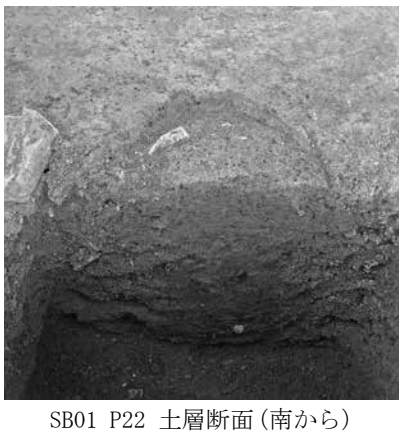
SH08 P24 土器出土状況（北から）

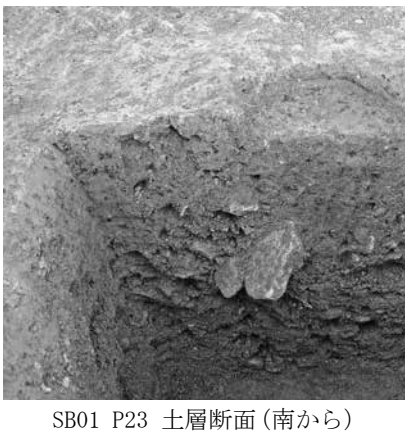
SH08 P24 完掘状況（北から）

SH08 P26 土層断面（西から）


SB01 P20 土層断面（南から）


SB01 P21 土層断面（南から）


SB01 P22 土層断面（南から）


SB01 P23 土層断面（南から）

SK15（南から）

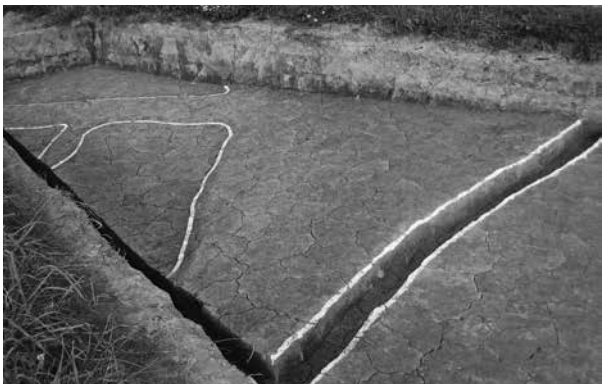
６東区　遺構４

SD02（南から）

SD02 土層断面(E-E')(南から)

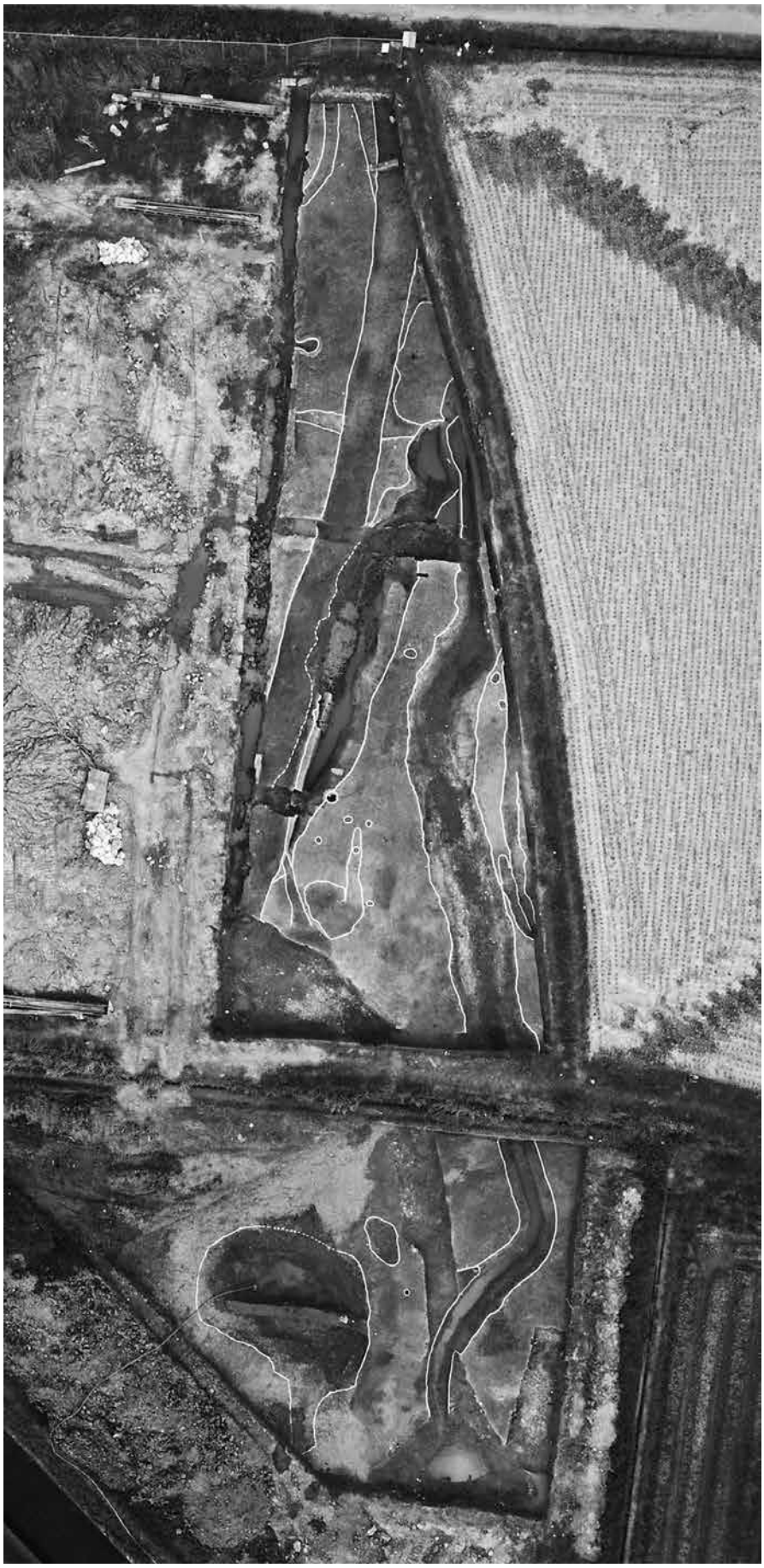
SD02 土層断面(F-F')(南から)

SD04 土層断面(C-C')(南から)



北端水田遺構(南西から)

７・８区　全景



津万７・８区　全景　空中写真（南から）

7区　全景

7区　全景（南から）

7区　全景（南から）

7区　上層遺構全景（南から）

SD18（北東から）

SD16･21（北東から）

SK10（南から）

SK10 土層断面（南から）

SK15 土層断面（南から）

SD11 土層断面（B-B'）（南から）

SD13（北東から）

SD13 土層断面（C-C'）（南から）

７区　遺構２

SD16 土層断面(E-E')(南から)

SD16 土層断面(G-G')(南から)

SD16 土器群検出状況

SD18 土層断面(H-H')(南から)

SD18 土層断面(I-I')(南から)

SD18･21 土層断面(J-J')(南から)

上面土器出土状況

SD20 土層断面(L-L')(南から)

７区　遺構３/７・８区　全景

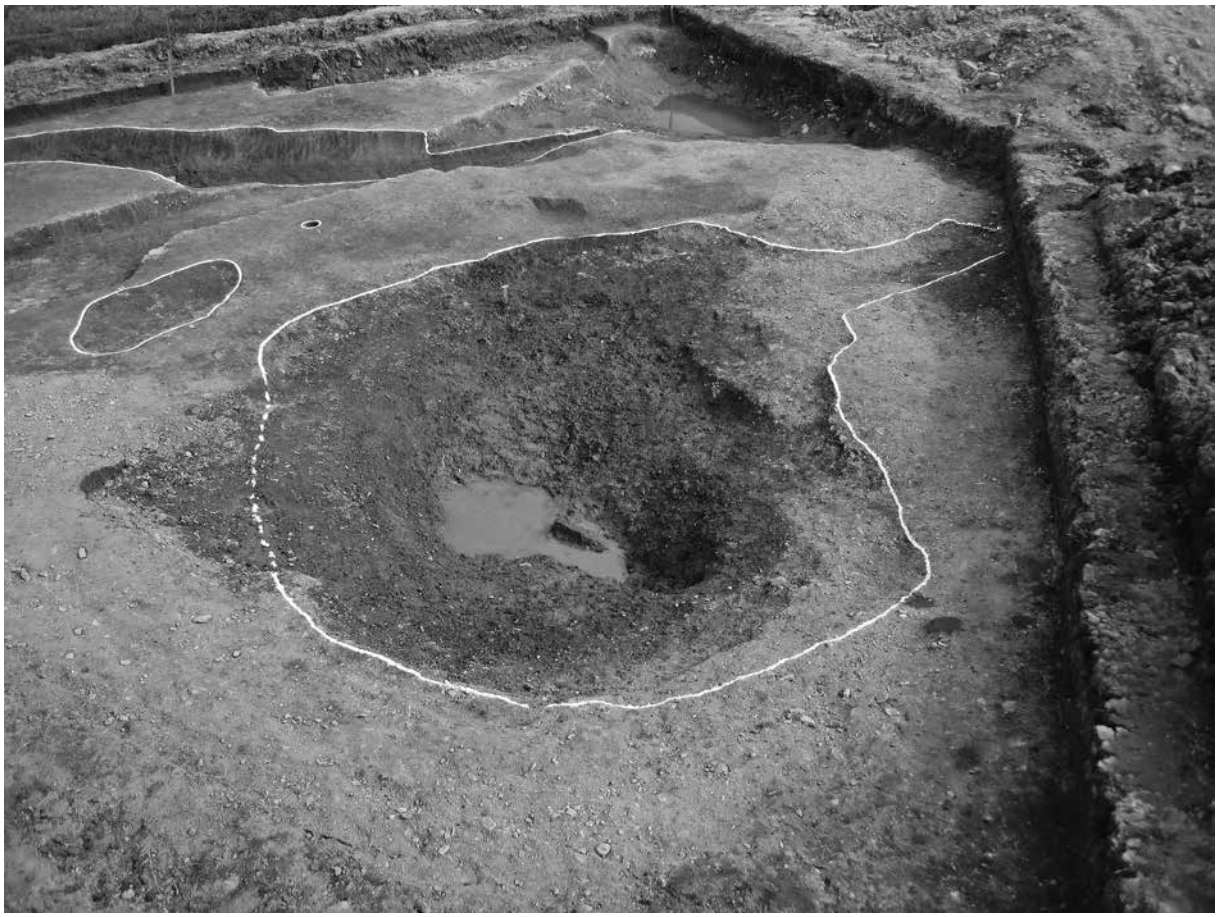
SD22 土層断面(M-M')(南から)

No.1 東西トレンチ土層断面(K-K')(南東から)

上層　畦畔(南から)

津万７・８区　全景(南から)

８区　遺構



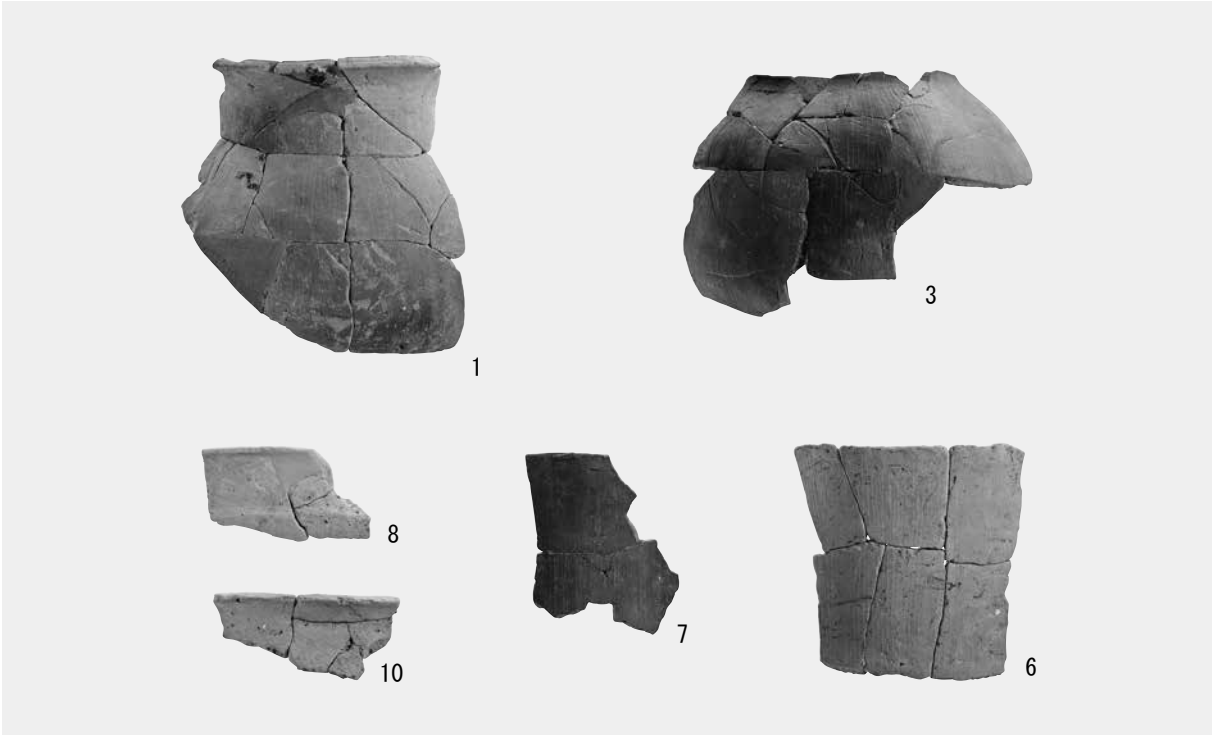
SX02（北西から）

SX02 土層断面(A-A')(南から)

SX01 断面(北から)

SD03・北壁(E-E')(南から)

SD03 土層断面(D-D')(南から)



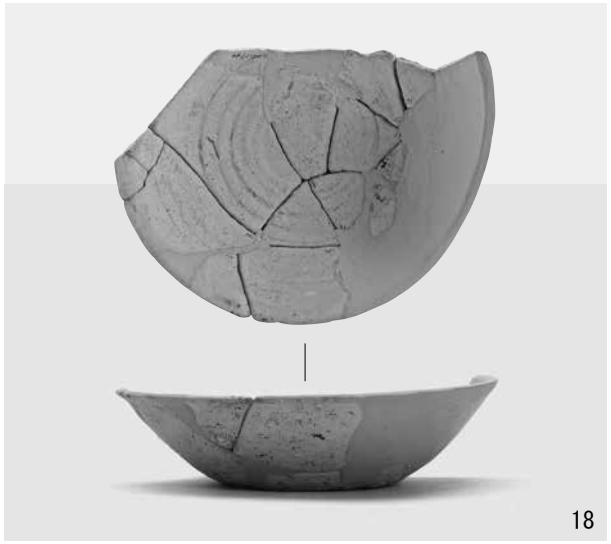
出土土器 1

11

12

13

14

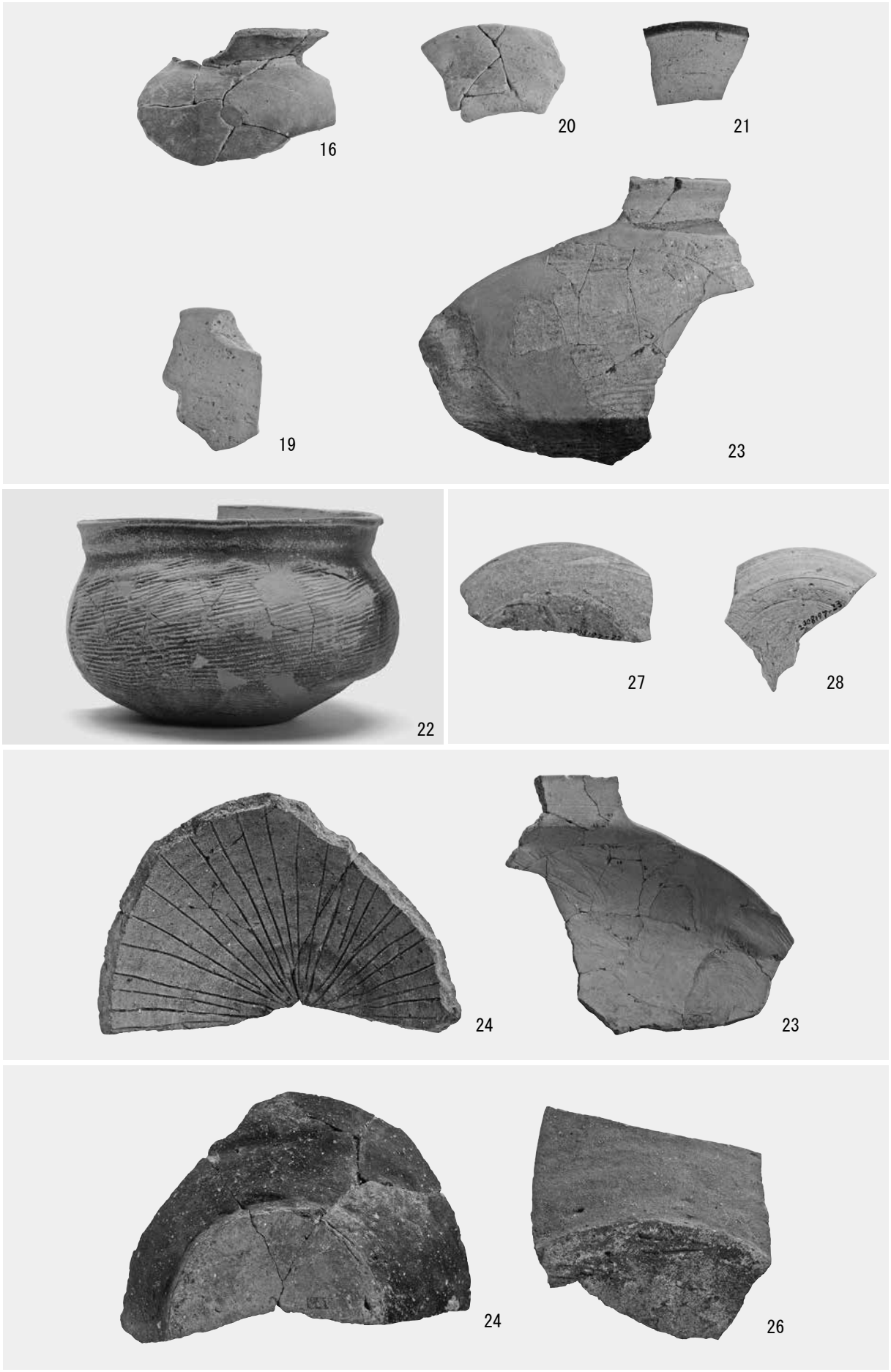

18

25

17

15

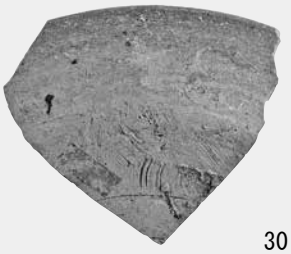
出土土器２



出土土器 3

29

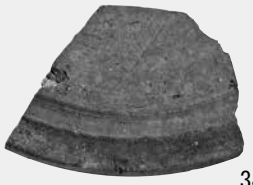
31


30

32

33

35


34

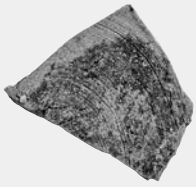
38

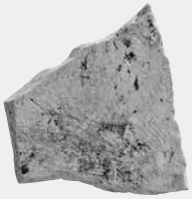
39

41

43

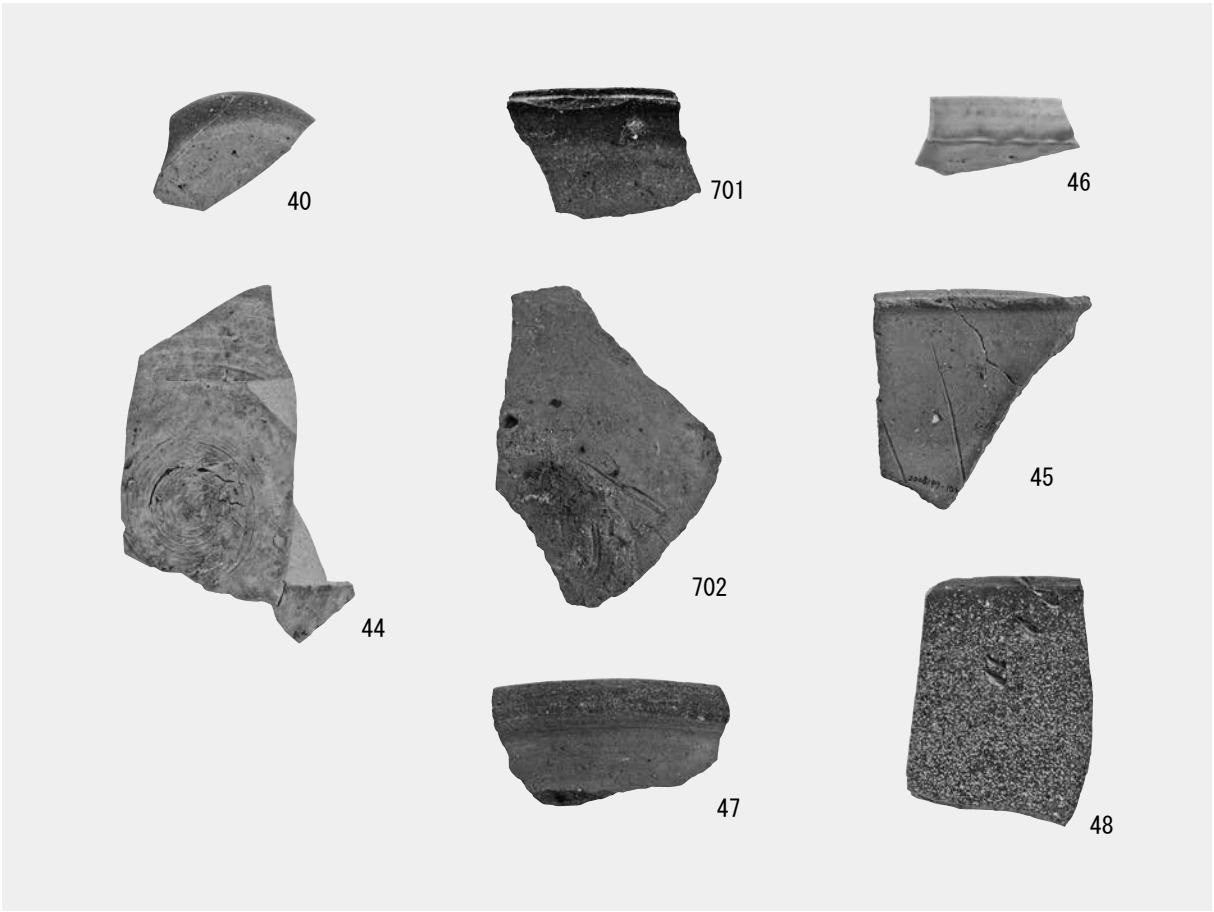
42

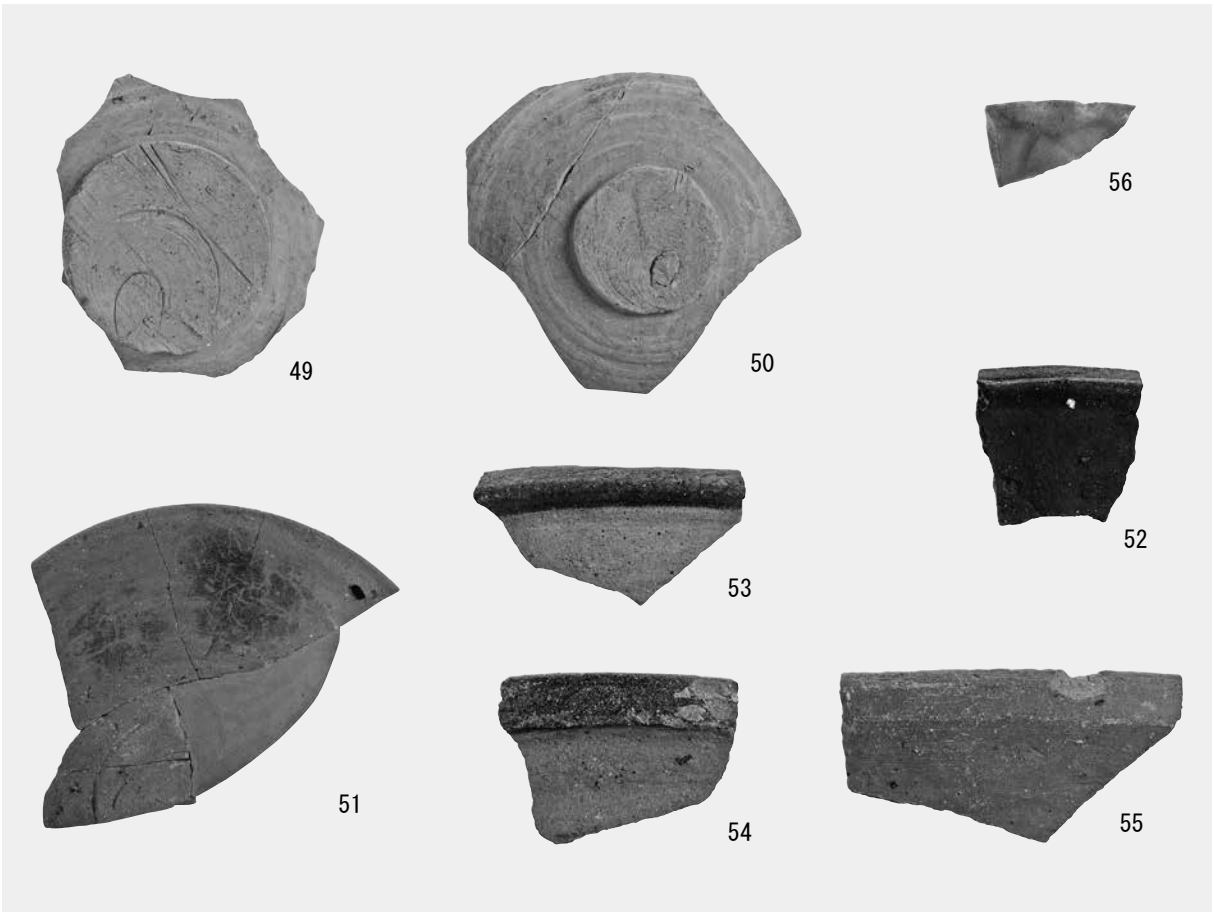

36


37

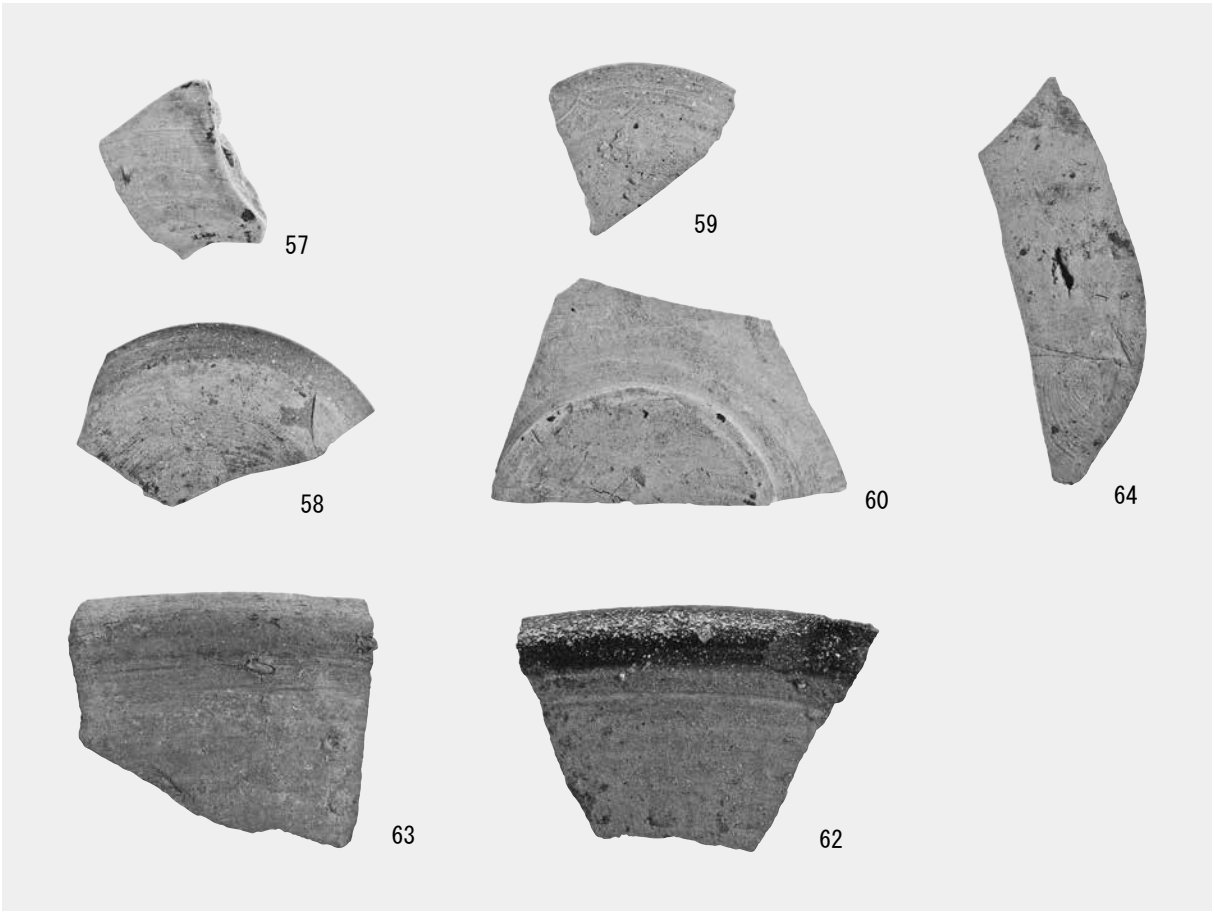
34

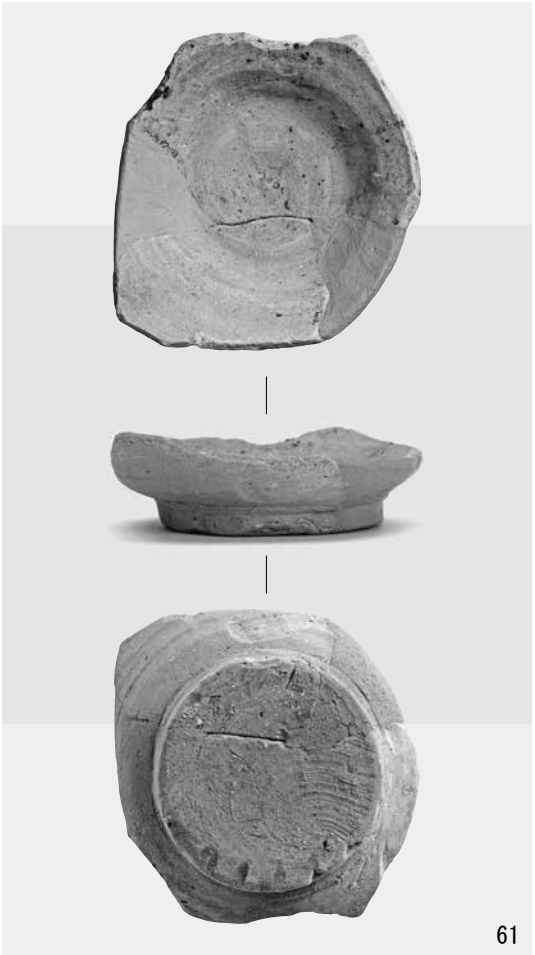
出土土器４

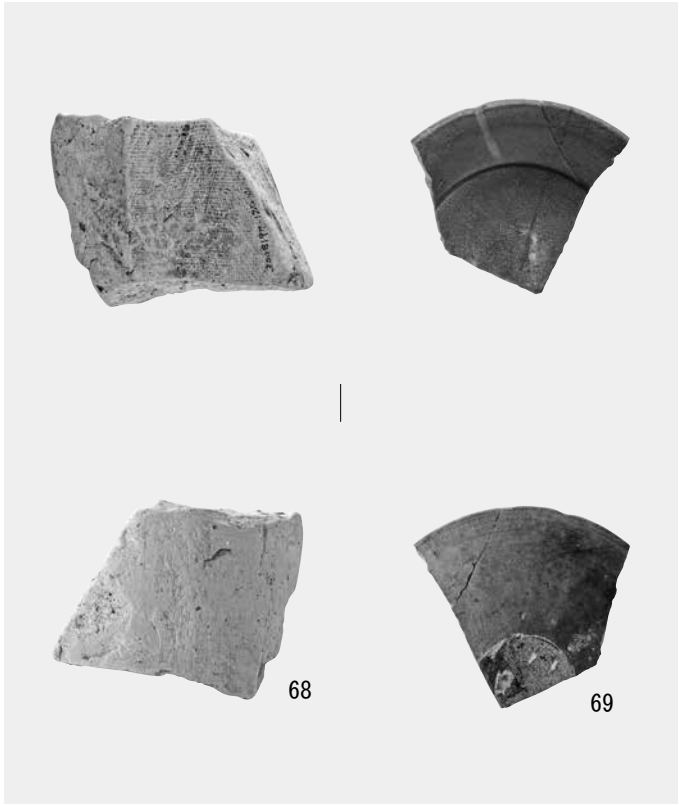




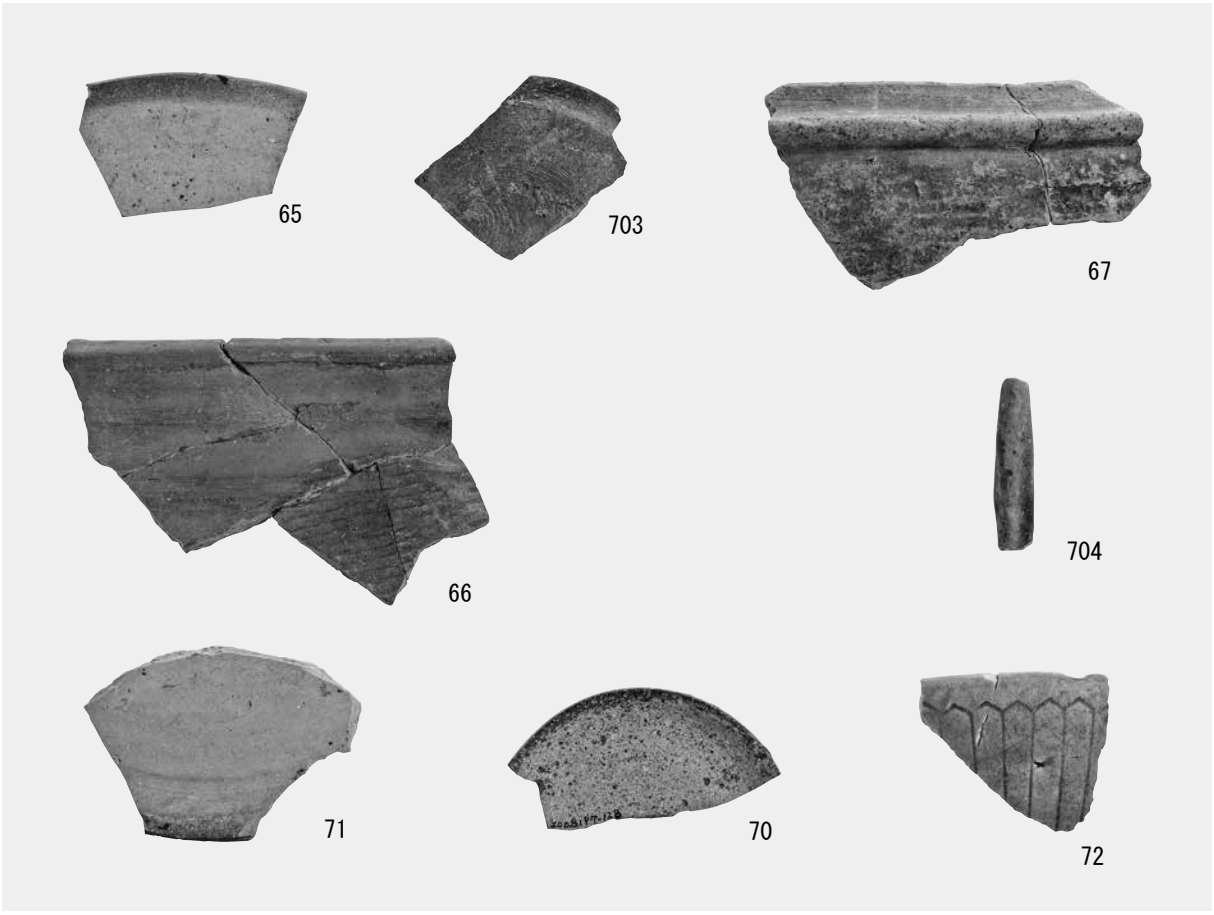
出土土器 5

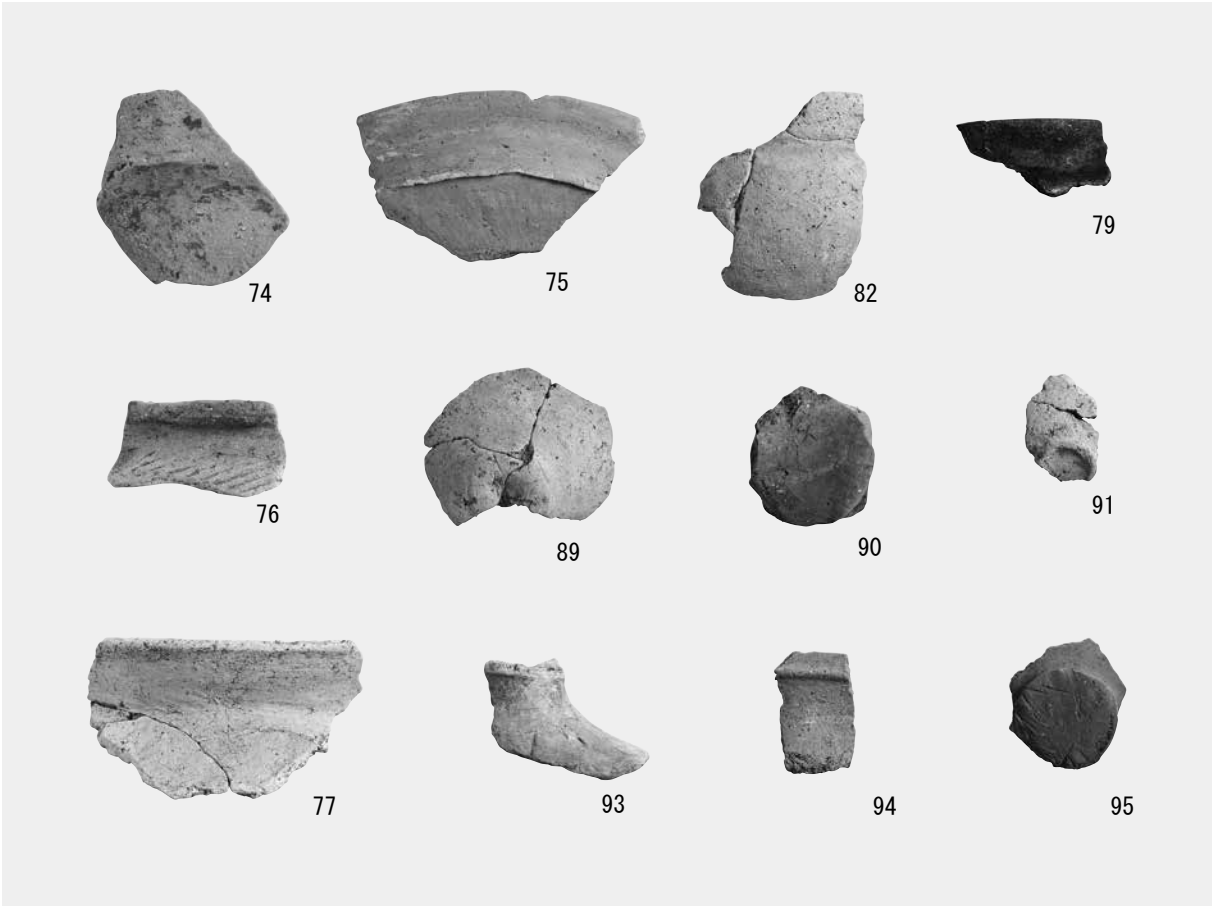






出土土器 6





出土土器 7

73

78

80

81

83

84

85

86

87

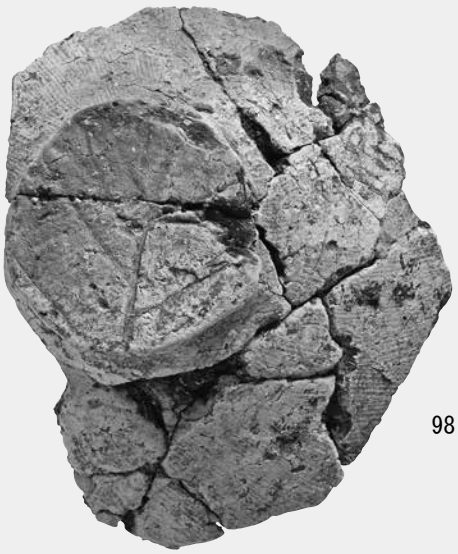
88

92

出土土器８

96

97



98

99

102

103

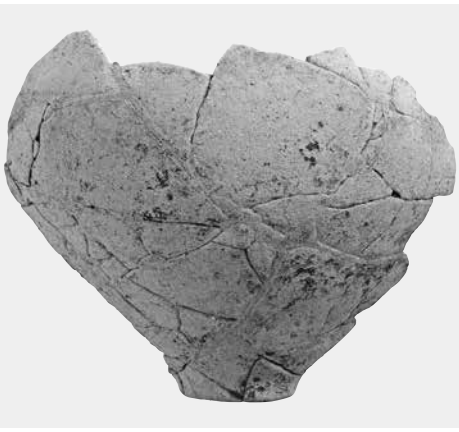
705

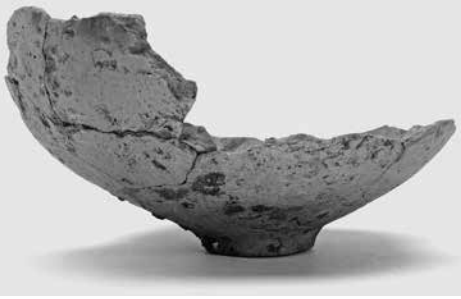
100

101

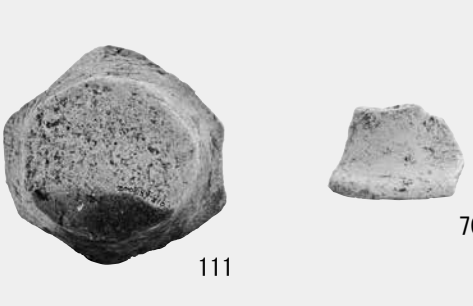
出土土器 9

104


105

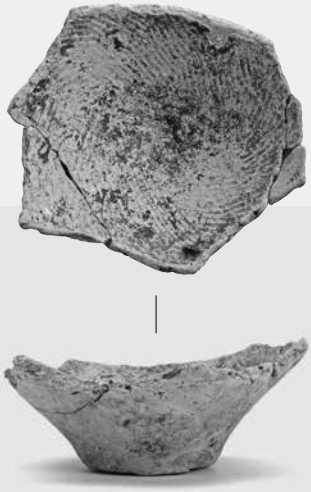

106

107


111

706

108


109

110

112

113

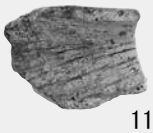
114

出土土器10

115

118

117


116

131

129

130

119

136

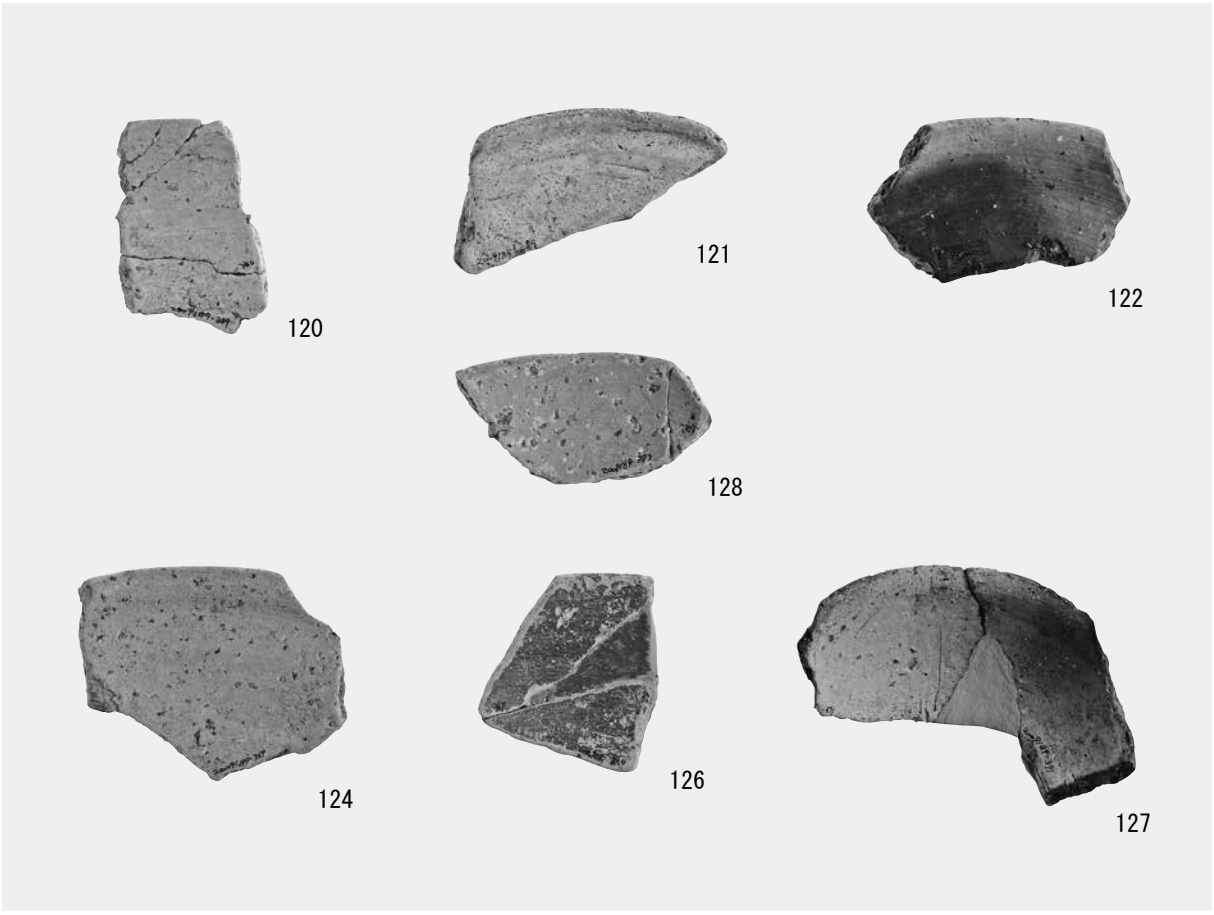
123

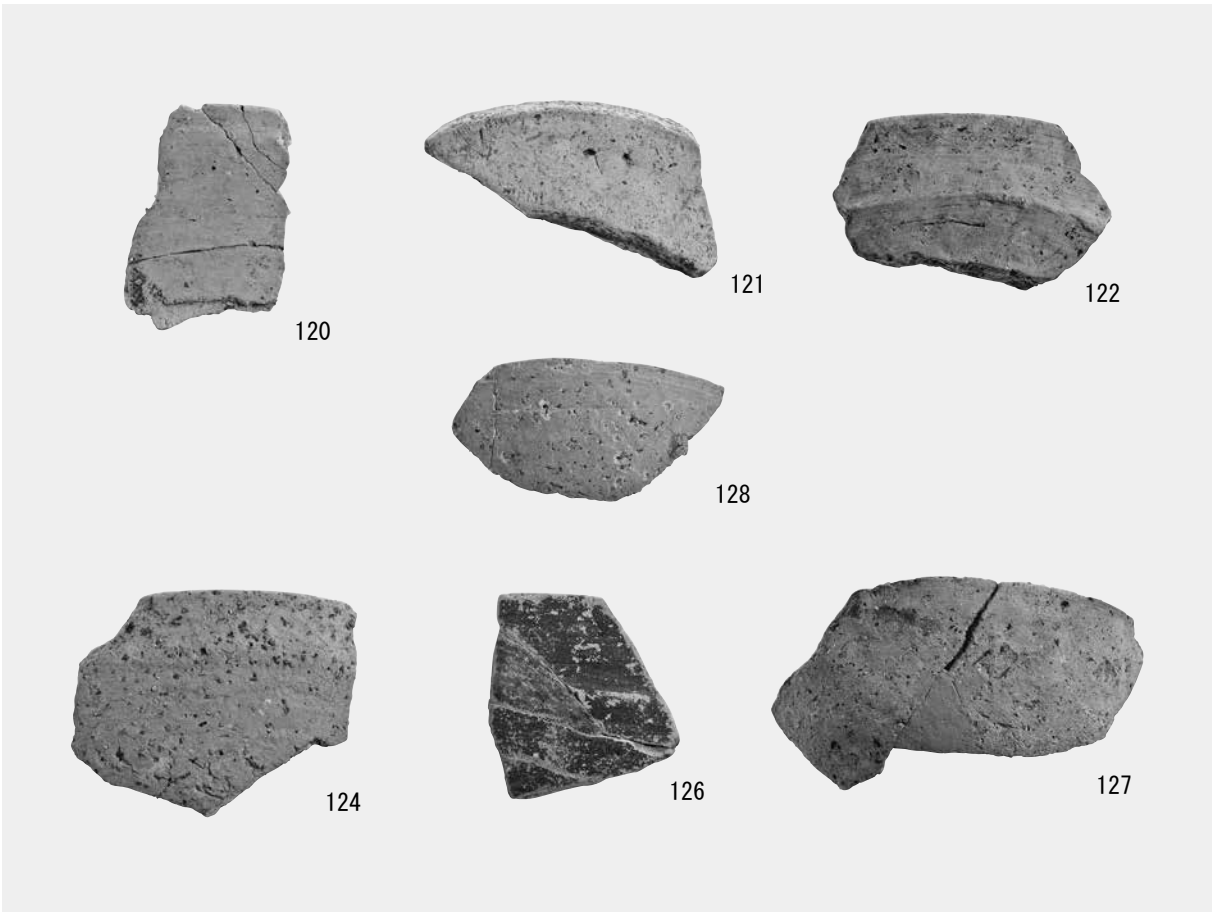
145

125

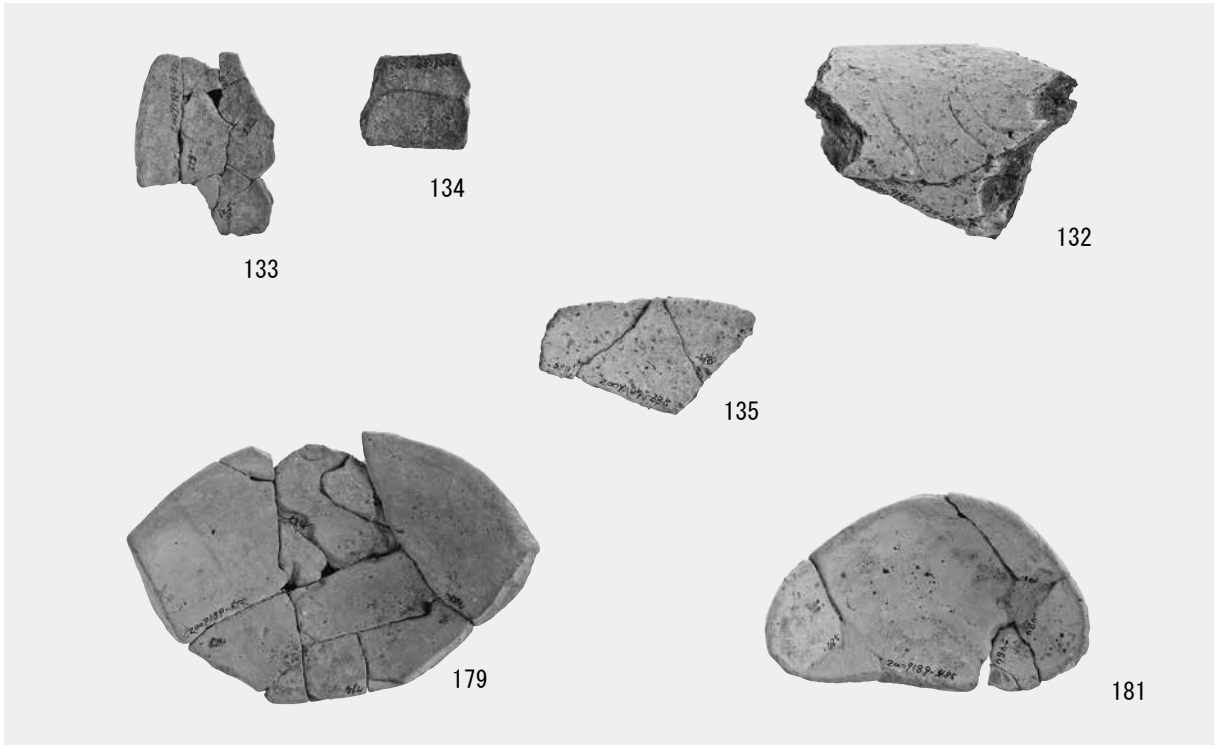
146

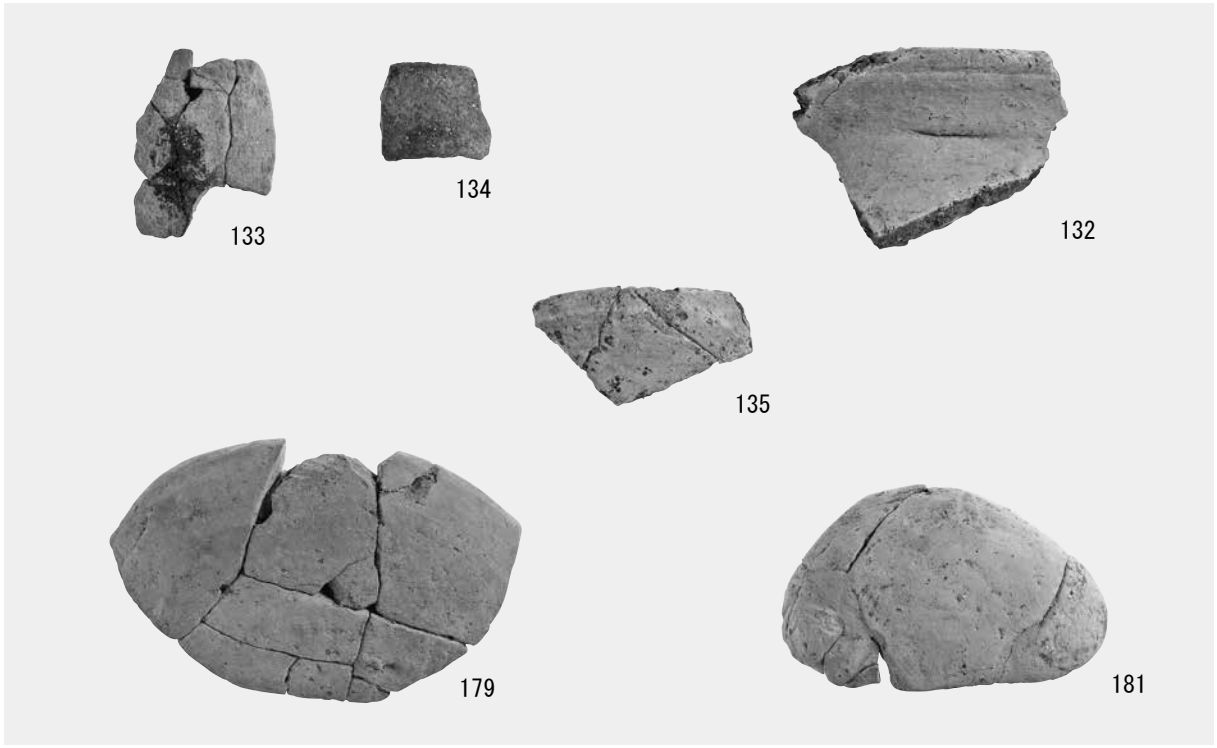
出土土器11



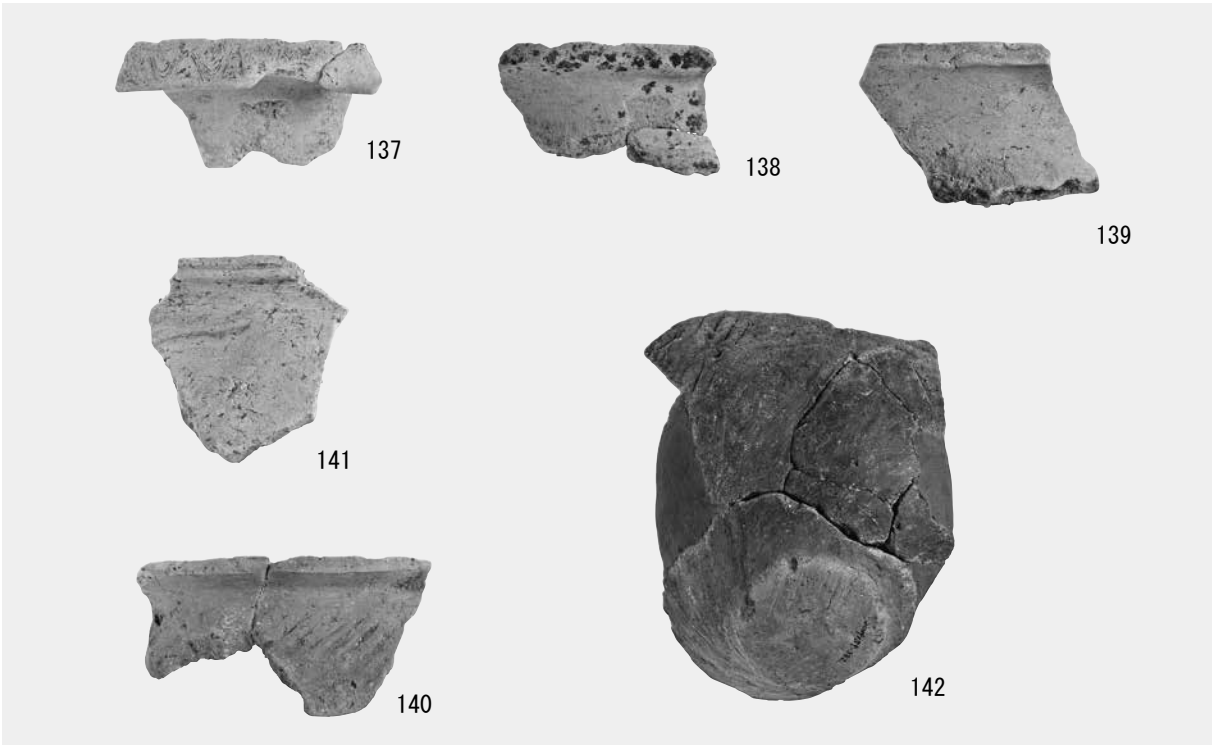


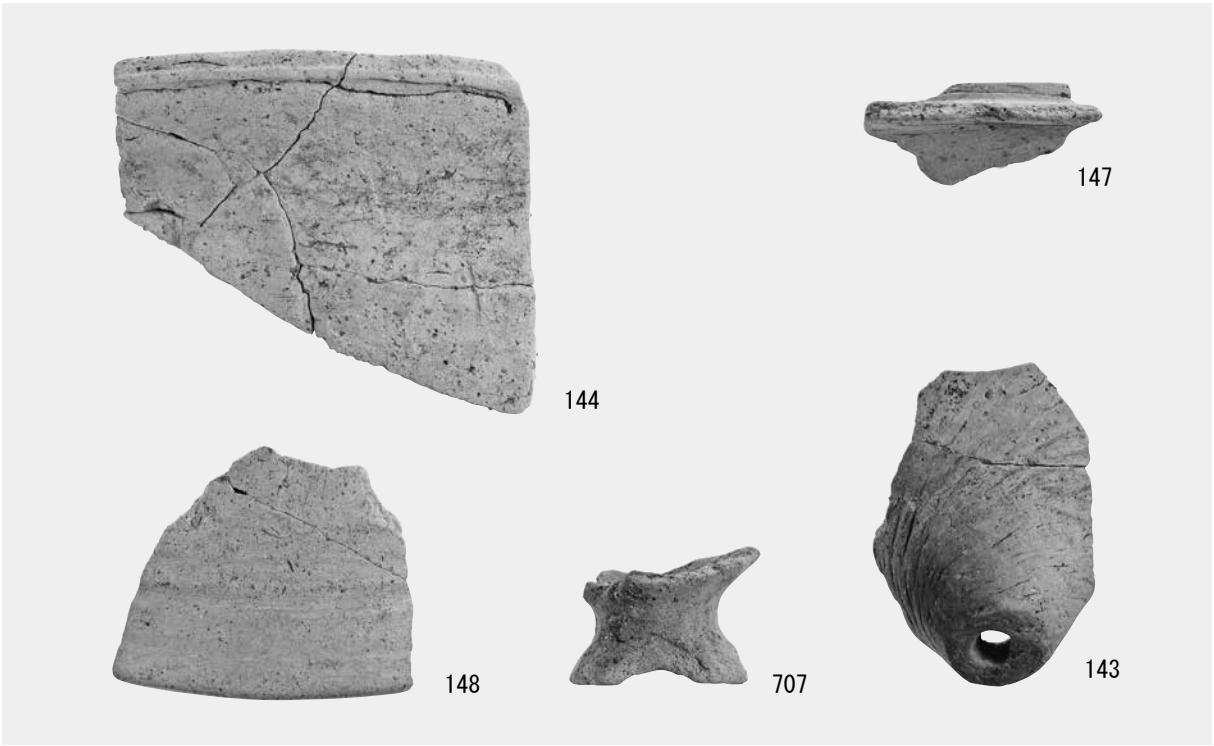
出土土器12



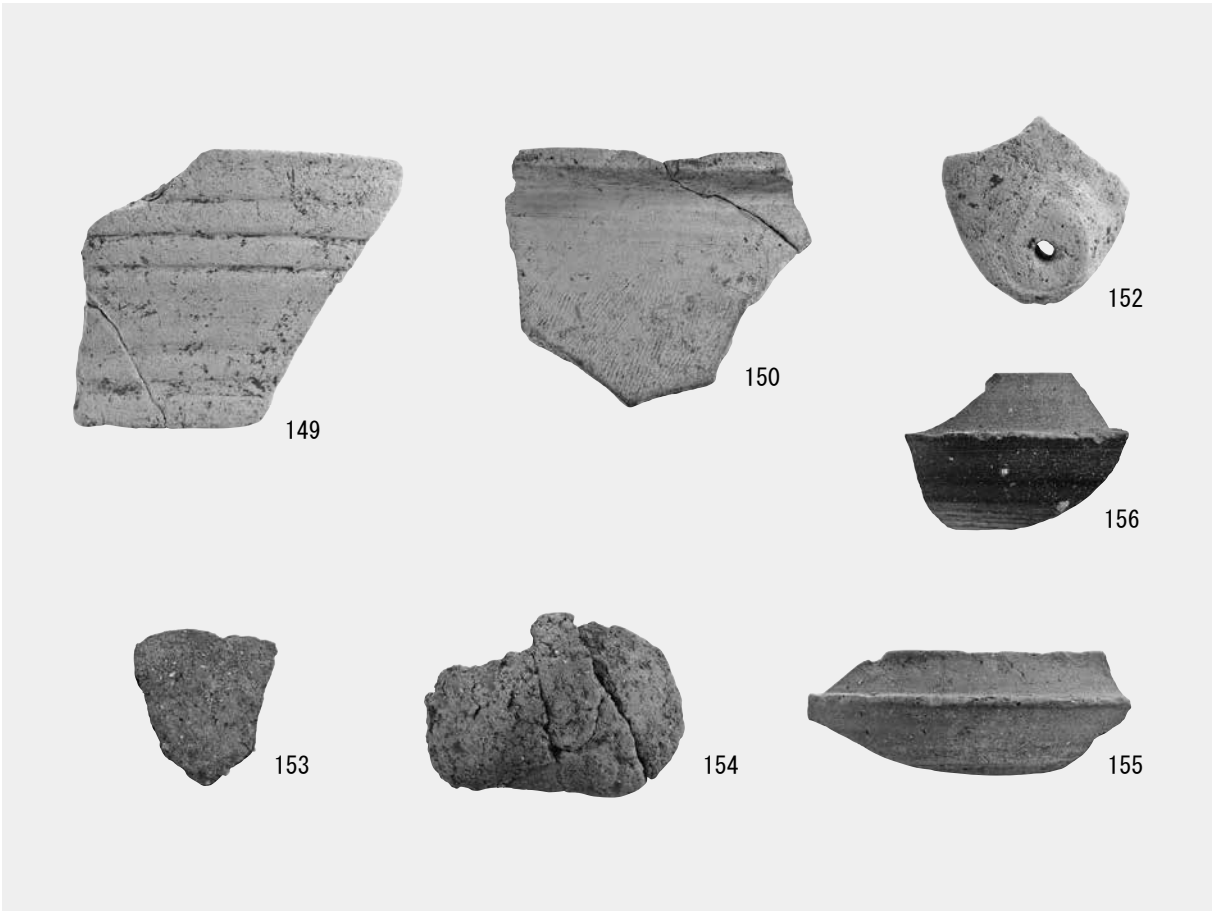


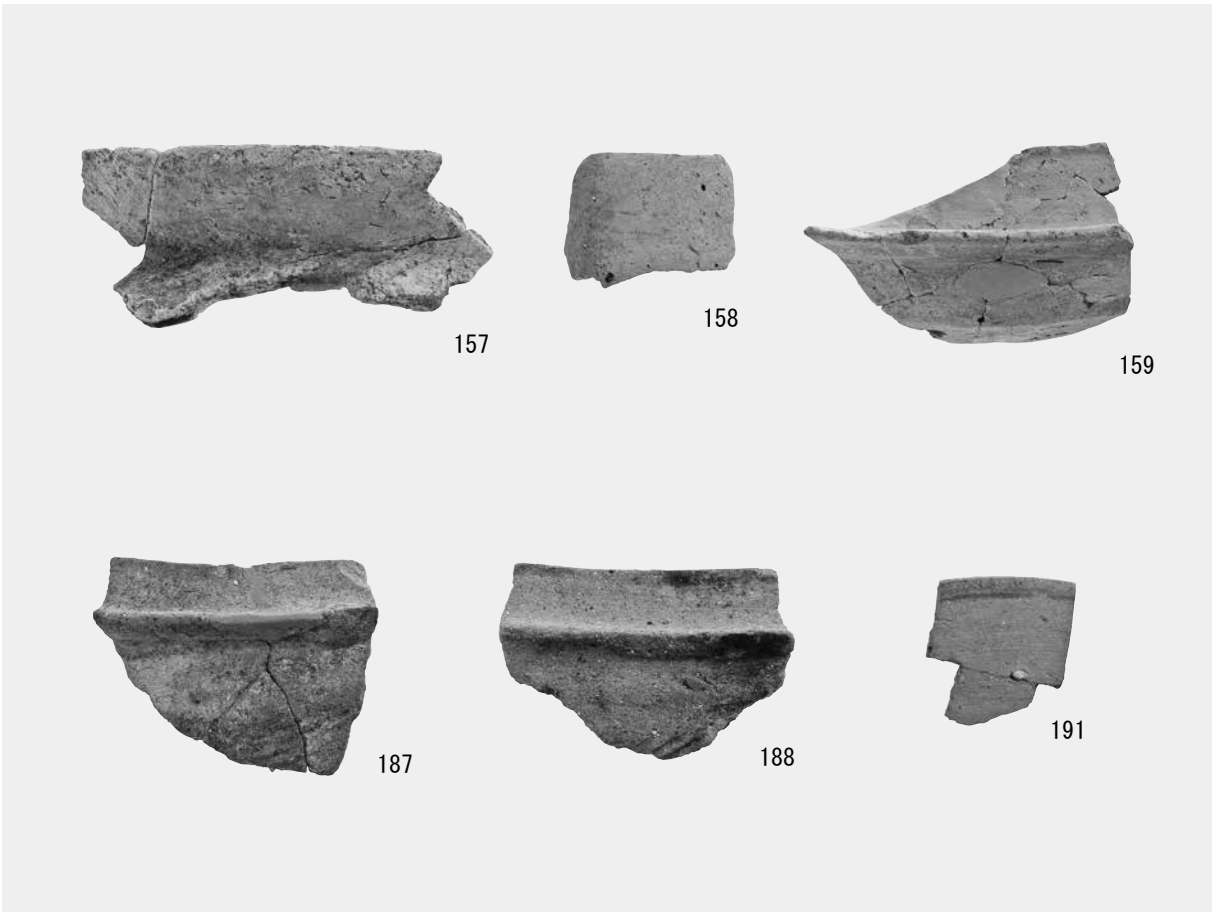
出土土器13



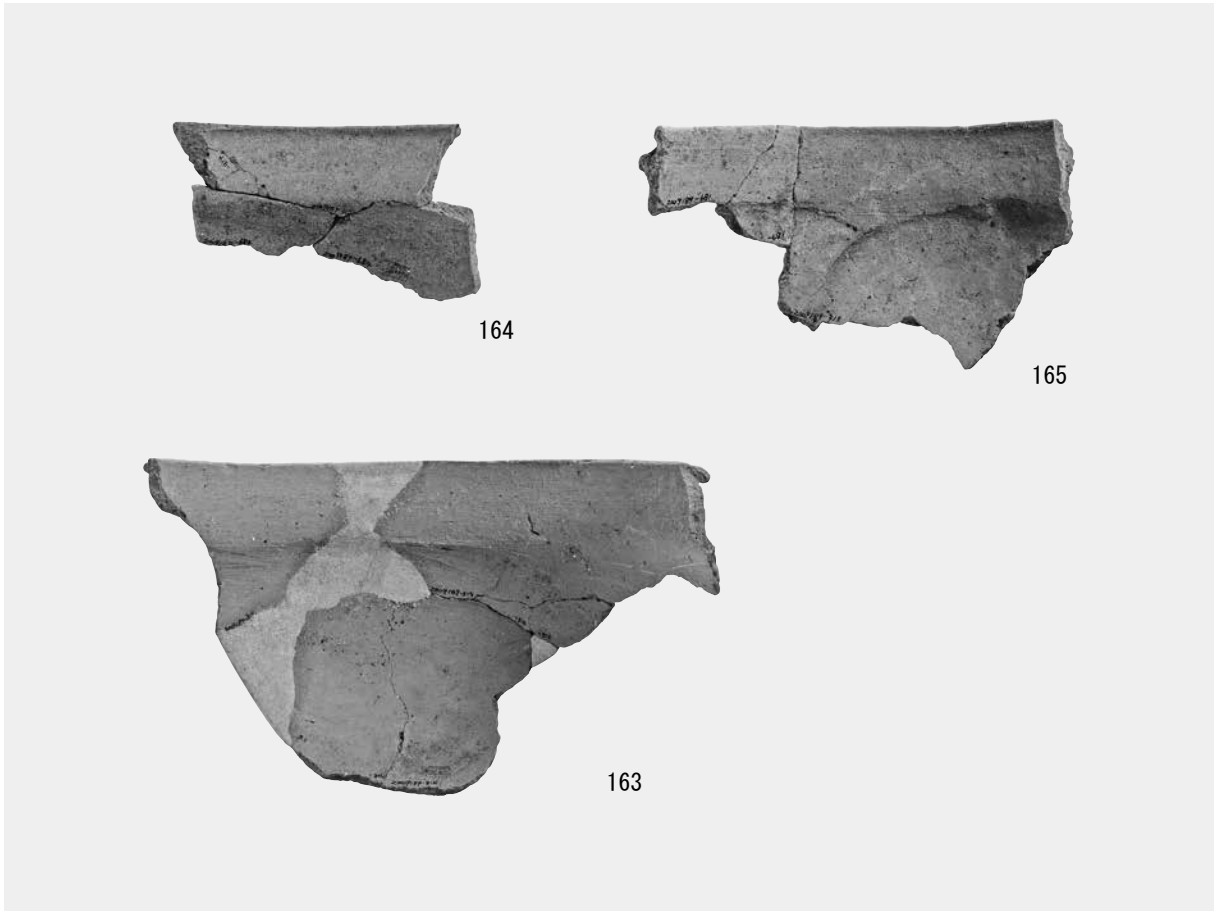


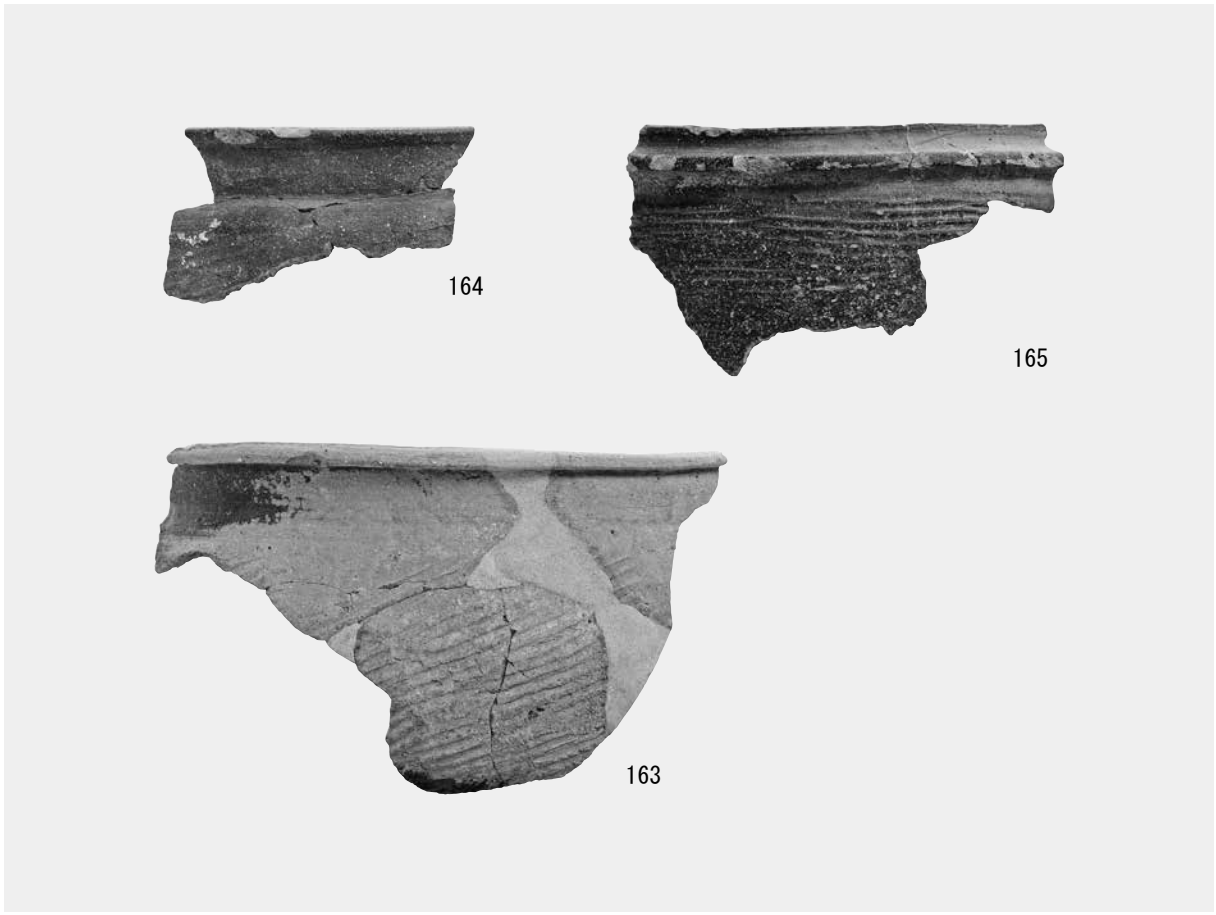
出土土器14



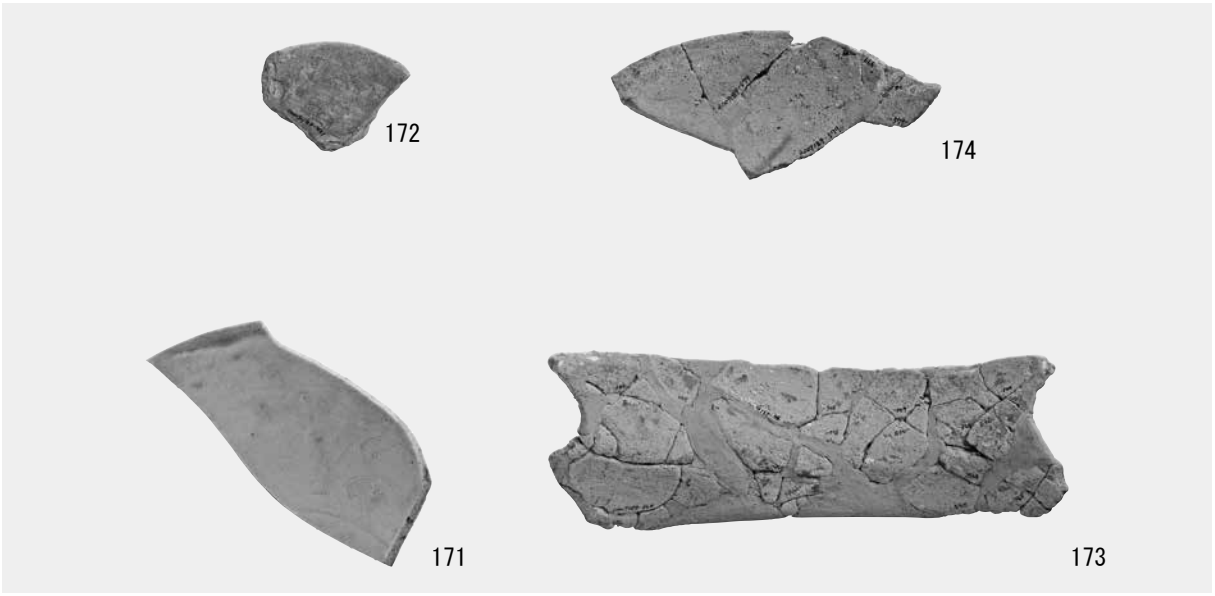


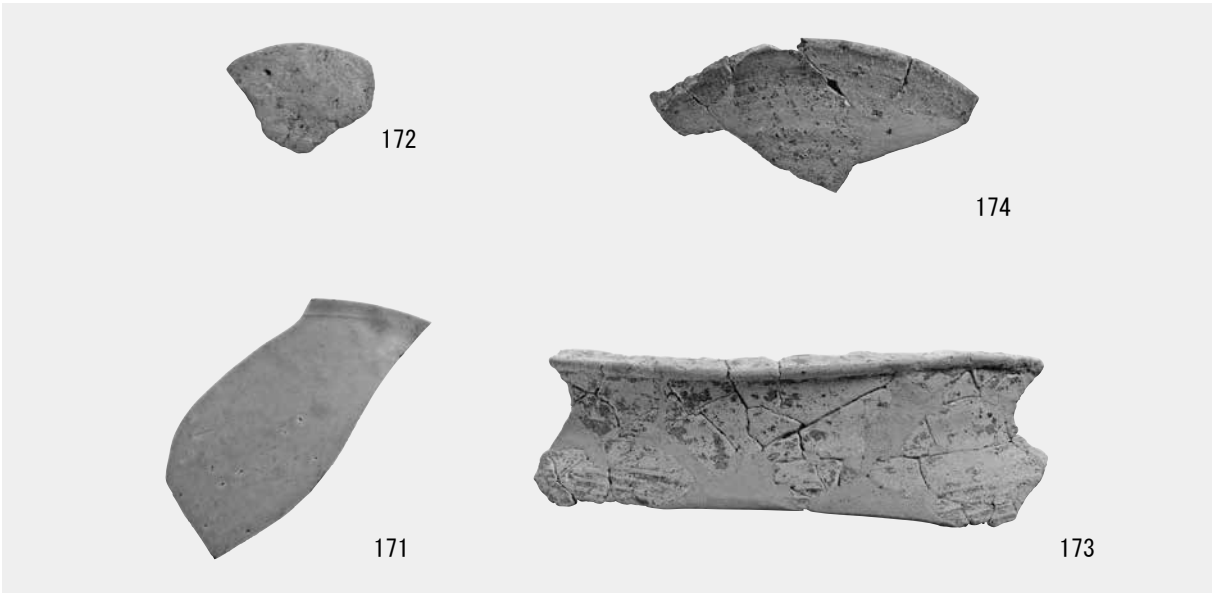
出土土器15

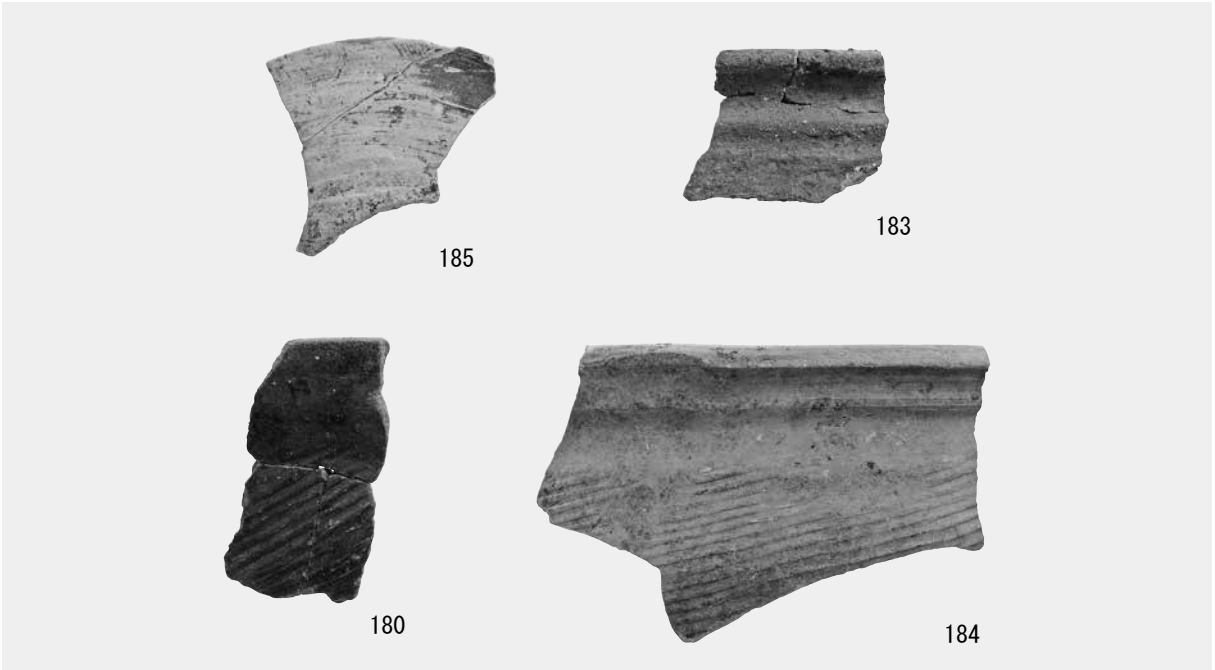




出土土器16







出土土器17

166

167

168

170

169

175

176

177

178

182

186

189

190

出土土器18

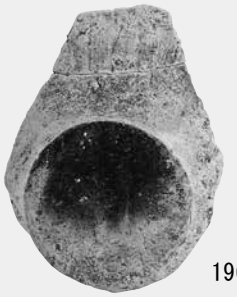
192

193

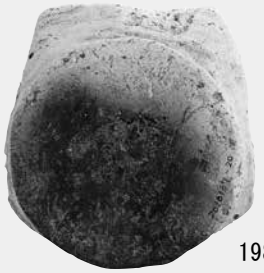
194

195

708


196

197

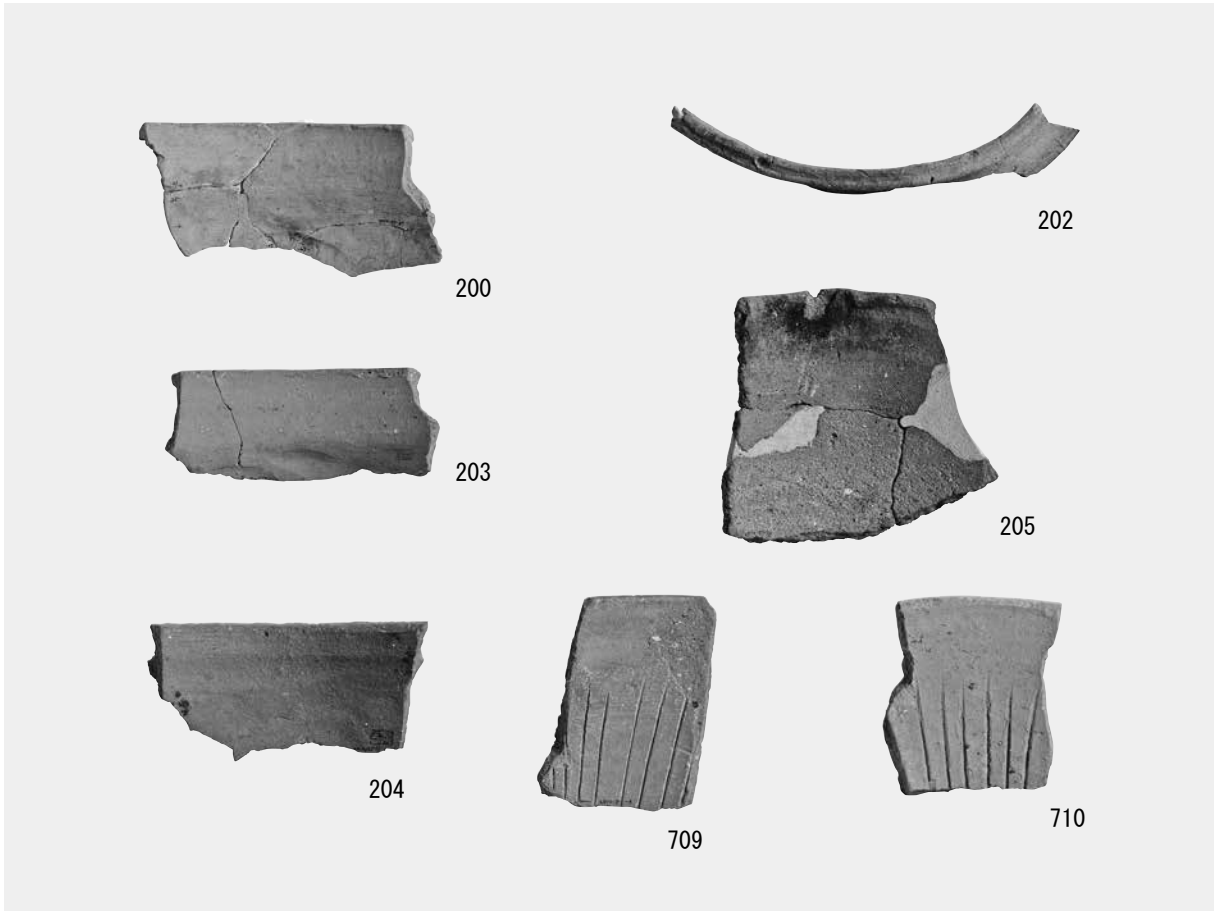

198

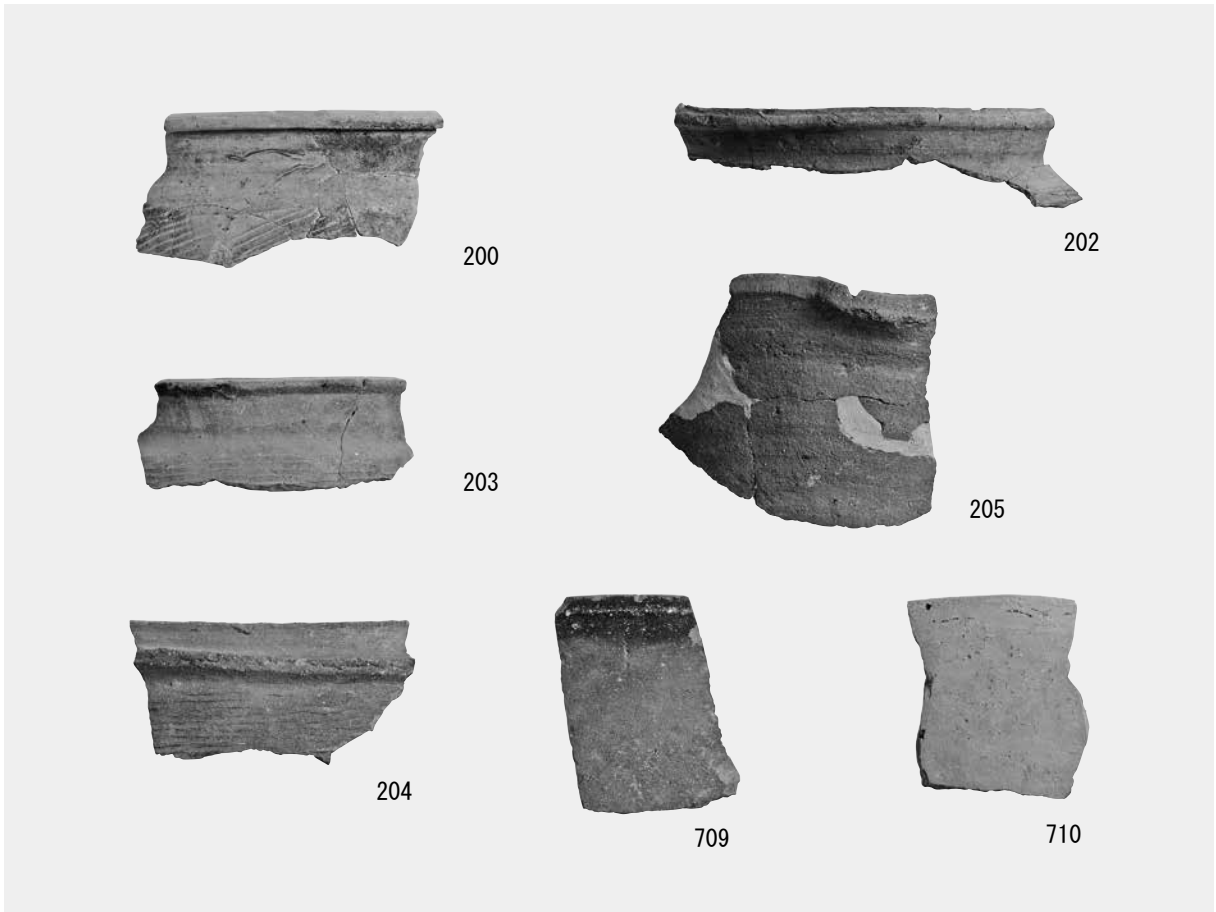
199

201

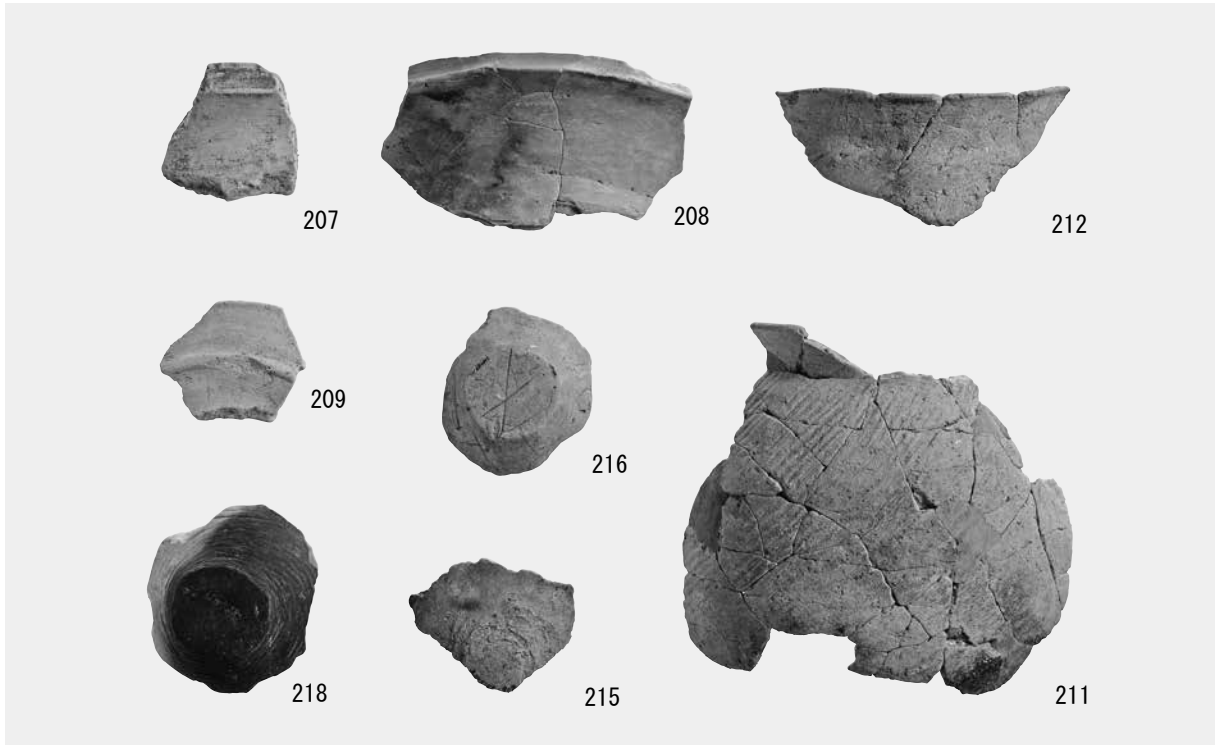
206

出土土器19

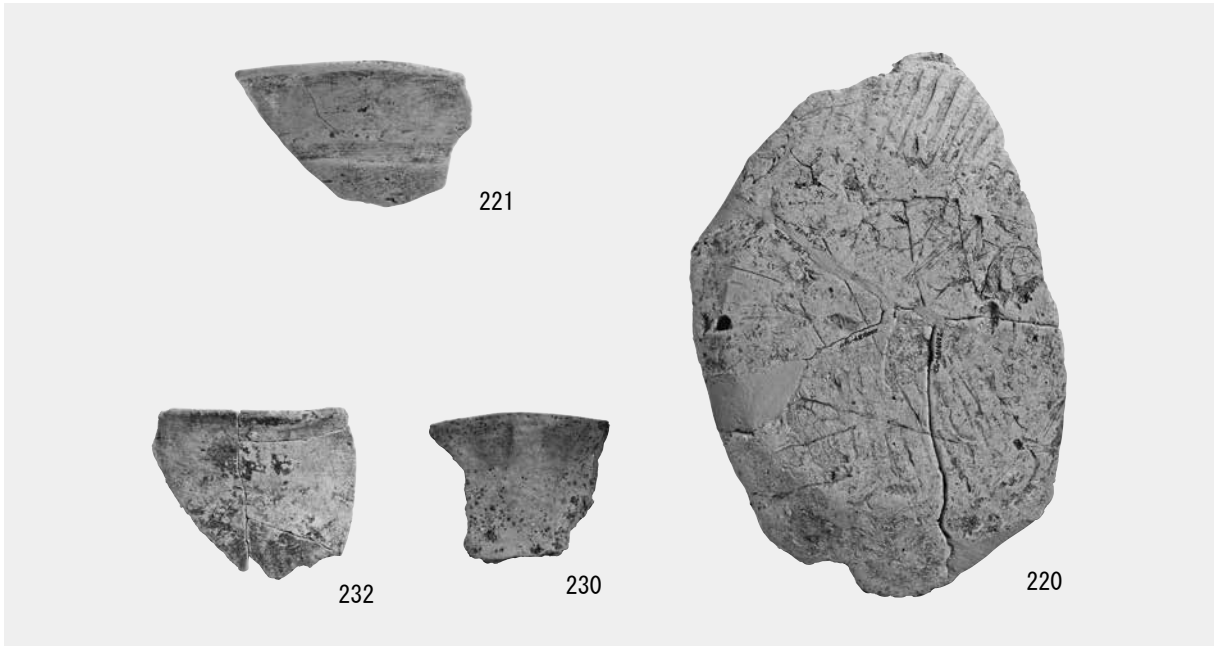




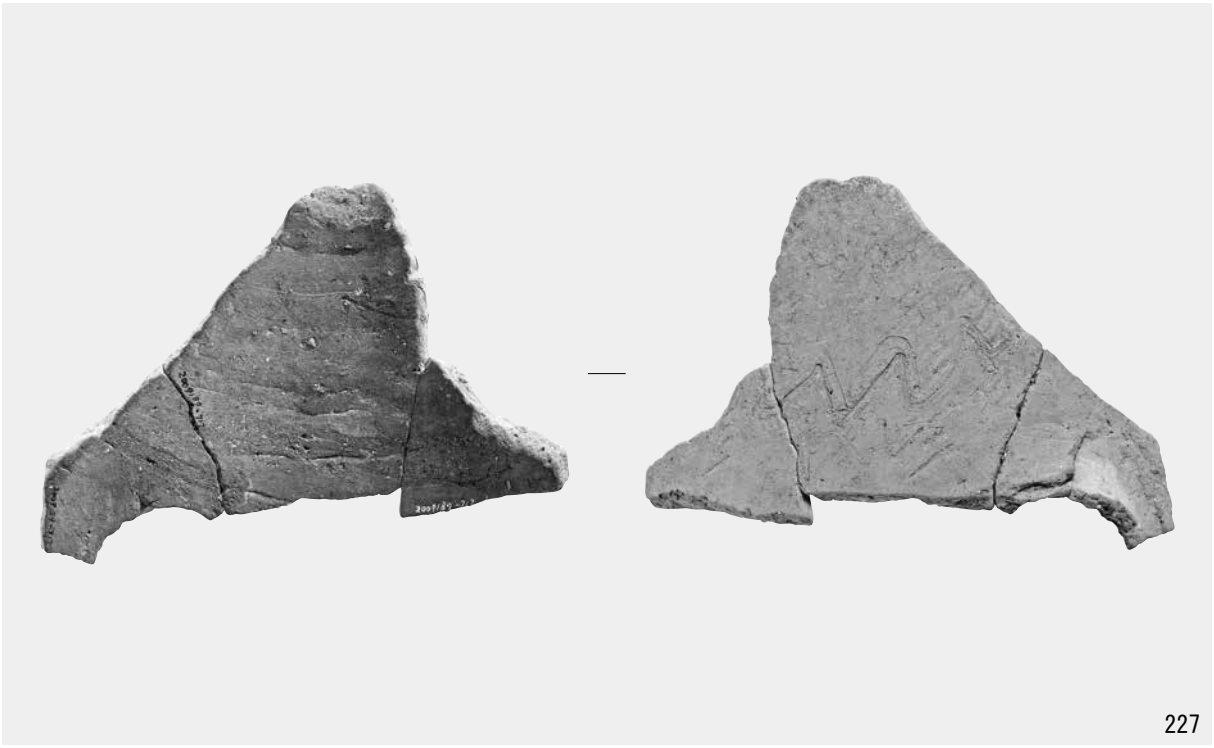
出土土器20

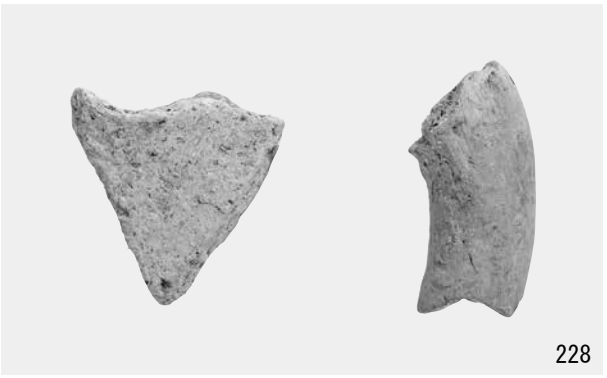


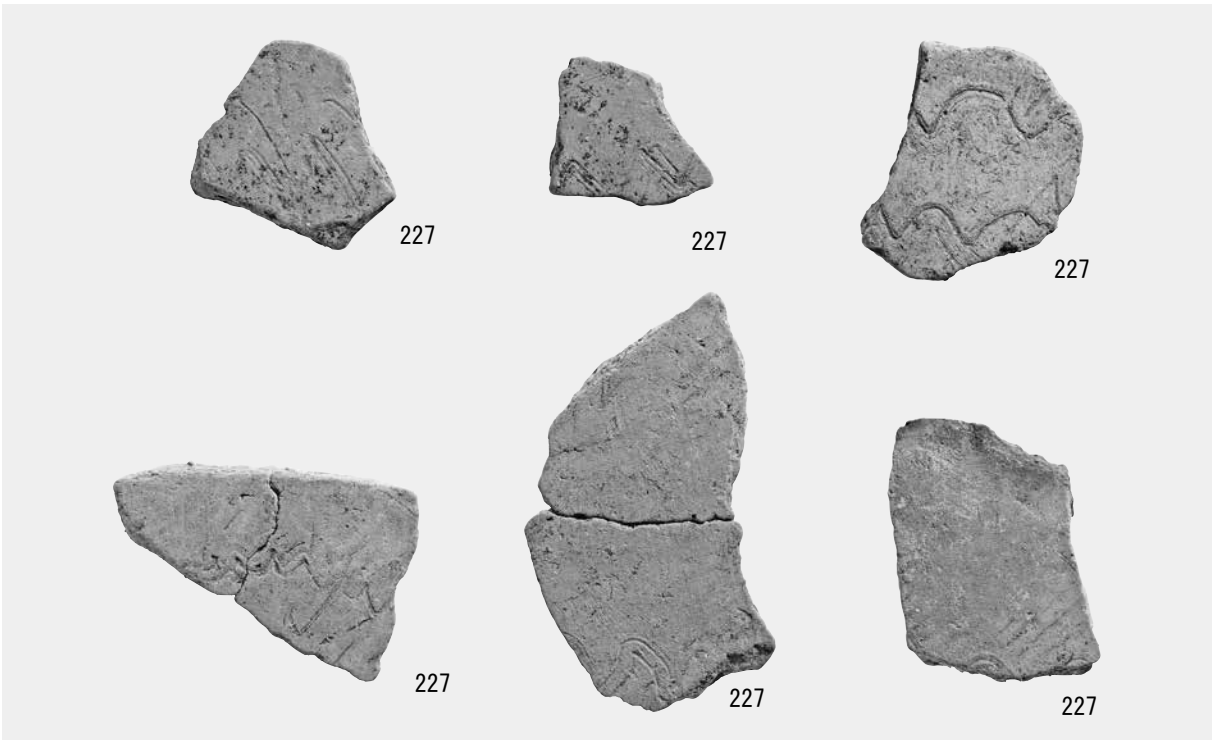
出土土器21



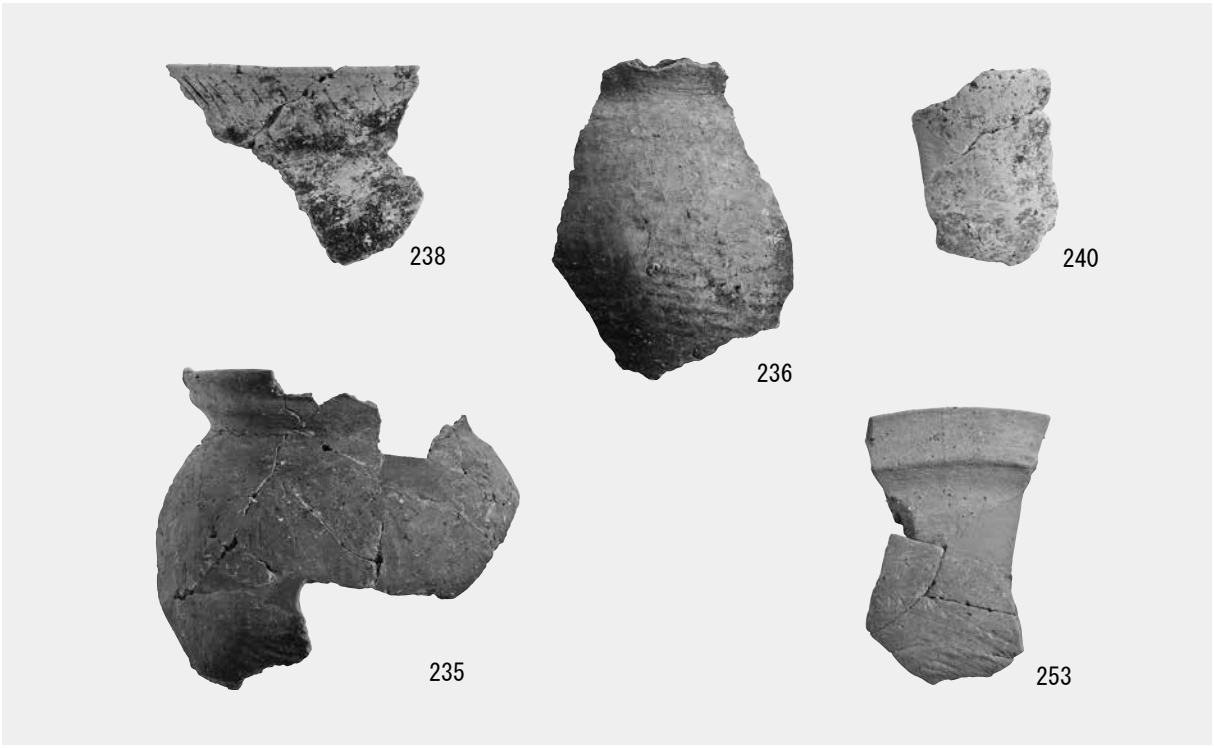
出土土器22

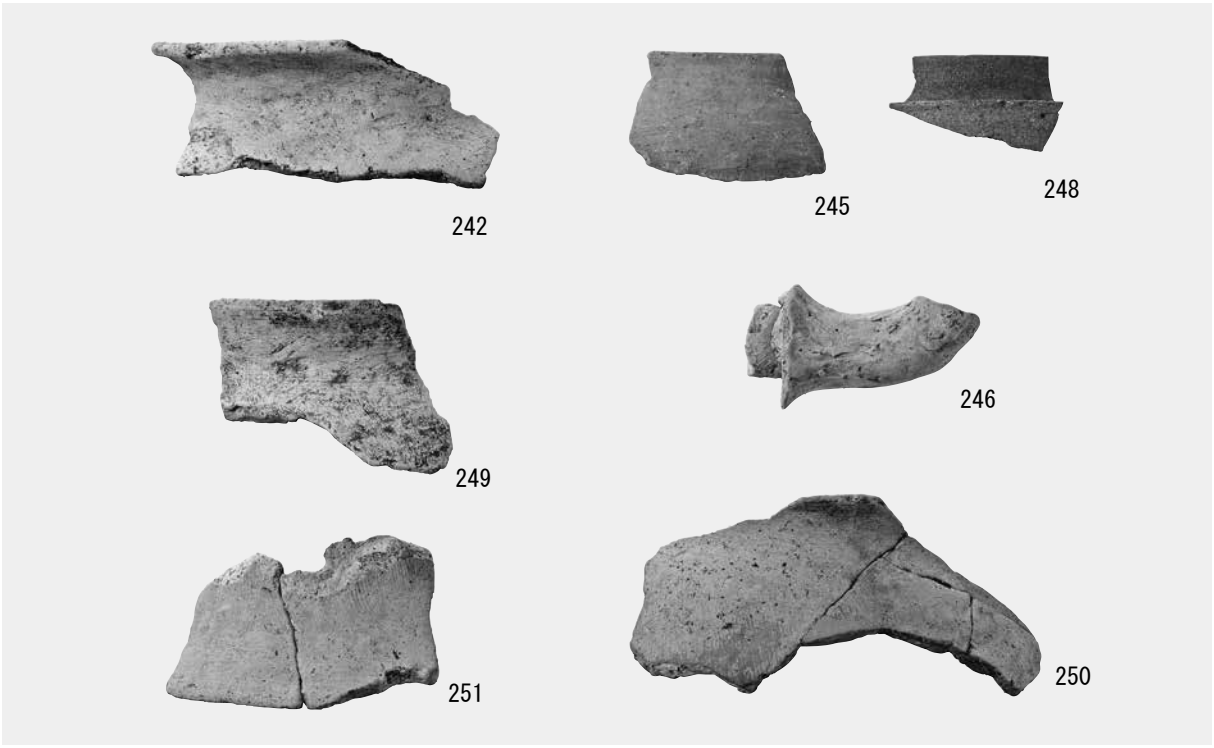






出土土器23





出土土器24

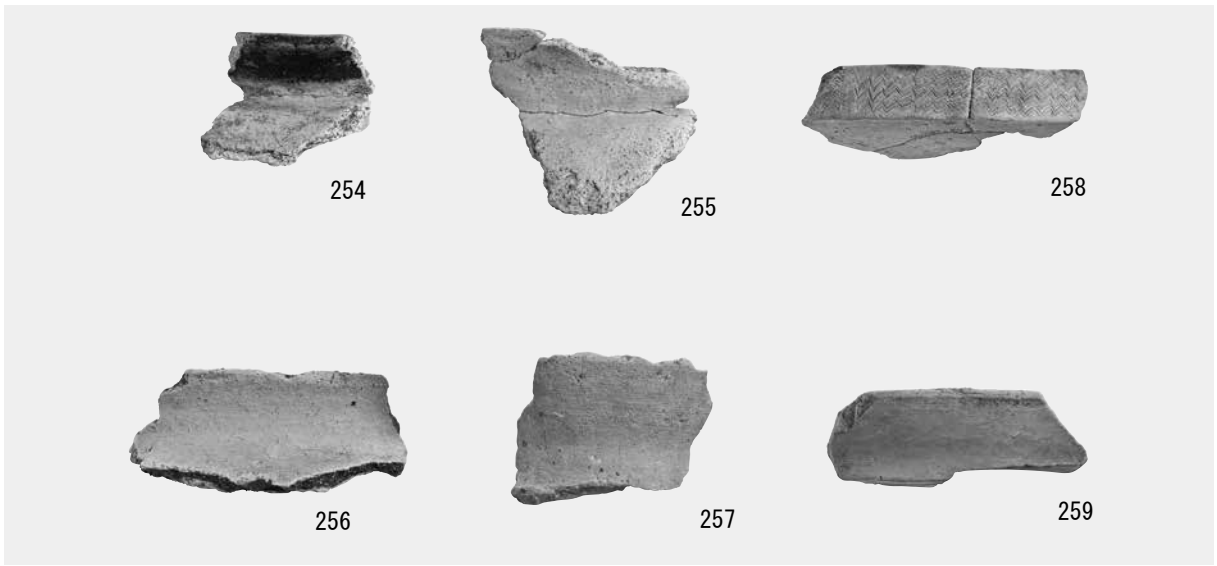
243

260

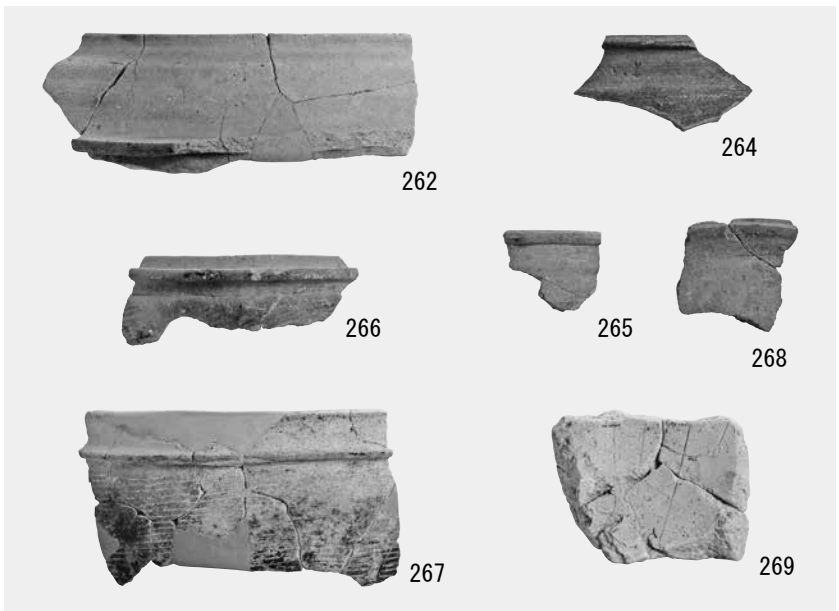
252

261

263


254 255 258 256 257 259

244


262 264 266 265 268 267 269

出土土器25

270

271

272

273

274

276

279

278

280

277

711

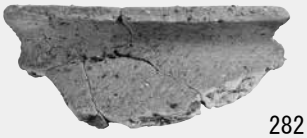
281

275

712

713

出土土器26



282

285

286

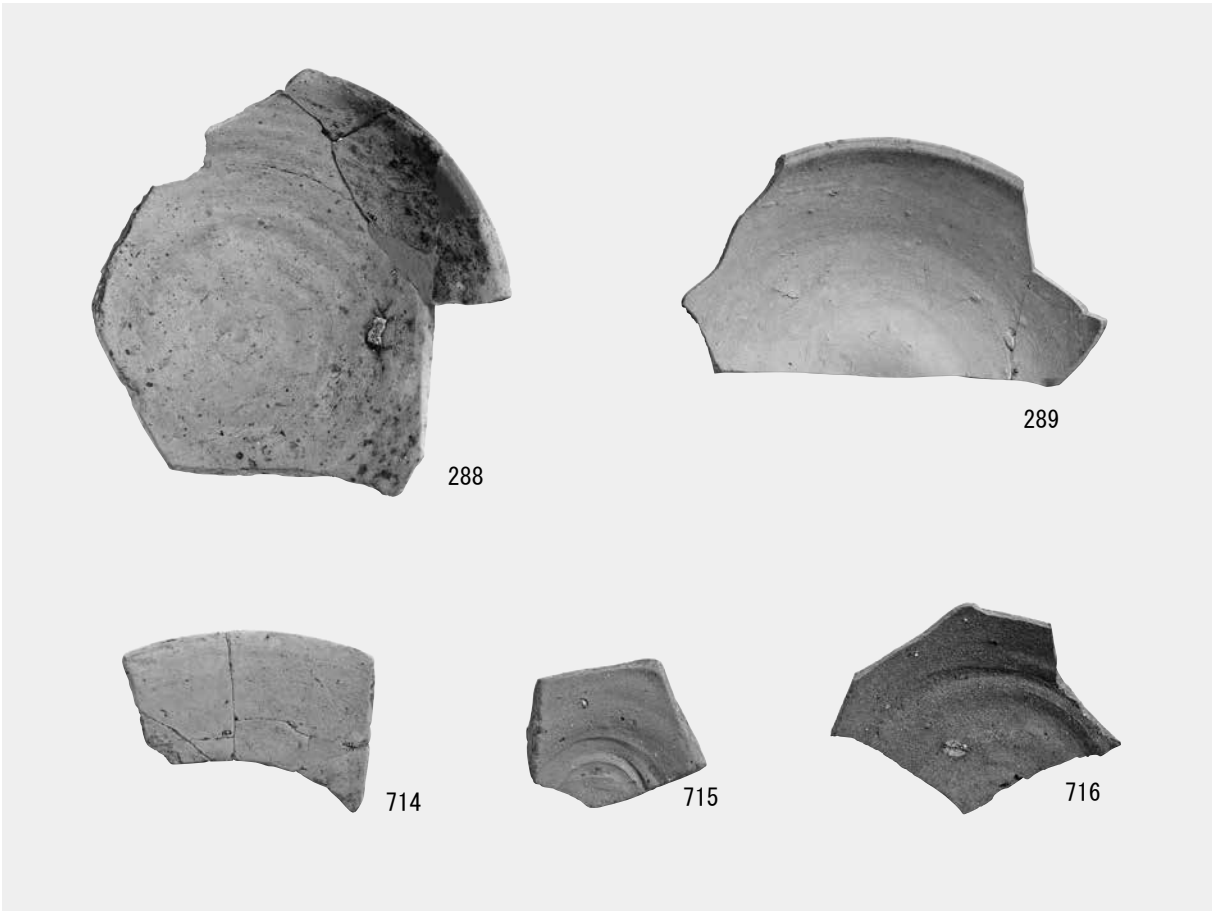
283

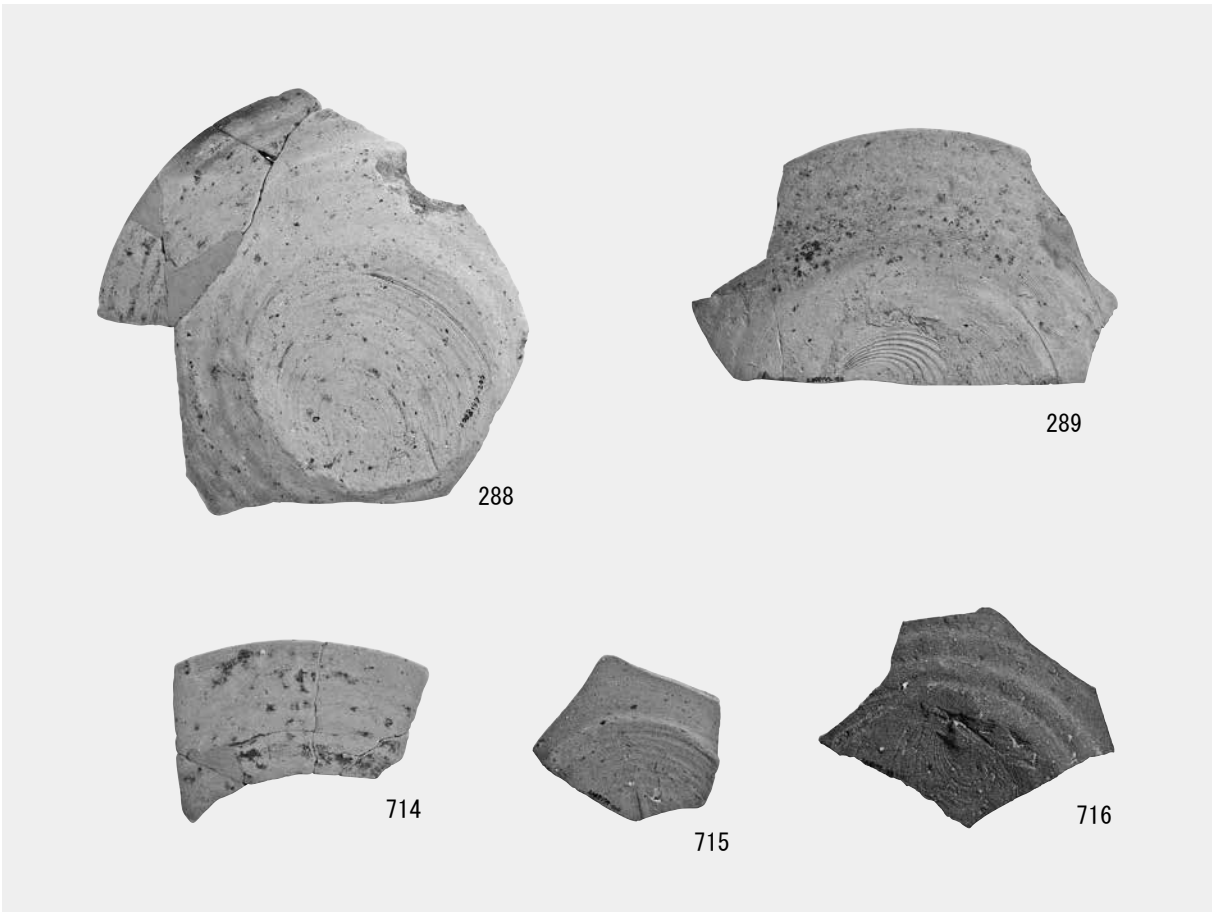
284

287

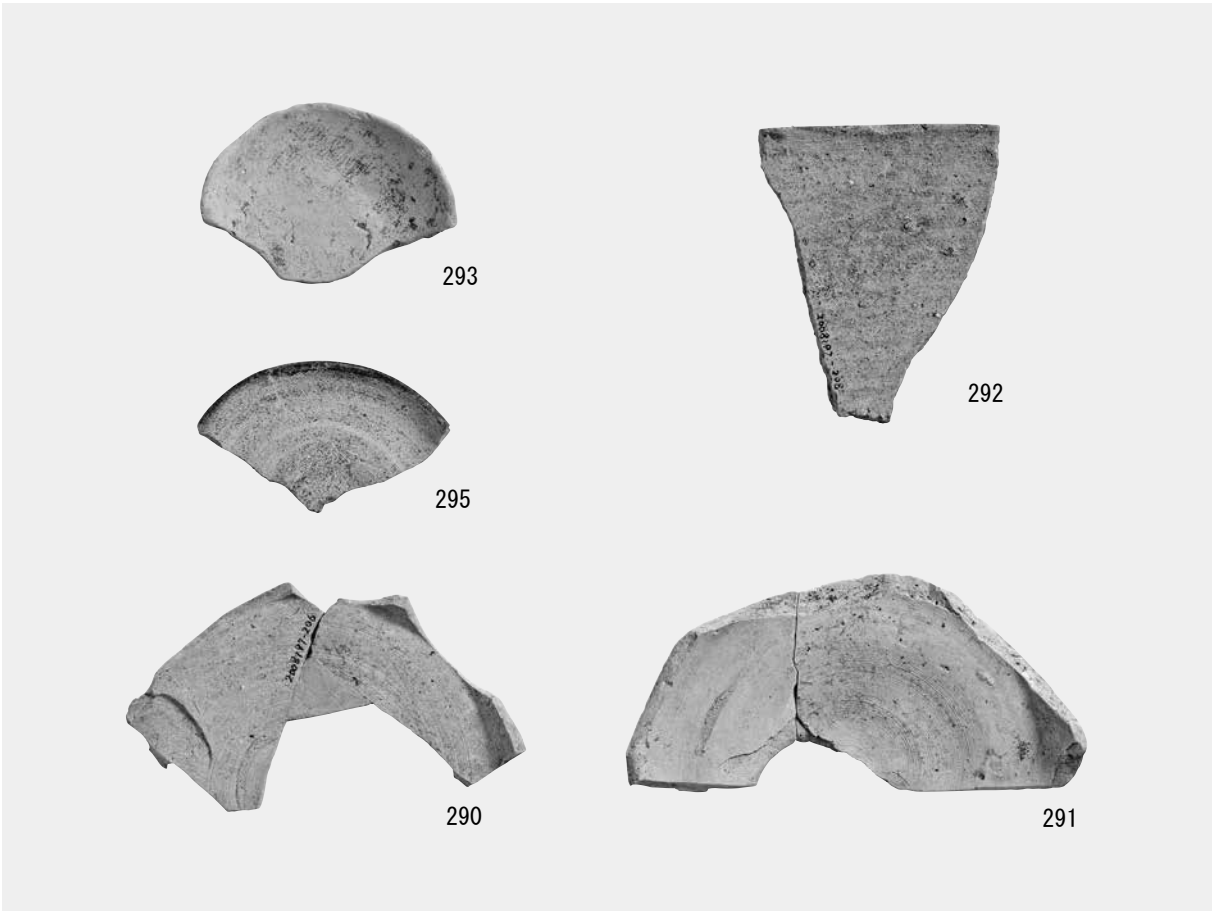
294

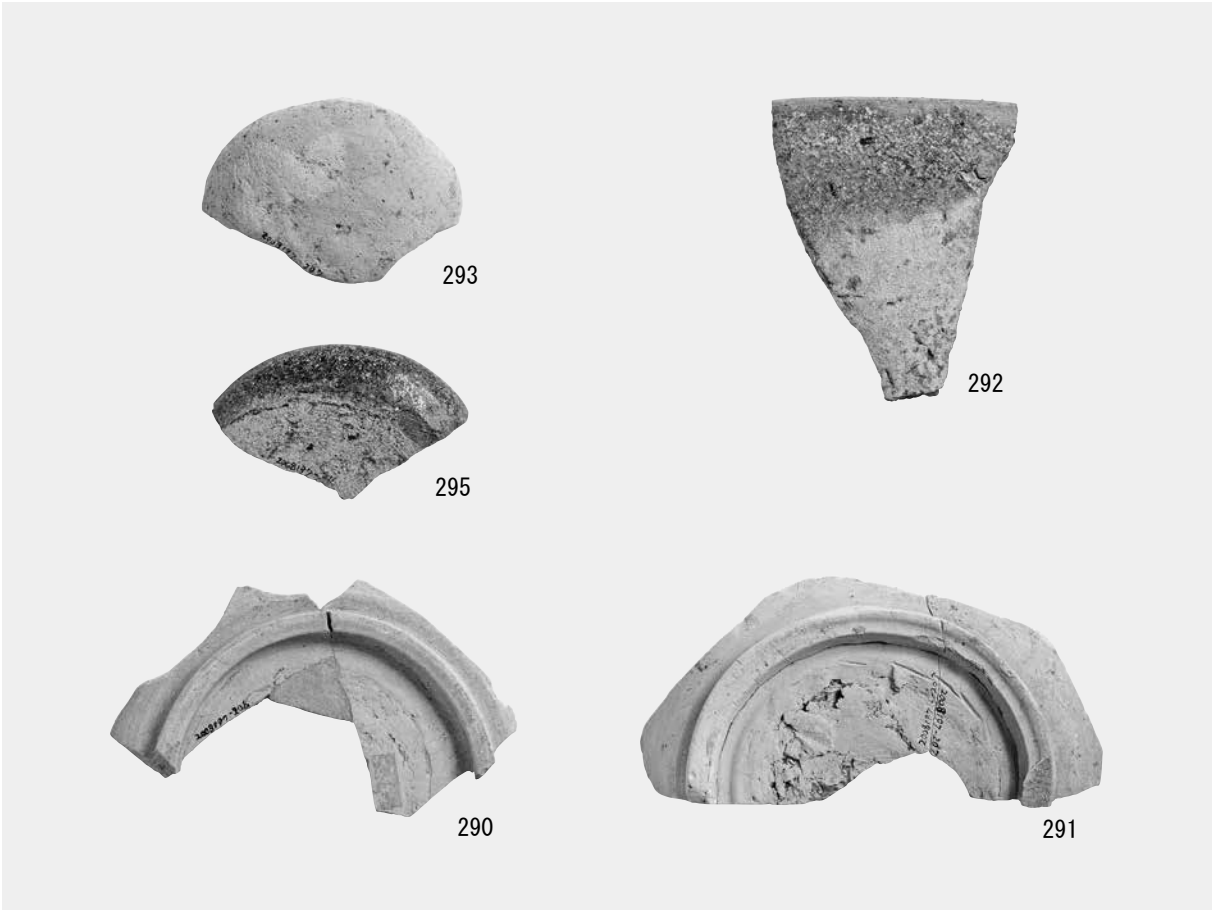
296



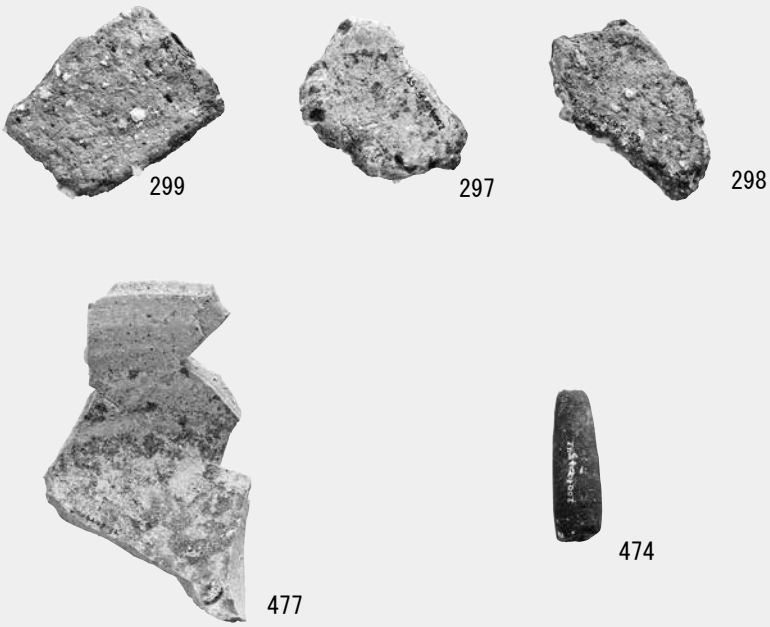


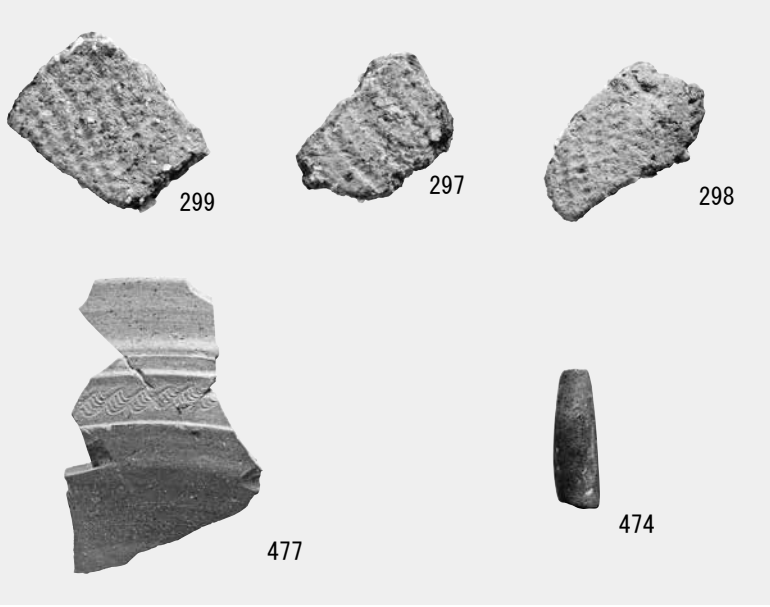
出土土器28

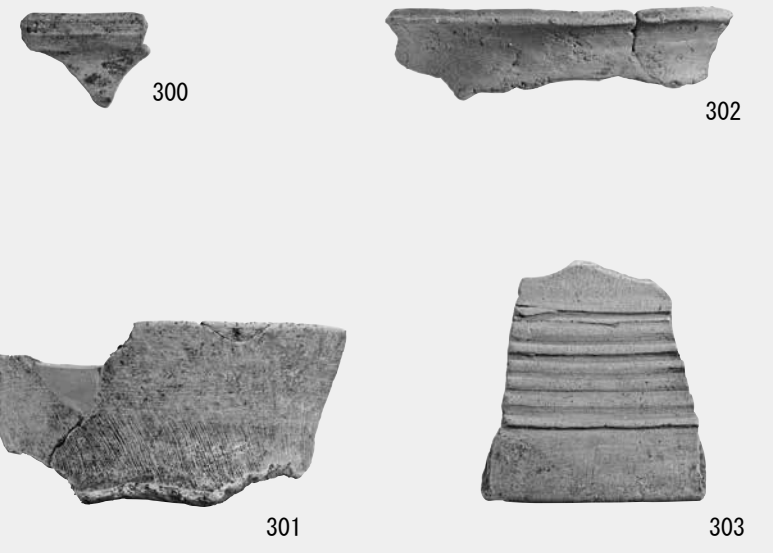




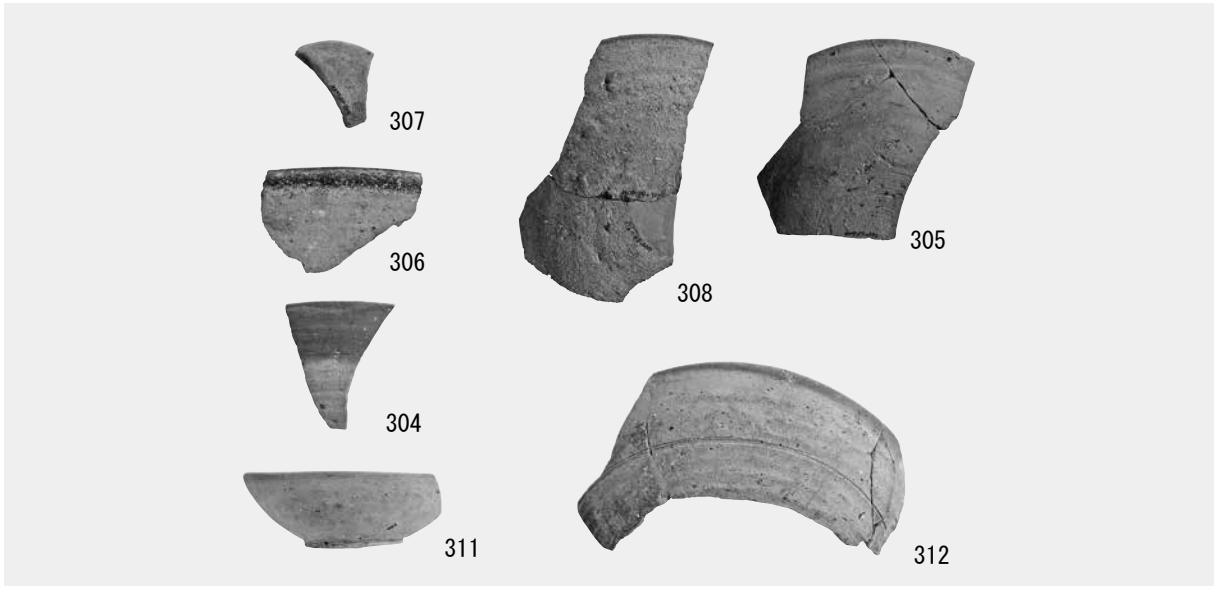
出土土器29

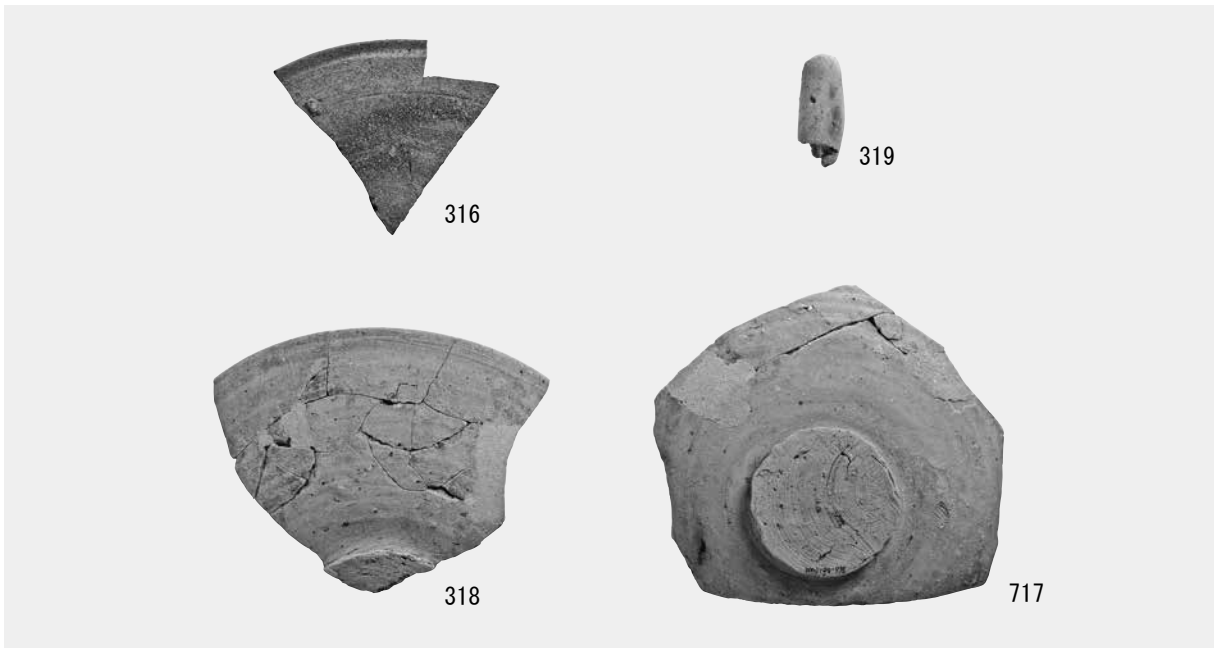


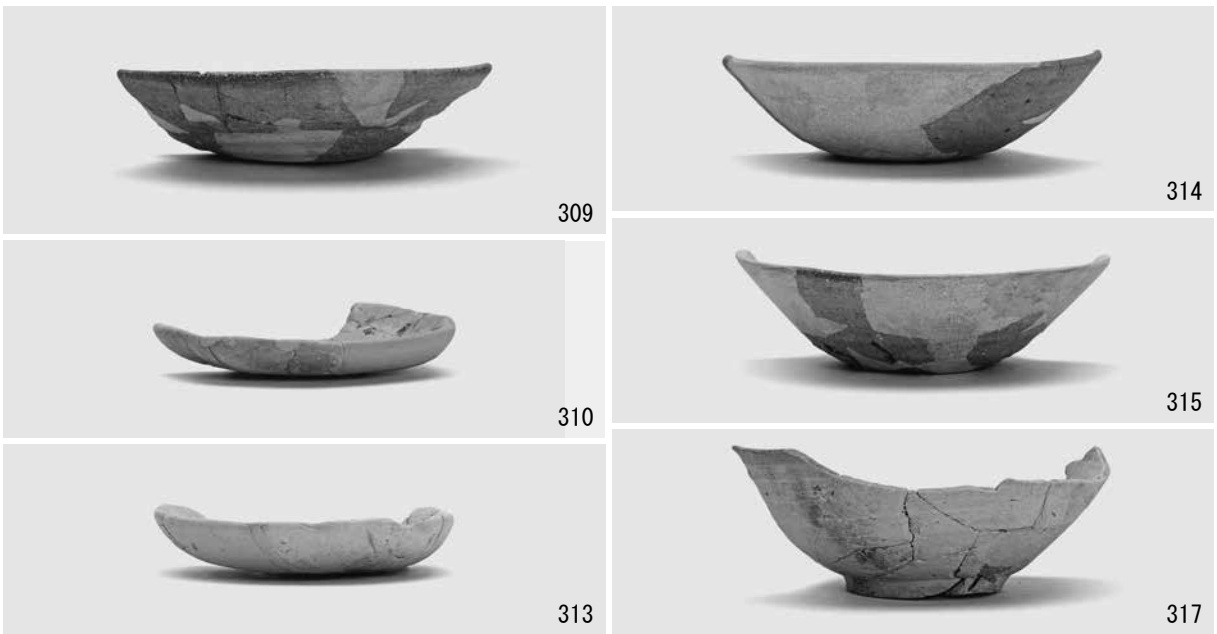




出土土器30


307
306
304
311
308
305
312


316
319
318
717


309
314
310
315
313
317

出土土器31

320

322

326

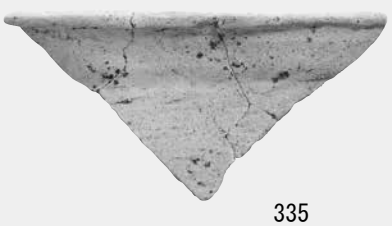
328

321

323

332

342

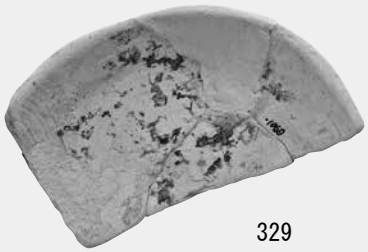

335

337

出土土器32

325

327



329

325

327

329

出土土器33

330

331

333

334

336

330

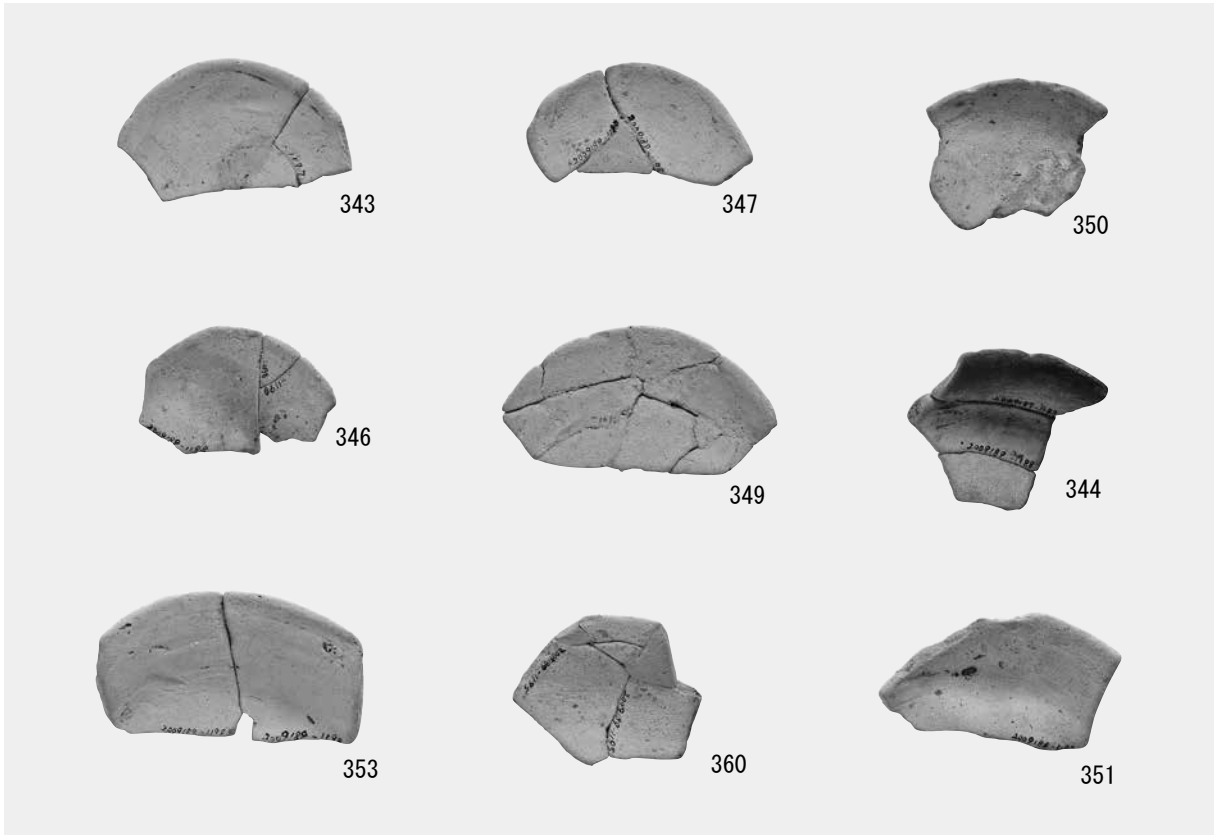
331

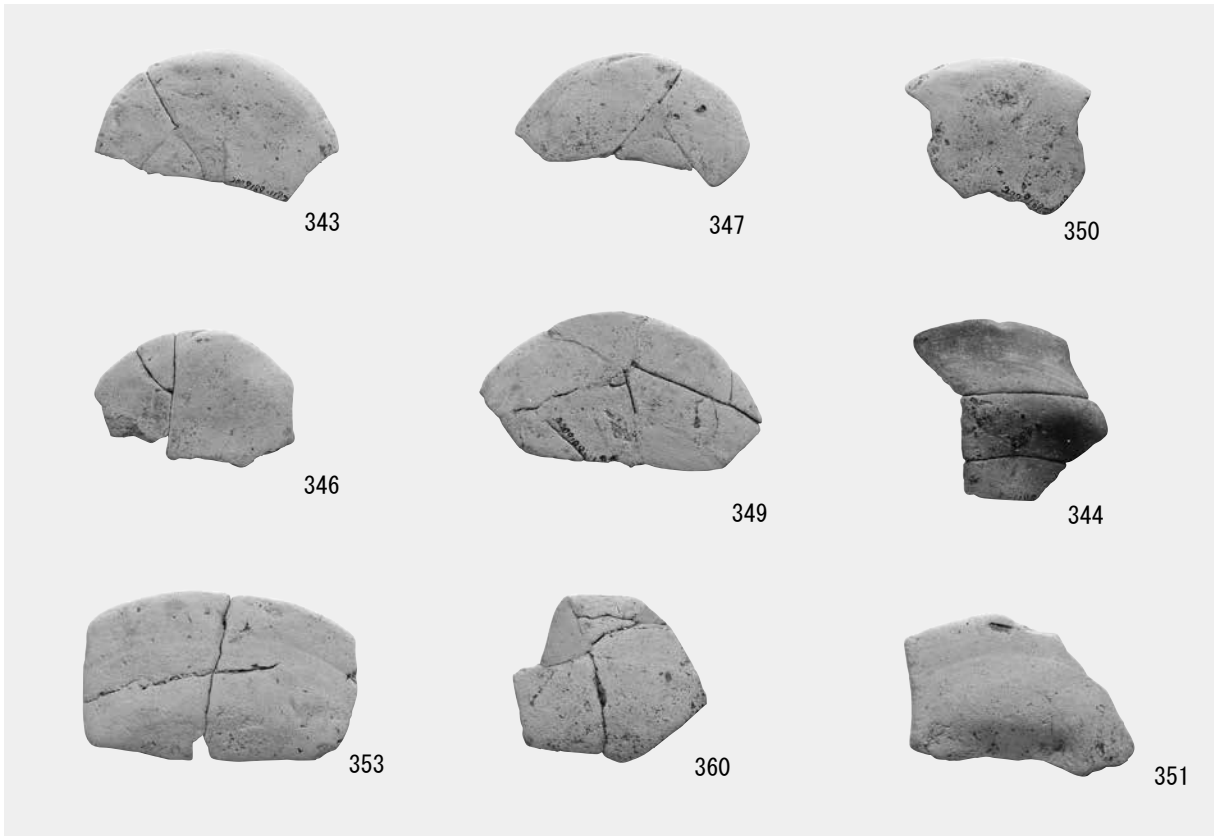
333

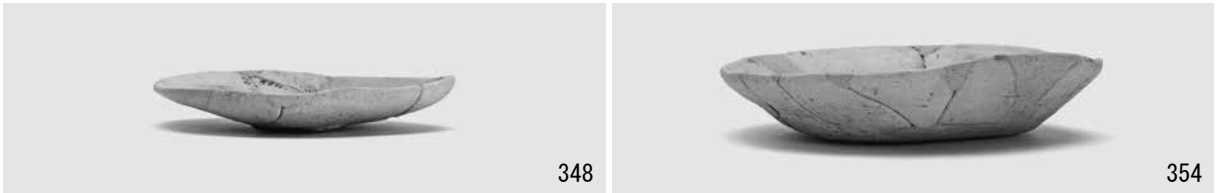
334

336

出土土器34


343
347
350
346
349
344
353
360
351


343
347
350
346
349
344
353
360
351


348
354

出土土器35

359

352

358

355

357

345

359

352

358

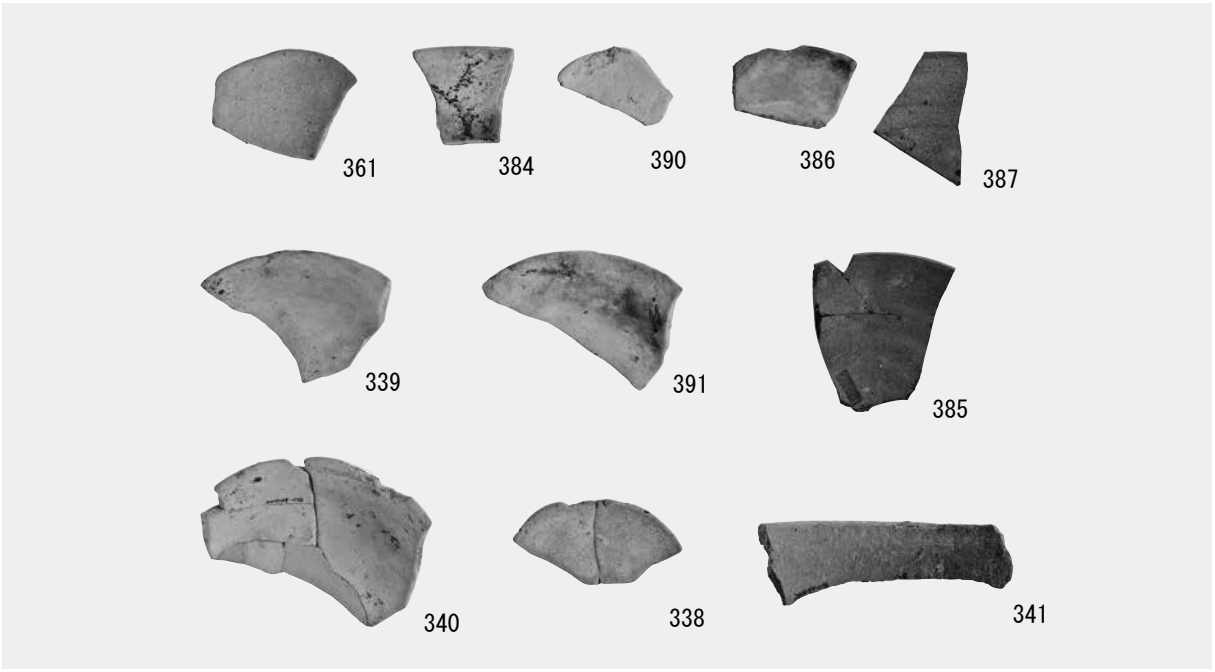
355

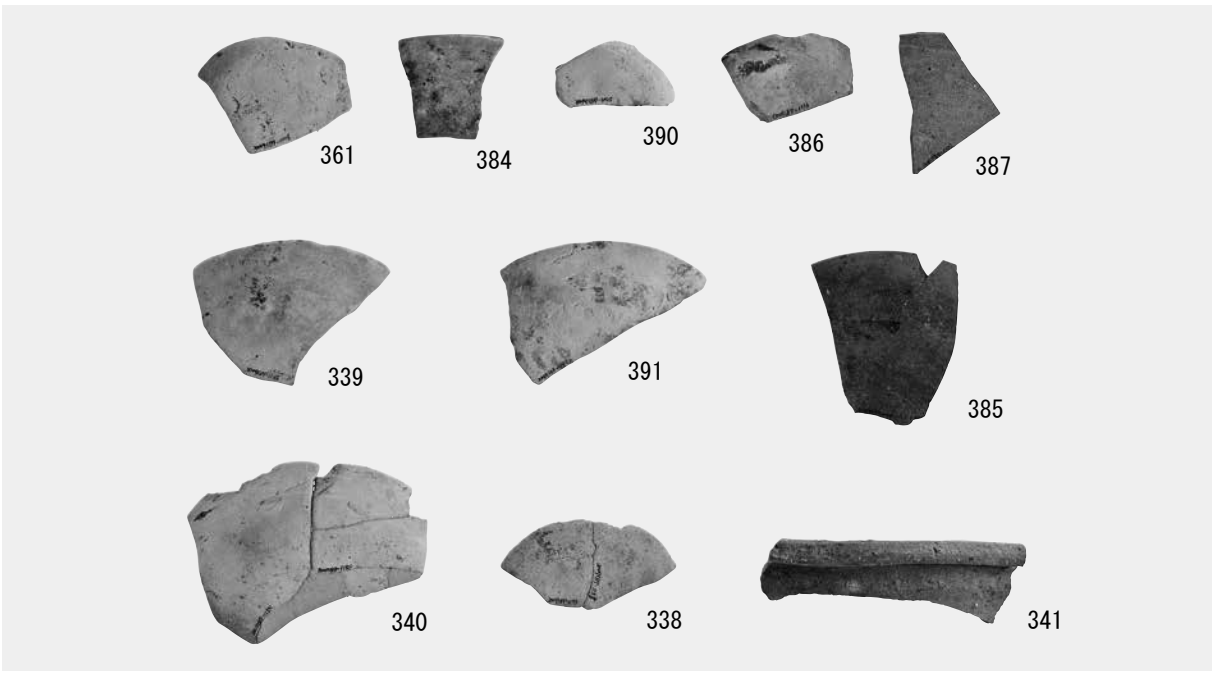
357

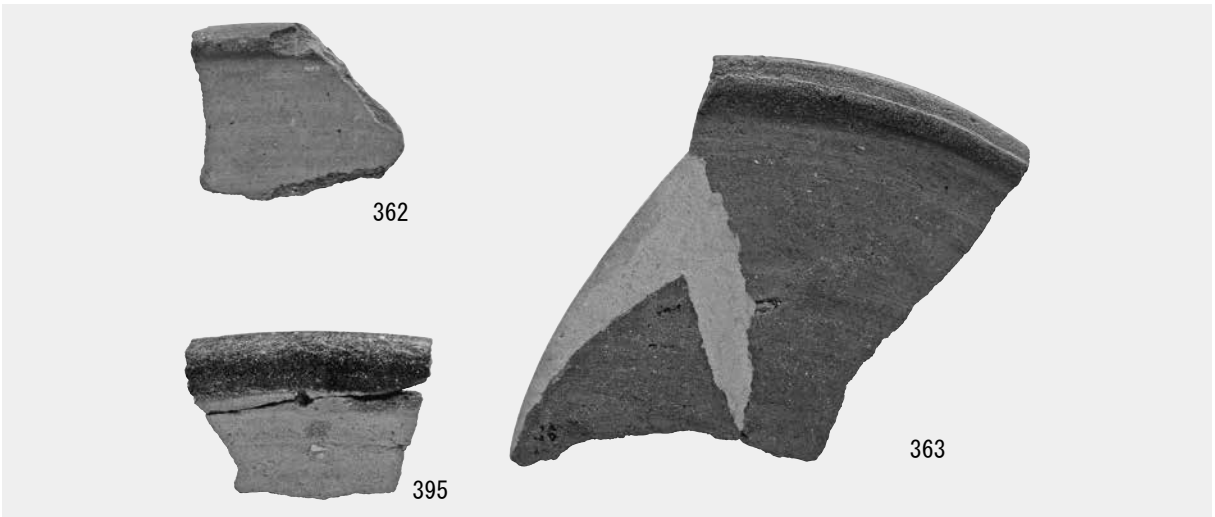
345

356

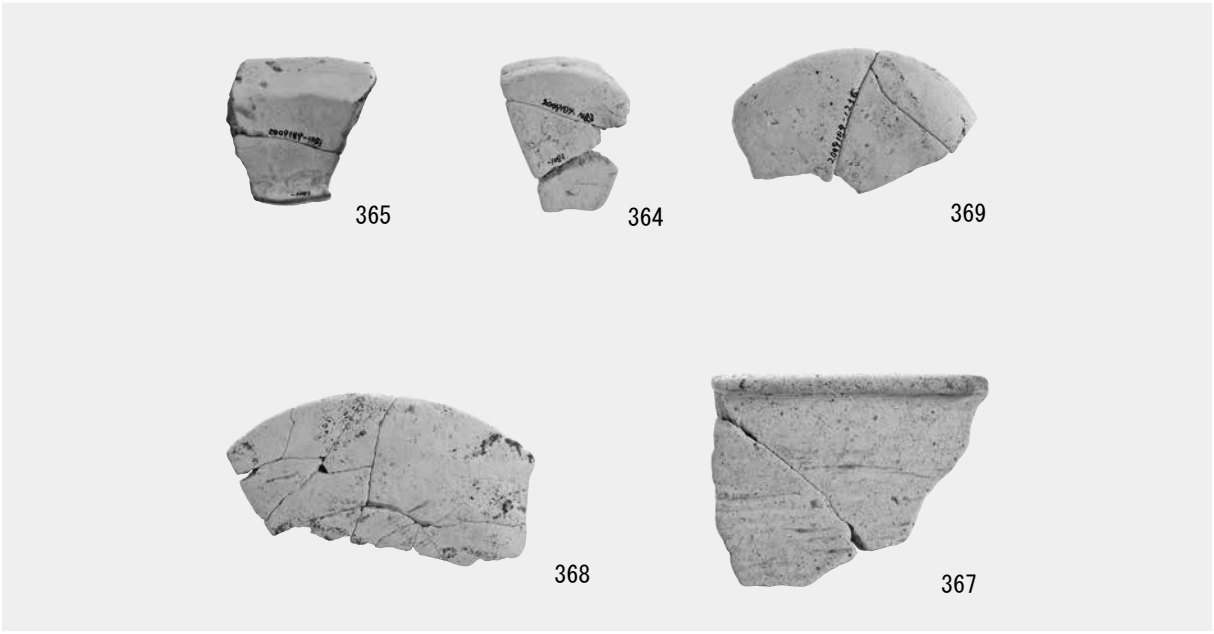
出土土器36

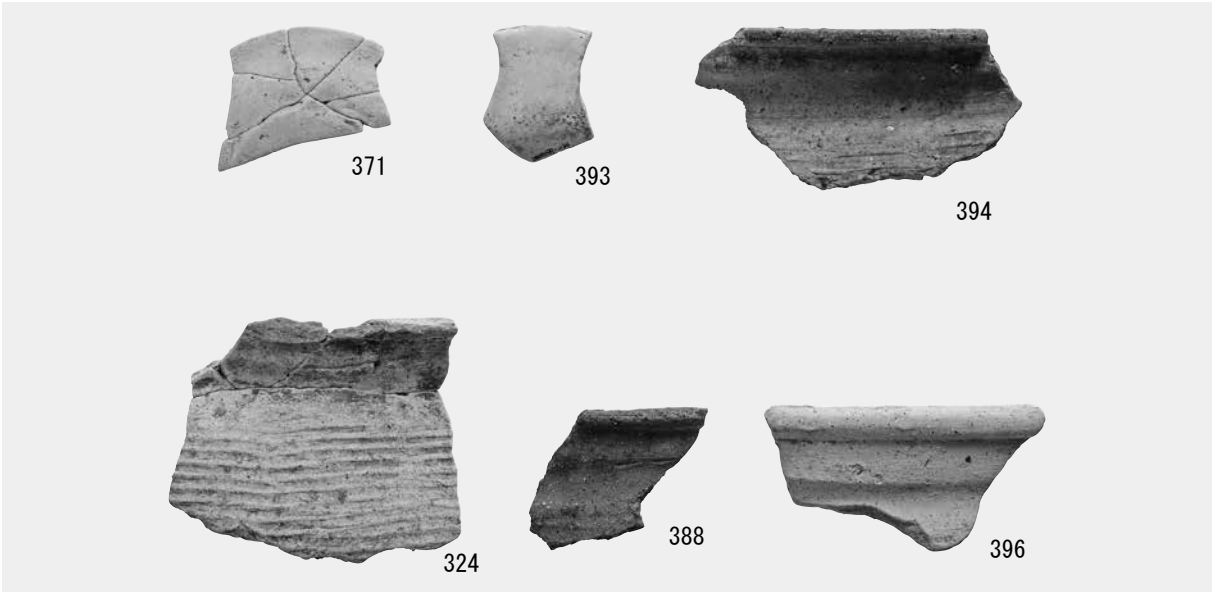

361
384
390
386
387
339
391
385
340
338
341

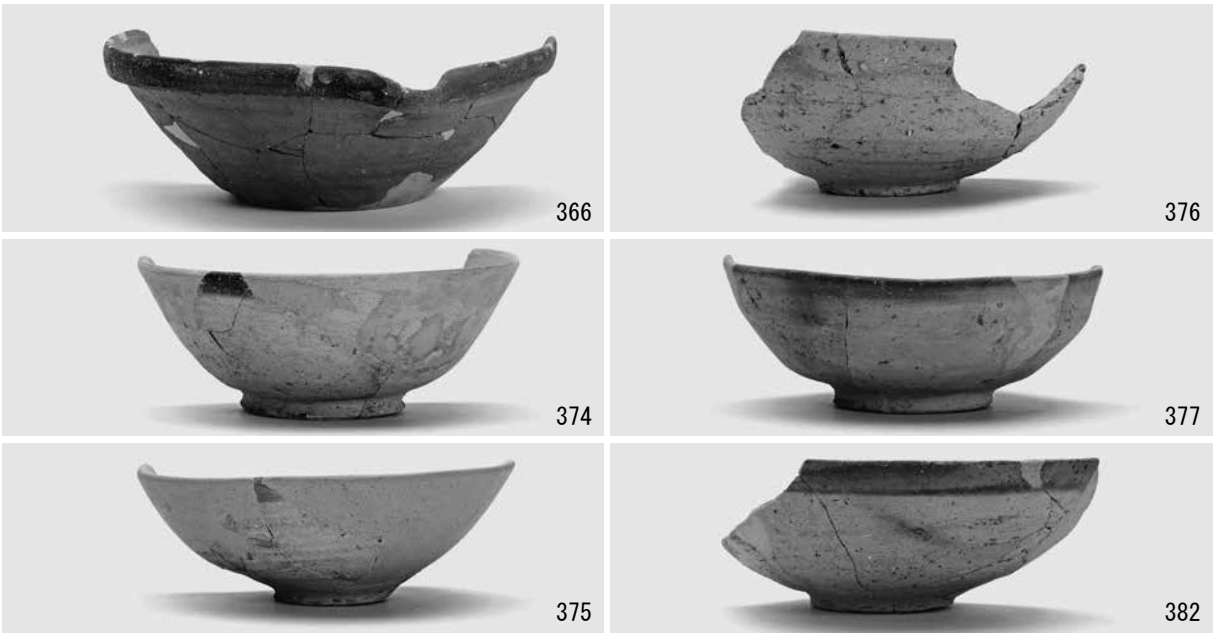

361
384
390
386
387
339
391
385
340
338
341


362
363
395

出土土器37


365
364
369
368
367


371
393
394
324
388
396

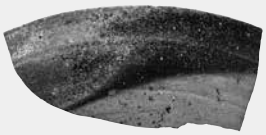

366
376
374
377
375
382

出土土器38

372

373

380


378

381

370

379

383

389

392

397

398

399

出土土器39

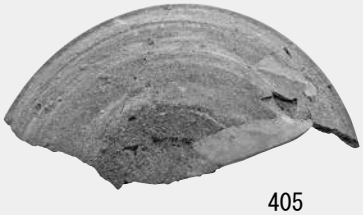
405

718

409

404

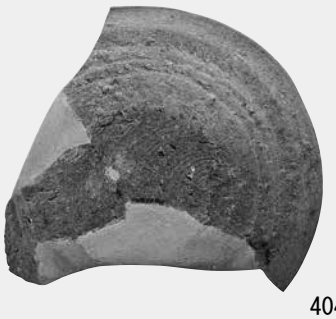
406



405

718

409



404

406

出土土器40

400

401

402

403

407

408

410

411

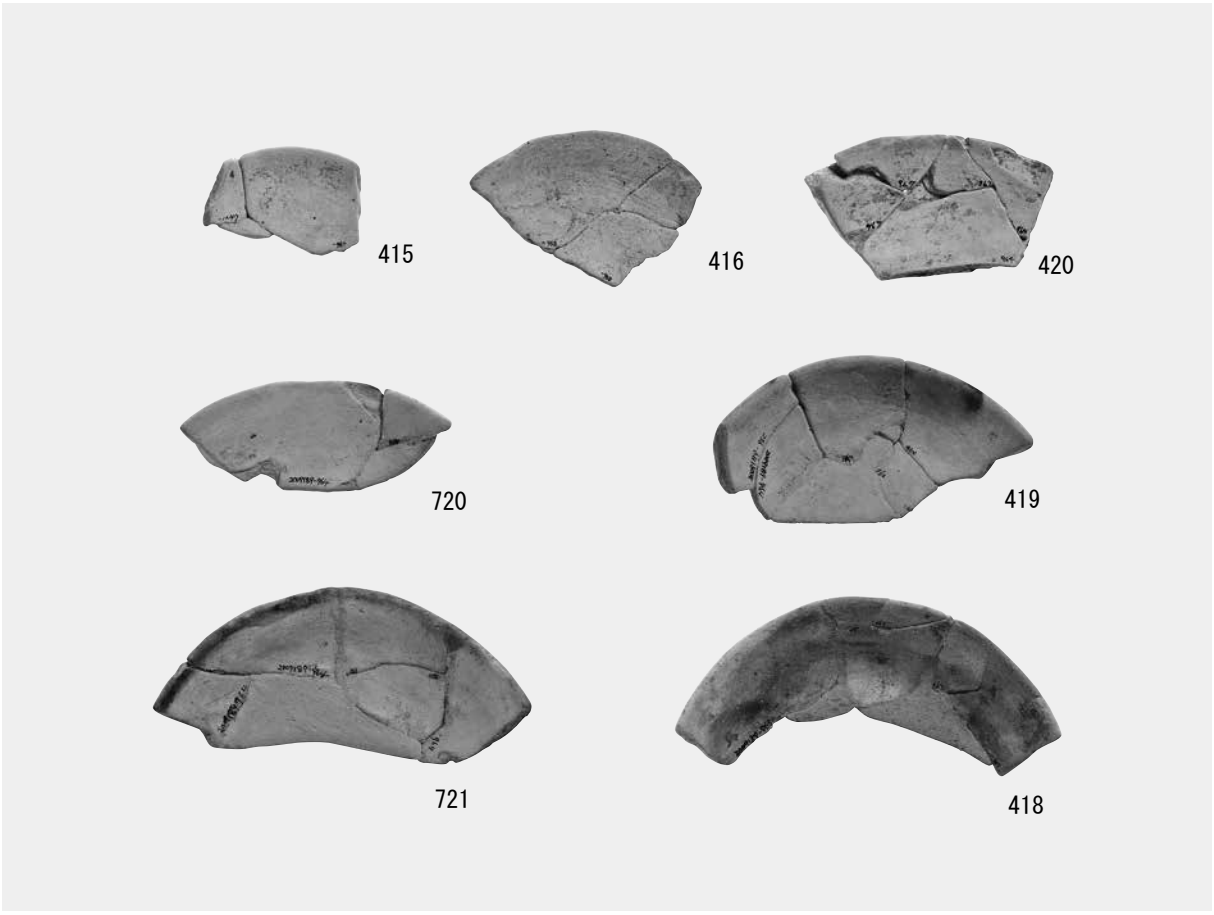
412

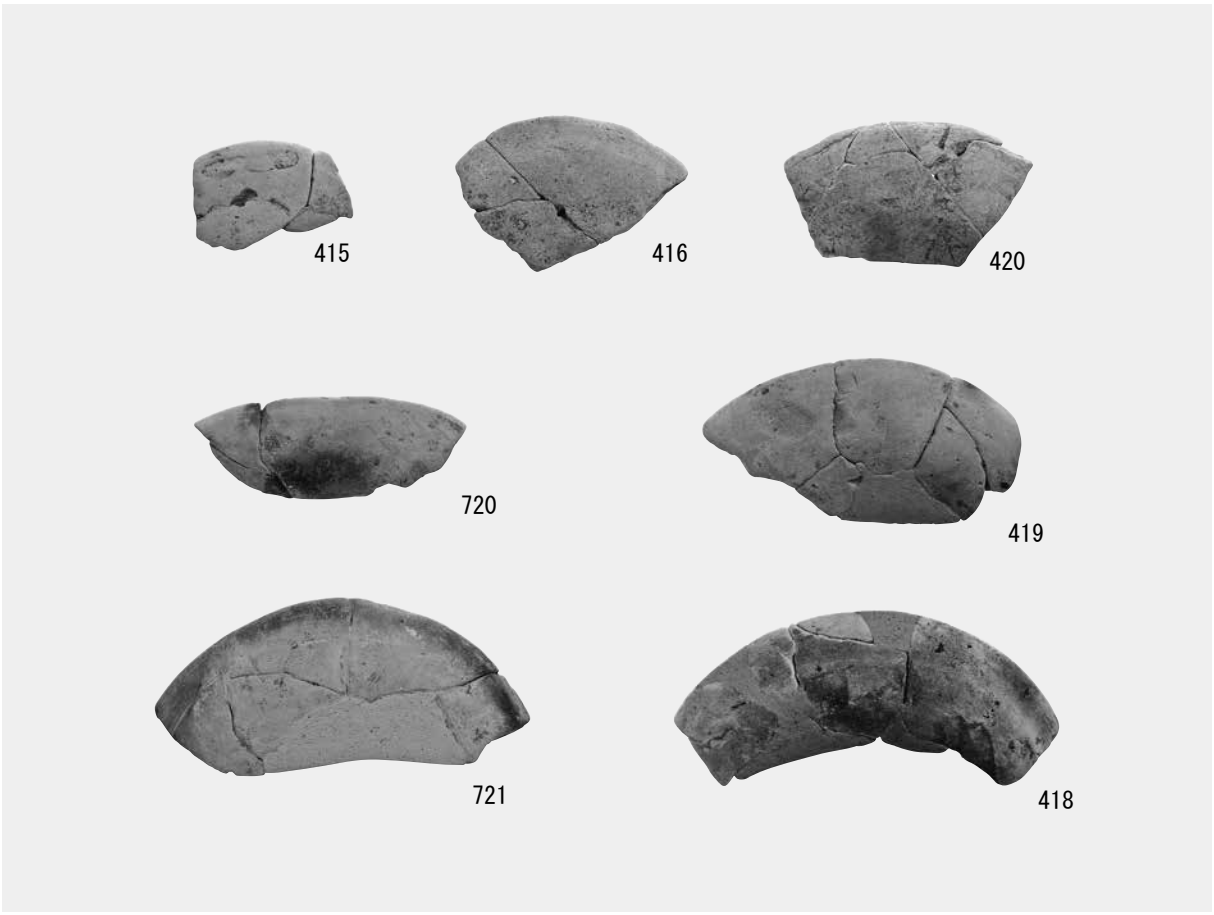
413

719

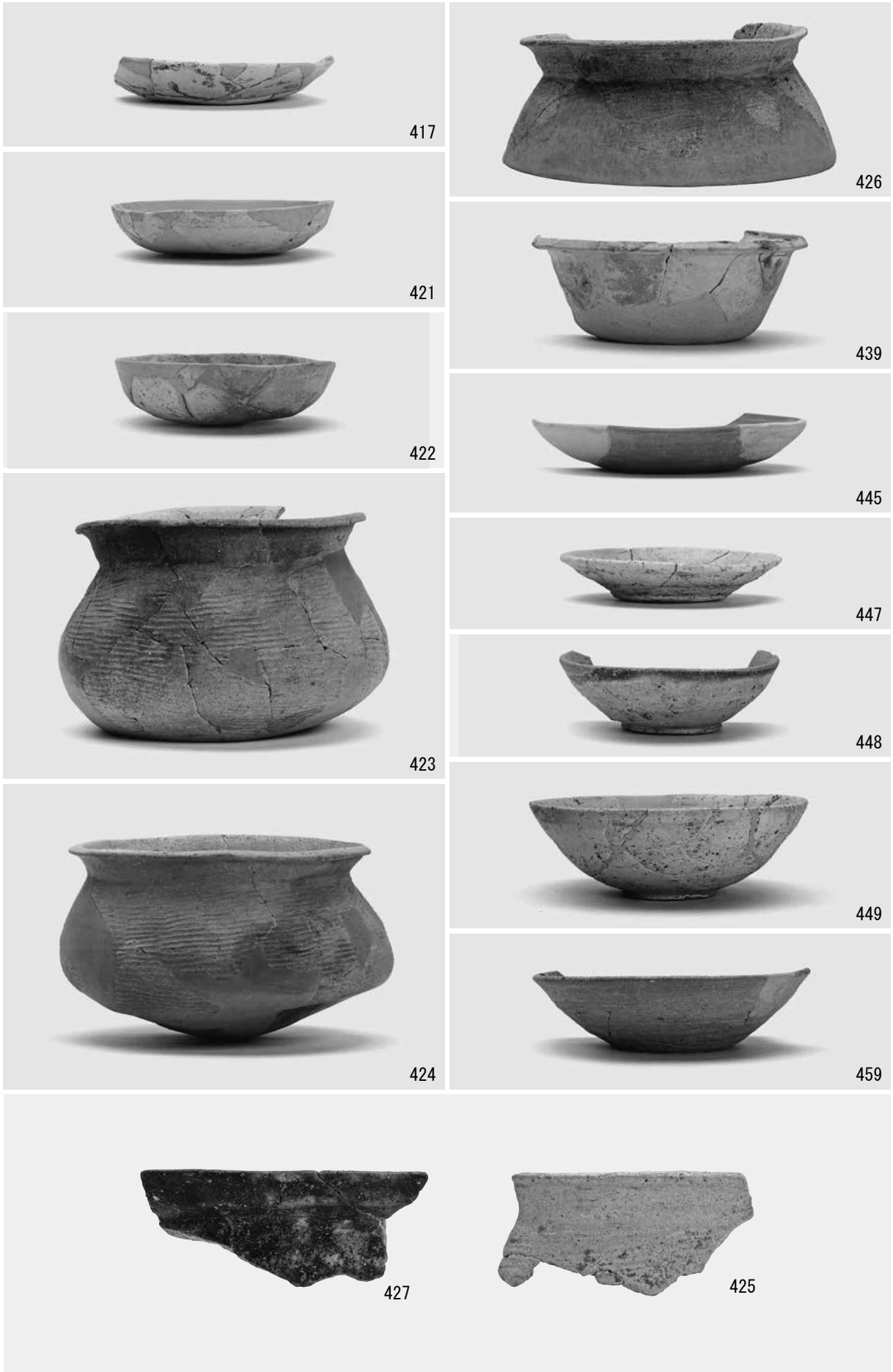
414

出土土器41

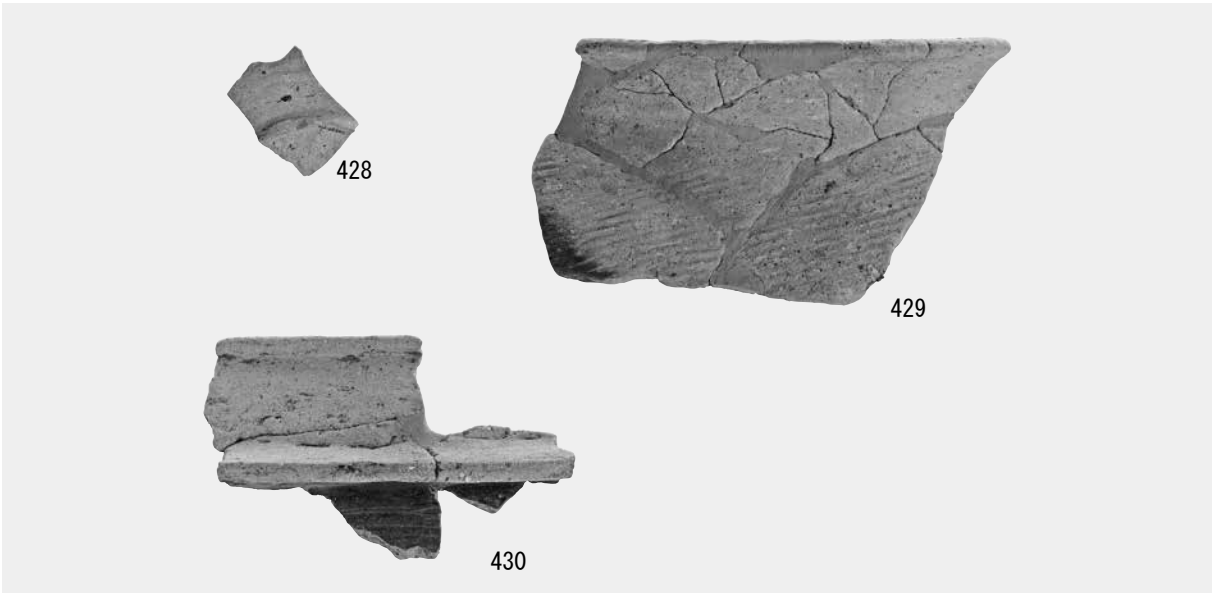


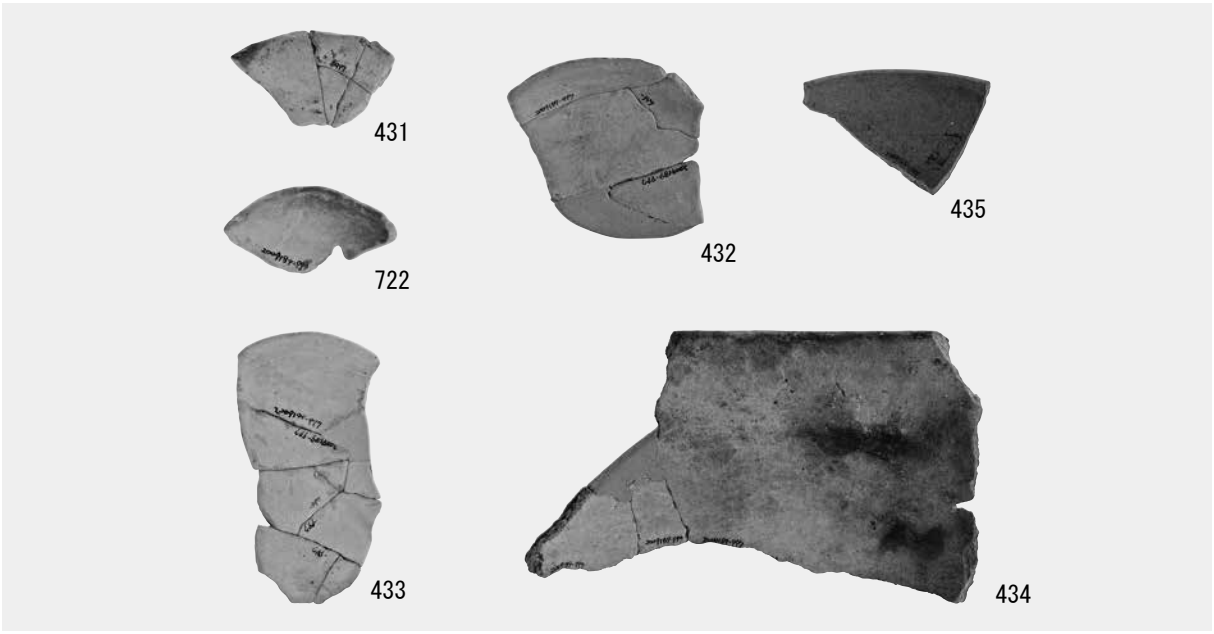


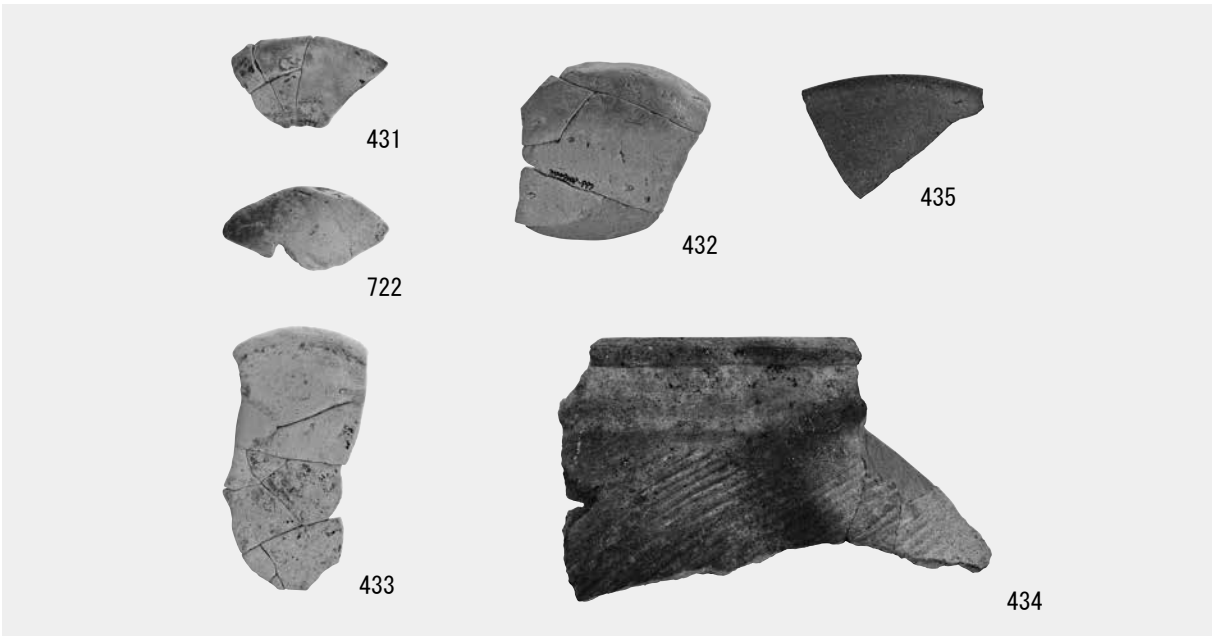
出土土器42



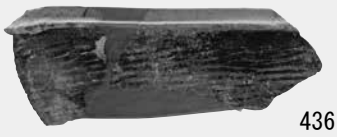
出土土器43







出土土器44


436

438

437

441

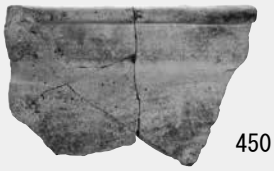
440

442

443

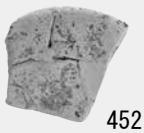
444

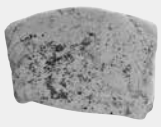
446

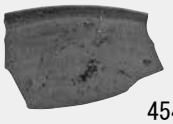

450

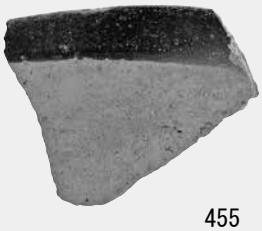
451

出土土器45


452


453


454


455

723

456

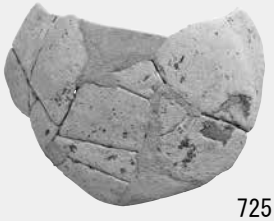
457

458

460

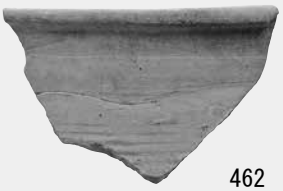
724

461


725

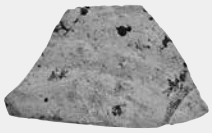
463

726

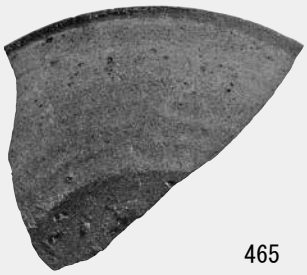

462

出土土器46

464



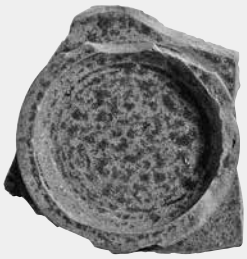
466



465

727

728

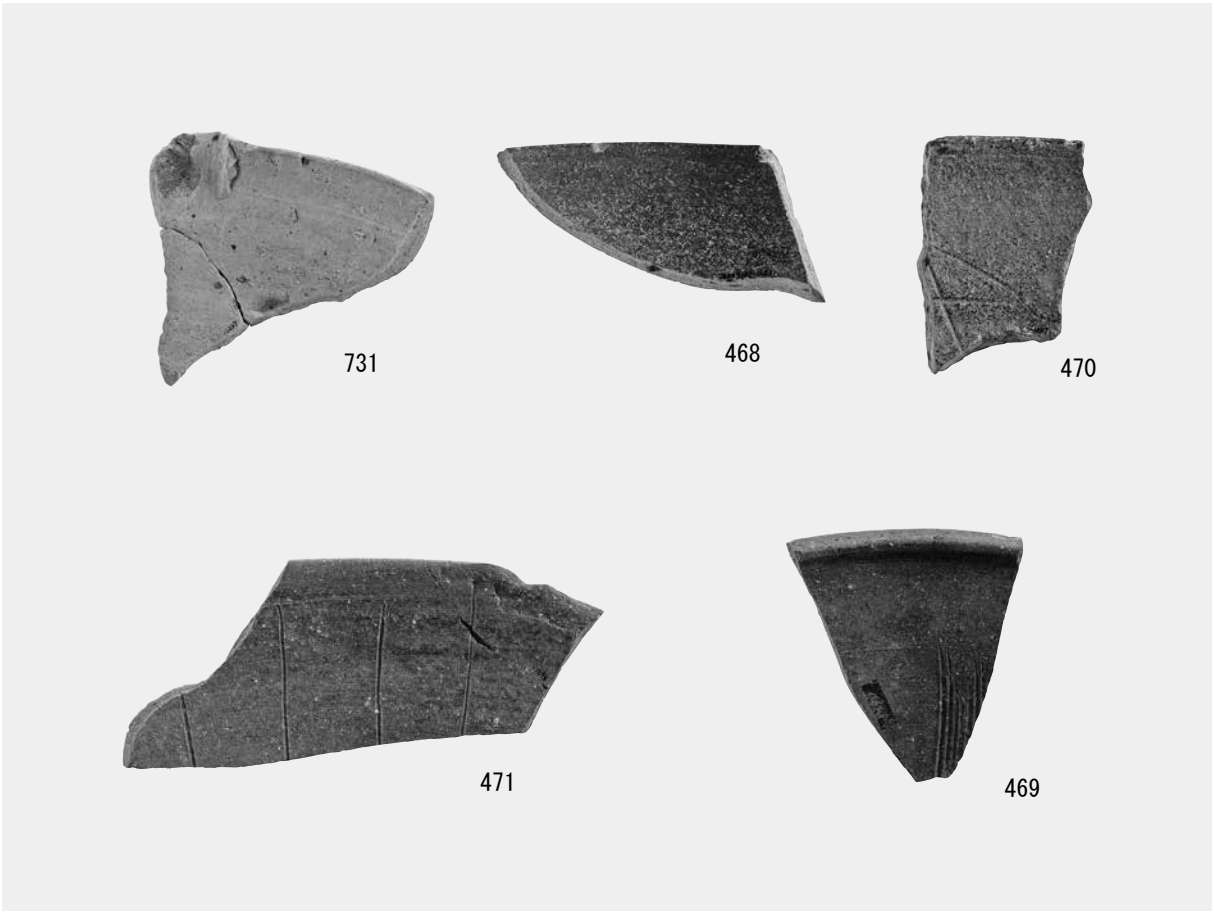


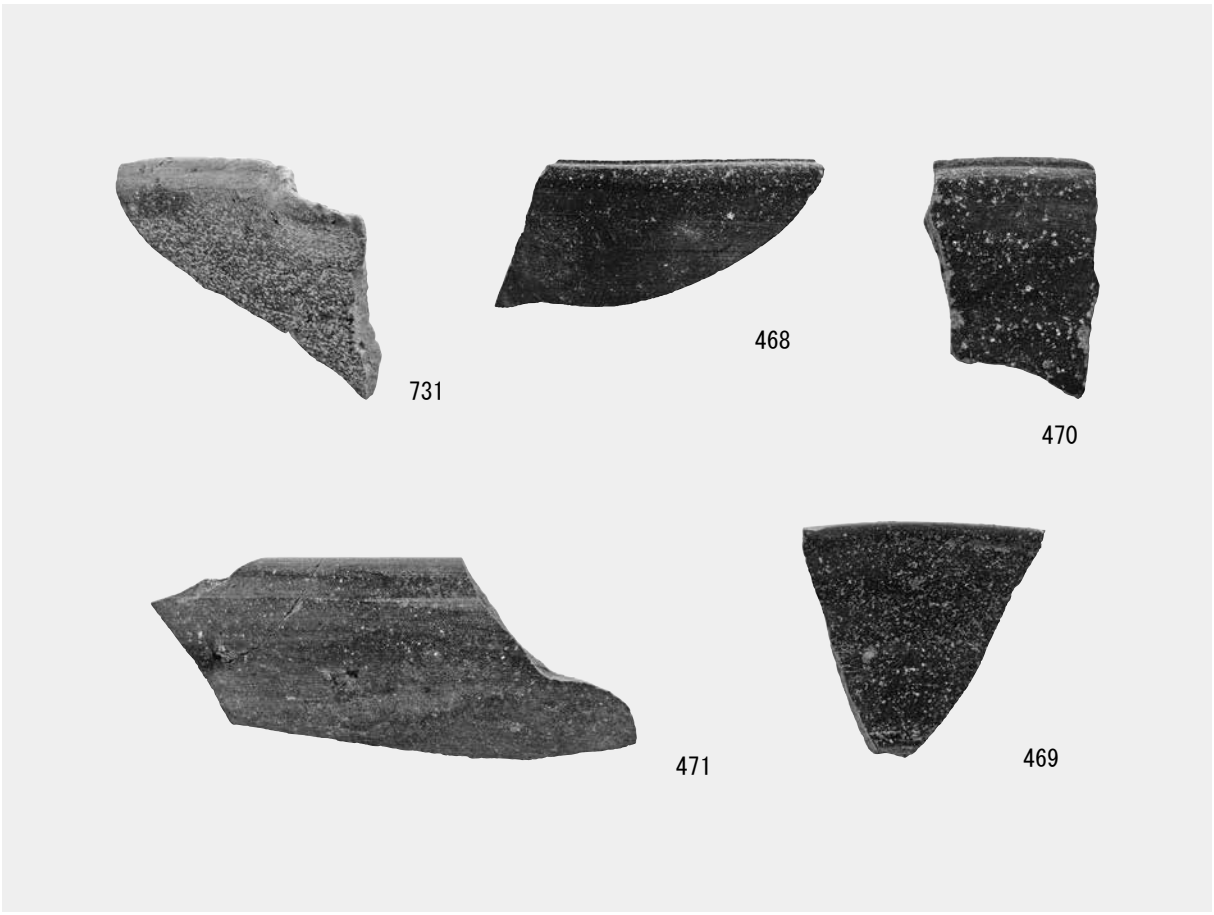
729

730

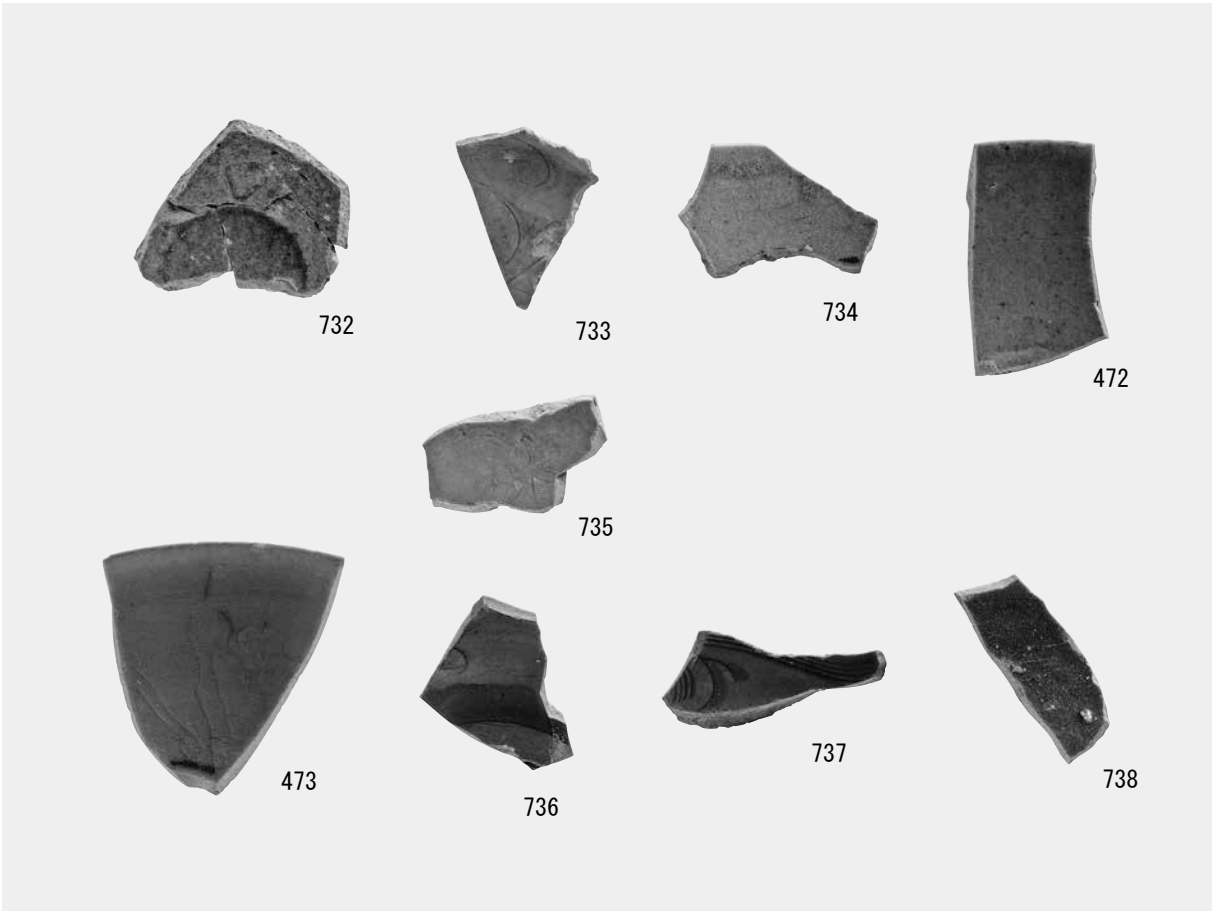
467

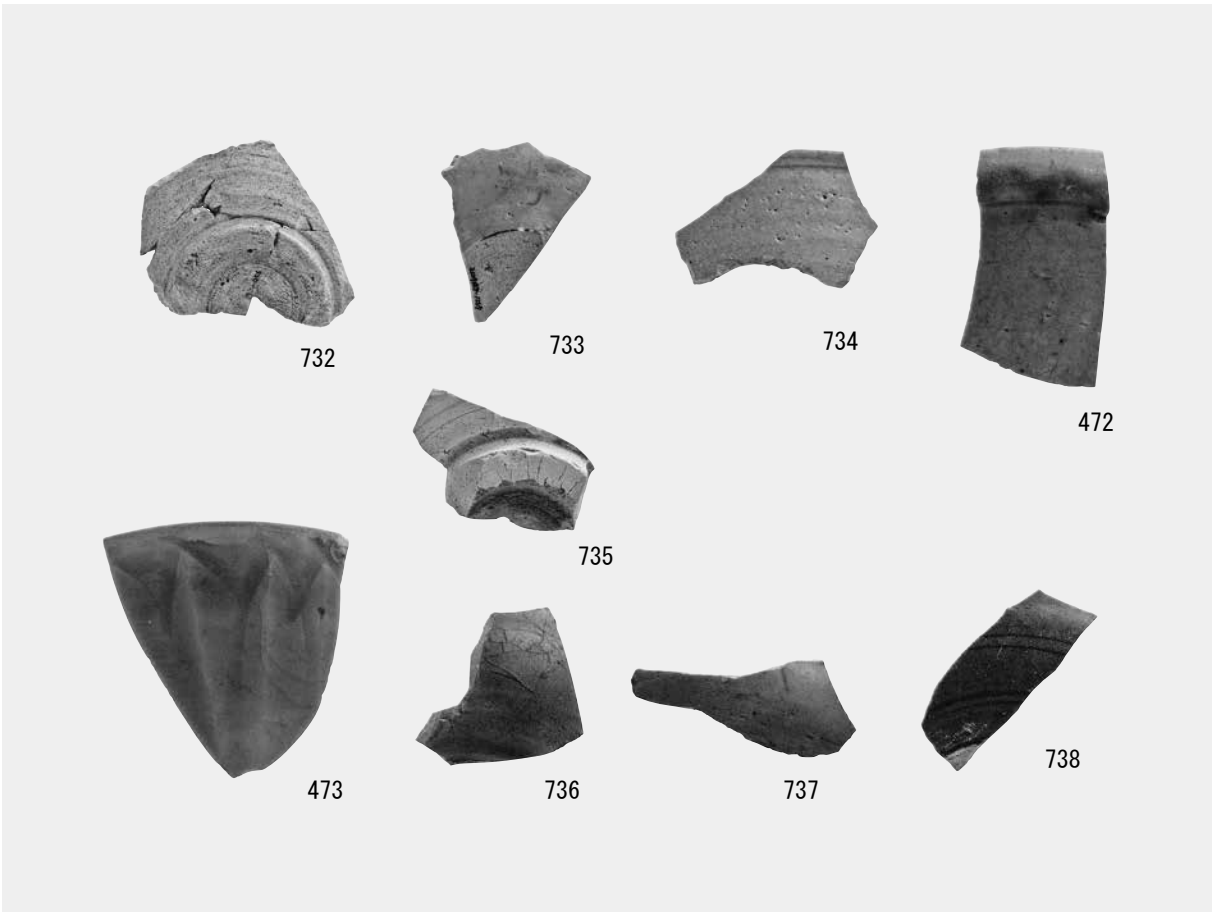
出土土器47



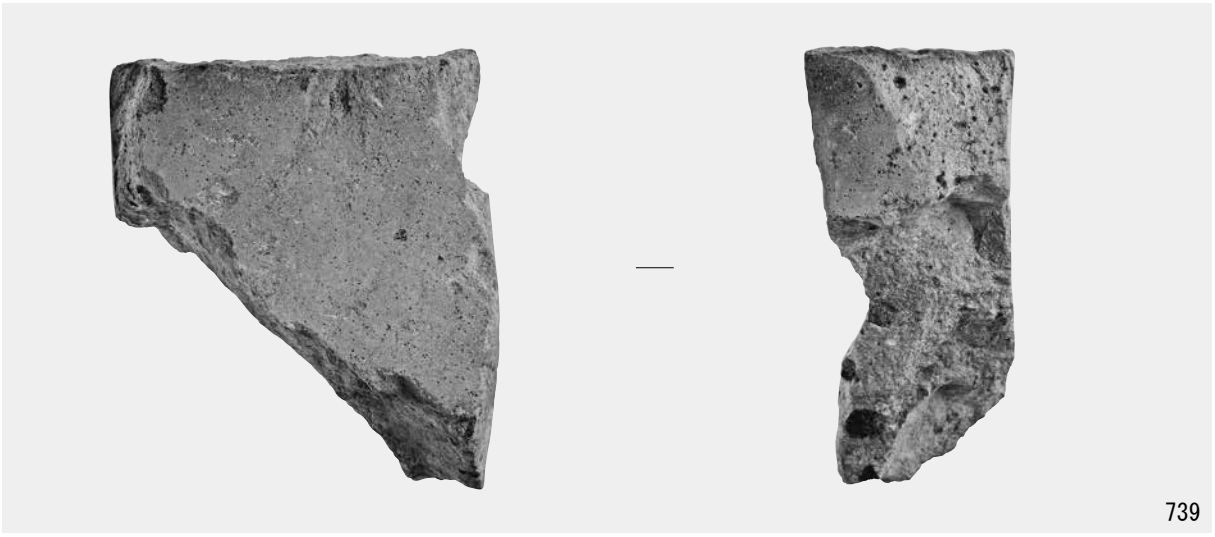


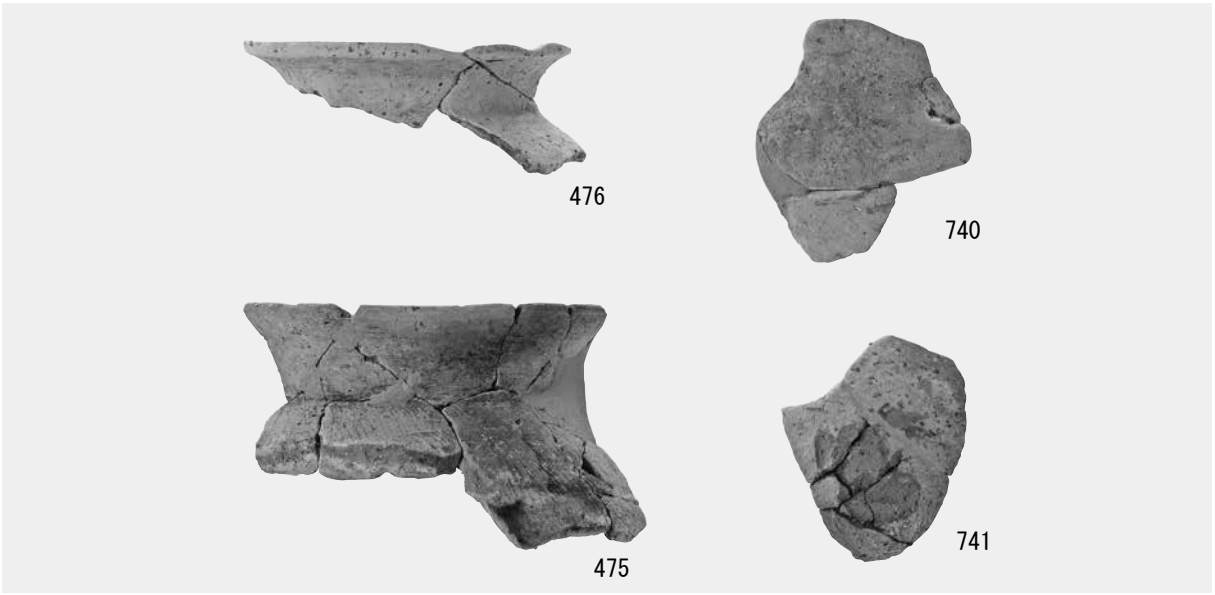
出土土器48


732
733
734
472
735
473
736
737
738

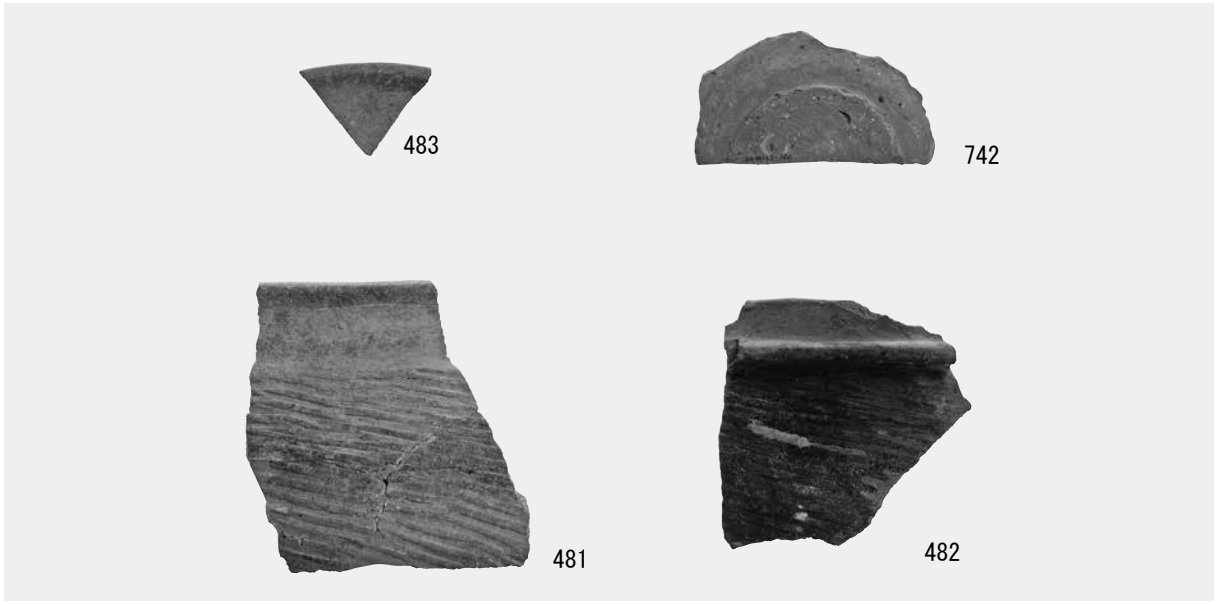

732
733
734
472
735
473
736
737
738

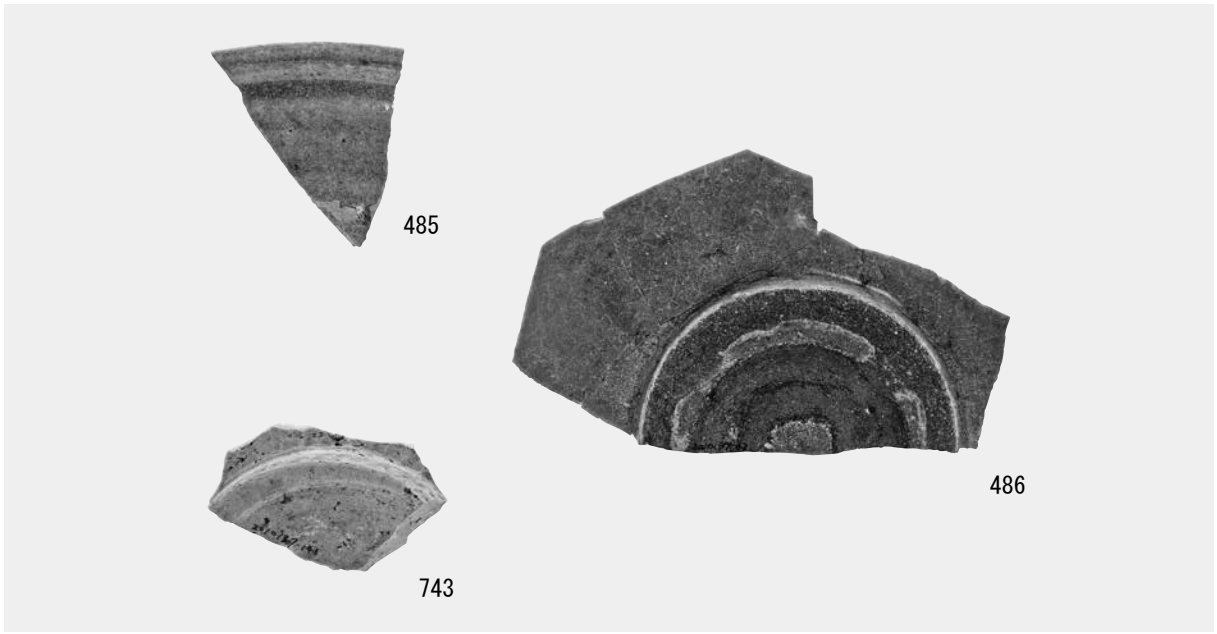
出土土器49

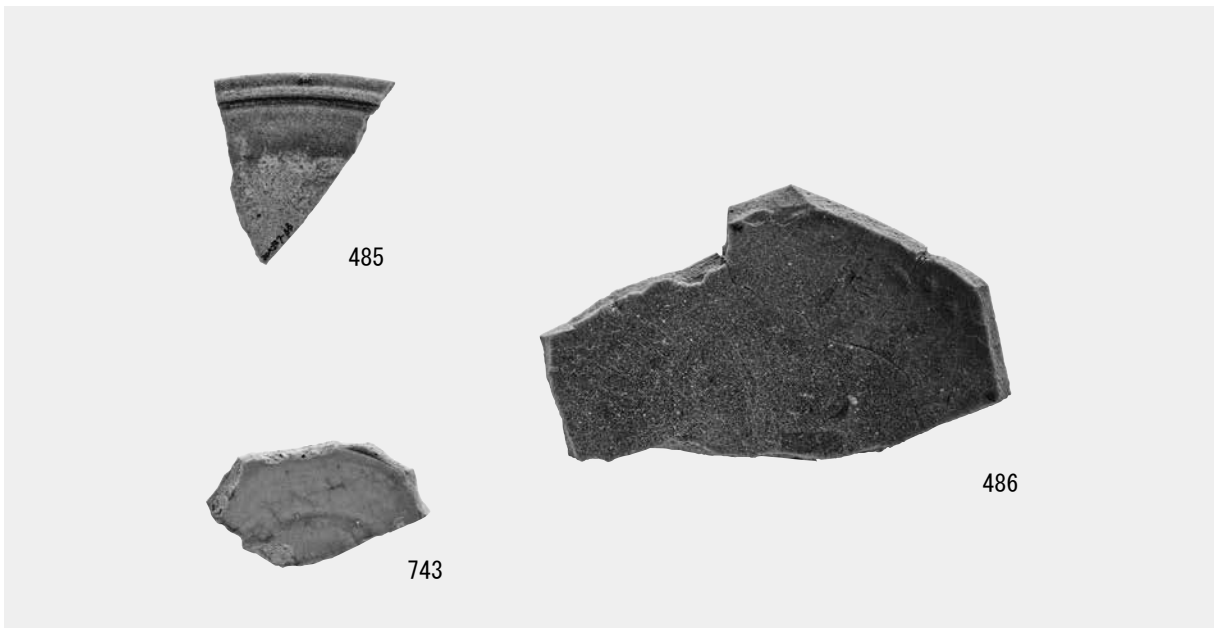




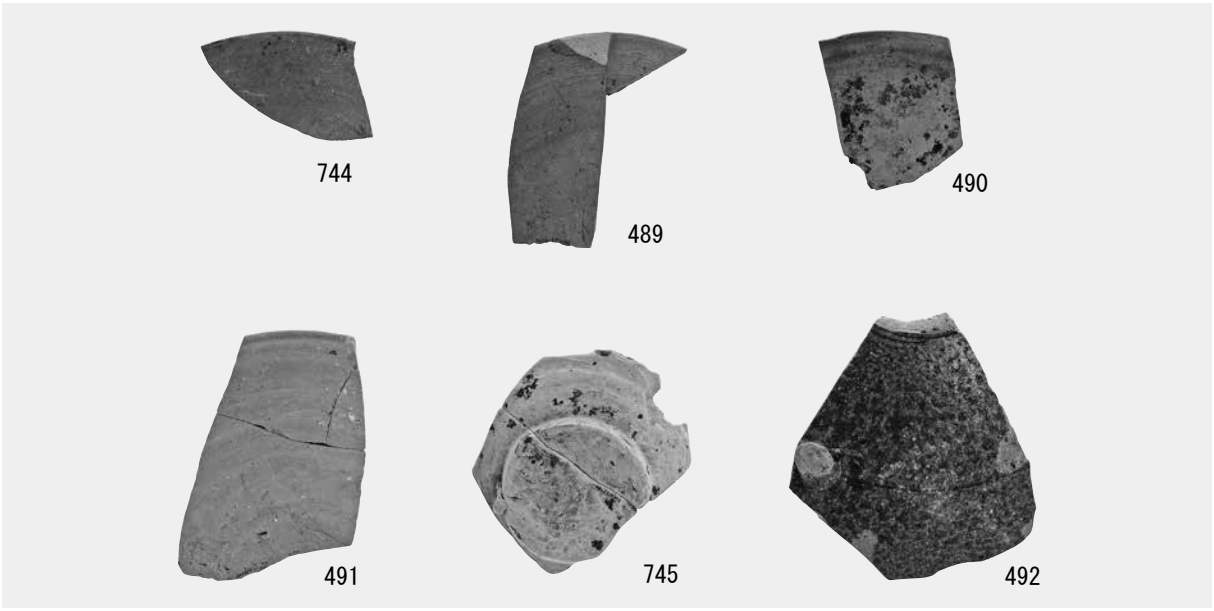
出土土器50

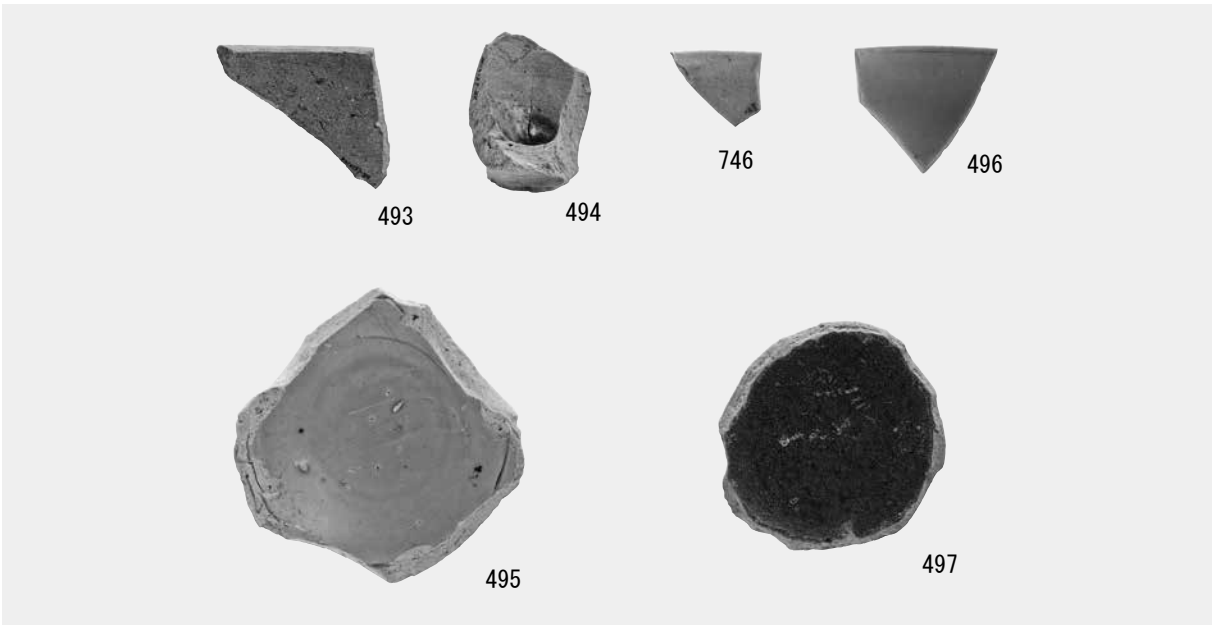


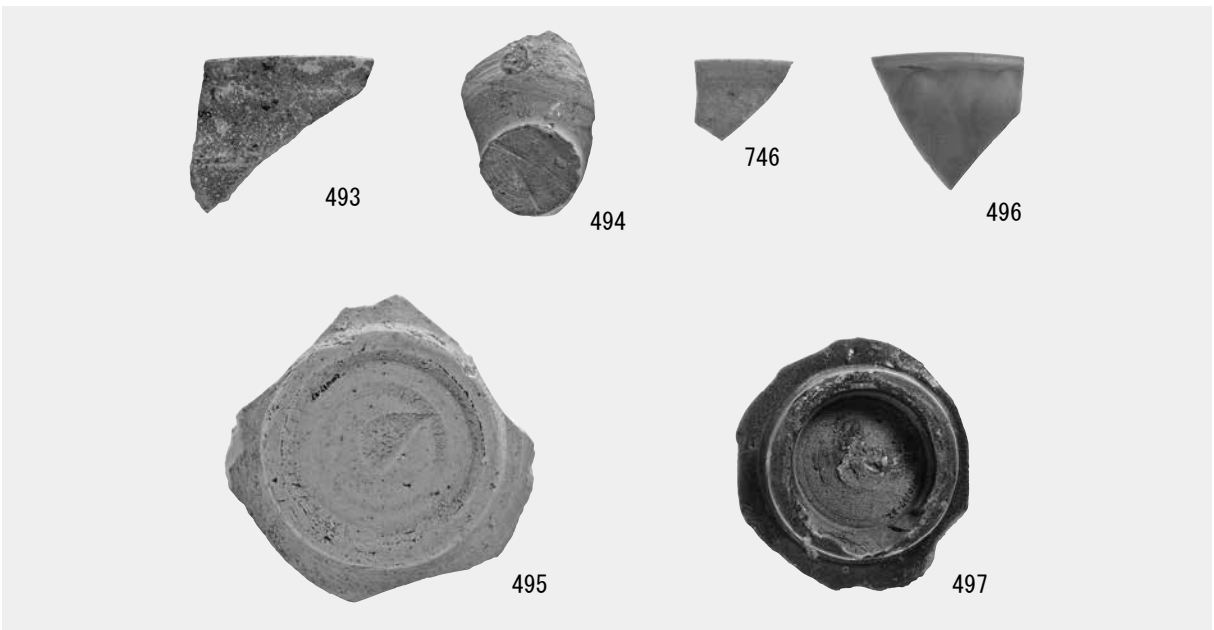




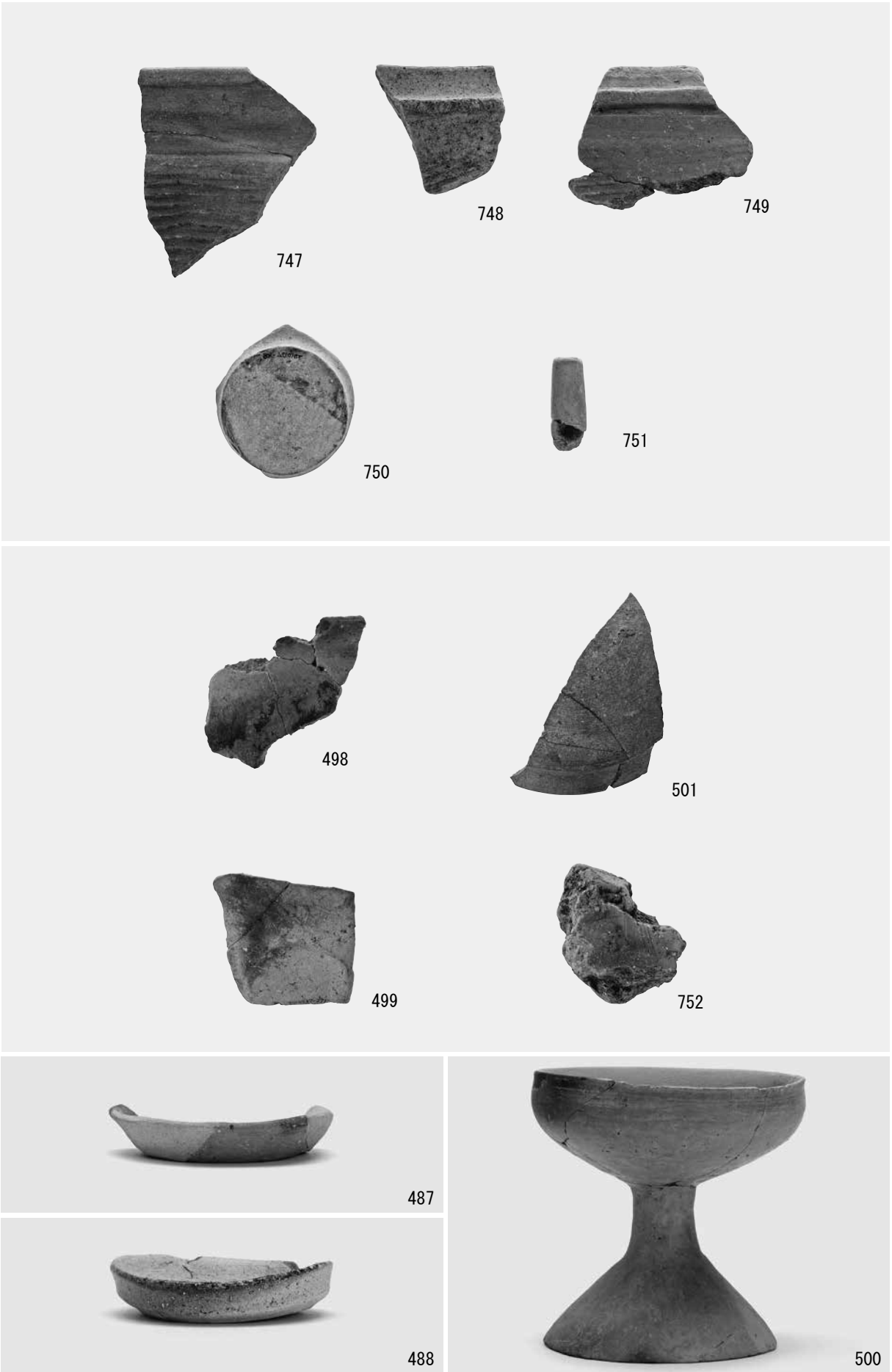
出土土器51


744
489
490
491
745
492

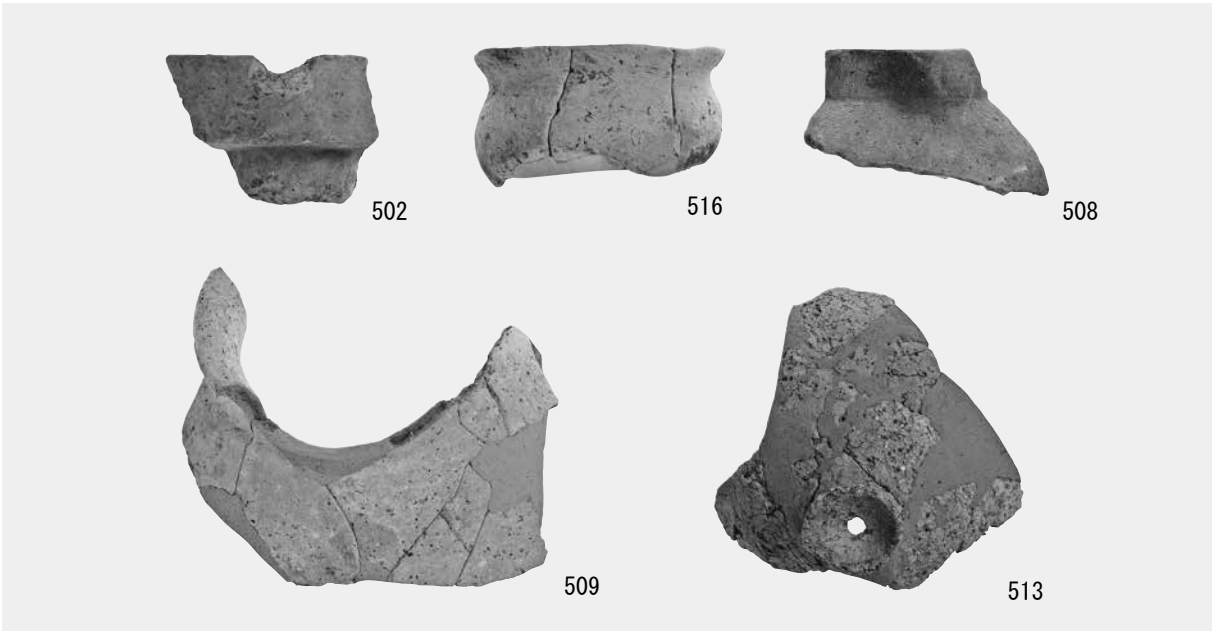

493
494
746
496
495
497


493
494
746
496
495
497

出土土器52



出土土器53

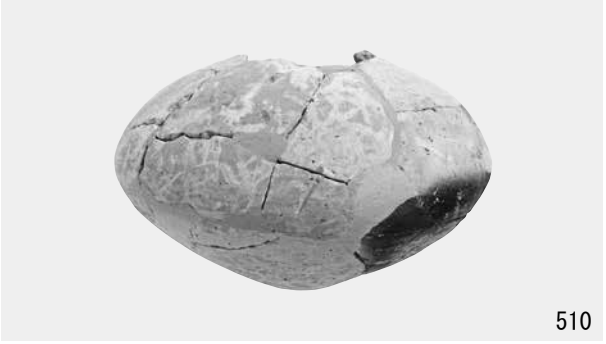


出土土器54

507

512

515


510

517

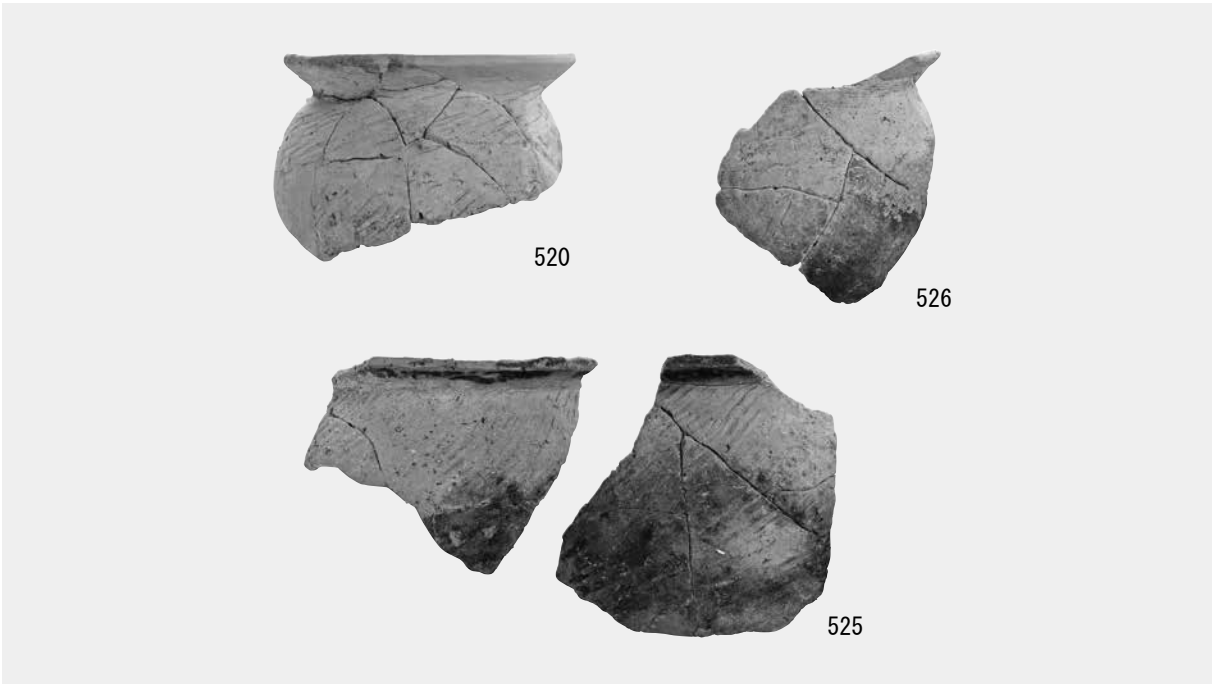
511

518

514

519

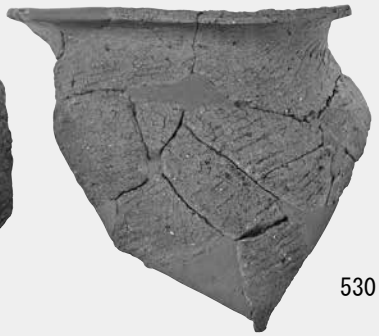
出土土器55



出土土器56

527

753



530

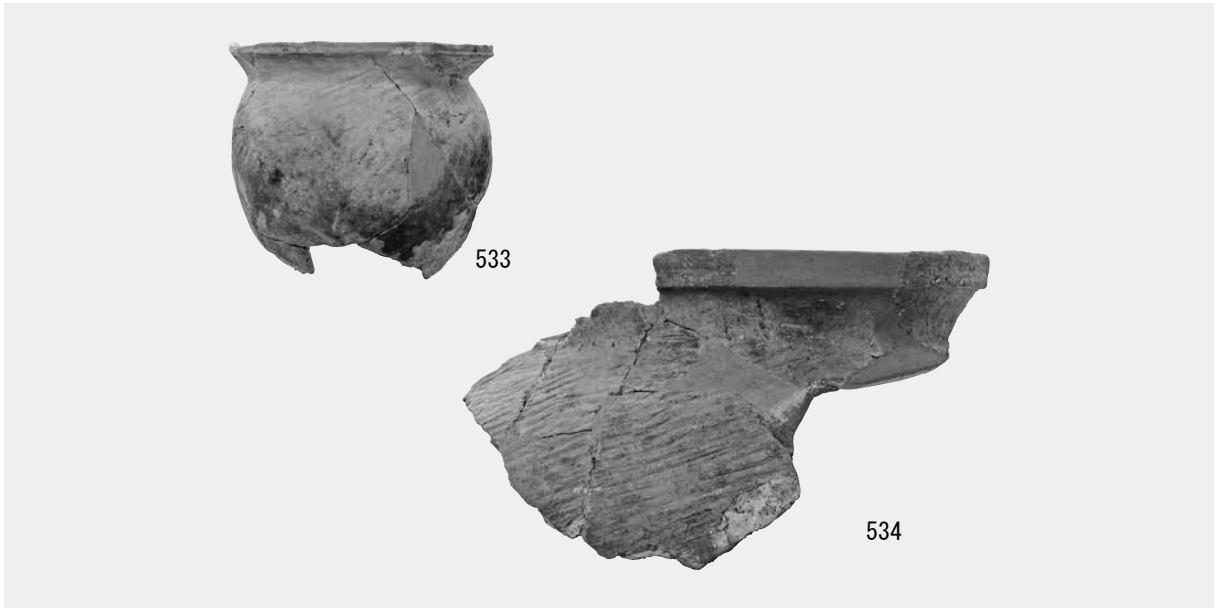
528

531

529

532

出土土器57


533

534

535

537

536

538

539

540

出土土器58

541

544

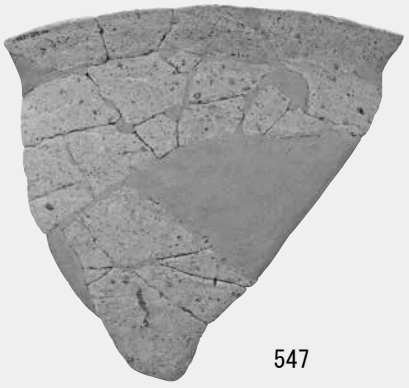
542

545

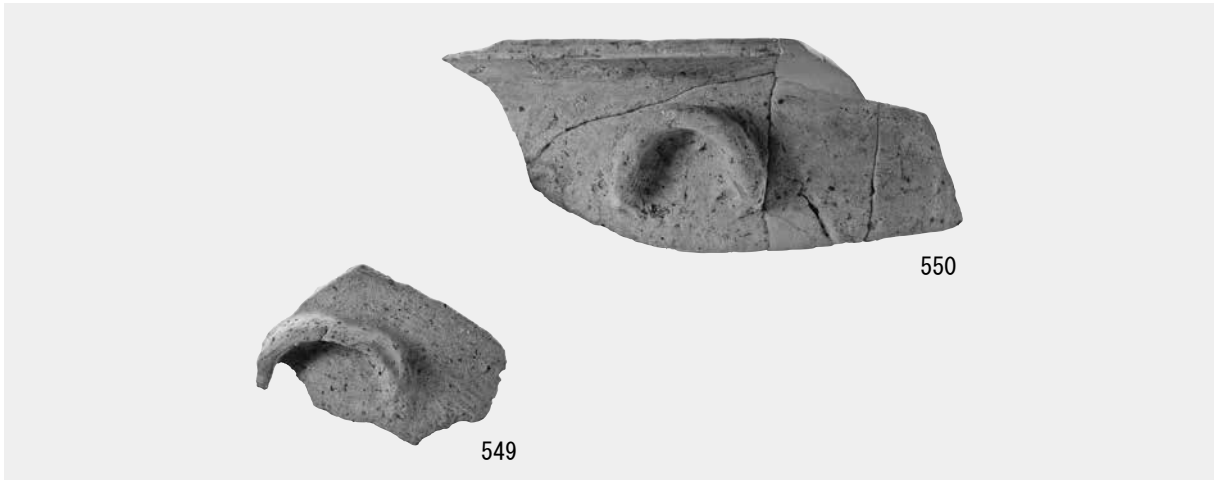
543

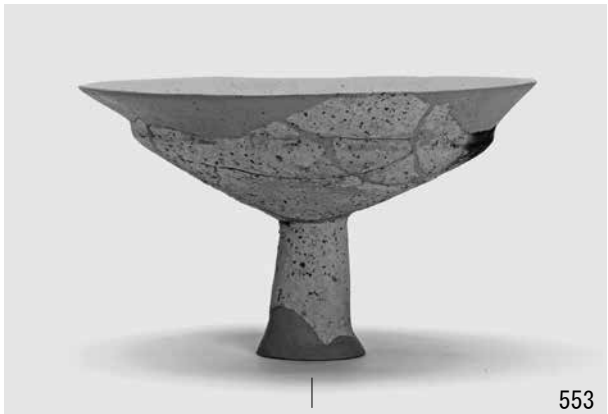
548

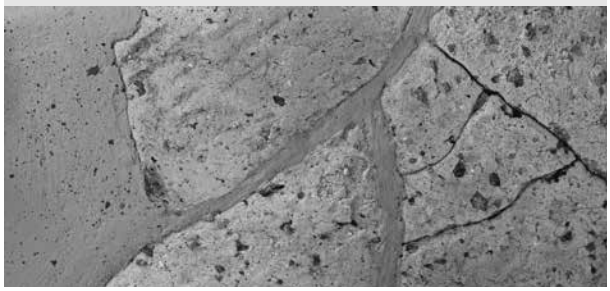
546

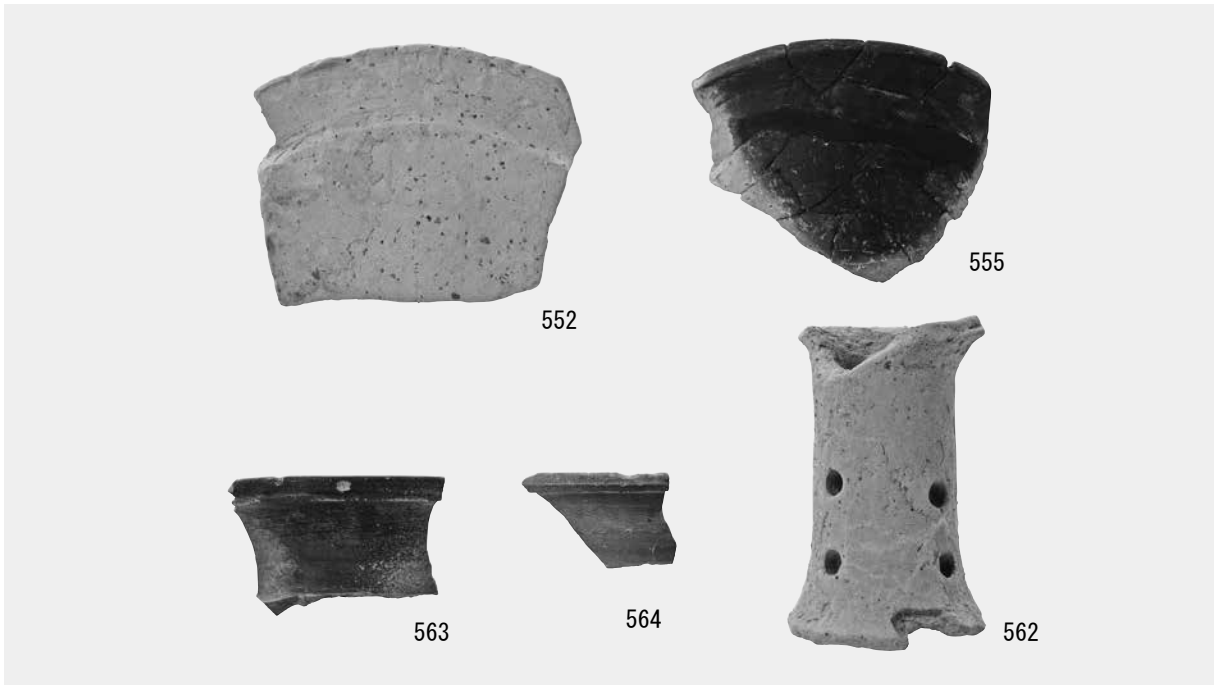

547

出土土器59









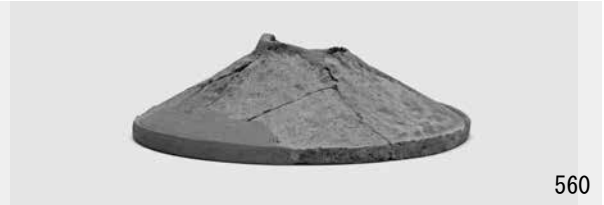
出土土器60

556

557

558

559

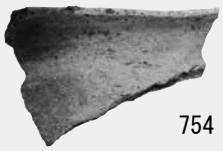

560

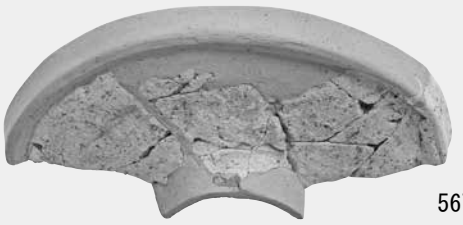
561

566

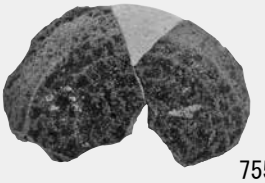
575

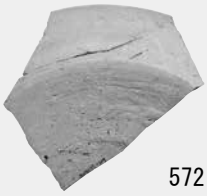
565


754


567

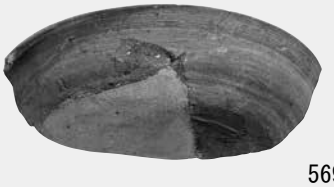
568


755


572

571

570


569

574

756

573

出土土器61

576

577

578

580

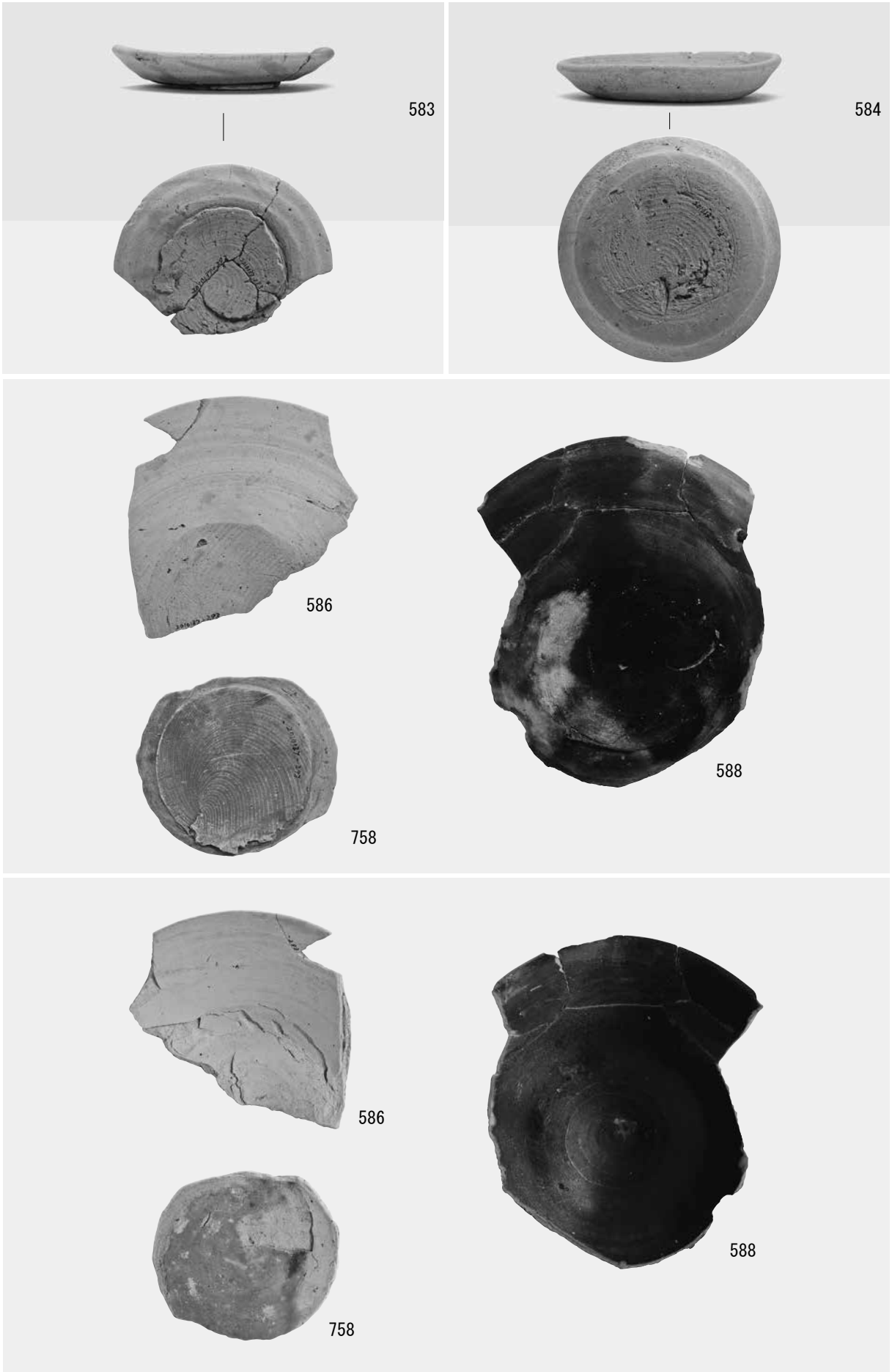
581

582

579

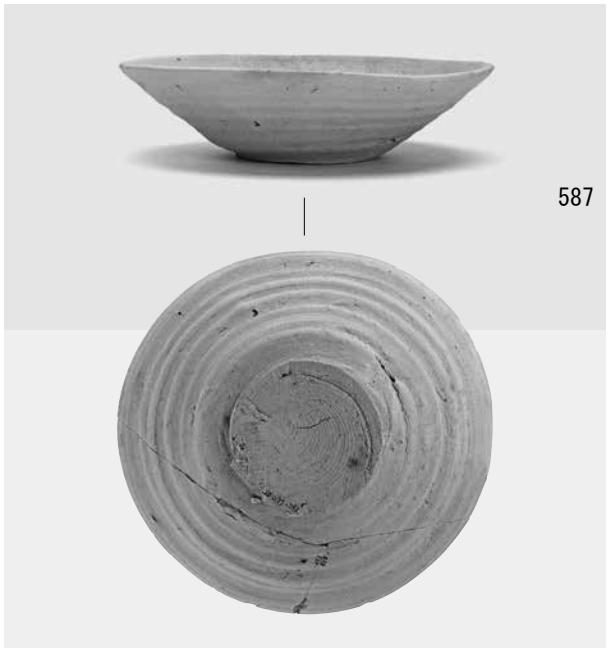
757

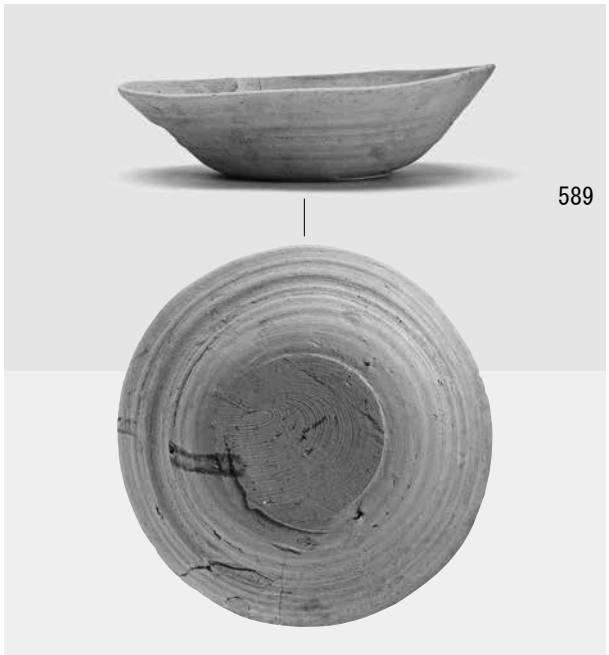
出土土器62



出土土器63

585


587


589

591

590

593

594

595

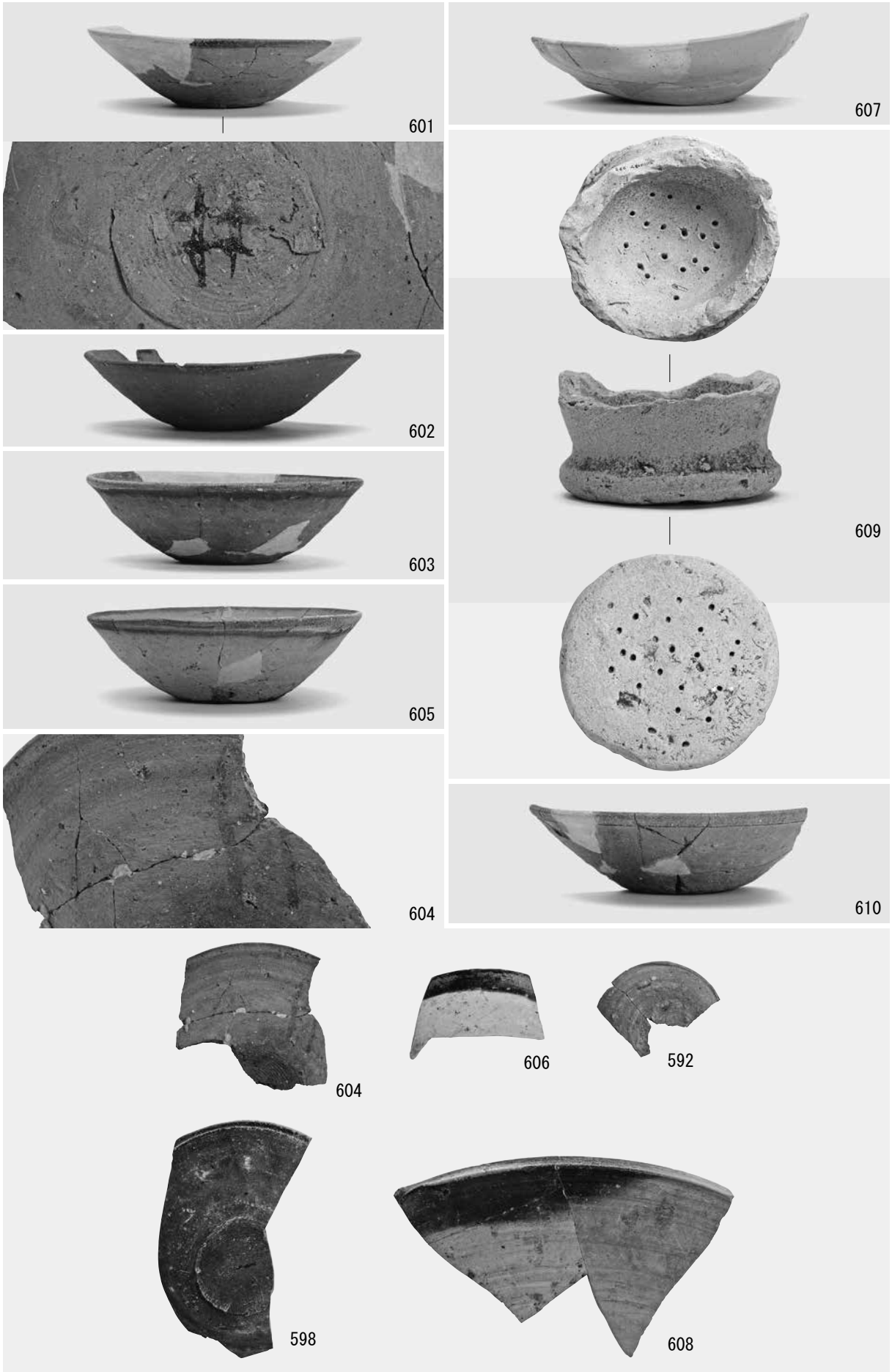
596

597

599

600

出土土器64



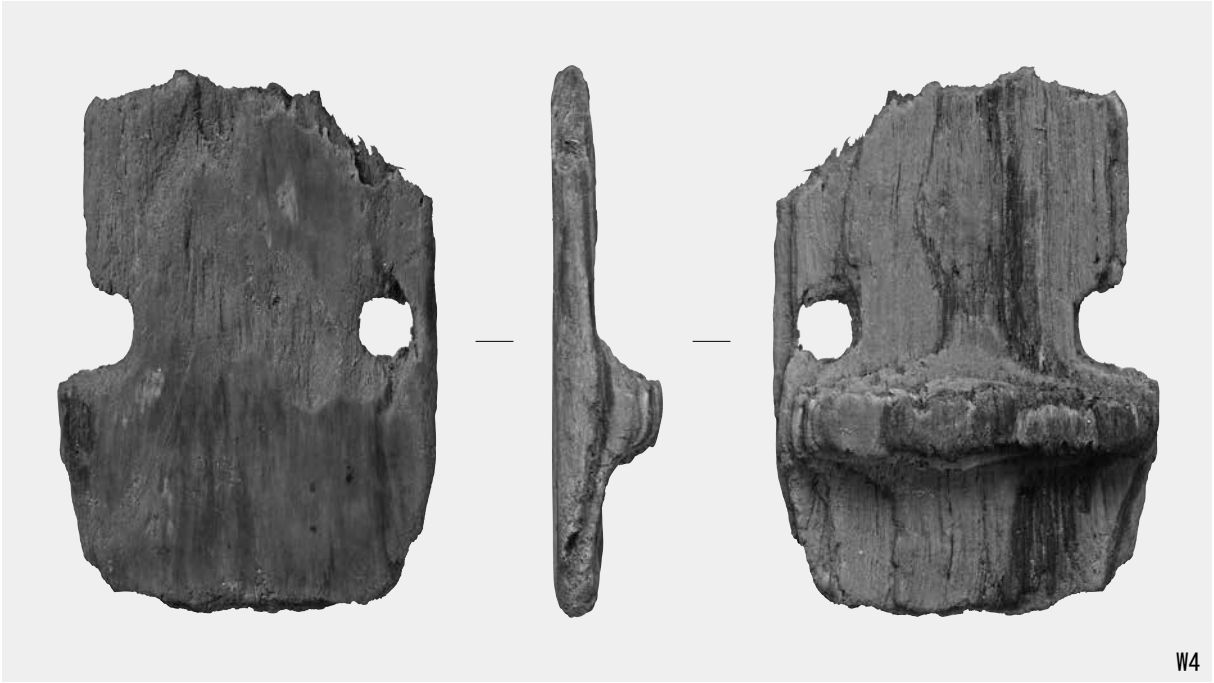
出土土器65

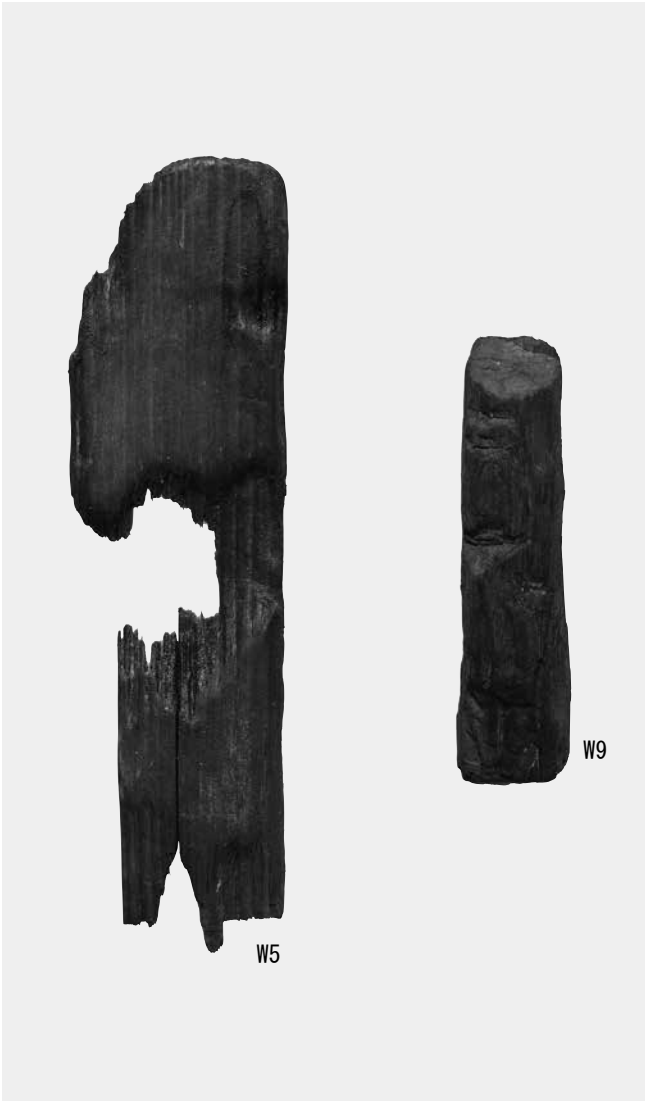
W1

W2

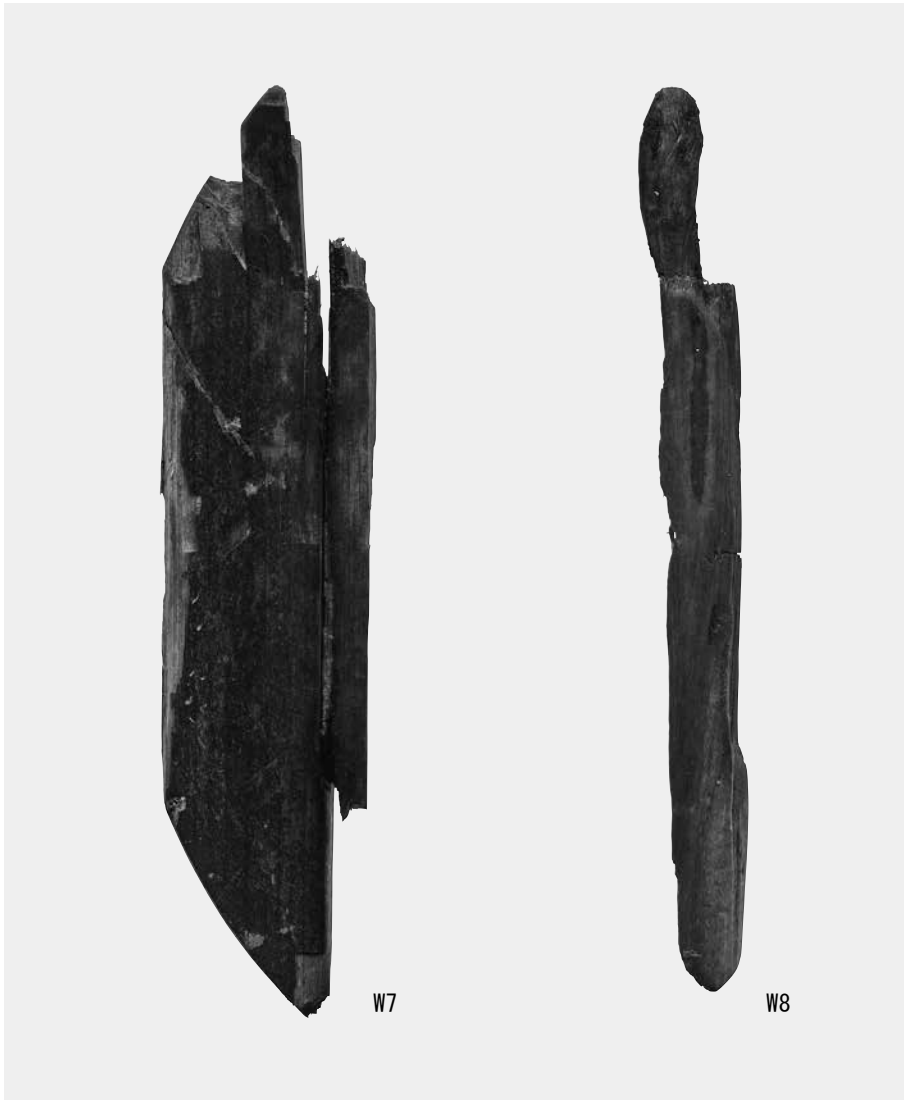
W3

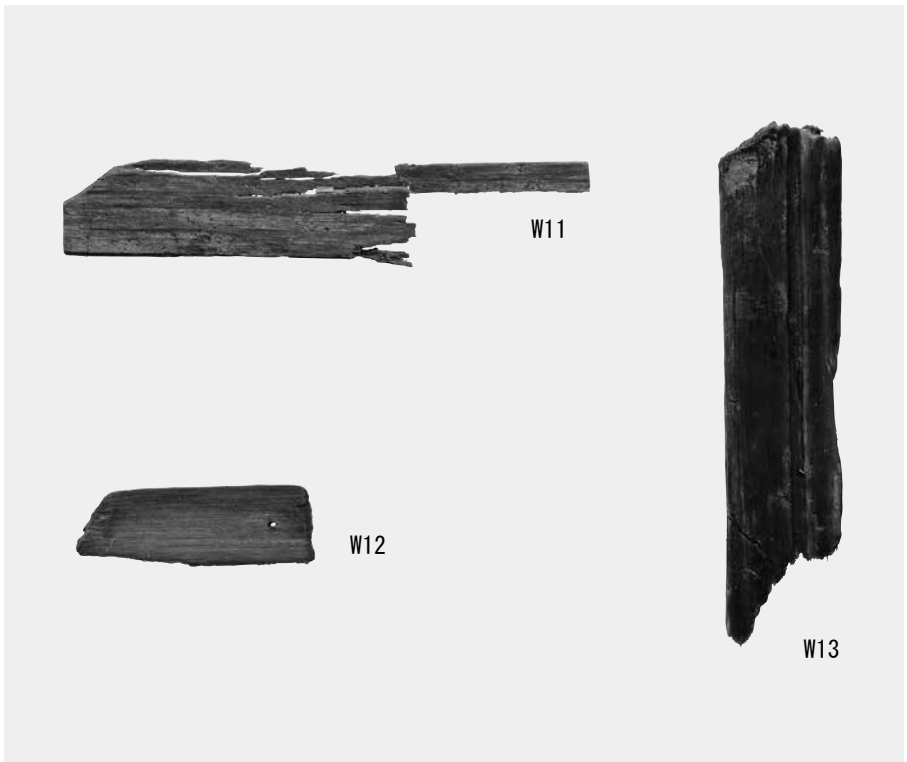
木製品 1



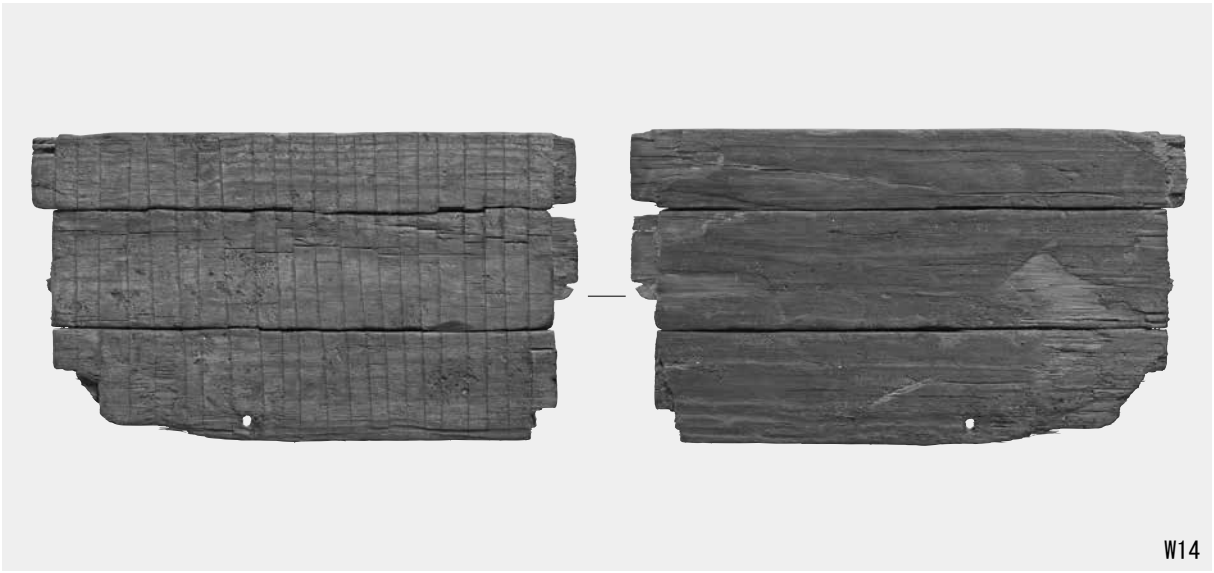


木製品 2

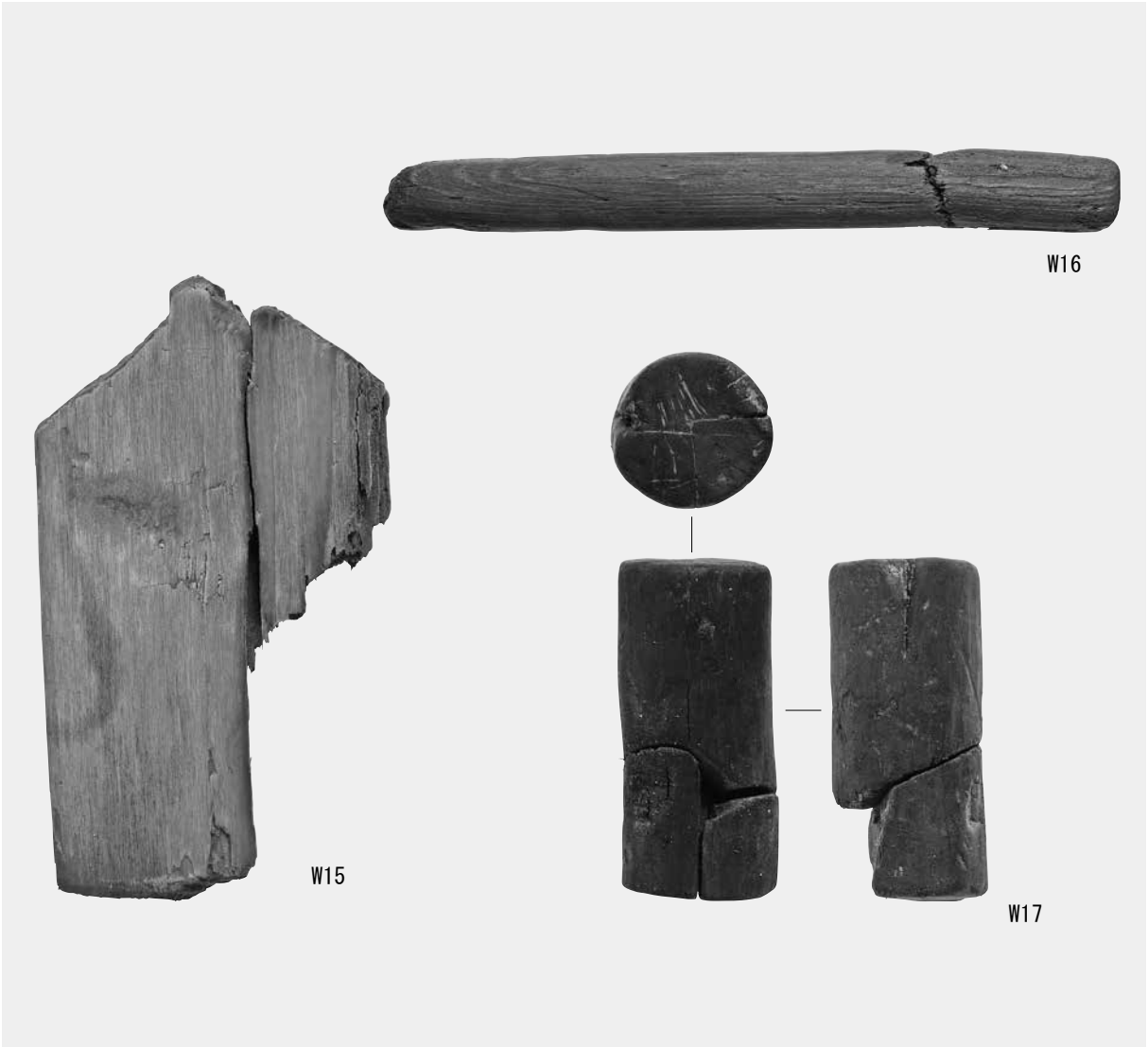




木製品 3



W14

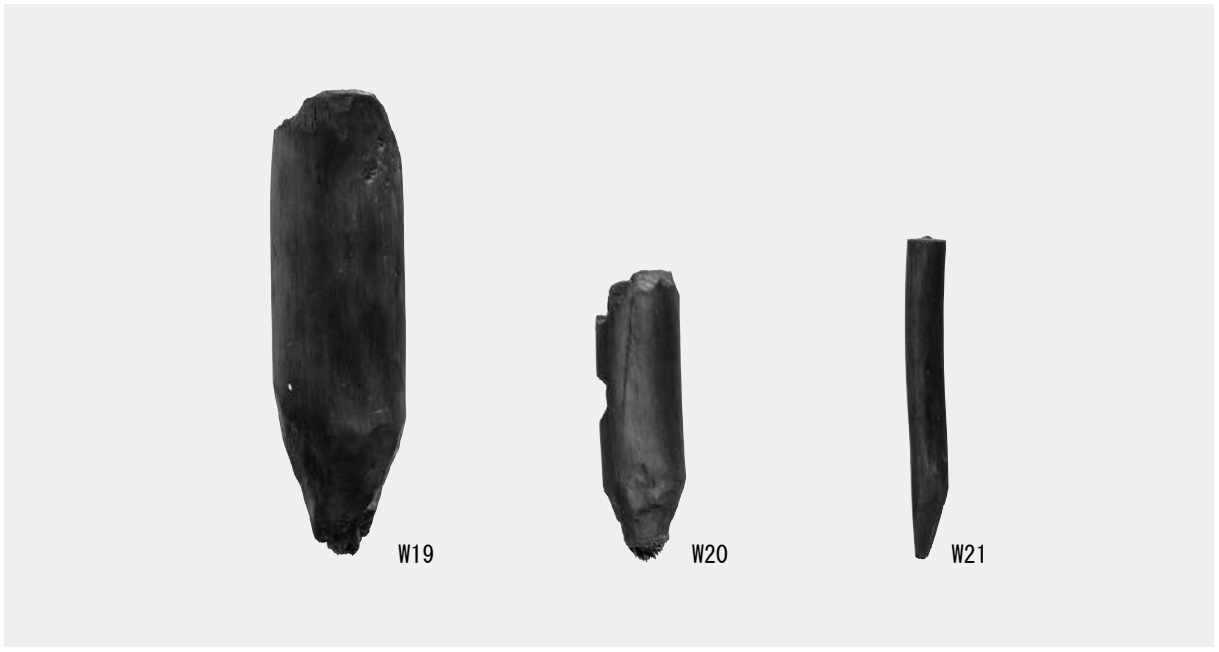


W16

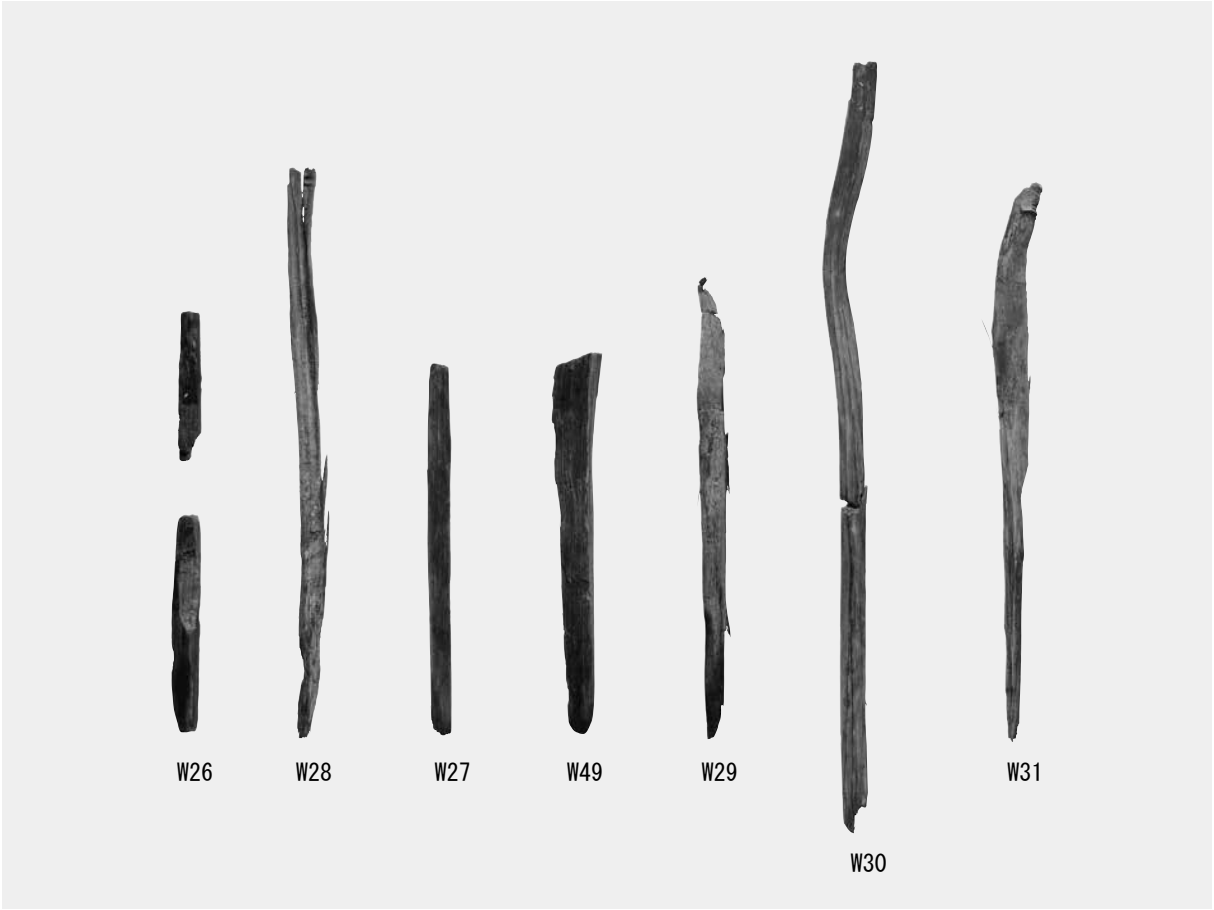
W15

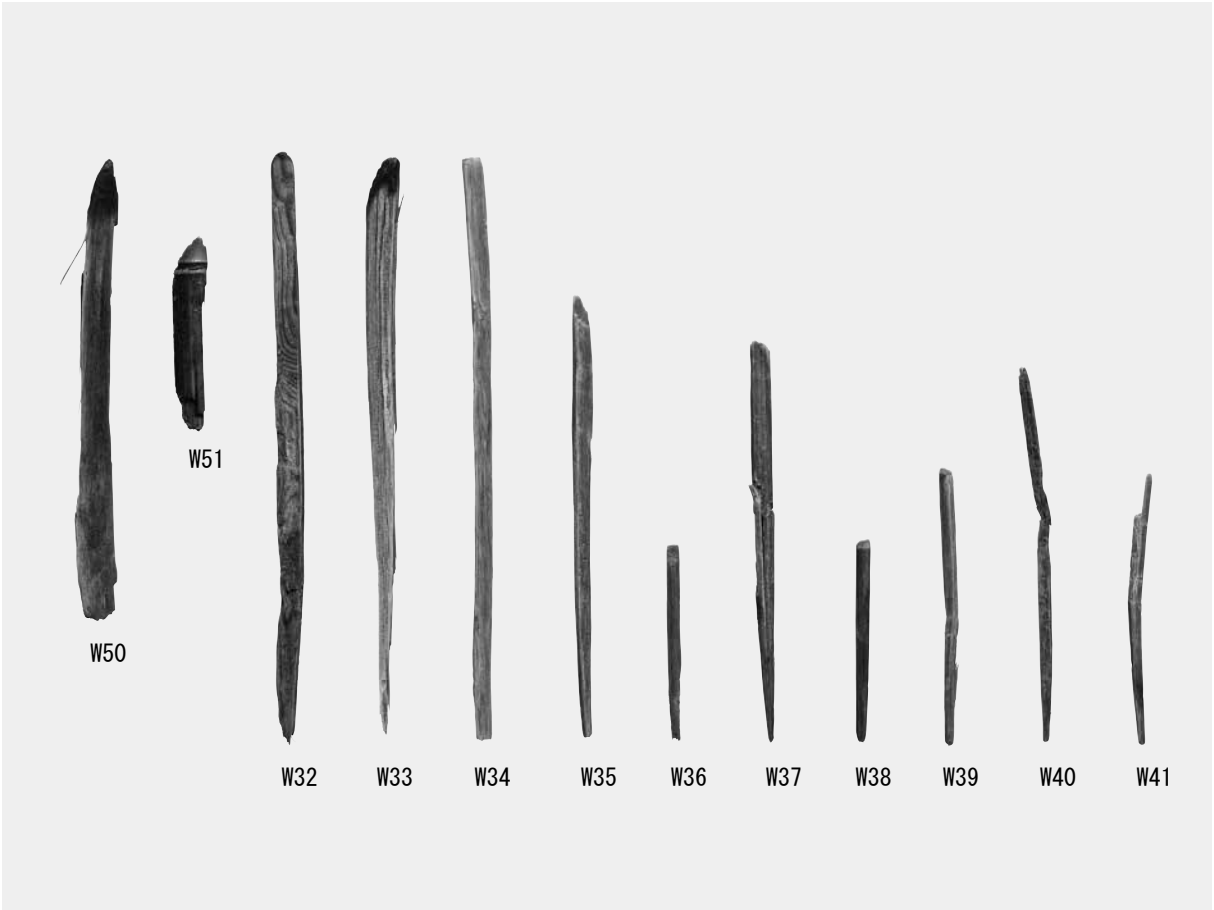
W17

木製品 4

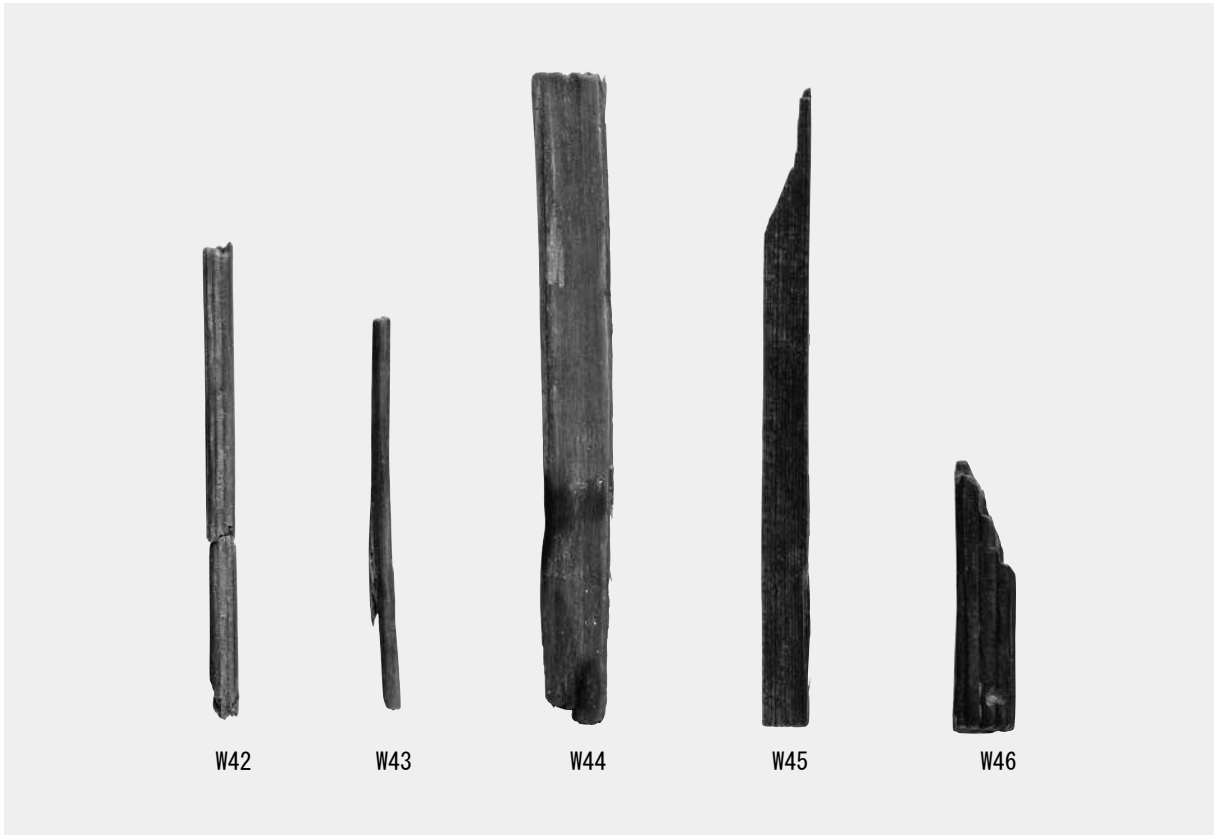


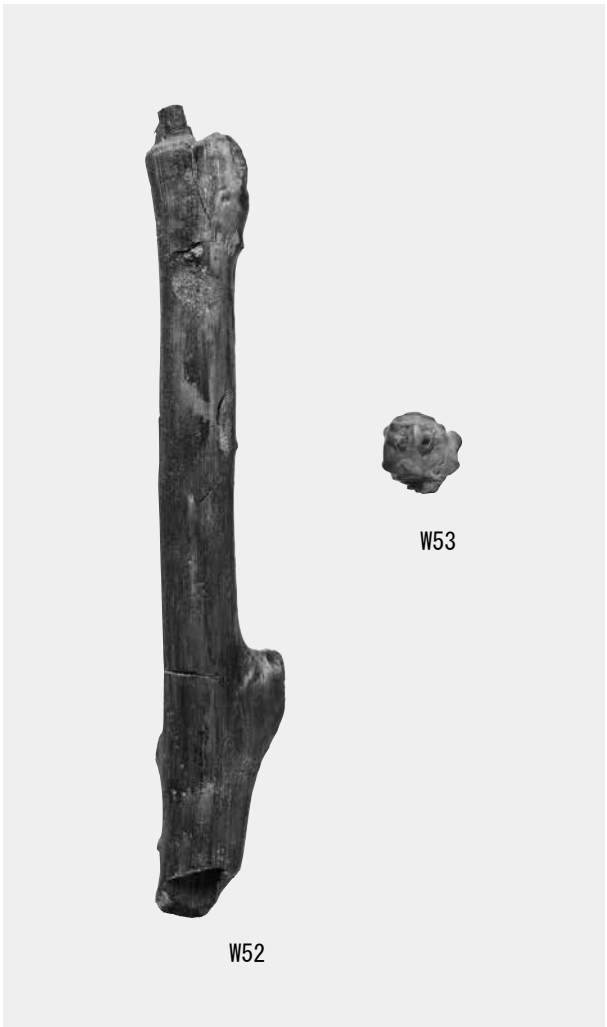
木製品 5


W26
W28
W27
W49
W29
W30
W31

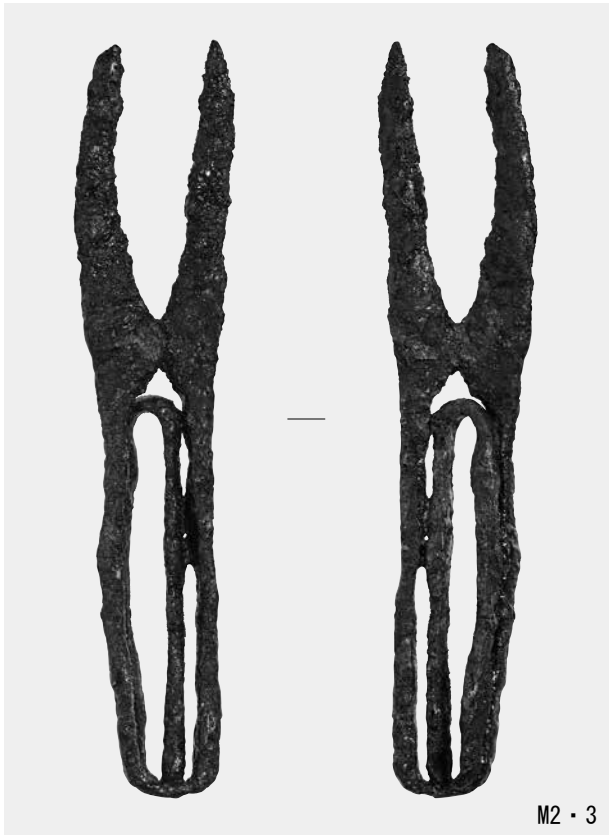

W50
W51
W32
W33
W34
W35
W36
W37
W38
W39
W40
W41

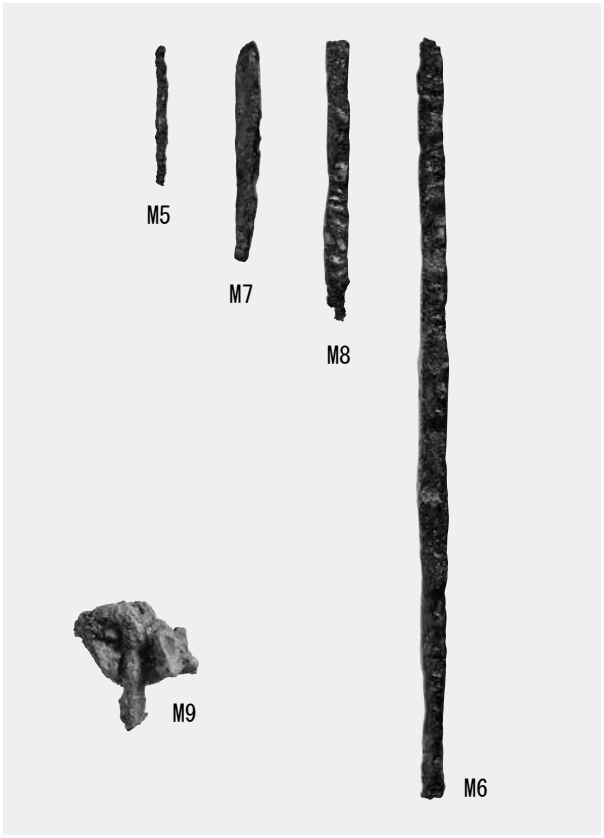
木製品 6



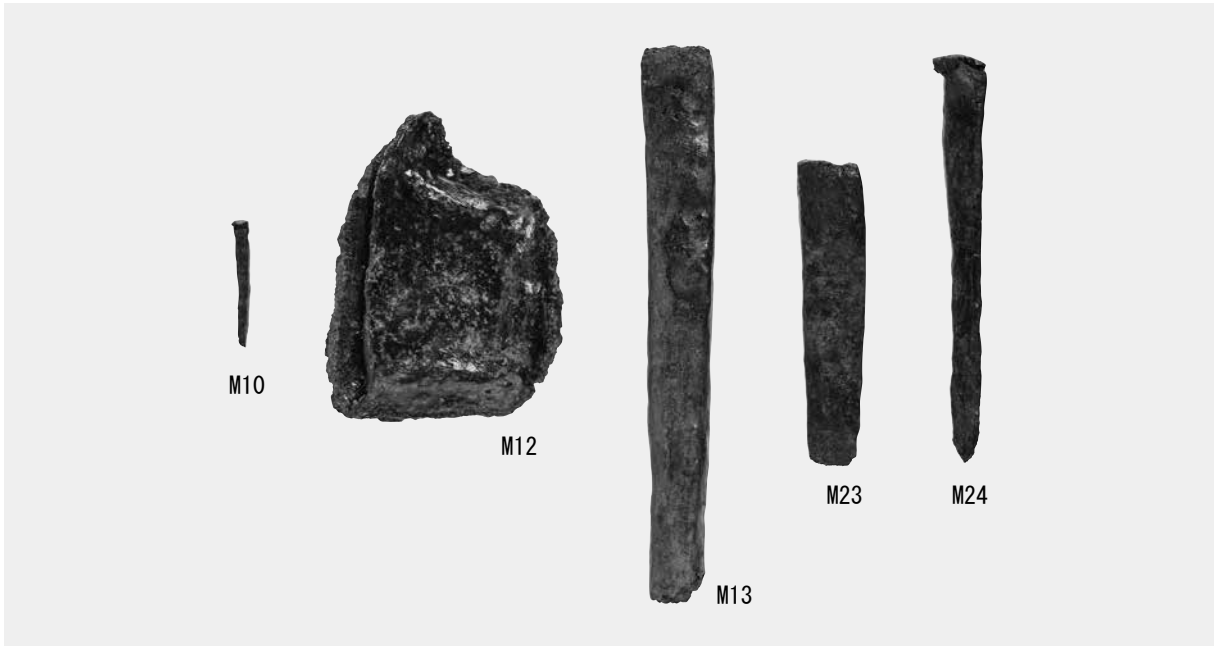


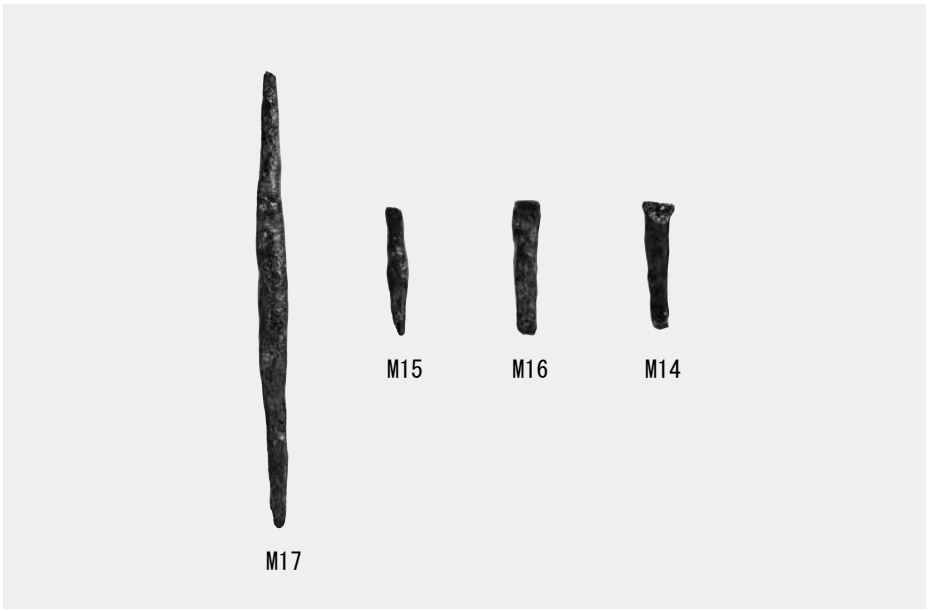
木製品 7

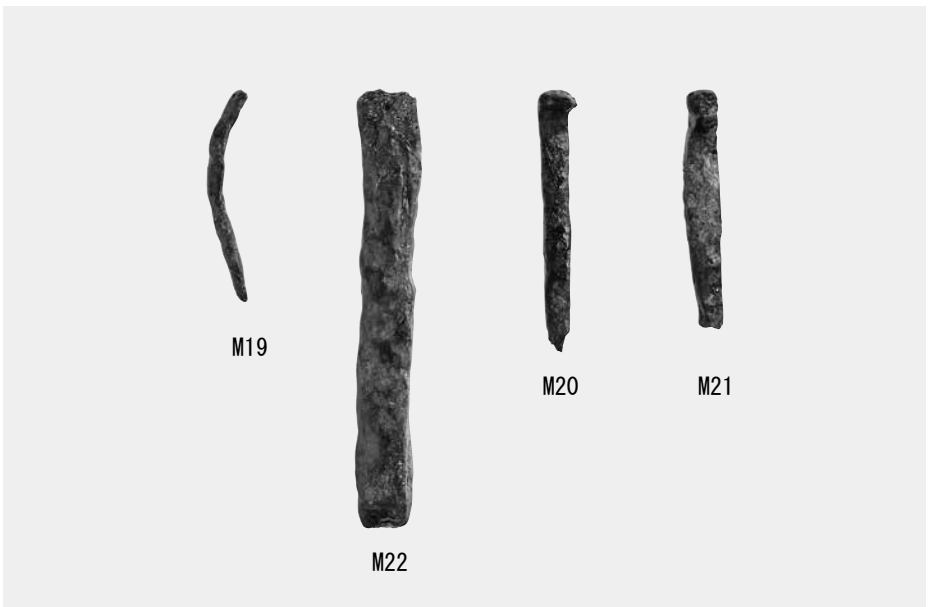




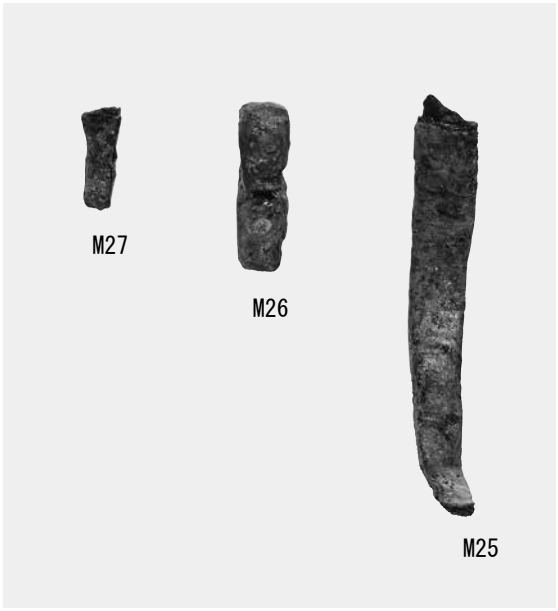
金属器 1

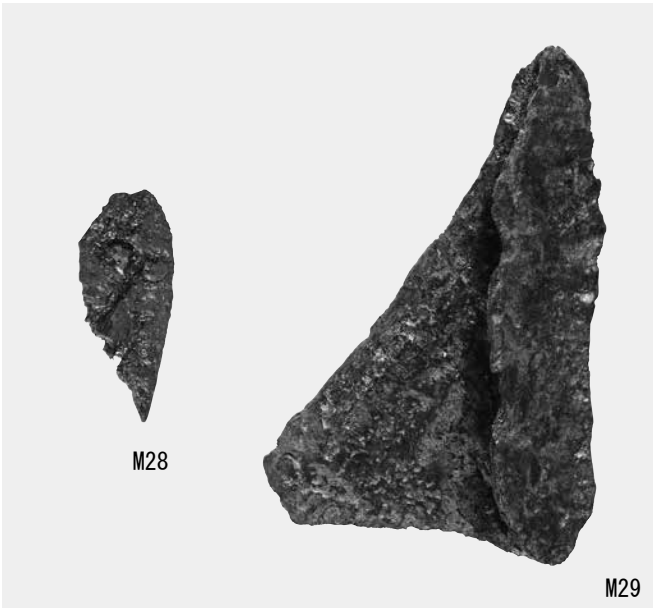


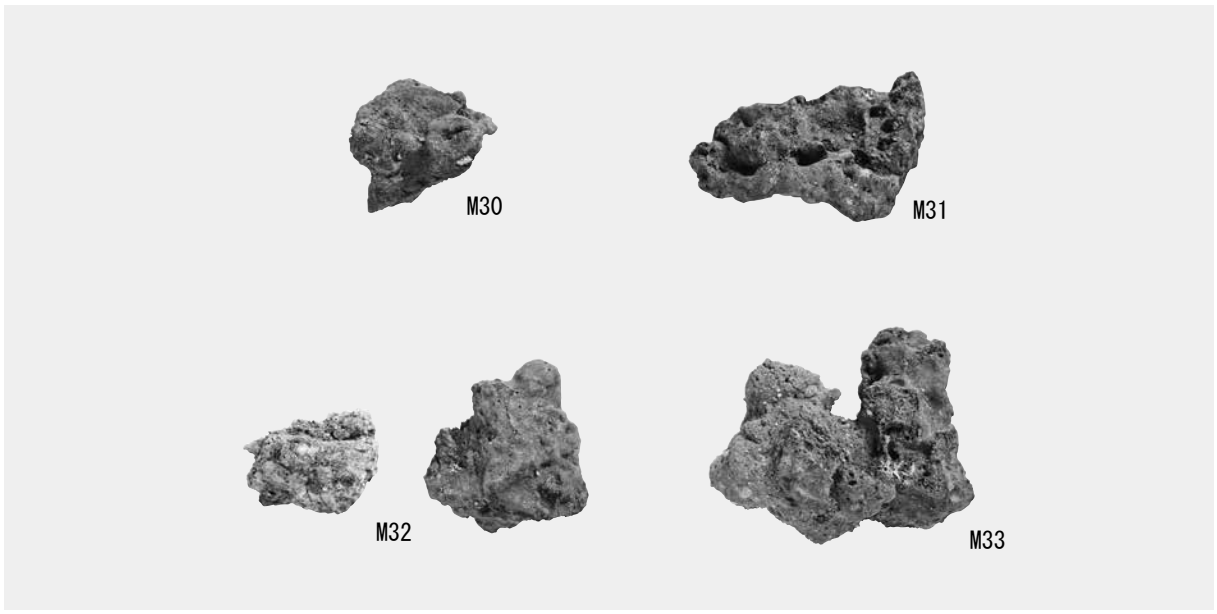


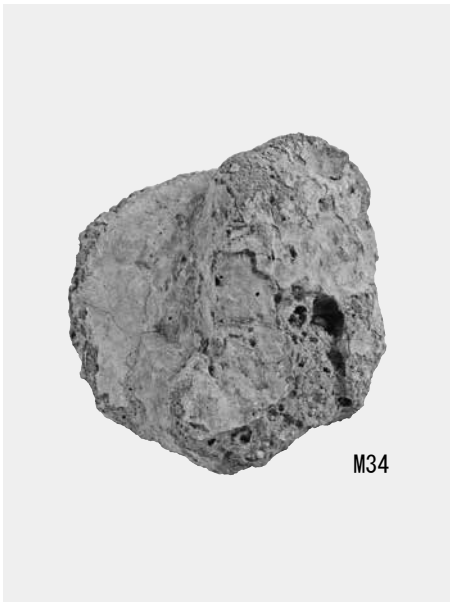


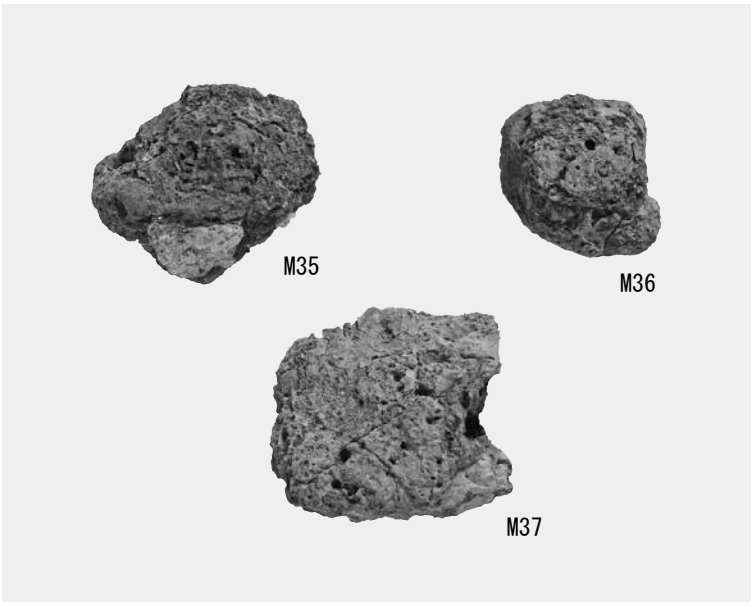
金属器２



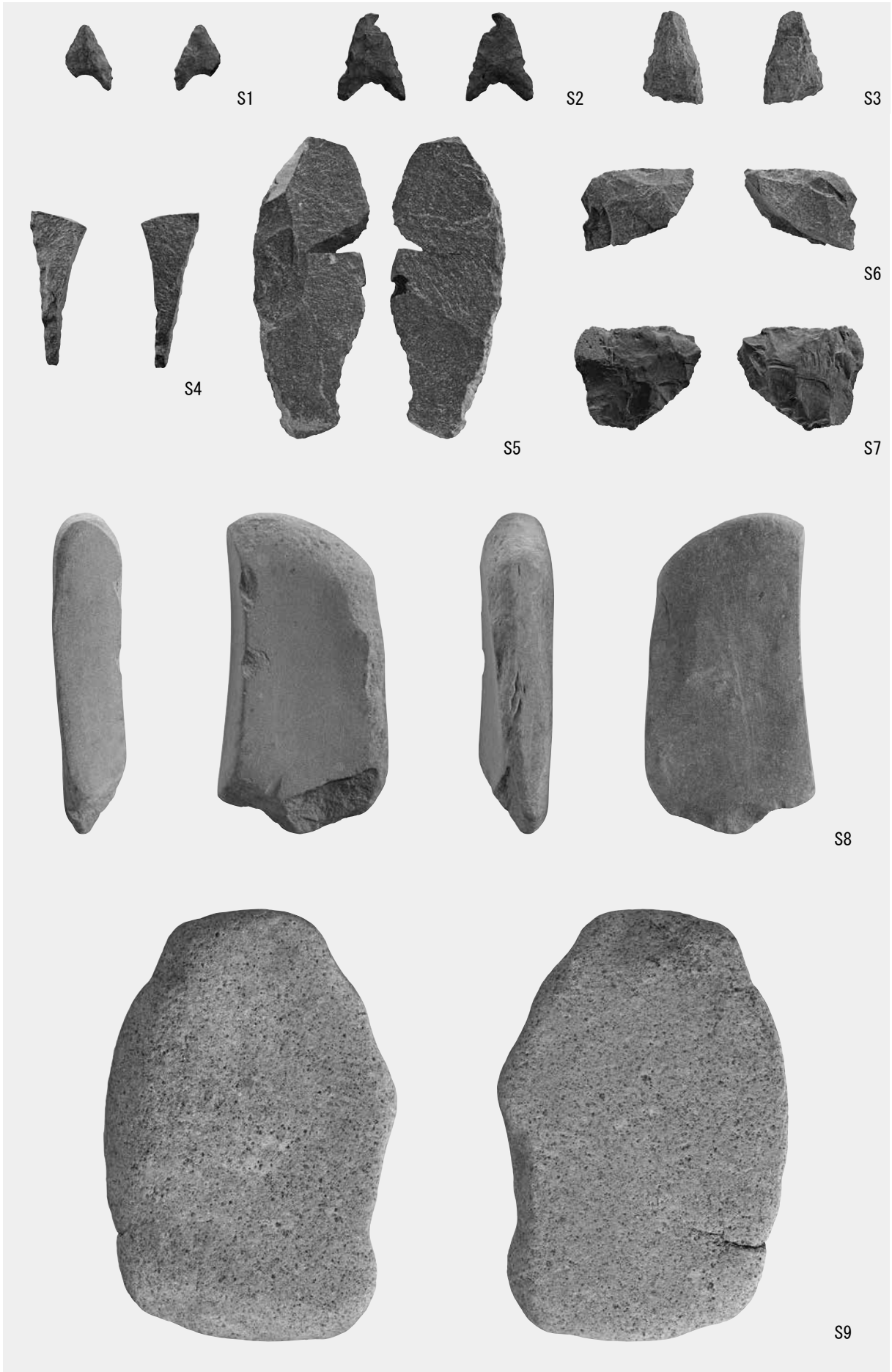








金属器 3



石器

報 告 書 抄 録

ふ り が な	つまいせきぐん
書　　名	津万遺跡群4
副 書 名	一般国道175号西脇北バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第518冊
編 著 者 名	西口圭介　別府洋二　園原悠斗　藤田　尚（パリノサーヴェイ） 金原美奈子　金原裕美子（一般社団法人 文化財科学研究センター）
編 集 機 関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
所　在　地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号（兵庫県立考古博物館内）　TEL079-437-5561
発 行 機 関	兵庫県教育委員会
所　在　地	〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号　TEL078-362-3784
発 行 年 月 日	令和4（2022）年3月25日
資料保管機関	兵庫県立考古博物館
所　在　地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号　TEL079-437-5589

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間（遺跡調査番号）	調査面積（㎡）	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
津万遺跡群4	西脇市津万地先	282138	140481	34°59′37″	134°59′21″	20080908～20101112（2008197・2009189・2010137）	14715.4㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
津万遺跡	集落・生産遺跡	弥生時代後期末～古墳時代前期	竪穴住居址・溝	縄文土器・弥生後期末～古墳時代前期の土器	
		平安時代から鎌倉時代	掘立柱建物址・木棺墓・土坑・粘土採掘坑・水田遺構・畑跡	8・9世紀の須恵器杯類・転用硯、中世の土師器皿椀鍋類・須恵器皿椀類・丹波焼壺類・輸入磁器類・和鋏・和鏡・烏帽子・木製祭祀具・墨書土器	木棺墓より烏帽子・化粧道具が出土

要　　約	津万遺跡群は、加古川西岸の平野部に位置し、加古川が形成した沖積低地に立地している。本報告書掲載の津万遺跡群4では埋蔵文化財包蔵地として登録された津万遺跡群のうち、津万3区、津万4区、津万5区、津万6区、津万7区、津万8区の調査成果を報告した。調査では弥生時代後期～古墳時代前期の住居址・大溝、中世前期の掘立柱建物址・墓址・井戸・水田遺構・粘土採掘坑を検出した。遺物は縄文土器・弥生後期末～古墳時代前期の土器、8・9世紀の須恵器杯類・転用硯、中世の土師器皿椀鍋類・須恵器皿椀類・丹波焼壺類・輸入磁器類・和鋏・和鏡・烏帽子・木製祭祀具・墨書土器などが出土した。

兵庫県文化財調査報告　第518冊

西脇市

津 万 遺 跡 群　4

― 一般国道175号西脇北バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

令和4（2022）年3月25日　発行

編　集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号
（兵庫県立考古博物館内）

発　行：兵庫県教育委員会
〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通５丁目10番１号

印　刷：株式会社　北星社
〒668-0061　兵庫県豊岡市上佐野1620